R180.3-067ウ
1200500766307

始

サイ#5-10

威以香水於如來前
而作是言我今以此香
國奉上如來及比丘
僧作願衰隱為我納
受作此言已即便捨
水尒時世尊哩然受
之說偈呪願
若人施布施　斷除悭貪
若人能忍辱　永離於瞋恚
若人能造善　則遠於惡業
能具此三行　速至涅槃門
若有貧窮之　无財可布施
見他脩施時　而生隨喜心
隨喜之福報　與施等无異
尒時婆羅門大臣及
餘人民見王奉施如
來僧伽藍皆悉踊躍
生隨喜心尒時頻比
婆羅王施僧伽藍已
心大歡喜頭面礼足

5-10

R
180.3
0.67

佛書解說大辭典

大東出版社藏版

638-30

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小册子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に內容解說を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。卽ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮內省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より僞經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採錄した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。卽ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其內容解說にあたつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解說をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解說するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類卽ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出來る丈內容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、❶題名、書名、異名略名併記。❷卷數。❸存、缺。❹著者又は譯者、生存年代を併記。❺著作年代又は譯出年代。❻内容解説。❼末書（注釋書參考書）。❽寫刊の年月。❾現所藏者、圖書館書庫名。❿發行所名。の十項目である。この十項目中前記第一、二類は❽❾❿を省略し、第三類は特に❾の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は❿の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は❼の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が❻に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

❶、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に從つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異る點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に從つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に從ふことにした。

❷、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の不同なる場合あるものは一々これを附記した。

❸、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。Zi.——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥悰撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋敎錄。貞元錄——貞元新定釋敎目錄。佛全——大日本佛敎全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

❹、著者又は譯者は其人の生存年代を出來る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に讓るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中—線を用ひ、「年代—年代」なるは生死年を、「年代—」は生年、「—年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「—年代—」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「?」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸説あるものは其中の一を採用若しくは一説として別出したものがある。

❺、著作年代は著作者しくは譯出の年號を記入した。

❻、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典飜譯に關する歷史的説明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所に於て說明した。例へばクの部「倶舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨倶舍論」と記し、詳細なる解說はアの部「阿毗達磨倶舍論」に於てなしたるが如し。

❼、注釋書參考書は典據を出來る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に從つて列擧した。

❽、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

❾、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都(東寺)專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶總院——高野山寶總院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下の數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者(書庫)、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

祖道敬賡 ❶(日)So-tō-kei-kō ❷二卷 ❸存 ❹玄惟周鶴(享保五—文化一〇 A.D. 1720—1813) ❺寫卷二刊 ❾(駒大)

祖英集 ❶(日)So-ei-shū. (支)Tsu-ying-chi. 慶元府雪竇明覺大師祖英集、明覺禪師語錄、❷六卷 ❸存 ❹紀三・二 ❺寶慶四年(太平興國五—寶祐四 A.D. 980—1052) ⑥明覺禪師語錄の下を見よ。❺慶安三刊 ❾(駒大)(龍大、二〇五一・一四)(京大、一・二五ソ・一一)(帝國、八二一・四四)(哲、ヒ・二・右・一)

祖英集 ❶(日)So-ei-shū. 國譯祖英集 ❸存、國譯禪宗叢書第六

祖英集骨董 ❶(日) So-ei-shū-kot-tō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

祖雄禪師之行實 ❶(日) So-ō-zen-ji-no-gyō-jitsu. 遠溪祖雄禪師之行實 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九、浮木集第一三 ❹釋道演編 ⑥遠溪祖雄禪師之行實の下を見よ。

祖苑聯芳集 ❶(日) So-on-ren-pō-shū. 重刊貞和類聚祖苑聯芳集、貞和類聚祖苑聯芳集、貞和集 ❷五卷或十卷 ❸存、大日本佛敎全書第一四三 ❹義堂周信(正中二—嘉慶二 A.D. 1325—1388)編 ⑥重刊貞和類聚祖苑聯芳集の下を見よ。

祖園實華集 ❶(日) So-on-kwan-ge-shū. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(駒大)

祖記雜篇 ❶(日)So-ki-zap-pen. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第二八智證大師全集第四 ⑥黃不動尊之事、聚主御入壇之事、彩色曼荼羅之事、訖藏八葉東方佛位之事の四雜篇を料む。

祖規復古雜藁 ❶(日)So-ki-fuk-ko-zak-kō. ❷一卷 ❸存 ❹玄透即中(—文化四 A.D. 1807)撰 ❺寬政八刊 ❾(駒大) ⑩越前、永平寺

祖揆符禪師語錄附品藻集 (日) So-ki-fu-zen-ji-go-roku-tsuketari-gan-ke-shū. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

祖曉和尚法語 ❶(日)So-gyō-ō-shō-hō-go. ❷一卷 ❸存 ❹天嚴祖曉(寬文七—享保一六 A.D. 1657—1731)語 ❾寫本(駒大)

祖訓入用書 ❶(日) So-kun-nyū-yō-sho. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

祖溪和尚末後事實 ❶(日)So-kei-o-shō-matsu-go-no-ji-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❹浮通遠 ❺寶永八刊 ❾(駒大)

祖源記 ❶(日)So-gen-ki. (支) Tsu-yuan-chi. ❷三卷 ❹宋慧曇齋玉(—宣和六 A.D. 1124—)撰 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

祖語並智度論抜書 ❶(日)So-go-narabini-chi-do-ron-nuki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(京大、印哲・S.Ⅲ・三四)

祖師以來御由緒 ❶(日) So-shi-i-rai-go-yui-sho. ❷一卷 ❸存 ❺延享三寫 ❾(龍大、別置)

祖師一生行業記 ❶(日)So-shi-ip-shō-gyō-gō-ki. 比叡山元初祖師行業記、祖師行業記 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第二八智證大師全集第四 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A.D. 814—891)記 ⑥比叡山元初祖師行業記の下を見よ。 ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目

祖師御作要文並御詠歌 ❶(日)So-shi-go-sa-ku-yō-mon-narabini-go-ei-ka. ❸存 ❹博、邈如(應永二二—明曆八 A.D. 1415—1659) ❾寫本寫傳本(龍大、研眞)

祖師方御起請文寫 ❶(日)So-shi-gata-go-ki-shō-mon-utsushi. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(帝國、一一七・六九)

祖師忌日及野澤十二流血脈 ❶(日) So-shi-ki-nichi-oyobi-ya-taku-jū-ni-ryū-kechi-myaku. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、倫大・一三二九)

祖師行業記 ❶(日) So-shi-gyō-gō-ki. 比叡山元初祖師行業記、祖師一生行業記 ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書第二八智證大師全集第四 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A.D. 814—891)記 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

祖師觀 ❶(日)So-shi-kwan. ❷一卷 ❸存 ❹小川獨笑著 ❺明治四三刊 ❾(龍大、研眞)

祖師五百五十回御遠忌初中後日中法會之次第 ❶(日)So-shi-go-hyaku-go-jik-kwai-go-en-ki-shō-chū-go-nic-chū-hō-e-no-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹雪阿記 ❾寫本(龍大、別置)

祖師五百五十回御遠忌法會次第 ❶(日) So-shi-go-hyaku-go-jik-kwai-go-en-ki-hō-e-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍大、一〇六・三二)

祖師御忌日 ❶(日) So-shi-go-ki-nichi. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶菩提院)

祖師御點淨土論註 ❶(日)So-shi-go-ten-jō-do-ron-chū. ❷二卷 ❸存 ⑥曇鸞の淨土論註に、眞宗開祖親鸞が御點を施したものにして、原本現に西本願寺に藏す。 ❾寫本(谷大、宗大・一八七八)

祖師三朝傳辨論 ❶(日) So-shi-san-chō-den-ben-ron. ❸存 ❹奉齋遠 ❺寫永元刊 ❾(龍大、研史)

祖師聖人御直作聖德太子略緣起 ❶(日) So-shi-shō-nin-go-jiki-sa-ku-shō-toku-tai-shi-ryaku-en-gi. ❸存 ❾(龍大、二九六五・二三二)

祖師聖人御傳謝德記 ❶(日) So-shi-shō-nin-go-den-sha-tok-ki. ❷二卷 ❸存 ❹德應(寬治二—享保一七 A. D. 1659—1732)記 ❺明治三九刊 ❾(龍大、一九六一・七九)

祖師聖人年譜 ❶(日) So-shi-shō-nin-nem-pu. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(谷大、宗大・三一一一)

祖師親鸞聖人御頂骨緣起 ❶(日) So-shi-shin-ran-shō-nin-go-chō-kotsu-en-gi. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(龍

大〻四四)

諸宗脱漏代宗主傳 ❶(日)So-shi-shin-ran-tsuketari-reki-dai-sō-shu-den. ❷1卷 ❸存 ❹吉田左川〻田中義成共著 ❺明治四四刊 ❻(京大〻1・11・ノ・八)

諸宗代々傳 ❶(日)So-shi-dai-dai-no-koto. 1法之書卷々 ❷1卷 ❸存 ❹大正六寶 ❺(谷大〻宗大・11〇五五)

諸傳 ❶(日) So-shi-den. ❷1卷 ❸完全(寶亀元—弘仁1三 A. D. 767—822)頃 ❹(参考) 本邦古昔諸宗傳授事日〻 山城国愛宕郡鷹峯村日蓮宗本山

諸傳禁口傳 ❶(日) So-shi-den-rai-ku-den. 諸宗禁口傳式貞口 ❷十11卷 ❸存 ❹永正六寶 ❺(全書三社記)

諸傳排語 ❶(日) So-shi-hai-in. ❷11卷 ❸存 ❹寶永(和〻ヲ・11・右・三)

諸傳文禁法分 ❶(日)So-shi-hi-mon-den-tō-shō. ❷1卷 ❸存 ❹永安中期寶 ❺(京大〻宗・1・11四)

諸傳口法語 ❶(日) So-shi-hito-kuchi-hō-go. ❷存〻 ❸教古寺教事卷1 ❹宗氏法脈所記

諸宗禁傳宗傳禁傳家 ❶(日) So-shi-hon-den-i-hon-e-den-satsu-yō. 真田幸隆著人御書禁傳家〻 幸隆著人御書禁傳家 ❷三卷 ❸存 ❹寛文(寶永1三一—元禄五 A. D. 1636—1692)頃 ❺(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❻完禄七刊(谷大〻宗大・11三11〇)寶永(谷大〻宗大・1・11四三)(龍大〻法寶〻法史)

諸宗本傳家本末聞分 ❶(日) So-shi-hon-den-i-hon-cho-mon-shō. 諸宗寺家本末聞分 ❷五卷 ❸存 ❹(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❺延寶六刊 ❻(谷大〻宗大・1・11三五)(龍大〻1・九六1・九1)

諸宗本傳家本傳傳分 ❶(日) So-shi-hon-den-i-hon-denn-e-shō. 諸宗寺人傳家傳分 ❷三卷 ❸存 ❹寛永(寶永1八一—元禄四 A. D. 1613—1691)頃 ❺(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❻寛安四刊 ❼(龍大〻1・九六1・八八)(谷大〻宗大・1・1八四)

諸傳一代記 ❶(日) So-shi-hon-den-ichi-dai-ki. ❷八卷 ❸諸士寺宗教禁令卷11に曰く「不審〻諸宗〻相傳〻法〻事所〻師〻同有〻歟〻」云〻。

諸傳禁傳 ❶(日) So-shi-hon-den-e-ge. ❷八卷 ❸存 ❹正德11(A.D. 1712)十月 ❺(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❻正德六刊(龍大〻1・九六1・五六)安政三刊(龍大〻1・九六1・五七)

諸傳禁傳記詞略分 ❶(日) So-shi-hon-den-e-setsu-shi-ryaku-shō. 諸傳禁傳記詞略分 ❷五卷 ❸存 ❹信州善光寺住侶小野沢山著 ❺元禄八(A. D. 1695)11月 ❻(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❼寶永八刊(龍大〻1・九六1・六八〻龍法寶)寶永(谷大〻宗大・1・三四三)

諸傳禁傳記略教盛 (日)So-shi-hon-den-e-setsu-shi-kyō-roku. ❷1卷 ❸伊藤松宇天作 ❹(参考) 諸士寺宗教禁令卷11

諸傳禁傳禁分 ❶(日) So-shi-hon-den-kai-mō-shō. 諸宗寺人御書禁傳記〻 御書禁傳分〻 ❷七卷 ❸存 ❹(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❺寶永(寶永1一—享保1七 A. D. 1659—1732)頃 ❻(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❼明治三九刊(11卷)(龍大〻1・九六1・七九〻法寶〻法史)(谷大〻宗大・1・九九)寶永(六卷)(谷大〻宗大・1・八1五)

諸傳禁傳古義宗宜記 ❶(日) So-shi-hon-den-ko-gi-gō-kō-ki. ❷四卷 ❸鈴木朝夫作 ❹(参考) 諸士寺宗教禁令卷11

諸傳禁傳宗記 ❶(日) So-shi-hon-den-shi-ki. ❷五卷 ❸諸士寺宗教禁令卷11に曰く「寶日〻龍樹〻天〻龍〻龍猛〻龍安三年庚寅六月桂〻云〻。

諸傳禁傳指示記 ❶(日) So-shi-hon-den-shi-ji-ki. 御傳禁傳指示記〻 御傳禁傳指示記 ❷1卷 ❸存 ❹宝永(享保五—寶永 A. D. 1720—1797)頃 ❺(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❻天明三刊(谷大〻宗大・1・11三〇)天保1五刊(龍大〻1・九六1・七八)

諸傳禁傳禁書記 ❶(日) So-shi-hon-den-shi-chō-ki. 御傳禁傳禁書記 ❷七卷 ❸完全 ❹存〻 宗大〻宗大禁傳三1 ❺寶永(正保元—享保六 A. D. 1644—1721)頃 ❻寶永元(A. D. 1704)八月 ❼(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❽正德四刊 ❾(谷大〻宗大・五八三)(龍大〻法寶)

諸傳禁傳禁 (日)So-shi-hon-den-shō. ❷11卷 ❸(参考) 諸士寺宗教禁令卷11

諸傳禁傳禁書記 ❶(日) So-shi-hon-den-shō-mō-ki. 御傳禁傳禁書記 ❷九卷 ❸存 ❹知禁(寶永1一—享保三A.D. 1634—1718)頃 ❺(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❻寶文四刊(龍大〻1・九六1・五三一—六六四)寶文11刊(龍大〻1・九六1・六五一—六六〻法寶)刊本(谷大〻宗大・1〇六七七)

諸傳禁傳大宣 ❶(日) So-shi-hon-den-tai-shi. 諸傳大宣 ❷1卷 ❸存〻 寶宗禁傳六11 ❹相禁(享保四—寶暦111 A. D. 1719—1762)記〻 四人卷 ❺諸士寺宗教禁令卷11に曰く「寶暦三年十1月十九日書〻寶禁書〻,禁〻禁上卷〻,明年十1月十九日書〻寶禁書〻,禁〻禁下卷〻,寶暦年〻之書法〻,法寶〻明之〻,云〻々。

❻寶永(龍大〻1・九六1・五〇〻 11111三・三七)

諸傳禁傳禁書記 ❶(日) So-shi-hon-den-tan-shō-ki. 本願寺諸人御傳禁禁書記〻 本願寺諸人御傳禁禁書記 ❷十卷 ❸存 ❹教導(寶永八—元禄五 A. D. 1603—1692)頃 ❺(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❻寶文五刊 ❼(龍大〻1・九六1・九三〻 法寶)(谷大〻宗大・11〇六七)

諸傳禁傳禁 ❶(日) So-shi-hon-den-doku-hō. ❷1卷 ❸刊行作 ❹(参考) 諸士寺宗教禁令卷11

諸傳禁傳禁分 ❶(日) So-shi-hon-den-hō-on-shō. 御傳禁傳禁分 ❷十卷 ❸寶九卷 ❹存 ❺知禁(寶永1一—享保三A.D. 1634—1718)頃 ❻(参考) 諸士寺宗教禁令卷11 ❼明治四1寶(谷大〻宗大・1・11六四)寶永(龍大〻1・九六1・八三)

諸傳禁名禁 ❶(日)So-shi-mei-bo. ❷1帖 ❸存 ❹寶永(寶暦記)

名所行脚❸(名寺巡寺遍所巡)❹ 月々の行脚❺(諸寺巡寺遍所巡)❻ 巡所行脚❼ 代々行基❽ 本願❾ 諸仏❿ 真言⓫ 諸宗⓬(名寺巡所遍)⓭ 諸宗⓮

諸修和尚開堂語錄 ❶(日)So-shun-o-shō-kai-dō-go-roku. 加州大乘寺開堂和尚開堂語錄 ❷1卷 ❸存 ❹諸修語 ❺(参考) 諸修日錄

諸事 ❶(日) So-sho. ❷11卷 ❸存 ❹日蓮(貞暦元—弘安五 A. D. 1222—1282)頃 ❺刊本(立大〻A○1・三五)

諸事圓智註 ❶(日) So-sho-en-chi-chū. ❷十八卷 ❸存 ❹圓智日性(一永徳元 A. D. 1565—)頃 ❺寶永111刊 ❻(立大〻日大宗・五三七)

諸事圓智註拔萃 ❶(日)So-sho-en-chi-chū-bas-sui. 十卷圓事圓智註拔萃 ❷11卷 ❸存 ❹圓智日性(一永徳元 A. D. 1555—)頃〻 巴尼圓寺住拔萃 ❺明治1五刊 ❻(谷大〻宗小・1〇)

諸事肝要集 ❶(日) So-sho-kan-yō-shū. ❷三卷 ❸存 ❹日蓮(貞暦元—弘安五 A. D. 1222—1282)頃 ❺天保三刊 ❻(立大〻 A○1・六○一六11〻1111〇)(龍大〻11六九1・五)(前〻え・三・右・八)

諸事見聞 ❶(日) So-sho-kem-mon. ❷1卷 ❸存 ❹日蓮聖人 ❺寶永(立大〻D○・11三三)

諸事見聞 ❶(日) So-sho-kem-mon. ❷1卷 ❸存 ❹圓蓮日蓮聖人 ❺寶永(立大〻D○・11四三)天正11刊(立大〻D○・1六八)

諸事續分拔萃 ❶(日) So-sho-ken-shō-bas-sui. 十卷諸事續家諸事續分拔萃 ❷三卷 ❸存 ❹日蓮聖人〻 巴尼圓寺住拔萃 ❺明治1五刊 ❻(谷大〻宗大・1四1)(前〻外・1・中・五)(谷大〻宗小・九)

諸事聞書 ❶(日) So-sho-kō-yō. ❷11十三卷 ❸存 ❹日蓮(享保九—寶永元 A. D. 1724—1789)作〻 小林本日蓮(一明治三 A. D. 1905)訂 ❺明治三五刊 ❻(立大〻A○四〻1一11〻111)(帝国〻111四・七八)

諸事聞書刪略 ❶(日) So-sho-kō-yō-san-ryaku. ❷七卷 ❸存 ❹日蓮(享保九—寶永元 A. D. 1724—1789)作〻 日蓮聞書 ❺享保三刊(立大〻A○四・三一四〻六1七)(谷大〻宗大・11九1)明治四三刊(龍大〻法寶)(立大〻B○九・1五一一六)(立大〻自筆・N・五)(寶大〻法〻1・1七)(前〻え・11・左・11三)大正九刊(立大〻B○四・1三五)

諸事聞書刪略拔萃 ❶(日) So-sho-kō-yō-san-ryaku-bas-sui. ❷存〻 帝國大系11八 ❸日蓮(享保九—寶永元 A. D. 1724—1789)

❹帝國川末翁の五匠日蓮の「諸事聞書聞書」を拔萃したもの。

諸事聞書正講 ❶(日) So-sho-kō-yō-shō-gi. ❷11卷 ❸存 ❹日蓮(寶永11一安永六 A. D. 1800—1859)頃 ❺明治111寶(立大〻A○四・八)明治1四刊(谷大〻宗大・八九四)(立大〻D○・11一六)明治三1刊(立大〻A○四・1○一11〻D○・11七)明治三11刊(龍大〻11六九1・六)(帝国〻1八七・三11)(立大〻A○四・九)

諸事講仲 ❶(日)So-sho-san-gō. ❷1卷 ❸存 ❹日山等定日蓮宗僧 ❺明治三九刊(立大〻B○1・1六一1七〻11三〻三三)(谷大〻宗大・11○八)(帝国〻1八七・四四○)(立大〻日大宗・五三六)

諸事拾遺和語記 ❶(日) So-sho-shū-i-wa-gō-ki. ❷11卷 ❸存 ❹日性(一永徳元 A. D. 1566—)頃 ❺明治1六刊 ❻(立大〻A○11・11八)(谷大〻宗大・11六1)(龍大〻11六九1・七)(帝国〻1四1・11九九)

諸事問答論 ❶(日) So-sho-shō-gi-ron. ❷九卷 ❸存 ❹天正11寶 ❺(立大〻D○・1三六)

諸事禁傳 ❶(日) So-sho-zoku-shū. 御事禁傳 ❷三卷 ❸存 ❹日蓮(貞暦元—弘安五 A. D. 1222—1282)頃〻 日蓮聞 ❺天保1三刊 ❻(立大〻A○1・11四)(正大〻1八三・1三)(谷大〻宗大・11九〇)(前〻え・三・右・11)

諸事拔萃御遺記集 ❶(日) So-sho-bas-sui-go-den-ki-shū. ❷1卷 ❸存 ❹小見山三郎著 ❺明治三四刊 ❻(立大〻A○六・三四一三五)

諸事講演考 ❶(日)So-sho-hen-shū-kō. ❷1卷 ❸存 ❹勝弘日蓮聞 ❺寶永(谷大〻宗大・11九三)(立大〻A○1・1○三一1○六)(前〻え・三・右・1111)

諸事本遊講 ❶(日)So-sho-hon-shō-hen. ❷1卷 ❸存 ❹本門日蓮聞 ❺寶永(立大〻D○・11○○)

諸事目次 ❶(日) So-sho-moku-ji. 本化宗諸事目次 ❷1卷 ❸存 ❹健立日蓮(一天明元 A. D. 1781)頃 ❺(立大〻A○1・1111〻1111九)(谷大〻宗大・三○1)(龍大〻11六九1・八)(前〻え・三・右・○)(立大〻日大宗・五三六)

諸事拾遺和語記 ❶(日) So-sho-shū-i-wa-gō-ki. ❷11卷 ❸存 ❹日性(一永徳元 A. D. 1566—)頃 ❺明治1六刊 ❻(立大〻A○11・11八)(谷大〻宗大・11六1)(龍大〻11六九1・七)(帝国〻1四1・11九九)

諸事問答論 ❶(日) So-sho-shō-gi-ron. ❷九卷 ❸存 ❹天正11寶 ❺(立大〻D○・1三六)

諸事禁傳 ❶(日) So-sho-zoku-shū. 御事禁傳 ❷三卷 ❸存 ❹日蓮(貞暦元—弘安五 A. D. 1222—1282)頃〻 日蓮聞 ❺天保1三刊 ❻(立大〻A○1・11四)(正大〻1八三・1三)(谷大〻宗大・11九〇)(前〻え・三・右・11)

諸事拔萃御遺記集 ❶(日) So-sho-bas-sui-go-den-ki-shū. ❷1卷 ❸存 ❹小見山三郎著 ❺明治三四刊 ❻(立大〻A○六・三四一三五)

諸事講演考 ❶(日)So-sho-hen-shū-kō. ❷1卷 ❸存 ❹勝弘日蓮聞 ❺寶永(谷大〻宗大・11九三)(立大〻A○1・1○三一1○六)(前〻え・三・右・1111)

諸事本遊講 ❶(日)So-sho-hon-shō-hen. ❷1卷 ❸存 ❹本門日蓮聞 ❺寶永(立大〻D○・11○○)

諸事目次 ❶(日) So-sho-moku-ji. 本化宗諸事目次 ❷1卷 ❸存 ❹健立日蓮(一天明元 A. D. 1781)頃 ❺(立大〻A○1・1111〻1111九)(谷大〻宗大・三○1)(龍大〻11六九1・八)(前〻え・三・右・11)(立大〻日大宗・五三六)

諸事聞書 ❶(日) So-sho-yō-shin. ❷三卷 ❸存 ❹日蓮(享保)(天明七一文政六 A. D. 1787—1823)頃 ❺明治1四刊 ❻(谷大〻宗大・五六四)(立大〻A○1・三九一三三〻111五〻1三〇)(龍大〻11〇四11・11九)(帝国〻1四1・1八四)

諸事禁外 ❶(日) So-sho-roku-ge. 御事禁外〻 禁外御事 ❷11十五卷 ❸存 ❹日蓮(貞暦元—弘安五 A. D. 1222—1282)頃 ❺日蓮の著述として後世のもの四百餘篇を挙げ〻 其内日蓮入滅1周忌に義尊した1百四十八篇を「禁内御事」と名付け〻 次に弟子檀越に対して御書に講れたものを最後として三回忌以後に対して御書に講れたものを「禁外御事」「諸事禁外」と名付けたり〻 これを「禁外御事」と名付け〻 1百五十九篇を合わ〻 寶文11年初めて全部六三十五卷にまとめて版行せられ〻 後「諸諸書文書」「日蓮聖人御書文」等に収められたるもの。

❻刊本(谷大〻宗大・九〇九)(高田行彦)

諸事禁外考文 ❶(日) So-sho-roku-ge-kō-mon. 禁外御事考文 ❷八卷 ❸存 ❹圓蓮日蓮聞〻 小林宗禁禁考文 ❺明治1九刊 ❻(立大〻A○11・四○〻四11一四六〻1111〻D○・七七)(帝国〻八・六○)

諸事禁外禁考 ❶(日) So-sho-roku-ge mi-kō. ❷11卷 ❸存 ❹日蓮 ❺明治1五刊 ❻(帝国〻1四○・1九六)

諸事禁外 ❶(日) So-sho-roku-nai. 御事禁外〻 禁外御事 ❷四十卷 ❸存 ❹日蓮(貞暦元—弘安五 A. D. 1222—1232)

⑯日蓮の遺文として傳はるもの四百餘篇あり、其内一百四十八篇は日蓮入滅一週忌に集錄したものと傳へられ、これを「錄内御書」「御書錄内」「祖書錄内」等と名けて居る、元和元年初めて錄内御書全部を四十卷として版行した。これを「本國寺版」と稱す。後再版增補せられ、又「高祖遺文錄」「日蓮聖人御遺文」等に收められてゐる。「觀心本尊鈔」「開目鈔」「立正安國論」「報恩鈔」「撰時鈔」の五大部を始め、遺文中に於て最も重要な部分を含んでゐる。

❺寛文九刊(寶曆六補) ❹(谷大、餘大・九〇八)(立大、A〇一・八六) (馬田行啓)

祖書錄内外目錄 ❶(日) So-sho-roku-nai-ge-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❺明治二七寫 ❹(立大、A〇二・一〇九)

祖書錄内扶老 ❶(日) So-sho-roku-nai-fu-rō. 錄内扶老 ❷十五卷 ❸存 ❹日好(明曆元—享保一九 A. D. 1655—1734)述

⑮日蓮の遺文を輯めた「錄内御書」に註釋したもので、日蓮遺文研究に必須な良書。卷一立正安國論、卷二、三開目鈔、卷四撰時鈔、卷五報恩鈔、卷六觀心本尊鈔、卷七法華取要鈔、本尊問答鈔、守護國家論、卷八、法華題目鈔、唱法華題目鈔、顯謗法鈔、卷九一代大意鈔以下十一書、卷十四條金吾許御書以下二十九書、卷十一持法華問答鈔以下十三書、卷十二太田禪門書以下二十二書、卷十三法門可被申事以下二十書、卷十四法華眞言勝劣書以下五書、卷十五一念三千理事以下二十三書。

❺明治四四刊 ❹(谷大、餘洋・三五六) (馬田行啓)

祖書錄内扶老拔萃 ❶(日) So-sho-roku-nai-fu-rō-bas-sui. 十部祖書髮要抄 ❷四卷 ❸存 ❹日好(明曆元—享保一九 A. D. 1655—1734)・昆尼師合撰拔萃訂正 ❺明治一五刊 ❹(立大、A〇二・二三)(智、外・一・中・一六)(谷大、餘小・一一)

祖心尼公法語 ❶(日) So-shin-ni-kō-hō-go. ❷一卷 ❸存、近世佛教集說之内 ❹齋藤阿佛述 ❺大正五刊 ❹(駒大)(谷大、餘洋・四二四)

祖跡を訪うて ❶(日) So-seki-o-tō-te. ❷一卷 ❸存 ❹黃導大師遺跡參拜圖編 ❺昭和三刊 ❹(正大、一〇四・五一)

祖蹟跋文 ❶(日) So-seki-batsu-mon. ❷一卷 ❸存 ❹順譽徹定(文化一一—明治二四 A. D. 1814—1891)撰 ❷(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

祖像讃 ❶(日) So-zō-san. ❷一首 ❹林道春(天正一一—明曆三 A. D. 1583—1657)撰 ❷(參考) 淨土眞宗教典志第二

祖像讃銘 ❶(日) So-zō-san-mei. ❷一卷 ❸存、眞宗法彙之内

❹眞宗の祖像の讃銘を蒐錄せるものにして、先づ「安靜眞像銘文六首并裏書」には親鸞聖人安靜の御影の銘文と裏書を寫し、反古裏書の安靜の銘に關する文を引抄してある。次に「七祖眞像賛」には龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源空の讃銘と聖德太子の讃銘二文が添付せられてある。

❹刊本(谷大、宗大・二五三六)(龍大、一〇三・三二) (荻生隆三)

祖庭鉗鎚錄附宗門雜錄 ❶(日) So-tei-kan-tsui-roku-tsuketari-shū-mon-zatsu-roku. (支) Tsu-ting-chien-chui-lu-fu-tsung-mên-tsa-lu. ❷二卷 ❸存、卍續二・一九・五、慨古錄之内 ❹明通容(萬曆二一—永曆一五 A. D. 1593—1661)輯

❺密雲圓悟禪師の法嗣である費隱通容禪師が、祖師が學人を鍛錬接得せられた語要を編錄し、それを學人に了會し易からしめんが爲め懇切に說示し彙ねて自己の見解を述べられたものである。全二卷、上卷には靈源惟匡禪師の偈心の提撕より晦菴彌光禪師に至る三十師の提撕を揭げ。下卷に懶菴鼎需禪師より大慧宗杲禪師に至る二十一師の提撕を揭げ、一一に唱和し勘驗したものである。附錄の宗門雜錄は、(一)拈花微笑の典據。(二)自總禪師が達觀曇穎禪師に問ふた五問(師資相傳斷絕の事、達磨大師の初伽經四卷將來の事、傳法偈の事、天台の一心三觀を祖意より如何に觀るかと云ふ事、六祖大鑑下に諸家分出した理由)。(三)疊夢堂重較の五家宗派序。(四)禪家の一喝五敎を分つ事などの四條を採錄したものである。

❹寫本(京大、藏・二四カ・三)刊本(内閣) (大久保堅璃)

祖庭指南 ❶(日) So-tei-shi-nan. (支) Tsu-ting-chih-nan. 祖庭鉗傳指南 ❷二卷 ❸存、卍續二乙・二一・三 ❹清徐昌治編 ❺順治九(A. D. 1652)

❻南岳第三十五世費隱通容禪師に參ずること二十餘年、遂に費隱によつて付法せられた徐昌治居士が、七佛、西天二十八祖、東土の六祖及び南嶽慧讓禪師より相傳三十五世にして本師費隱通容禪師に至る佛祖嫡傳の芳躅を編み、師資相承の語要を錄して祖庭の學人の爲めに指南たらしめんとしたもので、内題に祖庭嫡傳指南と云ひ、略して祖庭指南と云ふのである。本師費隱禪師の題語、其の法嗣たる金粟の百癡行元禪師の評語及び跋を得、費隱禪師の徐昌治に與へた付法語偈及び徐昌治の和偈とを付刹して、清順治九年九月九日(A. D. 1652)自序して行つたものである。

徐昌治は號呼周、別號無依道人、法名通昌と云ひ、浙江杭州府海寧縣鹽官の人で、初め儒を學び、明崇禎十一年費隱禪師の金粟に剃法するや、參じて隨徒となり、天資、嚴厲、徑山と費隱の住山に從つて參問二十餘年に及び遂に付法せられたもので、隱元隆琦、百癡行元禪師など並に居士王谷、嚴大參、嚴栻などと共に費隱會下の俊英で著作に高僧摘要、無依道人錄等がある。

❷(參考) 禪籍志卷下 (大久保堅璃)

祖庭事苑 ❶(日) So-tei-ji-on. (支) Tsu-ting-shih-yüan. ❷八卷 ❸存、卍續二・一八・一 ❹宋睦庵善卿(—元符頃 A. D. 1098—1100—)編

❺雲門錄、雲門室中錄、雪竇洞庭錄、雪竇後錄、雪竇湯泉等、雪竇拈古、雪竇頌古、雪竇祖英集、雪竇開堂錄、雪竇拾遺、懷禪師南錄、懷禪師後錄、池陽百問、風穴衆吼

集、法眼錄、蓮華峯錄、八方珠玉集、永嘉證道歌、内より故事、成語、名數、人名、略字、誤字等を撿出して、一々註解を加へたるものにて、第八卷は十玄說について序、緣題目、立題、心印其他九項を釋し、釋名識辨の條下七佛、傳燈等の釋、外祖師の識の註を擧げ、語錄の條下阿閦國外二十項を擧げ、雜志の條下宗門等三十項を出して居る。

❷(參考) 禪籍志卷下 ❹正保四刊(京大、藏・一七ッ・二)(谷大、餘大・一四八二)(智、あ・六・右・五)(駒大、正大、一七〇・一—二)(龍大、二〇二一・一五)(帝國、八二一・三二一)刊支本(駒大)刊本(谷大、餘丙・三)(京專)(内閣)(帝國、一七七・三四)古版(帝國、特別・四・貴)寫本(谷大、餘大・一六八二) (中谷在禪)

祖庭事苑 ❶(日) So-tei-ji-on. (支) Tsu-ting-shih-yüan. ❷三十卷 ❸存 ❹元見明(—至元一九 A. D. 1282—) ❷(參考) 禪籍目錄

祖傳考 ❶(日) So-den-kō. ❷一卷 ❸存 ❹藤井以正著 ❺寶曆二刊 ❹(京大、一・二二ッ・一)

祖傳要決 ❶(日) So-den-yō-ketsu. ❷三卷 ❸存 ❹寫本(龍大)

祖傳翼讃 ❶(日) So-den-yoku-san. ❷二卷 ❸存 ❹道振(安永二—文政七 A. D. 1773—1824)述 ❹寫本(龍大、一九六一・八九)

祖燈紹光錄 ❶(日) So-tō-shō-kō-roku. (支) Tsu-têng-shao-kuang-lu. ❸存 ❷(參考) 禪籍目錄

祖燈大統 ❶(日) So-tō-dai-tō. (支) Tsu-têng-ta-tung. ❸存 ❹清代淨符(白巖) ❷(參考) 禪籍目錄

祖燈錄 ❶(日) So-tō-roku. (支) Tsu-têng-lu. ❷六十二卷 ❸存 ❹元行秀(萬松、報恩老人)(—永安頃 A. D. 1196—1200—) ❷(參考) 禪籍目錄

祖堂集 ❶(日) So-dō-shū. (支) Tsu-t'ang-chi. ❷二十卷 ❸存 ❹泉州招慶寺靜・筠二師編 ❺南唐保大一〇 (A. D. 952)

❻本書は、危く人間に蹤を絕たんとして漸く存した禪宗最古の燈史で、曾德傳燈錄成立に先立つこと五十餘年に成つたものである。燉煌出土の古文獻の如きまでに禪宗史上に一大改訂を要求する程の價値を持たないが、他の新資料と相俟つて、古禪宗史研究に重大な寄與をなし得る。既に散佚せる古典籍の一部を傳へ、若しくは全く知られざりし古人の著書の名を傳ふる點に於ても、禪宗史研究家には必讀の書である。景德傳燈錄編纂に當つて、本書がかなり有力な、極言すればむしろその粉本となつたかの觀さへある點、特に注目すべきである。

燈史とはいへ、招慶寺省僧禪師の序文に「編古今諸方法要集爲一卷」とある如く、宗旨の弘傳と主とし、史實の記錄は甚だ詳密を缺いてゐる。例せば本書成立の當時、その編纂場たる泉州招慶寺に住し序文を與へてゐる省僧(本書序には文僧と署す)の師で、本書成立に先つ僅か二十餘年の天成三年(A. D 928)に寂した保福從展の示寂を錄してゐないことなどがそれである。

史料として貴重すべきものに、大顚禪師と韓退之との交渉を傳へた、燈史としての唯一文獻のある事に注意したいが、就中特筆に價するは、海東宗師の傳を具錄してあることである。恐らくは朝鮮禪宗史最古の史料であらう。傳燈錄に新羅高麗の禪僧三十餘員を目次に記錄しながら、その中傳を立てゝある者は僅か十二員に過ぎず、しかもその傳は概ね數十字を出でぬにも拘らず、本書はこれを傳へて甚だ精細である。史料としては、朝鮮禪宗史に關する外特筆すべきことはないが、法要を傳ふる點は頗る勝れたるものがあり、殊に歌行偈頌に就いて多くの關心が拂はれてゐる。こは招慶省僧が歌行偈頌に巧みで、泉州千佛新著諸祖頌の作者である等の影響であらうと思はれる。本書録錄の偈頌の大なるものを擧げれば、懶殘和尚樂道歌五言四十二句、慶和尚樂道歌七言二十二句、開南和尚樂道歌七言二十四句、丹霞和尚弄珠吟五言三十八句、同和尚孤寂吟七言七十二句、同和尚驪龍珠吟七言三十二句、同和尚弄霞吟七言三十二句、同丹霞有一寶五言十六句、高城和尚古人重義頌七言七十句、等である。樂道歌三首の如く傳燈錄等に傳へられる者は、互照校勘するに足り、孤寂吟、重義頌の如き雄篇の傳へられたるは、喜ぶに足る。而して一宿覺和尚玄覺の傳に證道歌を載せず、且つ他の記載にも傳燈錄等と相當の徑庭ある點は注目に價する。又諸祖傳後に淨修禪師謝日として各一首八句の頌を錄してあるのは、その文の泉州千佛新著諸祖頌の文と略々全同なるによりて、該書の考撰を提供するものである。又朝鮮五冠山順之の圓相說、三過成佛義等は、宗乘として興味深く、人天眼目卷四圓相起因頌下數章との比較研究にも、資料を與へるものである。又、佚書寶林傳に據つて記した部分の多いこと及び高城和尚に大乘教普義の著のあつたことの知れる等も、忘れてならぬことである。

未だ西天二十八祖、震旦六祖等の目を立てず、迦葉より慧能まで、通じて世數を立て、慧能を三十三祖としてゐることは、泉州千佛新著諸祖頌との關係を知ると共に、燉煌本六祖壇經が過去七佛より通じて慧能までの世數を數へ、慧能を第三十九祖としてゐるのに對照して、二十八祖說に對する考證の端緒を啓示してゐる。その二十八祖は寶林傳の系統であつて當然のことながら傳燈錄と同一のものである。

本書の目次は高麗開版の折加へられたもので、目次の終りに、「海東新開印版祖堂集、現其本逐者二百五十三員、并載於二十卷内、莫知逐者不能具錄矣」とあるが、その員數には誤算があり、具錄されぬ祖師も、必ずしも逐を知る莫き者ばかりではない。目次に見ゆる名は、重出を除いて二百五十七員、その中名のみ他の傳に附載せられて具錄されぬ者十餘員である。牛頭山六祖が僅かに慧融(法融)を錄して、他の五祖は名のみ附載されてをるが如き、又神秀普寂等

が牛頭山智威四世の末裔業和尚傳に、名のみ附載さるゝに過ぎざる如きは、所謂南宗系のみを錄して、他を省略したものであることが知られる。

牧錄祖師は、慧能下には慧思(行思)、荷澤、慧忠、嶲多三藏、智策、本淨、玄覺、惠讓の八師、荷澤の流は宗密に及び、馬祖下には大珠を始めとして三十二師を擧げ、警策下には二十一師を擧げてゐる。寂年の傳燈錄になくして本書にのみある者、傳の本書のみにある者も稀にはあるが、大體に於て傳燈錄の範圍を出てゐないから、これは略記に止めておく。終りに言ふ、現存の祖堂集は、すべて海印寺所藏の版木によりて摺製したもので、高麗開版當時の摺本は、まだ發見せられてゐない。しかし相當多數印刷されたものゝ如く、版木は各所に磨滅の迹を存してゐる。東洋學叢第二輯(昭和八年四月一日發行)、祖堂集と禪宗古典籍、穴山孝道、東方學報東京第四冊、實林傳の研究、常盤大定。朝鮮禪教史、忽滑谷快天著。參照

⑤高麗高宗三十二年(A. D. 1245)分司大藏都監彫造 ⑨(朝鮮總督府圖書館)(大正新修大藏經刊行會)(忽滑谷快天博士)。

(穴山孝道)

祖德讃頌 ❶(日) So-toku-san-ji. ❷一卷 ❸存 ❹月潭道徵 ❼(參考) 禪籍目錄

祖德頌 ❶(日) So-toku-ji. ❷一卷 ❹峻諦作 ⑤元祿元(A. D. 1688)十一月二十八日 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

祖峰代 ❶(日) So-hō-dai. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

祖峰代鈔 ❶(日)So-hō-dai-shō. ❷二卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

祖門舊事記 ❶(日) So-mon-kū-jiki. ❷五卷(現存卷第二) ❸存、眞宗全書第六四 ❹玄智(享保一九—寶歷六 A. D. 1734—1794)撰 ⑤天明三(A. D. 1783) ⑥本願寺の年中行事諸法會の差定、旁門並に諸末寺諸國別院、歷代の條制等に關する舊記を抄錄せるもの、撰者の意は實悟記や反故裏書を纖がん爲にものせるものの如く、天正十九年以降に於ける記錄である、原本は五卷あり寫本で傳つてゐたが中古散佚三卷となり更に現存せるは第二卷一册と、近く鷲尾敎導氏によりて發見せられた祖門舊事記殘篇一卷と都合二卷のみである。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❾刊本(龍大、別置)

祖門古今口碑雜錄 ❶(日)So-mon-ko-kon-ku-hi-zatsu-roku. ❷二卷 ❸乘眞雲堂編 ⑤元祿一三(A. D. 1700)八月 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

祖門三部顯深義 ❶(日) So-mon-san-bu-ken-jin-gi. ❷一卷 ❸存 ❹厳藏(一安永四 A. D. 1775—)述 ⑤享和元寫 ❾(谷大、宗大・一八九一)

祖門剔蠹策 ❶(日) So-mon-teki-doku-saku. ❷一卷 ❻異計新說若干條を彈擊したもの。 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

(大原性實)

祖林墮新 ❶(日) So-rin-da-shin. ❷一卷 ❸存 ❹無着道忠(永應二—延享元 A. D. 1653—1744) ❼(參考) 禪籍目錄

素絹記 ❶(日)So-ken-ki. 素絹由來並顯密流傳來由 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第七四服具叢書第二 ❹定珍述 ❻素絹衣がわが國に於て初めて慈惠大師に勅許せられたといふことより筆をおこし、天台と眞言とに於ける比較、素絹衣の色など四十九件に分て述べてゐる。(井川定慶)

素絹由來並顯密流傳來由 ❶(日) So-ken-yu-rai-narabini-kenmitsu-ryu-den-rai-yu. 素絹記 ❷一卷 ❸存 ❹定珍述 ⑤寛政四寫 ❾(谷大、餘大・三一九八)

素衆威儀法 ❶(日)So-shū-i-gi-hō. ❸存 ⑤安永九刊 ❾(龍大、研眞)

素衆常課式 ❶(日)So-shū-jō-kwa-shiki. ❸存、日課要訓附錄 ❾刊本(龍大、研眞)

素性法師集 ❶(日)So-shō-hō-shi-shū. ❸存、群書類從第一〇和歌部第四 ⑥戰國末期の歌僧、素性の歌集で一百餘首を收めてある。三十六歌仙の一で、遍昭の子、良因朝臣と稱し、勅撰集中に六十五首が入つてゐる。其作には情熱を抑へながら力强くよんでゐるところに特色がある。

(鎌田良賢)

素明和尚年譜 ❶(日) So-myō-o-shō-nem-pu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

組織佛教論 ❶(日) So-shiki-bukkyō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹中西牛郎著 ⑤明治二三刊 ❾(龍大・二五三・六)(帝國、二三・一六一)

率都婆 ❶(日)so-to-ba. 率都婆六日理趣禮懺 ❷一帖 ❸存 ⑤正應五寫 ❾(金剛三昧院)

率都婆記 ❶(日)So-to-ba-ki. ❷二册 ❸存 ❹快仙記 ⑤文化一〇刊 ❾(高大、一・五七)

率都婆供養作法 ❶(日)So-to-ba-kū-yō-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ⑤德川時代寫 ❾(寶壽院)

率都婆式八句秘釋 ❶(日) So-to-ba-shiki-hak-ku-hi-shaku. ❷一册 ❸存 ⑤德川初期寫 ❾(金剛三昧院)

率都婆十種釋 ❶(日)So-to-ba-jū-shu-shaku. 日率都婆式、率都婆式 ❷一卷 ❸存、興教大師全集、密嚴諸祕釋第二 ❹覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143)述 ⑥日率都婆式または率都婆式とも云ふ。每日一本づゝの率都婆を建立供養する儀式である。此の式は一段式でその中に率都婆の十種の功德を說きたる故に、率都婆十種釋とも名づけらるゝのである。率都婆は大日如來の三昧耶形にして同時に五佛の三昧耶形なれば、是れを造立供養すれば總ての功德が生ずるものとして十種に分けて說明したのである。

(富田榮純)

率都婆辨 ❶(日)So-to-ba-ben. ❷一卷 ❸存 ❹西阿述 ❾刊本(谷大、宗大・六二七)

率都婆本義 ❶(日) So-to-ba-hon-gi. ❷一册 ❸存 ❹柴海微編 ⑤明治三〇刊 ❾(高大、一・五七)

率都婆用意鈔 ❶(日) So-to-ba-yō-i-shō. ❸存、雜集錄之內 ❹鄧記妙龍(寶永二—天明六 A. D. 1705—1786) ❾天明三刊(正大、一〇八・七九)寶永二刊(正大、一〇八・七八)安政三刊(正大、一〇八・七七)(谷大、餘大・一二五二)(京專)(龍大、研眞)

率都婆要文 ❶(日) So-to-ba-yō-mon. ❷一册 ❸存 ⑤弘治二寫 ❾(寶菩提院)

率塔婆開眼作法 ❶(日)So-to-ba-kai-gen-sa-hō. ❷一卷 ❸存 ⑤明治二〇寫 ❾(谷大、餘小・一〇二)

疎山仁禪師根脚語訣 ❶(日) So-zan-jin-zen-ji-kon-kyaku-go-ketsu. 疎山仁禪師根脚七道語訣、根脚語訣 ❷一卷 ❸存 ❹南英謙宗(寶慶元—寛正元 A. D. 1387—1460)評 ⑤正德四刊 ❾(駒大)

疎山仁禪師根脚七道語訣 ❶(日)So-zan-jin-zen-ji-kon-kyaku-shichi-dō-go-ketsu. 疎山仁禪師根脚語訣、根脚語訣 ❷一卷 ❸存 ❹南英謙宗(寶慶元—寛正元 A. D. 1387—1460) ⑤正德四刊 ❾(駒大)

曾谷氏への御書 ❶(日) So-ya-shi-e-no-go-sho. ❷七篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內、日蓮聖人全集第四 ❹日蓮(眞應元—弘安五 A. D. 1222—1282)記 ⑤日蓮聖人御遺文の內から曾谷入道敎信宛の消息七篇を輯めたもの。卽ち(括弧內は異名)曾谷入道殿御書(自界叛逆御書、與富木曾谷兩氏書)曾谷入道殿御返事(方便品長行事、與曾谷氏書)法蓮鈔(法蓮鈔父十三年供養法華經文字成生身佛事、大長星鈔御疑鈔)成佛用心鈔(與曾谷氏書)如是我聞鈔(曾谷入道殿御消息)曾谷殿御返事(燒米抄、曾谷抄)曾谷二郎入道殿御報(破三大師、報曾谷入道書)の七書である、內容は各篇名の項を往見。この外にも曾谷氏宛の消息にして重要な法門を藏する御書少なくない。

(馬田行啓)

曾谷入道殿御書 ❶(日)So-ya-nyū-dō-dono-go-sho. 自界叛逆御書、與富木曾谷兩氏書 ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(眞應元—弘安五 A. D. 1222—1282)記 ⑤文永一一(A. D. 1279) ⑥曾谷入道敎信に與へて、自界叛逆、他國侵逼の兩難經文に符合せるを以て佛法の邪見によると斷じ、邪見として眞言・禪・念佛の三宗を擧げ、三宗の中には特に叡山の邪義たる惡覺大師の理同事勝を難じた書である。

(馬田行啓)

曾谷入道殿許御書 ❶(日)So-ya-nyū-dō-dono-go-hon-ji. 方便品長行事、與曾谷氏書 ❷一篇 ❸存、日蓮聖人御遺文之內 ❹日蓮(眞應元—弘安五 A. D. 1222—1282)記 ⑤文永一二(A. D. 1275) ⑥重病を治するに良藥を構索するに譬へて、正・像・末三時の次第と敎・機・時・國の、適否及び敎法流布の關係とを說き、末法の現時は專師に就て言へば他宗は勿論、天台傳敎等の如き迷門立敎の人も其の利益を失ひ、法華經と難廣き一部八卷よりも略たる本門壽量品一品、一品よりも更に肝要たる妙法蓮華經の五字を敎體とせざれば救はれざることを說いた重要御書である。末尾に曾谷・太田(乘明)の領內にある諸寺の一切經論を集めて身延山に納めるやうにと依賴してある。蓋し度々の難に紛失し又は端本となつた書籍を整頓するためである。

(馬田行啓)

曾谷入道殿許御書 ❶(日)So-ya-nyū-dō-dono-mo-to-go-sho. 太田禪門許御書、構索鈔、金吾鈔、曾谷鈔 ❷存、日蓮聖人御遺文之內、日蓮聖人全集第四 ❹日蓮(眞應元—弘安五 A. D. 1222—1282)記 ⑤文永一二(A. D. 1275) ⑥重病を治するに良藥を構索するに譬へて、正・像・末三時の次第と敎・機・時・國の、適否及び敎法流布の關係とを說き、末法の現時は專師に就て言へば他宗は勿論、天台傳敎等の如き迷門立敎の人も其の利益を失ひ、法華經と難廣き一部八卷よりも略たる本門壽量品一品、一品よりも更に肝要たる妙法蓮華經の五字を敎體とせざれば救はれざることを說いた重要御書である。末尾に曾谷・太田(乘明)の領內にある諸寺の一切經論を集めて身延山に納めるやうにと依賴してある。蓋し度々の難に紛失し又は端本となつた書籍を整頓するためである。

(馬田行啓)

訴狀 ❶(日)So-jō. ❷一篇 ❸存、日蓮宗々學全書上聖部 ❹日辨(延應元—應長元 A. D. 1239—1311)記 ⑤永仁元(A. D. 1293) ⑥永仁元年鎌倉に大地震あり寺社等の被害多大にして橫死する者少なからざるを見、「立正安國論」に添へて、遽かに念佛・禪・律等諸宗と公場に對決し、法の邪正を決して捨邪歸正し、以て天下泰平國土安全を將來せんことを幕府に所請した訴狀である。舊中に烈々たる信念と意氣とが溢れてゐる。

(馬田行啓)

楚州和尚譜略 ❶(日)So-shū-o-shō-fu-ryaku. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

楚州禪師語錄 ❶(日) So-shū-zen-ji-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹楚州語、眞覺(禪統)編 ❼(參考) 禪籍目錄

楚石西齋淨土詩 ❶(日) So-seki-sai-jō-do-shi. (支)Ch'u-shih-hsi-ch'ing-tu-shih. 西齋淨土詩 ❷三卷 ❸存、卍續二・一三・五、淨土十要第八 ❹元梵琦(元貞二—洪武三 A. D. 1296—1370)撰 ⑥西齋淨土詩の下を見よ。⑤寛文一一刊 ❾(正大・一五三二・八四)(谷大、宗大・四五三)

楚石禪師語錄 ❶(日) So-seki-zen-ji-go-roku. (支)Ch'u-shih-ch'an-shih-yü-lu. 楚石梵琦禪師語錄、佛日普照慧辯禪師語錄、楚石錄 ❷二十卷 ❸存、卍續二・一九九・一—二 ❹元梵琦(元貞二—洪武三 A. D. 1296—1370)語、皇光等編 ❾刊本(谷大、餘大・二六六)(帝國、八二一・—二六三)

楚石梵琦禪師語錄 ❶(日) So-seki-bon-ki-zen-ji-go-roku. (支)Ch'u-shih-fan-ch'i-ch'an-shih-yü-lu. 佛日普照慧辯禪師語錄、楚石禪師語錄、楚石錄 ❷二十卷 ❸存、卍續二・二九・一—二、❹楚石梵琦(元貞二—洪武三 A. D. 1295—1370)語、曇紹、良彥、嵐丘、善成、正參等編

❶元叟行端禪師の法嗣として、南岳下二十世の法統を繼ぎ元の末期に大いに宗風を擧揚した勅賜佛日普照慧辯禪師楚石梵琦和尚六會の語錄偈贊法語等を法嗣祖光等が編錄したもので、楚石七十二歲の元至正二十七年秋、錢惟善居士の序文を得て梓に附し、後、楚石禪師が明洪武三年七月二十六日(A. D. 1370)壽七十五、臘六十三にして示寂された翌々月の九月初吉日に、楚石の法弟である紹興府崇報禪寺の行中至仁和尚の撰に成る行狀、並に宋濂の序及び塔銘を附して流通せしめたものである。

續藏所收本に依つて、其の篇次を見るに、卷首に、宋濂(無相居士)の序及び錢惟善の序を收め、卷一に楚石二十九歲の元泰定元年冬に徑山興聖萬壽禪寺首座寮に在つて受請し初住せし福臻禪寺語錄(祖光等編)。卷二卷三に三十三歲の天曆元年二月三日入寺せし海鹽州天寧永祚禪寺語錄(文琇等編)。卷四に四十歲の至元元年七月二十五日入寺せし杭州路鳳山大報國禪寺語錄(曇紹等編)。卷五に四十三歲の至元四年八月八日入寺せし嘉興路本覺寺語錄(祖溪等編)。卷六に六十二歲の至正十七年八月一日入寺せし嘉興路報恩光孝禪寺語錄(景瓛等編)。卷七に次で再住せし天寧永祚禪寺語錄(良彥等編)。卷八は學人に垂語し自ら代語を以て其の要諦を示した代語(應祈等編)。卷九は秉拂小參の語要(侍者等編)。卷十、十一は古則を擧して提撕せる擧古(明遠等編)。卷十二は頌古(鳳丘等編)。卷十三、十四には佛祖偈贊(文晟正隆等編)。卷十五は學人に示した法語(善成等編)及び偈頌(文琇等編)。卷十六より十九は偈頌(文琇等編)。卷二十は題跋記頌などの雜著に附して、明洪武元年九月十一日及び同二年三月十三日の二回に渉る明太祖帝の命により蔣山禪寺に水陸會を設け陞座說法せし水陸陞座の語要、並に法弟である紹興府崇報禪寺行中至仁和尚の撰に成る楚石和尚行狀、法嗣曇中景瓛和尚の依賴に依つて撰述した宋濂居士の佛日普照慧辯禪師塔銘とを收めたもので(中端正參等編)各卷末に音切が附けてある。

楚石は、諱は梵琦、字は楚石、小字曇曜、自ら西齋老人と號した。明州象山の朱氏に生れ、天寧永祚寺訥翁模和尚に趙孟頫居士の助力によつて薙髮し、徑山の虛谷希陵、天童の雲外雲岫、淨慈の晦機元熙などの當代の諸宗匠より稱譽せられ、徑山の元叟行端禪師に嗣ぎ、至正七年順宗帝より佛日慧辯禪師の賜號を與へられた。著作に、この六會語錄の外に、淨土詩、慈氏上生偈、北遊集、鳳山集、西齋集、和天台三聖詩等がある。淨土思想を抱き、天寧永祚寺に退隱して自ら西齋老人と號し、臨終にも夢堂曇和尚と西方去の問話をして居る。

（大久保堅瑞）

楚林睿禪師語錄 ❶(日)So-rin-ei-zen-ji-go-roku. (支) Ch'u-lin-jui-ch'an-shih-yü-lu. ❷二卷 ❸存 ❹清代上睿(楚林)語、昭琮等編 ❼〔參考〕禪籍目錄

鼠亂神供祕密次第 ❶(日) So-ran-jin-gu-hi-mitsu-shi-dai. ❷一軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

鼠荊棘 ❶(日)So-kei-kyoku. ❷一卷 ❸存 ❹土屋周山撰 ❼〔參考〕禪籍目錄

鼠雀問答 ❶(日) So-jaku-mon-dō. ❷二卷 ❸存 ❻教行信證、愚禿鈔の大意を述べ、眞宗の教相を叙述したもの。 ❼〔參考〕淨土眞宗聖教目錄、淨土眞宗教典志第二 ❽刊本(谷大、宗大・六〇五)(哲、二・七・右・三四)(龍大、一三〇・四五—四六)貞享三寫(谷大、宗大・二五六五)

鼠璞辨 ❶(日)So-boku-ben. ❷一卷 ❸存 ❹南溪謙宗(嘉慶元—寛正元 A. D. 1387—1460)述 ❼〔參考〕禪籍目錄

蘇曷龍王經 ❶(日)So-kachi-ryū-ō-gyō. (支) Su-ho-lung-wang-ching. ❷一卷 ❸缺 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記集第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

蘇軌眞言對注並句義 ❶(日) So-ki-shin-gon-tai-chū-narabini-ku-gi. ❷一卷 ❸存 ❹明覺撰 ❺嘉保三 (A. D. 1096) ❾(南溪藏)

蘇頡里離佉 ❶(支) So-kechi-ri-ri-kya. (支) Su-chieh-li-li-ch'ü. ❹龍樹造 ❻南海寄歸內法傳卷四(大正五四・二二七〇)に「又龍樹菩薩以詩代書。名爲蘇頡里離佉。譯爲密友書。寄與舊檀越南方大國王號娑多婆漢那。名市寅得迦云云」とあり、又義淨譯龍樹菩薩勸誡王頌(大正三二・七五一 No. 1674)の最後に「阿離耶那伽曷樹那菩提薩埵蘇頡里蜜離佉了」とし更に細註して「阿離耶是聖。那伽是龍是象。曷樹那義翻爲猛。菩提薩埵謂是覺情。蘇頡里即是親密。離佉者書也。先云龍樹者訛也」とあるより見れば、蘇頡里離佉即ち密友書なるものは、龍樹菩薩勸誡王頌に相當するものと思はれる。同項目の下並にその異譯勸發諸王要偈、龍樹菩薩爲禪陀迦王說法要偈の下參照。 ❼〔參考〕淨土眞宗教典志第一

蘇悉地 ❶(日) So-shij-ji. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第三六阿娑縛抄之內 ❹承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

蘇悉地羯羅經 ❶(日) So-shij-ji-ka-ra-kyō. (支)Su-hsi-ti-chieh-lo-ching. (梵)Susiddhikara-mahā-tantra-sādhanopāyika-paṭala(藏傳) (藏) legs-par-grub-par-byed-paḥi-rgyud-chen-po-las-sgrub-paḥithabsrim-par-phye-ba. 蘇悉地經、妙成就法、妙成就作業經 ❷三卷 ❸存、大正一八・六〇三 No. 893、縮閏三、卍一二・七—八、北428讚、南443讚、元435讚、明北529克、清529克、麗433時、天435讚、指400時、法423時、至624致、明南435羊、Nj. 533 ❹唐輸波迦羅(貞觀一一—開元二三 A. D. 637—735)譯 ❻本經は、佛部、蓮華部、金剛部の三部に就いて、各その持誦法則、諸曼荼羅並に種種の成就法を說いたものであつて、五部秘經、三部秘經の一である。當經は今述ぶる所の麗本の外に宋本及び和本（慶永廿五年

寛淳刊）の二本があつて各內容に出入がある。次に此の三本の品名を比較すれば、

	麗本(大正一八・六〇三—) 品名	頁數	宋本(別本一)(大正一八・六三三—) 品名	頁數	和本(別本二)(大正一八・六六三—) 品名	頁數
	上卷		上卷		上卷	
1	請問品	603a	同	633c	請問品	663b
2	眞言相品	603b	同	634a	同	(653c)
3	分別阿闍梨相品	604c	同	635c	同	661c
4	分別持誦眞言相品	605a	同	635a	分別持誦相品	665a
5	分別同伴品	605b	同	636a	同	655b
6	揀擇處品	605c	同	636c	擇處品	666a
7	持戒品	606a	分別戒法品	637a	持眞言法品	656b
8	供養花品	608a	同	639b	同	668c
9	塗香藥品	609a	同	640a	同	669c
10	分別燒香品	609c	同	641a	同	670a
11	分別燃燈法品	610b	同	641c	燃燈法品	670c
12	獻食品	610a	同	642a	同	671a
	中卷		中卷		下卷	
13	扇底迦品		—		—	
14	補瑟徵迦法品	612c	—		—	
15	阿毘遮嚕迦品	613b	—		—	
16	分別成就法品	614a	同	614a	同	691b
17	奉請本尊品	614c	同	644b	奉請品	681c
18	供養次第法品	615b	同	645a	供養品	682b
19	光顯法品	619c	光顯品	619b	增威品	936c
20	灌頂本尊法品	620a	本尊灌頂品	649b	本尊灌頂品	687a
21	新驗相品	620a	新請品	649c	新請品	637a
22	受眞言法品	620c	受眞言品	650b	受眞言品	637c
23	滿足眞言法品	621a	滿足眞言品	650c	滿足眞言品	688a
24	增威品	621b	增力品	651a	增力品	688b
25	護摩法則品	621b	護摩品	651a	護摩品	688b
25	備辦持誦支分品	622b	備物品	651c	備物品	689c
27	成就諸物相品	622b	成諸物相品	652a	成諸物相品	689b
28	取成就物品	623a	取物品	652b	取物品	689c
29	淨除諸物品	623a	淨物品	652c	淨物品	690a
30	諸物量數品	623b	物量品	652c	物量品	690a
31	除一切障大灌頂曼荼羅法品	623c	灌頂壇品	653a	灌頂壇品	690b
32	光顯諸物品	624b	光物品	654a	光物品	691b
	下卷		下卷		中卷	
33	分別悉地時分品	625b	同	655a	同	673a
34	圓備成就品	626a	—		圓備成就品	673b
35	請尊加被成就品	626b	奉請成就品	656a	奉請成就品	674a
36	補闕少法品	627b	同	657a	同	674c
37	被偸成就物卻徵法品	631a—633b	同	660c	同	678c
38	—		成就具支法品	662b—663b	同	680b

以上の如く、麗本及び宋本の二本の中卷は和本の下卷に相當し、二本の下卷は和本の中卷に相當してゐる、又宋本和本共に、麗本の13扇底迦品、14補瑟徵迦法品、15阿毘遮嚕迦品の三品を闕き、又宋本及和本の最後の38成就具支法品は麗本に之を闕いてゐる。

又東密にては、當經を空海は三學錄に蘇婆呼童子經と共に此の二部を持明藏中に錄し、眞言行者は常に本經に據て行住坐臥の事業を作し、悉地成就すべき戒本なりとせられ、兩部(金剛、頂經、大日經)の外に不二を立てず、從て兩部灌頂の外に蘇悉地灌頂を行つてゐないが、台密にては兩部大經は而二の秘經にして、不二の說相は述べられてゐないから、本經を以て此の不二の說相を叙述せるものとして、兩部大經に對して更に深秘の說なりとしてゐる。此の說を確立したのは慈覺大師圓仁であつて、即ち蘇悉地羯羅經略疏七卷(正藏六一)は即ちそれである。賴寶の眞言名目に東台兩密の而二不二について「不二者自他門所傳各別也。他門安然兩部各各云有不二。又慈覺大師兩部外立不二。今大師所傳不然。則二云不二二外無一。兩部各非有不二。又兩部外非有不二。一則云而二甚深難解可思之云云」と云ふてゐる。

〔請問品第一〕には、この經に於て說示せんとする眞言相、阿闍梨相等の諸問題が提起されてある。〔眞言相品第二〕には、息災・增益・降伏等の諸作法に應じて、眞言の字句に於て別があり、その作法に相應した眞言を誦ずることに依つて、始めて作法を就成し得ることが明されてある。〔阿闍梨

相品第三〕には阿闍梨として諸德を具へ、常に大乘經典を讀誦し、自ら曼荼羅を造り得る技能を有することが示されてある。〔持誦眞言相品第四〕には、眞言持誦の法則よりは、寧ろ眞言持誦者の人柄に就て、委しく述べてある。〔同伴品第五〕には、有德にして學識あり、知解勝れたる者を同伴となす可きを說き。〔樣擇處所品第六〕には、眞言持誦に依つて所願を成就す可き處所を擧げてある。息災・增益・降伏等の修法の種類に依つて、因より一樣には言はれないが、諸佛諸仙得道の所なぞは、成就を得る第一の場所と見られて居る。〔持戒品第七〕には持誦眞言者の行住坐臥は四威儀並に衣食・沐浴・談笑等に至るまで、常に注意を拂ふ可き諸事項が說かれてある。〔供奉花品第八〕には、華の色と香と及び其華の草木の形狀等に依り、佛部・蓮華部・金剛部の各諸尊に依り、區別す可き事、又息災・增益・降伏等の作法に依つて、獻華の種類の異なることが明されてある。〔塗香藥品第九〕には、塗香・末香・香丸・香水等の作り方が述べてある。〔燒香品第十〕には燒香に上中下の三等あつて、七種香を最上となし、堅木香を中、華・葉・根等を下となし、三部の諸尊に應じて、異なる旨が說かれてある。〔然燈法品第十一〕には法則に依る然燈は諸佛菩天を歡喜せしむる意を述べ、次にその壇に金・銀・熟銅・泥瓦等から成るものの別があり、燈炷には白氈花・新氈布・鞠句羅樹皮絲・新淨布なぞを用ふる。次に香油に上中下の三品あり、息災法には上香油、增益法には中香油、降伏法には下香油を用ふる。〔獻食品第十二〕には、圓根・長根・葉・酥油・餅・粥等の食を諸尊に供するのであるが、三部の諸尊に依り、又息災等の三種作法に依つて、獻食を異にすることが詳かに示されてある。（以上、卷の上に於て明さる）。

〔羅底迦（Santika息災）法品第十三〕息災法とは災害を止息し、善行を成滿することを目的として修するものであるが、此の法は白月一日黃昏の時に起首する、この時には淨居天が下つて人間の世界を遊歷して居るから、善法成就に適すると言はれて居る。行者は白衣を着して面を北に向けて修法し、護摩木には乳木を用ふるなぞのことが明されてある。〔補怒微迦（Pausika增益）法品第十四〕この法は開運榮達等を目的として修するもので、息災法を出家法とすれば、此の法は在家法に當る。この法は白月十五日の寅の刻に起首する。壇上の正面に觀自在菩薩を安じ、その右邊に大勢至、左邊に觀世音の持明王を安ず。〔阿毘遮嚕迦（abhicāraka降伏）品第十五〕これに降伏法が明されてある。降伏法とは行者が心に瞋怒を懷て、惡人を治罰する爲めに修するもので、起首の時日は瞋怒の高つて居る時を選ぶ可きであるが、又黑月の八日若しくは十五日の日中に於て、起首するのが常である。毘舍（Piśāca）諸鬼及び部多（Bhūta）羅刹（Rakṣas）等を本尊とし、行者は赤衣若しくは青色服を着し、南に面を向け、右脚を以て左脚の上を踏み、黑土を以て壇を築り、護摩には苦楝木等を用ふるなぞと說かれてある。これ因より在家法である。〔成就法品第十六〕は、一名悉地相品とも云ふ。上品の悉地・中品の悉地・下品の悉地の三種あり、これ三品の各々に更に三品あり、併せて九品の悉地相がある。空に乘じて而して遊み得るを最上の悉地相となし、藏形隱跡を中成就相となし、世間の諸事、意の如くなるを下成就相と爲す。又身分の悉地を上品の成就となし、諸藥の悉地を中品の成就となし、富饒の悉地を下品の成就となす。次に聖者の眞言を誦することに依て、上成就を得、諸天の眞言に依り、中成就を得、無天の眞言に依つて、下成就を得ると說く。〔奉請本尊品第十七〕には本尊を召請し、若しくは發遣する方法が示されてある。請召の時には、その部の明王の眞言と印とを用ひ、閼伽（arghā）を獻じ、悲しく本尊に對して、本尊聖者は、本願を以ての故に、此の道場に降赴し玉へり、願くは哀愍を垂れて、此の閼伽及び微獻供を受け玉へと念ずる。〔供奉次第法品第十八〕、一名念誦法と云ふ。念誦を爲す時には、壇を構へ、本尊を請召し、先づ塗香・華・燈香・飲食・然燈を供ず、若し此等の物なき時は、それ等の眞言並に印を以て之れに代用し、次に閼伽を獻ず。次に忿怒明王の眞言を誦じて諸の爲障者を遣除す。又五種の護衛法あり、道場内に於て之を行ず、金剛鎖・金剛縛・吉利枳羅・甘露軍茶利が即ち其れである。坐法は枝葉を座具となし、この座具の上に於て、息災法の時には結跏趺坐し、增益法の時には、半跏坐、降伏法の時には兩足を垂れて坐す。數珠に關しては佛部念誦の時には菩提子珠の數珠を用ひ、蓮華部には蓮華子珠、金剛部には晴揚羅叉子の數珠を用ふ。この外に持誦者の用心、並に悉地成就の徵候等に就て述べてある。〔光顯法品第十九〕には本尊の威光を陪增し、之れに依て所願を成就することに成るが、その威光陪增の方法として護摩が擧げてある。〔灌頂本尊法品第二十〕には、本尊の威德を陪增する爲に、閼伽を以て本尊を灌頂することが明されてある。〔所驗相品第二十一〕には、所請の効驗の有無を夢に依つて判定することを明し。〔受眞言法品第二十二〕には、阿闍梨に隨つて、眞言を授かる場合に、弟子として爲す可き事柄が示されてある。〔滿足眞言法品第二十三〕には、阿闍梨から授けられた、眞言が滿足したものであるか否やは、持誦者が夢中に於て眞言主の身相を見る時に、眞言の字の過不及を知ることが出來ることが明されてある。〔增威品第二十四〕には、所請の威力を增さんとする時に、護摩を行じ、その護摩に於て酥蜜を用ふる時と、乳を用ふる時とに依り別の効驗があるなぞの事を述べてある。〔護摩法則品第二十五〕には護摩に關する法則が示されてある。先づ火天を請召して護摩即ち燒供を行じ已つて、次に本尊を請召して燒供を爲し、護摩を都て了て、復火天に殘餘の供物を獻する等と說く。〔佛辨持誦支分品第二十六〕には、眞言を持誦するに當り、必要なる五種堅香・

七顯香・五穀・五寶・五藥・五色線等が擧げてある。〔成就諸物相品第二十七〕には、如意寶珠・寶瓶・雨寶・伏藏・輪・蜂黃・刀の七物を上中の上となす、此等は種々の悉地を成就し、福德を增すと言はれてある。その他に佛頂・蓮華・三股杵・蜂黃・牛黃・刈唎迦藥・安膳那藥・白氈布・花鬘等が成就物として擧げてある。〔取成就物品第二十八〕には成就物を取る時節と時刻と、及び其の取り込む方法が示されてある。〔淨除諸物品第二十九〕には、成就物を洗淨する方法が明されてある。〔諸物意數品第三十〕には、成就物としての蜂黃・牛黃・蜂黃・安膳那等の量に依つて、成就の相に於て上中下の別あることが說かれてある。〔除一切障大灌頂曼荼羅法品第三十一〕には、灌頂大曼荼羅は方四角にして、四門を設け、その量は八肘或は七肘若しくは五肘にして、四門を開き、界道あり、この大曼荼羅の西方に、灌頂曼荼羅を設く、その量は五肘又は四肘又は反肘にして、唯東門を開くのみ、凡そ曼荼羅の四門の中には、拔折羅（Vajra金剛杵）を畫き、中台には本尊の印を畫き、一瓶を置く、曼荼羅が成立し已つてから、如法に三種の事護摩を行ず、毘那夜迦（Vināyaka）を遣除するが爲に、降伏法を修し、自己の利益の爲に增益法を修し、諸の災難を止息するが爲に、息災法を修す。〔光顯諸物品第三十二〕には、三部の光顯の眞言を明す。光顯とは修法の効力を增大する意である。曼荼羅の中台に部主の印を置き、成就物を、その部主の中台の印上に安ずるなぜ、法事を光顯ならしむるものであるが、諸の光顯中に於て、護摩を修するを最勝とすと說てある。（以上中卷）〔悉地時分品第三十三〕には、修法の吉祥成就す可き時分が明してある。八月・臘月・正月・二月・四月・これ等の五ケ月の白の十五日に修する法は上成就をなす。但し四月には雨雖あり、二月には風雖あり、正月には種々の雖あり、臘月には諸の雖事なく、八月には雷電霹靂の雖あり、如上の雖が發生するのは皆成就の相である。この五ケ月に成就せんとするものは、息災法に限らる。增益法は五月の黑の十五日に行ずれば効あり、降伏法は日月蝕時に行ずれば驗あり、なぜと說かれてある。〔佛説成就品第三十四〕には、行者の帶する成就物としての白氈罷が明されてある。その他悟沈を除く爲めの眼藥並に成就の前兆等が示されてある。〔請尊加護成就品第三十五〕には、曼荼羅の外門は軍荼利明王に依て護られ、第二重門は阿利帝母に依り、中台院の門は無能勝に依て護らる。この三聖者は能く諸難を摧き、成就物を護ると說かれて居る。〔補闕少法品第三十六〕には、曼荼羅・三鈷多法・成就物・三部祕密曼荼羅・蘇悉地羯羅明王、並に十方來の難相と諸天部との關係が說かれてある。〔被僉成物却徵法品第三十七〕に於ては、壇取せられた成就物を取戻す修法と、及び悉地成就法とが明してある。又た不成就の場合に、本尊を苦治する修法が示されてあるが、此は諸儀軌中に於ても極て稀れに見る例である。

❼〔參考〕開元錄第九、貞元錄第一四 ❽平安朝時代寫（寶善提院）鎌倉時代寫（寶龜院）（寶善提院）應永四刊（寶壽院）

（神林隆淨）

蘇悉地羯羅經 ❶（日）So-shi-ji-kara-kyō.（支）Sa-hai-ti-chieh-lo-ching. ❷三卷 ❸存、大正一八・六三三No. 893（別本一）北438讃、南443讃 ❹上卷には請問品第一、（六三三、C）、眞言相品第二（六三四、A）、阿闍梨相品第三（六三五、C）、同伴相品第五（六三六、A）、簡擇處所品第六（六三六、C）、戒法品第七（六三七、A）、供奉華品第八（六三九、B）、塗香藥品第九（六四〇、A）、燒香品第十（六四一、A）、然燈法品第十一（六四一、C）、獻食品第十二（六四二、A）

中卷の初に第十三品、第十四品、第十五品を缺く。分別成就品第十六（六四四、A）、奉請品第十七（六四四、B）、供奉品第十八（六四五、A）、光顯品第十九（六四九、B）、本尊灌頂品第二十（六四九、B）、新請品第二十一（六四九、C）、受眞言品第二十二（六五〇、C）、滿足眞言品第二十三（六五〇、B）、增力品第二十四（六五一、A）、護摩品第二十五（六五一、A）、佛物品第二十六（六五一、C）、成就諸相品第二十七（六五二、A）、取物品第二十八（六五二、B）、淨物品第二十九（六五二、C）、物量品第三十（六五二、C）、灌頂壇品第三十一（六五三、A）、光物品第三十二（六五四、A）、下卷於にて、分別悉地時分品第三十三（六五五、A）、圓滿成就品第三十四（六五五、B）、奉請成就品第三十五（六五六、A）、補闕少法品第三十六（六五七、A）、補僉成就物却徵法品第三十七（六六〇、C）、成就具支法品第三十八（六六二、B）。

本經は事作法に關して、極めて必要なる注意が示されて有つて、事作法に從事する眞言行者の必讀の經である。蘇悉地（Susiddhi）羯羅（kara）とは譯して妙成就作法と云ふ。眞言行法は成就を目的として居る。成就中の最上なるものを成佛と見做し、その他の成就法をば有相方便道と見做してある。成佛以外の作法は、行者を佛一乘道に招致する方便と成るからである。世間出世間何れの願でも、皆悉く成就圓滿し得るのが眞言妙行である。隨つて眞言妙行には法の成就を目若して居るのであるが、法則に該當しない修行方法では、如何に努力精進しても、悉地成就することは絕對に不可能である。その修行の法則を委曲に說明してあるのは、本經を措いて他には無いと言ふも過言ではない。儀軌は皆修行法則を示して居るのではあるが、此の經程に整頓して說かれてあるものは、他には殆んど無いと言つても宜い位である。この意味に於て、本經は眞言行者必讀の聖典と言ふ可きである。

❺本經は宋本に元本明本、及び貞享三年淨嚴の校訂本を校合したものである。屬本の蘇悉地羯羅經を參照せられたい。

（神林隆淨）

蘇悉地羯羅經 ❶（日）So-shi-ji-ka

-ra-kyō. (支) Su-shi-ti-chieh-lo-ching. ❷三卷 ❸存、大正一八・六六三No. 893、(別本二)、縮刷三

❹本經は應永二十五年憲淳刊行に係る寶壽院藏本である。和本と稱するものは當經であつて、縮刷大藏經刪三に收められてあるものである。從て古來本邦の密教學徒が多く之を用ひたので、諸書に蘇悉地經と云ふてゐるものは、多く之を指してゐる。更に內容等については麗本の蘇悉地羯囉經の項を參照せられたい。

〔上卷〕 諸問品第一(六六三、B)、阿闍梨相品第二(六六四、C)、持誦相品第三(六六五、A)、同作品第四(六六五、B)、擇處品第五(六六六、A)、持眞言法品第六(六六六、B)、供養華品第七(六六八、C)、燒香藥品第八(六六九、C)、燈燈法品第十(六七〇、C)、獻食品第十一(六七一、A)

〔中卷〕 悉地時分品第十二(六七三、A)、興佛成就品第十三(六七三、B)、奉請成就品第十四(六七四、A)、補闕少法品第十五(六七四、C)、校量成物劫微法品第十六(六七八、C)、成就具支法品第十七(六八〇、B)

〔下卷〕 成就品第十八(六八一、B)、奉請品第十九(六八一、C)、供養品第二十(六八二、B)、增誡品第二十一(六八六、C)、本尊灌頂品第二十二(六八七、A)、所請品第二十三(六八七、A)、受眞言品第二十四(六八七、C)、滿足眞言品第二十五(六八八、A)、增力品第二十六(六八八、B)、護摩品第二十七(六八八、B)、佛物品第二十八(六八九、A)、成諸物相品第二十九(六八九、B)、取物品第三十(六八九、C)、淨物品第三十一(六九〇、A)、物景品第三十二(六九〇、A)、灌頂壇品第三十三(六九〇、B)、光物品第三十四(六九一、B)

(神林隆淨)

蘇悉地羯羅經

❶(B) Su-shi-ji-ka-ra-kyō. 國譯密教經軌部第二 ❷三卷 ❸存、國譯密教經軌部第二

蘇悉地羯羅經略疏

❶(B) Su-shi-ji-ka-ra-ryaku-kyō-ryaku-sho. 蘇悉地經略疏 ❷七卷 ❸存、大正六一・三八九No. 2227、日本大藏經密經部章疏卷下一、大日本佛教全書第四三 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六入D. 794—864)述

❹「延曆寺護國緣起卷下」(佛全一二六ノ四三五)及び「天台靈標四之一」(佛全一二五ノ四〇二)に「比叡山眞言宗家鎮相承緣起勘文第十四」の下で弘法大師相承の眞言には三不可があるとなし、第一不可の段で眞言宗三部の大法とは胎藏・金剛・蘇悉地である。就中、蘇悉地の大法は慈覺大師の傳來であつて弘法大師は惣ぐてこれを傳へてゐない。依ゝ之、智證大師が承雲和尙へ傳法した時に朝廷から賜つた官符には、『胎藏金剛兩部の大法は先來、本朝にこれを傳へなくはなかつたが、蘇悉地の大法に至つては其の名が未だ曾つて有つたことがなかつた。爰に故阿闍梨圓仁(慈覺大師)は五百の選に應じて(宋法々誡に當つて)創めて斯の道を傳へた。大法が中の大法は實に此の門に在る。能く未有を有らしめたものはこの人ではないか』と述べ、台密の三部大法は東密の兩部大法より優勝であるとなし。又第三不可即ち血脈不可の下に於いて『眞言宗には戒定慧の三學がある。所謂蘇胎金である。次での如く戒定慧に當る。(中略)東寺には兩業の官符のみあつて三業の官符がない。山門に年分度者を下される官牒には一人は大日經を學するを業となし、一人は金剛頂經を學するを業となし、一人は蘇悉地を學するを業となす等とある。この故に山門は三學俱傳の嫡流、三業俱學の官符があるといふのだ。所以に智證大師の奏狀にも『兩部大法、先來非ゝ傳、於蘇悉地者、其名未曾有云々』と。先來とは弘法大師の傳來を指していふたのである。蘇悉地を天台宗の肝心であるとなすのは惠果阿闍梨が祕して弘法大師に傳へないで大唐付法の上足たる義操一人にのみ傳付して嫡流の上首としたので知られる云々」と云ひ、台密獨傳の嫡流祕法は三業俱傳にありとなし。特に蘇悉地の傳不傳を以つて眞言相承の嫡否を決定せんと論じてゐる。この主張は上記の文で明瞭なるが如く、智證大師の奏狀に發してゐる。慈覺大師は台東兩密の相違、若しくは優劣を蘇悉地の傳不傳に於いて述べてゐない。思ふに智證大師奏狀も護國緣起著者が論ずる程に空海所傳の密教を非難したものではない。恐らく慈覺大師の傳密は空海の傳密以上に增加し詳細に涉つてゐると記したものであると思ふ。元來、護國緣起は東寺の密教減は東寺の勢力が延曆寺の勢力に對抗するに到つた時代、即ち武家時代以降の北嶺對東寺の眞言教學の論爭時代に於ける兩密比較說を記したものだと思ふ。乍然、天台密教に於ける蘇悉地經は東密家が觀る態度とは其の趣を異にしてゐる。台密の宗學原理を構成する型體から考へても、兩界に立脚する東密は理趣經に重點を置かんとするに反し、三諦三觀三學俱傳に依據する台密が三業俱傳を尊重するは理の當然である。故に台東兩密の教學比較が烈しくなれば、自ら相承及び教理等に優劣淺深の諍論が甚しく尖銳となるべきことは當然である。これによつて知らるゝ如く台密教學及び相承では蘇悉地經を中心とする祕密曼荼羅研究は最も肝要である。是くの如き重要な經典研究は慈覺大師によつて第一に試みられ、次いで事相全盛期(藤原中期頃)まで繼續されたが、其後は經典研究も教相學究も衰微し、從つて本疏研究の如きは全く試むるものなき狀態となつた。本疏研究は殆んど進展しなかつたが本疏あることにより、台密教學の特質が明晰に理解され得ることは最も寡ぶべきである。次に本疏製作の年月及び流布の緣起を述べ、後に大要を記すことゝなす。一に製作年代は字多天皇第三皇子齊世親王(寬平入道親王。圓城寺宮眞寂と號し給ふ)の御撰に係る慈覺大師傳に『齊衡二年、作蘇悉地經疏七卷』とある以外には何等知る所がない。二に流傳緣起は二に分つ、初めには慈覺大師の流傳。二は智證大師の流傳及び元慶三年の流傳官符である。一に慈覺大師

の流傳は慈覺大師傳と護國緣起下とに出づ。『金剛頂經疏と蘇悉地經疏とが成り畢つた。大師は自ら閱り讀はるゝには、此の疏は果して佛意を疏通してゐるであらうか。若し佛意を通暢してゐないならば世に流傳すべきものではないと。そこで大師は直ちに佛前に二疏を安置し、七日七夜深誠をささげて修行祈願した。第五日の五更に至つて夢に入つた。正午に日輪を仰ぎ見て、弓を以つて日を射た。其箭は日輪に的中した。日輪はこの時轉動したと、夢から覺めた後に、二疏は佛意に通達してゐるから後世に傳ふべきものであると深く悟つた』(大師傳の說)と。『慈覺大師は詔を奉じて蘇悉地經と金剛頂經との兩經の疏を撰し、仁壽皇帝(文德天皇)に奉獻した』(護國緣起の說)。護國緣起の說は眞僞不明。二に智證大師が本疏と全疏とを流傳せんと努力し、朝廷へ表及び啓文を奉り、又太政官は延曆寺へ牒して兩疏を天下に流傳すべしと允許の官符を下された。このことは天台靈標三之一(佛全一二五ノ二七七)に出てゐる。官符には「文義汪洋、包括大小乘之旨、洞徹微顯密教之奧旨。……誠爲日域之夜光、剋浮之靈珠者矣。」と稱揚してゐる。護國緣起下には「元慶の聖代(陽成天皇の御代)叡感あつて天下に流行せよと宣旨を下された諸宗の高德が述作の章疏を獻じたものはあるが、慈覺大師の外には未だ天下流行の官符を賜つたものを見たことがない」と。智證大師の啓文を見ると「先師慈覺、承和率使、尋道支那……遍於家邦、獻以法寶、慨後生迷路、扶老而操筆、纂錄金剛・悉地兩經義疏、草本已成、未遑奏、際、異方有感、此土感靈」とある。故に二疏は詔を奉じて撰したものでもなく、亦、文德天皇へ奉獻してもゐない。但し、兩疏共に「一句或一文。若有ゝ契佛意、願奉ゝ表ゝ國主、共ゝ法界群生、揮ゝ三密智劍、斷ゝ惑ゝ魔軍、超ゝ過二死海、同達ゝ密嚴宮」(蘇疏七)と述べてゐるから、慈覺大師は國主陛下の皇祚萬歲を祈願して撰述したものであることは疑ふべからず。次に本疏の大綱を示せば、蘇悉地經を釋するに三門に大別。一は略して經意を明し、二は經の題目を解釋し、三は入文解釋である。第一の經意を叙するとは本經は胎金蘇三部の經王、諸尊の肝心、眞言の祕旨を總括し、祕密一乘教の要妙を一貫してゐる。是を以つて精進忿怒軍荼利金剛は數十の疑問を發し、持明大仙は未來のために眞言法則を開示し、悉地成就し階位を成滿せしむることを述べ。次に本經の如く修行する輩は必ず三際の利を得。信修する者は試に世出世の靈驗を蒙る。本經は衆尊の祕法を修する支分が圓備し。經典の眞義を開顯するの神術を明してゐる是くの如きは閱り是の經に限る。眞言の修行と位階と利益と具支とを圓說した眞實妙典は本經のみである。要するに戒定慧三學圓備を述べた經は本經のみであると云ふが、慈覺大師の本經の大觀。第二の釋題は蘇悉地羯囉とは西域の音。妙成就と翻ず等と經題の字義を釋し。第三の入文解釋は二に分ち。先づ上中下三卷三十四品の各品の大意と來由とを略述し、次に經文を分科し、文字章句を通釋してゐる。今は略して分科を圖示するだけに留めて置く。發菩無畏譯の蘇悉地經が三種現行してゐる內、本疏は大正新修大藏經一八卷所收〔別本二〕と稱する經の註疏である。慈覺大師は何故に〔別本二〕に依つて註疏を撰したかに就いては全く述べてゐない。隨つて、他の二種の經文と本經との比較等は少しも知れない。次に本疏の中心をなす教義は、顯密二教論と三學圓備說とである。二教論は空海の二教論に反して最澄の二教論を論明し三學圓備說は最澄の三學俱傳論の擴充と觀られる。

蘇悉地經は三十四品からなつてゐるが、通別二序と囑累とがない。これは傳持人が唯眞要のみを傳へて不要を略した爲めであらう。經の說所は須彌山頂の金剛手所住處たる普賢宮である。一經の分科を示せば、二段となす。初めの半品は先づ精進忿怒軍荼利南方明王即ち虛空藏菩薩なりの請問を明し、次に獨時吉祥莊嚴一切持明大執金剛應供養者告彼大精進等以下、經文盡くるまでは、これ第二に大執金剛(菩薩即毘盧遮那佛の一身)の答を明す。かくの如く一經を大別してから前段を三分して一總問、二廣問、三結問となし、更に細分して經文を一々詳解し、廣問には四十一問があり、この四十一問に對して答へたものが請問品後半以下經盡までの各品であると分科し、大執金剛の答へは大別として二となす。初めは款發問、二は正答である。正答は四十一問を一々詳答したのであると。以下本疏の一經分科を圖示しよう。

一經總釋—(略明經意
　　(別經題目
　　(文—請問品第一—(獨時吉祥—(初半品—(初明忿怒軍荼利請問。×
　　(後大精進等—(第二明大執金剛答。△

(本疏卷一)

初明總問—(初明發問儀。
　　(二明發問由—(往昔明王法を聽聞したが未だ佛の祕旨を盡すこと能はざる故に問ふ。
　　(三正明總問—(未來の薄福の衆生を慈愍するが故に問ふ。
　　(中に於いて四十一問ある。
三明結問
初款發問
△
二正答(都べて三十三品半經)—(請問品後半より獻食品まで十品半)—明答遠修成就相(答十二問)××
　　(別墨地時分品から光物品訖まで二十三品)—明答近修成就相(答廿九問)△△
××。第一答所持誦眞言法—初問と二問(云何眞言相)とを答ふ。(第一品終)
分別阿闍梨相品—(品題を釋し來由を叙ぶ。以下各品皆同じ。
　　(經文を釋す—(本品から分別同伴品まで三品までは云何阿闍梨云何成就者弟子の二問に答ふ)—第二答能持誦之人。

第二答能持誦之人—分別阿闍梨相品二—正明阿闍梨相。(本疏第一卷畢)
分別持誦相品三—明持誦人成就之相。(本疏第二卷始)
分別同伴品四—明持同伴相。

第三明持誦之方處—揀處品五—(云何方處の問に答ふ)

第四明正持眞言相—持眞言法品六—(云何眞言速成就。云何調伏相。云何誦眞言方便之次第の三問に答ふ)—(本疏第二卷畢)

(本疏第三卷始)

第五明持誦供物—
供養華品七—明供養華—(云何華供養の問に答ふ)
塗香藥品八—明塗香藥—(云何塗香の問に答ふ)
分別燒香品九—明燒香—(云何香燒香の問に答ふ)
燃燈品十—明燃燈—(云何燈油相の問に答ふ)
獻食品十一—明飮食—(云何食供養の問に答ふ)(本疏第三卷畢)

(本疏第四卷始)

△△第二—大分爲二十段—第一。明成就悉地時分—分別悉地時分品十二—(云何扇底迦等三問に答ふ)

第二。明成就支具—
圓備成就品十三
奉請成就品十四
補闕少法品十五前半品—(三種中各成何等事の問に答ふ)

第三。持護身、持法、作障礙相、諸藥相の四問を超へて答ふ—補闕少法品十五後半品(本疏第四卷畢)

第四。明失物却得等法—被偸成物却徵法品十六—(云何失物令却得等の三問に答ふ)(本疏第五卷始)

第五。明具足作悉地法—成就具支法品十七—(云何被破却著の問に答ふ)

第六。明三部悉地成就—分別成就品十八—(云何上中下次第成就相の問に答ふ)

第七。明入本尊室奉請—奉請品十九—(云何法請召の問に答ふ、(本疏第五卷畢)

第八。明依部類或諸事業而供養之—供養品二十—(云何修供養の問に答ふ)(本疏第六卷始)

第九。明香水浴身、加諸供養、重作護摩、增益神威、所持眞言、而速成就—增威品廿一—(云何試眞言の問に答ふ)(本疏第六卷畢)

第十。明先承事了、令眞言主、增威德故、灌頂眞言主—本尊灌頂品廿二—(云何作灌頂の問に答ふ)(本疏第七卷始)

第十一。明受得眞言主及阿闍梨分付、而念誦者、速得悉地—
祈請品廿三
受眞言品廿四—(云何當受付の問に答ふ)

第十二。明依夢所見、知所受持眞言、殊異作滿足法、令其滿足—滿足眞言廿五—(云何字得圓の問に答ふ)

第十三。明更作護摩及以妙好塗香花等奉獻本尊、增眞言威—增力品廿六—(云何得增益の問に答ふ)

第十四。明爲令持誦者、速得悉地、設護摩法、并辦備諸物—
護摩品廿七
備物品廿八—(云何作呼摩等の問に答ふ)

第十五。明得法驗、已成就諸物—成諸物相品廿九—(云何成藥相の問に答ふ)

第十六。明簡好日時、及得善警界、取所成就物—取物品三十—(云何受藥相の問に答ふ)

第十七。明淨所成就物—淨物品三十一—(云何淨治藥の問に答ふ)

第十八。明所成就物量—物量品三十二—(云何藥量分の問に答ふ)

第十九。明成就諸物、祕密妙法—灌頂壇品三十三—(云何成就曼荼羅、云何灌頂曼荼羅の二問に答ふ)

第二十。明光顯所成就物—光物品三十四—(云何護諸成就物、云何事法曼荼羅の二問に答ふ)(本疏第七卷畢)

❼〔參考〕 山家祖德撰述篇目集卷上。天台霞標初編卷一ノ三一、慈覺大師撰述目錄。❽齊衡二年(A. D. 855) ❾長寬二寫(高大、寄・一・三六)文久三寫(谷大、餘甲・二八)刊本(龍大、二四一八・五九)(谷大、餘大・六八二)

(田島德音)

蘇悉地羯羅供養法 ❶(日)So-shij-ji-ka-ra-ku-yō-hō. (支) Su-hsi-ti-chieh-lo-kung-yang-fa. (梵) Susiddhikara-pū-ja-Vidhi. (藏傳) 蘇悉地供養法、蘇蘇悉地羯磨法 ❷三卷 ❸存、大正一八・六九二 No. 894、縮閏三、卍二七・一、明北1418鍾、清1418鍾、麗432詩、指400詩、法423詩、Nj. 1425 ❹唐善無畏(貞觀一一—開元二三 A. D. 637—735)譯 ❻本經(蘇悉地羯羅經)の意に基いて佛部、蓮華部、金剛部の三部に就き、其の供養法則を說けるものである。上卷には曼荼羅の造法を說く、即ち開卷の偈は蘇悉地羯羅供養法一部の大意を述べ、次の見神室處の節段に於て灌頂を受くる爲に壇(曼荼羅)を作ること、阿闍梨より印可を受くることを明し、次に分土洗淨の一段に於て、灑掃神室(神室とは曼荼羅を云ふ)、掃地、塗地、淨諸供器の作法を明し、次に佛蓮金の三部の三摩耶の眞言手印を說き、次に結縛諸難の段に於て、灌頂を受くるに際し障害を作す諸魔を辟除し、更に自身を澡浴し、身即ち光澤を成じ、護身を成じ、更に神室に入つて壹像印契等を畫き、次に供養物を辦具して本尊を奉請する等の印契眞言並に作法が明されてある。

中卷には、護身、結髮、寶座、獻閼伽水。三部母眞言、三部心眞言、三部母印相、三部心印相。奉請本尊、淨地眞言、除遣從魔、奉座。結界。數珠、臂釧を明し、下卷には、塗香、華、燒香、飮食、燈、運心供養。座法、正念誦、護摩柴、牛五淨、腰線、臂釧、茅環等が示されてある。❾嘉祿二寫(寶菩提院)承保四寫(寶菩提院)

(神林隆淨)

蘇悉地羯羅供養法 ❶(日)So-shij-ji-ka-ra-ku-yō-hō. (支) Su-hsi-ti-chieh-lo-kung-yang-fa. ❷二卷 ❸存、大正一八・七〇四 No. 894(別本) ❹唐善無畏譯 ❻この供養法は三卷の供養法(大正一八・六九二—七〇四)と比較する時に、第二卷の中頃過ぎの運心供養(七一七、B)までは、全然同一であつて、本法に於ては眞言が梵字で書かれて居る點が異なるだけである。それ以下に於て讚歎法(七一七、B)、懺悔(七一七、C)、歸命三寶(同)、發菩提心(七一八、A)、發勝願(同)、灌頂印(同)、四種念誦(七一八、B)、二種成就物(同)、觀心(同)、金剛降三世讚(七一八、C)、請火天等の諸眞言(同)が明かされてある。三卷の供養法は諸作法を知るに便宜であり、この二卷の供養法は、修法を行する爲めに編せられたものである。❾天喜三、久安元寫(高山寺藏) 古寫本(東寺三密藏)

(神林隆淨)

蘇悉地羯羅十八契印供養法 ❶(日) So-shij-ji-ka-ra-jū-hachi-gei-in-ku-yō-hō. ❷一卷 ❸存 ❹慧頂錄 ❽享保一八刊 ❾(南溪藏)

蘇悉地羯羅重玄門儀軌 ❶(日)So-shij-ji-ka-ra-jū-gem-mon. 蘇悉地羯羅重玄門儀軌 ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)集 ❻蘇悉地羯羅重玄門儀軌の下を見よ。❼〔參考〕 山家祖德撰述篇目集卷上、諸宗章疏錄第二

蘇悉地羯羅重玄門儀軌 ❶(日) So-shij-ji-ka-ra-jū-gem-mon-gi-ki. 蘇悉地羯羅重玄門 ❷一卷(四卷) ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)集 ❻本書は蘇悉地經七卷本(現行蘇悉地經品名と本書引用の品名とを比較するに大正藏經が別本二と稱するものと同一である。大正藏經の脚註によれば蘇悉地經に麗本・宋本・和本の三本があり、この三本を悉く收載してゐる。本書は所謂和本に依つてゐる。現行本の和本は上中下三卷に調卷。將來錄及八家祕錄を見ても七卷本はない。祕錄には「蘇悉地羯羅經三卷。無畏。澄(最澄)。圓覺(宗叡)。梵釋」とある。七卷に調卷したのは恐らく本邦で誰人かがしたものであらう)と供養法とに依つて歸敬本教諸尊分第一以下敎中梵語對譯第二十八に至る廿八分を設け、且つ本書撰集の主意を歸敬本教諸尊分第一の中で「我依蘇悉地羯羅法。開重玄門。示祕藏。唯記師授及本敎。不加臆度與非敎。但授都法阿闍梨。」云云」と述べてゐる。この廿八分は圓仁の蘇悉地經疏には述べてないが「師授」とあるから疏の外に本書の如き分類法が行はれてゐたと認むべきである。次に本書の名稱を八家祕錄には「蘇悉地羯羅重玄門一卷。安然集。在觀中院」とし、密部書目には祕錄の他に「蘇悉地重玄門儀四卷。安然」としてゐる。これによれば二本は別であるかの如くに考へられる。乍然一卷本は「第一」のみが詳細であるが他は悉く略記。故に若し此等を細說すれば四卷となると推考される。更に可考。次に「受用成就諸物分第二十六」の下で「蘇悉地羯羅供養法」の調卷に就いて、一卷。二卷(法全和尙の治定本)と二本があり。法全本にも亦廣本・略本・縮略本の三種の不同あることを記してゐる。これは八家祕錄にもない記事である。「供養法」研究上の好資料である。次に本書の作者を本書では「延曆寺都法阿闍梨福傳阿闍梨福聚金剛集」とし、寬永寺藏本では「元慶寺勅福聚金剛が安然の金剛號であるといふ。安然の金剛號は本書のみに見られ他には記されてゐない。

蘇悉地羯羅鈔 ❶(日)So-shij-ji-ka-ra-shō. ❷三卷 ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A. D. 814—891)述 ❼〔參考〕 八家祕錄上、本朝台祖撰述密部書目

(田島德音)

蘇悉地記 ❶(日)So-shij-ji-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❼〔參考〕 山家祖德撰述篇目集卷上 ❻本書は蘇悉地供養法(別本)(大正藏一八)と蘇悉地經(別本二)の奉請品・供養品によつて念誦供養法を記したもの。經及び供養法の順序と同一ではない。經及び供養法は灌頂護摩等を述べてゐるのに本書は念誦供養だけを記したからである。例せば結界から結上下方までを供養法では結髮とし、又重結大界を結界としてゐる。其他多くの出沒が行はれてゐる。要するに本書を「阿娑縛抄」の蘇悉地記と對校するに相似してゐるが全同ではない。又「蘇悉地略」と對校しても頗る大いなる相違がある。本書の作者は不明。若し「阿娑縛抄」の蘇悉地私記の中に於いて列記してある各私記に就いて推定するならば、三昧和尙(良祐)の「蘇悉地略」によつて改作したものではあるまいか。故は阿娑縛抄に本書名を缺き「蘇悉地略」の後半と本書とはやゝ同じであるからである。更に可考。但し本書を實修せんとせば供養法は勿論、蘇對受記。妙心大。妙成就記。別行經法。三種悉地法等を參照せなければならぬ。

(田島德音)

蘇悉地經 ❶(日) So-shij-ji-kyō. (支)Su-hsi-ti-ching. 蘇悉地羯羅經、妙成就法、妙成就作業經 ❷三卷 ❸存、大正一八・六〇三 No. 893、縮閏三、卍一二・七—八、北428讃、南443讃、元435讃、明北529克、清529克、麗433詩、天435讃、指400詩、法423詩、至624讃、明南435羊、Nj. 533 ❹唐輸波迦羅(貞觀一一—開元二三 A. D. 637—735)譯 ❼〔參考〕 傳敎大師將來台州錄 ❾平安朝時代寫(高大、寄・一・三六)(寶壽院)鎌倉時代寫(高大、寄・一・三六) 南北朝時代寫(寶壽提院)德川時代刊(寶龜院)(寶菩提院)

蘇悉地經開題 ❶(日) So-shij-ji-kyō-kai-dai. ❹圓珍(弘仁五—寬平三 A.

數字略號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書(註釋書參考書) ❽寫刊の年月 ❾現所藏者(書庫名) ❿發行所名

D. 814—891)述 ❼(参考) 密乘撰述目録

蘇悉地經疏 ❶(日) So-shi-ji-kyō-sho. 蘇悉地羯羅經略疏、蘇悉地經略疏 ❷七卷 ❸存、大正六一・三八九No. 2227、日本大藏經密部章疏下一、大日本佛教全書第四三 ❹圓仁(延暦一三—貞觀六A.D. 794—864)述 ❺蘇悉地羯羅經略疏の下を見よ。 ❼(参考) 密乘撰述目録、本朝台嶋撰述密部書目、山家嶋德撰述篇目集卷上 ❾(京專)(立大・A二〇・一五六)

蘇悉地經疏鈔 ❶(日) So-shi-ji-kyō-sho-shō. ❷一卷 ❹道範(治承二—建長四 A. D. 1178—1252) ❼(参考) 諸宗章疏錄第三

蘇悉地經傳授要略 ❶(日) So-shi-ji-kyō-den-ju-yō-ryaku. ❸存、照遍和尚全集第一五部祕經傳授要路之内 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1823—1907)述 ❾刊本(谷大・餘大・三三六〇)

蘇悉地經略疏 ❶(日) So-shi-ji-kyō-ryaku-sho. 蘇悉地羯羅經略疏、蘇悉地經疏 ❷七卷 ❸存、大正六一・三八九No. 2227、日本大藏經密部章疏下一、大日本佛教全書第四三 ❹圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)述 ❺蘇悉地羯羅經略疏の下を見よ。 ❾刊本(龍大・二四一八・五九八)(谷大、餘大・六八二) 寫本(高大、寄・一・三六)永久三寫(谷大、餘甲・二八)

蘇悉地經略疏 ❶(日) So-shi-ji-kyō-ryaku-sho. ❷十卷 ❸存 ❹慈觀疏稿 ❾(立大・A二〇・七〇)

蘇悉地供養法 ❶(日) So-shi-ji-ku-yō-hō. (支) Su-hai-ti-kung-yang-fa. 蘇悉地羯羅供養法、蘇悉地羯磨法 ❷三卷 ❸存、大正一八・六九二No. 894、鎌岡三、卍二七・一、明北1418鑑、清1418鑑、麗432詩、指500詩、法433詩、Nj. 1425 ❹唐善無畏(貞觀二一—開元二三A. D. 637—735)譯 ❺蘇悉地羯羅供養法の下を見よ。 ❼(参考) 本朝台嶋撰述密部書目

蘇悉地灌頂印信 ❶(日) So-shi-ji-kwan-jō-in-jin. ❸存 ❾寫本(寶龜院)

蘇悉地灌頂印明私口決 ❶(日) So-shi-ji-kwan-jō-in-myō-shi-ku-ketsu. ❸存 ❹印飛(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)口決 ❾寫本(金剛三昧院)

蘇悉地灌頂事 ❶(日) So-shi-ji-kwan-jō-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❺足利時代寫 ❾(金剛三昧院)

蘇悉地灌頂瑜祇大事 ❶(日) So-shi-ji-kwan-jō-yu-gi-dai-ji. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

蘇悉地私記 ❶(日) So-shi-ji-shi-ki. ❹圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)述 ❺本朝台嶋撰述密部書目に曰く「奥書云。天治元年十一月十二日以ニ理智藏本一書ニ寫之。禾云。此中唯記ニ火第一無ニ印明一云云。

蘇悉地私記 ❶(日) So-shi-ji-shi-ki. ❷一帖 ❹星慶(貞元二—永永四A. D. 977—1049)述 ❼(参考) 本朝台嶋撰述密部書目

蘇悉地私記 ❶(日) So-shi-ji-shi-ki. ❹長寛(長和五—永保元 A. D. 1016—1081)述 ❼(参考) 本朝台嶋撰述密部書目

蘇悉地重玄門儀軌 ❶(日) So-shi-ji-jū-gen-mon-gi-ki. 蘇悉地羯羅重玄門儀軌、蘇悉地羯羅重玄門 ❷四卷 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—921—)撰 ❺蘇悉地羯羅重玄門儀軌の下を見よ。 ❼(参考) 本朝台嶋撰述密部書目

蘇悉地相承事 ❶(日) So-shi-ji-sō-jō-no-koto. ❷一軸 ❸存 ❺應永一六寫 ❾(寶菩提院)

蘇悉地對受記 ❶(日) So-shi-ji-tai-ki. 蘇悉地大法對受記 ❷一卷或二卷 ❸存、大正七五・二〇〇 No. 2392、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—921—)撰 ❺本書は先づ三部の大意を記し、次に受觸印以下八十三印と著衣眞言と臂釧法と腰線法とを一々諸師の說を引用して解說したもの。今、阿娑縛抄の密宗書籍に記してゐる說によつて、引用說の人名を列記すれば「雲記」とは承雲と遍昭とが相共に撰したものとあるが、妙成就記の黑字を引用したものである。妙成就記の黑字は先師の所傳である。先師と慈覺大師の事だといふ。(大正藏七五ノ四九)。この妙成就記と阿娑縛抄の說とはかく矛盾してゐる。「海說」と大日院道海の說。「角說」とは大師の說。大師とは慈覺大師を指すか。若し慈覺大師であるとすれば「寶樣閣印の角說」の下に「是慈覺說也」とある文が變である。慈覺大師が自ら慈覺說といふ筈はないから。この故であらう。密宗書籍には或說として「角玄靜記」と記してゐる。角とは水尾玄靜なりとすれば玄靜は安然の弟子である。若しこの說が眞なりとすれば、本書は安然撰とは云へぬ。故は師が自己の著作に弟子の說を證據に引用すべき筈はないから。「朱記」「朱」「朱云」とは圓珍和上の記。或說では「朱安惠和尙」といふ。この朱記も妙成就記の朱書の文である。妙成就記には朱書は後師の說であるといふ。後師とは一本によると山王院なりとある。山王院は智證大師圓珍である。乍然、後師を長惠なりと見る方が妥當であると思ふ。「今座主」「座主說」とは安惠の說。「師」と、「性記」とは慈覺大師の弟子の性海なるべし。「五大院私錄」と「安祭問」とは五大院安然であらう。「故西三條問」とは圓珍記の祖記雜篇(佛全二八ノ一一二二)及び相應和尙傳(阿娑縛抄の明匠等略傳)に記されてゐる西三條であらう。雜篇には故西三條右大臣(良房)とあり、相應傳には西三條良相とある。良房も良相も天安から貞觀年代に相應和尙に歸依してゐた人である。天安年中から貞觀の初めは未だ慈覺大師が存生中である。「師云、故座主云、大師說」とは淨治路印を解說する段に引文してゐる文である。これを天台座主記に照して考へれば大師說とは慈覺大師でなければならぬ。故座主とは大師の次に座主となつた安惠でなければならぬ。若し然らば師云とは安惠が入滅以後の人でなければならぬ。安惠は貞觀十年寂。次に座主となつた者は智證大師—惟首—猷憲—康濟—長意等と次第してゐる。安然は惟首と同時の人であり、安然の師は遍昭、圓珍、長意、道海等である。故に師云とは長意を指すか。然らば先に揭げた「座主說」「今座主」は安惠なりとは云へぬ。長意を指したものであらう。要するに本書は胎金の兩對受記の整然たる記述に比較して、論旨やゝ不徹底であり、且つ引用した說の人々も混雜して明了でない。又安然撰述書目中に就いて見るも本書を加へてゐないものがある。故に恐らく本書は安然の眞撰ではないのではなからうか。更に可考。本書は古くは上下二卷本であつた。それを一卷に合本して流布したのである。上卷は「淨治路印」まで、終り、除遣從魔印以下は下卷である。本書と「蘇記妙心大」「妙成就記」とは皆同一系統の書で同文が頗る多い。隨つて此等三本の製作年次の決定及び編著者の問題等が研究さるべきであるが從來全くこの事を論じたものがないようだ。台密研究者は蘇悉地經・別行經・三種悉地法等を徹底的に研究して東密との相違を論證する必要が多いにあると思ふ。呆寶・義寶等の台密相承を難ずる主題は實に傳教大師の順曉から受けた密教、即ち三種悉地法にあるからである。この點のみでなく觀山教團の規定や法儀等も蘇悉地經から考案したものが多數にあるから、此等各方面に涉つて考へるに台密家は蘇悉地研究に努力すべきである。

❼(参考) 山家嶋德撰述篇目集卷上、本朝台嶋撰述密部書目、延暦寺密乘略目錄、諸宗章疏錄第二 ❾寫本(京大、印哲Q・五四)(田島德晉)

蘇悉地大法對受記 ❶(日) So-shi-ji-dai-hō-tai-ju-ki. 蘇悉地對受記 ❷一卷 ❸存、大正七五・二〇〇 No. 2392、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—921—)述 ❺蘇悉地對受記の下を見よ。 ❾寫本(谷大、餘大・一七五九)

蘇悉地妙心大 ❶(日) So-shi-ji-Myō-shin-dai. 蘇記妙心大、妙心大 ❷一卷 ❸存、大正七五・三九 No. 2387、日本大藏經天台宗密教章疏第一 ❹圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)述 ❺本書は蘇悉地經及び供養法所說に基いて印契・護摩・兩手指名・曼荼羅等を解說したもの。慈覺大師圓仁の私記なりと奥書にあるが、これは恐らく四十帖決第六(大正藏七五ノ八七三)の悉地決中に「寛德二年四月二十日說。師曰。蘇悉地の次第は妙心大の中にある。正しく是れ慈覺大師の御私記である」といふのに據つたのであらう。然るに密部書目では「妙心大、阿書藩部に云く慈覺大師在唐記なりと。帖に云く只記ニ人說一云云」といふ。本書と「妙成就記」とに關しては帖決も密部書目も記してゐない。本書を研究せんとすれば「蘇對受記」「妙成就記」等を對照する必要がある。 ❼(参考) 本朝台嶋撰述密部書目。延暦寺密乘目錄 ❾(寛永寺) (田島德晉)

蘇悉地略 ❶(日) So-shi-ji-ryaku. ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗密教章疏第三 ❹三昧和尙(良祐?) ❺「蘇悉地記」を參照。阿娑縛抄(佛全三六)によれば本書作者を三昧和尙と記してゐる。三昧和尙とは三昧阿闍梨良祐を指したものと思ふ。本書は供養法によつて大體組織されてゐるが、往々にして前後一致してゐない。例せば道場觀の前に內外五輪觀を出してゐるが如きがそれである。但し本書は大略三段に分れてゐるが、その各段の分れを明示してゐない。更に修作を要するものと考へる。明匠の阿闍梨に就いて問はれんことを請ふ。 (田島德晉)

蘇州府報恩塔寺志 ❶(日) So-shū-fu-hō-on-tō-ji-shi. (支) Su-chou-fu-pao-en-ta-sse-chih. ❷一册 ❸存 ❹明代敏曦 ❺光緒二五刊 ❾(谷大)

蘇浙見學錄 ❶(日) So-setsu-ken-gaku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹來馬琢道著 ❺大正二一、同五再刊 ❾(駒大)(龍大・研史)

蘇婆呼童子經 ❶(日) So-ba-ko-dō-ji-kyō. (支) Su-p'o-hu-t'ung-tzu-ching. 蘇婆呼童子請問經、妙臂童子經、蘇婆呼律、蘇磨呼童子請問經 ❷三卷 ❸存、大正一八・七一九No. 895、鎌岡三、卍二二・七、北427詩、南440詩、元434詩、明北527賢、清527賢、麗429染、天434詩、指398染、法421染、至623是、明南434羊、Nj. 431 ❹唐開元二三(A. D. 726) ❺密教でこの經を律部に屬するものと見做して居る。眞言宗に於いては、左程重要視して居ないが、密教行者としては、必讀のものである。

〔卷上〕 律分品第一(七一九、A) 分別處所分品第二(七二〇、B) 除障分品第三(七二二、A)分別金剛杵及藥證驗分品第四(七二三、A)

〔卷中〕 分別成就相分品第五(七二五、A)念誦眞言軌則觀像印等夢證分品第六(七二六、A) 悉地相分品第七(七二六、C)下鉢私那分品第八(七二八、A)分別道場分品第九(七二八、C)

〔卷下〕 分別道分品第十(七三〇、A)分別諸部分品第十一(七三一、B)分別八法分品第十二(七三二、B)

律分品第一、蘇婆呼(Subāhu 妙臂)童子が、執金剛大藥叉將に對して、如法に修行し、正知見を得、無邊の功德を得ること

ko-dō-ji-shō-mon-gyō. (支) Su-p'o-hu-t'ung-tzu-ching-wen-ching. (梵)Subāhu-paripṛcchā-(藏)(藏) hphag-pa dpuḥ-bzaḥ-gźis shus-pa shes-bya-baḥi rgyud. 蘇婆呼童子經、妙臂童子經、蘇婆呼律、蘇磨呼童子請問經童子請問經 ❷三卷 ❸存、大正一八・七一九No. 895、鎌岡三、卍二二・七、北427詩、南440詩、元434詩、明北527賢、清527賢、麗429染、天434詩、指398染、法421染、至623是、明南434羊、Nj. 531 ❹輪波伽羅(貞觀一一—開元二三A. D. 637—735)譯 ❺唐開元一四(A. D. 726)

〔卷上〕 律分品第一(七一九、A) 分別處所分品第二(七二〇、B) 除障分品第三(七二二、A)分別金剛杵及藥證驗分品第四(七二三、A)

〔卷中〕 分別成就相分品第五(七二五、A)念誦眞言軌則觀像印等夢證分品第六(七二六、A) 悉地相分品第七(七二六、C)下鉢私那分品第八(七二八、A)分別道場分品第九(七二八、C)

〔卷下〕 分別道分品第十(七三〇、A)分別諸部分品第十一(七三一、B)分別八法分品第十二(七三二、B)

律分品第一、蘇婆呼(Subāhu 妙臂)童子が、執金剛大藥叉將に對して、如法に修行し、正知見を得、無邊の功德を得ること

に關し、七十八の問題を提起し、その答辯を要求して居る。その時に執金剛菩薩大藥叉將は、妙臂童子に對して、持誦眞言者にして、先づ諸佛に對して、深く敬心を生じ次に無上菩提心を起して、衆生を度するが爲めに、貪・瞋・痴・憍慢等の業を遠離し、復三寶に於て深く珍重の思を致し、亦虔誠に大金剛部を邊禮し、十惡を無くし、非に邪見を離れて、如法に眞言行を修するならば、諸の惡鬼は心に恐怖を生じて悉に退散し、之れに代つて善神が來つて正法を護持することに成ると說き、以下に於て入最勝明王大曼荼羅(七二〇、A)、持誦人、先須持戒(七二〇、B)、起塔供養(同上)、先須得好同伴(同上)、供養和上闍梨(同上)、の事が明されてある。

分別處所分品第二に於いては、次の諸項が明されてある。建立精舍(七二〇、B)乞食並に分食法(七二〇、C)、經行並びに誦大乘經(七二一、A)。輕忽に法を傳へず(七二一、A)、食は飢渴を除けば足る、懈怠を樂ふ可らず(七二一、B)、調伏六根(七二一、C)、亂心を以つて女色を觀視せざれ(七二一、C)、行乞して得たる食を三分して、其の一分は本尊に供養し、その一分は自ら食し、他の一分を水陸過去七代の父母及び餓鬼に施すべし(七二一、C)、正午過ぎに食する勿れ(七二二、A)。供養物を汚す勿れ(七二二、A)觸手を以つて結印する勿れ(七二二、A)。念誦の時には茅草に坐すべし(七二二、A)、臥する時に持誦する勿れ(七二二、A)、なぜと言はれてある。

除障分品第三には、次の諸項が示されてある。數珠(七二二、A)、念誦(七二二、A)、白骨觀・慈悲觀(七二二、B)、雜語を誓む(七二二、B)、超尚菩提(七二二、B)、涅槃を得れば、世樂自ら生ず(七二二、B)、不善の思惟を起す勿れ、(七二二、C)、香樂歌舞を戒む(七二二、C)、酒・肉・蒸蒜等を食する勿れ(七二二、C)、晨時には慈悲喜捨の觀に入れ(七二二、C)、三白食を服せよ(七二三、A)とあり。

分別金剛杵及藥證驗分品第四に於いて、金剛杵の長量(七二三、A)、成就せんとするものに依り、金剛杵の質を異にし、金・銀等の別あり、(七二三、A)、今の金剛杵は五鈷を揩す(七二三、B)、金剛杵を持せざれば、法に効驗なし(七二三、B)、十七種の成就物(七二三、B)、慶寫の四部(擂壞部、野干部・一牙部・龕象部)(七二三、C)、毘耶夜迦(Vinayaka)を碎除する法(七二四、A)、毘那夜迦に取り著かれたる相(七二四、A)著障者を救ふ法)七二四、C)なぜが示されてある。

分別成就相分品第五には、修法の成と不成との相を明す(七二五、A)、呼摩(homa燒供)(七二五、B)、所作に遺闕なくして、而も修法の成ぜざる場合に取る可き方法(七二五、C)、修法をして効驗あらしむる爲めの要件(七二五、C)、修法の場所選定法(七二六、A)が示されてある。

念誦眞言軌則觀像印等夢證分品第六には、念誦は親ならず、急ならざるを要す(七二六、A)、悉地は心より成ず(七二六、B)、悉地前の吉夢(七二六、B)を明し。

悉地相分品第七には、三箇の阿闍他樂を取り、その葉の上に成就物を置き、白淨氈布を以つて、その上を覆ふて、如法に專心に念誦する時、温・烟・火光の三種の悉地相があると說かれてある。

下鉢私那分品第八には、鉢私那(Praśpa)とは阿毘舍(Avesa 過入)と同一で、靈氣とも謂ふ可きものである。この修法には、白月の八日若しくは十四日、或ひは十五日に、行者は持齋し、七八歳の童子の身體の圓滿に發育し、身分ある者の子を撰びて、授戒し身心を淸淨ならしめ、壇前に立たせ、かれの身中に吽字を觀じ、揭唎忻擊(Ārṣiga)の句を呼び、又は阿毘舍(Avesa)なぜと呼んで、鉢私那の降下を促し、既に降下したならば、童子の相好に變化が起るから、如何なる鉢私那であるかが解ると言はれて居る。

分別造雜分品第九には、以下の事項が示されてある。五逆罪を犯す者は、無間獄に墮する(七二九、A)、自らの罪過を懺悔せざる者は、勤苦して眞言を念誦すとも、終に悉地を得ることが出來ない(七二九、A)、諸佛所說の經典を燒き、若しくは、水中に棄つる者、或ひは法身を謗し、佛弟子を殺し、或ひは伽藍精舍を燒きたる者は、阿鼻地獄に墮する(七二九、A)、一切衆生を愛護する者は、無病にして、五體具足の身を得る(七二九、B)、懺悔滅罪の語句(同上)、手にて草木を踏じ、脚にて蓮華・壇場・契印等を踐むものは、眞言を念誦するも、成就し難く(七二九、C)。猫狸・犛羊を畜養し、若しくは鷄鴨等の諸鳥を籠禁する者は、眞言を念誦するも、成就せず(七二九、C)、外道の諸天を禮し、若しくは供養す可らず(七二九、C)。犀角・緣覺・菩薩・護法善神を禮拜し供養すべし(七二九、C)と說いてある。

分別道分品第十には、念誦の人は八正道を行ずべし(七三〇、A)、正夏安居に成就の法を爲す勿れ(七三〇、B)、修法の期間(七三〇、C)、呼摩の火炉の形狀並びに香に依つて、修法の成不成を知ることを得(七三〇、C)、三處の毛を剃除する勿れ(七三一、A)、諸天龍鬼等を祭れば障難なし(七三一、A)と明し。

分別諸部分品第十一には、持明藏(七三一、B)三部(觀音部・金剛部・摩尼部)(七三一・C)、鳥命三寶(七三二、A)、魔敎(七三二、A)を說き、次に執金剛藥叉神は、深妙の大乘敎を毀誇する者の驅命を損容す(七三二、A)、那羅延・大梵天等にも眞言・手印・曼荼羅あり(七三二、A)と示し、分別八法分品第十二(七三二、B—七三五、B)には念誦法に依つて、成就し得るもの八種あり、この八種の中で上中下の三種の悉地あり、即ち左の如し、

(1) 成眞言法
(2) 入修羅宮法 } 上々悉地
(3) 得長年法

(4) 成無價寶
(5) 土成金法 } 中悉地
(6) 出伏藏法
(7) 合成金法 } 下悉地
(8) 成金水法

これ等悉地の中で、持戒・智慧を具する人は、上上悉地を願ひ、多貪財欲の者は、中成就を願ひ、愚痴にして罔も利を求むる者は、下成就を願ふ。上々の悉地を求むるものは、中と下との悉地を求めてはならない。窮貧の者は、中悉地を希ふて、上々悉地を望んではならない。下悉地を願ふものは他の悉地を求めてはならない(七三二、B)。澡浴法(七三二、C)。念誦の期間に施主から供養物を受けてはならない(七三三、A)、大小便利後の澡洗(七三三、A)、法若し成就せざれば、江河の上の淨好沙を取つて、十萬塔を作り、河邊に安置して、香泥を塔に塗り、一々の塔の前に、各々本眞言を誦じて、至心懺悔して、滅罪の法を作せば、現世に成就して、その報を得る(七三三、A)。藥叉鳩は念誦者の過を伺ふ(七三三、B)、三品の悉地(七三三、B)、雜毒の蛇蟲に六種の害あり(七三三、C)。持眞言者は、それ等の蟲毒を滅す(七三四、A)、印を以つて大滅の眞言を持誦すれば、一切の毒害は、毫も怖畏するに足らず(七三四、A)世人に種々の鬼魅の病苦あり(七三四、A)、それ等の諸病は、金剛鈎若しくは甘露瓶忿怒金剛等の眞言を以つて作法し治療すれば、即ち除差することを得(七三四、A)、とあり、又滅罪法(七三四、B)、魔障(七三四、C)等が示されてある。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一四 (紳林隆淨)

蘇婆呼童子請問經

❶(日) Sotba-ko-dō-ji-shō-mon-gyō. (支)Su-p'o-ho-t'ung-tzu-ching-wen-ching. ❷二卷 ❸存、大正一八・七三五 No. 895(別本)

❹この經は修眞言行者の必讀の書にして、法成就の相が示されてある、この經を讀まなければ、徒らに眞言法を修習するも、勞有つて更に効驗を得ることが無い。眞言法の成就することに關し、蘇婆呼(Subāhu)即ち妙臂童身が請問し、執金剛菩薩夜叉將が敎示することに成つてある。

〔上卷〕 伴侶分第一(七三五、B)。分別處所分第二(七三六、A)。法相分第三(七三六、C)。分別金剛杵分第四(七三七、C)。分別成就相分第五(七三九、A)

〔下卷〕 漸近悉地持誦相分第六(七四〇、C)。下鉢私那分第八(七四二、A)。分別造雜分第九(七四二、C)。分別護摩分第十(七四三、A)。分別聖道分第十一(七四三、D)。分別諸部分第十二(七四四、B)。分別八法分第十三(七四五、A)

伴侶分第一　この一段に於いては、眞言行者は、修行の好伴侶として三世の諸佛諸菩薩を讚ぶ爲に、先づ大曼荼羅に入る可きことを論し又眞言法を成就する爲には、先づ諸佛に於いて、深く恭敬の心を起し、次に無上大菩提心を發し、貪・瞋・痴(憍慢等を遠離し、三寶に對して珍重の想を起し、殺・盜・邪婬・妄言・綺語・惡口・兩舌を遠離し、酒を飲み肉を食はざれ、又邪見を懷く勿れ、邪見の者は、身・口・意の三業に罪を作すとも、それ等は變じて不善となり、雜染の果を招くに至ると說いてある。又入曼荼羅の行者に對しては、一切の爲障者は恐怖の心を生じて近寄ることが出來ない。隨つて入壇者は妙行を成就し得ると言はれてある。

分別處所分第二　曼荼羅を建立する場所の撰定方法が示されてある。持誦の眞言を速かに成就せんと欲せば、眞言者の念持する處、即ち道場を構ふる所を嚴潔す可きである。上る處としては、菩薩・緣覺・犀角の住つて保つて居つた處である。かゝる處は諸天龍等が、常に衛護し供養する所であるから、魔障者は近寄ることが出來ない。その次は大河邊・海濱・山間閑靜處、若しくは山麓及び巖窟の中なぞである。これ等の場所に於て先づ地を發掘すること深さ一肘量、かくして土中の穢物を除去し、淨土を塡め、その地上に精室を構ふることに成る。かくして成れる精室壇場を妙曼荼羅と名づく、行者若し此の如き精室に於いて、眞言を持念すれば、一切の諸魔は遙かに彼れに依つて行者は世間と出世間との一切の悉地を成辨し得ることを說き、次に制多(caitya)を建立し內に緣起法身の偈を安じ、或ひは舍利(śarīra)及び尊像を安じ、その前に華鬘・燒香・塗香・華・燈・鑊罐・藪等、及び妙讚嘆を虔心にて供養すること、且つ至心に修法すれば四姓の別なく均しく法益を得ることを示し、又所貴の綵色には膠を和す可らざること、牛毛を筆と爲し、綵畫の人は八戒を受く可きこと、復次に行者は衣服を赤土の色に染めたるもの、或ひは白色なるを用ひ、若しくは草衣或ひは樹皮を用ふ可きを說き又木・鐵・瓦等の廉器を用ふべきこと、行住坐立通じて念誦すべきも、臥時には眞言を誦じてはならないと說いてある。

法相分第三　この一段に於ては、先づ心淸淨なれば即ち解脫を得る意を說き、次に數珠の種類を說き、念誦の方法を示し、喫食、行乞、威儀、恭敬三寶並に供養舍利塔及び眼三白食なぞのことが明されてある。

分別金剛杵分第四　三鈷及び五鈷の金剛杵の製法と、その使用法とを明し、次に又毘那夜迦の種類と、彼等の爲障の相と、その障難を除く爲に、曼荼羅に入ることゝが明されてある。

分別成就相分第五　眞言念誦法の成就の相と不成就の相とが明されてある。又不成就を轉じて、成就と爲す方法が示されてある。夢の種類に依つて、法成就を豫知することなぞも、說かれてある。

漸近悉地持誦相分第六　如法に念誦するには雜香の所を避け、且つ念誦は甚だ緩ならず、又急ならず、香犀も高からず、低からず、間斷なき樣に行ずべきである。念誦の時に、若し心が雜染の境に牽かれたならば、速に心を本尊或ひは手印に向け、心の散亂を防止す可きである。心を一境に攝し得れば、身に輕安を覺える、心に憂愁な

く、念誦するに隨つて、罪障即ち滅し、心は清淨と成り、人天殊勝の快樂を得、次に妙菩提心の廣大の慈悲を發して、生老病死の衆苦に陷する衆生を救ふことと成る。又曼荼羅道場を構へ、八方界を結護し、虚空並に地界を結護し、道場内に、師子座を設け、その座上に坐して念誦を修することを明し、次に念誦の悉地成就の前相を說き、又鉢私那(Praśna)の作法が明されてある。

下鉢私那分第八　清淨なる童男、童女を撰んで、白月の八日或は十四日若しくは十五日に八齋戒を持たしめ、澡浴して新白衣を着さしめ、道場に入れ、銅鏡に向はすれば、天上人間の過去・未來・現在の善惡等の事を見ると說かれてある。但し此の際に鉢私那が降下しなければ、か丶る事實は起らないのである。此の鉢私那を下すには持戒清淨なる行者が、道場内に於て鉢私那の眞言を誦して、召來の作法を爲すことが必要である。此の行者は、佛敎の修行者であつて、外道の諸天等を拜し、其の敎書を信受するものであれば、徒らに勤苦すとも、鉢私那は降下するものでない。鉢私那の降下する場合に、眞の鉢私那であるか、又は夜叉等であるかを識別す可きであり、眞の鉢私那であれば、三世に渡り眞實の事柄を告ぐるのであるが、然らざる場合は魔事に屬するから、軍荼利の眞言等を誦じて、速に發遣す可きであると說いてある。而して眞の鉢私那であるか否やは神憑りの狀態にある童男童女の面相に表はれると爲し其の面相の様を委しく明してある。

分別遣罪分第九　阿羅漢を殺す等の五無間罪を犯したものは、假令勤苦して眞言を念誦しても、終に成就することは無い。又諸佛の說かれた經典を瞋心を以つて損壞し、或は火に投じて燒き、或は水中に棄て丶正法を謗する者は念誦すとも成就は得難い。又夏安居中に成就法を行じてはならないと言はれてある。

分別護摩分第十　護摩の爐形に圓圓と三角と方形と蓮華形との別があり、息災法には圓形の爐を用ひ增益法には蓮華形、降伏法には方形、惡事を行ずるには三角形を用ふと說かれてあるが、今の說は普通一般の說とは稍々異つて居る。一般の說は增益法には方形の爐を用ひ、降伏法には三角形の爐を用ふることと成つて居る。

分別聖道分第十一　正見・正分別・正語・正業・正命・正勤・正念・正定の八聖道を行ずる者は、眞言の成就を得、又速に悉地を得んとせば、諸天阿修羅等を祭祀す可きであると爲し、次に護摩の火焰に依つて、眞言法の成就と不成就とを豫知し得ることが明され、亦成就の相の現はれた時には、不淨忿諍の眞言を誦じて、護摩を爲せば、不吉相は自ら消滅すと說いてある。金剛部・蓮華部・摩尼部・般支迦部等を本尊と爲す場合でも、行者が若し誠罪生福して、本尊を速かに現前せんとするには最初に先づ歸命三寶を爲す可きことが示されてある。

分別諸部分第十二　先づ持明藏に就いて述べ、次に蓮華部・般支迦部・金剛部・摩尼部等の眞言に關して述べてある。

分別八法分第十三　世間の成就法には八種あり、之を八法と稱す。八法とは所謂成眞言法、成長年法・出伏藏法・入修羅宮法・合成金法、土成金法・成金水法・成無價寶法である。これ等を三分して上中下の三品の悉地と爲す。即ち左の如し。

1、成眞言法 2、入修羅宮法 3、成長年法	上成就即ち上品の悉地。戒慧を具するもの此の上成就を得
4、成無價寶法 5、土成金法 6、出伏藏法	中成就即ち中品の悉地。多食の衆生は此の中成就を得
7、成合成金法 8、成金水法	下成就即ち下品の悉地。貧窮不自在の者は此の下成就を得

上品の悉地を得たものは、虚空を遊行し修羅宮に入り、自在に變化して、藥叉女や天主長年となり、幻化の法を成じて、自ら己身を變じて、密迹等と成る。

中品の悉地を得たものは、錢財乃至富貴を得ることが可能であり、下品の悉地を得たものは人をして相互に憎ましめ、國土より去らしめ若しくは樹木を枯らすことが出來る。

行者は若し眞言を誦持し、護摩を行ずるも、尙法が成就しない時には、江河の淨砂を以つて、十萬の窣堵婆塔像を造つて、之を供養すれば、無始以來造つた罪障は即ち消滅することを得て、此の現在世に於いて悉地を得と云ふ。

次に行者若し罪を滅せんと欲する時は、空閑の靜處に於いて、香泥を以つて制底(Caitya)を造り、若しくは近くの江河の淨砂を以つて制底を造つて、中に緣起法身の偈を安じて恭敬供養すれば、一切の罪障を消滅して、諸願悉く滿足することを得と說いてある。

（神林隆淨）

蘇婆呼童子請問經　❶(日)So-ba-ko-dō-ji-shō-mon-kyō. 國譯蘇婆呼童子請問經　❸存、國譯密敎經軌第四　❹權田雷斧(弘化三—昭和九 A. D. 1846—1934)譯

蘇婆呼童子請問經　❶(日)So-ba-ko-dō-ji-shō-mon-gyō. 國譯蘇婆呼童子請問經　❸存、國譯一切經密敎部第二　❹神林隆淨譯

蘇婆呼律經　❶(日)So-ba-ko-rik-kyō. (支)Su-p'o-hu-lü-ching.　❷三卷　❼〔參考〕傳敎大師將來台州錄

蘇漫多聲裁錦　❶(日)So-man-ta-shō-sai-kin.　❷一卷　❸存　❹等空(延享二—文化一三 A. D. 1745—1816)　❾刊本(谷大、餘大・三五〇)

蘇漫多聲略釋　❶(日)So-man-ta-shō-ryaku-shaku.　❷一卷　❸存　❹顯明述　❺延享元刊　❾(龍大、二七二二・九)(高大、寄・一・五一)(哲、な・一・左・四)(帝國、一二四・二二二)

蘇門居士法語附蘇門居士選述續刻書目　❶(日)So-mon-ko-ji-hō-go-tsuketari-so-mon-ko-ji-sen-jutsu-zok-koku-sho-moku.　❷一卷　❸存　❹服部天游(享保九—明和六 A. D. 1724—1769)語　❽明和二刊　❾(龍大、二六七四・四三)

その他の女人への御書　❶(日)So-no-ta-no-nyo-nin-e-no-go-sho.　❷九

篇　❸存、日蓮聖人御遺文之內、日蓮聖人全集第七之內　❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282)　❻日蓮聖人御遺文の內から妙一尼、妙法尼、日妙尼等の如き重要人物に宛てたのを除き、「自解佛乘書」、「內房女房御返事」、「刑部左衛門尉女房御返事」、「日厳尼御前御返事」、「王日殿御返事」、「法衣書」、「是日尼御書」、「十字御書」、「衣食御書」の九篇を輯めたもの、內容は各篇名の項を往見。

（馬田行啓）

双璧集　❶(日)Sō-heki-shū.　❷一卷　❸存　❼〔參考〕禪籍目錄

爪甲擎土譬經　❶(日)Sō-kō-kei-do-hi-kyō. (支)Chao-chia-ch'ing-t'u-p'i-ching. 爪甲取土經、爪頭土經　❷一卷　❹失譯　❼〔參考〕出三藏記第四、法經錄第三

爪甲擎土譬經　❶(日)Sō-kō-kei-do-hi-kyō. (支)Chao-chia-ch'ing-t'u-p'i-ching. 爪甲取土經、爪甲聚土經、爪頭土經　❷一卷　❻別生經　❼〔參考〕仁壽錄第三、靜泰錄第三

爪甲擎土譬經　❶(日)Sō-kō-kei-do-hi-kyō. (支)Chao-chia-ch'ing-t'u-p'i-ching. 爪甲取土經　❷一卷　❸缺　❼〔參考〕武周錄第一二

爪甲擎土譬經　❶(日)Sō-kō-kei-do-hi-kyō. (支)Chao-chia-ch'ing-t'u-p'i-ching.　❷一卷　❸缺　❹法炬譯　❺西晉惠帝代(A. D. 290—306)　❼〔參考〕開元錄第一五、貞元錄第二五

爪頭土經　❶(日)Sō-zu-do-kyō. (支)Chao-t'ou-t'u-ching.　❷一卷　❸缺　❹失譯　❼〔參考〕出三藏記第三、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

早雲寺開山伊天和尙錄　❶(日)Sō-un-ji-kai-san-i-ten-o-shō-roku. 伊天和尙錄　❷一卷　❸存　❹伊天宗清(—天文三 A. D. 1534)語　❼〔參考〕禪籍目錄

早雲寺雜記　❶(日) Sō-un-ji-zak-ki.　❷一卷　❸存　❼〔參考〕禪籍目錄

早々念誦　❶(日)Sō-sō-nen-ju.　❷一紙　❸存　❺德川時代寫　❾(寶龜院)

宋科私　❶(日)Sō-kwa-shi. 妙經科註　❷三十四卷　❸存　❹宋順軒　❾寫本(眞如藏)

宋高僧詩選　❶(日) Sō-kō-sō-shi-sen. (支) Sung-kao-sêng-shih-hsüan.　❷二卷　❸存　❹陳宗之編　❺文政三刊　❾(駒大)

宋高僧傳　❶(日)Sō-kō-sō-den. (支)Sung-kao-sêng-ch'uan. 宋傳、大宋高僧傳　❷三十卷　❸存、大正五〇・七〇九 No. 2061、縮致四—五、卍三〇・三—五、北1448且執晉、南1439且執晉、元1428且執晉、明北1488宅曲阜、清1470縣家給、天1424且執晉、法1394世祿侈、明南1478祿侈富、Nj. 1495　❹宋贊寧等撰　❺端拱元(A. D. 988)　❻梁唐の兩高僧傳を繼ぎ主として唐時代の高僧傳を撰集せるものである。宋の太宗の勅旨を奉じて、太平興國七年(A. D. 982)以來、贊寧等が撰集の任に當り、六年を經て端拱元年に成り、贊寧は上表文を附して朝廷に奉献し、朝廷はこれを大藏に編入せしめた。(表、及び批答參照)。初めに上表、及び批答を附し、次に贊寧の序あり。僧傳は續高僧傳の十科分類法を踏襲し、正傳五百三十三人、附見一百三十人を收む。十科は(一)譯經、(二)義解、(三)習禪、(四)明律、(五)護法、(六)感通、(七)遺身、(八)讀誦、(九)興福、(一〇)雜科、聲德。である。

當時は恰も佛敎興隆の時なりと雖も、先に會昌廢佛あり、次いで唐末五代の亂世を經し後にして、佛敎典籍を初め資料の散逸泯亡少からざる時なれば、編纂には少からざる苦心を要したものと思はれる。屢々錯誤の存するあるも甚しくとがむべきではなかろう。舊唐總目の「其於誄銘記志捃採不遺、實稱該博、文格亦頗雅云々」なる推賞の辭に值するものと云ふべきである。幸にして唐時代の僧傳資料としてはこれ等僧傳の基礎となれる碑石、或は文集の現存するもの多ければ、これによつて錯誤の是正し得るものも少くない。

譯經篇(一—三)〔卷一〕(一)唐義淨。(二)唐金剛智。(三)唐不空(慧朗)。

〔卷二〕(四)唐善無畏(達摩掬多)。(五)唐智慧。(六)唐玄覺。(七)唐道因(嵩公、寶暹)。(八)唐智賢(會寧)。(九)唐曇敎。(一〇)唐佛陀波利(順貞)。(一一)唐尊法。(一二)唐無極高(阿難律木叉師迦葉師)。(一三)唐極量。(一四)唐實叉難陀。(一五)周日照。(一六)周天智。(一七)周慧智(明佺)。(一八)周寂友。

〔卷三〕(一九)唐智通。(二〇)唐智嚴。(二一)唐寶思惟。(二二)唐菩提流志。(二三)唐懷迪(般若力善部末摩)。(二四)唐寂默。(二五)唐蓮華精進。(二六)唐戒法。(二七)唐蓮華。(二八)唐飛錫。(二九)唐子隣。(三〇)唐般若。(三一)唐悟空。(三二)唐滿月(智慧輪)。

義解篇(四—七)〔卷四〕(三三)唐窺基。(三四)唐道世。(三五)唐普光。(三六)唐法寶(靜莊)。(三七)唐圓測(薄塵靈辯)。(三八)唐元康。(三九)唐靖邁。(四〇)唐順璟。(四一)唐嘉尙。(四二)唐慧沼(大願塵外)。(四三)唐彥悰。(四四)唐義湘。(四五)唐義忠。(四六)唐元曉(大安)。(四七)周神楷(明恂)。(四八)周會隱。(四九)周僧瑗。(五〇)唐印宗。(五一)唐宗哲。(五二)唐德感。(五三)唐浮丘。

〔卷五〕(五四)周法藏(大儀)。(五五)唐恒景。(五六)唐一行。(五七)唐智昇。(五八)唐圓暉(懷遠崇廙)。(五九)唐玄逸。(六〇)唐道氤。(六一)唐良賁。(六二)唐曇宗。(六三)唐法詵。(六四)唐潛眞(道超)。(六五)唐澄觀。(六六)唐良秀(談筵)。(六七)唐慧琳。

〔卷六〕(六八)唐惟慤(慧震弘沇)。(六九)唐懷感。(七〇)唐法海。(七一)唐慧苑。(七二)唐智威(慧威)。(七三)唐湛然。(七四)唐元浩。(七五)唐智藏。(七六)唐神淸(義將)。(七七)唐端甫。(七八)唐宗密(圓禪師照禪師)。(七九)唐乘恩。(八〇)唐知玄。(八一)唐僧徹。

〔卷七〕(八二)唐志遠(元堪)。(八三)唐希圓。(八四)唐玄約。(八五)梁彥暉。(八六)梁歸嶼。(八七)後唐令諲。(八八)後唐貞辯。(八九)後唐虛受。(九〇)後唐可周。(九一)後唐貞誨。(九二)後唐可止。(九三)漢巨岷。(九四)漢恒超。(九五)漢僧照。(九六)漢從隱(參江)。(九七)漢宗季。(九八)周智佺。(九九)宋晧端。(一〇〇)宋傳章。

數字略號　❶題名(書名)　❷卷數　❸存缺　❹著者　❺著作年代　❻內容解說　❼末書(註釋書參考書)　❽寫刊の年月　❾現所藏者(書庫名)　❿發行所名

(一〇一)宋繼倫。(一〇二)宋義楚(修進省倫)。(一〇三)宋晤恩。(一〇四)宋義寂。

習禪篇(八—一三)〔卷八〕(一〇五)唐弘忍。(一〇六)唐慧能。(一〇七)唐神秀。(一〇八)唐慧明。(一〇九)唐神會。(一一〇)唐曇璀。(一一一)唐法持。(一一二)唐道亮。(一一三)唐道俊。(一一四)唐玄覺。(一一五)唐智威(本淨)。(一一六)唐慧朗(譬公)。(一一七)唐巨方(智封)。(一一八)唐香育。(一一九)唐降魔師。

〔卷九〕(一二〇)唐義福(行思)。(一二一)唐眷寂。(一二二)唐懷讓。(一二三)唐靈著(法欽)。(一二四)唐玄素。(一二五)唐慧忠。(一二六)唐志賢。(一二七)唐惟忠。(一二八)唐希遷。(一二九)唐神會。(一三〇)唐法欽。(一三一)唐道樹。(一三二)唐慧空(元觀)。(一三三)唐崇珪(全植)。

〔卷十〕(一三四)唐道一(智藏)。(一三五)唐志滿。(一三六)唐光瑤(道堅)。(一三七)唐靈坦。(一三八)唐道通。(一三九)唐懷暉。(一四〇)唐惟寬(寶修)。(一四一)唐遺則。(一四二)唐靈默(志閑)。(一四三)唐道悟(崇信)。(一四四)唐圓寂(猢多)。(一四五)唐覆叔。(一四六)唐懷海。(一四七)唐恒月(眞亮)。(一四八)唐思公(曇眞)。(一四九)唐石藏。

〔卷十一〕(一五〇)唐自在(一鉢和尚南印)。(一五一)唐無業。(一五二)唐如會。(一五三)唐天然。(一五四)唐太毓。(一五五)唐曇藏(靈象超片)。(一五六)唐無等。(一五七)唐明覺。(一五八)唐圓修。(一五九)唐普願。(一六〇)唐曇晟。(一六一)唐甄公。(一六二)唐從諗。(一六三)唐智藏。(一六四)唐圓智。(一六五)唐法常。(一六六)唐崇演。(一六七)唐齊安。(一六八)唐恒政。(一六九)唐靈祐。(一七〇)唐玄策。

〔卷十二〕(一七一)唐寰中。(一七二)唐寰普。(一七三)唐日照。(一七四)唐宣鑒。(一七五)唐藏奐。(一七六)唐義玄。(一七七)唐從諫(鑒宗)。(一七八)唐良价。(一七九)唐藏廙。(一八〇)唐大安。(一八一)唐慶諸(洪諲合達)。(一八二)唐道膺。(一八三)唐有緣。(一八四)唐義存。(一八五)唐元安。(一八六)唐恒通(招賢岑師)(一八七)唐慧寂。(一八八)唐慧恭。(一八九)唐文喜。(一九〇)唐惟靖。

〔卷十三〕(一九一)唐圓紹。(一九二)唐法普(休靜)。(一九三)梁智聞(大同)。(一九四)梁光仁(本仁居遁)。(一九五)梁師備。(一九六)梁存壽。(一九七)梁師彥。(一九八)梁本寂。(一九九)後唐桂琛。(二〇〇)後唐慧稜。(二〇一)後唐道怤。(二〇二)晉全付。(二〇三)晉養靜(靈照)。(二〇四)周文益。(二〇五)周行因(道潛)。(二〇六)宋紹德。(二〇七)宋德韶。

明律篇(一四—一六)〔卷十四〕(二〇八)唐道宣。(二〇九)唐道成。(二一〇)唐文綱(名恪)。(二一一)唐懷素(賓律師)。(二一二)唐道岸。(二一三)唐眞表。(二一四)唐秀律師。(二一五)唐靈曷。(二一六)唐滿意。(二一七)唐崇業。(二一八)唐玄儼(融濟)。(二一九)唐德秀。(二二〇)唐愛同。(二二一)唐詮律師。(二二二)唐法慎。(二二三)唐道光。(二二四)唐靈眞。(二二五)唐守直。(二二六)唐歙峻。(二二七)唐曇一。

〔卷十五〕(二二八)唐靈一。(二二九)唐齊翰。(二三〇)唐朗然。(二三一)唐大義。(二三二)唐義宣。(二三三)唐辯秀。(二三四)唐如淨。(二三五)唐鑑源(慧觀)。(二三六)唐志鴻。(二三七)唐乘如。(二三八)唐清江。(二三九)唐靈澈。(二四〇)唐省躬。(二四一)唐神皓(維亮)。(二四二)唐藏用。(二四三)唐眞乘。(二四四)唐道標。(二四五)唐曇清。(二四六)唐圓照(利言)。

〔卷十六〕(二四七)唐辯才。(二四八)唐道澄。(二四九)唐清徹。(二五〇)唐上恒。(二五一)唐慧琳。(二五二)唐神湊。(二五三)唐慧靈。(二五四)唐常達。(二五五)唐丹甫。(二五六)唐法相。(二五七)唐文舉。(二五八)唐允文。(二五九)梁慧則(元表)。(二六〇)梁彥偁(壽闍梨)。(二六一)後唐從禮。(二六二)後唐景霄。(二六三)後唐貞峻。(二六四)漢希覺。(二六五)周澄楚。

護法篇(一七)〔卷十七〕(二六六)唐威秀。(二六七)唐復禮。(二六八)唐惠立。(二六九)唐玄嶷。(二七〇)唐法明。(二七一)唐神楷。(二七二)唐元崇(璿禪師)。(二七三)唐利涉。(二七四)唐神邕。(二七五)唐唯儼。(二七六)唐崇惠。(二七七)唐無名。(二七八)唐智常。(二七九)唐楚南。(二八〇)唐玄泰。(二八一)唐玄暢。(二八二)後唐惟勁。(二八三)周道丕。

感通篇(一八—二二)〔卷十八〕(二八四)後魏檀特師。(二八五)後魏河禿師。(二八六)陳玄光。(二八七)隋法喜。(二八八)隋欽師。(二八九)唐僧伽(木叉慧儼慧岸)。(二九〇)唐慧安。(二九一)唐邁廻。(二九二)唐道樹。(二九三)唐慧昭。(二九四)唐岸禪師。(二九五)唐後僧會。(二九六)唐道英。(二九七)唐法秀。(二九八)唐普明。

〔卷十九〕(二九九)唐破竈墮。(三〇〇)唐元珪。(三〇一)唐惠符。(三〇二)唐惠安。(三〇三)唐安靜(徐果師)。(三〇四)唐如一。(三〇五)唐西域亡名。(三〇六)唐抱玉。(三〇七)唐阿足師。(三〇八)唐封千師(木漬師、寒山子、拾得)。(三〇九)唐無相(智銑禪師)。(三一〇)唐懷信。(三一一)唐辛七師。(三一二)唐和和。(三一三)唐廣陵。(三一四)唐明瓚。(三一五)唐待駕(懷一)。(三一六)唐懷道(智恒)。(三一七)唐惠忠(圓寂)。(三一八)唐惠秀。(三一九)唐維忠。

〔卷二十〕(三二〇)唐處寂。(三二一)唐無著。(三二二)唐普化。(三二三)唐大川(法炯)。(三二四)唐蘇陀。(三二五)唐玄宗。(三二六)唐廣勞。(三二七)唐圓震。(三二八)唐地藏。(三二九)唐神暄。(三三〇)唐道行。(三三一)唐懷空。(三三二)唐圓觀。(三三三)唐法藏。(三三四)唐鑒空。(三三五)唐道行。(三三六)唐普滿。(三三七)唐些些(食油師)。(三三八)唐義師(證智寓福寺老僧)。(三三九)唐神鑒。(三四〇)唐清觀(物外)。(三四一)唐希運。

〔卷二十一〕(三四二)唐神英。(三四三)唐牛雲。(三四四)唐道義。(三四五)唐法照。(三四六)唐常遇。(三四七)唐永安。(三四八)唐慧聞。(三四九)唐無漏。(三五〇)唐寶達。(三五一)唐隱峯(亡名娃媽和尚)。(三五二)唐樂山寺上座亡名。(三五三)唐文爽。(三五四)唐本淨。(三五五)唐法江(興善寺異僧)。(三五六)唐羅僧。(三五七)唐契此。(三五八)唐智習。(三五九)唐異師。

〔卷二十二〕(三六〇)後唐如敏。(三六一)後唐全宰。(三六二)晉懷濬。(三六三)晉行遵。(三六四)晉襄州亡名。(三六五)漢狂僧(曹和尚)。(三六六)周僧緘(大慈寺亡名)。(三六七)周師簡。(三六八)宋王羅漢。(三六九)宋宗合(道因)。(三七〇)宋點點師。(三七一)宋行滿。(三七二)宋法圓(鎮師、李通玄)。

遺身篇(二三)〔卷二十三〕(三七三)唐僧藏。(三七四)唐正壽(撿禪師)。(三七五)唐無染。(三七六)唐定蘭。(三七七)唐鴻休(景先)。(三七八)唐全禧。(三七九)唐元慧。(三八〇)唐東草師。(三八一)唐行明。(三八二)晉息塵。(三八三)晉道育。(三八四)晉景超。(三八五)晉志通。(三八六)晉道舟。(三八七)漢洪眞。(三八八)周慧明。(三八九)周普靜。(三九〇)

宋守賢。(三九一)宋師蘊。(三九二)宋紹巖。(三九三)宋文輦。(三九四)宋懷德。

讀誦篇(二四—二五)〔卷二十四〕(三九五)隋行堅。(三九六)隋法智。(三九七)唐慧悟。(三九八)唐明慧。(三九九)唐慧警。(四〇〇)唐崇政。(四〇一)唐思睿。(四〇二)唐法朗。(四〇三)唐僧街(啓芳圓果)。(四〇四)唐玄奘。(四〇五)唐洪正(守賢)。(四〇六)唐志玄。(四〇七)唐元皎。(四〇八)唐楚金。(四〇九)唐懷玉。(四一〇)唐大行。(四一一)實演受寺亡名。(四一二)唐維俊。(四一三)唐三刀法師。(四一四)唐大光。(四一五)唐智燈。

〔卷二十五〕(四一六)唐明度。(四一七)唐清虛。(四一八)唐少康。(四一九)唐法正(會宗)。(四二〇)唐守素。(四二一)唐尊嚴和尚。(四二二)唐文照。(四二三)唐法照。(四二四)唐慧普。(四二五)唐寄僧。(四二六)唐靈幽。(四二七)唐惟恭(靈鑒)。(四二八)唐逢誦。(四二九)唐神智。(四三〇)梁從審。(四三一)梁鴻楚。(四三二)後唐鴻莒。(四三三)後唐道賢。(四三四)漢若虛(亡名僧)。(四三五)周行瑫。(四三六)宋守眞(沙彌彌伽、道蔵)。

興福篇(二六—二八)〔卷二十六〕(四三七)周法成。(四三八)唐業方。(四三九)唐光儀。(四四〇)唐自覺。(四四一)唐慧雲。(四四二)唐玄覽(慧親守如)。(四四三)唐玄朗。(四四四)唐慧明。(四四五)唐子瑀。(四四六)唐惟實。(四四七)唐智迦。(四四八)唐文瓊。(四四九)唐懷玉。(四五〇)唐代病師。

〔卷二十七〕(四五一)唐僧錫。(四五二)唐定光。(四五三)唐貞幹。(四五四)唐道遵。(四五五)唐含光。(四五六)唐寂然。(四五七)唐普岸(全亮、唯約)。(四五八)唐惟則。(四五九)唐明準。(四六〇)唐幽玄。(四六一)唐智顒。(四六二)唐文賁。(四六三)唐宗亮。(四六四)唐曇休。(四六五)唐智廣。(四六六)唐法藏。(四六七)唐海雲。(四六八)唐法興。(四六九)唐行戢。(四七〇)唐願誠。(四七一)唐誠慧。

〔卷二十八〕(四七二)後唐智暉。(四七三)晉光嗣。(四七四)晉道海(彥平)。(四七五)晉智朗。(四七六)漢師會。(四七七)周智江。(四七八)周光嶼。(四七九)宋巖俊。(四八〇)宋從彥。(四八一)宋常覺。(四八二)宋永安。(四八三)宋延壽。(四八四)宋義莊。(四八五)宋普聯。(四八六)宋師律。

雜科聲德篇(二九—三〇)〔卷二十九〕(四八七)南宋智一。(四八八)元魏慧凝。(四八九)唐員相。(四九〇)唐僧達。(四九一)唐神鼎。(四九二)唐泓師。(四九三)唐慧日(眞法師)。(四九四)唐神迥。(四九五)唐純陀。(四九六)唐道鑒。(四九七)唐道乎。(四九八)唐道睡。(四九九)唐道踏。(五〇〇)唐歡喜(無側)。(五〇一)唐皎然(畫琳)。(五〇二)唐懷空。(五〇三)唐慧演。(五〇四)唐行豐(皓玉)。(五〇五)唐玄晏。(五〇六)唐澄心。(五〇七)唐道齊。(五〇八)唐慧涉。(五〇九)唐雲邃(清源)。(五一〇)唐法眞。(五一一)唐寧賁。(五一二)唐法融。

〔卷三十〕(五一三)唐好直。(五一四)唐廣修(高閑)。(五一五)唐元裏(全清)。(五一六)唐頭陀。(五一七)唐全琪。(五一八)唐慧沐。(五一九)唐幽州亡名(覩融峯禪師)。(五二〇)唐棲隱(寶安)。(五二一)唐金和尚。(五二二)梁無作。(五二三)梁貫休(處默曇域)。(五二四)梁國道。(五二五)梁智宣。(五二六)梁齊巳。(五二七)後唐無迹。(五二八)後唐習光。(五二九)晉自新。(五三〇)漢行修。(五三一)宋宗淵。

❿慶安四刊(龍大、研史)(哲な・三左・九)(高大、寄・一二一)(內閣)帝國・一、七七二四)、刊本(谷大、餘大・一六〇六)(正大)(京專)

(塚本善隆)

宋三大師尺牘

❶(日)Sō-san-dai-shi-seki-toku.(支)Sung-san-ta-shih-ch'ih-tu. ❷二卷 ❸存 ❹東禪祖漸編 ❻明教契嵩、慧洪覺範、物初大觀の三師の釋牘を集めしもの。

宋槧三藏法師取經記殘本

❶(日)Sō-zan-san-zō-hos-shi-shu-kyō-ki-zam-pon.(支)Sung-ch'ien-san-ts'ang-fa-shih-ch'ü-ching-chi-ts'an-pên. ❸存、吉石庵叢書第一帙中第六 ❺安永七刊 ❾(龍大、研史)

❻奥に「新雕大唐三藏法師取經記卷三終。」即ち唐の玄奘三藏が印度に求法せる壯途を文藝作品とせるものであるが、本書は完本でなく卷一と卷三のみ。而も第一は首部を缺く。もと高山寺の所藏にしてその印あり、羅振玉氏が珍貴なる宋刊本として東京三浦將軍所持に歸せるこの本を影印刊行せるものである。羅氏はその旨を卷初に記し、且つ跋に此の書の別本が德富蘇峯氏の文庫にも存することを述べてゐる。玄奘の西遊が史上空前の壯途であるのみならず、その苦心その偉業は支那國民の間に廣く知られ、やがて文藝作品となつてその物語が夙に行はるゝに至つた。これその一資料である。

(塚本善隆)

宋眞宗御注四十二章經

❶(日)Sō-shin-sō-gyo-chū-shi-jū-ni-shō-gyō.(支)Sung-chên-tsung-yü-chu-ssŭ-shih-êrh-chang-ching. 四十二章經御註、註四十二章經、四十二章經註 ❷一卷 ❸存、大正三九・五一六 No. 1794、縮調七、卍續一・五九・一 ❹宋眞宗皇帝(—乾興元A. D. 1022)註 ❺光緒三一刊 ❻四十二章經御註の下を見よ。❾(京大、一・二三ソ・一)

宋僧語錄

❺(日)Sō-sō-go-roku.(支)Sung-sêng-yü-lu. ❷三卷 ❸存 ❹宋代奝已編 ❾寫本(內閣文庫)

宋僧詩選

❶(日)Sō-sō-shi-sen.(支)Sung-sêng-shih-hsüan. ❷一卷 ❸存 ❹明代曹學佺閱 ❾寫本(京大、藏・二四ヨ・一)

宋版藏經目錄

❶(日)Sō-han-zō-kyō-moku-roku.(支)Sung-pan-ts'ang-ching-mu-lu. ❷二卷 ❸存 ❹元偉編 ❺昭和五刊 ❾(正大、一〇〇・七七)

宋文憲公護法錄

❶(日)Sō-bun-ken-kō-go-hō-roku.(支)Sung-wên-hsien-kung-hu-fa-lu. ❷十卷 ❸存 ❹宋濂撰、明袾宏(嘉靖一一—萬曆四〇A. D. 1532—1612)說萬曆四三、年八寂)編 ❺寬文六刊 ❾(內閣文庫)(龍大、二八二・一六)

宗演禪師語要

❶(日)Sō-en-zen-ji-go-yō.(支)Tsung-yen-ch'an-shih-yü-yao. 逝菴宗演禪師語要 ❸存、卍續二・二四・一續古尊宿語要第五 ❹宋逝菴宗演語 ❻逝菴宗演禪師語要の下を見よ。

宗演禪師書翰集

❶(日)Sō-en-zen-ji-sho-kan-shū. ❷一卷 ❸存 ❹長尾大學集 ❺昭和五刊 ❿萬里閣

宗演禪師と其周圍

❶(日)Sō-en-zen-ji-to-sono-shū-i. ❷一卷 ❸存 ❹長尾宗軾著 ❺大正一二刊 ❾(駒大)

宗演禪師の面目 附宗演禪師遺

著一覽 ❶(日)Sō-en-zen-ji-no-mem-moku-tsuketari-sō-en-zen-ji-yui-cho-ichi-ran. ❷一卷 ❸存 ❹長尾宗軾著 ❺大正九刊 ❿東京隆文館

宗演禪話 ❶(日)Sō-en-zen-wa. ❷一卷 ❸存 ❹釋宗演(—大正八 A. D. 1919)語 ❺大正一〇刊 ❾(駒大)

宗祇法師集 ❶(日) Sō-gi-hos-shi-shū. ❸存、群書類從第一〇 ❹飯尾宗祇(應永二八—文龜二 A. D. 1421—1502)撰 ❻連歌を以つて有名なる宗祇法師の和歌を春六十二首、夏三十一首、秋五十四首、冬四十首、戀四十五首、雜七十九首を收めたもので、雜の中には長歌一首が收められてゐる。宗祇は連歌の名手で、花の下の宗匠號を賜はつたのは宗祇が始めであつた。旅行が好きであつて、或時山中で賊に出遇つて、一物も剩さず與へて去つた、後から賊が追つて來たので、まだ欲しいものがあるかと問ふと、その鞨が欲しい、何にするかときくと、拂子に賣るのだと聞いて「我が爲めに拂子ばかりはゆるせかし、塵の浮世を塞てはつるまで」と一首の歌を詠じたので、賊が感じて、先に奪つた金品を返し、宗祇を里まで送つて別れたといふ逸事がある。新筑波集、吾妻問答、筑紫紀行、宗祇東國紀行、同廻國雜記、同初學抄、同前句付、同和歌の詞、同獨吟千句、同袖の下等の著書がある。 (中谷在禪)

宗光寺歷代志 ❶(日) Sō-kō-ji-re-ki-dai-shi. ❸存、慈眼大師全集卷上

相應經 ❶(日)Sō-ō-gyō.(支)Hsiang-ying-ching. 金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經、瑜祇經 ❷二卷 ❸存、大正一八・二五三 No. 867、縮閏二、卍一六・七、明北1034取、清1034取、至789知、明南1035微、Nj. 1039、三十帖策子第五 ❹唐金剛智(咸亨二—開元二九 A. D. 671—749)譯 ❻金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經の下を見よ。

相應經聞書 ❶(日) Sō-ō-gyō-kiki-gaki. ❷二帖 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252 一說建長四、年七五寂)作 ❺足利時代寫 ❾(寶龜院)

相應經灌頂私記 ❶(日)Sō-ō-gyō-kwan-jō-shi-ki. ❷一軸 ❸存 ❹興然(保安元—建仁三 A. D. 1120—1203)述 ❻相應經、即ち金剛峯樓閣一切瑜伽瑜祇經、略して瑜祇經の灌頂私記にして、勸修寺流の相傳によりて記したもの。❺足利時代寫 ❾(寶審提院)

相應經私記 ❶(日) Sō-ō-gyō-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹八阪賢樹(寬元元—元亨二以後 A. D. 1243—1322—)撰 ❻相應經の私記にして、勸修寺流の相傳によりて記したもの。

相應經私鈔 ❶(日) Sō-ō-gyō-shi-shō. ❷五軸 ❸存 ❾足利時代寫(寶審提院)寫本(高大)

相應經鈔 ❶(日)Sō-ō-gyō-shō. 相應經祕決、相應祕決 ❷五卷 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252 一說建長四、年七五寂)述 ❺足利末期寫 ❾(金剛三昧院)

相應經祕決 ❶(日)Sō-ō-gyō-hi-ketsu. 相應經鈔、相應祕決 ❷五卷 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252 一說建長四、年七五寂)述 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第三 ❾寫本(京大、日大未・七一)鎌倉末期寫(寶審提院)

相應口 ❶(日) Sō-ō-ku. ❷一通 ❸存 ❾寫本(金剛三昧院)

相應次第 ❶(日)Sō-ō-shi-dai. 瑜祇內作業灌頂式 ❷一帖 ❸存 ❺永正九寫 ❾(金剛三昧院)

相應十支論名鈔 ❶(日) Sō-ō-jis-shi-rom-myō-shō. ❷一卷 ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)撰 ❼〔參考〕 山家祖德撰述篇目集卷上

相應相可經 ❶(日)Sō-ō-sō-ka-kyō. (支)Hsiang-ying-hsiang-k'o-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼〔參考〕 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四

相應相可經 ❶(日)Sō-ō-sō-ka-kyō. (支)Hsiang-ying-hsiang-k'o-ching. (巴) S. 14. 12. Sanidāna. & S. 14. 21-24. Appassuta. ❷一卷 ❸存、大正二・五〇四 No. 111、縮辰六、卍一四・三、北760思、南774思、元766思、明北659慶、清659慶、麗736若、天759思、指718若、法749容、至995攝、明南642養、Nj. 663 ❹法炬譯 ❺西晉惠帝代(A. D. 290—306) ❻佛が舍衞國に在せし時、諸の比丘のために善惡の人、各類を以つて相聚り相應し、相可とすることを說きたまふ、即ち、不聞者は不聞者と、多聞者は多聞者等、各類二十種を說いてゐる。

本經の別譯として No. 101 の第二十經(相應)(大正二・四九七・下)があり、又、相當する經として No. 99、第四百五十經、(界和合、少聞第)(大正二・一一五・下)がある。❼〔參考〕 三寶紀第六、內典錄第二、譯經圖紀第二、開元錄第二、貞元錄第四 (西尾京雄)

相應祕決 ❶(日) Sō-ō-hi-ketsu. 相應經祕決、相應經鈔 ❷五卷 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252 一說建長四、年七五寂)述 ❾寫本(高大、寄・一・三六)

相好集 ❶(日) Sō-kō-shū. ❷二卷 ❼〔參考〕 淨土依憑經論章疏目錄

相好集文字鈔 ❶(日) Sō-kō-shū-mon-ji-shō. ❷一卷 〔參考〕 淨土依憑經論章疏目錄

相好抄 ❶(日) Sō-kō-shō. ❷二卷 ❸存 ❹覺運撰 ❾寫本(如來藏)

相好略頌 ❶(日) Sō-kō-ryaku-ju. ❷一卷 ❹巖陣撰 ❼〔參考〕 淨土依憑經論章疏目錄

相國阿羅呵經 ❶(日) Sō-koku-a-ra-ka-kyō. (支) Hsiang-kuo-ê-lo-ho-ching. ❷一卷 ❻疑僞經。❼〔參考〕 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、武周錄第一五

相國阿羅呵經 ❶(日) Sō-koku-a-ra-ka-kyō. (支) Hsiang-kuo-ê-lo-ho-ching. ❷一卷 ❹失譯 ❼〔參考〕 武周錄第一一

相實和尚傳 ❶(日) Sō-jitsu-o-shō-den. ❷一卷 ❸存 ❹詮榮記 ❺寬政八(A. D. 1796) ❾寫本(十妙院)

相實私記 ❶(日)Sō-jitsu-shi-ki. 胎金灌頂私記、胎金各別私記 ❹相實記 ❼〔參考〕 密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷下、自在金剛集第八

相州鎌倉松岡過去帳 ❶(日) Sō-shū-kama-kura-matsu-oka-kwa-ko-chō. ❸存、群書類從第一八雜部第三 ❻鎌倉松岡の東慶寺俗に緣切寺といふ臨濟の尼寺で、開山は北條時宗の室家である秋田城介泰盛の女で潮音院覺山志道和尙を第一世とし次に龍海雲、清澤、果菴了道、用堂、順宗、仁芳義、觀宗擇、松山杉、慶調化、柑聽棠、柏室樹、靈菴鶩、聞璋見、明玄遠、涓鐘璜、旭山暘、瑞山祥、瓊山淸、天秀泰、永山和尙の廿一代を載せてゐる。其外文祿二年に沒した源國朝の法常院珠山良公大禪定門を初めとし三十八氏の俗名、法名沒年を記してある。三十八名とは昭氏之母堂、時宗、氏滿、義晴公、千光禪師、義滿公、高基之室、義詮公、義政公、義明、秀賴公、淀殿、義植公、賴朝公、賴氏、賴氏室、義澄公、賴能、政氏、義持公、義輝公、義氏、時賴、義勝公、高時、晴氏、大覺禪師、義敎公、直義、古河義氏、義尙公、貞時、基氏、滿兼、義量公、義昭公、尊氏公、成氏である。(諦田良賢)

相宗八要解 ❶(日) Sō-shū-hachi-yō-ge. (支)Hsiang-tsung-pa-yao-chieh. ❷八卷 ❸存 ❹明代明昱述 ❻〔上冊〕 百法明門論贅言一卷(卍續一・七六・五)、唯識三十論約意一卷(卍續一・八三・一)、觀所緣緣論會釋一卷(卍續一・八三・一)、六離合釋法式通關一卷(卍續二・三・四)。〔中冊〕 觀所緣々論釋記一卷(卍續一・八三・一)、因明入正理論直疏一卷(卍續一・八七・一)。〔下冊〕 三支比量義鈔一卷(卍續一・八七・一)、八識規矩補註證義一卷(卍續二・三・三) ❺光緖一八刊 ❾(谷大、餘大・一三一七)

相宗八要直解 ❶(日)Sō-shū-hachi-yō-jiki-ge. (支) Hsiang-tsung-pa-yao-chih-chieh. ❷八卷 ❸存 ❹明智旭(萬曆二七—永曆九 A. D. 1599—1655)述 ❻〔第一〕 百法明門論直解一卷(卍續一・七六・五)、觀所緣々論直解一卷(卍續一・八三・一)。〔第二〕 觀所緣緣論釋直解一卷(卍續一・八三・一)、六離合釋法式略解一卷、(卍續二・三・四)。〔第三〕 唯識三十論直解一卷(卍續一・八三・一)、唐奘師眞唯識量略解一卷(卍續一・八七・一)。〔第四〕 因明入正理論直解一卷(卍續一・八七・一)、八識規矩直解一卷(卍續二・三・四) ❾延寶八刊(龍大、研佛)寬永二刊(谷大、餘大・二二一)(龍大、二六二五・一八)(哲、く・七・中・九)

相從三寶 ❶(日) Sō-jū-sam-bō. ❷一卷 ❸存 ❹曇鳳記 ❾寫本(眞如藏)

相承義追說 ❶(日) Sō-jō-gi-tsui-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹常照(—明和五 A. D. 1768—) ❺寬政三刊 ❾(龍大、一七五・六六)

相承三宗血脈 ❶(日) Sō-jō-san-shū-kechi-myaku. ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗密敎章疏第三 ❹安然(承和八 延喜年間 A. D. 841—901—)述 ❻本書は延曆寺護國緣起下(佛全一二六)の比叡山佛法相承三大乘宗緣起勘文第十三から抄錄したもの。この護國緣起(一本に は比叡山延曆寺護國緣起略錄と題し、上下二冊に調卷す)は安然撰、敎時諍論(天台學會刊。大正藏經七五)の文を引據とし、それに護國緣起作者(作者未詳)が自說を附記したものである。本書は日本大藏經編纂者が私に護國緣起の文を抄記して題目を附したものである。故に本書を讀む場合は護國緣起と對照する必要がある。又護國緣起を見る時は敎時諍論を參照するが宜い。但し佛敎全書本の護國緣起は原本に寫誤が甚しかつたため頗る讀み難い。故に善本と對校せねば意の通じない箇所が往々あることを注意せねばならぬ。猶注意すべき點は傳敎大師撰 內證佛法血脈譜では日本天台宗相承を圓密禪戒の四宗相承印信血脈としてゐるのに安然は圓密禪三宗相承と明示してゐることである。安然は血脈譜を用ゐながら何故に四宗相承を採用せずして三宗相承を舉げたか? 若し圓敎相承とは摩訶止觀法華血脈と天台相承との二相承である が、相承の師資が同一であるから一處に合せて記した云ふならば內證血脈譜の戒相承を改めねばならぬと思ふ。何れにせよこの三宗、四宗の說は硏究を要するものである。 (田島德音)

相承神事儀 ❶(日)Sō-jō-shin-ji-gi. ❷一卷 ❸存、慈雲尊者全集第一〇神道編第五 ❹慈雲飮光(享保三—文化元 A. D. 1718—1804) ❻この書の最初に天神七代の尊形、祭祀、名號を解し、更に千木、堅魚木、鳥居、鈴鰐口、鏡等を解したるはその內容で未完の書と想はる。後に荒魂和魂の二魂解、神湯岐神湯美、左男鹿八耳の解を載せたるは別釋と見ねばならぬ。❾尊者自筆草本(高貴寺藏) (高見寬應)

相承尊法等目錄 ❶(日)Sō-jō-son-bō-tō-moku-roku. ❷一卷 ❸存、大日本佛敎全書佛敎書籍目錄第二 ❻眞言宗廣澤方西院流に相承せる聖敎の內金玉・異水の目錄で、末に異水錄外・十卷鈔・別行鈔等の目次を加へてゐる。本書は題下に西院流八結金玉異水目錄二帖之內下と記してゐるが、これ佛敎全書に、西院流と題して本書の直前へ收めてゐる目錄と一具のものである。西院流は八結の目錄を記した書である。又西院流は西院流の略字である。

相承大綱目 ❶(日) Sō-jō-dai-kō-moku. 相承大綱目意敎流、祕宗相承大綱目 ❾寫本(高大、一・六一)(小田慈舟)

相承大事 ❶(日) Sō-jō-dai-ji. ❷六帖 ❸存 ❾寫本(高大、寄・一・六四)足利時代寫(寶審提院)

相承聞名義 ❶(日)Sō-jō-mon-myō-gi. 鄉臂問答 ❷一卷 ❸存 ❹求遠(寬保二—寬政一〇 A. D. 1742—1798)述 ❺天明八(A. D. 1788) ❾寫本(龍大、一七五、九三—九四)

數字略號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書(註釋書參考書) ❽寫刊の年月 ❾現藏所者(書庫名) ❿發行所名

相承要集 ❶(日)Sō-jō-yō-shū. ❷六巻 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・二三四〇)

相送集 ❶(日)Sō-sō-shū. (支)Hsiang-sung-chi. ❷四巻 ❼〔參考〕 傳教大師將來越州錄

相像極樂觀 ❶(日)Sō-zō-goku-raku-kwan. ❷一巻 ❹延暦寺惠覲 ❼〔參考〕 淨土依憑經論章疏目錄

相續解脱地波羅蜜了義經 ❶(日)Sō-zoku-ge-datsu-ji-ha-ra-mitsu-ryō-gi-kyō. (支)Hsiang-hsü-chieh-t'o-ti-po-lo-mi-liao-i-ching. (藏)解深密經(地波羅蜜多品第七)相當部の藏譯に同じ。 相續解脱了義經、解脱了義經、相續解脱經、相續解脱如來所作隨順處了義經 ❷一巻 ❸存、大正一六・七一四No. 678、縮黄八、卍九・六、北158身、南159身、元154身、明北150嫛、清150嫛、麗157此、天160身、指150此、法157蓋、至235毀、明南170欲 Nj. 154 ❹求那跋陀羅譯 ❺宋元嘉一二—二〇(A. D. 435—443) ❻本經は、『相續解脱如來所作隨順處了義經』と共に、玄奘譯『解深密經』の一部分の異譯で、古來この兩者を通じて『相續解脱經』と名づけ、一經として取扱はれてゐる。委しくは、『解深密經』の項下を見よ。 ❼三寶紀第一〇、內典錄第四、譯經圖紀第三、開元錄第五、貞元錄第七 ❾刊本(高大、寄・一・二三) (深浦正文)

相續解脱如來所作隨順處了義經 ❶(日)Sō-zoku-ge-datsu-nyo-rai-sho-sa-zui-jun-sho-ryō-gi-kyō. (支)Hsiang-hsü-chieh-t'o-ju-lai-so-tso-sui-shun-ch'u-liao-i-ching. 相續解脱經 ❷一巻 ❸存、大正一六・七一八No. 679、縮黄八、卍九・六、北158身、南159身、元154身、明北150嫛、清150嫛、麗157此、天160身、指150此、法157蓋、至235毀、明南170欲、Nj. 155 ❹失譯 ❻本經は、『相續解脱地波羅蜜了義經』と共に玄奘譯『解深密經』の一部分の異譯で、古來この兩者を通じて『相續解脱經』と名づけ、一經として取扱はれてゐる。委しくは、『解深密經』の項下を見よ。なほ麗・宋・元等の諸藏には、譯號を擧げてゐないが、明藏には、求那跋陀羅譯なることを記してゐる。 (深浦正文)

相傳義集 ❶(日)Sō-den-gi-shū. ❷二巻 ❸存 ❹忠尋記 ❾寫本(正教藏)

相傳口決 ❶(日)Sō-den-ku-ketsu. ❷一軸 ❸存 ❽足利時代初期寫 ❾(高大、寄・一・三六)

相傳口決抄 ❶(日)Sō-den-ku-ketsu-shō. 相續口決抄杉生流 ❷一巻 ❸存 ❾寫本(妙法院)

相傳書 ❶(日)Sō-den-sho. ❷一巻 ❸存 ❻一往生記領解末代念佛授手印抄。二都部五重相傳。三觀鏡切紙。四末代念佛授手印。五大原問答十二通を輯む。 ❾寫本(龍大、二六八四・九)

相傳鈔 ❶(日)Sō-den-shō. ❷一巻 ❸存 ❹道存 ❾寫本(谷大、餘大・二三四二)

相傳鈔巻第八不動之事 ❶(日)Sō-den-shō-kwan-dai-hachi-fu-dō-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❹金位良鎮集 ❺永祿五寫 ❾(寶龜院)

相法亦生記第六 ❶(日)Sō-bō-yaku-shō-ki-dai-roku. ❷一巻 ❸存 ❹傳、聖德太子(敏達帝二—推古帝二九A. D. 573—621)說推古帝三〇寂 ❾文政一一刊四天王寺秋野坊版(谷大、宗大・一三四四)(龍大、二〇九九・一八九)

相輪樸銘直解 ❶(日)Sō-rin-dō-mei-jiki-ge. ❷一巻 ❸存 ❹曜絆記

奏進法語 ❶(日)Sō-shin-hō-go. ❷一巻 ❸存、大正七七・二七九No. 2420、國文東方佛教叢書第一輯第三法語部 ❹眞盛(嘉吉三—明應四A. D. 1443—1495)撰 ❻本書一巻眞盛上人の撰である。法語の終りに「西敎寺眞盛判」「飛鳥井殿參る」とあるが如く、上人は明應元年三月後土御門天皇に圓戒を授け奉り、主上の操敬淺からず、次で念佛安心の要旨を記し奉るべき勅諚を蒙り、依て飛鳥井大納言雅親卿に就て之を奏進して、主上御安心の資に供したるもの即ち此の法語である。其の奏上の年月日の不明なるは恐くは後世轉寫の間に之れを寫脱したものなるべく、惜しむべき事である。即ち高僧傳には「明應元年帝召ニ盛於清涼殿ニ稟ニ圓頓無作大戒ニ尋上ニ念佛要旨ニ」とあり、以後傳へて奏進の御法語と稱するのである。一篇の法語先づ初に法語の緣起を叙べ、次に念佛往生に對する凡人の心得が念佛の正意に適せざる事を示し、次に正しく安心を示して之を釋し、次に眞の念佛は自ら凡人の念佛と異る所以を明し、次に眞の念佛の義を得たる上の行は妙行なるを以つて彌々勵むべき事を勸め、終りに結語を加ふるものである。其要旨を述ぶれば、自己の稱ふる稱名念佛の力にて往生するものと爲す常人の考へは、念佛と往生と別物の如き考へにして、未だ以つて充分でない、彌陀の本願力に乘じて「唯だ樣も候はず南無阿彌陀佛と唱ふるが即ち往生」なりと他力本願念佛の安心の正意を示し「南無阿彌陀佛と申すは佛の正覺即ち我等が往生」なりと念佛即往生即得正覺の義を說き、本願を「御忘れなきばかりが念佛」なりと信を奬め「いかにもいかにも念佛の功を勵ませ給へ」とて行を奬め、信行相應の本願念佛を高唱せられたものである。

抑々天台念佛の權輿を尋ぬれば天台大師の摩訶止觀四種三昧に其淵源を發するので、別に又遠くは六祖荊溪、近くは山家傳敎に依る所の圓戒と結合せる念佛があり、更に又密敎より來れる念佛、五台山の引聲念佛等の諸系統の念佛があるが、我國に於ては、山家傳敎は止觀業を立てゝ四種三昧を行ぜしめられたるも、未だ唱名念佛の確證を見ないのである。然るに四祖慈覺に至りては、台密を興起すると共に、或は五台山の引聲念佛を傳へて之れを弟子に付屬し、又常行三昧堂を建てゝ大いに念佛の興隆にも力を盡されたが、而も大師の念佛は理觀の念佛密敎的の念佛引聲念佛等複雜なる念佛思想であった。次で六祖智證五大院安然等には念佛に關するものを見ないが、慈惠良源に至つては九品往生義、中堂供養願文等の撰ありて、西方願生の思想彌陀中心の信仰は漸く明かになつて來つたが、未だ觀念の念佛であった。次で其の資惠心僧都源信、檀那院覺運、此の二師は論草に口傳に所謂る日本天台の惠檀兩流の鼻祖であるが、天台の念佛も此の二師特に惠心に於て一大飛躍をなしたもので、即ち僧都は始め法華中心の理觀念佛であったが、之れに慊らず、晩年に至りて彌陀中心の口稱本願念佛の信仰に入りたるものである。即ち僧都は阿彌陀觀心集、觀心往生論、空觀、正修觀記等の書に於いて、主として理觀の念佛を述ぶると共に、亦顯密一致の思想あり、又三寶を歸依して西方往生を願求して居る。就中正修觀記には念佛所具の功德を强調し、易行念佛を說いて居るのである。更に晩年に及びては、往生要集を作りて願力思想を說き、専ら本願念佛彌陀中心の念佛を高唱して居るのは、後世念佛興起の淵源をなすものである。檀那覺運には觀心念佛、念佛寶號の著ありて、惠心僧都と同じく三寶を歸依して西方願生の思想を述ぶるも、遂に理觀の念佛を出でなかつた樣である。而して眞盛上人の念佛は、實に此の惠心の往生要集に依りて、自他行を確立し、安心を決定し、戒稱二門を開出したもので、即ち上人の念佛は信心爲本に非ずして念佛爲本にあり、更に信心起行俱時の處に其本意が在るので、純他力に非ず純自力に非ず、行者に於て彌陀の願力を信じ、往生の正業として稱名の行を勵むと云ふ信行一致の念佛を主張するものである。之れを業成說の上より見れば、法語によりて臨終と平生とに亙るとするので、即ち平生業成に依て平生往生し、臨終業成に依つて臨終往生すとなすのである。又此法語に示す如く、上人の念佛が念佛夫れ自體に往生の益ありとする念佛即往生の思想は、前述の如く惠心既に正修觀記に彌陀の名號に顯密の萬德證衆を具せりとして居るのであつて、其思想早く既に是に胚胎して居るのである。

之を要するに支那以來の止觀四種三昧の中常行三昧の理觀念佛が、日本に入りて特に高揚せられ、傳敎・慈覺を經て惠心に至り、此の止觀系の理觀念佛に慊らずして、遂に天親曇鸞善導等淨土系諸師をも廣く涉獵して、願力思想をも巧みに取りて、自己藥籠中の物となし、要集を作りて日本の天台念佛として別箇特色ある天台的他力本願の稱名念佛、護三業の止善と唱念佛の行善とを往生の要行とする所の圓戒と結合せる易行念佛の端緒を開くに至つたものであるが、上人は實に僧都の此の天台止觀中心の稱名念佛の正統を繼承祖述し、更に上人獨自の圓戒中心の稱名念佛即ち戒稱二門に迄發展せしめたものである。換言すれば法華を體とし止觀を用としたる支那天台が、日本に至り法華を體とし圓戒を用としたるが如く、惠心迄の止觀中心の理觀念佛を、僧都の開顯と時代の環境とに依りて、上人は始めて圓戒中心の他力念佛にまで發展せしめたるもので、上人の念佛は實に純乎たる天台念佛の正系を傳承して居る者である。夫は上人が黒谷に於て善導の觀經疏によりて一度稱名の門に歸し乍ら未だ慊らずとなし、更に再び淨土院に參籠して山家大師の示現を仰ぎ要集を感得して始めて安心決定せりと傳ふるが如く、飽迄も天台念佛の極意を究明して之を祖述せんとする熱意と相承尊重の精神愛山報恩の念の篤きは此の間の消息に依つても窺知し得るのである。上人は嘉吉三年正月二十八日伊勢一志郡大仰に生れ、明應四年二月晦日伊賀西蓮寺に於て入滅せられて居る。世壽五十三。圓戒國師と諡し、又慈攝大師と加諡せられてゐる。敎化僅かに十箇年、其の間概ね勢伊江越に東奔西走化他に寧日無く、且つ世を早くせられたるを以つて著述の遑無く、撰述としては僅かに此の奏進法語と念佛三昧法語との二篇の法語、及び弟子眞生上人撰の往生傳の中に二三の尺牘と消息とを存するのみであるのは眞に遺憾の極みである。上人の傳記は數本ある中に眞際上人撰の眞盛上人別傳、前記の往生傳等が最も弘く用ひられてゐる。 (岩田教圓)

奏進法語講義 ❶(日)Sō-shin-hō-go-kō-gi. ❷一巻 ❸存 ❹眞朗述 ❺明治一一寫 ❾(谷大、宗大・二九八一)

奏對機緣 ❶(日)Sō-tai-ki-en. (支)Tsou-tui-chi-yüan. ❷一巻 ❸存、昭代叢書別集第二七帙第二(巻一〇—一八)、乙集第三帙第三(巻一三—二二)之内 ❹淸道忞(木陳) ❾(谷大、外大・九六二)

奏對錄 ❶(日)Sō-tai-roku. (支)Tsou-tui-lu. 無準和尙奏對語錄 ❷一巻 ❸存、卍續二・二六・五 ❹宋師範無準(—淳祐八A. D. 1248)語、侍者了南了璵編

奏對錄 ❶(日)Sō-tai-roku. (支)Tsou-tui-lu. 佛照德光禪師奏對錄 ❸存、卍續二・二三・四古尊宿語錄第四八之內 ❹宋德光拙庵(宣和三—嘉泰三A. D. 1121—1203)語

奏對錄 ❶(日)Sō-tai-roku. (支)Tsou-tui-lu. 天童弘覺忞禪師語錄、弘覺忞禪師奏對錄 ❷一巻 ❸存 ❹淸道忞木陳語 ❺寛文一三刊 ❾(駒大)

奏對錄 ❶(日)Sō-tai-roku. 百拙和尙奏對錄 ❷一巻 ❸存 ❹元養百拙語 ❼〔參考〕 禪籍目錄

奏問書 ❶(日)Sō-mon-jo. ❷一册 ❸存 ❾寫本(寶菩提院)

叟骨集 ❶(日)Sō-kotsu-shū. ❷一巻 ❸存 ❹山田一英編 ❺大正二刊 ❾(正大、一八七・六二)

送山門起請文 ❶(日)Sō-san-mon-ki-shō-mon. ❸存、法然上人全集之內 ❹源空(長承二—建暦二A. D. 1133—1212)

送終作法 ❶(日)Sō-shū-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❹蓮體(寛文三—享保一一A. D. 1663—1726)記 ❺正德五寫 ❾(寶龜院)

送終略示 ❶(日)Sō-shū-ryaku-ji. ❷一巻 ❸存、眞言宗安心全書巻下行者用心篇 ❹上田照遍(文政一一—明治四〇A. D. 1828—1907)撰 ❻釋家の葬法に就て、一、葬法の種類、二、葬るべき人の衣等、三、棺を置く處及び造

數字略號 ❶題名(書名) ❷巻數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書(註釋書參考書) ❽寫刊の年月 ❾現所藏者(書庫名) ❿發行所名

數字略號 ❶題名(書名) ❷巻數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書(註釋書參考書) ❽寫刊の年月 ❾現所藏者(書庫名) ❿發行所名

葬、四・引導の本說、五、遠葬に散花を用ふる本說、六、七日毎に塔婆を建つること等を明す。

⑨刊本(京專)　(吉祥眞雄)

草庵歌 ❶(日)Sō-an-ka.(支) Ts'ao-an-ko. 石頭和尙草庵歌 ❸存、大正五一・四六一 No. 2076 景德傳燈錄第三〇、卍三〇・一〇之內 ❹唐石頭希遷(—天寶元 A. D. 742—)

❺青原行思禪師の法嗣として、參同契の著作によつて洞上の眞風を揚げた石頭希遷禪師が青原示寂の三年後である唐玄宗帝天寶の初年(A.D. 742)、衡嶽南寺に留錫された。衡嶽は衡山のことで、壽山、壽嶽、南山とも云ひ世に云ふ南嶽山のことで、湖南省(湖廣)衡州府衡山縣西北三十里に在る支那五岳の一名山である。此の南寺の邊に在つた一大盤石の上に草庵を結び、只管打坐されたので、時人尊崇して石頭和尙と稱した。此の草庵坐禪の生活は數星霜に渉つたもので、草庵歌の中に「草を將つて蓋く」とある。草庵歌は此の石頭草庵の坐禪中に述作されたもので、草庵に托して悟道の玄旨を歌はれたものである。

即ち七言二十五句に六言七句を組入れた三十二句二百十七字より成るもので「吾れ草庵を結んで寶貝無し、飯し了つて從容睡快を圖る」より始め「庵中不死の人を識らんと欲せば、豈に而今道の皮袋を離れんや」に終つて居る。草庵は「庵小なりと雖も法界を含む」ものであり「住庵の人は鎭常に在り」と云ふ不死の人である。草庵の壞不壞、庵中不死の人の眞面目を識得せしめんとしたもので、單なる歌頌ではなく、石頭大師が自己の境界より宗乘を拈提されたものとして味ふ可きである。 (大久保堅瑞)

草菴後世物語 ❶(日) Sō-an-go-seimono-gatari. ❷一卷 ❸圓空作 ❼(參考) 淨土眞宗教典志第二

草菴雜記 ❶(日)Sō-an-zak-ki. ❷二卷 ❸存 ❹惠中記 ❼(參考) 禪籍目錄

草菴雜記 ❶(日)Sō-an-zak-ki. ❷三卷 ❸存 ❹鈴木正三(天正七—明暦元 A. D. 1579—1655)記 ❺寛文九刊 ⑨(谷大、餘大・一九九四)(龍大、一〇四・一四)(哲、ニ・三・左・一)

草菴靜語 ❶(日)Sō-an-jō-go. ❷一卷 ❸存 ❹鼎源遙 ⑪正運の說を破したもの。 ⑭寫本(龍大、一七五・六五)

草菴問答 ❶(日)Sō-an-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹知道遙 ⑨安永六刊 ⑨(龍大、一〇五二・四〇)

草菴問答 ❶(日)Sō-an-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹南溟 ❽文化八刊 ⑨(龍大)

草菴錄 ❶(日)Sō-an-roku.(支)Ts'ao-an-lu. ❷十卷 ❹宋南湖道因(—乾道三 A. D. 1167) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

草菴和歌集 ❶(日) Sō-an-wa-kashū. ❷一卷 ❸存 ❹顯阿(正安三—至德元 A. D. 1301—1384)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

草菴和歌集蒙求諺解 ❶(日) Sō-an-wa-ka-shō-mō-gyō-gen-ge. ❷二十卷 ❸存 ❹宣阿(萬治元—享保二〇 A. D. 1633—1735)撰 ❼(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

草衣集 ❶(日)Sō-a-shū.(支) Ts'ao-i-chi. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮草衣意恂(乾隆五一—同治五 A. D. 1786—1866) ❼(參考) 禪籍目錄、朝鮮佛教總書刊行豫定書目

草偃和言 ❶(日)Sō-en-wa-gen. ❸存、日本教育文庫第一一宗教篇

草華集 ❶(日) Sō-ka-shū. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶龜院)

草根集 ❶(日) Sō-kon-shū. ❷十卷 ❸存 ❹清巖正徹(永德元—長祿三 A. D. 1331—1459)詠 ❼(參考) 禪籍目錄

草山集 ❶(日)Sō-zan-shū. 深草元政上人著作集 ❷二十卷 ❸存 ❹日政元政(元和九—寛文八 A. D. 1623—1668)撰 ❺延寶二刊 ⑨(立大、A〇四・七二—七四、三一六—三一七、A〇九・一)(谷大、餘大・八八三)(京專)

草山集 ❶(日)Sō-zan-shū. 標註草山集 ❷一卷 ❸存 ❹日蓮宗全書出版會編 ❺明治四四刊 ⑨(龍大、研佛)(京大、印哲・N・二)

草山繩正錄 ❶(日) Sō-zan-jō-shō-roku. ❷一卷 ❸存 ❹日長 ❺寛政八刊 ⑨(立大、A〇四・二九一)

草山清規 ❶(日)Sō-zan-shin-gi. ❷一卷 ❸存 ❹日燈瑩明(寛永一九—享保二 A. D. 1642—1717)述、河合日辰校訂 ❺明治二九刊 ⑨(立大、A〇八・四六—四七、一〇三)(帝國、一〇八・一五)

草山清規纂註 ❶(日)Sō-zan-shin-gi-san-chū. ❷一卷 ❸存 ❹昆尼隆合嚴註 ❺明治三七刊 ⑨(帝國、二二四・一三八)

草山要略 ❶(日) Sō-zan-yō-ryaku. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

草山要路 ❶(日) Sō-zan-yō-ro. ❷一卷 ❸存 ❹元政(元和九—寛文八 A. D. 1623—1668)述 ❺貞享三寫 ⑨(立大、A〇四・七五ト七六)

草山要路會註 ❶(日)Sō-zan-yō-roshū. ❷一卷 ❸存 ❹日政元政(元和九—寛文八 A. D. 1623—1668)述、惠明日燈(寛永一九—享保二 A. D. 1642—1717)註 ⑨天明二刊(立大、A〇四・七七—九五、三八七)(高大、寄・一・一七)(京大、日大來・五六六)明治一四刊(帝國、一八三・一九〇)(哲、え・三・右・一)(立大、A〇四・三九三)刊本(龍大、二五九・一四、三六九二・二〇)

草山和歌集 ❶(日) Sō-zan-wa-kashū. ❷一卷 ❸存 ❹元政(元和九—寛文八 A. D. 1623—1668)詠 ❺寛文一二刊 ⑨(立大、A〇八・三四—三五)

草堂又續雜錄 ❶(日) Sō-dō-u-zoku-zatsu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹鐵空光譲(承應元—元文四 A. D. 1632—1739) ❺元文三刊 ⑨(昆沙門堂門跡藏)

草堂雜錄 ❶(日)Sō-dō-zatsu-roku. ❸存 ❹鐵空光譲(承應元—元文四 A. D. 1632—1739) ⑨享保一四刊(正大、一〇九・四一)(哲、ニ・二・左・一七)寫本(龍大)

草堂善清禪師語要 ❶(日) Sō-dō-zen-sei-zen-ji-go-yō. (支) Ts'ao-t'ang-shan-ch'ing-ch'an-shih-yū-yao. ❸存、卍續二・二三・五續古尊宿語要第一 ❹宋代草堂善清語

❺江西南昌縣隆興府黃龍寺の寶覺禪師晦堂祖心和尙の法嗣として南岳下十三世、黃龍三世の法統を繼ぎ、隆興府潮源草堂に居して開法した善清禪師の開堂語、上堂語十數條並に同府洪州寶峰に於ける入院語要を收めたものである。

善清は、廣東南雄府保昌縣の何氏に生れ青林寺法恩に依つて得度し、黃龍の晦堂祖心禪師に嗣ぎ、門下に雪峯蓬空、萬年法一、育王首崇、黃龍道震等を出した。其の提撕極めて穆穆、曰く「將心覓佛、不知佛本是心、以妄求眞、不知眞卽是妄、直得眞妄雙泯、心佛兩忘、到此如何理論、良久云、山花開似錦、澗水湛如藍」と、よく黃龍派の家風を傳へて居る。 (大久保堅瑞)

草堂續雜錄 ❶(日)Sō-dō-zoku-zatsu-roku. ❷一卷 ❸存 ❹鐵空光譲(承應元—元文四 A. D. 1632—1739) ❺享保一八刊 ⑨(普洞和尙遺書藏)

草木成佛 ❶(日)Sō-moku-jō-butsu. ❹道綱(治承二—建長四 A. D. 1178—1252) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

草木成佛記 ❶(日)Sō-moku-jō-butsu-ki. ❷一卷 ❹良源(延喜一二—寛和元 A. D. 912—985)撰 ❼(參考) 山家諸德撰述篇目集卷上

草木成佛口決 ❶(日)Sō-moku-jō-butsu-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存、日蓮聖人御遺文七四五、口語譯日蓮聖人全集第五 ❹日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1222—1282) ❺文永九(A. D. 1272)

❻草木成佛の問題につきて、本佛の色心卽ち法界本有の觀にして、生死二用の當體卽ち有情非情の本然の成佛相なるを明すべき草木にも成り給へる壽量品の釋尊也」と道破する處、天台の草木成佛に一步を進めて、本覺無作の法界成佛を顯せるものである。弟子最蓮房日淨に與へられたるものと傳ふ。

❼(參考) 錄外老父第四 (望月覺厚)

草木成佛私記 ❶(日) Sō-moku-jō-butsu-shi-ki. 群定草木成佛私記 ❷一卷 ❸存 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—931—)述 ⑨刊本(谷大、餘大・一九〇一)

草木成佛二乘斷惑 ❶(日)Sō-moku-jō-butsu-ni-jō-dan-waku. ❷一冊 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶香提院)

草木成佛論 ❶(日)Sō-moku-jō-butsu-ron. 草木發心修行成佛記 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二四天台小部集釋 ❹覺運(天曆七—寛弘四 A. D. 953—1007)問、良源(延喜一二—寛和元 A. D. 912—985)答 ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

草木發心修行成佛記 ❶(日) Sō-moku-hos-shin-shu-gyō-jō-buk-ki. 草木成佛記、草木成佛論 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二四天台小部集釋 ❹聖運、天曆七—寛弘四 A. D. 933—1007、問、良源、延喜一二—寛和元 A. D. 912—985)答

❺本書は無情に佛性ありと說くは法華の妙旨によつて明らかにされ、草木も成佛すと論ずるは本門の宗義に待つといふ。この一偈卷初に擧げ、問答四番に及び、次に本門の迹情の事理の義に從つて非情にも理佛性行佛性を具してゐるから必ず成佛と述べ。これが圓家の本意であり亦止觀の大旨である。眞言驛天台劣の義を今の草木成佛に就いて論ずるものがあるが常同常別の故に或は一、或は二である。傳敎慈覺兩大師乃至古德の釋皆然り。此の事は金鉢論の三重事理の釋に明かである。此の事理の義を先師入滅の時に傳へて第一重の事理は關前の事理。第二重は法華迹門。第三重は本門の事理である。この義に通達すれば眞言敎の卽事而眞以ノ事顯ノ理も得意されると記してゐる。終りに先師入滅の文に就いて「慈惠大師御入滅の處、檀那(僧正覺運)は法相宗の五性各別の疑難を破せんがために此事を問ふた云々」と註してゐる。元來、非情佛性論若しくは佛性論は印度支那日本の三國佛敎の大問題であるが、天台宗だけに就いて考へると。天台大師の時に稍論じられ、章安章安灌頂は終生涅槃研究に努力し、「涅槃玄義」及び「疏」を撰述して佛性を顯揚し、六祖荊溪章者「金鉢論一卷」を作り清涼大師澄觀の佛性義を破し、こゝに華嚴天台の佛性論が明示された。次に日本天台では傳敎大師最澄が守護國界章及び法華秀句を撰して法相宗の佛性義を破し、續いて傳敎大師・慈覺大師・智證大師門徒も亦法相宗・三論宗の學匠等と諍論をした。そして此等の諍論を集成して安然は群定草木成佛私記一卷を撰し比叡山の草木成佛義の論義のみならず三論法相華嚴の三宗の非情成佛義を群定し天台の非情成佛義を明示した。この安然の論述は金鉢論と守護章、秀句とを基本としたものであるが最後に眞言敎に少しく說き及んでゐるが、未だ本書の如く金鉢論の三重事理を骨述本覺の四重興廢に對當し、眞言天台の勝劣に說き及んでゐない。但し三重事理を骨述本に配してこの三重をば止觀大旨を以つて總括してゐる、これ明らかに止觀爲本、觀心爲先の敎義である。かく本書を敎觀二門の內、觀心中心なりとすれば惠檀兩流の內では惠心流所傳の敎義なりといはねばならぬ。然るに本書を檀那院覺運の問ひ良源の答なりとすれば、大體からみて檀那流の所傳の書と云ふべきであらう。若し然らば本書撰述年代は惠心分裂以前若しくは初期であるといふべく、更に與へて云へば本書の記述の如く良源大僧正の說なりとも思はれる。乍然四重興廢說を用ゐて非情成佛義を論ずるまでに至つたのは惠檀兩流分派以降と見るべきであらう。然らば恐らく本書は院政時代頃とすべきであらうか。更に討究を要す。

❼(參考) 山家諸德撰述篇目集卷上 (田島德音)

草餘集 ❶(日) Sō-yo-shū. ❷三卷 ❸存、五山文學全集 ❹愚中周及(元亨三—應永一六 A. D. 1323—1409)

❻安藝國佛通寺開山愚仲周及禪師の遺稿である。上卷には偈頌、佛祖贊、自贊、中卷には小佛事、下卷には法語を載す。偈頌中には同門の春屋和尚、龍湫和尚等に寄せたる偈數百首を收め、佛祖贊には釋迦、文殊、觀音の贊を始として、夢窓、無文（臨濟宗方廣寺開山）等の贊を、自贊には六十一篇を、小佛事には諸佛開眼供養語、諸經供養拈香、願文、諸經大意、提綱語、達嚫文、佛事香語等を、法語には諸學人に示す法語、勸發文、諸經跋文等を收む。本集は應永三十二年（A. D. 1425）南禪寺惟肖得巖刊行せしも、其の板市井に藏せられたる爲め烏有に歸し、永享十三年（A. D. 1441）德茂書記募緣再刊す。

❼〔參考〕扶桑禪林書目、日本禪林撰述書目　（林岱雲）

草菜物語 ❶（日）Sō-rai-monogatari. ❷一册 ❸存 ❽正保五刊 ❾（高大、寄・一・二五）

倉洋嘉錯情歌 ❶（日）Sō-yō-ka-saku-jō-ka.（支）Ts'ang-yang-chia-ts'o-ch'ing-ko.（藏）Tshaṅs-dbyaṅs-rgya-mtsho-hi-mgul-glu-sñan-hgrugs kyis-t kod-pa. ❷一卷 ❸存、（中華民國）國立中央研究院歷史語言研究所、單刊、甲種之五 ❹于道泉編注 ❽民國一九（A. D. 1931）

❻第六代達賴喇嘛倉洋嘉錯の作と傳へられ西藏人が大抵暗誦してゐる切々たる情歌を西藏文・國際音標譯・單語漢譯・現代支那語譯・藏字ローマナイズ・藏語ローマナイズ・單語英譯・英語譯の八種に併擧したもの。❽民國一九刊 ❾上海國立中央研究院出版品國際交換處　（樺部文龍）

桑葉和歌抄 ❶（日）Sō-yō-wa-ka-shō. ❷三卷 ❸存 ❹溪沒（慶安四―正德二 A. D. 1651―1712） ❽寶永五刊 ❾（谷大、宗大・一四六五）（正大、一五五九・八）

窓燈塵壺 ❶（日）Sō-tō-jin-ko. 聰燈塵壺 ❷一卷 ❸存 ❹日諦（―正德五 A. D. 1715―） ❾大正三寫（谷大、餘大・二七六三）享保一五刊（正大、一八四・四四）

曹娥碑文私記 ❶（日）Sō-ga-hi-mon-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹恭榮記 ❾寫本（眞如藏）

曹海和尚語錄 ❶（日）Sō-kai-o-shō-go-roku. 長福曹海和尚語錄、曹海語錄 ❷二卷 ❸存 ❹曹海華嚴語、直傳等編

曹海和尚語錄辨解 ❶（日）Sō-kai-o-shō-go-roku-ben-ge. 長福開山曹海和尚語錄辨解 ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

曹海語錄 ❶（日）Sō-kai-go-roku. 曹海和尚語錄、長福曹海和尚語錄 ❷二卷 ❸存 ❹曹海華嚴語、直傳等編 ❾（哲、け・七・左・一九）

曹溪院行狀記 ❶（日）Sō-kei-in-gyō-jō-ki. ❸存、續々群書類從第三史傳部

❻曹溪院とは加藤作内諱光泰をいふ。文祿の役に增田長盛、石田三成、大谷吉隆、前野長康、加藤光泰の五人を以つて軍兵數千を率ひて應援の爲出征した。所が三成と軍略上の問題で文祿二年八月毒殺されたといふ。伯州の米子に光泰の菩提寺として曹溪院を作り九嶽和尚を開基とした。行狀記の中に、曹溪禪院開基之碑、大峰院殿、英叟雄公大居士略行狀（貞泰で光泰の子）と山崎闇齋作の加藤家傳が加へられてゐる。

❼〔參考〕加藤光泰貞泰軍功記（鎌田良賢）

曹溪源流頌 ❶（日）Sō-kei-gen-ru-ju.（支）Ts'ao-ch'i-yüan-liu-sung. ❸存 ❹明代行璣編 ❾明版（內閣）

曹溪山第六祖惠能大師說見性頓教直了成佛決定無疑法寶記檀經 ❶（日）Sō-kei-zan-dai-roku-so-e-nō-dai-shi-setsu-ken-shō-ton-gyō-jiki-ryō-jō-butsu-ketsu-jō-mu-gi-hō-bō-ki-dan-gyō.（支）Ts'ao-ch'i-shan-ti-liu-tsu-hui-nêng-ta-shih-shuo-chien-hsing-tun-chiao-chih-liao-ch'êng-fo-chüeh-ting-wu-i-fa-pao-chi-t'an-ching. 南宗頓教最上大乘摩訶般若波羅蜜經六祖惠能大師於韶州大梵寺施法壇經、曹溪能大師檀經 ❷一卷 ❸存、大正四八・三三七 No. 2007 ❹唐代法海集 ❼〔參考〕入唐新求聖教目錄

曹溪志 ❶（日）Sō-kei-shi.（支）Ts'ao-ch'i-chih. ❷四卷 ❸存 ❹明憨山德清（嘉靖二五―天啓三 A. D. 1546―1623） ❼〔參考〕禪籍目錄

曹溪詩集 ❶（日）Sō-kei-shi-shū.（支）Ts'ao-ch'i-shih-chi. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮慧諶（淳熙五―端平元 A. D. 1178―1234） ❼〔參考〕禪籍目錄

曹溪眞覺國師語錄 ❶（日）Sō-kei-shin-gaku-koku-shi-go-roku.（支）Ts'ao-ch'i-chên-chiao-kuo-shih-yü-lu. 雪峯義存禪師語錄、眞覺國師語錄、眞覺大師語錄 ❷二卷 ❸存、卍續二・二四・五 ❹唐義存雪峯（長慶二―天祐五 A. D. 822―908）語明林弘衍編 ❻雪峯義存禪師語錄の下を見よ。

曹溪禪師證道歌 ❶（日）Sō-kei-zen-ji-shō-dō-ka.（支）Ts'ao-ch'i-ch'an-shih-chêng-tao-ko. 永嘉證道歌、永嘉眞覺大師證道歌 ❷一卷 ❸存、大正四八・三九五 No. 2014、縮藏四禪宗永嘉集之內、卍三三・七、明北1578起、清1514佚、明南1556起、禪學寶典之內、四部錄、十部錄之內、Nj. 1585 ❹唐眞覺（―先天元 A. D. 712）述 ❻證道歌の下を見よ。 ❼〔參考〕入唐新求聖教目錄

曹溪祖庭地脈形勢緣起說 ❶（日）Sō-kei-so-tei-chi-myaku-gyō-sei-en-gi-setsu.（支）Ts'ao-ch'i-tsu-ting-ti-m-hsing-shih-yüan-ch'i-shuo. ❷一卷 ❸存 ❹明憨山德清（嘉靖二五―天啓三 A.D. 1546―1623） ❽寬政元寫 ❾（正大、一七一・一三）

曹溪大師傳 ❶（日）Sō-kei-dai-shi-den. 曹溪大師慧能傳 ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

曹溪大師別傳 ❶（日）Sō-kei-dai-shi-betsu-den.（支）Ts'ao-ch'i-ta-shih-pieh-ch'uan. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・一九・五

❻禪門の六祖曹溪惠能大師の傳、及び唐の高宗の勅書、惠能の辭疾表、沙門惠象の辭

歸表、六種靈瑞傳を載せてゐる。卷首には金龍の敬雄の序、卷尾には祖芳の跋がある。跋に曰く「曩古、傳敎大師は李唐より手寫して齎らし歸り叡嶽に儲藏すること何日、子院に淪落して之を歸すること年尙し。享保乙巳春、東武の儒官山田大介は同學の天野丈右衞門を延いて京都の名區を歷觀し、偶々この寶册を得て拜寫して其の家に十襲す」とある。而して終りに「惜むらくは編者の名を失ふを」と叙べてある。

❾寫本（京大、藏・一九ホ・二）　（後藤大用）

曹溪能大師檀經 ❶（日）Sō-kei-nō-dai-shi-dan-gyō.（支）Ts'ao-ch'i-nêng-ta-shih-t'an-ching. 南宗頓敎最上大乘摩訶般若波羅蜜經六祖惠能大師於韶州大梵寺施法壇經、曹溪山第六祖惠能大師說見性頓教直了成佛決定無疑法寶記檀經 ❷一卷 ❸存、大正四八・三四五 No. 2008 ❹唐代法海集 ❼〔參考〕智證大師請來目錄

曹溪寶林傳 ❶（日）Sō-kei-hō-rin-den.（支）Ts'ao-ch'i-pao-lin-ch'uan. ❷十帖 ❼〔參考〕慈覺大師在唐送進錄

曹源一滴 ❶（日）Sō-gen-it-teki. ❷一卷 ❸存 ❹丹羽佛鑑、原大泉共編 ❽明治二三刊 ❿東京森江書店

曹源和尚語錄 ❶（日）Sō-gen-o-shō-go-roku.（支）Ts'ao-yüan-ho-shang-yü-lu. ❷一卷 ❸存、介石和尚語錄之內 ❹宋代道冲編 ❾寫本（京大、藏・一七カ・三）

曹源和尚三會錄 ❶（日）Sō-gen-o-shō-san-e-roku. ❷三卷 ❸存 ❹曹源滴水（寬文元―享保二 A. D. 1661―1717）、隷範、義諦共編 ❽寶曆四刊 ❾（谷大、餘大・三三〇一）（駒大）

曹源道生禪師語要 ❶（日）Sō-gen-dō-shō-zen-ji-go-yō.（支）Ts'ao-yüan-tao-shêng-ch'an-shih-yü-yao. ❸存、卍續二・二四・一續古尊宿語要第四 ❹宋代曹源道生語

❻痴絕道冲禪師の編錄に係る曹源道生禪師語錄の中より、其の上堂語要十九條、小參、並に偈頌二首とを採錄したるものである。其の龜峰に於ける上堂語に云ふ「從朝至暮。鐘魚鼓板。爲汝諸人。發上上機了也。若信得及。塵沙諸佛。在諸人脚跟下跨跳。若信不及。龜峯拾得口喫飯。拍禪牀。下座。」と、曹源道生禪師の用處を窺ふことが出來る。　（大久保堅瑞）

曹源道生禪師語錄 ❶（日）Sō-gen-dō-shō-zen-ji-go-roku.（支）Ts'ao-yüan-tao-shêng-ch'an-shih-yü-lu. 曹源和尙住饒州妙果禪師語錄 ❷一卷 ❸存、卍續二・二六・三 ❹宋代曹源道生語、道冲編

❻明州天童景德禪寺密菴咸傑禪師の法嗣として南嶽下十八世の法燈を掲げた曹源道生禪師の語錄を其の法嗣痴絕道冲和尙が編錄したものである。曹源和尙は、蜀の南剱の人で、江西饒州府妙果禪寺に出世し、江西廣信府信州の龜峯に遷り、後に饒州薦福に住して、松原崇嶽、破庵祖先禪師などの法眷と共に密菴下の宗匠として盛に學人を接得したもので、本書には內題に曹源和尙住饒州妙果禪寺語錄とあるが、主として妙果、龜峯の語要を收めたものである。卽ち雲居に在つて妙果寺の請を受けたる時の語要より妙果に於ける上堂語、次に妙果に在つて龜峯の請けたる時の語要及び其の上堂語、並に小參を收め、謝密菴禪師を始めとして十首の讃頌を編錄したものである。　（大久保堅瑞）

曹山和尚語錄 ❶（日）Sō-zan-o-shō-go-roku.（支）Ts'ao-shan-ho-shang-yü-lu. 曹山語錄、撫州曹山元證禪師語錄、撫州曹山本寂禪師語錄、曹山本寂禪師語錄、元證大師語錄、曹山元證大師語錄 ❷三卷 ❸存、大正四七・五二六 No. 1987、卍續二・二四・五、五家語錄第三、禪學大系祖錄部第一 ❹唐曹山本寂（開成五―天復元 A. D. 840―901）說天復三（寂）語

❻撫州曹山元證禪師語錄、撫州曹山本寂禪師語錄の下を見よ。

❼〔參考〕禪籍目錄

曹山元證禪師語錄 ❶（日）Sō-zan-gen-shō-zen-ji-go-roku.（支）Ts'ao-shan-yüan-chêng-ch'an-shih-yü-lu. 撫州曹山元證禪師語錄、撫州曹山本寂禪師語錄、曹山語錄、曹山和尚語錄、元證大師語錄、曹山元證大師語錄 ❷一卷 ❸存、大正四七・五二六 No. 1987A、卍續二・二四・五、五家語錄第三、禪學大系祖錄部第一 ❹唐曹山本寂（開成五―天復元 A. D. 840―901）說天復三（寂）語、慧印（指月）（元祿二―明和元 A. D. 1689―1764）校 ❻撫州曹山元證禪師語錄の下を見よ。 ❽明和三刊（谷大、餘大・三三八一）明治四四刊（駒大）

曹山元證大師語錄 ❶（日）Sō-zan-gen-shō-dai-shi-go-roku.（支）Ts'ao-shan-yüan-chêng-ta-shih-yü-lu. 元證大師語錄、曹山本寂禪師語錄、撫州曹山元證禪師語錄、撫州曹山本寂禪師語錄、曹山和尚語錄、曹山語錄 ❷二卷 ❸存、大正四七・五二六 No. 1987B、卍續二・二四・五、五家語錄第三、禪學大系祖錄部第一 ❹曹山本寂（開成五―天復元 A. D. 840―901）說天復三（寂）語、明代郭凝之編 ❻撫州曹山本寂禪師語錄の下を見よ。 ❽寬保元刊 ❾（谷大、餘大・二九七一）

曹山語錄 ❶（日）Sō-zan-go-roku.（支）Ts'ao-shan-yü-lu. 曹山和尚語錄、曹山本寂禪師語錄、曹山元證禪師語錄、元證大師語錄、撫州曹山元證禪師語錄、撫州曹山本寂禪師語錄 ❷一卷 ❸存、大正四七・五二六 No. 1937、卍續二・二四・五、五家語錄第三、禪學大系祖錄部第一 ❹唐曹山本寂（開成五―天復元 A. D. 840―901）說天復三（寂）語 ❻撫州曹山元證禪師語錄の下を見よ。 ❾（哲、ふ・一・右・一〇）

曹山本寂禪師語錄 ❶（日）Sō-zan-hon-jaku-zen-ji-go-roku.（支）Ts'ao-shang-pên-chi-ch'an-shih-yü-lu. 撫州曹山元證禪師語錄、撫州曹山本寂禪師語錄、曹山元證禪師語錄、曹山和尚語錄、曹山語錄、元證大師語錄 ❷一卷 ❸存、大正四七・五二六 No. 1987、卍續二・二四・五、五家語錄（五宗錄）第三、禪學大系祖錄部第一 ❹明代圓信、郭凝之共編 ❻撫州曹山元證禪師語錄の下を見よ。 ❽寬保元刊、寶曆一

一刊 ⑨駒大）

曹山本寂禪師語錄 ❶(日)Sō-zan-hon-jaku-zen-ji-go-roku. 國譯曹山本寂禪師語錄 ❸存、國譯禪宗叢書第八

曹山本寂禪師語錄解題 ❶(日) Sō-zan-hon-jaku-zen-ji-go-roku-kai-dai. ❸存、國譯禪宗叢書第八

曹山撿出語要 ❶(日)Sō-zan-ren-shutsu-go-yō. ❸存 ❹正德四刊 ⑨(駒大)

曹山錄抄 ❶(日) Sō-zan-roku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹見損(性海) ❺寛文六刊 ⑨(駒大)

曹山錄注解 ❶(日) Sō-zan-roku-chū-ge. ❷三卷 ❸存 ❹妙心天寶述 ❼〔參考〕禪籍目錄

曹山錄傳義 ❶(日) Sō-zan-roku-den-gi. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

曹澤寛江和尚語錄 ❶(日) Sō-taku-kwan-kō-o-shō-go-roku. 寛江和尚語錄 ❷二卷 ❸存 ❹寛江語、智嚴等編 ❺文化三刊 ⑨(駒大)

曹洞革新論 ❶(日)Sō-tō-kaku-shin-ron. 能立獨山曹洞革新論 ❷一卷 ❸存 ❹安達達淳著 ❺明治二五刊 ⑨(駒大)

曹洞教會安心問答 ❶(日) Sō-tō-kyō-kwai-an-jin-mon-dō. ❷一卷 ❸存 ❹古城瑞舟述 ❺明治二八刊 ⑨(駒大)

曹洞教會修證義 ❶(日)Sō-tō-kyō-kwai-shu-shō-gi. 修證義 ❷一卷 ❸存、承陽大師聖教全集第三 ❹修證義の下を見よ。

曹洞教會修證義 ❶(日)Sō-tō-kyō-kwai-shu-shō-gi. 漢譯曹洞教會修證義 ❷一卷 ❸存 ❹陳鈞嚴譯 ❺大正五刊 ⑨(京大、一・二五ソ・三)

曹洞教會修證義典藏 ❶(日) Sō-tō-kyō-kwai-shu-shō-gi-ten-zō. ❷一卷 ❸存 ❹福山默童著 ❺明治二四刊 ⑨(帝國、一五・一〇九)

曹洞教會修證義聞解 ❶(日) Sō-tō-kyō-kwai-shu-shō-gi-bun-ge. ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918)述 ❺明治二四刊 ⑨(京大、一・二六ソ・一)

曹洞金筴 ❶(日)Sō-tō-kin-bren. ❷一卷 ❸存 ❹元捷(通嚴) ❼〔參考〕禪籍目錄

曹洞源流正派圖 ❶(日)Sō-tō-gen-ryū-shō-ha-zu. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞五位顯訣 ❶(日) Sō-tō-go-i-ken-ketsu. (支)Tsao-tung-wu-wei-hsien-chüeh. 重編曹洞五位顯訣 ❷三卷 ❸存、卍續二・一六・二 ❹宋代慧霞編、虎巖釋

❺悟本大師洞山良价禪師に正中偏、偏中正、正中來、偏中至、兼中到の所謂五位說がある。此の五位を七官三句にて逐位組出されたので逐位軌とも稱せられる。其の法嗣である曹山本寂禪師が是の洞山五位說の語要を撰出して其の訣訣を顯示されたものが曹洞五位顯訣である。然し、重編曹洞五位顯訣卷中には晦然和尙が曹山の法嗣たる慧霞の序言を引用して是の五位の逐位頌を曹山の作なりと主張して居る類の異說もあるが、是の正偏五位說と功勳五位說(尙、奉、功、共功、功功の五位)とは、古來より洞山大師の作とせられ、君臣五位說、王子五位說とは洞山とも曹山著とも稱せられて居る。是れは五位の說は洞山に始まると雖も、曹山その旨訣を嘉けて五位說を大成したのに因つて異說が生じたものであらうと思はれる。功勳五位は修行の境地に就て論じたもの、是の正偏五位は本體と現象との關係より萬差の語法を五位にて說明せんとしたものである。君臣五位、王子五位は共に正偏五位の譬喩的說明とも觀らるるものである。

五位には、曹山の顯訣、旨訣を始め、禪籍目錄の五位の部に示すが如き諸種の註釋書があり、鼓山元賢の洞上古轍、洪覺範の石門文字禪、晦巖智昭の人天眼目、傑堂能勝、南英謙宗の洞上雲月錄、西山瑞方の寶鏡三昧吹唱、天桂傳尊の報恩編、千丈實巖の杓末編等の諸書があり、就中、洞水月湛の四十餘年間の研鑽に係る五位顯訣元字脚並に指月慧印の不能語等は最も重視せられて居る。延寶八年本の重編曹洞五位顯訣は武藏國葛西の見性寺潤龍和尙が、校勘して梓行したもので、上中下三卷、卷首に元の世祖帝中統元年十二月八日、補註者たる晦然和尙の自序、次に編者たる了悟大師慧霞の序、慧霞の法嗣である釋を加へた虎巖の重集洞山偏正五位曹山雜語並序を收め、卷上に洞山五位顯訣(撰、釋、補)附六僧。卷中に(一)天童四僧頌。(二)逐位頌。(三)汾陽五位答問並頌。(四)慈明和尙頌。(五)大陽楷五位答問。(六)道吾眞五位答問。(七)則之禪師五位頌。(八)天童五位頌。(九)妙喜示衆。(一〇)元眞長老雜五位。(一一)五位實因論。卷下に(一)洞山三句附百文三句。(二)寶鏡三昧。(三)汾陽廣智歌。(四)心聞貪曹洞宗旨頌。(五)圓悟居士曹洞賛。(六)曹山三種機四種異類とを收めたもので即ち卷中下は五位に關する諸尊宿の述作を編錄したものである。

⑨延寶八刊(谷大、餘大・六八四)(京大、藏・一七ソ・五)(駒大、明治二九刊(京大、藏・一七ソ・四)(立大、A五〇・三〇)(帝國、一〇八・一一)

曹洞五位鈔 ❶(日)Sō-tō-go-i-shō. ❷四卷 ❸存 ⑨刊本(龍大、研佛)

曹洞護國辨 ❶(日)Sō-tō-go-koku-ben. ❷三卷 ❸存 ❹克醉(大白)述 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞綱要 ❶(日)Sō-tō-kō-yō. 通俗曹洞綱要 ❷一卷 ❸存 ❹新井石禪(元治元—昭和二 A. D. 1864—1927)著 ❺明治四四刊 ⑨(駒大)

曹洞廣錄 ❶(日)Sō-tō-kō-roku. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞在家日課要集 ❶(日) Sō-tō-zai-ke-nik-kwa-yō-shū. ❷一卷 ❸存 ❹松本曇本編 ❺大正一一刊 ⑩東京光融館

曹洞史略 ❶(日) Sō-tō-shi-ryaku. 編年摘要曹洞史略 ❷一卷 ❸存 ❹菊地大仙編 ❺明治二九刊 ⑨(帝國、一八・四

四八)

曹洞宗意講話 ❶(日)Sō-tō-shū-i-kō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹秋野孝道述 ❺大正三刊 ⑨(駒大)

曹洞宗概論 ❶(日) Sō-tō-shū-gai-ron. ❸存、佛教文庫第一六 ❹岡田宜法著 ❺昭和七刊 ⑩東京東方書院

曹洞宗革弊意見書 ❶(日) Sō-tō-shū-kaku-hei-i-ken-sho. ❷一卷 ❸存 ❹池田良光、多田元泰乘 ❺明治二九刊 ⑨(駒大)

曹洞宗義大綱 ❶(日) Sō-tō-shū-gi-tai-kō. ❷一卷 ❸存 ❹新井石禪(元治元—昭和二 A. D. 1864—1927)述、峰玄光編 ❺明治四五刊 ⑩東京鴻盟社

曹洞宗教導講習院講演集 ❶(日) Sō-tō-shū-kyō-dō-kō-shū-in-kō-en-shū. ❷一卷 ❸存 ❹曹洞宗教導講習院編 ❺明治三七刊 ⑩東京鴻盟社

曹洞宗行持寶典 ❶(日)Sō-tō-shū-gyō-ji-hō-ten. ❷一卷 ❸存 ❹伊藤聽雨編 ❺大正一一刊 ⑩東京中央佛教社

曹洞宗慶長法度 ❶(日) Sō-tō-shū-kei-chō-hat-to. ❸存、大日本史料第一二 ❹德川家康(天文一一—元和二 A. D. 1542—1616) ❺層長一七(A. D. 1612)

❻家康が武藏の龍穩寺、下總の總寧寺、遠江の大洞院の三寺、並びに下野の大中寺に下附したるもの。大體に五ケ條より成り洞門僧徒の修行年限を定め、本末關係を明かにしてゐる。

❼(參考) 御當家令條、遠州可睡齋書上寫、總寧寺文書、本光國師日記、駿河記、新編會津風土記 ❺慶長一七刊 ⑨(駒大)(後藤大用)

曹洞宗綱要 ❶(日) Sō-tō-shū-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918)著 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞宗綱要 ❶(日) Sō-tō-shū-kō-yō. ❸存、曹洞禪講義第一〇 ❹山田孝道(文久三—昭和三 A. D. 1863—1928)述 ❺大正六刊 ⑨(駒大)

曹洞宗綱要 ❶(日) Sō-tō-shū-kō-yō. ❷一卷 ❸存 ❹新井石禪(元治元—昭和二 A. D. 1864—1927)著 ❺大正一〇刊 ⑨(駒大)

曹洞宗在家行法 ❶(日)Sō-tō-shū-zai-ke-gyō-hō. ❷一卷 ❸存 ⑨刊本(京大、印哲・Q・二三)

曹洞宗讃佛歌 ❶(日) Sō-tō-shū-san-butsu-ka. ❷一卷 ❸存 ❹曹洞宗務院教學部編 ❺大正一四刊 ⑨(駒大)

曹洞宗史要 ❶(日) Sō-tō-shū-shi-yō. ❷一卷 ❸存 ❹鳳翁吉溪著 ❺明治二六刊 ⑨(駒大)(龍大、二九五六・一〇)(谷大、餘洋・二四九八)(帝國、七〇・五九)(京專)

曹洞宗旨 ❶(日)Sō-tō-shū-shi. ❷一卷 ❸存 ❹無著道忠(承應二—延享元 A. D. 1653—1744) ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞宗嗣續道場法私案 ❶(日) Sō-tō-shū-shi-zoku-dō-jō-hō-shi-an. ❷一卷 ❸存 ❹嵩慈春編 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞宗嗣續道場法制定請願始末書 ❶(日) Sō-tō-shū-shi-zoku-dō-jō-hō-sei-tei-sei-gwan-shi-matsu-sho. ❷一卷 ❸存 ❹嵩慈春編 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞宗寺籍明細書 ❶(日) Sō-tō-shū-ji-seki-mei-sai-sho. ❸存 ❹長橋道登編 ❺明治三三刊 ⑨(帝國、六九・一三八)

曹洞宗社會事業要覽 ❶(日) Sō-tō-shū-shin-kwai-ji-gyō-yō-ran. ❷一卷 ❸存 ❹曹洞宗務院教學部編 ❺大正一二刊 ⑨(駒大)

曹洞宗修證義說教例題 ❶(日) Sō-tō-shū-shu-shō-gi-setsu-kyō-rei-dai. ❷一卷 ❸存 ❹今川勇禪編 ❼(參考) 禪籍目錄

曹洞宗宗意私見 ❶(日)Sō-tō-shū-shi-ken. ❷一卷 ❸存 ❹德滑谷快天著 ❺大正九刊 ⑩東京鴻盟社

曹洞宗宗制 ❶(日) Sō-tō-shū-shū-sei. ❷一卷 ❸存 ❺明治三九刊 ⑨(龍大、二〇九四・五五)

曹洞宗宗制法規類纂 ❶(日) Sō-tō-shū-shū-sei-hō-ki-rui-san. 現行曹洞宗宗制法規類纂 ❷一卷 ❸存 ❹曹洞宗務院編 ❺大正七、昭和二刊 ⑩東京鴻盟社

曹洞宗重要法規及書式集 ❶(日) Sō-tō-shū-jū-yō-hō-ki-oyobi-sho-shiki-shū. ❷一卷 ❸存 ❹護法編輯部編 ❺大正一四刊 ⑩東京鴻盟社

曹洞宗書簡和譯 ❶(日)Sō-tō-shū-sho-kan-wa-yaku. ❷二通 ❸存、史籍集覽第一六 ❹月湛(洞水)(享保三—享和三 A. D. 1718—1803)

❺越中光嚴寺の洞水和尙が認めたる和文の書簡。一通は清の寧波府鄞縣天童寺住職に差出したるもので、宏智語錄、洞山錄、曹山錄、桔木錄、却外錄各々一册づつ贈るに依つて、此の旨を序文に記して普く諸寺へ施して貰ひたいと記してある。

他の一通は江寧府六合縣長蘆寺住職名當てのもので、矢張り宏智語錄一册を贈る旨を叙べ、終りに曹山廣錄、大乘經要并偈頌、明安別錄、洞山十不歸、浮山五位格、對寒山詩、洞山唱語の八種を屬けて欲しいと記してある。

❻明治三五刊 ⑨(帝國、八五・一六四、一八三・一〇七) ⑩東京麴町區飯田町近藤活版所

曹洞宗諸寺院御觸書寫 ❶(日) Sō-tō-shū-sho-ji-in-o-fure-gaki-utsushi. 元祿、正德、享保曹洞宗諸寺院御觸書寫 ❷一卷 ❸存 ❺寛政四寫 ⑨(駒大)

曹洞宗信徒朝昏誦課 ❶(日) Sō-tō-shū-shin-tō-chō-kon-ju-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹其中堂編 ❺大正六刊 ⑨(龍大、二〇七一・三三)

曹洞宗制規大全 ❶(日)Sō-tō-shū-sei-ki-dai-zen. 現行曹洞宗制規大全 ❷一卷 ❸存 ❹鴻盟社編 ❺明治三六刊

曹洞宗說教大全 ❶(日)Sō-tō-shū-setsu-kyō-dai-zen. ❷一卷 ❸存 ❹加藤

數字略號 ❶題名(書名) ❷巻數 ❸存缺 ❹著者 ❺代年作著 ❻內容解說 ❼本書(註釋書參考書) ❽寫の刊年月 ❾所藏(名庫書)諸藏 ❿發行所(名)

熊一郎述 ❺明治三五刊 ❾(駒大)(帝國、三一六・九〇) ❿東京鴻盟社

曹洞宗全書 ❶(日)Sō-tō-shū-zen-sho. ❸存 ❹曹洞宗全書刊行會編 ❺昭和四—六刊 ❾(立大、B一三・一五九)(高大、寄・一・二五)(京大、一・二五リ・五、佛教・D六・八)(正大、一七〇・一二) ❿東京鴻盟社

曹洞宗典 ❶(日)Sō-tō-shū-ten. 禪門曹洞宗典 ❷一卷 ❸存 ❹来馬琢道編 ❺大正八刊 ❿東京鴻盟社

曹洞宗日課諸經 ❶(日)Sō-tō-shū-nik-kwa-sho-kyō. ❷一卷 ❸存 ❹飯田樸隱編 ❺昭和七刊 ❿東京小林寫道場

曹洞宗年鑑 ❶(日)Sō-tō-shū-nen-kan. ❷一卷 ❸存 ❹護法編輯部編 ❺大正一四刊 ❿東京鴻盟社

曹洞宗の安心 ❶(日)Sō-tō-shū-no-an-jin. ❷一卷 ❸存 ❹秋野孝道著 ❾刊本(京專)

曹洞宗布教講習錄 ❶(日)Sō-tō-shū-fu-kyō-kō-shū-roku. ❷一卷 ❸存 ❹曹洞宗務院編 ❺昭和四刊 ❿東京甲子社書房

曹洞宗布教叢書 ❶(日)Sō-tō-shū-fu-kyō-sō-sho. ❷十二卷 ❸存 ❹高島隆童等編 ❺昭和五刊 ❾(正大、一七〇・一六〇)(高大、一・二五)

曹洞宗布達全書 ❶(日)Sō-tō-shū-fu-tatsu-zen-sho. ❷五卷 ❸存 ❾刊本(駒大)

曹洞宗風論 ❶(日)Sō-tō-shū-fū-ron. ❷一卷 ❸存 ❹韶硯 ❾寫本(駒大)

曹洞宗法規大全 ❶(日)Sō-tō-shū-hō-ki-dai-zen. ❷一卷 ❸存 ❹宗制研究會編 ❺大正四刊 ❾(駒大)

曹洞宗法派偈 ❶(日)Sō-tō-shū-hō-ha-ge. ❷一卷 ❸存 ❹默道編 ❼〔參考〕禪籍目錄

曹洞宗法話大全 ❶(日)Sō-tō-shū-hō-wa-dai-zen. ❷一卷 ❸存 ❹新井石禪(元治元—昭和二 A. D. 1864—1927)述 ❺大正三刊 ❾(駒大)

曹洞宗務局普達全書 ❶(日)Sō-tō-shū-mu-kyoku-fu-tatsu-zen-sho. 明治二十九年曹洞宗務局普達全書 ❷一卷 ❸存 ❹曹洞宗務局編 ❺明治三〇刊 ❾(帝國、三一六・五〇)

曹洞宗務局普達全書 ❶(日)Sō-tō-shū-mu-kyoku-fu-tatsu-zen-sho. 明治三十四年曹洞宗務局普達全書 ❷三卷 ❸存 ❹曹洞宗務局編 ❺明治三五刊 ❾(帝國、三一六・五〇)

曹洞宗名鑑 ❶(日)Sō-tō-shū-mei-kan. ❷一卷 ❸存 ❹安藤徹丸編 ❺大正五刊 ❾(駒大)

曹洞宗名稱考 ❶(日)Sō-tō-shū-mei-shō-kō. 日本曹洞宗名稱考 ❷一卷 ❸存 ❹鷂山默童著 ❺明治二四刊 ❾(駒大)(帝國、一五・一〇八)

曹洞宗問題意見書 ❶(日)Sō-tō-shū-mon-dai-i-ken-sho. ❷一卷 ❸存 ❹岡田泰明 ❺明治二七刊 ❾(帝國、一九・四六〇)

曹洞宗問題十說 ❶(日)Sō-tō-shū-mon-dai-jis-setsu. ❷一卷 ❸存 ❹能仁柏巖(—明治一五 A. D. 1882)述 ❺明治八刊 ❾(駒大)(龍大、二六七九・五八)

曹洞宗問題十說略解 ❶(日)Sō-tō-shū-mon-dai-jis-setsu-ryaku-ge. ❷一卷 ❸存 ❹笠間龍跳(—明治二四 A. D. 1891)述 ❾明治一〇刊(駒大)明治一八刊(帝國、五・八二)

曹洞宗要法話 ❶(日)Sō-tō-shū-yō-hō-wa. ❷一卷 ❸存 ❹新井石禪(元治元—昭和二 A. D. 1864—1927)述、峰玄光編 ❺明治四五刊 ❾(駒大) ❿東京鴻盟社

曹洞宗兩祖略傳 ❶(日)Sō-tō-shū-ryō-so-ryaku-den. 曹洞宗兩祖傳略 ❷一卷 ❸存 ❹大內青巒(弘化二—大正七 A. D. 1845—1918)編 ❾明治一七刊(駒大)大正二刊(駒大) ❿東京鴻盟社

曹洞宗兩大本山由來 ❶(日)Sō-tō-shū-ryō-dai-hon-zan-yu-rai. 曹洞禪講義第一〇 ❸存、❹孤峰智璨著 ❺大正八刊 ❾(駒大)

曹洞常用諸經要集 ❶(日)Sō-tō-jō-yō-sho-kyō-yō-shū. ❷二卷 ❸存 ❾刊本(龍大、二〇二一・三八)

曹洞聖典 ❶(日)Sō-tō-sei-ten. 禪宗曹洞聖典 ❷一卷 ❸存 ❹山田孝道(文久三—昭和三 A. D. 1863—1928)校 ❾明治四四刊(京大、一・二五ソ・四)大正一三刊(駒大)

曹洞禪講義 ❶(日)Sō-tō-zen-kō-gi. 曹洞宗講義 ❷十卷 ❸存 ❹新學會編 ❻〔第一〕印度、支那、日本禪宗史(孤峰智璨)。〔第二〕俱舍論綱要(今井弉補)。唯識論綱要(衛藤卽應)。天台四谷名目講義(富谷龍溪)。〔第三〕佛祖三經講義(富谷龍溪)。原人論講義(茂木無文)。六方禮經講義(富谷龍溪)。法句經講義(衛藤卽應)。〔第四—五〕從容錄講義(山田孝道)。〔第六〕修證義講義(孤峰智璨)。修證義說教(吉村雄鳳)。布教資料(吉村雄鳳)。〔第七〕永平大清規講義(茂木無文)。〔第八〕十種勅問講義(富谷龍溪)。學道用心集講義(今井弉補)。信心銘講義(茂木無文)。參同契講義(山田孝道)。寶鏡三昧講義(山田孝道)。坐禪義講義(松田湛堂)。坐禪用心記講義(茂木無文)。〔第九〕出家功德卷講義(松田湛堂)。道心卷講義(山田孝道)。行持卷講義(松田湛堂)。歸依三寶卷講義(山田孝道)。〔第十〕釋迦牟尼傳(松田湛堂)。永陽大師傳(孤峰智璨)。常濟大師傳(孤峰智璨)。兩本山の由來(孤峰智璨)。曹洞宗綱要(山田孝道)。 ❺大正六刊 ❿東京光融館

曹洞二師聞解 ❶(日)Sō-tō-ni-shi-mon-ge. ❷一卷 ❸存 ❹斧山玄鉊編 ❾刊本(駒大)

曹洞二師錄 ❶(日)Sō-tō-ni-shi-roku. 頭書曹洞二師錄 ❷二卷 ❸存 ❹指月慧印(元祿二—明和元 A. D. 1689—1764)校定、古田梵仙頭書 ❺明治一二刊 ❾京大(藏・一七ト・四)(帝國、一〇九・一七〇、一四五・二八)(內閣)(谷大、龍大・六

五〇)(駒大)(哲、け・八・中・一二)

曹洞二師錄附本光重編解釋洞山五位等 ❶(日)Sō-tō-ni-shi-roku-tsuketari-hon-kō-jū-hen-kai-shaku-tō-zan-go-i-tō. ❷二卷 ❸存 ❹指月慧印(元祿二—明和元 A. D. 1689—1764)校 ❺明和三刊 ❾(駒大)

曹洞二師錄蒙解 ❶(日)Sō-tō-ni-shi-roku-mō-ge. ❷一卷 ❸存 ❾寫本(駒大)

曹洞列祖行業記 ❶(日)Sō-tō-res-so-gyō-gō-ki. 日域曹洞列祖行業記 ❷一卷 ❸存 ❹舜融(懶禪)(慶長一八—寬文一二 A. D. 1613—1672) ❺寬文一三刊 ❾(駒大)

曹洞列祖系譜 ❶(日)Sō-tō-res-so-kei-fu. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

崇行錄 ❶(日)Sō-gyō-roku. (支)Ch'ung-hsing-lu. 緇門崇行錄 ❷一卷 ❸存、卍續二乙・二一・五、諸國集錄第三 ❹明袾宏(嘉靖一一—萬曆四〇 A. D. 1532—1612 一說萬曆四三、年八一寂)撰 ❻緇門崇行錄の下を見よ。 ❾刊本(谷大、龍大・一五六八)

崇正辨 ❶(日)Sō-shō-ben. (支)Ch'ung-cheng-pien. 宮板崇正辨 ❷三卷 ❸存 ❹宋代致堂胡寅撰 ❻佛教を駁論せるもの。 ❺文政九刊 ❾(帝國、二一三・二八)

崇寧淸規 ❶(日)Sō-nei-shin-gi. (支)Ch'ung-ning-ch'ing-kuei. 禪苑淸規 ❷一卷 ❸存 ❹宋代長蘆宗賾 ❼〔參考〕禪籍目錄

崇廟祭名錄 ❶(日)Sō-byō-sai-mei-roku. ❷一卷 ❸存 ❹攝門(天明二—天保一〇 A. D. 1782—1839) ❾刊本(正大、一〇八・五八—五九)

崇福語錄 ❶(日)Sō-fuku-go-roku. ❷一卷頌古一卷 ❸存、大德語錄附錄 ❾(京大、一・二五タ・七)

崇福寺志 ❶(日)Sō-fuku-ji-shi. (支)Ch'ung-fu-ssŭ-chih. ❷四卷 ❸存、武林掌故叢編第三 ❹朱文藻纂輯 ❺嘉慶六(A. D. 1801)九月 ❻杭州府仁和縣臨安鄉良山門外臨濟宗崇福寺の寺志である。晉開運三年(A. D. 946.)明義智厚禪師始めて此の山を開き護國禪院と名づく、宋雍熙年中大に興り、大中祥符年中崇福禪寺と額を改む、大觀年中兵燹に罹り、紹興重ねて復舊せしも元末再び燬く、洪武二十四年(A. D. 1391)再創し、康熙年中聖祖の勅によつて殿堂の修葺を加ふ、當時禪侶住する者千餘、諸堂の外觀、變遷、住持並びに檀越等に關し略記し、諸士の題咏を收む、清の高宗御製崇福寺碑記、朱文藻の叙を卷頭に揭ぐ。 ❾刊本(谷大、外大・一五六九) (林岱雲)

崇福寺唐僧明細 ❶(日)Sō-fuku-ji-tō-sō-mei-sai. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

崇福禪寺開創歷代住持事實 ❶(日)Sō-fuku-zen-ji-kai-sō-reki-dai-jū-ji-jitsu. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

崇福禪寺語錄 ❶(日)Sō-fuku-zen-ji-go-roku. ❷一冊 ❸存 ❾(京大、印哲・S・I・一六)

掃地經 ❶(日)Sō-ji-kyō. (支)Sao-ti-ching. ❷一卷 ❻出曜經第十卷の抄出 ❼〔參考〕法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第一七

掃灑禪庭錄 ❶(日)Sō-sa-zen-tei-roku. (支)Sao-sa-ch'an-t'ing-lu. ❷一卷 ❸存 ❹朝鮮雪竇有炯(道光四—光緒一五 A. D. 1824—1889) ❼〔參考〕禪籍目錄

喪事須知 ❶(日)Sō-ji-shu-chi. ❷一卷 ❸存 ❹大典顯常(寬永一一—享保元 A. D. 1634—1716) ❼〔參考〕禪籍目錄

搜決鈔 ❶(日)Sō-ketsu-shō. 大日經義釋搜決鈔、義釋搜決鈔、義釋聞書 ❷十二卷 ❸存 ❹實導仁空述、志玉明空錄 ❺康曆元—永德元(A. D. 1379—1381) ❻本書は京師廬山寺第六世實導上人仁空が、南北朝時代、後圓融帝の御宇、康曆元年己未六月より永德元年辛酉五月に至る首尾三箇年に渉つて、大衆の請に依り、叡山北谷八部尾の淨行院に於て「大日經住心品」の義釋第一・第二の兩卷を講說せしを、其の門下の志玉明空が筆錄して十二卷を成したものである。故に內題には「義釋聞書」と標し、題下に每卷「某年某月某日於東塔北谷八部尾淨行院披談之」と記し、また一段每に某月某日と講說開筵の日順を逐うて記されてゐる。卷尾に揭げられた華山元慶寺の惠宅亮雄の跋に依ると、始め志玉が所聞を記錄したものを更らに講主の仁空が自ら治定したものと云つてゐる程、引證精核、辨論委悉で、古來台密學徒に唯一の指南として尊重せられたものである。蓋し天台密乘の修學に古來三門の習風があつて、一に教相、二に事相、三に現行となつてゐる。「大日經」の第一住心品は卽ち教相の本源で、義釋の第一・第二の兩卷は之れが解釋であり、五大院先德安然が「教時問答」を著して、四一五重の判釋を唱導するも皆この住心品と義釋一二の深旨を發揮したものに外ならない。

講主仁空はもと〳〵顯密の學匠で、其師明導上人照源と共に廬山寺を本居として京洛叡山の間を往來し、處々に講筵を張り、顯・密・戒に渉つて廣く其の蘊蓄を講陳したが、講席每に其の門下は之れを記錄して終に數十部を成し、玆に廬山寺一流の學風を成した。世に之を『廬談』と稱し、『廬流』と呼ぶに至つた、現存する其の主要なるものを擧げると、顯教には法華三大部に「猪熊抄」あり、義科に數十部の「廬談」あり、戒には「圓戒指掌鈔」(或は永德記とも云ふ)あり、殊に密部に於ては今の「搜決抄」の外に、嘗て仁空が延文三年より永德三年に至る前後二十六年に亘つて、谷阿闍梨皇慶の忌日に臨む每に報恩會と稱して、學徒の爲めに、密乘の論壇を開き、盛に教相を問答せしめて終に「遮那業案立十三卷」を編し、また三部大法の事相を講傳しては、「三部大法立印鈔」及び「覆奪鈔」を錄し、灌頂部講授の記錄を「傳法要決」と號する等あつて、

數字略號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼本書(註釋書參考書) ❽寫刊の年月 ❾現所藏者(書庫名) ❿發行所名

共に今尙ほ傳寫して古藏に祕襲されてゐる。仁和門下志玉明瓊が筆錄集成したこの「搜決抄」は、かくて永い間、洛西嵯峨の二尊院に秘藏せられてゐたが、爾來四百餘年の星霜を經て天明寬政の頃、中古の密匠として世に知られた華山元慶寺の惠宅亮雄が、偶々本書を披閲して隨喜渴仰し、弘く世に之を流布せしめんとして、北溪の一乘比丘密巻僧慈と志を竝せ、北溪大衆と相謀つて刊行せんことを企てた。然るに當時叡山には本書二本あつて、一は西塔正敎坊の藏本で、曾て明曆萬治の頃、江州淵東靈浦觀音寺舜興法印が普ねく顯密戒記の書を蒐めて之を寫得し、その悉くを叡山西塔正敎藏に納められたが、其の中に、この「搜決抄」が嵯峨の二尊院秘藏の原本を寫得して藏せられてゐた。また他の一本は文安六年己巳四月洛西粟田定法寺探題僉楞嚴院檢校大僧正實助が手寫して、叡麓眞葛ヶ原譜佛堂に秘藏せられてゐたもので、この二本の外、全く坊間に存するものが無かつた。是に於て、慈・雄の二師は、刊行の底本として權威ある『正敎藏本』に依らんとしたが、惜むらくはこの本の字體が、謂ゆる問要様の偏旁草連の筆法で、實に難讀であつた。然るに幸ひ當時元慶寺に寄食してゐた筆生があたので、共人に命じて楷書で謹嚴に淨寫せしめ、且つ難解の所は惠宅亮雄自ら一々指圖して漸く原稿を完成し、また再らには『譜佛堂本』に依つて校讎すること前後數回に及び、いよ〳〵天明七年丁未、之を壽梓に上すところとなつた。燦、緒に就くや翌八年戊申正月京洛大火の災に遭ひ、五六年間止むなく事業の中絕を見、加ふるにその間、雄・慈の二師相次いで遷化する等の支障があつて、梓大完成まで實に三十有餘年を費した。而かもまた梓木の書林に在る間、紙數二百有餘葉の散失闕如する等の事があつたが、後、叡山探題葢寶大僧正、この闕紙を補ひ、序文に緣由を叙して、漸く文政八年三月初めて刊摺することを得たのであつた。斯かる事情の下に摺寫せられた本であるから「現行の版本」に往々組版の前後交諸するものがあることを、特に注意する必要があるであらう。而して本書の「搜決抄」と名付けられた所以のものは、大日經義釋の卷頭に掲げられた溫古の序文中、「支分有レ疑重經ニ搜決ニ事法圖位具列ニ其後ニ」と云へるに基いたもので、志玉等が師說を記錄するに經論の典據を搜索吞決して、敢えて憶測に出なかつたことを明示するものである。故に密菴僧慈は、本書の序に、「毎卷內題有ニ聞書二字ニ謂ニ講會書ニ所聞ニ也又謂ニ搜索吞決自錄ニ師說ニ」と述べ、また「弟子多ニ明匠ニ師資搜決非ニ復一日ニ」と云つてゐる。❾（哲、お・五・右・一一） （岩田敎圓）

搜玄 ❶（日）Sō-gen.（支）Sou-hsüan. ❷三卷 ❹宋神智從義（—元祐年間 A. D. 1086—1093頃）述 ❼（參考）諸宗章疏錄第二

搜玄記 ❶（日）Sō-gen-ki.（支）Sou-hsüan-chi. 大方廣佛華嚴經搜玄分齊通智方軌、搜玄 ❷十卷或五卷 ❸存、大正三五・一三 No. 1732、卍續一・三・五 ❹唐智儼（隋仁壽二—總章元 A. D. 602—668）述 ❻華嚴經搜玄記の下を見よ。

搜玄記科文 ❶（日）Sō-gen-ki-kwa-mon.（支）Sou-hsüan-chi-k'o-wên. ❷十七帖 ❼（參考）惠運禪師將來敎法目錄

搜神記 ❶（日）Sō-shin-ki. ❷二十卷 ❸存 ❹晉代千寶 ❺元祿一二刊 ❾（正大、一〇九一・五〇）

搜神後記 ❶（日）Sō-shin-go-ki. ❷十卷 ❸存 ❹陶潛（興寧三—元嘉四 A. D. 365—427） ❾（正大、一〇九一・五一）

搜神祕覽 ❶（日）Sō-shin-hi-ran.（支）Sou-shên-pi-lan. ❷一卷 ❸存 ❹宋代章炳文撰 ❾寫本（京大、印哲・S.Ⅲ・二二）

創開律抄章 ❶（日）Sō-kai-ris-shō-shō. ❷八卷 ❼（參考）東域傳燈目錄卷下

創學鈔 ❶（日）Sō-gaku-shō. 悉曇創學鈔、悉曇字記創學鈔 ❷十二卷或六卷 ❸存 ❹杲寶（德治元—貞治元 A. D. 1306—1362）述 ❻悉曇創學鈔の下を見よ。 ❾（京專）

創立記念展覽會選擇集古版本陳列目錄 ❶（日）Sō-ritsu-ki-nen-ten-ran-kwai-sen-chaku-shū-ko-ham-pon-chin-retsu-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹宗敎大學圖書館編 ❺大正一〇刊 ❾（正大、一〇〇・三〇）

滄海宜運和尙行狀 ❶（日）Sō-kai-gi-un-o-shō-gyō-jō. ❸存 ❹宋源編 ❺寬政六刊 ❾（駒大）

滄海餘波 ❶（日）Sō-kai-yo-ha. ❸存 ❹明極楚俊（弘長二—建武三 A. D. 1262—1336）作 ❼（參考）日本禪林撰述書目、禪籍目錄

滄溟尺牘 ❶（日）Sō-mei-seki-toku. ❷一卷 ❸存 ❼（參考）禪籍目錄

滄浪聲 ❶（日）Sō-rō-shō. ❸存、慧林禪師語錄附錄 ❹慧林性機（慶長一四—天和元 A. D. 1609—1681） ❼（參考）禪籍目錄

葬忌彼岸說 ❶（日）Sō-ki-hi-gan-setsu. ❷一册 ❸存 ❹拾穗述 ❺慶應三刊 ❾（龍大、二〇七一・三二）（哲、え・八・中・一）

葬儀諷誦文 ❶（日）Sō-gi-fū-ju-mon. ❹登錄（嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143） ❼（參考）諸宗章疏錄第三

葬儀略 ❶（日）Sō-gi-ryaku. ❷一卷 ❸存 ❹源躬行（—慶應元 A. D. 1865—） ❺慶應元刊 ❾（正大、一〇八・一一三）

葬儀略禮 ❶（日）Sō-gi-ryaku-rai. ❷一卷 ❸存 ❹偏無爲 ❺享保一七（A. D. 1732） ❾寫本（正大、一〇八・一一四）

葬家護摩之事等 ❶（日）Sō-ke-go-ma-no-koto-tō. ❷七軸 ❸存 ❺德川時代寫 ❾（寶菩提院）

葬家追善事 ❶（日）Sō-ke-tsui-zen-no-koto. ❻淨土眞宗敎典志第一に曰く「與ニ語燈十沒後遺誡文ニ同」云云。

葬祭儀略 ❶（日）Sō-sai-gi-ryaku. ❸存、日本敎育文庫第一一

葬祭必用集 ❶（日）Sō-sai-hitsu-yō-shū. ❷二卷 ❸存 ❾天保年間刊（京大、日大未・四五二）

葬祭辨論 ❶（日）Sō-sai-ben-ron. ❷一卷 ❸存 ❺寬文七刊 ❾（正大、一〇八・一一二）

葬送作法等 ❶（日）Sō-sō-sa-hō-tō. ❷四通 ❸存 ❺足利中期寫 ❾（金剛三昧院）

葬喪記 ❶（日）Sō-sō-ki. ❸存、日本敎育文庫第一一

葬度 ❶（日）Sō-do.（支）Tsang-tu. ❸存、說郛第二二一、居家必備第六 ❹明代王文祿 ❻孝を道德の中心におく禮儀の國支那では葬禮は頗る重大視される。本書は左の十六項に分つて葬禮葬法を述べたものである。慎終第一。合棺第二。斂法第三。入棺第四。擇地第五。開壙第六。擇灰第七。燒磚第八。和灰第九。築法第十。取汁第十一。入墎第十二。石蓋第十三。成墳第十四。任匠第十五。雜辨第十六。但しこの書は佛書に入るべきものではない。❾（帝國、乙・一、一五六・二四） （塚本善隆）

葬法密 ❶（日）Sō-bō-mitsu. ❸存、日本敎育文庫第一一宗敎篇附錄、輪池叢書第八

葬禮之次第 ❶（日）Sō-rei-no-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❾寫本（谷大、宗大・一八五三）

葬禮略 ❶（日）Sō-rei-ryaku. ❸存、日本敎育文庫第一一宗敎篇附錄

想苑 ❶（日）Sō-en. ❸存 ❹光山百川編 ❺昭和四刊 ❾（立大、B一九・八二） ❿東京和融社

想經 ❶（日）Sō-kyō.（支）Hsiang-ching.（梵）M. I Mūlapariyāya S. ❸存、中阿含經第二六（大正一・五九六 No. 26. 106）

僧叡和上略傳 ❶（日）Sō-ei-wa-jō-ryaku-den. ❷一卷 ❸存 ❹耳順 ❺大正二刊 ❾（龍大、一九六三・七）

僧祇戒本 ❶（日）Sō-gi-kai-hon.（支）Sêng-ch'i-chieh-pên. ❷一卷 ❸缺 ❹曹魏曇柯迦羅譯 ❻第一譯 ❼（參考）仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二五

僧伽和尙欲入涅槃說六度經 ❶（日）Sō-gya-o-shō-yoku-nyū-ne-han-setsu-roku-do-kyō.（支）Sêng-chia-ho-shang-yü-ju-nieh-p'an-shuo-liu-tu-ching. 僧伽和尙經 ❷一卷 ❸存、大正八五・一四六三 No. 2920 ❻本經はスタイン並にペリオ兩氏に依りて燉煌より出土したる古寫經にして、スタイン本の首題に「僧伽和尙欲入涅槃說六度經」とあり、末尾にはたゞ「僧伽和尙經」とあるのみ。老子化胡說關係の僞經と見るべき節多く、經の初の方に、「像法の世界滿じて正法興る時、吾れ彌勒尊佛と與に同時に下生し、共に化城に坐して善緣を救度せん。元居本宅の東海に在るは是れ吾が過去先世の淨土なり」といひ、又「吾れ本處を離れ身西方に至り、衆生を敎化して釋迦牟尼佛と號せり」といひ、又「吾が身已後却りて西方胡國中より閻浮に來生せん」といひ、或は「舍利本骨願くば泗州に住せんことを」といふが如きは明かに佛敎の通說に反するのみならず、老子化胡說を想起せしむる文字である。本經に說く所謂六度とは六種の人を度するの謂にして、第一度者は孝順父母敬重三寶のこと、第二度者は不殺衆生のこと、第三度者は不飮酒食肉のこと、第四度者は平等好心不偸盜のこと、第五度者は頭陀苦行、好修橋梁井諸功德のこと、第六度者は憐貧念病、布施衣食、極濟窮無のことを擧げて、所謂佛敎の六度と稱する施・戒・忍・進・禪・慧ではない。殊に僧伽和尙とは如何なる人か、或は老子を指すに非るか。極めて其の點不分明なる一短篇經である。詳しくは鳴沙餘韻解說第二部三〇六—三一〇頁を參照せよ。❾燉煌出土本（大英博物館藏 S. 2754、佛蘭西國民圖書館藏 P. 2217） （矢吹慶輝—成田昌信）

僧伽吒經 ❶（日）Sō-gya-ta-kyō.（支）Sêng-ch'ieh-ta-ching.（梵）Fragment of Khotanese, Leumann Buddhistische Literatur. I. (Kunde des Morgenländes, XV. 2). Saṅghāta-sūtra（飜譯名義大集）（藏）hphags-pa zuṅ gi mdoḥi chos-kyi-rnam-graṅs. ❷四卷 ❸存、大正一三・九五九 No. 423、縮玄九、卍一二・四、北398可、南411可、元405可、明北445羊、清445羊、麗399使、天405可、指370使、法393使、至403信、明南402可、Nj. 449 ❹月婆首那譯 ❺東魏元象元（A. D. 538） ❻本經は、その經意より見て、集會の因緣を法門化し、その法門の實現これ如來の神通自在の威力に依るを說かんとするのがその究竟の目的であると考察せらる。第一卷に於ては一切勇菩薩の願樂欲聞に應じて、僧伽吒法門の功德甚深なるを說き、遺惡誹謗の徒に對する方便敎化に及び、尼犍子亦如來の大敎に伏するを述べ、第二卷に於ては本生說話を假り來りて如來の因位を示し、度脫衆生の方便として化身說話を說き、一切の所疑を解決せしめんとする時、藥上菩薩は衆生差別の相に依つてその度し難きものあるを說くや、如來は諸法實相の法門よく正覺に到り、又到らしむるの所以を示す、第三卷に於ては聞法敬僧の功德を說いて、よく一切惡を滅除し、一切諸法具足するを得となし、第四卷に於ては一切皆空の立場に立つて離苦得樂の法を說き、併せて見佛親近の必要を述べて居る。本經の背景には般若、法華等の思想が存することは之を看取するに難くない。本經の異譯としては施護の大集會正法經五卷が存する、內容稍々密敎化せるの觀あり。❼（參考）三寶紀第九、內典錄第四、譯經圖紀第四、開元錄第六、貞元錄第九、東域傳燈目錄卷上 （本田義英）

僧伽吒經疏 ❶（日）Sō-gya-ta-kyō-sho.（支）Sêng-ch'ieh-ta-ching-su. ❷二卷 ❼（參考）東域傳燈目錄卷上

僧伽羅集後記 ❶（日）Sō-gya-ra-shū-go-ki.（支）Sêng-ch'ieh-lo-chi-hou-chi. ❷一卷 ❼（參考）東域傳燈目錄卷下

數字略號 ❶題名（書名） ❷卷數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書（註釋書參考書） ❽寫刊の年月 ❾現所藏者（書庫名） ❿發行所名

僧伽羅刹集 ❶(日)Sō-gyara-sētsu ❷(支)Seng-chieh-lo-cha'-chi. ❸二卷 ❹符秦曇摩難提譯 ❺第二譯 ❻缺 ❼符秦建元二〇(A.D.384) ❽開元錄第一五、貞元錄第二五

〔參考〕

僧伽羅刹所集經 ❶(日)Sō-gyara-sētsu-shō-shū-gyō. (支)Seng-chieh-lo-cha'-so-chi-ching. 僧伽羅刹集經、僧伽羅刹所集佛行經 ❷三卷或五卷 ❸存、大正四・一一五No. 191、縮藏七、卍二六・八、北988樣、南1004樣、元1000樣、明北1345典、清1345典、麗392樣、天993樣、指950樣、法977樣、至1434竜、明南1086宜、Nj. 1352 ❹僧伽跋澄等譯 ❺符秦建元二〇(A.D.384)

❻〔本經の性質及びその結構〕 本經は、佛傳の一種である。道安作の序の中に「又、此經を著はして世尊を畫章す。成道を始めてより、論虛に迄ぶまで、行、互細となく必ず事に因つて演べ、遊化夏坐曲に備はらざるなし。菩曜・本行・度世の諸經に、佛の起居を載する、至つて密と爲すと謂ふと雖も、今、斯の經を覽るに、悟る所復多し」と言つて居る。佛傳の數甚だ多いが、各々その特色を有して居る中に於て、本經の佛傳は、一層特殊なものである。本經の結構を見るに、三卷より成り、第一卷菩薩行の總叙に始り、第三卷阿育王興敎の事跡に至るまで、章節を分たず、品名を附せず、單に卷數を分つのみで、首尾一連に叙述せられてゐる。時に例外はあれど、概して長行に依つて一段の叙述をなし、偈文を以て之を歎譽すると云ふのが、本經の形式である。而も各段の間には關係があり、首尾を一貫して、一定のシステムがある。卽、概括して次の三部分に分つことが出來る。第一段では菩薩行の如何なるものであるかを說明して、其の裡に釋尊の本生、菩薩としての修行を述べ、第二段では降神下生に始り、入涅槃に及ぶ佛傳を叙し、第三段では、滅後唯一の事跡として、阿育王出生の因緣と其の事跡を描いてゐる。之を視易からしめんが爲に、假りに科段を設け、見出しを附したのが、目次である。

本經の著者僧伽羅刹は、迦膩色迦王(Kaniska)の師であつて、彼と馬鳴(Aśvaghosa)とは同時代の人であつた。從つて本經と馬鳴作の「佛所行讚」(Mahākāvya Buddhacarita)とは、大體同時の作であると考へてよい。然るに「佛所行讚」が、あくまで事實に立脚して、佛陀の生活を描き出さんとしてゐるのに對して、本經は、その點に意を用ひずして、菩薩行の闡明と佛陀の自覺の表現とに努めたのである。正に兩者は、對蹠の地位に立つもので、道安が序の中に、佛傳の詳細なものとしては、菩曜や、本行や、度世や諸經があるけれども、斯經を覽れば、また悟らしむる所が多いと言つて居るのは、その當を得て居る。若し「佛所行讚」を降生後の佛傳とすれば、本經は本生を主とする佛傳といふべきである。

〔內容〕 本經は「僧伽羅刹所集經」と云ふ題名が示してゐる如く、僧伽羅刹が、蒐集編纂したものである。その材料が、阿含部の聖典中の處々に散見してゐる點から考へて、僧伽羅刹が、それ等を基本として、菩薩行と、佛傳と、阿育王傳に關するものを取捨選擇して、本經を成したといふべきである。從つて本經と阿含部の聖典とを比較すれば、其の三種のもの、就中菩薩行に關する思想の消長を、十分に觀察することが出來る。而して彼が西曆一世紀の人であると云ふことが略推定せられ、且つ又その時代が大乘思想の芽ばえんとしてゐる時代であると考へられてゐるから、本經に於ける菩薩思想の開展については、特に興味を感ずるのである。又逆に本經の思想內容が、小乘より大乘への過渡期のものであると見らるゝから、本經こそ、僧伽羅刹その人の思想を語るものと決定することが出來るのである。以下、菩薩行・佛傳・阿育王傳の三項に分つて、概說して見やう。

(一) 菩薩行について 先づ冒頭に成菩薩行の總叙を置き、その中に菩薩修行の種々相を擧げ、次にその各項目について詳細に叙述し、最後に總結を以て終つてゐる。其の三段の中、最初の總叙には、約十二の德目が數へられるが、文に錯誤があり、脫落があつて意義の通じない所がある。而してそれ等の項目は、何れも第二段に於て、詳細に述べられ、又總叙には缺けてゐて、而も重要な德目もあるから、總叙を後として、先づ第二段の思想について見る事とする。第二段の中には、大意に始り、布施・持戒・精進・忍辱・三昧・智慧・審諦・柔和・慈孝・堅固心・多聞・慈悲・著袈裟・閑居・慈心・悲心の種々の修行が說かれてゐるが、此等の德目は、阿含の經典に於て、隨所に散見するのであつて、その中には慈孝・慈悲の如き、世間道德的なものもあれば、著袈裟・閑居の如き出世間道德的なものもある。而も慈孝・慈悲は、慈悲喜護の四無量心を內容とする慈心・悲心と合して、之を六波羅蜜中の布施に含ましめる事が出來やうし、著袈裟・閑居は、持戒の中に含めて然るべく、柔和は忍辱に屬せしめる事が出來るし、堅固心は精進又は禪定に屬せしめて然るべく、多聞・審諦は智慧の一方面を成すに過ぎない。斯くて本經に見らるゝ如き諸々の德目が、次第に六波羅蜜の組織中にまとめられたものと見るべきである。

蜜の組織が形成せられたものであつて、本經の如きは、正にその過渡期のものであつたらうと思はれる。菩薩が、かくの如き六波羅蜜の修行をなす所以は、その大慈悲心に出づるのである。一切の衆生が、生老病死の苦を擔ひ、生々死々して苦より苦に出入するも、湯愛して厭く所なきが爲に、永遠にこの重擔を脫することを能はず、具さに衆苦を經歷するを愍みて、大慈を發し、道に發趣する菩薩に依つて、正に六波羅蜜の修行が成就せられるのであるから、大慈こそは、正しく菩薩行を貫く大精神である。本經が菩薩行の最初に大慈修行を力說して、次に六波羅蜜の修行に說き至る所以は、かゝる點に考慮を拂つた爲で無ければならぬ。六波羅蜜の修行に次いで、審諦・柔和・慈孝・堅固心・多聞・慈悲・著袈裟・閑居・慈心・悲心の種々の修行が說かれてゐるが、此等の德目は、阿含の經典に於て、隨所に散見するのであつて、その中には慈孝・慈悲の如き、世間道德的なものもあれば、著袈裟・閑居の如き出世間道德的なものもある。而も慈孝・慈悲は、慈悲喜護の四無量心を內容とする慈心・悲心と合して、之を六波羅蜜中の布施に含ましめる事が出來やうし、著袈裟・閑居は、持戒の中に含めて然るべく、柔和は忍辱に屬せしめる事が出來るし、堅固心は精進又は禪定に屬せしめて然るべく、多聞・審諦は智慧の一方面を成すに過ぎない。斯くて本經に見らるゝ如き諸々の德目が、次第に六波羅蜜の組織中にまとめられたものと見るべきである。

本經は、此等の叙述を爲す際に、適當なる本生譚を交へて、平板な羅列に終り、又は無味乾燥な理窟に陷るのを避けてゐる。例へば、忍辱修行の項に於ては、迦葉浮王に手脚を截斷せられても瞋らず、尙その國の人民を愍んだ忍辱仙人の話を述べ、審諦修行の條下に於ては、婆羅門との約を果して、身を惜まざりし須陀摩王の物語を叙してゐる如きが、それである。若し適當せる譬喻であるならば、頗る觀るべきものであつたと思はれるが、羅什の如き大譯者以前のものとて、頗る生硬な、巧つて難解なものと爲り終つたのは遺憾である。

(二) 佛傳について 本經は、先づ降神下生・瑞應五夢・剃髮坐場・成等正覺・無師獨悟を述べ、次に佛の覺悟せる十二因緣・三明六通・四無量心・十力・四無所畏を說き、隨才・說法・知他心智・解脫等の德目に及び、一轉して佛身の相好を表はし、更に佛陀が衆生の諸根・心・或は世間を覺悟し、その生死の泥塗を度せんがために出世せることを叙し、次いで佛陀を海・船・日等の比喩を以て曉じ、その敎法を法雨なり法城なりと云つてゐる。而して此等の諸德による、娑婆及び鬼神の化度や、阿闍世王の歸佛や、闍提蘇尼梵志及び五比丘の濟度や、其の間に提婆達兜の背佛を叙し、更に苦諦・因法印を明し、鉢摩迦比丘の持戒を述べ、衆寶功德・師子吼說法・七覺支・四無所畏を論じ、大迦葉の得度と舍利弗の入滅とを說いて、後に佛の入涅槃に及び、最後に遺敎を述べ、四十五年の說法所を並べ擧げてゐる。是等の中に於て、第三十八章の首相より臥床に至る二十六項は、佛身に關係した事柄であるから、便宜佛身相の一章にまとめた。其の中、遊步・行迹・微笑・衣服・乞求・臥床等は、嚴密には佛身の相好でないが、便宜上これも含ませた。然しこれ等を除いて、直接に佛身に關係した部分に於ても、所謂三十二相とは稍異つたものを含んでゐる。卽第十六項の踹跟相と第十七項の踹腨相とは、三十二相八十隨好にも含まれてゐないものである。「無量義經」の第三十二相に廣腨腨と云ふのがあるが、これが踹腨相である。一見して明瞭なる如く、之を佛傳としての立場より見る時は、如何にも粗雜で、首尾一貫せる組織もなく、其點に於て、他の佛傳に比すべくもない。最初の降神下生・瑞應五夢・剃髮坐場・成等正覺と、最後の舍利弗入滅以後は之を可とするも、佛陀が最初に化度せる五比丘の物語が、阿闍世王歸佛の後に在るが如きは、如何。而して第三十八章の佛身の相好と、第四十三章より第五十一章に至る各種の譬喻とは、各々能く纏められて居るが、是等の中に、佛陀の事跡と、その覺悟の內容とが隱顯して居り、如何にも經名の所集經たるに似つかはしい感じがする。要するに所集であつて、體系を與へたものが無い。斯くて佛傳といふ見地よりする時は、僧伽羅刹と同時代と推定せられる馬鳴の大著「佛所行讚」が、年代に隨ひ、事迹を述うて、如何にも整然と佛傳を叙述してゐるのとは、大いにその體裁を異にする。思ふに、本經は事實に卽して佛陀を觀察すると云ふのが、その德意ではなくして、佛陀のあらゆる美點を擧げて嘆聲するのが、主眼であつたが爲めに、事實に卽して按配することに無關心であつたのであらう。然し方面をかへて、佛身觀の發達を見る見地よりすれば、極めてよき資料である。斯の如き佛身觀が、次第に進展して、遂に方便示現としての大乘佛傳を成すに至つたのである。

(三) 阿育王傳について 阿育王の傳記は、古くは、「雜阿含經」第二十三卷にあり、又「阿育王經」、「阿育王傳」ありて、三本とも頗る詳細にその事蹟を傳へてゐる。本經の王傳は、是等に比して頗る簡略で、八萬四千の塔を起し、一日にして成るとのみ述べてゐる。然し王の出世の因緣に至つては、四本とも同一であるが、童子の名を異にし、金勞云云の點に於て、異つた記事を爲して居る。卽三本に於ては、闍耶(Jaya)・毘闍耶(Vijaya)の二童子が、沙上に在つて遊戲せる時、毘闍耶が佛陀に沙を供養せるその功德に依りて阿育王となり、佛舍利を供養し、佛敎を弘布するに至つたと云ひ、本經にあつては、二童子を脾闍耶寫多羅・波修達多なりとし、前者の父を波修波陀羅と云つてゐる。又、阿育王が、夢の告に佛舍利を供養し廣布すべしと聞きて、大いに驚き、比丘の勸めに依りて、八日八關齋を受け、羅閱城に於て佛舍利を得んとして、金勞を得た、それに、童子が土を供養する圖が現はれて居り、その中に佛陀が阿育王の出世を

數字號略 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存・缺 ❹著者 ❺代年作著 ❻內容說解 ❼末書(註釋書參考書) ❽月年の刊寫 ❾現所藏(名庫書)者 ❿發行所名

墨記せられたる文があつたと、本經は述べてゐるが、これは他本には無く、全く本經獨特の叙述である。金剛の墨記とは、「阿育王傳」等を揭げらるゝ、毘闍耶に對する佛の豫言に外ならぬだらう。

〔本經の特色〕 斯の如き性質の佛傳であるに關はらず、本經の最も著しき特色は、第七十七章に佛陀の四十五年說法地を盡く擧げて居ることで、著者が十五年前に於て、「釋迦牟尼傳」の中に於て、既に指摘せる所である。僧伽羅刹が、如何なる材料によりて蒐集採錄したのであるかは、之を決定することが出來ないが、兎に角かくの如き試は、全く他經典に類を見ないことであつて、特筆大書して置く必要がある。本經に擧げらるゝ四十五年の說法地は、左の如くである。

第一年、波羅奈國(Barāpasī)に於て初めて法輪を轉じ、摩竭國(Magadha)王を益す。
第二年、鷲峯(Gijjhakūṭa)山頂に於て、
第三年、同處、
第四年、同處、
第五年、脾舍離(Vesālī)
第六年、母の爲めに、摩拘羅(白蓮)山(Makula)に於て、
第七年、三十三天に於て、
第八年、鬼神界に於て、
第九年、拘苦毘國(Kosambī)に於て、
第十年、枝提山中に於て、
第十一年、鬼神界に於て、
第十二年、摩迦陀(Magadha)國居處に於て、
第十三年、鬼神界に於て
第十四年、舍衛國(Sāvatthī)祇樹給孤獨園に於て、
第十五年、迦維羅衛國(Kapilavatthu)釋種村中に於て、
第十六年、迦維羅衛國に於て、
第十七年、羅閱城(Rājagaha)に於て、
第十八年、羅閱城に於て
第十九年、柘梨(Cālīya)山中に於て、
第二十年、羅閱城に夏坐す。
自第二十一年、——至第二十四年、四年間、柘梨山中に還り、鬼神界に於て夏坐す。
自第二十五年——至四十三年、十九年間、舍衛國に夏坐し、餘處を經歷せず。
第四十四年——最後に說紙(Vajjī)境界毘將村中に於て、

この特色は、事實としての佛傳に粗漏なる點を、多分に補足し得るものであると思ふ。

❼(參考) 出三藏記第二、三寶紀第八、內典錄第三、譯經圖紀第三、開元錄第三、貞元錄第五 (常盤大定)

僧伽羅刹所集經 ❶(日)Sō-kyara-setsu-sho-shin-kyō. 國譯僧伽羅刹所集經 ❸存、國譯一切經本緣部第九 ❹常盤大定譯

僧官位服制考 ❶(日) Sō-kwan-i-fuku-seiri-kō. ❷一卷 ❸存、百家叢說第三 ❹清原經賢撰 ❺貞享五(A. D. 1688) ❻本書は奥書に依ると、長谷寺小池坊の住侶卓玄僧正が、著者に法中の衣服を圖し、その品節を書かんことを請ふたので、僧服に準じて見解を述べたものである。初めに僧官、僧位の別、知等準位等を記し、凡僧の品、門跡、準門跡、院家、出世、坊官、寺僧、三綱等に就て說明を施し、次に衣服に就て法親王披帝の袍裳、鈍色、素絹、下襲、單、帶、衣袴、赤大口、指貫、下袴等の織文、色等の事、清家出身者これに同ずる事、次に院家の袍裳、裂裝、下襲、鈍色、素絹、表袴、指貫のことを記し、袖衣、甲袈裟、平裂裝、念珠、扇、屧、草鞋、鼻高等のことを述べ、織物、紋樣と年齢との關係、僧服と俗服との淮位、童體の裝束の水干、半尻前張、直衣、指貫のこと、持幡童子の裝束、中童子、大童子に就て記し、傘袋裝束、柳骨戴者、召具退紅に就て各別に略記してゐる。本書は各宗所用の衣體を調査する資料として缺くべからざるものである。著者は出家して尊雅法常覺阿闍梨といつた。百家叢說所收の本は作者の自筆本を以て校合したものであるよし、奥書に見ゆ。

❹刊本(谷大、外洋・一五二四) (中谷在輝)

僧官僧服記 ❶(日)Sō-kwan-sō-fuku-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第七四、服具叢書第二 ❹實觀述 ❺本書の標目の下に前大僧正實觀述、沙門孝周錄とある。僧官、僧位、僧綱、凡僧、內職、非職の別、初任例、官位相當等を數項に分て述べ。僧服に就て、聖德太子の法服を制定されたるが僧服の始めであるなどと述べ、朝廷御法會の時に僧の用ふる袈裟のことを記し、卯正月と記して終り、次に法服の頭立のこと、鼻高のことの二項が追加され、卯十月と記して居る。述者の事歷は未詳である。 (中谷在輝)

僧官僧服次第考 ❶(日)Sō-kwan-sō-fuku-shi-dai-kō. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(正大、一一八九・四九)

僧官之事 ❶(日)Sō-kwan-no-koto. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(山門寄藏館)

僧官補任 ❶(日) Sō-kwan-bu-nin. ❷一卷 ❸存、群書類從第三補任部 ❹僧官補任を受け、之の職に就いた者を類聚配列したもので、(一)天台座主次第として、第一代座主義眞が天長元年(A. D. 824)六月に任ぜられた以來、永正十五年(A. D. 1515)四月十三日覺胤が任命されたまで百六十三代の座主を、(二)寶龜院檢校次第として、惠亮が貞觀元年(A. D. 859)に任ぜられた以來、文永五年(A. D. 1268)十二月圓守が任ぜられたまで八十代の檢校を、(三)初嚴院檢校(長吏)次第として、安惠(補任年時不明)以來文永二年(A. D. 1265)智圓(任命年時不明)が檢校在職中に權僧正に叙任されたまで三十七代を、(四)無勤等檢校次第として、建立和尙(補任年時不明)以來弘安元年(A. D. 1278)四月尊助任命に至る二十九代を、(五)天王寺別當次第として、圓行(補任年時不明)以來覺譽(補任年時不明、但し前任者承胤は延文四年「A. D. 1359」五月六日任)に至る七十二代を、(六)熊野三山檢校として、增譽(補任年時不明)以下良

瑜(補任年時不明なるも、前任者良慶は文和四年「A.D. 1355」十月二日補任)に至る十九代を、(七)園城寺長吏次第として良觀元年(A. D. 859)に任命された圓珍以下良治年中に任命された覺譽(前任者良瑜は良治二年「A. D. 1363」三月六日任命)に至る百四代を。(八)平等院執印次第として、永承七年「A. D. 1052」三月廿八日任命された明尊以下元弘三年(A. D. 1333)に任ぜられた良瑜まで四十七代を、(九)興福寺別當次第として、天平寶字七年(A. D. 763)に任命された慈訓以下顧過(補任年時不明、前任者盛深は應安某年「A. D. 1368—1374」任命)に至る百三十一代を叙任年月と入寂年代とを記し、往々にして在職年間及び本所住の寺名をも併記され、僧傳に洩れたる旨甚だ多きも、これらによりて之の在滅の年時等を知る根本史料である。猶右の外卷末には大師號、菩薩號、諡號、和尙號等の始めを記してある。本書の編纂者及び編纂年時は不明であるが、本書の末に「斯一册以二直光院尊海僧正本一、令二書寫一了(中略)永正十一年(A. D. 1514)四月十六日權中納言釜大藏卿菅原和長、大永四歲(A. D. 1524)季秋上澣之比以二右本一、令二摸寫一了、法眼和尙、位大僧都禪慶」とある。この識語により內容を檢するに、この書は一人の手に成つたものでなく、書き繼ぎをされたものであることが知られる。卽ち本書中僧官に叙任されたものの最後の人の任命が天台座主覺胤の永正十五年(A.D. 1518)と、無動寺檢校尊助の任命が弘安元年(A. D. 1278)と云ふ二百四十年の差がある。これにより本書を始め書き上げたものは何れまでを書いたか不明ではあるが、少くとも永正の始めまでに書かれ、最後の補筆者は現存本を筆寫した禪慶その人であらう。卽ち彼が本書を寫した大永四年(A. D. 1524)は、本書中最後の紀年である永正十五年(A. D. 1518)であるからである。 (高瀨承厳)

僧官美稱論 ❶(日) Sō-kwan-mi-shō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹無題 ❺寫本(谷大、餘大・二八四六)

僧訓日紀 ❶(日) Sō-kun-nik-ki. (支)Sēng-hsün-jih-chi. ❷一卷 ❸存、雲棲法彙第一四 ❹明雲棲袾宏(嘉靖一一—萬曆四〇 A. D. 1532—1612 一說萬曆四三、年八一寂)編 ❺僧侶としての日常訓を示したものである。法師省己之訓。爲利養出家之訓。慈心功德之訓。爲勿憂衣食之訓。檢心持女人之訓。八退八進之訓。不捨頭陀苦行之訓。不敬弟子之訓。供養父母之訓。互相輕毀之訓。攝養徒衆之訓。儉盜僧物之訓。多得利養之訓。五僧冥報之訓。不作禪定之訓。辱名無益之訓。念思二字之訓。菩薩精進之訓。誠勉出家之訓。乘戒實修之訓。一心念道之訓。雜記解惑之訓の項に分ち各項何れも經典或ひは先賢法匠の著述を引用して、僧侶生活のかくあるべきことを示したものである。以つて著者袾宏の自策自勵の嚴肅なる僧風をうかゞふべく、また以つて近世支那僧風の如何なるものなりやをうかゞふべき資料たるべく、更に廣く僧界に與ふべき警告誡訓でもある。

❹萬治三刊(正大、一〇九・六四—六六)(龍大)(谷大、餘大・二八六七)明治三刊(京大、藏・二四ソ・三)(正大、一〇八・六八)刊本(高大、寄・一・二四)(智、あ二・左・二四)、正大、一〇八・一七三、一七五)(駒大)(綜本善隆) **僧訓日紀導枝錄** ❶(日) Sō-kun-nik-ki-jia-shi-roku. (支)Sēng-hsün-jih-chi-hsia-chih-lu. ❷二卷 ❸存 ❹明袾宏(嘉靖一一—萬曆四〇 A. D. 1532—1612 一說萬曆四三、年八一寂)編、龍仁義道註 ❺明治一四刊 ❹駒大(帝國、六・一九六)(龍大、二〇三・七二)

僧家禮 ❶(日)Sō-ke-rai. (支) Sēng-chia-li. ❷一卷 ❸存 ❹眞一 ❼(參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

僧護因緣經 ❶(日) Sō-go-in-en-kyō. (支)Sēng-hu-yin-hsiang-ching. 僧護經 ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 法經錄第三、武周錄第一一

僧護經 ❶(日)Sō-go-kyō. (支)Sēng-hu-ching. 僧護因緣經 ❷一卷 ❹失譯 ❼(參考) 開元錄第三、貞元錄第五

僧綱衣裏珠考 ❶(日) Sō-gō-ri-shu-kō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第七四、服具叢書第二 ❹慈廣撰 ❺僧侶卽ち襟立は寶珠の形を儀したのだといふこと、それに記す文言を考證したもので、問答體に述べてある。僧服の元由、日本に於ける始之、襟立衣とは如何、僧綱とは何か、僧綱を寶珠形する表示如何と問ひ、これに答へ終に近世頭數には鈍色、密數には袍裝と限る樣になりたる理由、法華顧寫の時盲人平家を語る譯、顧寫の時平家を語るは何時より何人が始めたかの三ケ條の問を出し、別筆にて「自下正親院僧正純公考なりと」あり、僧綱の服のこと、顧寫云云のこと、法華顧寫の時盲人平家を語ることに就て述べてゐる。 (中谷在輝)

僧綱式 ❶(日)Sō-gō-shiki. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二六一三・一五)

僧綱之研究 ❶(日) Sō-gō-no-ken-kyū. ❷一卷 ❸存、佛教制度叢書第二 ❹荒木良仙著 ❺大正一五刊 ❻正大、一〇八・一四六)

僧綱補任 ❶(日)Sō-gō-bu-nin. 興福寺本僧綱補任、僧綱補任歷 ❷六卷 ❸存、大日本佛教全書第一二三興福寺叢書第一 ❹僧綱補任なる書は他にも存するより、これらと簡別せんため本書は特に原本所藏書の名を冠して興福寺本僧綱補任と云ひ、內題に依つて僧綱補任歷とも云ふ。僧綱の制を設けられた推古天皇卽位三十二年(A. D. 624)から近衞天皇の永治二年(A. D. 1141)に至る五百十九年間の僧官を編年體に列記したもので、各僧綱の初任及び昇進並に入滅は必ず之の年度の人名の下に記してあつて、僧傳研究の根本史料となるべきものである。本書六卷第一卷には僧綱設定より陽成天皇に至る廿四朝二百六十四年間を、第二卷は光孝天皇より花山天皇に至る八朝一百二年間を、第三卷は一條天皇より後朱雀天皇に至る四朝五十七年間を、第四卷は後冷泉天皇より白河天皇に至る三朝四

十一年間を、第五巻は堀河、鳥羽兩朝三十六年間を、第六巻は崇德天皇即位の保安四年から近衛天皇即位二年の永治二年に至る二朝二十年間を記し、この間推古天皇三十三年から天武天皇元年(A.D. 673)四佐官補任の前年に至る四十九年間と、天武天皇三年から文武天皇元年(A.D. 697)に至る二十三年間は、何れも任命された僧綱の人名等不明のため記事が缺けてゐる。けれども文武天皇の二年、僧都を大小各別に又律師の初任を見るに及びて以來永治二年までは連綿として推古朝の僧正、僧都、法頭の僧官から、尋いで天武朝の僧正四佐官の稱號に及び、更に進んで大僧正、僧正、權僧正、大僧都、權大僧都、少僧都、權少僧都、律師、權律師、法印、法眼、法橋、別當、座主、法務、阿闍梨等の僧位、僧官に至るまで一々人名の下にその一々を記し、又法會などの重要なる記事をも併記し、永和四年以後は僧綱の任命と深き關係ある維摩會講師の人名をも示してゐる。又本書は平淸盛等を始め、當代職權者の署名ある文書の裏に記したもので、之れら文書には當時の僧綱に關する宣旨、詔勅及び熊野、八幡の別當補任を記し、玆に佛師職補任を見る中に經師繪師の補をも見らるるもので、これらは經所、繪所の濫觴を研究する根本史料となるものである。惜むらくは著者の名の傳へられざることである。❾國寶(興福寺)　（高瀬承嚴）

僧綱補任 ❶(日)Sō-gō-bu-nin. ❷殘缺一巻 ❸存、大日本佛教全書第一一一傳記叢書 ❻本書は綿めて大部の編纂であつたと思はれるが今日傳へらるるものは壽永三年と、元曆元年の記錄に限られ、內容は見任僧綱と題し、次いで大僧正、僧正、權僧正、大僧都、少僧都、律師、法印、法眼、法橋と次第し、次に前僧綱を、次に各寺社に屬するものを舉げてゐる。卽ち壽永三年の條によると見任僧綱に於て大僧正一名、僧正二名、權僧正四名、大僧都二十一名、少僧都十六名、律師三十一名、法印二十八名、法眼二十九名、法橋八十七名、前僧綱として僧正一名、權僧正二名、大僧都一名、少僧都四名、律師四名、大威儀師二名、威儀師巳役五名、未役十一名、從儀師巳役四名、未役七名、維摩淨化三名、三會講師十六名、二會講師十四名、東寺灌頂阿闍梨十二名、天台灌頂阿闍梨二名、八幡宮所屬法印五名、法眼二名、法橋二名、熊野所屬法眼五名、法橋九名、佛師の法印一名、法眼一名、法橋七名、經師二名、住學生として興福寺十三名、延曆寺十二名、園城寺十二名、定額生として四名を舉げ、元曆二年の條では見任僧綱として大僧正一名、僧正二名、權僧正六名、大僧都二十四名、少僧都二十三名、律師二十九名、法印三十一名、法眼三十四名、法橋五十名、前僧綱として僧正一名、權僧正一名、大僧都三名、少僧都五名、律師四名、大威儀師二名、威儀師巳役五名、未役十四名、從儀師巳役四名、未役九名、維摩會注記三名、三會講師二十名、東寺灌頂阿闍梨十三名、天台灌頂阿闍梨三名、八幡宮所屬法印五名、法眼二名、法橋二名、佛師の法印一名、法眼一名、法橋七名、經師の法橋二名、興福寺住學生十三名、園城寺住學生十二名を舉げてゐる。　（高瀬承嚴）

僧綱補任抄出 ❶(日)Sō-gō-bu-nin-shō-shutsu. ❷二巻 ❸存、大日本佛教全書第一一一傳記叢書、群書類從第三補任部 ❹惠珍(—永萬元 A.D. 1165—)撰、深賢抄 ❻深興の記すところによると本書は本と十二巻ありとあるが、その中から抄出して二巻としたとある。編者惠珍の傳は詳細に知り得ないが、七大寺年表によると、永萬元年(A.D. 1165)十月七大寺年表を撰して居り、本書の編纂あるを見る時は非常に史學に造詣深い人であつたことが知られる。惠珍は本書を編纂するにあたり、國史及び各諸大寺に藏する文書を集めて研究したものであつて、推古天皇三十二年四月、百論僧觀勒を僧正に敍任した以來永萬元年十一月、尋範を護持僧に、又此の月、興福寺の末寺である京都淸水寺を山徒が火を放つたことまでを記し居り、七大寺年表を重複するもの往々にして存し、編年體に一事件ごとに史料を舉げて記されたもののやうである。深賢はこれを抄出するにあたり、史料をなるべく省略して、極めて重要事項のみにつき說明を加へた。　（高瀬承嚴）

僧羯磨 ❶(日)Sō-kom-ma (支)Sêng-chieh-mo. 四分僧羯磨 ❷三巻 ❸存、大正四〇・五一一No. 1809縮列七、卍一九・三、北914入、南911入、元937入、明北1123卑、淸1123卑、麗930調、天929入、相884調、法915調、至1221退、明南1233子、Nj 1128 ❹唐懷素(貞觀八—景龍元 A.D. 634—707)集 ❻四分律に依りて僧の羯磨たる行事作法に關するものを編述したるもの。自序あり。題下に「出四分律」と註し、撰號に「西太原寺沙門懷素集」とあり。內容十七條に分る。〔卷上〕一、方便篇。二、結界篇。三、授戒篇。四、師資篇。五、說戒篇。六、安居篇。七、受日篇。八、自恣篇。九、衣鉢藥受淨篇。一〇、攝物篇。〔卷中〕一一、懺衣篇。一二、除罪篇〔卷下〕一三、治人篇。一四、殺諍篇。一五、滅諍篇。一六、雜行篇。一七、修奉篇

自序に依るに、古德撰集の僧羯磨五本、卽ち(一)曹魏康僧鎧が許都にて集めし曇無德雜羯磨一卷。(二)曹魏曇諦が雒陽にて集めし羯磨一卷。(三)元魏慧光が鄴下にて集めし羯磨一卷。(四)隋法願が幷州にて集めし羯磨二卷。(五)唐道宣が京兆にて集めし刪補隨機羯磨一卷を舉げ、それ等を研尋するに、律の正文を逸し、恣に增減し又は他宗の傍義を取るものがあるから、それらの缺陷を去つて本書を作るといふ。蓋し康僧鎧本、曇諦本巳來漸次發達し來れる行事作法を增廣區訂したものであるが、著者は南山、相部と意見を異にし、特に南山の刪補隨機羯磨を評破して、「斯有近棄自部之正文、遠取他宗之傍義、致門旣其雜亂、指事

屋有遺迹」と言つてゐる。❼〔參考〕開元錄第二〇、貞元錄第三〇、律宗章疏　（大野法道）

僧史雜錄 ❶(日)Sō-shi-zatsu-roku. ❷十五巻 ❸存 ❹師點撰 ❼〔參考〕大日本佛教全書編刊豫定書目

僧史略 ❶(日)Sō-shi-ryaku. (支)Sêng-shih-liao. 大宋僧史略 ❷三巻 ❸存、大正五四・二三四No. 2126、卍續二乙・二三・二 ❹宋贊寧(—咸平四 A.D. 1001 一說至道二 A.D. 996寂) ❻大宋僧史略の下を見よ。❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第三 ❾慶安四刊(龍大、二三九・二五、研史)(谷大、餘大・一七一一)(正大、一〇三一・四四)延寶四刊(龍大、二九三・二四)延寶八刊(龍大、研史)(谷大、餘大・三一二六)(京大、國史)明治一六刊(谷大、餘大・四三)(內閣)刊本(京專)(哲、な・四・中・二四)(京大、一・二一ソ・四)

僧釋質疑論 ❶(日)Sō-shaku-shitsu-gi-ron. ❷二巻 ❸存 ❾日本版(內閣)

僧迦多律 ❶(日)Sō-ga-ta-ritsu. (支)Sêng-ch'ieh-to-lü. ❷一巻 ❸缺 ❹陳眞諦(永元元—太建元 A.D. 499—569)譯 ❼〔參考〕武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第二五

僧生假名法語 ❶(日)Sō-shō-ka-na-hō-go. ❸存、禪門法語集卷中 ❹僧生館開語 ❽大正一〇刊 ❾(駒大)

僧正御房御密談之事 ❶(日)Sō-jō-go-bō-go-mitsu-dan-no-koto. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

僧大經 ❶(日)Sō-dai-kyō. (支)Sêng-ta-ching. ❷一巻 ❹失譯 ❼〔參考〕出三藏記第三

僧傳纂要 ❶(日)Sō-den-san-yō. ❷五巻 ❸存 ❾寫本(谷大、餘大・三七四四)

僧傳排韻 ❶(日)Sō-den-hai-in. ❷百八巻 ❸存、大日本佛教全書第九九—一〇〇 ❹堯恕(寬永一七—元祿八 A.D. 1640—1695)編 ❻本書は支那に於ける各種僧傳(高僧傳以下四十八種よりとる。引用書目參照)の索引にして著者が前後七ケ年を費せる苦心の大著にして佛教研究者を益すること頗る大なる著述である。

自序並に堯憲の序に本書述作の由來は詳かである。著者は云ふ。僧傳の作は古今甚だ多し。高僧傳及び六學僧傳の如きは事蹟に從つて分類し、傳燈錄及び佛祖統紀はその機緣に從つて記し、佛祖通載及び稽古略の如きはその年代に從つてその出沒を示す。されば事蹟を知るものは高僧傳六學僧傳を撿し得べく、機緣を知るものは傳燈錄及び佛祖統紀を撿考すべく、その年代を知るものは佛祖通載及び稽古略を撿し得べしと雖ども、その事蹟、機緣、年代を知らざる者は浩瀚茫洋たる多くの僧傳より撿考するに由る所なきの憾あり。支那外典には萬姓統譜、尙友錄の如き便宜なる人名索引あり。佛教界にかゝる書なき眞に遺憾なりとて萬姓統譜等にならひて韻によつて僧傳を排し、終に一百八巻の此著をなすに至つたものである。

初に延寶八年の堯憲の序。次に同年堯如自序、次に運敞の跋あり。堯憲、運敞共に本書を推賞す。次に凡例十條あり。釋氏には氏姓なければ諱を以つて分類せしこと。諱字等も適宜用ひしこと。韻及び文字の次第は韻會の式によりて排列せしこと。梵語の一科を立てゝ天竺來朝の人を攝し、また亡名の一科を設けしこと等のことを記して、本書述作の方針、並に本書使用上の注意を述ぶ。本書を利用するものが先づ一讀すべきものである。

次に引用書目として高僧傳より淨土晨鐘に至る四十八種の書をあぐ、卽ちこれ等四十八種にふくまれたる僧傳は撿索し得るわけである。而して本文は僧名下にその略傳を出し、更にその傳を收錄せる書名巻數を示す。されば支那佛教研究者必帶の佛家人名辭典をなす。尙大日本佛教全書本は卷末に五十番索引を附錄したれば韻に通ぜざるものもよく利用し得るの便が加はつてゐる。

❾延寶八刊(谷大、餘大・一六〇九)(高大、寄・一・二一)(龍大、二九六四・三五)貞享五刊(龍大、研史)(帝國、一三七・二二四)　（塚本善隆）

僧傳約撿 ❶(日)Sō-den-yak-ken. ❷二巻 ❸存 ❹藤井玄珠(文化一〇—明治二八 A.D. 1813—1895) ❾寫本(龍大、研史)

僧堂訓 ❶(日)Sō-dō-kun. ❷一巻 ❸存 ❹龍溫(寬政一二—明治一八 A.D. 1800—1885)述、大須賀秀道編 ❽明治四四刊 ❾(谷大、宗律・二六四)

僧堂淸規 ❶(日)Sō-dō-shin-gi. ❷五巻 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A.D. 1683—1769)撰 ❾刊本(京大、印哲・Oa・1)

僧堂淸規行法鈔 ❶(日)Sō-dō-shin-gi-gyō-bō-shō. ❷五巻 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A.D. 1683—1769)撰 ❽寶曆三刊 ❾(駒大)

僧堂淸規考訂 ❶(日)Sō-dō-shin-gi-kō-tei. 洞上僧堂淸規考訂 ❷三巻 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A.D. 1683—1769)撰 ❼〔參考〕禪籍目錄

僧堂淸規考訂別錄 ❶(日)Sō-dō-shin-gi-kō-tei-betsu-roku. 洞上僧堂淸規考訂別錄 ❷八巻 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A.D. 1683—1769)撰 ❽寶曆五刊 ❾(谷大、餘大・一五九二)(京大、印哲・Oa・五)

僧尼孽海 ❶(日)Sō-ni-gek-kai. (支)Sêng-ni-nieh-hai. ❷一巻 ❸存 ❹明代唐寅選輯 ❾寫本(京大、藏・二四ソ・五)

僧尼に關する法制の研究 ❶(日)Sō-ni-ni-kwan-su-ru-hō-sei-no-ken-kyū. ❷一巻 ❸存 ❹荒木良仙著 ❽昭和五刊 ❾(立大、B一七・五)

僧尼要事 ❶(日)Sō-ni-yō-ji. (支)Sêng-ni-yao-shih. ❷二巻 ❹宋代僧璩 ❼〔參考〕新編諸宗教藏總錄第二

僧尼令 ❶(日)Sō-ni-rei. ❷一巻 ❸存 ❹雲照(文政一〇—明治四二 A.D.

數字略號 ❶題名(書名) ❷巻數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容解說 ❼末書(註釋書參考書) ❽開刊の年月 ❾現所藏者(書庫名) ❿發行所名

1827—1909)編 ㊐明治一四刊 (高大〔一・二一〕)(帝国〔一四一・一七五〕)(龍大〔二九九九・一一二〕)(京寿)

僧非論 ㊀(日)Sō-hi-ron. ㊁一巻 ㊂存〔明治和尚全集第五 ㊃上田照遍(文政一一一明治四〇A. D. 1828—1907)著 ㊄明治一二刊 ㊅(龍大〔法華〕)(京寿)(高大〔寄・一二四〕)

僧諸箱類寄附 ㊀(日)Sō-fu-in-rui-waku-mon. ㊁一巻 ㊂存 ㊃刊本(龍大〔一九六四・三六〕)(帝〔ら・一・左・一〕ら・一・右・四〕ら・一・中・一〕)

僧諸記字語類 ㊀(日)Sō-fu-kwan-ji-in-rui. ㊁百五十巻 ㊂存 ㊃完全類 ㊄完永元刊 ㊅(谷大〔京保・三〇六〕)(龍大〔一九六四・三七〕)(高大〔谷・一・二一〕)(龍大)(帝〔ら・一・左・一〕ら・一・右・四〕ら・一・中・一〕)

僧諸記字語類巻次就名 ㊀(日)Sō-fu-kwan-ji-in-rui-kwan-ji-tō-myō. ㊁三巻 ㊂存 ㊃刊本(龍大〔一九六四・三九〕)(帝〔ら・一・左・一〕ら・一・右・四〕ら・一・中・一〕)

僧諸手表略例 ㊀(日)Sō-fu-nem-pyō-ryaku-rei. ㊁五巻 ㊂存 ㊃刊本(龍大〔一九八二・一一〇〕)(帝〔ら・一・右・一〕)

僧風革新論 ㊀(日)Sō-fū-kaku-shin-ron. ㊁一巻 ㊂存 ㊃中田日鶴著 ㊄明治三一刊 ㊅(立大〔B〇四・一五四〕)

僧服改正論 ㊀(日)Sō-fuku-kai-sei-ron. ㊁一巻 ㊂存 ㊃三浦梅園著 ㊄明治三〇刊 ㊅(正大〔一一八四・五二〕)

僧服記 ㊀(日) Sō-fuku-ki. ㊁一巻 ㊂存 ㊃(谷大)

僧服集要 ㊀(日) Sō-fuku-shū-yō. ㊁一巻 ㊂存〔大日本仏教全書第七三冊真言宗事業一〕

㊃作尼令〔原正式に定むる僧侶の服制をのべ、三代実録、本朝度縁抄等の中に記すもの及び左右記、玉海、人車記、貞観儀式の日記をも抄録して凡そ僧制に関する解説、信貴、故實百般に亙つて詳説してゐる。(井川定慶)

僧服正儀 ㊀(日) Sō-fuku-shō-ken. ㊁上本・上末上下の三巻 ㊂存〔大日本仏教全書第七三冊真言宗事業一〕 ㊃光国編 ㊄享保一五(A. D. 1730)

㊅僧侶に関する律制は重々である。服装の分類も時代と地方によつて異つてゐる。本書は律の本文に基きそれに新たな諸説の正しい解釋を引用し来つて論述し、決して一家に偏してゐない。

上巻本末に亙つて三部数を十章に分けて、下巻に於て、尼衆戒、菩薩戒、菩薩戒の十門即ち、泥洹僧、浴衣、覆肩衣、助身語衣、袈裟、鉢、錫杖、瓶、坐具、漉水囊、香炉、花瓶、香合、上下三巻で八門に記き及んでゐる。著作十五年正月浦都宥天寺蔵本に基き、後ち江戸増上寺に移し同年秋これを上梓に公にしてゐる。(井川定慶)

僧服正儀和解訓 ㊀(日) Sō-fuku-shō-ken-kyaku-gyō-kun. ㊁一巻 ㊂存 ㊃風雅和尚(宝暦三一—元文三 A. D. 1654—1738) ㊄刊本(谷大〔宝大・三四五〕)(龍大〔一二〇七四・二一一〕)(帝〔ら・ヤ・左・二五〕)

僧服問答 ㊀(日) Sō-fuku-mon-dō. ㊁一冊 ㊂存 ㊃宗乗著 ㊄写本(高大〔寄・一・三八〕)

僧分規教示 ㊀(日) Sō-bun-gō-kyō-ji. ㊁一巻 ㊂存 ㊃慈眼(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)著 ㊄天保一二年厚徳坊に於ける僧分への教示。 ㊅写本(谷大〔宗大・一八四九〕)

僧分別規教示 ㊀(日)Sō-bun-betsu-gō-kyō-ji. ㊁一巻 ㊂存 ㊃文政十一年五右衛門坊に於ける僧分への教示。 ㊅天保四年 ㊆(谷大〔宗大・三一〇六五〕)

僧侶改革論 ㊀(日)Sō-hei-kai-ryō-ron. 幕府寺院年譜改革論 ㊁一巻 ㊂存 ㊃井上回了(一—大正八 A. D. 1919)著 ㊄明治三一刊 ㊅(帝国〔ヘ一一・六五〕)

僧寶正續傳 ㊀(日)Sō-bō-shō-zoku-den. (支)Sēng-pao-chēng-hsū-ch'uan. ㊁七巻 ㊂存〔卍續一二ヌ・一〇・四 ㊃宋代編著

㊄宋代僧侶の名僧傳である。雲棲の祐をはじめとして四祖、紫柏、憨山、蕅益、梵琦、雲栖、花嚴、月川、白浦、法雲、龍門、空、禾山大、文殊、瑞、法華、寒岩、圓、真空、法、大慈、鑑因、元、慈受、瑞、故、資、鉄山、瑞、慈山、鑑能、資、鉄山大上、十人僧侶と鉄山大上人、令聞王の僧伝三種の十人の列傳記である。巻尼に古僧侶に代りて尼僧侶に成ふるの者を加してゐる。著者石頭画禅は法を鉄牧の資に請ぎ、

僧寶傳不二分 ㊀(日)Sō-bō-den-fu-ni-shō. 僧侶伝記類不二分 ㊁存 ㊃鉄眼方秀(延宝元—宝永三一 A. D. 1361—1424)

㊅〔参考〕 日本高僧伝要略目、僧侶目録

僧職遺稿 ㊀(日) Sō-boku-i-kō. ㊁一巻 ㊂存 ㊃宗匠法藤(寛永元—明治一六 A. D. 1852—1883)著 ㊄明治一八刊 ㊅(龍大〔一〇四・一五〕)(帝国〔一九・九八〕)(谷大)

僧侶語之法語 ㊀(日)Sō-boku-shi-nō-hō-wa. ㊁存 ㊃写本(龍大〔法華〕)

僧名録時行記 ㊀(日) Sō-myō-sū-ji-gyō-kyō. (支) Sēng-ming-shu-shih-hsing-ching. ㊁一巻 ㊂缺 ㊃宋代僧侶 ㊅〔参考〕 出三藏記集四、三寶記集四、内典錄第一、武周錄第一、開元錄第一、第五、貞元錄第二、第五

僧侶類纂年表記 ㊀(日) Sō-myō-tatsu-so-sei-chū-ki. ㊁存〔續々群書類從第一 ㊃鶴峰戊申

㊄僧侶に関した年紀表示文書王朝から鎌倉行力迄、僧侶寺院、諸職の功績を説く人々の新説、所説等天に生れてゐる者の新説、王子、新帝天に生れてゐる者を各国人に亙つて明確して紀年に基づいて説明した。

文は僧門の徒に帰、徒は国祚の法令に依

㊅〔参考〕 国祚法令上 ㊆写本(立大〔唐・一九ソ・四〕)刊本(帝国〔令刊・一・乗〕)

(後藤大川)

る。内容は簡単な漢文で国も和文を長いてゐるが現本が天治二年(A. D. 1125)の写本で平安末期の地名を知る事が地理の参考として役立つこと思ふ。 (横田良宣)

僧語法語 ㊀(日)Sō-yō-hō-go. ㊁一巻 ㊂存 ㊃白隠慧鶴(享保八—天明三 A. D. 1723—1783)著 ㊄〔参考〕 臨宗全書刊行会定本目

僧侶家法論 ㊀(日)Sō-ryo-ka-zoku-ron. ㊁一巻 ㊂存 ㊃東山善著 ㊄大正六刊 ㊅(龍大)

僧侶三罪録 ㊀(日)Sō-ryo-san-zai-roku. ㊁一巻 ㊂存 ㊃慈眼(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)著 ㊄明治一七刊(谷大〔宗大・一八三・三一五〕)(帝国〔一八三・三一五〕)(谷大〔宗大〕一〇六三〔宗四・三八〕)

僧侶試験十條教考 ㊀(日) Sō-ryo-shi-ken-jū-jō-mi-kō. ㊁一巻 ㊂存 ㊃写本(谷大)

僧侶自治論 ㊀(日) Sō-ryo-ji-kwa-tsu-ron. ㊁一巻 ㊂存 ㊃平松賢寛著 ㊄明治一九刊 ㊅(帝国〔一五・八三〕)

僧侶自滅の原因 ㊀(日)Sō-ryo-ji-metsu-no-gen-in. ㊁一巻 ㊂存 ㊃日加田秀雄 生涯新天地記 ㊅(京寿)

僧侶必携 ㊀(日)Sō-ryo-hik-kei. 明治新令僧侶必携 ㊁一巻 ㊂存 ㊃日内安重著 ㊄明治一〇刊 ㊅(谷大)

僧侶貴機往返記 ㊀(日) Sō-roku-ga-gi-ō-hen-ki. ㊁一巻 ㊂存 ㊃可山著 ㊄写本(谷大〔印有・ヘ三一七〕)

素王集術 ㊀(日)Sō-gyoku-i-kō. ㊁一巻 ㊂存 ㊃高木石谷、山崎闇斎共編 ㊄大正一一刊 ㊅京都貝原書記

素龍清写本 ㊀(日) Sō-ryū-kutsu-nem-pu. ㊁一巻 ㊂存 ㊃舞宗旋(一—大正八 A. D. 1919)編 ㊄明治三七刊 ㊅(龍大〔詩史〕)(正大〔一七一・九三〇〕)(帝国〔一六・二一一九〕)(京大〔一一・二一一ン・一五〕)

素龍清書録 ㊀(日) Sō-ryū-kō-roku. ㊁五巻 ㊂存 ㊃洪川宗誼(文化一三—明治一五 A. D. 1816—1892) ㊄明治一五刊 ㊅(龍大)

総合的新歌学研究 ㊀(日)Sō-gō-teki-shin-ran-ken-kyū. ㊁一巻 ㊂存 ㊃大村可之助著 ㊄大正一一刊 ㊅(谷大〔宗・井四八五〕)(龍大〔法華〕)(京大〔一・二一六ン・一〇〕)

総合日本仏教史 ㊀(日)Sō-gō-nip-pom-buk-kyō-shi. ㊁一巻 ㊂存 ㊃福川正(明治一七—昭和六 A. D. 1894—1931)著 ㊄昭和七刊 ㊅東京日蓮宗出版

倉理集証目録 ㊀(日) Sō-ri-shū-kyō-moku-roku. (支) Tsung-li-chung-ching-mu-lu. 祥瑞沙門釋道安編撰集証目録、安法師所撰録、道安録、安公録、安公録 ㊁一巻 ㊂缺 ㊃東晋道安(建興二—大元一〇 A. D. 314—385)撰

㊄本録は東晋の沙門釋道安の撰述によるものであつて、其きには祥瑞沙門釋道安編撰集証目録と称せられ、又皆しで安法師所撰録、道安録、又道安録、安公録、安公録、安録とも呼ばれて居るものである。本録撰集の由来は、「仏土集証目録」の撰述者たる道安自身が「仏土集証目録」は、

目、自来撰述和目録、今有等撰三年、所定二百録、撰集出経、撰集出録、所全出会、弁定二人所引)と云つて居る如く、後漢代より本録が撰集された経典の多数の多数の撰述三年(A. D. 374)頃に至る約二百年間に撰述三種に依て西来翻訳された経典は既に可成りの数的に達して居つたけれども、未だ其の全部を統一的に整理記録したものがなかつた。此に文化の六朝の諸師は未本の編纂を其の理に従つて居つたのみならず、中には其の編纂を一定に安じて居つたものもあるけれども、それ等の諸師の編纂を集成せんとするには、所る集録編纂の方法に相応の編纂を安定といふことがあらしてつかれたのみならず、時間に関係者名を記載する如きことはそのの点の時的に未だなかつたことであるから、撰者の調査といふことがこれ又非常な難事業であつたのである。更に三百年の間に経一も遊離の時間の経過、領々の撰者に依て各地に編纂された経典を集録し、其の編纂があつたことを知ることといふことが一層の難事業であつたから、道安は各地を遊歴する時に其の全力を注ぎ、道安は各地を遊歴する時に其の全力を注ぎ、道安は各地を遊歴する時に其の全力を注ぎ

見る限り、本書は次の如き組織を持つて居る。

自孝謙天平以来、延今寛治三年、凡三百年間に渡り、公卿・殿上人・僧侶・武士・庶民・婦女・童子等の日記・書簡・文書・説話・和歌・連歌・物語・説経・謡曲・狂言・浄瑠璃・歌舞伎・浄瑠璃・新内・長唄・清元・常磐津・義太夫・浪花節・落語・講談・俗謡・民謡・俗歌・俗説・俗信・俗習・俗言・俗語・俗文・俗画・俗絵・俗彫・俗刻・俗工・俗人・俗世・俗界

大正一八・八・八No. 902〕編纂 ❼唐不空（開元一天寶元A. D. 705—774）譯 ❽陀羅尼（Dhāraṇī）は譯して總持と云ふ。この陀羅尼を誦言・憶念・明了・忘ぜざるの記憶力に對して、法・義・三摩地・文字（又面相）の四義ありとして、明了・文字（又面相）の二義あり。又陀羅尼・眞言等は別れも相通用して誦するのである。文字の多少に依つて、區別されることは無いと云ふ實も明瞭にしてある。

❾〔參考〕 佛祖歷代通載卷三 ❿清末（宋末）〔宋・一六〕・一四 （雲井龍雄）

總攝陀羅尼經讚 ❶(日)Sō-shaku-da-ra-ni-gi-san. 國書總攝陀羅尼經讚 ❷1卷 ❸存、國書刊行會 ❹淨土眞宗聖典 ❺淨土眞宗聖典

總制眾生心地修證 ❶(日)Sō-shū-i-zu-jin-go-kyō-kai. ❷1卷 ❸存 ❹下總國佐倉藩士佐倉宗吉述懷に就いての御教誡。

❺寺社定書 ❻〔谷大〕〔宗大・一五四〕

總攝集義論經 ❶(日) Sō-shō-mu-jin-gi-kyō. (支) Tsung-shê-wu-chin-i-ching. ❷1卷 ❸大正藏經第四 ❹〔參考〕 法苑珠林一、七藏經卷三、藏經卷三、開元錄卷六・一六、貞元錄卷二・一六 ❺淨土眞宗聖典

總攝論 ❶(日)Sō-shō-roku. ❷1卷 ❸存 ❹眞諦

總法士拔悉寶瑜伽法 ❶(日) Sō-jō-do-e-hyō-shō-sho-moku-roku. ❷1卷 ❸存、大日本佛教全書總目錄卷一

❹大日經は一卷今日教以下諸王和讚等に著

eki-dō-zen-ji-i-kō. 安永寶永年間 ❷1卷 ❸存 ❹藤井蘭洲 ❺明治三十九刊 ❻〔高大〕〔帝國〕一〇九・四二〕

總持院山大師略傳 ❶(日) Sō-ji-kai-san-tai-so-ryaku-den. 總持院山大師略傳 ❷1卷 ❸存 ❹眞谷宗榮 ❺明治一一刊 ❻〔高大〕

總持院祖師教義抄 ❶(日) Sō-ji-kai-so-go-kyō-gi-shō. ❷1卷 ❸存 ❹曾上綱海（一新社三四 A. D. 1901）編 ❺〔參考〕 藤井日章

總持院祖師傳抄 ❶(日)Sō-ji-kai-so-go-den-shō. 總持院祖師傳抄 ❷1卷 ❸存 ❹曾上綱海（一新社三四 A. D. 1901）編 ❺〔參考〕 藤井日章

總持經 ❶(日)Sō-ji-kyō. (支) Tsung-ch'ih-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹〔參考〕 上卷參照、下卷參照

總持經 ❶(日)Sō-ji-kyō. (支) Tsung-ch'ih-ching. ❸存、佛說無垢淨光大陀羅尼經（大正三・八五No. 154. 22）

總持經要文 ❶(日) Sō-ji-kyō-yō-mon. ❷1帖 ❸存 ❹眞上元寶 ❺〔貴重〕

總持寺史略年譜 ❶(日) Sō-ji-ji-en-kaku-shi. 總持寺歷代略年譜 ❷1卷 ❸存 ❹明治四五刊 ❺〔高大〕 一一九七四・四二〕

總持寺祖師傳抄 ❶(日)Sō-ji-ji-go-yu-rai-shō. 大本山總持寺祖師傳抄 ❷1卷 ❸存 ❹石川素童 ❺〔參考〕 藤井日章

總持寺史論 ❶(日)Sō-ji-ji-shi-ron. 曹洞宗大本山總持寺史論 ❷1卷 ❸存 ❹岡田善明著 ❺明治三七刊 ❻〔帝國〕 九・四一四〕

總集 ❶(日)Sō-ji-shū. 新撰總集抄 ❷4卷 ❸缺 ❹京都（奈良朝末期）一弘仁一三A. D. 767—822） ❺〔參考〕 天明名目錄 佛書目

總持抄 ❶(日)Sō-ji-shō. ❷1卷 ❸存、大正七七・五三 No. 2412 ❹京都（正元一嘉慶元A. D. 1259—1350）寫

❺天台宗の著者京都の人、後に天台宗の人、後に眞言宗の人、後に眞言宗の人、後に眞言

㊀存　㊁〔唐〕慧琳　㊂天明八(A. D. 1788)
㊃安政二(支不〔印刷・ひ・四四〕)　㊄天(谷法記)

蘇合悉分門法　㊀(日) Sō-shim-bi-sha-mon-shi-shō.　㊁1卷　㊂存　㊃行圓沙門　㊄〔唐〕不空譯(密教部門)　文政二(支不〔谷大〕・一〇二八)　㊅天(眼山文庫)

蘇合悉分門法　㊀(日) Sō-shim-bi-sha-mon-hō.　㊁1卷　㊂存〔日本大藏經〕天台宗聖教蘇合悉第一〔、法法大藏全集蘇合悉第一〕三善和(結緣未法)　㊃

㊄これは行法次第ではなく、觀子、三形、密印、種種觀、三摩地觀、祈願法、令圓滿等等印明等を記したる小部密教のものである。蘇合悉分門の法は台密に獨ふるの所で、東密に蘇合悉分門の法は台密に獨ふるの所で、東密に蘇合悉分門の法は台密に獨ふるの所で、この書も密教の作であらうと云へふ。この書も密教の作であらうと云へふ。

㊅天文年間(古寫本)　㊆天(東寺聖教)　㊇〔唐〕不空譯(大周字)　㊈天(東寺聖教)　(古寫眼寶)

蘇合悉分門法沐浴供次第法　㊀(日) Sō-shim-bi-sha-mon-yoku-tō-gu-shi-dai-shi.　㊁1帖　㊂存　㊃善川尊代寫(東寺聖教)

蘇合悉部夜叉儀軌　㊀(日)Sō-shim-bi-na-ya-ka-gi-ki. (支)Shuang-shên-p'i-na-yeh-ch'a-i-kuei.　蘇合悉部夜叉儀軌、大聖歡喜雙身毘那夜迦天形像品儀軌　㊁1卷　㊂存、大正二一・三一三　No. 1274、編卷四、卍續二・九・四　㊃(一大唐元A. D. 774—)譯　㊄大聖歡喜雙身毘那夜迦天形像品儀軌の下を見よ。

蘇合悉部夜叉儀軌　㊀(日) Sō-shim-bi-na-ya-ka-ten-gyō-zō-bon-gi-ki. (支) Shuang-shên-p'i-na-yeh-chia-t'ien-hsing-hsiang-p'in-i-kuei.　大聖歡喜雙身毘那夜迦天形像品儀軌、蘇合悉部夜叉儀軌　㊁1卷　㊂存、大正二一・三一三　No. 1274、編卷四、卍續二・九・四　㊃(一大唐元 A. D. 774—)譯　㊄大聖歡喜雙身毘那夜迦天形像品儀軌の下を見よ。

蘇合法　㊀(日) Sō-shin-hō.　㊁1卷　㊂存、大日本佛教全書卷四〇所收(支)　㊃文久二(一八六二)—元安五 A. D. 1205—1282)撰　㊄天文六年

蘇天文集　㊀(日)Sō-ten-shi-dai.　㊁1卷　㊂密菴(蘇)五一—天和二(A. D. 774—835)　㊃〔參考〕　蘇密菴蘇密三

蘇天私記中末　㊀(日) Sō-ten-shi-ki-chū-ketsu.　㊁1卷　㊂存　㊃東寺(宝文)和五一—永祿元 A. D. 1016—1081)記　㊄寶治二(A. D. 1045)　㊅宥天(知恩院)

蘇合悉部夜叉儀軌　㊀(日) Sō-shim-bi-na-ya-ka-hō. (支) Shuang-shên-p'i-na-yeh-chia-fa.　大聖歡喜雙身毘那夜迦法、毘那夜迦法、大聖歡喜雙身毘那夜迦法、蘇合悉部夜叉儀軌　㊁1卷　㊂存、大正二一・三一九　No. 1265、編四一四、卍一六・一〇、明北1396社、地1396社、臨140唐、新856四、明南1194寺、Nj. 1403　㊃〔唐〕不空譯(開元一大唐元 A. D. 705—774)譯　㊄大聖歡喜雙身毘那夜迦法の下を見よ。　㊅宥天(寶記)

蘇合悉部耶調天形像品儀軌　㊀(日) Sō-shim-bi-na-ya-ka-ten-gyō-zō-bon-gi-ki. (支) Shuang-shên-p'i-na-yeh-chia-t'ien-hsing-hsiang-p'in-i-kuei.　大聖歡喜雙身毘那夜迦天形像品儀軌、蘇合悉部夜迦天形像品儀軌　㊁1卷　㊂存、大正二一・三一三　No. 1274、編卷四、卍續二・九・四　㊃(一大唐元 A. D. 774—)譯　㊄大聖歡喜雙身毘那夜迦天形像品儀軌の下を見よ。

蘇合法　㊀(日) Sō-shin-hō.　㊁1卷　㊂存、大日本佛教全書卷四〇所收(支)　㊃文久二(一八六二)—元安五 A. D. 1205—1282)撰　㊄天文六年

蘇天文集　㊀(日)Sō-ten-shi-dai.　㊁1卷　㊂密菴(蘇)五一—永和二(A. D. 774—835)　㊃〔參考〕　蘇密菴蘇密三

蘇天私記中末　㊀(日) Sō-ten-shi-ki-chū-ketsu.　㊁1卷　㊂存　㊃東寺(宝文)和五一—永祿元 A. D. 1016—1081)記　㊄寶治二(A. D. 1045)　㊅宥天(知恩院)

蘇和語錄　㊀(日) Sō-hō-o-shō-go-roku. 蘇和國師語錄、蘇和錄　㊁1卷　㊂存　㊃蘇和宗源(弘安三一—建武二(A. D. 1263—1335)撰　㊄〔參考〕　扶桑僧林宗日　㊅宥天(谷大・三三三六)

蘇和國師語錄　㊀(日)Sō-hō-koku-shi-go-roku. 蘇和國師語錄、蘇和錄　㊁1卷　㊂存　㊃蘇和宗源(弘安三一—建武二(A. D. 1263—1335)撰　㊄〔參考〕　僧雲日錄

蘇和國師年譜略　㊀(日)Sō-hō-ko-ku-shi-nem-pu-ryaku.　㊂存、續群書類從卷九(第二)三〇卷

㊃蘇和國師宗源(弘安三一—建武二(A. D. 1263—1335)の年譜で、建治三年十三歲の時東福寺の第一回目の下に受戒して剃髮してから建武二年七十三歲に至る迄六十年間の出生活を見るに、弘安二年は名國師傳記に等しくて、時年十三歲の時は名國師傳記に等しくなり、時年十三歲の時は名國師傳記に等しくなり、東福寺に住しては東福寺多上座に參禪修學の結果、師は、孝師、孝師、孝師

道友たる平氣嚴主宗惠の敍を得て上梓したもので、我が國に慶長活字本、延寶八年夏、京都妙心寺龍華院無著道忠和尙校讎せる旨の跋文を附刺せし京都村上治兵衞藏版本などがある。

❼〔參考〕禪籍志卷下 ⑨延寶八刊(京大、一七ソ・六)(龍大、研佛)古刊本(帝國、特別・く・六)

(大久保堅瑞)

叢林公論管蠡 ❶(日) Sō-rin-kō-ron-kwan-kwai. ❷一卷 ❸存 ❹玄淵(此山)編 ⑨寫本(駒大)

叢林校定淸規總要 ❶(日) Sō-rin-kō-tei-shin-gi-sō-yō. (支) Tsung-lin-chiao-ting-ch'ing-kui-tsung-yao. 咸淳淸規、叢州淸規、校定淸規 ❷二卷 ❸存、卍續二・一七・一 ❹惟勉編 ❺宋咸淳一〇(A. D. 1274)

❻本書は、叢州(浙江金華縣)后湖の惟勉和尙が、南宋度宗咸淳十年結制前二日(A. D. 1274)百丈大智禪師の古淸規以降傳寫された諸本を校定錯寫して本書二卷と成し、叢林校定淸規總要と題して行つたものであるから、叢州淸規、咸淳淸規とも別稱し、校定淸規とも略稱するのである。宋徽宗帝崇寧二年に成つた禪苑淸規より後ること百七十一年、元武宗帝至大四年に成つた禪林備用淸規に先立つこと三十七年で共に叢林に重用せられて居る。惟勉は、本書を傳へてより十年後の元世祖帝至元二十一年解制後五日、或者に答へて時世の推移あるも叢林の規矩は輕々に變革補修す可らざる旨、北山推雲寮に於て重書して居るのに依つて本書の編纂に對する惟勉の態度が偲ばれる。後、至元三十年十月(A. D. 1293)淨慈の愚極邦慧禪師が題語を附して流通せしめた。上下二卷より成りよく禪林に於ける圖式規矩を傳へて居る。上卷に三十九項目、下卷に二十項目を揭げ、下卷第二十項は所謂、無量宗壽禪師の入衆日用(日用小淸規)である、今、續藏本に依つて其の列次を示さば左の如くである。

〔卷上〕 (一)告香依戒出班燒香之圖。(二)告香普說立班之圖。(三)四節住持特爲首座大衆僧堂茶圖。(四)四節知事特爲首座大衆僧堂茶湯之圖。(五)四節前堂特爲後堂大衆僧堂茶圖。(六)僧堂鉢位十六板首之圖。(七)諸山法眷特爲住持煎點寢堂刷坐之圖。(八)諸山特爲住持煎點寢堂分手坐位之圖。(九)特爲新舊兩班茶湯管待之圖。(一〇)夏前知事頭首特爲新桂搭茶八出之圖。(一一)夏前知事請新住持入院知事交寺記狀式。(一二)知事請新住持特爲茶湯狀式。(一三)住持請新首座特爲茶筋式。(一四)四節住持免人事筋式。(一五)四節茶湯筋狀式。(一六)夏前請新桂搭特爲茶單式。(一七)報兄弟謝桂搭筋式。(一八)夏前回禮新桂搭筋式。(一九)叢寮解結特爲湯狀式。(二〇)頭首點衆寮江湖茶請目式。(二一)諸山尊宿相見請升座狀式。(二二)節節給暫到筋式。(二三)專使請住持住持受請。(二四)新住持入院。(二五)遊退兩班、附遊退侍者、請名德首座。(二六)請立僧。(二七)解結冬年特爲點茶湯、附新請首座特爲茶湯。(二八)特爲小座湯。(二九)夏前特爲新桂搭茶。(三〇)衆寮解結。(三一)頭首衆寮點江湖茶。(三二)住持頭首行堂點茶。(三三)法歲禮儀。(三四)特爲住持前煎點。(三五)住持出入。(三六)侍者職事。(三七)兄弟相看禮儀。

〔卷下〕 (一)上堂普說小參(巡堂茶見此)。(二)告香入室請益。(三)坐禪坐堂放參。(四)念誦巡堂(朝望巡堂見上堂篇)。(五)諸山尊宿相見。(六)臘節啓建滿散。(七)請初嚴頭。(八)建散初嚴會。(九)四節土地堂念誦。(一〇)排鉢位。(一一)鐘魚鼓板。(一二)遊退寮主。(一三)病僧念誦。(一四)當代住持涅槃。(一五)諸山尊宿遷化遺書。(一六)亡僧。(一七)法嗣師忌辰。(一八)祖師忌辰。(一九)月分須知。(二〇)無量壽禪師日用小淸規。

(大久保堅瑞)

叢林雜記鈔 ❶(日) Sō-rin-zak-ki-shō. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

叢林拾遺 ❶(日) Sō-rin-shū-i. ❷一卷 ❸存 ⑨(京大、印哲・Q・三九)

叢林拾遺略淸規 ❶(日) Sō-rin-shū-i-yaku-shin-gi. ❷一卷 ❸存 ❹德昌(東漸)、康永三—應永三〇 A. D. 1344—1423)撰 ❼(參考) 禪籍目錄

叢林集 ❶(日) Sō-rin-shū. ❷九卷 ❸存、眞宗全書第六三 ❹惠空(正保元—享保六 A. D. 1644—1721)撰 ❺元祿四—一一(A. D. 1691—1698)

❻此集は淨土眞宗大谷派初代講師光遠院の作。自序に「今一筋に宗を習はしめん事をのみ思つて其恐慮を忘れたるに似たり、無慚無愧と可し謂爾。條目繁くして遺きあり、近きあり淺きあり深きあり、義文事理眞僞すべて楽めしかば叢と林との茂きが如し、不し守し次第一者林の枝を離へ、叢の葉を採するに喻ふ、外に漢魏叢書あり、內に法苑珠林あり、叢林あり山叢あり今簡するに集の字を以てす、かるがゆへに題して叢林集と云ふ、所記の條々必ず是正しかるべきにはあらず、但是れ一家の法門に將る事しもあり と古きを尋ねて宗を學ぶの一助たらしめんとなり、親屬厚志の門族のほかは堅く見寫を制する所なりと云ふ。西福寺釋惠空筆記」とあればその製作の意趣及び內容を推するに足る。此集に、單に叢林集と題して享保二丁酉年京都の金尾半七郎等の出版に依る十一冊本と、眞本叢林集と題し、明治十四年白川嘉構氏が校訂して大谷派連枝大谷勝尊藏版の名にて出版せし六冊本との二種がある。今六冊本を見るに、雲華院大合講師の跋語がある。云く、「先聖光遠院講師の叢林集は吾僧學問の軌範なり、爾るに坊間に板行せるものは某甲が刺を射るために私に刻々にこれを剔出してその文字の脫落多きのみならず、其義のあやまること少からず、その講師自筆の本は二條西福寺に現存せり、先聖香月院坊本にその自筆の本を朱にて校合して帳中の祕とせり、飛州往還寺主大英その侍者をつとめし日それを恩借して寫されたり、予玆歲の秋奉命高山御坊に逗留の時にその校本をみて寺主の執心に感ずこの本もとも珍とすべし仍記」と。これ天保六乙未の記なり。今校訂者白川氏の緒言に依るに、白川氏は往還寺主と親戚の故に、此れを借覽多年繕寫校訂して更に京都二條西福寺所藏の眞本叢林集と惠空講師

の生家なる近江金森義立寺の寫本と對校し、更に昌行院法海講師の繕寫して法主台下の秘庫に藏せられし一本を對校して出版せしものと云ふ。原著は九卷ありて、初六卷四十八條を義集、後三卷三十條を事集と爲す。今白川氏はその前六卷義集を付梓し後三卷の事集は項目を揭げしのみなり。要するに前六卷は一宗の教義に關する諸論目につきての講師の諸研究を出したるものなり。一宗學徒の羅針として正に座右に供ふべきの良書なり。眞本第六卷の終に付してある元祿十一年講師五十五歲の跋には「元祿四年集草本七卷、今曆戊寅精再、治九帖云々」とあればその製作年代を知るに足る因に坊刊本を見るに、第三冊終に 正德三年癸巳九月吉日。第四冊終に 本云惟時元祿六癸酉年六月七日、淸書此卷暴惠空子行年滿五十歲。第七冊終 正德四甲午年五月吉日。第八冊終 元祿四未年六月此一卷功畢。正德二年壬辰七月吉且。第九冊終 享保三年戊戌五月吉日。大阪心齊橋筋順慶町柏原屋淸右衞門。第十一冊終には 享保二丁酉年七月吉辰。(此下に京師の金屋、藤屋、大阪の柏原屋の書肆名三名を記す)。とある。この元祿は惠空師の稿成りし年月、正德、享保は開板せし年月なるべし。十一冊本は一時に開板されしものにあらで部分的に數度に板成りて流行され後に十一冊にまとめられしものならむか、從つて眞本に比するに出沒甚しくその順序も不次第にして、寫誤脫文の多き所以なきにあらず、眞に雲華院師が某が刺を射る爲めに刻々に剔出して云々と評さるゝ點であることが知らる。

❼〔參考〕 淨土眞宗敎典志第二 ⑨享保三刊(谷大、宗大・九二一二)(帝國、二一三・八四)明治一四刊(谷大、宗大・六九九、三二二九)(龍大、一五〇一・八三—八四)(晉、こ・六・中・一一)寫本(谷大、宗大・二四七一)

(上杉慧岳)

叢林集要文 ❶(日) Sō-rin-shū-yō-mon. 叢林要文 ❷三卷 ❸存 ❹寶永八刊 ⑨(龍大、一五〇一・八五、研眞)(谷大、宗大・六〇一)(哲、こ・四・左・二)

叢林盛事 ❶(日) Sō-rin-sei-ji. (支) Tsung-lin-sheng-shih. ❷二卷 ❸存、卍續二乙・二一・一 ❹宋代古月道融編

❻黃龍下六世の法孫、塗毒鼓禪師の法嗣である古月道融禪師が羅湖野錄を讀み、佛祖機緣の語要、嘉言善行など撿索に便ならざるを嘆じてあるのに感ずる所あり、衞宗弘法、見賢思齊の志ある學人のために、三十年來身自ら叢林に在つて眼見耳聞せる道人賢匠等の嘉言善行を編錄して本書を成したもので、大慧宗杲禪師の法嗣である鄂山の佛照德光禪師が本書を見て大に喜び侍者道權に、此れは筲に吾門の盛事なり胡ぞ木に刊して以つて後世に傳へざるやと賞讚されたのに依つて叢林盛事と題し、南宋慶元三年八月自序し、同五年(A. D. 1199)同じく大慧の法嗣である華藏の遯菴宗演禪師の跋文を得て上梓したものである。上下二卷、上卷に程大鯛參黃龍より孝宗詔徑山潛に至る七十條。下卷に寶峰詳又手より榮陽郡王に至る七十一條を收めたもので、我が國の刊本には、京都字治興聖寺梅峰竺信禪師が、東武の源無生居士護法の志を以つて本書を壽梓するに與へた跋文を附刺した元祿四年八月京都小川源兵衞(友松堂、松月堂、興文閣)刊行本がある。

❼元祿四刊(駒大)元祿六刊(帝國、八二一・二六〇)(哲、こ・四・中・二九)(內閣)

(大久保堅瑞)

叢林盛事附解題原文 ❶(日) Sō-rin-sei-ji-tsuketari-kai-dai-gem-bun. ❸存、國譯禪宗叢書第三

叢林盛事別考 ❶(日) Sō-rin-sei-ji-bek-kō. ❷一卷 ❸存 ⑨寫本(駒大)

叢林俗曲集 ❶(日) Sō-rin-zok-kyo-ku-shū. ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

叢林藥樹 ❶(日) Sō-rin-yaku-ju. ❷二卷 ❸存、禪學大系戒法部 ❹馬仙(石雲) ❺對客閑話の殿論。 ⑨享保四刊 ⑨(駒大)

叢林要文 ❶(日) Sō-rin-yō-mon. 叢林集要文 ❷三卷 ❸存 ❼(參考) 淨土眞宗敎典志第二

叢林兩序須知 ❶(日) Sō-rin-ryō-jo-shu-chi. (支) Tsung-lin-liang-hsü-hsü-chih. ❷一卷 ❸存、卍續二・一七・一 ❹明費隱通容(萬曆二二—永曆一五 A. D. 1593—1661)著

❻本書は、南岳下三十四世費隱通容禪師が、四十六歲の明崇禎十一年(A. D. 1638)嘉興の金粟寺に住し法嗣百癡行元和尙を西堂藏に任じ、行元に命じて淸規を節取し、兩序須知を集め執事選守に便せしめたもので、卷末に崇禎十二年と見へて居るから二ケ年に涉つて完成したものであらう。卽ち叢林に於ては、佛殿法堂の兩班位である兩序東序の知事は位に據つて大衆に臨駈する重職であるが、百丈淸規以降、禪林の威儀に隆替あり、各自或は執意自矜し或は茫然忽略に附し、當同攻爭して亂雜なるを愛へ、禪林の規矩を復古せしめんと兩班知事の知悉すべき大綱を錄ひ、細事を詳にし、條欵を彙成して本書を成した旨、卷首の總引に叙して居る。卽ち禪林に於ける兩班知事の心得書である。其の內容は次の如くである。

〔兩序〕 (一)首座須知(西堂通用)。(二)書記須知。(三)藏主須知。(四)知客須知。(五)浴客須知、附內園頭。(六)方丈侍者須知。 〔東序〕 (一)堂寺須知。(二)維那須知。(三)副寺須知。(四)典座須知。(五)直歲須知。

(大久保堅瑞)

叢林兩部抄 ❶(日) Sō-rin-ryō-bu-shō. ❷二卷 ❸存 ❹如月壽印(—永正頃 A. D. 1504—1520—)、策彥周良(文龜元—天正七 A. D. 1501—1579)共編 ❼(參考) 禪籍目錄

叢林歷觀 ❶(日) Sō-rin-reki-kwan. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

緇衣光儀 ❶(日) Sō-e-kō-gi. ❷二卷 ❸存、大日本佛敎全書第七三服具叢書第一 ❹慈敏道光撰 ❺寶曆一二(A. D. 1762)三月

❻緇もの、皮革によつて作つたものを僧が

身に着けてよいかどうか、施主があつて献じた場合、既に死んだ獣の毛皮は許してよいかどうかなど、諸律を博く引用して論じてゐる。（井川定慶）

竈神祭文 ❶(日) Sō-jin-sai-mon. ❷一軸 ❸存 ❹大永五寫 ❹(金剛三昧院)

竈門私記 ❶(日)Sō-mon-shi-ki. ❹皇慶(貞元二—永祚四A. D. 977—1049) ❼(參考) 本朝合璧撰述密部書目

造貴口 ❶(日)Zō-ki-ku. ❷四帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❹(寶龜院)

造興福寺記 ❶(日) Zō-kō-fukū-ji-ki. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二三興福寺叢書第一

❺此書は永承元年四月に奈良興福寺金堂、講堂、東西金堂、南圓堂、鐘樓、經藏、南大門等が烏有に歸したため、永承二年正月廿二日に春宮權大夫資房卿定文を書せしめて内大臣左少將藤原實仲朝臣をして再建せしめられたる時の日記にて、永承二年正月廿二日發願の日より、永承三年三月一日落慶の義に至るまでの記錄で、興福寺再建が如何に大規模に計畫されたものであるかの一端を知り得る資料であると同時に、其間に左右せる僧はもとより、公卿武家等の名も多く、當時の歴史研究には好資料である。（橋本凝胤）

造次作法符 ❶(日) Zō-ji-sa-hō-fu. ❷一帖 ❸存 ❹永正一一寫 ❹(寶龜院)

造次顛沛鈔 ❶(日) Zō-ji-ten-pai-shō. ❷一卷 ❸存 ❹結覺述 ❹寶暦三刊 ❹(谷大、餘大・二二一九)

造像銘記 ❶(日) Zō-zō-mei-ki. ❷一卷 ❸存 ❹考古學會編 ❹大正一五刊 ❹(立大、B一八・三〇)(京大、佛教・E・二六)

造像量度經 ❶(日) Zō-zō-ryō-dō-kyō. (支) Tsao-hsiang-liang-tu-ching. 造像量度經解 ❷一卷 ❸存、大正二一・九三六No. 1419、卍續一・八七・四 ❹清工布查布(—乾隆七A. D. 1742—)譯 ❹寫本(京大、藏・一カ・一)刊本(智、ろ・一・右・二九)

造像量度經 ❶(日) Zō-zō-ryō-dō-kyō. 梵論壇補佛說造像量度經 ❷二卷 ❸存 ❹清工布查布(—乾隆七A. D. 1742—)譯、今泉雄作訓點 ❹明治一八刊 ❹(帝國、一三一・二三五)(内閣)

造像量度經解 ❶(日)Zō-zō-ryō-dō-kyō-ge. (支)Tsao-hsiang-liang-tu-ching-chieh. 造像量度經 ❷一卷 ❸存、大正二一・九三六No. 1419、卍續一・三六・一・一・八七・四 ❹工布查布譯解 ❹清乾隆七(A. D. 1742)

❺佛說造像量度經は舍思多羅、尼拘落陀、波哩曼那羅、佛陀波羅底麻、羅乞喜那、那底麻(Śāstra-nyagrodha-parimaṇḍala-buddha-pratimā-lakṣaṇa-nāma) の飜譯である。これを造像量度經と名づけしは宜譯であつて、直譯せば開示佛像綻横平等如無節樹相制名讚經であると飜譯者は記してゐる。而して本經は梵本より直接譯されたものでなく、西藏經よりなされた。梵本は已に失はれたものと信ぜられてゐたが、近年尼波羅に於て發見され、經題を Da'sa-tila-nyagrodha-parimaṇḍala-buddha-pratimā-lakṣaṇa と云ふ。未刊の梵本なる爲め未だ對校の機無きも同一内容のものと思ふ。

漢譯造像量度經の本文は極めて簡潔にして僅に漢字一千二十一字の短文で、その大部分は伽陀の體を以つて書かれてゐる。飜譯者工布查布はこの本文の一段毎に詳密なる解說を加へ六倍餘のものとなした。

本經は十樣佛像の造法、卽ち身分の比例、及び莊嚴を述ぶるを主眼とする。この點に於て本經は漢譯大藏中唯一の存在で、他の未刊未譯の梵本 Pratimā-māna-lakṣaṇa 及び Sambuddha-bhāṣita-pratimā-lakṣaṇa-vivaraṇa-nāma (以上二本西藏藏經中にあり) と共に佛教工巧明の貴重なる典籍である。

本經の刊本としては同治十三年の清國金陵版があり、日本續藏經及び大正藏經のそれはこれに同じい。尙この外に明治十八年今泉雄作氏がその續補とともに訓點を施して出版せる二卷本もある。

❺同治一三刊 ❹(京大、藏・一四ソ・一)

❹金陵刻經處

造像量度經解續補 ❶(日) Zō-zō-ryō-dō-kyō-ge-zoku-ho. (支)Tsao-hsiang-liang-tu-ching-chieh-hsu-pu. ❷一卷 ❸存、大正二一・九四五 No. 1419附 ❹清工布查布(—乾隆七 A. D. 1742—)述 ❹刊本(京大、藏・一四ソ・一)

造像量度經續補 ❶(日) Zō-zō-ryō-dō-kyō-zoku-ho. (支) Tsao-hsiang-liang-tu-ching-hsu-pu. ❸存、大正二一・九三六No. 1419、卍續一・八七・四

❹本書は造像量度經の飜譯者なる工布查布の著述である。造像量度經が十樣の佛像一項のみに就て述べ居るを不充分なりとし、補足の意を以つて試みたもの。内容は一、菩薩像。二、九樣度。三、八樣度。四、護法像。五、威儀式。六、妄造誡。七、徒置法。八、裝藏略。九、造像福の九項である。その說くところ專ら印度密教像及び西藏像等に基くものなるも我國佛教像形式の研究に資するところ少くない。

❹刊支本(京大、藏・一四ソ・一)(逸見梅榮)

造壇式 ❶(日)Zō-dan-shiki. ❷一卷 ❸圓珍(弘仁五—寛平三 A. D 814—891) ❼(參考) 山家圓德撰述篇目集卷上、密乘撰述目錄

造壇道具鈔 ❶(日) Zō-dan-dō-gu-shō. ❷一軸 ❸存 ❹鎌倉時代寫 ❹(寶龜院)

造壇問訣 ❶(日) Zō-dan-mon-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹藤曉(延寶七—延享四A. D. 1679—1747)述 ❹寫本(正大、一四八・一三二)(谷大・長保・二一五)刊本(高大、一・五四)

造壇問訣 ❶(日) Zō-dan-mon-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹法明(寶永三—寶暦一三 A. D. 1706—1763)述 ❹德川時代寫(寶龜院)寶暦四刊(正大、一四八・一三一)

造泥塔作法 ❶(日)Zō-dei-tō-sa-hō. ❷一帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❹(寶菩提院)

造天地經 ❶(日) Zō-ten-chi-kyō.

(支)Tsao-tien-ti-ching. ❷一卷 ❹疑僞經 ❼(參考) 仁壽錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

造東大寺知識詔書 ❶(日) Zō-tō-dai-ji-chi-shiki-shō-sho. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第一二一東大寺叢書第一

造塔 ❶(日)Zō-tō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三七阿娑縛鈔之内 ❹永發(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

造塔延命功德經 ❶(日)Zō-tō-enmei-kū-doku-kyō. (支) Tsao-ta-yen-ming-kung-te-ching. ❷一卷 ❸存、大正一九・七二六 No. 1026、續開一五、卍續一・二・五 ❹唐般若譯

❺佛陀が舍衛(Śrāvastī)國の祇樹給孤獨園に居られた時に、波斯匿(Prasenajit)王が、佛前に進み出でて言ふには、相師我を占して七日の後に將に命終すべしと云ふ、我れ無常の苦の爲めに逼惱せられて安からず、世尊願くは我を救護し玉へと、その時に佛は王に對して、大王よ安んぜよ、憂怖すること勿れ、諸佛如來に眞方便あり、大王をして延壽を得せしめん。王若し無常の苦惱を免れて、如來の法身壽量に超入せんと欲せば、先づ發心して佛に淨戒を持し、最上の福を修すべし。これに依つて大王の壽命を延すことを得るであらう。次に王の請により、佛は王に對して、慈悲喜捨の四無量心を說き、且つ曰く、持戒とは不殺生戒を持することであり、上福田を修するには、造塔に過ぎたるはなし、一切衆生を悲愍し救護すれば、諸天善神は常に來り守護して拾離せざること影の形に隨ふが如くである。大王は無邊の福利を生ぜんと欲せば、佛塔を建立せられよ、その福利は思議し難く、三世の如來の共に稱讚し玉ふ所である。昔一小兒あり、牧牛を業とす、相師あり、この牧牛兒は七日の後に必らず死すべしと言つた。この兒は或時に他の小兒等と沙を聚めて戲を爲して居つたが、偶々塔を造つた爲めに、七年の壽命を延ばすことが出來た。大王よ決定心を以つて、如法に造塔すれば、得る所の功德は、測り知る可らざるものがある。凡そ造塔の時には先づ一切衆生に對して大悲心を起すを先導となし、菩提心を以つて根本と爲し、然して後に地を淨め壇を作り、造塔に取り懸る可きであるとして、その次に造塔の作法が十二項に亘つて說示され、終りに造塔の功德の廣大なることが詳かにされてある。（神林隆淨）

造塔功德經 ❶(日) Zō-tō-ku-doku-kyō. (支) Tsao-ta-kung-te-ching. ❷一卷 ❸缺 ❼(參考) 武周錄第一二

造塔功德經 ❶(日) Zō-tō-ku-doku-kyō. (支) Tsao-ta-kung-te-ching. (梵) Chaitya-pradakṣiṇa-gāthā. (藏傳) mchod-rten bskor-bahi tshigs-su-bcad-pa. 造塔經 ❷一卷 ❸存、大正一六・八〇一 No. 699、續宙七、卍一二・六、北488登、南302登、元496登、明北519維、清519維、麗505羊、天497登、指458羊、法482羊、至445絲、明南495維 Nj. 523三十帖策子第一七 ❹地婆訶羅譯 ❹唐永隆元(A. D. 680)

❺本經はその名の示す如く造塔の功德を說いたもので、造塔の大小の如きはその功德の上に何等の差別を及ぼすものにあらず、塔中に納藏する舍利の一分、法藏の一分、これ全く如來の全身たるを示し、その造塔の功德を以つて梵世往生に比し、更に「諸法因緣生、我說是因緣、因緣盡故滅、我作如是說」の四句義を塔中に納むべきを勸め、その偈はこれ佛法身、若し衆生にしてこの因緣の義を解了するものは、卽ちこれ佛を見たてまつるものなりと說けり。卽ち本經の目的が法身說に基づける造塔に存することと疑ふの餘地なし、種々の造塔、浴佛、浴像等に關する經典と比較すべし。

❼(參考) 開元錄第九、貞元錄第一二（本田義英）

造塔法 ❶(日)Zō-tō-hō. ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第五一曇譯鈔之内 ❹曇譯(康治二—建暦二以後A. D. 1143—1212—) ❹延慶三寫 ❹(寶龜院)

造念誦法 ❶(日) Zō-nen-ju-hō. ❷一卷 ❸存 ❹亮範(寛文一〇—元文四A. D. 1670—1739)記 ❹寫本(生源寺)

造佛墮獄之義辯見事 ❶(日) Zō-butsu-da-gokū-no-gi-hen-ken-no-koto. ❷一卷 ❸存 ❹原本姫路妙立寺、寫本(立大、DO・二〇四)

造佛論義 ❶(日) Zō-butsu-ron-gi. ❷一卷 ❸存、日蓮宗々學全書第一本門宗部之内 ❹日辰(永正六—天正元A. D. 1509—1573)述 ❹永祿元(A. D. 1558)

❺富士日興の門流に佛像の造立を許すや否やの異義あり、大石寺側は、末法の教主は本因妙の菩薩なれば、色相莊嚴の佛像を造立して本尊とするを許さず。これに對して京都要法寺側を代表せる日辰は因果は一久遠報身如來の前後なれば、佛像を造立、色相莊嚴の本尊を安置すべしと論じたるものである。（望月歓厚）

造物者論 ❶(日) Zō-bussha-ron. ❷一卷 ❸存 ❹今來恭本述 ❹明治一〇刊 ❹(高大、一・五七) ❹東京森江書店

造房記 ❶(日) Zō-bō-ki. (支) Tsao-fang-chi. ❷一卷 ❼(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2638

造浴室王經 ❶(日)Zō-yoku-shitsu-ō-kyō. (支)Tsao-yü-shih-wang-ching. ❷一卷 ❸存 ❹失譯 ❼(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五第一五、貞元錄第八、第二五

造立形像福報經 ❶(日) Zō-ryū-gyō-zō-fuku-hō-kyō. (支) Tsao-li-hsing-hsiang-fu-pao-ching. (梵) Tathāgata-pratibimba-pratiṣṭhānuśaṃsā-sūtravadānti nāma dharma-paryāya. (藏) bphags-pa de-bžin-gšegs-pahi gzugs-brñan bshag-pahi phan-yon yan-dag-par brjod-pa Shes-bya-bahi chos-kyi rnam-grañs. 參照。造佛像福報經、造立形像經、形像福報經

❷一卷 ❸存、大正一六・七八八 No. 693、續宙七、卍一〇・七、北273女、南285女、元283女、明北256知、清285知、麗281僧、天232女、指263僧、法270僧、至350得、明南280才、Nj. 290 ❹東晉代(A. D. 317—420)

名所行登 ❽(名庫書)名藏所現 ❼月年の刊寫 ❻書末(書)(書考參書釋註) ❺說解要内 ❹代年作著 ❸著者 ❷缺存 ❶數卷 ❶(名書)名題 ❶號略字數

矢書

❹後漢代矢書の作者崇高書の異書であるが、この漢末代矢書本には、題の後部に宋等王の書跡、並に李谷の李王等が加へられて居る。巻一は大篆したまへ

は、ソンまと呼ぶこと書きを他しん、年少十四歳の李等王が独立巻書を使用し、その間書等を李谷に同ふに使用し、李谷が他書の功績に書法原にして、後年に於ける今心の書体の功績に現書系統に属するを記けるもの。

何者ぞこの書が讃記後十四年印流布の書跡を作者として会立したと云書をもらるゝことは、題後部にこの題を聞きたるものの年代に関記後部に往生するに依つても知られ、法華寺ソを語でもること思ふ。他の意象、法華経に関する題成書語。

❹〔参考〕 法苑珠林三、開元釈教録三、貞元釈教録五　（天田豊文）

象王字法華経文分別文 ❶(ロ) Zō-ryū-man-da-ra-shi-bun-kwa-mon. ❷1巻 ❸寺院（唐書李等元一弘仁1三 A. D. 767—822） ❹〔参考〕 天聖広灯録等給等目、山海経図説等給目録等上、新唐書等給目録

象王経 ❶(ロ)Zō-ō-gyō. (支) Hsiang-wang-ching. ❷1巻 ❸矢書 ❹大唐新録四巻の別出 ❺〔参考〕 田三郎記録四巻、法苑珠林四、仁王経疏三、開元釋教録三、貞元釋教録四、開元釋教録1六、貞元釋教録1七

象腋経論語録 ❶(ロ) Zō-gai-zen-ji-go-roku. ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 書後目録

象頭皮編 ❶(ロ) Zō-kyō-hi-hen. (支) Hsiang-chiao-p'i-pien. ❷六巻 ❸存、唐書等外書等三六一四1 ❹巻中 ❺宮本（編者大〔1〕〇1〕1〕1・1〕1〕〔支大〔藏・1〕四ソ・1〕）明版（内閣文庫）

象場修羅 ❶(ロ) Zō-shaku-yu-gyō. (支)Hsiang-chi-yū-ching. ❸存、中阿含経等七（大正1・四六四No. 26. 30）

象場修羅 ❶(ロ) Zō-shaku-yu-gyō. (支)Hsiang-chi-yū-ching. ❸存、中阿含経等三六（大正1・六五六No. 25. 146）

象場修羅 ❶(ロ) Zō-shaku-yu-gyō. 現代宮殿象場等経 ❸存、現代宮殿現代本等 ❹〔1〕〇宮殿部等 ❺新撰了解、甲斐書等行井書

象頭精舎経 ❶(ロ) Zō-zu-shō-ja-kyō. (支) Hsiang-t'ou-ching-shê-ching. (梵)Gayāśīrṣa（引用）（藏）ḥphags-pa gayā-mgoḥi-ri shes-bya-ba theg-pa then-poḥi mdo. 象頭山頂精舎経 ❷1巻 ❸存、大正1四・四八七No. 466、宋四五1・1〇・大、北225函、南238函、定239函、明 卍1〇・大、北235函、南236函、鹿225函、天225函、相210函、法221函、南302函、明南234函、Nj. 240 ❹西尼多羅支書 ❺南岡卓三（A. D. 582）

❹象頭精舎経書は什書文殊師利問菩提経、元魏菩提流支訳書般若詩山頂経、唐玄奘訳大乗大集地蔵十輪経、唐玄奘訳般若詩山頂経等と同本的関係に立つものの。書経什書経題の示す如く、文殊が如来に菩提の如何なるものなるかを問ひたるに対して、如来は菩提の相定義名にして真相なし、無生法忍、三昧相、言亡慮絶のものなるを示す、文殊はその解釈的意味によると菩提の内容を了解し、之れを得未切天子及び天子等に説教的意義に、一切諸法無常苦空なるを説き、しかも菩薩に対して方便法門菩提なるの二方面あるを示し、或ひは前者を得一切智、不思議解脱門、切智の二方面を説く、その現実の立場は全然これ般若波羅の方便とする。唐代に於ける仏教の二面性、仏教に属する。唐代山頂を舞台にせるに新し、不思議の人生観、新令とせるは、或ひはその所説の頂点にGaya Īrṣa（象頭）とあるべきものではなからんと思ふ。而して何れを以つて正とすべきか未だ明に出来ずとせるにある。

❹〔参考〕 三宝記巻三、内典録巻五、開皇記巻四、貞元釈教録1〇　（天田豊文）

象田島寺禅師語録 ❶(ロ)Zō-den-soku-nen-zen-ji-go-roku. (支) Hsiang-t'ien-chi-nien-ch'an-shih-yū-lu. ❷1巻 ❸存 ❹明代印寺宮書、陸象謙 ❺嘉泰年間 甲 ❻〔参考〕

象跡経 ❶(ロ)Zō-yak-kyō. (支) Hsiang-yeh-ching. ❷1巻 ❸宋 ❹支婆羅譯書 ❺宋孫盛撰定一中平三（A. D. 147—186） ❻宋1書 ❼〔参考〕 開元釋教録1四、貞元釋教録1四

象跡経 ❶(ロ)Zō-yak-kyō. (支) Hsiang-yeh-ching. (梵) Hasti-kakṣya（引用）（藏）glaṅ-poḥi-rtsal shes-bya-batheg-pa Chen-poḥi mdo. ❷1巻 ❸存、大正1七・七八1 No. 814、新仏、卍1四・四、北186乗、南197乗、定193乗、明北189乗、法189乗、鹿186乗、天194乗、相181乗、法182乗、南264乗、明南187乗、Nj. 193 ❹象象象象象 ❺西宋天定元一1九（A. D. 424—442）

❹西晋竺法護訳書象象象経の異本であつて、象象象象といふこの名の示す如く、大乗は象象象象象の立場に立ち、一切諸法これ不可得、象象象象象1以来は象を語じ、象象象象象

(二三)地主品(一〇經)……一三
(二四)高輪品(一〇經)……一四―一六
(二五)四諦品(一〇經)……一七
(二六)四意斷品(一〇經)……一八―一九
(二七)等趣四諦品(一〇經)……一九
(二八)犀聞品(七經)……二〇　四法
(二九)苦樂品(一〇經)……二一
(三〇)須陀品(八經)……二三
(三一)增上品(一一經)……二四
(三二)善業品(一三經)……二四
(三三)五王品(一〇經)……二五
(三四)等見品(一〇經)……二六　五法
(三五)邪業品(一〇經)……二七
(三六)聽法品(八經)……二八
(三七)六重品(一〇經)……二九・三〇　六法
(三八)力品(一二經)……三一・三二
(三九)等法品(一〇經)……三二
(四〇)七日品(一〇經)……三四・三五　七法
(四一)莫長品(八經)……三五
(四二)八難品(一〇經)……三六・三七　八法
(四三)馬血天子品(一〇經)……三八・三九
(四四)九衆生居品(一一經)……四〇
(四五)馬王品(六經)……四一
(四六)結禁品(一〇經)……四二
(四七)善惡品(一〇經)……四三　十法
(四八)十不善品(六經)……四四・四五
(四九)牧牛品(一〇經)……四六・四七
(五〇)證三寶品(一〇經)……四八　十一法
(五一)非常品(一〇經)……四九
(五二)大愛道涅槃品(九經)……五〇・五一

その序品第一に於いては、本經編纂の由來を述べて、阿難がその弟子優多羅にこれを付囑すること、並に優多羅の本生譚を述べ、十念品第二は三寶と戒と施と天と休息と安般と身と死とを念ずることを說きしもの、廣演品第三は、前の十念を更に布衍せしもの、次の弟子品第四は阿若拘隣を初め、百比丘について叙べしもの、比丘尼品第五は難提迦彌を初め五十比丘尼について述べしもの、淸信士品第六は三果商客を初め四十人の在俗の信士について述べしもの、淸信女品第七は難陀婆羅を初めとして三十人の信女について述べしもの、阿須倫品第八は、偈に十經の所說の要點をあげて、「須倫と益と一道と、光明と闇冥と道品と沒盡と信と、熾盛と無畏等となりと叙べ、一子品第九は一子一女子の喩をあげて諸比丘を誡しめ、更に菩道を勸め、色欲と鬼想の過失と、觀不淨想を說きしもの、護心品第十は不放逸を說き、布施の意義を明にし、福報を說き、信を勸めて心に善本を念じ、佛を念ずべきことを說きしもの、不逮品第十一は貪欲・瞋恚・愚痴・慳貪を滅せば、不還果の證果を得ること、更に財物に執着する心と妄語とを誡しめ、提婆の墮獄を豫言せしもの、一入道品第十二は、心を專注するを一入といひ、八正道を道といひ、この一入道によつて五蓋を滅し、四窟止を修すべきこと、及び身口意の三業に惡悲を勸め、如來を供養し、膽病の功德、閑靜處に住するの功德等を說きしもの。利養品第十三は利養を貪ることの墮獄の因となること、昧欲の滅すべきこと、末利夫人によりて波斯匿王の歸佛せしこと、那憂羅公長者への說法、二十一結の遠離すべきこと、帝釋天をして須菩提比丘の病を訪はしめ給ふことを說きしもの次の五戒品第十四は、五戒、五善を說きしもの、有無品第十五には、有無の二見、法・財の二施、有法・有財の二業、智慧と愚癡の二法と、力と無畏との二法、二因二緣あつてよく正見を起すことを說き、次の大誡品第十六には難陀比丘のこと、二種の涅槃、善・不善、邪・正の二法と燭明の法と、邪・思惟の二力と、阿那律の說法と羅云を誡しめ給ふことを說き、安般品第十七には、羅云のために安般法を說いて四無量心の修すべきことを勸め、佛と轉輪聖王と辟支佛・漏盡阿羅漢の出現し難いこと、煩惱と不煩惱との二法、邪・正の二見のこと、頂生王の物語を引いて欲愛に倦くなきを誡しめ、善・惡の二知識のこと、周利槃特並に舍利弗の世典婆羅門の敎化、阿闍世の父王狀殺を說きしもの、懺悔品第十八は、懺悔の二法、獸足の有無、法財の二施、迦葉の婆羅門婦敎化、佛醉象の調伏、難陀比丘の還俗を誡しめ給ふこと、佛の大愛道夫人への說法等を說きしもの、勸請品第十九は成道直後の梵天への說法と、初轉法輪と、釋提桓因のために利欲の法を說くこと、拘絺羅・迦旃延の說法と、闍婆婆利女の林園寄進を說きしもの、善知識品第二十は善知識に親しむべきこと、五百比丘提婆に誘はれて敎團を去りしこと、曼陀羅留支比丘の本生譚、人に師子王の如きものと、羊の如きものとあること、精進と怠慢、止と觀との二法、悲歡と精進の二法、說法の難易、父母を供養するの功德、朱利槃特の拂塵の敎へによつて證悟せしことを說きしもの、三寶品第二十一は三寶歸依の功德と、三福業、旺娑の因緣と、惡心を起して三處に意をあんずべきこと、身口意の三業に善をなすべきこと、三良藥、欲・色・痛の三の遠離すべきこと、三不牢要を說きしもの、三供養品第二十二に、佛と阿羅漢と轉輪王の三は供養せらるべき資格のあること、三善根、三痛、三有爲相、愚者の三相三法、三學の法、三敬愛の法等を說きしもの、地主品第二十三は地主王の物語、釋提桓因婆拘盧比丘を試みること、二十億耳比丘の敎化、婆提長者の本生譚、三種の香、賢聖の三法・三不善根・三業・三觀想を說きしもの、次の高輪品第二十四は輪のこと、毘沙鬼のための說法、同族の釋迦族への說法、五比丘の敎化、三迦葉の歸服、三齊の法、長壽王の物語、三結使、三三昧を說きしもの、次の四諦品第二十五は四諦・四種の饒益、如來出現の四未曾有法、四生、四果等を說きしもの、次の四窟斷品第二十六には四意斷の修すべきこと、三十七道品の法は不放逸を第一とすること、婆迦利比丘の自殺のことを說き、等趣四諦品第二十七には、四諦の義、四受、給孤獨長者に布施の眞義を說き、菩薩の法に六波羅蜜を具すること、四無所畏、四衆のことを說き、犀聞品第二十八には、目連等說提長者及び、その姉を敎化すること、四種の聖の說法、四界、四禪、四沙門果の

ことを說き、苦樂品第二十九には世に先苦後樂等の四人あること、四梵福、四食、四辯、四神足、四起愛、四大河、四姓、四等心のことを說き、須陀品第三十には佛と須陀比丘との問答、滿財長者子の歸佛を說き、增上品第三十一には生福婆羅門への說法、一比丘のために四事の法を說くこと、四事の行跡、佛の正法中に四園・四池のあること、四流・四樂、目連と阿難の弟子との諍ひを說き、次の善業品第三十二に五根・五蓋・禮佛の五功德・五天使・天人の五衰・布施の五功德・五種の布施を說くもの、五王品第三十三は五王互ひに論議して佛に裁決を仰ぎしこと、月光長者の子尸婆羅の物語、五蔕地の法、永く遊行することの五難、比丘の五種の非法を說くもの、次の等見品第三十四は、舍利弗の五盛陰の說法、釋迦族滅亡の顚末、天人の五衰の相、王舍城に於ける頻婆娑羅王への說法、三十三天と阿須倫との戰ひのこと等を說きしもの、次の邪業品第三十五には、邪・正の二業のこと、佛出現の五事、五布施、婦女の五力、五種の惡、五欲想、多聞者比丘の證悟、骨伽摩長者のことを說き、聽法品第三十六には聽法の五功德、裕室を造る五功德、屠牛者の業報、忉利天の說法を叙べ、六重品第三十七には、六重の法、奇光如來のこと、舍利の說法、呪願の六德、墮獄の六法、生天の六法、涅槃に到る六法、第一最空の法、生福梵志への說法を說き、力品第三十八は、六種の凡常力のこと、外の六塵、內の六入、指鬘外道の歸佛、六情の斷ずべきこと、治化について波斯匿王への說法、如來の六種の功德、佛昆舍離の疫病流行を退治せられしこと、六師外道のことを說きしもの、次の等法品第三十九には法を知る等の七法、婆度樹の七喩、七事水喩、七識住、七憂窹、七寶、童眞迦葉の證悟、七車の喩を說き、七日品第四十には、世界の成立と破壞のこと、七不退の法、七使、七福田、迦旃延の說法等を說き、莫長品第四十一には摩訶男への說法、那伽波羅比丘の婆羅門敎化、七處の善を觀じて四法を察すべきこと、舍利弗の說法、佛迦葉及び阿難に法を付囑することを說きしもの、八難品第四十二には、佛の出世に遇ひながら、法を聞くことの出來ない八難のあること、八大地獄のこと、阿難の四未曾有法、阿難に答へて婦人への窹度、須跋の出家、入涅槃のこと、八未曾有の法、地震の八因、八大人念、八衆、布施の八功德等を說き、馬血天子品第四十三には馬血天子のために八正道を說き、八圓齊法のこと、牧牛者難陀への敎化、優波旬の降伏のこと、阿闍世の苦惱と佛陀の敎化、執着すべからざる世間の八法等を說き、九衆生居品第四十四に九衆生居、嗔願の九種の德、比丘の九法、婦人に男子をして因はれしめる九法のあること、一切諸法根本經のこと、佛親しく病比丘を看護せられしこと、滿呼王子の懺悔を說き、馬王品第四十五には婦人に九要法のあること、羅刹女の本生物語、世間の四食と五世間の五食のこと、外道世尊を妬み、尸利掘長者をそゝのかして毒殺せしめんとし、却つて歸依するに至つたことを說き、結禁品第四十六には禁戒の十事の功德、聖者の居る所に十事あること、如來の十力、國家に親近するに十種の非法あること、國王に十法あること、比丘の十法・十論・十義・十演のこと等を說き、次の善惡品第四十七は生天と墮獄と涅槃に到達するに十法のあること、十種の惡業の報ひと、十事の功德と、羅云のために平等の施を說き、拘頭比丘のために十善の法を說いたもの、十不善品第四十八は十惡業報のこと、過去七佛の制戒のこと、彌勒出現の時の國土の狀況、弟子の多少、過去七佛の種姓、說法その他のこと、師子長者の供養、舍利弗の神力のことを說きしもの、次の放牛品第四十九は、放牛の法の十一法に因み、比丘に佛道を知ると知らざるとに十一の得失あること、十二因緣皆十一法より出づること、象舍利弗の再度の出家のこと、十二因緣の說法、勢羅・翅賓の二梵志の敎化、一食の法のこと、智行・誓願の二種の沙門のこと、提婆達多の墮獄のことを說きしもの、證三寶品第五十は、佛寺と法と僧とを禮拜する十一事、大天王の本生譚、末位梨等四人の墮獄の果報、五道に趣く因と涅槃の道果のこと、智慧增長の五時、一比丘に大小の二劫を說くこと等を說きしもの、非常品第五十一は衆生の流轉と無常想を思惟すべきこと、淸淨香響王の本生物語、五弊のこと、給孤獨長者の四子の歸依、舍利弗・阿難長者の病床に十二因緣を說くこと、長者の生天、長者の子の嫁善生のために婦人の四種の型を說いて敎化せられしことを說いたもの、最後の大愛道般涅槃品第五十二は、大愛道比丘尼五百の比丘尼と共に佛に先立ちて入滅すること、婆陀比丘尼の說法、閑法に五種の功德のあること、波斯匿王の十夢のことを說いたものである。

本經はこれに該當する巴利の增支部と對照する時は、單純に一法二法等とその名目をあげる巴利增支部に比して幾多の附加寫入を見、殆んど增一の體裁を失ふもので、例へば、十念品、弟子品、比丘尼品、淸信士品、淸信女品の如きも、巴利文のそれにあつては、殆んどその列名に近いものであらうが、增一にあつては一々に附加の記事を見、十念品の次の廣演品に於て、十念を更に布衍するが如きは、巴利文には全く存しないものであり、殊に增一の中には、大乘經典にいふ經典の書寫の功德を說き、或は「世尊の說く所各々異り、菩薩意を登りて大乘に趣く」といひ、又「方等大乘の義は玄邃なり」といふが如き、卷二の廣演品第一經には、如來の金剛身を論じ、卷四十四の十不善品第二經には「我釋迦文佛の壽命極めて長し、然る所以は因身誡度を取ると雖も、法身存在す」といふが如き、大乘涅槃經の法身常住說の現れるに見ても、屢々、當來佛としての彌勒のことの現れるに見ても、著しき顯露を示すものであつて、大乘的色彩を極めて濃厚に帶びるものであり、その他卷十八、四窹斷品の第九經に「如來に四不可思議有り、小乘の能く知る所に

書品第十二部には、日蓮宗所伝の法華経の前に往詣する法如きは、印土に言語を異にする小乗を宣揚し、貧乏は巻三十九、六度集経三部には、日蓮宗所伝の法華経の前に往詣する法如きは、印土に言語を異にする小乗を宣揚し、貧乏は巻三十九、六度集経三部の比較研究は、巳刻年支給に見えるが如き、年一的の現象研究は、巳刻年支給に見えるが如き、年一的の現象研究は、巳刻年支給に見えるが如き、年一的の現象

語譯記卷三、四完卷卷五、續完卷卷七

❼〔參考〕十門 ❽〔高大〕卷・一・二二〕（帝國一六八・五三）（昭和新修）

雜阿含經 ❶(日)Zō-a-gon-gyō.(支)Tsa-ê-han-ching.(梵)Saṁyuktāgama.(引用)(巴)Saṁyuttanikāya.(P. T. S. 刊) 別譯雜阿含經 ❷十六卷・三六四篇 ❸存 大正二・三七四No. 100 經庫五 卍一三・九 北655函經 龍669函經 宗661函經 明北542函五函 北542函五函 龍658天函 天955函經 鼎618天函 北643天函 南891函 北 明南537合 Nj. 546 ❹宋代(A. D. 350—431)求譯

❺このこの雜阿含經は因緣雜阿含經と言ひ、十六卷三百五十六四篇を載せるものにて、雜阿含經の四卷、二十二卷、三十二卷、三十三卷、三十四卷、三十五卷、三十六卷、三十八卷、三十九卷、四十卷、四十一卷の後半、四十二卷、四十四卷、四十五卷、四十六卷、四十八卷、四十九卷、五十卷に相當し、一部の相應阿含には相應ならず、雜尼耶僧、雜阿含に比して屬る小きく、雜阿含の一卷ゐ、實は所謂の經文を異にすることが故に、この小さいなりに屬つた雜阿含が、その一たまたまこれと言はせるものである。但今問題は雜阿含（二三・二七）（二十二）に、雜阿含（二三）は、この別譯雜阿含しの名で、この別譯雜阿含の少分阿含と言はるるものとし、本來獨所屬としてゐる。その理由の中に、この雜阿含は雜阿含の少分阿含と稱すべきものを含む。それにこの雜阿含の九篇十篇（二十七篇）を比べて、（二十七篇）としたものと思はれる。しかるに、この所屬篇は、その所屬篇の一部分が、眞本を見て上に、大部分雜阿含（大正二・四三四中）に見出され、但今（人・五右）に「修多羅中說十方」の文が十六・十八篇（大正二・四八八中）に見出されるところからして、此編の如くこの雜阿含を本來獨所屬のものとすることは、疑を挿てるるが如く知れない。

❼〔參考〕十門 ❽〔高大〕卷・一・二二〕（大正二・一一一一・二）（帝國一六八・五三）（昭和新修）

雜阿含經 ❶(日)Zō-a-gon-gyō.(支)Tsa-ê-han-ching. ❷一卷・二七篇 ❸存 大正二・四九三No. 一〇一 經庫五 卍一三・一〇 北749函 南763函 宗755函 明北543函 龍543函 鼎752天 天748函 鼎708天 北738天 南935 Nj. 547 ❹宋譯代(A. D. 222—280)求譯

❺これは單本に一卷二十七篇の短い編集で、そのうちに、その中十七篇が雜阿含經中にあり、十三篇が雜尼耶僧中に見出されるものである。この中第九篇は老苦法師の身體觀（大正一五・二四二上）に全同、第二十七篇は安世高の七處三觀經（大正二・八八七五左）に從同（後段が少しく簡單）し、田三藏記後三（大正五五・一六八上中）に別譯とされる二十五篇が、その十七篇等社會經經門篇を含い、全部この雜阿含經の內容をたしてゐる。それで雜阿含の中にいつしかこの田三藏記所屬の二十五篇から、その十七篇を含む。それにこの雜阿含の九篇十篇二十七篇を、それ以上の雜阿含の所屬篇に對すれば、二十七篇としたものと思はれる。しかるに、この所屬篇が、その所屬篇の一部分が、眞本を見て上に、大部分雜阿含（大正二・四三四中）に見出され、但今（人・五右）に「修多羅中說十方」の文が十六・十八篇（大正二・四八八中）に見出されるところからして、此編の如くこの雜阿含を本來獨所屬のものとすることは、疑を挿てるるが如く知れない。

❼〔參考〕十門 ❽〔高大〕卷・一・二二〕

僧家法 ㊐(日)Zō-kaku-hō. (支)Tsa-chiao-fa. ❷1卷 ❹(参考) 奈良朝現在1切経産目録2685

僧記 ㊐(日)Zō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹(参考) 高僧伝 ❺(参考) 東域伝灯目録 ❻(参考) 宋高僧伝 ❼(参考) 開元釈教録 ❽(参考) 大唐内典録 ❾(参考) 出三蔵記集 ❿(参考) 法苑珠林 ⓫(参考) 歴代三宝紀 ⓬(参考) 内典錄 ⓭(参考) 法華伝記 ⓮(参考) 法華経伝記 ⓯(参考) 大唐西域記 ⓰(参考) 高僧伝 ⓱(参考) 法苑珠林 ⓲(参考) 出三蔵記集 ⓳(参考) 歴代三宝紀 ⓴(参考) 内典錄 ㉑(参考) 法華伝記 ㉒(参考) 法華経伝記 ㉓(参考) 大唐西域記 ㉔(参考) 高僧伝 ㉕(参考) 法苑珠林 ㉖(参考) 出三蔵記集 ㉗(参考) 歴代三宝紀 ㉘(参考) 内典錄 ㉙(参考) 法華伝記 ㉚(参考) 法華経伝記 ㉛(参考) 大唐西域記 ㉜(参考) 高僧伝 ㉝(参考) 法苑珠林 ㉞(参考) 出三蔵記集 ㉟(参考) 歴代三宝紀 ㊱(参考) 内典錄 ㊲(参考) 法華伝記 ㊳(参考) 法華経伝記 ㊴(参考) 大唐西域記 ㊵(参考) 高僧伝 ㊶(参考) 法苑珠林 ㊷(参考) 出三蔵記集 ㊸(参考) 歴代三宝紀 ㊹(参考) 内典錄 ㊺(参考) 法華伝記 ㊻(参考) 法華経伝記 ㊼(参考) 大唐西域記 ㊽(参考) 高僧伝 ㊾(参考) 法苑珠林 ㊿(参考) 出三蔵記集 (1)(参考) 歴代三宝紀 (2)(参考) 内典錄 (3)(参考) 法華伝記 (4)(参考) 法華経伝記 (5)(参考) 大唐西域記 (6)(参考) 高僧伝 (7)(参考) 法苑珠林 (8)(参考) 出三蔵記集 (9)(参考) 歴代三宝紀 (10)(参考) 内典錄 (11)(参考) 法華伝記 (12)(参考) 法華経伝記 (13)(参考) 大唐西域記 (14)(参考) 高僧伝 (15)(参考) 法苑珠林 (16)(参考) 出三蔵記集 (17)(参考) 歴代三宝紀 (18)(参考) 内典錄 (19)(参考) 法華伝記 (20)(参考) 法華経伝記 (21)(参考) 大唐西域記 (22)(参考) 高僧伝 (23)(参考) 法苑珠林 (24)(参考) 出三蔵記集

雜集論記 ❶(日)Zō-jū-ron-ki. (支)Tsa-chi-lun-chi. ❷六卷 ❸〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2337

雜集論古迹 ❶(日) Zō-jū-ron-ko-shaku. (支)Tsa-chi-lun-ku-chi. 雜集論古迹記 ❷三卷或四卷 ❸新羅太賢(一作憲)王一11 A. D. 753—)撰 ❹〔參考〕 東寺觀意目錄卷下

雜集論古迹記 ❶(日)Zō-jū-ron-ko-shak-ki. (支)Tsa-chi-lun-ku-chi-chi. 雜集論古迹 ❷三卷或四卷 ❸新羅太賢(一作憲)王一11 A. D. 753—)撰 ❹〔參考〕 新羅諸宗教藏總錄三

雜集論述記 ❶(日) Zō-jū-ron-juk-ki. (支)Tsa-chi-lun-shu-chi. 阿毘達磨雜集論述記、大乘阿毘達磨雜集論述記、對法論述記、對法論、大乘阿毘達磨雜集論述記、雜集論述記 ❷八卷或十卷 ❸唐 ❹玄奘、卍續1・七四・四一五 ❺唐顯慶(貞觀末)—永徽元 A. D. 632—682)撰 ❻阿毘達磨集論述記の下を見よ。 ❼〔參考〕 法相宗教義

雜集論述記貫練鈔 ❶(日) Zō-jū-ron-juk-ki-kwan-ren-hen. 大乘阿毘達磨雜集論述記貫練鈔、阿毘達磨雜集論述記貫練鈔、貫練鈔 ❷三十八卷 ❸唐 ❹法藏 ❺享保(清聖祖康熙五)—寶曆元A. D. 1677—1748)撰 ❻阿毘達磨雜集論述記貫練鈔の下を見よ。 ❼音義(ヰ・〜・11・中・1)

雜集論疏 ❶(日) Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-su. 雜集疏 ❷五卷 ❸新羅元曉(貞觀末—王三九 A. D. 617—)撰 ❹〔參考〕 東寺觀意目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄2335

雜集論疏 ❶(日) Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-su. 阿毘達磨雜集論疏、大乘阿毘達磨雜集論疏、雜集論疏、雜集論述記、對法論疏、對法論、大乘阿毘達磨雜集論疏、雜集論、雜集論疏記、述記 ❹八卷或十卷 ❺唐 ❻玄奘、卍續1・七四・四一五 ❼唐顯慶(貞觀末—永徽元 A. D. 632—682)撰 ❽阿毘達磨集論述記の下を見よ。 ❾〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2326

雜集論疏 ❶(日) Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-su. 述記、雜集疏 ❷十11卷 ❸唐 ❹法寶(一作寶)—天天11 A. D. 703—713—)撰 ❺東寺觀意目錄卷下に曰く「又云『述記』、疏法記不可行」云々。 ❻〔參考〕 法相宗教義

雜集論疏 ❶(日) Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-su. ❷十卷或十四卷或十六卷 ❸唐玄奘撰 ❹〔參考〕 新羅諸宗教藏總錄三、東寺觀意目錄卷下、法相宗教義、奈良朝現在一切經疏目錄2330

雜集論疏 ❶(日) Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-su. 雜集疏 ❷五卷 ❸和上法寶 ❹〔參考〕 東寺觀意目錄卷下

雜集論疏 ❶(日) Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-shu. ❷十三卷或十六卷 ❸唐窺(11基) ❹〔參考〕 東寺觀意目錄卷下、法相宗教義、奈良朝現在一切經疏目錄2334

雜集論疏 ❶(日)Zō-jū-ron-sho. (支)Tsa-chi-lun-su. 雜集疏 ❷九卷 ❸〔參考〕 東寺觀意目錄卷下

雜集論鈔 ❶(日) Zō-jū-ron-shō. (支)Tsa-chi-lun-ch'ao. 大乘阿毘達磨雜集論鈔、阿毘達磨雜集論鈔、對法論鈔、對法論、大乘阿毘達磨雜集論鈔、雜集論鈔、鈔、雜集論鈔、鈔 ❹八卷或十卷 ❺唐 ❻玄奘、卍續1・七四・四一五 ❼唐顯慶(貞觀末—永徽元 A. D. 632—682)撰 ❽〔參考〕 東寺觀意目錄卷下

雜集論鈔 ❶(日) Zō-jū-rom-biken. ❷1卷 ❸唐 ❹玄奘(一作"ヰ・四・右1人)

雜集論文章 ❶(日) Zō-jū-rom-mon-kwa. ❷1卷 ❸唐 ❹玄奘(一作"ヰ・三・中・1)

雜抄經 ❶(日)Zō-shō-gyō. (支) Tsa-ch'ao-ching. ❷1卷 ❸宋譯 ❹〔參考〕 貞元錄卷11

雜事問答 ❶(日)Zō-shō-mon-dō. ❷宋中(貞享末1天一正德11 A. D. 1639—1712) ❸〔參考〕 諸宗教藏總錄三

雜心論疏 ❶(日) Zō-shin-ron-sho. (支)Tsa-hsin-lun-su. ❷十卷或八卷 ❸〔參考〕 東寺觀意目錄卷下

雜心論鈔 ❶(日) Zō-shin-ron-shō. (支)Tsa-hsin-lun-ch'ao. 雜阿毘達磨心論鈔 ❷三卷 ❸唐顯慶(貞觀末—永徽元 A. D. 632—682)撰 ❹〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2583

雜心論鈔 ❶(日) Zō-shin-ron-shō. (支)Tsa-hsin-lun-ch'ao. ❷十卷 ❸〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2585

雜心論鈔 ❶(日) Zō-shin-ron-shō. (支)Tsa-hsin-lun-ch'ao. ❷十卷 ❸唐法寶 ❹〔參考〕 奈良朝現在一切經疏目錄2584

雜寶藏 ❶(日)Zō-shin-gon. (支) Tsa-chên-yen. ❷1卷 ❹〔參考〕 藝文類聚

雜數經 ❶(日)Zō-sū-gyō. (支) Tsa-shu-ching. ❷11十卷 ❸魏 ❹北涼求代天竺書 ❺〔參考〕 田三藏記錄四、法經錄錄五、三寶記錄五、仁壽錄錄五、靜泰錄錄三、內典錄錄11、開元錄錄11、錄1五、貞元錄錄三、錄11五

雜々記文集 ❶(日) Zō-zō-ki-mon-shū. ❷1卷 ❸唐 ❹〔參考〕 [illegible]

雜々聞事 ❶(日) Zō-zō-kiki-gaki. ❷1卷 ❸唐 ❹日有譯、阿日記錄 ❺寶永天(文天)D O・11九六)

雜々私用抄 ❶(日) Zō-zō-shi-yō-shō. ❷三十卷 ❸唐 ❹明唐三用 ❺〔續天〕三六五九・三1〕〔正天〕1三七・三〇)

雜々抄 ❶(日)Zō-zō-shō. ❷11十九卷或三十卷 ❸唐 ❹玄奘

雜藏經 ❶(日) Zō-zō-kyō. (支) Tsa-ts'ang-ching. ❷1卷 ❸魏 ❹宋求那跋陀羅(一作寶)—11一〇A. D. 435—443—)譯 ❺〔參考〕 開元錄錄1五、貞元錄錄11四

雜談集 ❶(日)Zō-dan-shū. ❷三卷或十卷 ❸唐 ❹東生1四(寶治11—正和元 A. D. 1225—1312) ❺〔參考〕 北京圖書林書目、日本圖書館總書目 ❻[illegible]

雜定 ❶(日) Zō-chū. ❷1卷 ❸唐

名所行程●(名所寺名)所現●月年の行程●(運)運命●代年代●年●歳●歳●(名)名前●(名)名前●(名)名前

❶首尾に序結を備へ正宗に譬喩二十九話を收む。(序一)菩薩度ゝ人譬若ニ巧乳母養ゝ子。(序二)世間有ニ知識ニ。(正宗一)老母阿龍私阿絮國に流離し長者家に養はる、一日供養を得ずして困窮せる道人を見、長者婦に請ひて身を賣りて錢を得、之を道人に供養す、此事國王の耳に達し王感激して老母を招きて王師とす。(二)山中に道人あり、蝮蛇を恐れて樹下に依る、而も苦睡自ら制する能はず、天人之を慈み、警告するに毒蛇亟れるを以てす、道人驚き覺めて毒蛇を求むるも得ず復た睡る、天人を警覺すること數次、何ぞ自ら内なる毒蛇を顧ぜざると告ぐ、道人大に覺るところあり、途に力めて阿羅漢を得。(三)阿育王千二百塔寺を建て後病を得て大に困しむ、而も一道人に會ひて大宣を聞き病癒えて二十五年延命す。(四)阿育王龍王を降して佛舍利一分を得、造塔供養す。(五)滅後百年、阿育王ありて大に佛法を榮しむ、外道之を嫉みて諸沙門を害せんとす、時に祇園に年少比丘鳩正なるものあり、此等の外道を降して弟子となす。(六)殃崛摩の本緣たる食人王の物語、中に王舍城の本事を揭ぐ。(七)六牙白象本生。(八)佛阿鄰達池に在り、目連佛命により令利弗を迎へ神通競技す、會中に耳中に須曼那を有する比丘あり、華取れども去らず、佛爲に其本緣を說く。(九)波斯匿王歸佛因緣、始王佛を信ぜず一日夫人と共に樓觀上に在り、沙彌の神通を見て歸信す。(一〇)佛神通を以て舍衛國梵志を化度す。(一一)佛神通を以て波羅奈國大力士八人を化す。(一二)羅閱祇の婆羅門子、恒水に日に三反浴すれば神通を得との母の說を排して佛に歸し母を度す(以上、上卷)。(一三)鬱賴國に一比丘あり能く敎化す、安息國人その弟子となり五通を得、師の諫を入れずして生國に歸り王の信を得、後青衣と通じて姙娠せしめ、王の忌諱にふれて放たれ、展轉して劫賊となり居兒となり遂に賤人となる。師之を知りて弟子を率ゐて來り省し、未證の諸弟子を誡めて買高を去らしむ。(一四)夫の出陣に際して妻五升の器と丈一尺の杼木を與へ、若し二物を失へば同棲を許さずといふ、其軍大敗の時彼二物を失ふを恐れて敢て退かず、爲に昧方の士氣をあふり得て敵を敗退せしむ、佛これを喩として五戒十善の堅守すべきことを說かる。(一五)舍衛城に慳貪の長者あり、舍利弗彼を度せんと欲して彼家に行乞す、長者怒りて水を口に含みて鉢中に吐く、舍利弗之を緣として彼を度す。(一六)波利弗國最貧機盛にして物として非るなし、佛よつて之を聞物國となす、外道佛言の虛なるを示さんために波利弗城に入りて羅刹鬼を求む、天帝之を知りて自ら市買となり、外道驚きて云く、波利國衆物皆く有りと雖も其空手にして住かば一物も得がたし、財貨を持して買はゞ物として得ざるなしと、佛これを喩として薩芸若中に一切の功德あり、而も德行を修せざれば得べからざるを說き給ふ。(一七)天竺國に四道人あり各一居士を信徒として供養を得、この因緣にて其四居士、次生に天帝釋、海龍王、金翅鳥王、人王となる、時に四人八關齋を修せんと欲して場處を撰び、摩竭王の後苑に會す、修齋後四人各自らの得福を第一となす、摩竭王之を知りて智臣拔陀類を召して判斷せしむ。(一八)富迦羅越に兩子あり、父の死後、兄その妻の勸により弟を殺さんと欲し、城外塚間の梢樹に縛著し來る。而も弟佛によりて救はれ解脫を得て却つて兄夫婦を法に帰せしむ。(一九)摩訶迦葉度貧母緣。(二〇)外國一松寺の物語、一優婆夷鳧僧摩訶羅を招じて法を聽く。摩訶羅、我知る所なく甚だ苦しと告白せるに、優婆夷之を十二因緣の說けるものと解して益々喜ぶ。(二一)一老母愛兒を失ひ身を殺してもその活を計らんとす、佛之を慈み方便して骨て死人を出さゞる家の火を求めしむ、老母即ち解するところあり須陀洹を證す。(二二)王舍城の居士一億の財を作らんとして九十萬にして卒し幼兒に遺言して其志を襲しめんとす、兒即ち遺財を悉く布施し等で死し、次で八十億財ある長者の一子として生る。(二三)外國の人、客作人を勞せんために奏を作らしむ、時に一老婆來りて奏中に墮糞す、爵士即ち之を人に勸めて自らは食はず、佛之を譬として法を說かる。(二四)阿羅、蟲道家の女に懸首されその母のため呪さる、(摩鄧伽傳說)。(二五)海邊の樹上に五百獼猴あり、時に高さ數十丈の潮來るを山と誤認し、山頂に避難せんとて潮頭に投じ、爲に一時に悉溺死す、佛之を譬として法を說かる。(二六)長者須達七たび貧し一錢もなし、會ま糞中に梅檀の一木斗を得、之を賣りて米四斗を求む、留守中其婦來乞せる佛及び佛弟子に之を悉く供養す、夫歸來之を聞きて却て歎ず。(二七)愛中の影を見て夫婦互に其情人あるを爭ふ。(二八)前世飢饉に遭ひ漸く得たる食を道人に供養す、その報にて今世に富み來世又天に生ぜん。(二九)貧窮の三人あり、四月八日寺中に灌佛あるを聞き詣て各一錢を供養して發願す、爲に世々福を受く。(結)入海七難に喩へて修道七事を說く。——文中出づる私訶絮(一)、阿育王(二、三、四)、鬱賴、安息(二三)、波利弗(二六)、富迦羅越(二八)等の地名人名は本經素材の地理的歷史的研究に重要なる資料となる。

(美濃晃順)

雜譬喩經 ❶(日)Zō-hi-yu-kyō. (支) Tsa-pi-yu-ching. ❷1卷 ❸存、大正四・五二二 No. 207、鎌倉七、卍二六・九、麗1023寫、Nj. 1365 ❹道略集 ❺此經、龐本と宋元明三本(衆經撰雜譬喩と稱す、其下參照)との間に大いなる相違あり、恐らく別本と見るを適當とするが如し。內容は次の如く三十九個の偶話傳說の類を纂輯して求道修養の資糧に供したるもの、內容を檢するに大莊嚴論經、智度論等經什譯本中に同型の物語を存するもの多し。恐く別本衆經撰雜譬喩經を羅什譯道略集と傳へる如く、本經も亦、同人同樣の編著なるべく、たゞ文章そのものは集者の手になるものゝ如く思はれる。目次左の如し。(一)雀離寺伽將ニ沙彌ニ下喩、(二)犍王生ニ九百九十九子ニ喩、(三)兄弟二人共爲ニ沙門ニ喩、(四)伎兒作ニ種々伎ニ喩、(五)目蓮與ニ弟子ニ下ニ書閻崛山ニ喩、(六)寡根喩、(七)木師棄師喩、(八)大迦葉緣因緣喩、(九)兄好ゝ鞭弟好ニ多聞ニ喩、(一〇)大好ゝ鞭弟好ニ多聞ニ喩、(一一)羅云珠喩、(一二)龍昇天喩、(一三)於ゝ曾浮地大行喩、(一四)與ニ貴人ニ鼎ゝ唾喩、(一五)佛與ニ弟子ニ入ニ舍衛ニ乞食喩、(一六)醫師治ニ王病ニ喩、(一七)慈雨喩、(一八)阿修羅因緣喩、(一九)王子入ニ山喩、(二〇)鹿林喩、(二一)月利求多喩、(二二)從ニ婆羅門ニ乞ゝ食喩、(二三)田舍人喩、(二四)呪龍喩、(二五)石當ゝ道喩、(二六)蛇頭尾共諍喩、(二七)捕鳥師喩、(二八)五百力子爲ニ沙門ニ喩、(二九)三堅要喩、(三〇)賣ゝ酪自存喩、(三一)五百賈客入ニ海求ゝ寶喩、(三二)劫燒因緣喩、(三三)食人爲ニ比丘尼因ニ緣喩、(三四)草木皆可ゝ爲ゝ藥喩、(三五)居兒喩、(三六)王好ニ布施ニ喩、(三七)龍吸ゝ水喩、(三八)梁王得ゝ輪因緣喩、(三九)梵王長壽喩(經首揭出の目次に依る)

❹寫本(京大、藏・一ヰ・一) (美濃晃順)

雜譬喩三百五十首經 ❶(日) Zō-hi-yu-sam-byaku-go-jū-shu-kyō (支) Tsa-pi-yu-san-pai-wu-shih-shou-ching. ❷二十五卷 ❸缺 ❹西晉竺法護(一泰始二—建興元 A. D. 266—313—)譯 ❼(參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二五

雜譬喩集 ❶(日)Zō-hi-yu-shū. (支) Tsa-pi-yu-chi. ❷十卷 ❼(參考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三

雜符呪 ❶(日) Zō-fu-ju. ❷一卷 ❸存 ❹慶長頃寫 ❾(京大、日大未・七五二)

雜寶藏經 ❶(日)Zō-hō-zō-kyō. (支) Tsa-pao-tsang-ching. ❷十卷 ❸存、大正四・四四七 No. 203、鎌宿一〇、卍二六・五—六、Nj. 1329 ❹元魏代吉迦夜曇曜共譯 ❺宋の明帝泰豫元 (A. D. 472) 即ち元魏の獻文帝即位第二年

❻本經は印度に於て諸種の因緣・譬喩・本事・本生等の諸經幷に他の物語をも含めて集錄した雜集經である、故に雜藏經と稱すべきを賛美して寶字を挿入したものであらう。本經は十卷より成り百二十一章の因緣譚を述べてあるが、大抵佛陀に關聯した物語である。中には佛出世前の出來事と思はるゝラーマーヤナ物語中の十首王と羅摩王子の事や。佛滅後二百年頃の那先比丘と希臘人ミリンダ王との問答や。佛滅後四百年頃の紙夜多尊者と月氏人カニシカ王との問答などを記載してある邊から察するに、此年代以後に北印度或は北邊域に於て集錄成文せられたものであらうかと思はれる。Heal 氏の Catalogue, pp. 85-85. に本經の最後の物語を譯出してゐるが恐らくは漢譯經から再譯したものであらう。開藏知津三十一・二十六丁には小乘經の部に屬せしめてあるが、十二部經では Avadāna 譬喻經に屬するものである。

本經は雜集であるから劃然と分類できないが、大體に於て五分科することができる。

一、孝養篇—第一卷、第二卷

二、誹謗篇—第三卷

三、施行篇—第四卷、第五卷、第六卷、第七卷

四、敎化篇—第八卷、第九卷

五、開誹篇—第十卷

本經は阿含藏敎の思想にして因緣譬喩譚の中に自ら業因報果惡因惡果の道理を冷暖自知せしめるやうに說いてある。

❾萬治三刊(龍大、研佛) (岡敎邃)

雜發願文 ❶(日) Zō-hotsu-gwan-mon. ❷1卷 ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)撰 ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

雜密記 ❶(日)Zō-mitsu-ki. ❷1卷 ❸存 ❹隆證(養和元—文永三 A. D. 1181—1266)口、親快(建保三—建治二 A. D. 1215—1276)記 ❾寫本(金剛三昧院)

雜密記 ❶(日)Zō-mitsu-ki. ❷四卷 ❸存 ❹寶曆三寫 ❾(谷大、餘大・九五八)

雜文集 ❶(日) Zō-mon-shū. ❷1卷 ❸存、眞宗全書第七一 ❹空慧(寛文元—延享三 A. D. 1661—1746)集 ❻著者が當時の名匠と往復せる書簡、寺院の緣起、古鐘の銘文等の雜文を輯めたものであつて、自ら住持せる西方寺記に初まり聖皇本記に終つて居る。著者のひとゝなりや研究生活を知る唯一の文獻である。

❾自筆本(谷大、宗丙・一一) (大原性實)

雜問答 ❶(日) Zō-mon-dō. ❷1卷 ❸存 ❹佐藤光峰編 ❾明治四三刊 ❿(正大、一四三一・三四)

雜問律事 ❶(日) Zō-mon-ritsu-ji. (支)Tsa-wen-lü-shih. ❷二卷 ❸缺 ❹東晉代曇摩譯 ❻第一譯。 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

雜問律事 ❶(日) Zō-mon-ritsu-ji. (支)Tsa-wen-lü-shih. ❷二卷 ❸缺 ❹東晉代半摩羅叉譯 ❻第二譯。 ❼(參考) 開元錄第一五、貞元錄第二五

雜要經 ❶(日)Zō-yō-kyō. (支) Tsa-yao-ching. ❷1卷 ❹失譯 ❼(參考)

法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、武周錄第一一

藏逸經書標目 ❶(日) Zō-itsu-kyō-sho-hyō-moku. (支) Tsang-i-ching-shu-piao-mu. ❷1卷 ❸存 ❹道開 ❺民國七刊 ❾(龍大、二〇二一、一一)

藏勸鈔 ❶(日) Zō-kan-shō. ❷五卷 ❸存 ❹自性我實(—文保元 A. D. 1317)口說、道我記

❻自性我實が、正和三年大曇寺仙洞御所に於て、東寺了賢、大曇寺本光、聖無動院道我の爲めに祕藏記を講じたるを道我の記したもの。初に祕藏記の緣起、作者、眞本を論じ、次に題目、本文を釋す祕藏記註釋中主要なるものである。

藏漢大日經住心品 ❶(日)Zō-kan-dai-nichi-kyō-jū-shim-bon. ❷1卷 ❸存 ❹田島隆純譯 ❺昭和二刊 ❾(正大、一一六〇・三四) ❿東京新興社

藏漢和三譯對校佛說無量壽經佛說阿彌陀經 ❶(日) Zō-kan-wa-san-yaku-tai-kō-bus-setsu-mu-ryō-ju-kyō-bus-setsu-a-mi-da-kyō. ❷1卷 ❸存 ❹寺本鎭雅譯 ❺昭和三刊 ❿東京丙午出版社

藏經閱覽便利 ❶(日)Zō-kyō-etsu-

【ゾ】 藏 藏 藏

❹卽心念佛談義本を配稿して後、直ちに引用したる字句の出據を示したるもの。談義本は通俗談義の體裁になつてゐるので、本書によつてその典據あるを明らかにした。❺享保一三・六刊 ❾(正大、一五七・一)(大野法道)

卽心念佛談義本辨僞 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-gi-bon-ben-gi. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹性慶(寛文七—元文二 A. D. 1667—1737)述 ❺享保一三(A. D. 1728)

❻靈空の卽心念佛談義本を天台宗の立場から破斥したるもの。談義本の一節を「談目」と冠して引載し、それについて自ら「辨目」として反駁する形になつてゐる。その要領は、一に四明所說の卽心念佛の窟義を明らかにし、二に天台列祖が理觀の外に別に事の念佛を鼓吹したるを述べ、靈空が兩者を混じたるを破斥するにある。「四明の立玉ふ卽心念佛とは、約心觀佛と云ふと同じことなるが故、念とは觀念の念にして、前に圓解を開いて三諦の理を明らかにし、而して後、不可思議の一心三觀を以つて、彌陀の身相を唯心に約して、三諦法界と絕對に卽ずる圓妙の觀佛を名づけ玉ふて、南無阿彌陀佛と念佛申すことには非ず」といひ更に四明が無量壽經、阿彌陀經に依つて、たゞ口稱念佛を勸めたること、遊式、惠心、曇翰、眞盛等の事蹟を擧げて、理觀なき事の念佛も天台宗所行なるを論ず。

著者は寺門派の學匠で、帝つて內外境觀について靈空と論じ合つたが、本書にも靈空の台宗綱要、旁觀記、驗非にも觸るゝ所がある。

❺享保一三刊 ❾(龍大、二八一一・九—一〇、研眞)(正大、一五七・二)(大野法道)

卽心念佛談義本辨惑編 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-gi-bon-ben-waku-hen. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹珠意痴述 ❺享保一三(A. D. 1728)九月

❻靈空の卽心念佛談義本を淨土宗の立場から反駁したるもの。「談目」と冠して談義本の一節を抄出し、「辨目」としてそれに對する反駁を記す。著者は南紀の淨土宗の僧で、靈空の卽心念佛は、觀念と口稱との念佛とを接合したるもので、天台宗の本意たる卽心の眞を失ふものであり、且つ「事の念佛ばかりにて往生したるは、宿習なき故、悟りかねてぐづつくべし。卽心念佛の人の、早く悟るを見ては、けなりく思べし」といふ如きは、法然上人の淨土宗の念佛を貶るもので、自力の就情に閉ぢこもつて、佛願力の超昇を知らぬものと論ずる。

❺享保一三刊 ❾(谷大、餘大・一一七三)(龍大、二八一一・一一—一二、研眞)(大野法道)

卽心念佛談義本或問 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-gi-bon-waku-mon. 卽心念佛安心決定談義本或問 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹靈空光謙(承應元—元文四 A. D. 1653—1739)述 ❺享保一四(A. D. 1729)五月 ❻享保一四刊 ❾(龍大、二八一一・三、研眞)(谷大、餘大・一八三四)

卽心念佛談義本或問餘說 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-gi-bon-waku-mon-yo-setsu. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹靈空光謙(承應元—元文四 A. D. 1652—1739)述 ❺享保一四(A. D. 1729)五月

❻卽心念佛談義本に對する敎首の摘欵說を反駁したるもの。中に曇鸞の略論安樂淨土義の現流本は僞作なること、十疑論は必ずしも淨土義に依らぬこと、高位の者を凡夫の例に取るについて六卽の辨、卽心の卽について卽離の辨を論ず。

❺享保一四刊 ❾(谷大、餘大・三三五一)(龍大、二八一一・四、研眞)(正大、一五七・七)(高大、寄・一・一八)(大野法道)

卽心念佛彈妄錄 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-mō-roku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹性慶(寛文七—元文二 A. D. 1667—1737)述 ❺享保一四(A. D. 1729)九月

❻著者がさきに辨僞を著はして、靈空の卽心念佛談義本を非難したのに對し、靈空の或問がかたので、その妄を彈斥する意で作られたもの。卷頭に凡例三條を擧げて所論の方針を示す。第一は四明が妙宗鈔に「適時之巧、非我所能」といへるは、理念であつて口稱の念佛でなく、しかも四明は理觀のみでなく、列祖とゝもに事の念佛を弘通したること、卽心の妙觀とは覺えたり思ふたりする樣なもので無いことが明らかとなれば、辨僞の正義なることが顯はれるから、此根本義について論ずるとし、第二は枝葉旁義を避けるとし、第三は內外境觀の問題に或問は觸れてゐるが、之は別論なれば略すといふ。しかし「庵主目」と冠して或問の文を擧げ、「彈目」としてそれに對する反駁を載すること、頗る詳細なものがある。

❺享保一四刊 ❾(龍大、二八一一・一四)(谷大、宗大・七八四)(正大、一五七・四・九九)(大野法道)

卽心念佛彈妄錄細評 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-mō-roku-sai-hyō. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹靈空光謙(承應元—元文四 A. D. 1653—1739)述

❺享保一五(A. D. 1730)二月

❻卽心念佛の問題について、さきに略筑を著はし、義瑞の彈妄錄を破斥したが、更に委細に批評して略筑の餘義を補へるもの。彈妄錄を節錄し、「彈目」と冠して破文を載す。この問題に於ける靈空對義瑞の諍論は本書を以て終る。

❺享保一五刊 ❾(谷大、餘大・二八一二)(龍大、二八一一・一五)(正大、一五七・一)(大野法道)

卽心念佛彈妄錄略箴 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-dan-mō-roku-ryaku-shin. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三

❶靈空光謙(承應元—元文四 A. D. 1653—1739)述 ❺享保一五(A. D. 1730)正月

❻卽心念佛の問題について、義瑞が彈妄錄を著はして、或問を彈斥したるに對して作られたもの。彈妄錄の序文から本文へかけて、七十五條の難點を擧げて、或は彈斥し或は逗答なきを詰問する。終部に、談義本の「約心觀佛」を「約心念佛」の筆誤としたるに對し、彈妄錄が立義の改變と言へるを駁し、また辨僞に引ける四明の結念佛會疏の「但當稱彼佛號」この但當の位置について論ずる。

❺享保一五刊 ❾(正大、一五七・六)(龍大、二八一一・一六)(谷大、餘大・二八一二・五〇六)(大野法道)

卽心念佛摘欵說 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-chaku-go-setsu. 摘欵說 ❷二卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹敬首(天和三—寛延元 A. D. 1683—1748)撰 ❺享保一三(A. D. 1728)九月

❻靈空の卽心念佛談義本を淨土宗に立ちて破斥したるもの。自序あり。撰號に「無名子著」とあり。まづ總論として談義本に對し、二十條を以て全體的評破を擧げる。要は天台宗の約心觀佛を說く範圍を逾越して、淨土宗を抑貶する意あるを難じ、天台と淨土とは立脚地を異にすること、天台の人師多く理觀を闡いて口稱を勸めたこと、天台大師は曇鸞の釋を依用したることを說くにある。次ぎに談義本の文について一々詳細に破斥する。中に理觀は末世の要行に非ざること、淨土の弘願念佛を單に專持とするは當らぬこと、卽心念佛は宋以後の新語なること、夢窓の夢中問答、高辨の摧邪輪、運敞の谷響集の邪味を受けたること、第三卽心念佛の申し樣の事の項下に天台十疑論の「臨終在定之心」等といふは、もと曇鸞の略論安樂淨土義に基づくこと、淨土に往生を願ふ生見を小乘とする十疑、末法には卽心觀佛より稱名の勝れたる十五條等を論ず。

❺享保一三刊 ❾(谷大、餘大・三〇一四)(龍大、二八一一・七、研眞)(大野法道)

卽心念佛摘欵說續附略論安樂淨土義非曇鸞撰駁 ❶(日)Soku-shin-nen-butsu-chaku-go-setsu-zoku-tsuketari-ryaku-ron-an-raku-jō-do-gi-hi-donran-semi-baku. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第九八宗論叢書第二、續淨土宗全書第一三 ❹敬首(天和三—寛延元 A. D. 1683—1748)述 ❺享保一四(A. D. 1729)八月

❻靈空の卽心念佛談義本或問餘說を返破したるもの。著者が前に摘欵說を作つて靈空の卽心念佛を駁したる續篇である。

初めに總論として五條を出し、正直に他人の書を見ず、所論枝葉に走る、略論安樂淨土義を僞作とする は虛說、禪門のことを據述は的はづれ、罵言多きは無益なりとし次に或問餘說の文について一々に返破する。

附錄は、靈空が或問餘說に僞作を論じた後、更に研究を重ね、漢文を以て綴れる略論安樂淨土義非曇鸞撰一篇を駁したものである。靈空が、淨土義は日本の無識者が、藤什の安樂淨土義、論註、十疑、安樂集を採摘し、鄙言を加へて僞作し、名を曇鸞に假りたるならんといふに對し、七義を以てそれを反駁する。

❺享保一四刊 ❾(龍大、二八二・八)(谷大、餘大・一一九六)(大野法道)

卽心佛體抄 ❶(日)Soku-shin-butsu-shō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大)

卽身義 ❶(日)Soku-shin-gi. 卽身成佛義、卽身成佛論 ❷一卷 ❸存、大正七・三八一 No. 2429、弘法大師全集第三教相部 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)述 ❺卽身成佛義の下を見よ。 ❼(參考) 章疏錄 ❾寫本(谷大、餘大・三三四四)

卽身義異本 ❶(日)Soku-shin-gi-ihon. 異本卽身成佛義、卽身成佛義異本、異本卽身義 ❸存、弘法大師全集第一一 ❹異本卽心成佛義の下參照。 ❺德治二寫 ❾(實菩提院)

卽身義圓鏡鈔 ❶(日)Soku-shin-gi-en-kyō-shō. 卽身成佛義圓鏡鈔 ❷一卷 ❸存 ❹通玄(—享保一六 A. D. 1731)述 ❼(參考) 章疏錄 ❾(京專)(管、け・二・右・六)

卽身義開蒙捷圖 ❶(日)Soku-shin-gi-kai-mō-shō-zu. 卽身成佛義開蒙捷圖 ❷一卷 ❸存 ❹淨嚴(寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)作 ❺貞享二(A. D. 1685)二月下旬—三月中旬 ❼(參考) 章疏錄 ❾(京專)

卽身義勸註抄 ❶(日)Soku-shin-gi-kan-chū-shō. ❷一帖 ❸存 ❹是判時代寫 ❾(寶龜院)

卽身義記 ❶(日)Soku-shin-gi-ki. ❹顯瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304)述 ❼(參考) 章疏錄

卽身義聞書 ❶(日)Soku-shin-gi-kiki-gaki. 卽身成佛義聞書 ❷二卷 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252)述 ❺享保一三寫 ❾(高大、寄・一・四一)

卽身義聞書 ❶(日)Soku-shin-gi-kiki-gaki. 卽身成佛義聞書 ❷一卷 ❸存 ❹賢寶(正慶二—應永五 A. D. 1333—1398)記 ❾賢寶自筆本(觀智院)

卽身義聞書 ❶(日)Soku-shin-gi-kiki-gaki. 卽身成佛義鈔、卽身成佛義聞書 ❷四卷或十卷 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)口 ❼(參考) 章疏錄 ❾明德六、文明一七寫 ❾(寶龜院)

卽身義愚案集 ❶(日)Soku-shin-gi-gu-an-shū. ❷六冊 ❸存 ❹信恕(貞享二—寶曆一三 A. D. 1685—1763)記 ❺寶曆七寫 ❾(高大、一・四一)

卽身義愚草 ❶(日)Soku-shin-gi-gu. 卽身成佛義愚草 ❷四卷 ❸存 ❹顯瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304)述 ❼(參考) 諸宗章疏錄第三、章疏錄 ❾應仁元寫 ❾(寶龜院)

卽身義科註 ❶(日)Soku-shin-gi-kwa-chū. 卽身成佛義科註 ❷四卷 ❸存 ❹空性註 ❼(參考) 章疏錄

四家格式会 ❶(四) Soku-shin-gi-kwai-jō-shō. ❷〔参考〕 倉庫番

四家格式註 ❶(四) Soku-shin-gi-kwan-chū. ❷延喜(元慶元—延喜四A. D. 1184—1252)|配撰延喜四″年七五巻)註 ❸〔参考〕 倉庫番

四家格式見聞 ❶(四) Soku-shin-gi-kem-mon. ❷六巻 ❸存 ❹弘法 ❺〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録

四家格頓作会 ❶(四)Soku-shin-gi-ken-toku-shō. 四家格式頓作会″四家格式頓作会 ❷三巻 ❸存 ❹頼資(寛喜元|1|A. D. 1226—1304)撰 ❺正嘉元(A. D. 1257)

❻四家格式巻の新撰方法群として頓作したもの。すなわちこれにして″正嘉元年十|月|十|日記録″文永四年七月″新撰格式巻の部所々に付き出だと雖ども″文永元年七月中旬に撰出し記したもの″初に頓作を出し″後に本文を撰す。

❼〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録 ❽刊本(写本)〔新″ま•八•中•|四〕 明治三年(家蔵記)

四家格頓作会目書 ❶(四) Soku-shin-gi-ken-toku-shō-kiki-gaki. ❷|巻 ❸存 ❹文明元記 ❺(家蔵記)

四家格字門 ❶(四) Soku-shin-gi-gem-mon. 四家格式字門 ❷|巻 ❸存 ❹春日(延享|1—文化|1|A. D. 1745—1816)撰 ❺〔参考〕 倉庫番 ❻(写本)

四家格講記 ❶(四) Soku-shin-gi-kō-ki. 四家格式講記″新講会 ❷|巻 ❸存 ❹重尊(宝永|1—寛永|1|A. D. 1773—1850)撰 ❺〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録

四家格講説 ❶(四)Soku-shin-gi-kō-jutsu. ❷|巻 ❸存 ❹良尊(享保五—寛政|1|A. D. 1720—1799)記 ❺弘化|1|写 ❻(写大″|•四|)

四家格講要 ❶(四) Soku-shin-gi-kō-yō. 四家格式講要″講要 ❷|巻 ❸存 ❹弘法 ❺〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録

四家格国神会 ❶(四)Soku-shin-gi-ken-toku-shō. 四家格式国神会″四家格式国神会 ❷三巻 ❸存 ❹頼資(寛喜元|1—寛元|1|A. D. 1226—1304)撰 ❺正嘉元(A. D. 1257)

❻四家格式巻の新撰方法群として頓作したもの。すなわちこれにして″正嘉元年十|月|十|日記録″文永四年七月″新撰格式巻の部所々に付き出だと雖ども″文永元年七月中旬に撰出し記したもの″初に頓作を出し″後に本文を撰す。

❼〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録 ❽刊本(写本)〔新″ま•八•中•|四〕 明治三年(家蔵記)

四家格国神会目書 ❶(四) Soku-shin-gi-ken-toku-shō-kiki-gaki. ❷|巻 ❸存 ❹文明元記 ❺(家蔵記)

四家格三大略記 ❶(四)Soku-shin-gi-san-dai-ryak-ki. 四家格式三大略記 ❷|巻 ❸大正撰 ❹〔参考〕 倉庫番

四家格私記 ❶(四) Soku-shin-gi-shi-ki. 四家格式私記″四家格式私記 ❷|巻 ❸存 ❹安然(天和八—延享年間A. D. 841—901—)撰 ❺〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録 ❻(新″ま•|•中•|十)

四家格私記 ❶(四) Soku-shin-gi-shi-ki. 四家格式私記 ❷|巻五巻 ❸存 ❹春沼(享保|1—寛永|1|A. D. 1674—1742)撰 ❺享保|1|(A. D. 1727) ❻四家格式巻の下と見よ。 ❼〔参考〕 倉庫番

四家格私考 ❶(四) Soku-shin-gi-shi-kō. 四家格式私考 ❷三巻四巻 ❸存 ❹宣長(享保—寛政)撰 ❺享保|1|撰 ❻(写大″巻•|•四|)

四家格初番抄 ❶(四) Soku-shin-gi-sho-gaku-shō. 四家格式初番抄 ❷十巻 ❸存 ❹良尊(正嘉|1—嘉永五A. D. 1333—1398)撰 ❺〔参考〕 倉庫番 ❻(写大″巻•|•五巻)(倉庫番記)

四家格抄 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. 四家格抄 ❷|巻 ❸存 ❹頼資記 ❺長文五撰 ❻〔正応撰〕

四家格事 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. 諸宗公事用行儀定日録″四家格式巻 ❷|巻 ❸存″大正七九•| No. 2511″収録大正新修大蔵経之内 ❹寛尊(寛保|1—宝治|1|A. D. 1095—1143)撰 ❺諸宗公事用行儀定日録の下と見よ。 ❻〔参考〕 倉庫番

四家格会 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. 四家格式巻 ❷|巻 ❸存 ❹延喜(元慶元—延喜四A. D. 1184—1252)|配撰延喜四″年七五巻)撰 ❺〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録 ❻諸宗公事用行儀定日録

四家格会 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. 四家格式巻 ❷四巻 ❸存 ❹性心(弘安|○—延文|1| A. D. 1287—1357)撰 ❺嘉永四(A. D. 1345)五月|十八日 ❻〔参考〕 倉庫番 ❼(写大″巻•|•四|)

四家格会 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. 四家格式巻″四家格式巻″四家格式巻″新″新″新″新会 ❷十巻 ❸存 ❹宗性(貞和元—嘉永|1|A. D. 1345—1416)撰 ❺四家格式巻中に於て最原なる著述を存す。

❻四家格式巻中に於て最原なる著述を存す。

❼〔参考〕 倉庫番

四家格会 ❶(四) S.ku-shin-gi-shō. ❷頼資(嘉永|1—元一|新番|1|A. D. 1422—1493—)撰 ❸〔参考〕 倉庫番

四家格会 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. 四家格式巻″四家格式巻 ❷十巻 ❸存 ❹宗賢(嘉永|1—|新番|1—|1|A. D. 1426—1498)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格会 ❶(四) Soku-shin-gi-shō. ❷三巻 ❸(写大″巻) ❹〔参考〕 倉庫番

四家格心会 ❶(四) Soku-shin-gi-shin-jin-shō. 四家格式巻″四家格式心会 ❷|巻 ❸存 ❹信海(嘉暦|1—嘉応元 A. D. 1086—1142)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格善女会 ❶(四)Soku-shin-gi-zen-nyo-shō. 四家格式巻″善女会 ❷|巻 ❸存 ❹宗賢(安貞元—寛元元A. D. 1227—1303)撰 ❺倉庫番ニ曰ク「天大師文ヲ撰ス。和文」云々

四家格巻頭 ❶(四)Soku-shin-gi-tai-mō-shō. 四家格式巻頭″四家格式巻″巻頭″巻頭″巻頭会 ❷|巻 ❸存 ❹弘賢(宝暦九—寛政元 A. D. 1696—1764)撰 ❺寛政十(A. D. 1757) ❻四家格式巻巻頭会の下と見よ。 ❼〔参考〕 倉庫番″諸宗公事用行儀定日録

四家格巻頭会附録自考記 ❶(四) Soku-shin-gi-tai-mō-shō-u-yoku-ji-kō-ki. ❷|巻 ❸弘賢(宝暦九—明和元A. D. 1696—1764)撰 ❺寛政十(A. D. 1757) ❻〔参考〕 倉庫番

四家格巻頭会第一 ❶(四) Soku-shin-gi-dai-gaku-shō-dai-ichi. ❷倉庫番ニ曰ク「作者不詳。文章人間分明。正和記」云々。

四家格註 ❶(四)Soku-shin-gi-chū. ❷|巻 ❸存 ❹四巻口 ❺天文|1|1|写 ❻(家蔵記)

四家格書会 ❶(四) Soku-shin-gi-chō-shō. ❷三巻 ❸存 ❹大永八写 ❺(家蔵記)

四家格書頭記 ❶(四)Soku-shin-gi-tō-mon-ki. 四家格式書頭記″四家格式頭記 ❷十巻 ❸存 ❹頼資(嘉応元—貞応元A. D. 1306—1362)口記″東寺(嘉応元—貞応元 A. D. 1306—1352)記 ❺四家格式巻頭記の下と見よ。 ❻〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録″不動寺口伝鈔″倉庫番

❼貞応元|1|(嘉応元—貞応元 A. D. 1306—1352)撰 ❽刊本(写本)〔写(写大″|四三|•|三|)(倉庫番記)〔写大″|1|大大|•|五|)〔新″ま•八•右•|1|〕 貞永|1|九″文永|1|″文永元年|1|″文永元年(家蔵記)

四家格秘決 ❶(四) Soku-shin-gi-hi-ketsu. 四家格式巻秘決 ❷|巻 ❸存 ❹何者(一貞元|1| A. D. 1245) ❺〔参考〕 倉庫番

四家格分決会 ❶(四)Soku-shin-gi-bun-ketsu-shō. 四家格式巻分決会 ❷|巻 ❸存 ❹頼朝撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格別記 ❶(四) Soku-shin-gi-bek-ki. 四家格式巻別記 ❷|巻 ❸存 ❹頼資(寛喜|1—貞元|1|A. D. 1226—1304)撰 ❺〔参考〕 諸宗公事用行儀定日録

四家格押紙問答 ❶(四)Soku-shin-gi-ho-ketsu-mon-dai. 四家格式巻押紙問答 ❷四巻 ❸存 ❹明恵(一上|正嘉元年頃A. D. 1240—1255—)口″東朝記 ❺四家格式巻の原巻原文に就て問答答難したもの ❻〔参考〕 倉庫番 ❼明治|1|三月 ❽(写大″日大栄•四〇九)(写寿)(写大″|•四|)(写大″A|1|〇•四四)

四家格密談会 ❶(四) Soku-shin-gi-mitsu-dan-shō. 四家格式巻密談会 ❷十巻 ❸存 ❹性心(弘安|○—延文|1| A. D. 1287—1357)撰 ❺貞和元(A. D. 1349) 十|月十日

❻四家巻の原巻″原家巻巻原の四たる性心が″四家格式巻に就て講説したもの″原巻巻に論難すること所多し″同天注中重要なる地位を占むるものなり。

❼倉庫番元寿 ❽(倉庫番記)

四家格密談会抜萃 ❶(四) Soku-shin-gi-mitsu-dan-shō-bas-sui. ❷|巻 ❸存 ❹頼資(正嘉|1—嘉永五 A. D. 1333—1398)撰 ❺正平七(A. D. 1352) ❻性心の四家格式巻密談会の抜萃。 ❼寛永(倉庫番記)

四家格図会 ❶(四) Soku-shin-gi-mō-ko-zu. ❷|巻 ❸〔参考〕 倉庫番

四家格問題 ❶(四) Soku-shin-gi-mon-dai. 四家格式巻問題 ❷|巻四巻 ❸存 ❹宗性(貞和元—嘉永|1|A. D. 1345—1416)撰 ❺四家格中の原巻原文に就き問答難答したもの。 ❻〔参考〕 倉庫番

❼足利時代写(倉庫番記) 文明|1|七月(倉庫番記)文明|1|三月(写大″A|1|〇•四三)(写大″巻•|•四|)(写大″日大栄•四〇八)

四家格問答永禁 ❶(四)Soku-shin-gi-mon-dō-kec-chaku. 四家格式巻問答永禁 ❷|巻 ❸存 ❹宗賢(嘉応元—貞応元A. D. 1306—1352)撰 ❺貞和三(A. D. 1340) ❻〔参考〕 倉庫番記

四家格問答会 ❶(四) Soku-shin-gi-mon-dō-shō. 四家格式巻問答会″四家格式巻問答 ❷|巻 ❸存 ❹光理(貞暦|1—永久|1| A. D. 1025—1115)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格略解 ❶(四) Soku-shin-gi-ryaku-ge. 四家格式巻略解 ❷三巻 ❸存 ❹鈴鹿(宝永|1—享保|1|A. D. 1645—1717)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格六大集成会 ❶(四) Soku-shin-gi-roku-dai-mu-ge-shō. ❷|巻 ❸存 ❹高信撰 ❺寛永(寛文″日大栄•四〇|1|)

四家格秘密安心決定 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-an-jin-ketsu-jō. ❷|巻 ❸存 ❹静海(元禄六—安永四 A. D. 1693—1775)撰 ❺天明七|月 ❻(今大″巻大•|九|1|五)(写大″巻•|•五五)

四家格秘密法華 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-kann-yō. ❷東寺(天慶九—寛慶元 A. D. 955—1037)撰 ❸〔参考〕 山家法華経密宗口録巻下

四家格秘密経 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-gi. 四家格式巻″四家格式秘密経 ❷|巻 ❸存″大正七七•三八| No. 2428″収録大正新修大蔵経第三十八巻 ❹弘法(天慶—寛慶)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格秘密法華 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-kann-yō. ❷東寺(天慶九—寛慶元 A. D. 955—1037)撰 ❸〔参考〕 山家法華経密宗口録巻下

四家格秘密経 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-gi. 四家格式巻″四家格式秘密経 ❷|巻 ❸存″大正七七•三八| No. 2428″収録大正新修大蔵経第三十八巻 ❹弘法(天慶—寛慶)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格秘密法華 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-kann-yō. ❷東寺(天慶九—寛慶元 A. D. 955—1037)撰 ❸〔参考〕 山家法華経密宗口録巻下

四家格秘密経 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-gi. 四家格式巻″四家格式秘密経 ❷|巻 ❸存″大正七七•三八| No. 2428″収録大正新修大蔵経第三十八巻 ❹弘法(天慶—寛慶)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

内容は密教初期の弘法に属する著述の一部にして、密教の教理を説明したもの。

四家格秘密安心決定 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-an-jin-ketsu-jō. ❷|巻 ❸存 ❹静海(元禄六—安永四 A. D. 1693—1775)撰 ❺天明七|月 ❻(今大″巻大•|九|1|五)(写大″巻•|•五五)

四家格秘密法華 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-kann-yō. ❷東寺(天慶九—寛慶元 A. D. 955—1037)撰 ❸〔参考〕 山家法華経密宗口録巻下

四家格秘密経 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-gi. 四家格式巻″四家格式秘密経 ❷|巻 ❸存″大正七七•三八| No. 2428″収録大正新修大蔵経第三十八巻 ❹弘法(天慶—寛慶)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

四家格秘密法華 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-kann-yō. ❷東寺(天慶九—寛慶元 A. D. 955—1037)撰 ❸〔参考〕 山家法華経密宗口録巻下

四家格秘密経 ❶(四) Soku-shin-jō-butsu-gi. 四家格式巻″四家格式秘密経 ❷|巻 ❸存″大正七七•三八| No. 2428″収録大正新修大蔵経第三十八巻 ❹弘法(天慶—寛慶)撰 ❺〔参考〕 倉庫番

法然具足薩般若　心數心王過刹塵
各具五智無際智　圓鏡力故實覺智

の偈頌を揭げてある。初の四句は順次に體相用及び無碍の義で、卽身の二字を歎じ、後の四句は一に法佛の成佛、二に無數、三に輪圓、四に所由で、これは成佛の二字を歎ずるのである。此の八句を釋するに、上揭の諸經軌並に金剛峰樓閣一切瑜伽瑜祇經、金剛頂瑜伽金剛薩埵五祕密修行念誦儀軌等の文を引き、一切衆生は法佛と平等なる體相用を具し、法然に一切智を具足して居るから、如來の大悲と行者の信心と加持感應し、以て卽身成佛する旨を論述してある。

本書の部秩を定めるに就いては飽藏部とする、弘法大師の奏上によりて下されたる承和の官符に本書を飽藏業の人の所學と定められてあるからである。

本書の異本として、卽身成佛義と題せるもの二本、異本卽身成佛義と題せるもの一本、眞言宗卽身成佛義と題せるもの三本ある、何れも本書とその內容相似て居るけれど、文章は大いに見劣りする、異本の全部又は或ものを弘法大師の作とする說もあるけれど、恐らくはみな餘人の作であらう。

❼(注釋)　問答鈔(濟暹)。信心鈔(信證)。章(覺鑁)。深密抄(眞聲)。鈔(眞範)。聞書(同人)。秘決(尙祚)。補闕問題四卷(源朝)。分決鈔二卷(同人)。問題四卷(明範)。三大略記(信日)。顯得鈔三卷(賴瑜)。愚鈔四卷(同人)。別記(同人)。善女鈔(覺濟)。密談鈔十卷(性心)。鈔四卷(同人)。體大東聞記(賴寶口了賢記)。見聞六卷(未詳)。東聞記十卷(賴寶口杲寶記)。問答決擇(杲寶)。傳寶記六卷(同人)。聞書(寶寶)。鈔(快成)。鈔十卷(宥快)。聞書四卷(同人)。問題二卷(同人)。引論義(同人)。鈔十卷(忠義)。冠註二卷(淨厳)。講要(同人)。探顯二卷(同人)。私記四卷(同人)。註詮(辯瀧)。略解三卷(尊賀)。撮義鈔二卷(覺眼)。私記五卷(曇寂)。追記二卷(同人)。科註四卷(空性)。圓鏡鈔二卷(通玄)。帝網鈔二卷(妙瑞)。講筵(亮海)。卓善錄六卷(海運)。玄門二卷(等空)。三大略記(大寂)。私考四卷(宣應)等。此の外に十數部あれども略す。上記の書名には卽身義又は卽身成佛義等の語のあるを略した。〔參考〕諸宗章疏錄第三

❾傳空海覺鉢(高野山御影堂)古寫本(高山寺)仁平三寫(谷大、餘甲・三七)承應二刊(正大、一四三一・三)萬治三刊(正大、一四三一・五二)享保一七刊(谷大、餘大・三二六〇)

(吉祥眞雄)

即身成佛義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi. 冠註卽身義、冠註卽身成佛義、卽身義冠註　❷二卷　❸存　❹空海(寶龜五—承和二) A. D. 774—835)撰、淨厳(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)註　❺元祿一一刊　❾(立大、A二〇・三九—四〇)(高大、一・四一)(龍大、研佛)(正大、一四三一・二)、七—八)

即身成佛義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi. 國譯卽身成佛義　❸存、國譯密敎論釋部第一

即身成佛義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi. ❷一卷　❸存　❹安慧(延曆一四—貞觀一〇 A. D. 795—868)述、隨昭記　❼(參考) 山家祖德撰述篇目集卷下、諸宗章疏錄第二　❾刊本(龍大、二六五二・一七一)

即身成佛義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi. 卽身成佛義私記　❷一卷　❸存　❹覺鼇(天曆七—長曆元 A. D. 935—1037)述　❼(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目

即身成佛義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi. 和譯卽身成佛義　❸存、日本各宗祖師遺文之內　❾(龍大)

即身成佛義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi. 卽身成佛義科註、科註卽身成佛義　❷二卷　❸存　❹空性註　❺元祿四刊　❾(龍大、二六六一・七)

即身成佛義異義雜記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-i-gi-zak-ki.　❷一卷　❸存　❹存敎述

即身成佛義異本　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-i-hon. 異本卽身義、卽身義異本、異本卽身成佛義　❸存、弘法大師全集第一一敎相部　❺異本卽身成佛義の下參照　❺寬文七刊　❾(谷大、餘大・七〇二、三二六〇)(龍大、二六六一・六)

即身成佛義引論義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-in-ron-gi.　❷一卷　❸存　❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)述

即身成佛義圓鏡鈔　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-en-kyō-shō. 卽身義圓鏡鈔　❷二卷　❸存　❹通玄(—享保一六 A. D. 1731)述　❺正德二刊　❾(龍大、二六六一・八)(谷大、餘大・三四九四)(京專)

即身成佛義開講　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kai-kō.　❷一卷　❸存　❹潮音記　❺文化二寫　❾(正大、一四三一・五九)

即身成佛義開蒙捷圖　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kai-mō-shō-zu. 卽身義開蒙捷圖　❷一卷　❸存　❹淨厳(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)作　❺貞享二(A. D. 1685)二月下旬—三月中旬

即身成佛義簡註　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kan-chū.　❷一冊　❸存　❹通玄(—享保一六 A. D. 1731)述　❾寫本(高大・寄・一・四一)

即身成佛義記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-ki. 卽身成佛義私記　❷一卷　❸存　❹千觀(延喜一九—永觀二 A. D. 919—984?)述　❼(參考) 諸宗章疏錄第二、大日本佛敎全書復刊豫定書目

即身成佛義聞書　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kiki-gaki.　❷八帖　❸存　❺康正二寫　❾(寶龜院)

即身成佛義聞書　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kiki-gaki. 卽身義聞書　❷三卷　❸存　❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252)記建長四、年七五寂)記　❺本書三卷の中、初め二卷は道範が卽身成佛義の講述にして、最後の一卷は別に蘇答の題目を揭げて、或は道範卽蘇にて實性答へ、或は眞辨蘇にて道範答へ、或は道範蘇

じて源朝答ふる等十二ヶ條の論註答釋を集錄したもので、南山敎學を研究するものゝ必須缺く可らざる書である。

❾寫本(京大、日大來・三八四)文明一一寫(寶龜院)享保三寫(谷大、餘大・一七五六)

即身成佛義聞書　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kiki-gaki. 卽身義聞書　❷一卷　❸存　❹賢寶(正慶二—應永五 A. D. 1333—1398)記

即身成佛義聞書　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kiki-gaki. 卽身成佛義鈔、卽身義鈔、卽身義聞書、宥快鈔、快鈔　❷十卷　❸存　❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)口　❺卽身義鈔の下を見よ。

即身成佛義愚按私記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-gu-an-shi-ki.　❷一卷　❸存　❹本館遺　❺天保二(A. D. 1831)七月　❾寫本(大通寺)

即身成佛義愚草　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-gu-sō.　卽身義愚草　❷四卷　❸存　❹賴瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1225—1334?)述

即身成佛義科註　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kwa-chū. 科註卽身成佛義、卽身成佛義　❷二卷　❸存　❹空性註

即身成佛義科文　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kwa-mon.　❷一卷　❸存　❹俊海作

即身成佛義冠註　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kwan-chū. 卽身義冠註、冠註卽身義、冠註卽身成佛義　❷二卷　❸存　❹淨厳(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述

即身成佛義講記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-ki. 辨義鈔、卽身義講記　❷二卷　❸存　❹隆瑜(安永二—嘉永三 A. D. 1773—1850)述

即身成佛義講筵　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-en.　❷三卷　❸存　❹亮海(元祿一一—寶曆五 A. D. 1698—1755)述　❾寬延元寫(正大、一四三一・二二)延享二寫(京大、一・二六ソ・三)

即身成佛義講記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-ki.　❷一卷　❸存　❹隆瑜(安永二—嘉永三 A. D. 1773—1850)述

即身成佛義講義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-gi.　❷一卷　❸存　❹慶淳述　❺明治四二刊　❾(龍大、二六六一・九)(立大、A二〇・一七八)(立大、B一三・一九六)(京專)　❿東京光陵館

即身成佛義講義　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-gi.　❷一卷　❸存　❹樽尾祥雲著

即身成佛義講述　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-jutsu.　❷一卷　❸存　❺寬政一一寫　❾(正大、一四三一・六〇)

即身成佛義講要　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-yō. 卽身義講要　❷二卷　❸存　❹淨厳(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述

即身成佛義講要　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-yō.　❷一卷　❸存、照遍和尙全集第一　❹上田照遍(文政一一—明治四〇 A. D. 1828—1907)述

即身成佛義講翼　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-kō-yoku.　❷三卷　❸存　❹元瑜(寶曆六—文政九 A. D. 1755—1826?)述　❺寬政六(A. D. 1794)

❻初に十卷章の配列に就て卽身義、聲字義、吽字義、二敎論、實論、祕鍵、菩提心論と次第する由を述べ、次に大意、題目、本文釋の三科に分つて、卽身成佛義を講じたものである。

❾寫本(智積院常盤藏)

即身成佛義言　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-gon. 卽身成佛義集　❷一軸　❸存　❹德川時代寫　❾(寶龜院)

即身成佛義撮義鈔　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-satsu-gi-shō. 卽身義撮義鈔　❷三卷　❸存　❹覺眼(寬永二〇—享保一〇 A. D. 1643—1725)述　❾刊本(谷大、餘大・一七二六)

即身成佛義三大略記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-san-dai-ryak-ki. 卽身義三大略記　❷一卷　❹大寂述

即身成佛義私記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. 卽身成佛指義　❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)

❻山家祖德撰述篇目集卷上に曰く「天正錄曰。私記或作指義」云々。

即身成佛義私記　❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki.　❷一卷　❸存、大日本佛敎全書第二四天台宗叢書第四、安然撰集第二、天台小部集釋第一五—一七　❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)述

❻台密の大成者五大院安然尊者の顯敎に屬する說述であることに於て既に注意を惹く。全卷問答體を以て成る。天台法華宗に於て卽身成佛を立つる根據を明らかにしたもの。卽ち前半に山家傳敎大師の立てたる法華十勝中の「卽身成佛化道勝」、後半に天台三種止觀中一圓修證圓頓觀ある所以を以て此の義を建立するものなることを數多の經論疏書を引きつゝ詳論するもので其の始終に涉る中心思想は六卽成佛を闡明するに存するかと思はれる。密敎を全く顯はさない。初めに「弟子幸値ニ如實弘經之師ニ親聞ニ卽身成佛之道ニ如說信受如說修學、欲

ゝ知ニ甘露之味ニ歟集ニ醍醐之文ニ歟覩並歟遠順曼迦、願也使ニ開思修之者作ニ六即是之佛ニことあり、終に貞觀五年六月の法華會に起つた即身成佛草木成佛の諍論の顚末を記してゐる。本書述作の趣旨並びに體裁の一斑を察するに足らうか。

⑦(参考) 山家祖德撰述篇目集卷下 ⑧寛文四刊 ⑨(高大、寄・一・一五)(正大、一四三一・一五)

即身成佛義私記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. 即身成佛義記 ②一卷 ③存 ④千觀(延喜一九—永觀二 A. D. 919—984)述 ⑦(参考) 山家祖德撰述篇目集卷下、大日本佛教全書綴刊豫定書目

即身成佛義私記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. ②一卷 ③存、大日本佛教全書第三二、惠心僧都全集第三 ④源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)撰 ⑤本書は法華秀句下の「即身成佛化道勝」に明す所に依つて、法華の經力は能く父母所生身のままにして成佛せしむると、圓頓一乘の法花の力用を顯示し、法華と眞言教とは其旨歸全く同一なりと述べたもの。故に本書は法花秀句下「即身成佛化道勝」の義を闡揚するために十七番の問答を重ねて解釋したものであるとも云へる。今の即身成佛義は惠曼大師及び安慧門下である隋昭の作に係る「天台法華宗即身成佛義一卷」と間接的に關係を有し、又安然著「即身成佛義私記一卷」(天台宗叢書安然撰集二)とも關係がある。本書と安然の著即身成佛義私記とは共に法花輔照(法花秀句ともいふ)の義を論述したものである。安然の即身成佛義は貞觀五年六月の法華會に於て山家の人の間に諍論が起つた爲に輔照の說に依つて作つたものである。然るに慈覺辨惑章の第一章「示ニ即身成佛文ニ」には三論宗法相宗華嚴宗眞言宗等と天台宗との即身成佛義の比較を爲し、他を論破してゐる。慈覺辨惑章は傳教大師の著といふが、恐らく安慧、若くは隋昭の記ではなからうか。要するに天台宗の即身成佛義は涅槃經の佛性論と法花經の力用論に基づき所謂「法華經は常住佛性を以つて咽喉となし、一乘の妙行を以つて眼目となし、再生敗種を以つて心腑となし、顯本遠壽を以つて其の命となす」といふ、常住佛性を以つて法華の中心となす教義に重點を置いてゐるのである。天台宗の即身成佛義は法華對涅槃の問題に初り、之が一轉して六祖荊溪の時には華嚴對天台の問題となり、更に日本天台宗では法相宗對天台宗の問題となり、次いで三論法相華嚴の諸宗對天台法華宗の問題となり、更に眞言宗の即身成佛義が起るに至つて佛性論の中心問題は即身成佛論に轉じ、法華對眞言の諍論となつた。今や天台宗は法華眞言不二の態度で即身成佛を說き、東密家即ち眞言宗は法花と眞言との即身成佛說に優劣ありとなし、法花劣眞言勝の義を立てて天台と眞言とは對立の狀態となつた。眞言勝の說が何時代頃から初めて唱出されたかは明言し得ないが、東密の教學を對敵として常に論陣を張つた智證大師や五大院安然は著作中に於て東密の即身成佛說を破してゐないばかりでなく、弘法大師の即身成佛義に對して全く述べてゐないようである。故に東密の即身成佛義は弘法大師の時代に既に起つてゐた問題であるが未だ論諍の中には這入つてゐない。天台宗は傳教大師の時に法相宗から對論され、續いて安然も之を論じ、隋昭も之が意見を發表した。かくして日本天台は南都諸宗並に眞言宗との間に佛性の諍論を起し、機の問題では草木成佛論を生み、時の問題では即身成佛義を立つるに至つた。此問題は後に惠和年中の宮中論義となり、又惠心院源信が本書を述作するに至つたのである。本書は十七番の問答から成立してゐるが、天台宗教義で說く即身成佛とは圓教初住の位の成佛であるといひ、初住とは一念眞實菩提心を開發した當所であるといふ。之を六即の位に配すれば、名字即の初心の即身成佛であるといひ、此位が妙覺成佛であるといふ。眞言教の菩提心論の父母所生身、即證大覺位は觀行即の心を以て述べたものである。天台宗の即身成佛は法花の經力によつて初發心の其位で妙覺成佛するのだといふ。この即身成佛は三身即一の如來であるともいふ。但し今いふ所の成佛は名字即の成佛であるが、理即の成佛もあり。觀行即・相似即・分證即・究竟即の成佛もあることは勿論である。この六即成佛を事に約すれば淺深があるが、元來事理不二、修性一如なりと說くのが天台教義であるから、爾前偏權の七方便の位の意味を以つて法花開顯の圓頓一乘の成佛を論じてはならぬ。一乘の成佛を即身成佛と名づけたのである。この成佛義を顯示したものが法花の力用である。よつて是くの如き法花經を以つて一大圓教の義を明したといふのである。この故に法花經は一切の諸經を攝取して漏す所がないと。玆に至つて天台の即身成佛義は對者を失つた。爲めに破すべき對手のないものとなつた。このために天台宗内だけで種々な解釋が試みらるるようになつた。これが日本天台學が學的に發展することが出來なくなつた原因であらう。惠心僧都源信滅後、天台教學は内部から分裂を崩し、戰はずして即身成佛義は鎌倉時代に至つては信心爲本、以信代慧の教學に轉換した。即ち成佛義は問題ではなくなり唯、信の一念が問題となつて仕舞つた。この意味に於いて本書は日本天台の即身成佛義の最後の論文であるといへる。かくして本覺法門の信の一字は次の時代の問題となつた。是の故に本書は日本天台の即身成佛義の最終的論文として注目すべきものである。乍然、他の見解を取れば、本書は法花輔照(法花秀句)下卷の即身成佛化道勝の一章を解說したものであるともいへる。

⑦(参考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述害部書目、山家祖德撰述篇目集卷下 (田島德音)

即身成佛義私記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. ②一卷 ③存 ④覺超(天曆九—長曆元 A. D. 955—1037)述 ⑦(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目、山家祖德撰述篇目集卷上

即身成佛義私記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. 即身義記 ②四卷 ③存 ④淨厳(寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述

即身成佛義私記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. 即身義私記 ②五卷 ③存 ④義寂(延寶二—寛保二 A. D. 1674—1742)述 ⑤享保一二(A. D. 1727) ⑥即身義を大意、解題目、釋本文の三に分ち、大意に於て即身成佛と即心成佛との同異、即身成佛の大意の二を解說す。主として果實の東聞記を中心として論を進め、且つは果實の說を破して自說を立つる個所も尠からず。佛ら眼瑜の顯得鈔等をも引用す。⑧寶曆一二寫 ⑨(谷大、長保・一八九)

即身成佛義私記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-ki. ②九卷 ③存 ④本能述 ⑦(参考) 眞言宗全書刊行豫定目錄

即身成佛義私考 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shi-kō. ②即身成佛義私考三卷或四卷 ③存 ④宜應述 ⑨寫本(谷大、餘大・一七五一)(京專)

即身成佛義釋 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shaku. ②一卷 ③存 ⑨寫本(龍大)

即身成佛義首書 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shu-sho. ②一卷 ③存 ④覺除述

即身成佛義拾古集 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-sha-ko-shū. 即身義拾古集 ②一卷 ③存 ④道應集 ⑤即身成佛道理事、即身成佛因行事、不轉肉身事、即身成佛諸師異說事、即身成佛宗論事、三種即身成佛事の六項目を擧げ、古來諸師の諸說を集記してゐる。

⑦(参考) 眞言宗全書刊行豫定目錄

即身成佛義集 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shū. 即身成佛義言 ②一通 ③存 ④覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143) ⑤諸宗章疏錄第三に曰く「按。此在ニ弋宇害觀中。指ニ若凡若聖頌文ニ。廣釋傳中。此頌名ニ即身成佛義言。又題目云ニ即身成佛義。皆同本也。然此頌非ニ開山撰。具如ニ顯說辯。範錄恐誤也」云々。

即身成佛義述讃 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-jus-san. ②二卷 ③存 ④周海述 ⑦(参考) 眞言宗全書刊行豫定目錄

即身成佛義初學鈔 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-sho-gaku-shō. 即身義初學鈔 ②七卷 ③存 ④賢寶(正慶二—應永五 A. D. 1333—1393)述 ⑨寫本(第二・五)(寶菩提院)

即身成佛義章 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shō. 眞言宗即心成佛義章、即身義章 ②一卷 ③存、大正七九・一No. 2511、興敎大師全集之内 ④覺鑁(嘉保二—康治二 A. D. 1095—1143)述 ⑤眞言宗即身成佛義章の下を見よ。 ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三 ⑧德治三寫 ⑨(寶菩提院)

即身成佛義章玄譚 ①(日) S.-ku-shin-jō-butsu-gi-shō-gen-dan. ②一册 ③存 ④信恕(貞享二—寶曆一三 A. D. 1685—1763)記 ⑧寶曆七寫 ⑨(高大、一・四一)

即身成佛義鈔 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-shō. 即身義帝網鈔 ②一卷 ③存 ④道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1254、一說建長四、年七五寂)述

即身成佛義鈔 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shō. 即身義鈔 ②四卷 ③存 ④性心(弘安一〇—延文二 A. D. 1287—1357)述

即身成佛義鈔 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shō. ③存 ④快成性顯(—貞治六 A. D. 1367)

即身成佛義鈔 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shō. 即身成佛義聞書、即身義聞書、即身義鈔、宥快鈔、快鈔 ②十卷 ③存 ④宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)述 ⑤即身義鈔の下を見よ。 ⑨刊本(谷大、餘大・一四四六)(京大、日大未・三九七)(正大、一四三一・九)(京專)

即身成佛義鈔 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-shō. 即身義鈔 ②十卷 ③存 ④出義(應永三三—明應七 A. D. 1426—1498)述

即身成佛義信心鈔 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-shin-jin-shō. 即身義信心鈔 ④信證(應德三—康治元 A. D. 1086—1142)述

即身成佛義深密抄 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-jim-mitsu-shō. ②一卷 ④重譽(—康治元 A. D. 1142—)述

即身成佛義善女鈔 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-zen-nyo-shō. 即身義善女鈔 ②一卷 ④慈濟(安貞元—嘉元元 A. D. 1227—1303)述

即身成佛義帝網鈔 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-tai-mō-shō. 即身義帝網鈔、即身成佛義身心帝網鈔、即身帝網鈔 ②二卷 ③存 ④妙瑞(元祿九—明和元 A. D. 1696—1764)述 ⑤寶曆七(A. D. 1757) ⑥上下二卷より成り、叙意、造時、釋名、質古、六釋、機根、消文解釋の七科に分つて即心成佛義を講じたもの。 ⑧寶曆八刊 ⑨(龍大、二六六一・一〇)(京專)

即身成佛義體大東聞記 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-tai-dai-tō-mon-ki. 六大無義章 ②一卷 ③存 ④顯寶(康元元—元德二 A. D. 1235—1330) 口說、了賢(—貞和三 A. D. 1347)記

即身成佛義卓義錄 ①(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-taku-gi-roku. ②六卷 ③存 ④海運述

即身成佛義探賾 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-tan-saku. ②二卷 ③存 ④淨厳(寛永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述

即身成佛義註詮 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-chū-sen. ②一卷 ③存 ④微濃述

即身成佛義追記 ①(日)Soku-shin-jō-butsu-gi-tsui-ki. ②二卷 ③存 ④義寂(延寶二—寛保二 A. D. 1674—1742)述 ⑤寛保二(A. D. 1742)夏 ⑥享保十二年作の即身成佛義私記に追補したもので、其に即身成佛義私記追記とも稱すべきものである。

即身成佛義傳實記 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-den-bō-ki. ❷六卷 ❸存 ❹呆實(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)述

即身成佛義東聞記 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-tō-mon-ki. 即身東聞記、即身義東聞記 ❷十卷 ❸存 ❹賴寶(康元元—元德二 A. D. 1256—1330)口、呆實(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)記 ❺本書卷九の奥書に據れば、嘉曆二年(A. D. 1327)五月十三日、呆實二十二歳、東寺學頭坊に於て書寫し畢るとあれば、呆實がその師賴實の口說を筆記したものにして、即身成佛に關する要義を細大漏らさず解說した點に於て、即身義末註中の白眉と云へよう。 ❾刊本(谷大、餘大・一四三七)

即身成佛義祕決 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-hi-ketsu. 即身義祕決 ❸存 ❹尙昨(一寬元三 A. D. 1245)

即身成佛義分科 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-bun-kwa. ❷一卷 ❸存 ❹弘現(文政元—明治一一 A. D. 1818—1878)

即身成佛義分決鈔 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-bun-ketsu-shō. 即身義分決鈔 ❷二卷 ❹源朝述

即身成佛義別記 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-bek-ki. 即身義別記 ❷一卷 ❸存 ❹賴瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1304)述

即身成佛義補闕問題 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-ho-ketsu-mon-dai. 即身義補闕問題 ❷四卷 ❸存 ❹明藏(一寬元元 A. D. 1243—)口、源朝記

即身成佛義密談鈔 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-mitsu-dan-shō. 即身義密談鈔 ❷十卷 ❸存 ❹性心(弘安一〇—延文二 A. D. 1287—1357)述 ❺貞和五(A. D. 1349)十二月十日 ❻即身義密談鈔の下を見よ。

即身成佛義妙極鈔 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-myō-goku-shō. ❷二卷 ❸存 ❹淨覺(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)述

即身成佛義問題 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-mon-dai. ❷二卷 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1232)說建長四年七五歳)等合作 ❾寫本(京大、日大來・三八五)

即身成佛義問題 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-mon-dai. 即身義問題 ❷二卷 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三 A. D. 1345—1416)述

即身成佛義問答決擇 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-mon-dō-ke-chaku. 即身義問答決擇 ❷一卷 ❸存 ❹呆實(德治元—貞治元 A. D. 1306—1362)述 ❺曆應三(A. D. 1340)

即身成佛義問答鈔 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-mon-dō-shō. 即身成佛問答、即身義問答鈔 ❷一卷 ❸存 ❹濟暹(寬喜二—永久三 A. D. 1025—1115)述 ❼(參考) 眞言宗全書刊行豫定目錄

即身成佛義略解 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-ryaku-ge. 即身義略解 ❷三卷 ❸存 ❹尊純(正保二—享保二 A. D. 1645—1717)述

即身成佛義類聚 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-gi-rui-jū. ❸存 ❾寫本(立大、DO・三一五)

即身成佛口決 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❹寂雲記 ❾足利時代寫(寶龜院)、天文一七寫(高大、寄・一・六四)

即身成佛口傳 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-ku-den. ❷一卷 ❸存 ❹實全記 ❺天文二四寫 ❾(眞如藏)

即身成佛觀 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-kwan. ❷一帖 ❸存 ❹五智房作 ❺德川時代寫 ❾(寶龜院)

即身成佛顯得鈔 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-ken-toku-shō. 即身義顯得鈔、即身成佛義顯得鈔 ❷三卷 ❸存 ❹賴瑜(嘉祿二—嘉元二 A. D. 1226—1334)述 ❾刊本(正大、一四三一・三〇二、一四三一・一四〇)(高大、寄・一・四一)(立大、A二〇・四一—四二)足利時代寫(寶龜院)

即身成佛私記 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-shi-ki. 即身成佛義私記、即身義指義 ❷一卷 ❸存 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)述 ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目

即身成佛品 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-hon. ❷一卷 ❸存、大正七七・三八一 No. 2428、弘法大師全集第三 ❹空海(寶龜五—永和二 A. D. 774—835)述 ❻即身成佛義に同じ。 ❾原本(金剛峯寺)、眞石版(谷大、別・三三)

即身成佛名字口唱決 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-myō-ji-ku-shō-ketsu. ❷二卷 ❸存、日蓮宗々學全書第一〇本門法華宗部第一 ❹日憲(元祿八—明和七 A. D. 1695—1770) ❺寶曆二(A. D. 1752) ❻本門法華宗の本因下種の宗義に據つてその成佛論を說きたるもの、口唱題目の行によつて、名字即の當位に即身成佛するの義を明したのである。同章十科を分ち、その中第七當家下種十箇の深義を示すに、一に下種の立處、二に要法下種の敎主、三に下種の國土、四に下種の本尊、五に下種の位、六に下種の修行、七に下種の敎相、八に下種の觀心、九に下種の導師、十に下種の機を說ける段を以て核心とすべきか。 (架月敎厚)

即身成佛文 ❶(日) Soku-shin-jō-butsu-mon. 阿字百義 ❷一卷 ❸存、弘法大師全集第一一敎相(眞言宗來決)部 ❻四字の句九十五句より成る、阿字は大日如來の種子で離苦滅罪の德あり、萬寶を以て百年間阿羅漢を供養し、滿四天下の七寶を以て諸佛を供養するも阿を唱ふるに如かず、三世諸佛も阿字によりて成佛せり等と說く。空海は之を嵯峨天皇に授け奉り、天皇は之を御類に懸けて崩御し給ひ、又堀河院天皇も之を御類に懸けて崩御し給へりと傳ふ。空海作と稱するけれども蓋し後人の僞作である。 (吉祥眞雄)

即身帝網鈔 ❶(日) Soku-shin-tai-mō-shō. 即身義帝網鈔、即身成佛義帝網鈔、即身成佛義身心帝網鈔 ❷二卷 ❸存 ❹鈴瑞(元祿九—明和元 A. D. 1696—1764)述 ❺寶曆七(A. D. 1757) ❻即身成佛義帝網鈔の下を見よ。 ❼(參考) 章疏錄

即身貧轉福德圓滿宇賀神將菩薩白蛇示現三日成就經略疏 ❶(日) Soku-shin-hin-ten-fuku-toku-en-man-u-ga-jin-shō-bo-satsu-byaku-da-ji-gen-san-nichi-jō-ju-kyō-ryaku-sho. 宇賀神將菩薩白蛇示現三日成就經略疏、宇賀神將白蛇示現經略疏 ❷一卷 ❸存、辨財天三經略疏之內 ❹潮音道海(寬永五—元祿八 A. D. 1628—1695)述 ❻龜卷國童書譯と稱するも、その實日本撰述の僞經たる即身貧轉福德圓滿宇賀神將菩薩白蛇示現三日成就經の註釋である。 ❾刊本(京大、日大未・九五)

即席文章 ❶(日) Soku-seki-bun-shō. ❷一卷 ❸存 ❾刊本(龍大)(哲、ソ・七・中・一三)

即席法談 ❶(日) Soku-seki-hō-dan. ❷三卷 ❸存 ❹栗津義圭(一寬政一一 A. D. 1799)述 ❺安永九刊 ❾(京大、一・二六ソ・四)

即得往生義之略鈔 ❶(日) Soku-toku-ō-jō-gi-no-ryaku-shō. ❷一卷 ❸存 ❹惠然(元祿六—明和元 A. D. 1693—1764)述 ❺安永九寫 ❾(谷大、宗大・三一一七)

即非和尙後錄 ❶(日) Soku-hi-o-shō-go-roku. 廣說即非和尙後錄 ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

即非和尙德感集 ❶(日) Soku-hi-o-shō-tok-kan-shō. 壽山即非和尙德感集 ❷一卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)、性悛、性節共編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師行業記 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-gyō-gō-ki. ❸存、即非禪師全錄之內 ❹明洞編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師語錄 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-go-roku. ❷七卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)語、性侯編 ❾刊本(駒大)

即非禪師拾草 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-shū-sō. ❷一卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)記、慈諦編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師全錄 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-zen-roku. ❷十卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)語、明洞等編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師如語 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-nyo-go. 雲峰即非禪師如語 ❷一卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)語、性侯編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師之遺唸 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-no-yui-gon. ❷一卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)語、性嘉編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師豐州草 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-bu-shū-sō. ❷一卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671)語、性節柏巖編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師末後事實 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-matsu-go-ji-jitsu. ❸存、即非禪師全錄之內 ❹明洞編 ❼(參考) 禪籍目錄

即非禪師洛行艸 ❶(日) Soku-hi-zen-ji-raku-gyō-sō. ❷一卷 ❸存 ❹如一即非(元和二—寬文一一 A. D. 1616—1671) ❼(參考) 禪籍目錄

則天大聖皇集 ❶(日) Soku-ten-dai-sei-k-shū. ❷十卷 ❻東域傳燈目錄卷下に曰く「枚數少故或合卷也。拔見是多顧文集也」云々。

息開悟藏私記 ❶(日) Sok-kai-go-zō-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❻立河邪淺事を記したもの。 ❺永祿六寫 ❾(寶龜院)

息耕語錄 ❶(日) Sok-kō-go-roku. 峨山和尙語錄 ❷一卷 ❸存 ❹橋本昌順(寬永六—明治三三 A. D. 1853—1930) ❼(參考) 禪籍目錄

息耕錄開莚普說 ❶(日) Sok-kō-roku-kai-en-fu-setsu. 息耕錄普說 ❷一卷 ❸存、白隱廣錄第二、禪學大系叢錄都第五 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五 A. D. 1685—1768)述

息耕錄開莚普說印施解 ❶(日) Sok-kō-roku-kai-en-fu-setsu-in-se-ge. ❷一卷 ❸存、白隱廣錄第一 ❹玄軾記 ❻寬保三(A. D. 1743)一月 ❼(參考) 禪籍目錄 ❽元文五年(A. D. 1740)春夏の頃、白隱禪師四衆の請に應じて虛堂錄を提唱するに當り、其の開莚に先だち學人を提誨せんが爲めに述せし普說一篇が即ち本書である、虛堂錄の著者虛堂智愚禪師を世人敬して息耕と稱せしが故に、表德號に從つて虛堂錄のことを玆に息耕錄と呼んだのである、此の普說一篇は眞正の見性、大法の淵源に徹底せざるべからざることを道破したものである、然るに學禪の徒稍もすれば一片淸寂の死水裡卽ち寂默枯坐を死守し、以て究竟最極の最上乘禪なりと誤解せる所謂默照禪に墮するが故に强くこの種の邪徒を警誡し、併せて當時の誤れる淨土往生思想を批判し、古今名匠の得法の消息を列擧して學人をして生死の根源を直截し、以て再び祖庭の眞風を挽回し、永く禪門の宗旨を隆興せしめんとして、心肝を傾け盡して學人に告報されたものである。禪祚天啓の序文を付して現に行はれつゝあり。荊叢毒藥、拽安國語、聞提記聞、寒林拈寶、寶鑑詮照、毒語心經、假名法語等と共に白隱和尙の面目を知らんと欲する者の必讀の書である。此の普說は始め侍者玄軾が座下にあつて筆記したのであるが、版に附するに當つて、白隱自ら首尾寘通する樣加筆し淨書せられたのであつて、現に其の手澤本幸にも靜岡縣淸水市荒井氏藏蔵さる。 ❾寬保三刊(駒大)(谷大、餘大・二六六五)安政七刊(駒大)刊本(帝國、一二四・一七四)(宮專) (林岱雲)

息耕錄開莚普說 ❶(日) Sok-kō-roku-kai-en-fu-setsu. 國譯禪師息耕錄開莚普說 ❸存、國譯禪宗叢書第一一 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五 A. D. 1685—1768)述、東胡編

息耕錄開莚普說印施解 ❶(日) Sok-kō-roku-kai-en-fu-setsu-in-se-ge. ❷一卷 ❸存、白隱廣錄第一 ❹玄軾記 ❻寬保三(A. D. 1743)一月

書字略號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸缺存 ❹著者 ❺著者 ❻著作年代 ❼內容解說 ❽末書(註釋書參考書) ❾寫本の年月 ❿現所藏者(書庫名) ⓫發行所

⑭白隱禪師元文五年息耕錄(虛堂錄の別稱)を提唱するに當り、大衆の請に從つて菩說一編を唱へて後學を策進せんとし、寸暇毎に、或は五行、或は十行、唱ふるに隨つて弟子是を筆記す、白隱心に浮ぶ所に任せて之を唱ふ、其の次序を顧みず、遂に五十餘紙に至る、弟子等是を讀み信受し、乞ふて上梓せんとせしも許さず、寶保三年(A. D. 1743)忠・諒二人入室して曰く、設令誹謗する者名利の爲めに刊行すと批議することあるも、後學筆寫せんとして修禪の時を費し、爲めに道業を業廢するを思はゞ以て誹謗も忍受すべく、寧ろ晩進策勵の爲めに版に付して廣く流行せしむるに如くは無きを以てするや、白隱また筆記を失を招き或は駑馬の謬を來さんよりは、寧ろ上梓施行せんとし、肆に命じて出版せしめしもの卽ち息耕錄菩說一篇である。白隱禪師の侍者玄畝師の座下に隨侍し、如上の菩說成立并に印施の緣由を見聞の儘に詳記せるものが卽ち本篇である。 (林信雲)

息耕錄開莛菩說蛇足 ❶(日) Sok-kō-roku-kai-tei-bosa-dja-soku. ❷一冊 ❸存 ❹寶曆二刊(谷大・餘大・三五一四)

息耕錄評唱剩語 ❶(日) Sok-kō-roku-hyō-shō-jō-go. ❷一卷 ❸存、白隱廣錄第二 ❹白隱慧鶴(貞享二—明和五 A. D. 1685—1768)述 ⑭息耕錄(虛堂錄)中の第一、報恩光孝禪寺語錄小參の五眼演和尙の示衆を始めとして息耕錄中の精要とも言ふ可き五箇所を擇び虛堂和尙の評唱に對して白隱更に自己の評を下し、古人未到の處を開發し語を下したものである。謙遜して自分の語を剩語と云ふたのである。 (林信雲)

息耕錄菩說骨董 ❶(日) Sok-kō-roku-fu-setsu-kot-tō. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

息災護摩 ❶(日) Soku-sai-go-ma. ❷一卷 ❸存 ❹過昭記 ⑨寫本(無動寺藏)

息災護摩 ❶(日) Soku-sai-go-ma. ❷一冊 ❸存 ⑨高慶元寫(金剛三昧院)享保一四寫(寶菩提院)

息災護摩口訣 ❶(日) Soku-sai-go-ma-ku-ketsu. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩作法 ❶(日) Soku-sai-go-ma-sa-hō. 息災護摩作法子嶋 ❷一帖 ❸存 ❺天福二寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災護摩支分 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-bun. ❷三卷 ❸存 ❹韻遍 ❼〔參考〕眞言宗全書刊行豫定目錄

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災次第、護摩息災次第 ❷一卷 ❸存、日本大藏經眞言宗事相章疏第一、弘法大師全集第七 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)述 ⑭息災次第の下を見よ。 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第三 ⑨(龍大、二六六五・一六)寫本(高大、寄・一・六二)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第子嶋流 ❷一帖 ❸存 ❹長慶(貞觀八—昌泰三後 A. D. 866—930—)集 ❺正安元寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹淳祐(寶平二—天曆七 A. D. 890—953) ❼〔參考〕眞言宗全書刊行豫定目錄

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹元杲(延喜一一—長德元 A. D. 911—995) ❼〔參考〕眞言宗全書刊行豫定目錄

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第保壽院流 ❷一帖 ❸存 ❹信瑜記 ❺寬延三寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第中院流 ❷一括 ❸存 ❺是利時代寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第金剛王院流 ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第澤流 ❷一帖 ❸存 ❺鎌倉初期寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第金流 ❷一帖 ❸存 ❺鎌倉初期寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第子嶋流 ❷一帖 ❸存 ❺足利中期寫 ⑨(金剛三昧院)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. 息災護摩次第延命院 ❷一帖 ❸存 ⑨寫本(金剛三昧院)

息災護摩次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai. ❸存、國譯密敎事相部第四

息災護摩次第私注 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai-shi-chū. ❷一軸 ❸存 ⑨寫本(寶菩提院)

息災護摩次第私日記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai-shi-nik-ki. ❷一帖 ❸存 ❹澄圓記 ❺鎌倉初期寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災護摩次第抄 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-dai-shō. 曼荼羅上人諸流通用口決鈔 ❷一軸 ❸存 ❺明暦四寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩私記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❹曼荼(天曆九—長曆元 A. D. 955—1037)記 ❺寶曆三寫 ⑨(眞如堂藏)

息災護摩私記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-ki. ❷一帖 ❸存 ❹淨藏(寬永一六—元祿一五 A. D. 1639—1702)記 ❺元祿四寫 ⑨(高大、寄・一・六四)

息災護摩私記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-ki. 息災護摩私記西山 ❷一卷 ❸存 ❹亮範(寬文一〇—元文四 A. D. 1670—1739)記 ❺寶保二寫 ⑨(安樂律院)

息災護摩私記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-ki. 息災護摩私記廣澤方 ❷一帖 ❸存 ❺鎌倉時代寫 ⑨(寶龜院)

息災護摩私記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-ki. 息災護摩私記愚山 ❷凡十五帖 ❸存 ❺足利時代寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩私記附不動 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-ki-fusuke ari-fu-dō. ❷一帖 ❸存 ❺德川時代寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩私次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹興然(保安元—建仁三 A. D. 1120—1203) ❼〔參考〕眞言宗全書刊行豫定目錄

息災護摩私次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹道範(元曆元—建長四 A. D. 1184—1252 一說建長四、年七五寂) ❼〔參考〕眞言宗全書刊行豫定目錄

息災護摩私次第 ❶(日) Soku-sai-go-ma-shi-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹榮海(弘安元—眞和三 A. D. 1278—1347) ❼〔參考〕眞言宗全書刊行豫定目錄

息災護摩壇圖 ❶(日) Soku-sai-go-ma-dan-zu. 息災護摩壇圖中院流 ❷二紙 ❸存 ⑨寫本(高大、寄・一・七一)

息災護摩壇圖並神供台之圖 ❶(日) Soku-sai-go-ma-dan-zu-narabini-jin-gu-dai-no-zu. ❷二紙 ❸存 ❺德川末期寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩法 ❶(日) Soku-sai-go-ma-hō. ❷一帖 ❸存 ❺文政一一寫 ⑨(寶菩提院)

息災護摩法次第私記 ❶(日) Soku-sai-go-ma-hō-shū-dai-shi-ki. ❷一軸 ❸存 ❺鎌倉中期寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息災次第 ❶(日) Soku-sai-shi-dai. 護摩息災次第、息災護摩次第 ❷一卷 ❸存、日本大藏經眞言宗事相章疏第一、弘法大師全集第七 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)撰 ⑭大日如來を本尊とせる息災護摩法の次第で、火天、本尊、諸尊、火天、世天の五段護摩法を說いてある。 ❼〔參考〕護摩事鈔下、諸宗章疏錄第三 ⑨保延五寫(石山寺)延享元寫(寶菩提院)享保一五寫(大通寺)

息災法 ❶(日) Soku-sai-hō. 息災法勸 ❷一軸 ❸存 ❺建治二寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

息子母經 ❶(日) Soku-shi-mo-kyō. (支) Hsi-tzu-mu-ching. ❷一卷 ❼〔參考〕靜泰錄第三

息止道經 ❶(日) Soku-shi-dō-gyō. (支) Hsi-chih-tao-ching. (巴) Sup. Ⅱ Vijaya. ❸存、中阿含經第三四(大正一・六四六 No. 26. 139)

息除賊難陀羅尼經 ❶(日) Soku-jo-zoku-nan-da-ra-ni-kyō. (支) Hsi-ch'u-tsei-nan-t'o-lo-ni-ching. 息除賊難經 ❷一卷 ❸存、大正二一・九二一 No. 1405、鎌成一二、卍一五・五、北1357鼎、南1283鼎、元1277鼎、明北915深、清915深、麗1257陰、天1251鼎、法1376穀、至780興、明南940興、Nj. 920 ❹宋法賢(一—咸平四 A. D. 1001)譯 ⑭佛陀が大衆と共に摩伽陀國に居られ、偶々帝釋嚴中に到り、阿蘇羅者が遙かの彼方から、大惡賊が近付き來るのを見て、大に恐怖した時に、大輪結界陀羅尼を說かれた。この陀羅尼を誦すれば、十二由旬の間結界せられて、賊衆は近寄ることが出來ない。若し假りに近寄り來る時には浮白線を此の陀羅尼にて加持すること、七遍し、結んで七結と爲さば、賊衆は禁縛せられて、難を爲すことが出來なくなると說いてある。 (神林隆淨)

息除中夭陀羅尼經 ❶(日) Soku-jo-chū-yō-da-ra-ni-kyō. (支) Hsi-chu-chung-yao-t'o-lo-ni-ching. (梵) Sarvabuddhānugavat-dhāraṇī.(藏傳)(譯)'phags-pa sans-rgyas thams cad-kyi yan-lag dan-ldan-pa shes-bya-ba-hi gzungs. 息除中夭經 ❷一卷 ❸存、大正二一・八六〇 No. 1347、鎌成七、卍一五・二、北1117俠、南1134俠、元1127俠、明北797忠、清797忠、麗1121隸、天1114俠、法1233兵、至783興温、明南799力、Nj. 802 ❹宋施護譯 ❺太平興國五—(A. D. 980—)

⑭佛陀が祇伽(gaṅgā)の河邊に遊行して居られた時に、四天王等に對して中夭を息除する爲に、面を東に向けて、「南無十方一切如來無上正覺よ、廣大の慈悲を以て、有情を憐愍して、かれ皆阿得多羅三藐三菩提を證得し玉へり、惟願くは慈悲をもて、同共に著我の有情を觀察して、力を與へ護を加へて中夭を息除し、解脫を敎演せし玉へ」と言はれた。その時に三世の諸佛はその言の眞實なるを證成し玉ふと同時に會中の衆は皆毒命を得、色相具足して、悉く生死の怖畏を離れ、中夭なきを得たと云ふ。 (神林隆淨)

息諍因緣經 ❶(日) Soku-jō-in-en-gyō. (支) Hsi-chêng-yin-yuan-ching. (巴) Sāmagāma. (M. 104) ❷一卷 ❸存、大正一・九〇四 No. 85、鎌戊八、卍一五・七、北1318相、南1323功、元1313功、明北940夙、清940夙、麗1470牧、天1303功、至1146唱、明南959斯、Nj. 945 ❹宋施護譯 ❺太平興國五—(A. D. 980—)

⑭世尊が舍摩迦子聚落(Sāmagāma)にあるせし時、尊那(cunda)も亦その近くの惹盧迦林中に夏安居してゐた。その時、六師外道の一人である尼乾陀惹提子(Nigaṇṭhanātaputta)が命終し、その子は佛敎僧團に於て鬪諍を起さんとした。尊那は安居を竟へて阿難の所に行つてその事情を語り、ついで共に世尊の所に詣り、世尊の滅後に佛が僧團に居ない爲と、外道の聖の乘ずる所となつて敎團の分裂を恐れ、その諍亂抑止の方法を問ひ奉つた。世尊は諍亂の根本は慾惱心にあることを明し、ついで七種滅諍法(Satta adhikaraṇa-samathā)—(一)現前毘尼。(二)憶念毘尼。(三)不癡毘尼。(四)自言治。(五)多人語。(六)如所作。(七)如草覆地—を說き、復、六種和敬法、(cha sārāṇiyā dhammā)を宣說したまふ。

本經の別譯として、中阿含、第百九十六周那經(大正一・七五二)があり、巴利 M.

104 Sāmagāma-sutta と共に、その序は尼犍子の滅後、弟子等互に不和を生じ、周那の報によつて阿難が佛滅後の僧團の不和を恐れてその諍亂の息滅の方法を佛に聞くことゝなつてゐる。（西尾京雄）

息諍解謗編 ❶(日)Soku-jō-kai-hō-hen. ❷二卷 ❸存 ❹晋空(文化一一—明治九 A. D. 1814—1876)述 ❺元治元刊 ❻(谷大、宗大・四六二)(龍大、二六八五・一八)(京大、一・二六ツ・五)

息諍解謗編餘意 ❶(日) Soku-jō-kai-hō-hen-yo-i. ❷一卷 ❸存、深草叢書第二 ❹晋空(號陽炤菴)(文化一一—明治九 A. D. 1814—1876)述 ❺文久元 (A. D. 1861)

❻息諍解謗とは、佛西流の元利が、勤護同法記に西山流は一念義に等しき邪義なりと述べたるに對し、其れを辯駁したる書なるが、其の旨意は自他流の異義は今に始らぬことなれば其分にさしおきて、唯我家の相傳の正義を弘通するこそ傳法者の專務なるも、當流の僧徒は廢學になり我家の教相をも委しく心得たる人も稀なれば、斯樣なる書を見て其の道理に屈伏して全く佛西の意になりて祖師の意を汚す恐れあり、且又心行兩端に跨りて往生の心行を妨げ、或は祖師の正義を邪義と思ひて誹謗正法の罪を得んもいとほしく思へば、かゝる輩に對して彼の破文の組列に遵へる個處を示して扶宗護法の一助にしたるが本篇二卷にて、今は其篇中に言ひ漏したるを集錄し末學の用意にとて次下の十二ケ條を問答體に述べてよく一流の教義を敎示せり。一、教相と安心。二、給師滅後の異義。三、西佛安心の義別同異。四、西佛教相の義別。五、諸行と念佛の利益。六、攝機乘願往生。七、御傳と燈錄の取捨。八、御傳と燈錄義意。九、西佛往生の得否。十、蹄投淨宗の學匠。十一、西山祕書の義邊。十二、正統實義。

❼寫本(谷大、宗大・三〇一三)(正大、一五六・一)

息心鈔 ❶(日)Soku-shin-shō. 息心抄 ❷八卷 ❸存 ❹相實撰

❺本朝台祖撰述密部書目に曰く「相實法印此中記諸章次第分七卷有之。名=七卷抄。又戒光坊是八卷調卷自記諸章形像上下二卷取合十卷抄名ケラル、ナリ。裏裏注著甚多シ。是ハ戒光坊ノ私注也。已上源抄、戒光坊方ハ以=十卷抄=爲=本書。同崎方ニハ根本ノ七卷抄ヲ用之」云云。

❻(參考) 山家祖德撰述篇目集卷下、密乘撰述目錄 ❼應保二寫 ❽(叡山文庫)

息心立印抄 ❶(日) Soku-shin-ryū-in-shō. ❷十二卷 ❸存 ❹明導談 ❺寫本(無動寺藏)

息惡經 ❶(日)Soku-ni-kyō(支)Hsi-hui-ching. ❷一卷 ❸失譯 ❹中阿含經

❷(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

息祕口決 ❶(日)Soku-hi-ku-ketsu. ❷一卷 ❸存 ❹存海記 ❺寫本(正教藏)

側土經 ❶(日)Soku-do-kyō(支)Tse-tu-ching. ❷一卷 ❸疑僞經 ❹(參考)武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

速疾立驗魔醯首羅天說阿尾奢法 ❶(日) Soku-shitsu-ryū-gen-ma-kei-shu-ra-ten-setsu-a-bi-sha-hō. (支)Sa-chi-li-yen-mo-hei-shou-lo-t'ien-shuo-a-wei-she-fa. 速疾立驗魔醯首羅天說迦婁羅阿尾奢法、魔醯首羅說法阿尾奢法 ❷一卷 ❸存、大正二一・三二九 No. 1277. 續開一四、卍二六・一〇、明北1389杜、清1389杜、明南1301學、Np. 1396 ❹唐不空(神龍元—大曆九 A. D. 705—774)譯

❺本法は魔醯首羅(Maheśvara大自在)天が、那羅延(Narāyana)天に對して阿尾奢(āveśa)法を說かれたものである。阿尾奢を譯して迦入と云ふ。無垢童女の身に天の使者が乘り移り、未來の吉凶禍福を語ることを指す。俗に云ふ口寄せに當る。この儀軌には成鈴使者の法と呼んである。人若し未來の事を知らんとせば、童男若しくは童女の七八歲にして、身上に穢瘋獄記なく、聰慧怜利なるものを撰び、七日間素食せしめ、直日に沐浴し淨衣を着せしめ、壇前に立たせ、行者は印を結び眞言を誦ずることに依り、その童女若しくは童子は、神がかりの狀態に入つて未來の善惡災祥を語ると說かれてある。獨り未來の事を告ぐるだけでなく、或は軍陣を助て敵を破る等の事をも爲すと言はれてある。

❻(參考) 貞元錄第一五 (神林隆淨)

速證佛位集記 ❶(日) Soku-shō-butsu-i-shū-ki. ❷一卷或八卷 ❸圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)撰 ❹(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上、密乘撰述目錄

速證菩提集 ❶(日) Soku-shō-bo-dai-shū. 速證佛意集、速證佛位集記 ❷八卷或一卷 ❸圓仁(延曆一三—貞觀六 A.D. 794—864)撰

❺山家祖德撰述篇目集卷上に曰く「天正錄曰。菩提或作=佛意=」云々。

❻(參考) 密乘撰述目錄、延曆寺密乘略目錄

速證菩提集 ❶(日) Soku-shō-bo-dai-shū. 菩提集 ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第三三 ❹淨信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)撰 ❻(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷下

測海集節鈔 ❶(日) Sok-kai-shū-setsu-shō. (支) Tse-hai-chi-chieh-ch'ao. ❷一卷 ❸存、卍續二・一五・四、唯心集之內 ❹清代彭紹升撰、弟子節鈔

❺本書は清の彭紹升が清朝歷代皇帝の聖德を讚へたる詩七篇、賢臣を讚詠せる詩百六十首を作り、堯帝を頌せる故事にならひ、聖德は天の知る可らざる如く海の測る可らざるに似たる事に採り測海集と題し、清高宗帝乾隆四十四年四月朔(A. D. 1779)自ら題跋して測海集を成したものである。紹升の弟子某が、此の測海集の聖德詩中より世宗帝の一篇息賢詠中より二十首を節鈔したものが即ち本書である。

其の節鈔された人物は、皇帝中よりは世宗聖德篇の一篇、思賢詠中よりは (1)修撰蔣超虎臣。(2)學士曹本榮木欣。(3)少詹事耿介介石。(4)推官賈可權雲明。(5)晉捕徐越山琢。(6)尚書湯斌孔伯。(7)知縣許定升升年。(8)左都御史沈近思位山。(9)尚書孫嘉淦錫仁。(10)總督于成龍北溟。(11)光祿少卿楊鼐靜山。(12)光祿卿沈起元子大。(13)徵士孫奇逢啓泰。(14)徵士李顒中孚。(15)處士謝文洊秋水。(16)處士汪佑魏美。(17)處士徐林昭法。(18)處士張光緯次民。(19)處士畢奇紫嵐。(20)處十鄒元昌慈濂。の二十名であつて、儒佛に參得した賢臣として讚頌したものである。

著者の彭紹升は字を尤初、號を尺木、知儒子と別號し、陸王の學を寧び、大藏經を閲して旨を得、深山に居して習靜し、素食持戒頗る篤にして、儒佛の奘に徵せん事を實つた居士で、測海集の著作に依つても其の性格の程が窺はれる。彭紹升には別に二林居集の著作がある。

❹刊本(京大、藏・二四ュ・一)(龍大・二〇五一・一七) (大久保堅璋)

觸髏問答 ❶(日) Soku-e-mon-dō. ❸存、日本教育文庫第一一宗教篇附錄之內一卷 ❸存 ❹曉鳥敏著 ❺大正八刊 ❻(龍大、一〇五四・一四)

觸光柔軟法語 ❶(日)Sok-kō-nyū-nan-hō-go. ❷一卷 ❸存 ❹德龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ❺御一代記聞書二百九十三章の法語。❻寫本(谷大、宗大・一四三七)

觸鼻羊 ❶(日) Soku-bi-yō. ❷一卷 ❸存 ❹義梵仙厓 ❷(參考) 譯籍目錄

俗諦常住 ❶(日)Zoku-tai-jō-jū. ❷一卷 ❸存 ❹貞舜述 ❺寫本(谷大、餘大・二三三九)

俗諦不生不滅 ❶(日)Zoku-tai-fu-shō-fu-metsu. 俗諦不生不滅論 ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗顯教章疏第二、大日本佛教全書第二四、天台小部集釋第四 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)述 ❷(參考) 本朝台祖撰述密部書目

俗諦不生不滅論 ❶(日) Zoku-tai-fu-shō-fu-metsu-ron. 俗諦不生不滅 ❷一卷 ❸存、日本大藏經天台宗顯教章疏第二、大日本佛教全書第二四、天台小部集釋第四 ❹圓仁(延曆一三—貞觀六 A. D. 794—864)述 ❺慈覺大師圓仁歲十五にして叡山に登り傳教大師に師事するや宗祖その偉器なるを見て常に鐘愛を加へみづから天台の宗骨を開示し經論の秘要を指示し且つ誡めて「吾常に二諦不生不滅の旨を弘傳す。而も世人眞諦不生滅の義を信じて未だ世諦不生滅の理を解せず。汝、此の義を以て世に流傳し圓教を弘通し有情を利益せよ」といひ給ふたこと著名事として語り傳へられる所、本書は慈覺大師が自らその經を記したものといわれる。總じて三百十八字の小篇ながら秘めて興味あるものといへやう。

❷(參考) 山家祖德撰述篇目集卷上 (關口慈光)

俗諦不生不滅論科鈔 ❶(日)Zoku-tai-fu-shō-fu-metsu-ron-kwa-shō. ❷一卷 ❸存 ❹義導(文化二—明治一四 A. D. 1805—1881)述 ❺刊本(龍大、二六五二・一七二)(谷大、餘大・三五一〇)(智・二・七・有・三三)(京專)

俗談餘義 ❶(日) Zoku-dan-yo-gi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正大、一三九・五四)

俗佛道大意 ❶(日) Zoku-butsu-dō-tai-i. ❷一卷 ❸存 ❹蓮俊述 ❺明治五寫 ❻(谷大、餘大・四四一四)

粟如瀚禪師語錄附行狀、塔銘、塔記 ❶(日) Zoku-nyo-kan-zen-ji-go-roku-tsuketari-gyō-jō-tō-mei-tō-ki. (支)Su-ju-han-ch'an-shih-yū-lu & hsing-chuang t'a-ming t'a-chi. ❷一卷 ❸存 ❹清粟如弘瀚語、傳鳥編 ❺雍正八刊 ❻(駒大)

賊盜律 ❶(日) Zoku-tō-ritsu. ❸存 ❹寫本(龍大)

續一華五葉 ❶(日) Zoku-ik-ke-go-yō. (支)Hsu-i-hua-wu-yeh. ❷一卷 ❸存 ❹楚州寶編 ❷(參考) 譯籍目錄

續一切經音義 ❶(日) Zoku-is-sai-kyō-on-gi. (支)Hsu-i-ch'ieh-ching-yin-i. 希麟音義 ❷十卷 ❸存、大正五四・九三四 No. 2129、館爲八、屋1323錄 ❹唐代希麟撰

❺希麟音義ともいふ。唐建中末より元和二年にかけて慧琳が、音義百卷を撰した後を受けて、燕京崇仁寺沙門希麟は、同音義に敎載せられなかつた經律論疏の熟語につき、慧琳音義、慧苑音義、慈恩音義、古華嚴音義、或は易經、禮經、論語、左傳、漢書、博雅、爾雅、廣雅、蒼頡篇、說文等の書を引用し、梵音を考へつゝ註釋を施したもので、註釋されたる經論は、大乘理趣六波羅蜜經に始まり續開元釋敎錄に終る二百六十六卷に及んでゐる。書名をあぐれば左の通りである。

〔卷一〕 大乘理趣六波羅蜜多經一帙十卷。

〔卷二〕 新大方廣佛花嚴經四十卷。

〔卷三〕 新大方廣佛花嚴經。新譯十地經九卷。十力經一卷。廻向輪經一卷。

〔卷四〕 大乘本生心地觀經八卷。守護國界主陀羅尼經十卷。大乘瑜伽千鉢文殊大敎王經十卷。

〔卷五〕 新譯仁王護國般若波羅蜜多經二卷。大威力烏瑟瑟摩明王經三卷。金剛頂眞實大敎王經三卷。金剛頂修習毘盧遮那三摩地法一卷。金剛恐怖最勝心明王經一卷。不動使者陀羅尼祕密法一卷。普遍智藏般若波羅蜜多心經一卷。觀自在多羅菩薩經一卷。一字奇特佛頂經上中二卷。阿唎多羅阿嗜力經一卷。金剛頂瑜伽文殊師利菩薩經一卷。底哩三昧耶不動使者念誦經一卷。大方廣觀音菩薩授記經一卷。菩提場所說一字頂輪王經五卷。金剛頂瑜伽分別聖位經一卷。十一面觀自在菩薩祕密儀軌經一卷。出生無邊門陀羅尼經一卷。大吉祥天女十二名號經一卷。一切如來金剛壽命陀羅尼經一卷。金剛頂瑜伽十八會指歸一卷。瑜伽念珠經一卷。普賢行願讚一卷。大集地藏菩薩問法身讚一卷。金剛頂理趣般若經一卷。

蓮如上人御一代記聞書 ❶(書)Zoku-ren-nyo-shō-nin-go-ichi-dai-kiki-gaki. ❷蓮如上人の一代記を聞き書きした書。❸本願寺第八代目の蓮如上人の言行を弟子の聞き書きした書。❹一五四四年成立。❺(人)

を寵知せしめ、道業を成ぜしめんとしたものである。南宋理宗帝嘉熙二年十二月佛成道日(A.D. 1238)自序し、また同日、宗源和尚は募財錄木し本書六卷と潤賢藏王の編錄せる古尊宿語錄四卷とを合して一部と成して流通せしむる旨の跋文を附し「知我罪我、總不離是錄」と述べ學人の自重を促して居る。續藏本には二篇二十三套五冊に卷一より卷三を二篇二十四套一冊に卷四より卷六までを收めて居る。今其の列次と續藏本に於ける葉數とを示せば次の如くである。(人名下は葉數)

第一集　天(續藏二篇二三套五冊の內)

(一)臨濟(四一)。(二)汾陽昭(四一九)。(三)鳥窠(四二)。(四)馬祖(四三)。(五)黃龍南(四三)。(六)死心新(四三)。(七)潙仰(四三)。(八)雪峯(四三)。(九)雲門(四三)。(一〇)夾山(四三)。(一一)草堂清(四三)。(一二)靈源清(四三)。(一三)溈堂準(四三)。(一四)長靈草(四三)。

第二集　地(同上)

(一五)法眼益(四三)。(一六)雲門偃(四三)。(一七)法昌遇(四三)。(一八)雪竇顯(四四)。(一九)天衣懷(四四)。(二〇)育山寂(四四)。(二一)投子青(四四)。(二二)芙蓉楷(四五)。(二三)眞歇了(四五)。(二四)宏智覺(四五)。(二五)古巖陸(四五)。(二六)天童楚(四五)。(二七)眞淨文(四六)。(二八)隱山瓊(四六)。(二九)妙湛慧(四六)。(三〇)金粟智(四六)。(三一)巳庵深(四六)。

第三集　日(同上)

(三二)楊岐會(四七)。(三三)白雲端(四七)。(三四)保寧勇(四七)。(三五)五祖演(四七)。(三六)南堂興(四七)。(三七)佛眼遠(四七)。(三八)圜悟勤(四八)。(三九)開福寧(四九)。(四〇)佛性泰(四九)。(四一)月庵果(四九)。(四二)復菴封(四九)。

第四集　月(續藏二篇二四套一冊の內)

(四三)佛心才(一)。(四四)山堂祖(四)。(四五)別峯珍(六)。(四六)雲菴本(七)。(四七)密庵傑(一〇)。(四八)應庵華(一二)。(四九)密庵傑(一〇)。(五〇)松源岳(一四)。(五一)曹源生(一四)。(五二)破庵先(一六)。(五三)破庵先(一六)。(五四)無示謙(一九)。(五五)無庵悟(二〇)。(五六)海翁明(二九)。(五七)無示謙(一九)。(五八)心聞貴(二四)。(五九)慈航朴(三一)。

第五集　星(同上)

(六〇)大慧杲(三二)。(六一)懶庵鼎(三九)。(六二)佛照光(三四)。(六三)此菴淨(三六)。(六四)雖菴演(四〇)。(六五)雖菴演(四〇)。(六六)竹原元(四一)。(六七)蒙菴岳(四二)。(六八)石菴珦(四三)。(六九)退庵先(五六)。(七〇)混源密(五六)。(七一)密叟印(五九)。(七二)木庵永(六一)。(七三)柏堂崇(六一)。

第六集　辰(同上)

(七四)雪堂行(六四)。(七五)竹菴珪(六八)。(七六)晦菴慧光(七〇)。(七七)別峯印(七一)。(七八)退菴奇(七六)。(七九)東山空(八〇)。(八〇)廣鑑瑛(八一)。(八一)水菴一(八六)。(八二)別峯雲(八六)。(八三)或庵體(九二)。

⑨寫本(京大、祖・一七ソ・一)(大久保堅瑞)

續古尊宿語要目錄　❶(日)Zoku-ko-son-shuku-go-yō-moku-roku.　❷二卷　❸存、卍續二・二四・一　❹無著道忠(承應二—延享元 A.D. 1653—1744)編

⑩妙心寺龍華院無著道忠和尚の新寫編成した續古尊宿語要目錄には二般あつて、一は別項續古尊宿語要に所收の目と同じく、他は享保七年秋(A.D. 1723)美濃北方邑瘞淡寺享宗和尚が妙心寺に輪住した時、その幹旋に依つて、美濃細目鄉臨濟山大仙寺所藏の續古尊宿語要を借り、相國寺心華院舊藏本と對照して、大仙寺本に缺けた第二集地の卷を補寫し、心華院本に缺けた第五、第六集の星辰二卷を補寫し、福州鼓山寺本を參照して完本たらしめたものである。二般ともに板數を數へてあり、後者には摺題をも示して居る。後者の列次は現在の續藏所收の續古尊宿語要の目と異るものがある。また是の目錄中に記述した道忠和尚の對校上の苦心は、興味ふかいものである。

(大久保堅瑞)

續五岳詩鈔　❶(日)Zoku-go-gaku-shi-shō.　❷存、眞宗全書第七三(文化八—明治二六 A.D. 1811—1893)撰

❸明治二十一年古川範二、箕浦準二氏により平野五岳翁の詩鈔數十篇を集めて、小冊子として同好の士に頒たれた、これ五岳詩鈔である。本書はこの五岳詩鈔に洩るゝところの「胡枝花」外二十七篇を拾遺刊行せられたものである、五岳翁は學內外に涉り、その性行清廉、功名を寡ばず、詩文書畫をよくし、近代稀なる清節の士なりしことは人口に膾炙するところである。集むるところの詩賦江湖に愛吟せられて居る。

(大原性實)

續護法集　❶(日)Zoku-go-hō-shū.　❷二冊　❸存　❹辨惠　❺(哲、え・五・中・一)

續護摩祕要　❶(日)Zoku-go-ma-hi-yō.　❷一帖　❸存　❹承元四寫　❺(高大、寄・一・六二)

續弘法大師年譜　❶(日)Zoku-kō-bō-dai-shi-nen-pu.　❷九卷　❸存　❹(哲、ち・三・左・二二)

續孝感篇　❶(日)Zoku-kō-kan-hen.　❷二卷　❸存　❹玄光獨庵(寛永七—元祿一一 A.D. 1630—1698)　❺〔參考〕譯籍目錄

續高僧實傳　❶(日)Zoku-kō-sō-jitsu-den. 佛教各宗續高僧實傳　❷一卷　❸存、續帝國文庫第四九　❹江見忠功　❺明治四二刊　❻(立大、B一六・三八)(帝國、八〇・一三一)　❼東京博文館

續高僧傳　❶(日)Zoku-kō-sō-den.(支)Hsu-kao-seng-chuan. 唐高僧傳、唐傳　❷三十卷、三十一卷或四十卷　❸存、大正五〇・四二五 No. 2065、續敎二—四、卍三〇・一—二、北1077內至傳、南1093內至承、元1088內至承、明北1486佐至衡、清1469鄭至八、麗1083左至明、天1076內至承、指1036、法1054左至明、至1553土至何、明南1477敎至世、N. 1493　❹道宣(開皇一六—乾封二 A.D. 596—667)撰　❺唐貞觀一九(A.D. 645)

❻梁の慧皎の高僧傳に續きて、梁時代より唐の貞觀十九年に至るまで一百四十四年間にわたり、高僧の正傳三百四十人、附見一百六十人の傳を輯錄したものである。慧皎の高僧傳に對し著者は續高僧傳と名づけたのであるが、一般に前者を梁高僧傳、或は略して梁傳と稱するに對し、これを唐高僧傳或は唐傳と稱する。初に自序あり、著述の由來方針を述ぶ。必讀の文字である。內容は梁高僧傳にならひて十科分類をなせども十科の內容左の如く異る所に著者の見識と佛敎の變遷が知られる。

(梁傳)(一)譯經、(二)義解、(三)神異、(四)習禪、(五)明律、(六)遺身、(七)誦經、(八)興福、(九)經師、(十)唱導

(唐傳)(一)譯經、(二)義解、(三)習禪、(四)明律、(五)護法、(六)感通、(七)遺身、(八)讀誦、(九)興福、(十)雜科

自序に著者は貞觀十九年までと記すと雖も、屢々貞觀十九年以後の記事あり、殊に貞觀十九年以後十數年在世せし玄奘の全傳を出すが如きその著しき例である。蓋し貞觀十九年一度脫稿以後にも屢々增補をなしたものである。

道宣は云ふまでもなく初唐の代表的佛敎學者であつたと共に、支那佛敎を通じての第一に推さるべき佛敎史家にして、本書はその代表的史傳書である。本書の價値以つて知るべきである。次にその目次を擧れば、

譯經篇(一—四)(卷一)(一)梁僧伽婆羅(曼陀羅、木道賢、僧朗、梁簡文、僧昭)。(二)魏寶唱(梁武帝、僧朗、梁簡文、僧昭)。(三)魏曇曜(曇靖)。(四)魏菩提流支(常景、李廓、寶意、曇定、法場、智希、楊衒之、曇顯、智賢、法希、藏寶)。(五)陳拘那羅陀(高空、德賢、善吉)。(六)陳法泰(智愷、曹昆、智敦、道尼)。(卷二)(七)隋那連耶舍(萬天懿)。(八)隋闍那崛多(僧就、法智)。(九)隋達摩笈多(侯君素、徐同卿、劉恩、費長房)。(一〇)隋波羅頗蜜多羅(行矩)。(卷三)(一一)唐波頗。(一二)唐慧賾(一三)唐慧淨。(卷四)(一四)唐玄奘。(一五)唐那提。

義解篇(五—一五)(卷五)(一六)梁法申(道達、慧命)。(一七)梁僧智(法朗、法亮)。(一八)梁法護(智遠、僧達)。(一九)梁智欣。(二〇)梁僧若(僧令、法度、慧梵、慧朗)。(二一)梁法寵(智果、僧淑)。(二二)梁僧旻。(二三)梁法雲。(二四)梁慧澄(慧朗、慧略、法生、慧武)。(二五)梁法令(慧泰、慧篤)。(二六)梁智藏。(卷六)(二七)梁慧超。(二八)梁慧約。(二九)魏曇曠。(三〇)魏道輝(曇永、七名)。(三一)魏道登。(三二)梁僧密。(三三)梁曇准(智璋)(三四)梁道超(慧安)(三五)梁僧喬(慧生、僧藝、慧濟)(三六)梁慧開(曇僑)。(三七)梁明徹。(三八)梁法開。(三九)梁道宗(法敬)。(四〇)魏法眞(僧達、慧聰、道寂)。(四一)梁寶誦(法文、法度、法護、本闕)。(四二)梁僧詢(道遂、道標、本闕)。(四三)梁慧超(本闕)。(四四)齊眞玉。(四五)後梁僧遷。(卷七)(四六)陳洪偃。(四七)陳法朗。(四八)陳慧勇。(四九)陳寶瓊(明解)。(五〇)陳智晷。(五一)陳安崗。(五二)陳慧布(僧詮、玄靜)。(五三)周七名(僧瑤)(五四)魏道寶。(五五)齊慧嵩。(卷八)(五六)齊僧範。(五七)齊道場。(五八)齊慧順。(五九)齊慧詢。(六〇)齊法上(法存)。(六一)齊道慣。(六二)周僧妙。(六三)周慧善。(六四)周寶家。(六五)齊曇衍。(六六)陳慧柔。(六七)隋曇延。(六八)陳慧達(僧猛)。(卷九)(六九)周寶海。(七〇)隋慧遠(僧猛)。(卷九)(七一)隋羅雲。(七二)隋法安。(七三)隋慧哲(道瓊、洪哲、慧嚴、慧嵩)。(七四)隋慧暢。(七五)隋慧弼。(七六)隋慧藏。(七七)隋智方。(七八)隋羅雲。(七九)隋法安。(八〇)隋道場(道場、洪哲、慧嚴、慧嵩)。(八一)隋慧藏。(八二)隋智脫。(八三)隋法澄。(八四)隋道莊。(八五)隋法論。(八六)隋僧奈(僧髦、僧暠)。(卷一〇)(八七)隋靖嵩。(八八)隋靖玄(明則)。(八九)隋智問。(九〇)隋智案。(九一)隋慧曠。(九二)隋智琳。(九三)隋淨願。(九四)隋智藏(靈曇、道卓)(九五)隋法彥。(九六)隋法總。(九七)隋僧曇(慧恵)。(九八)隋靈琛。(九九)隋法瓊。(一〇〇)隋實僧。(一〇一)隋慧最。(一〇二)隋僧朗。(一〇三)隋慧暢(僧祖)。(卷一一)(一〇四)隋志念。(一〇五)隋智炬(慧感、慧曉)。(一〇六)隋慧海。(一〇七)隋辯義。(一〇八)隋明舜(慧相)。(一〇九)隋智梵。(一一〇)隋彰淵。(一一一)唐道宗。(一一二)唐菩曜。(一一三)唐保悲。(一一四)唐法侃(道撫)。(一一五)唐吉藏(慧遠)。(卷一一)(一一六)隋慧隆。(一一七)隋慧海。(一一八)隋慧曇。(一一九)隋道判。(一二〇)隋淨業。(一二一)隋童眞。(一二二)隋靈幹(靈辯)。(一二三)隋敬脫。(一二四)唐善胄(慧威)。(一二五)唐辯相。(一二六)唐寶猷(曇悲、明洪)。(一二七)唐慧遷。(一二八)唐慧覺。(一二九)唐智璪。(一三〇)唐道慶。(卷一二)(一三一)唐慧因。(一三二)唐慧高。(一三三)唐法詳。(一三四)唐靜藏(道翼)。(一三五)唐眞光(圓安)。(一三六)唐海顒(行友)。(一三七)唐曇藏。(一三八)唐神迥(玄奘)。(一三九)唐僧鳳(法位)。(一四〇)唐道岳(明曠、明略)。(一四一)唐功逈。(一四二)唐神照。(一四三)唐道儁。(一四四)唐神素。(一四五)唐法護。(一四六)唐玄靜。(一四七)唐慧樑。(卷一四)(一四八)唐智璪。(一四九)唐道基(慧景、寶遇)。(一五〇)唐道悉(道謙)。(一五一)唐崇義寺慧顗。(一五二)唐道宗。(一五三)唐道瓊、洪哲、慧嚴、慧嵩。(一五四)唐法恭。(一五五)唐智正(智現)。(一五六)唐慧稜。(一五七)唐智拔(法長)。(一五八)唐慧瑜。(一五九)唐慧持。(一六一)唐智凱。(卷一五)。(一六二)唐法敏。(一六三)唐慧靖。(一六四)唐慧詵。(一六五)唐靈睿。(一六六)唐僧歸。(一六七)唐法常。(一六八)唐智徹。(一六九)唐玄暢。(一七〇)唐玄會。(一七一)唐行等。(一七二)唐志寬。(一七三)唐慧休(曇元、靈筠)。(一七四)唐靈潤(淨元、智行)(一七五)唐道洪。(一七六)唐義褒。

習禪篇(一六—二〇)(卷一六)(一七七)梁僧副。(一七八)梁慧勝(慧初)。(一七九)梁道珍(法歸、慧覺)。(一八〇)魏佛陀。(一八一)齊菩提達摩(道育)。(一八二)齊僧可(向居士、化公、慶公、和公、法林、僧那慧滿、曇曠)。(一八三)齊僧達。(一八四)齊僧稠。(一八五)後梁法聰。(一八六)陳智遠。(一八七)後梁法常。(一八八)後梁法京。(一八九)後梁法懷。(一九〇)後梁惠成。(一九一)後梁法忍。(一九二)周僧實。(一九三)周僧璋。(一九四)周曇相。(一九五)周僧道正。(一九六)隋曇詢。(一九七)隋法充。(一九八)隋信行。(一九九)隋慧寬(法永、岑阇梨、智曉)。(卷一七)(二〇〇)周慧命(寶遠、慧朗、慧曉)。(二〇一)陳慧思。(二〇二)隋智顗。(二〇三)隋曇崇。(二〇四)隋慧越。(二〇五)隋僧善(僧襲、僧集)。(二〇六)隋玄景(玄覺)。(二〇七)隋智舜(智賢)。(二〇八)隋智錯。(二〇九)隋智越(波若、法彥)。(卷一八)(二一〇)隋曇遷。(二一一)隋僧詢。(二一二)隋眞慧。(二一三)隋慧瓚。(二一四)隋法純(慧昂)。(二一五)隋法迥。(二一六)隋靜端。(二一七)隨道舜。(二一八)隋慧歡。(二一九)隋智通。(二二〇)隋僧照。(二二一)隋道玄寺慧顗。(二二二)唐法恭。(二二三)唐智正(智現)。(二二四)唐慧稜。(二二五)唐智拔(法長)。(二二六)唐慧瑜。(二二七)唐慧持。(二二八)唐智凱。(卷一五)。(二二九)唐法敏。(二三〇)唐慧靖。(二三一)唐慧詵。(二三二)唐靈睿。(二三三)唐僧歸。(二三四)唐法常。(二三五)唐智徹。(二三六)唐玄暢。(二三七)唐玄會。(二三八)唐行等。(二三九)唐志寬。(二四〇)唐慧休(曇元、靈筠)。(二四一)唐靈潤(淨元、智行)(二四二)唐道洪。(二四三)唐義褒。

習禪篇(一六—二〇)(卷一六)(二四四)梁僧副。(二四五)梁慧勝(慧初)。(二四六)梁道珍(法歸、慧覺)。(二四七)魏佛陀。(二四八)齊菩提達摩(道育)。(二四九)齊僧可(向居士、化公、慶公、和公、法林、僧那慧滿、曇曠)。(二五〇)齊僧達。(二五一)齊僧稠。(二五二)後梁法聰。(二五三)陳智遠。(二五四)後梁法常。(二五五)後梁法京。(二五六)後梁法懷。(二五七)後梁惠成。(二五八)後梁法忍。(二五九)周僧實。(二六〇)周僧璋。(二六一)周曇相。(二六二)周僧道正。(二六三)隋曇詢。(二六四)隋法充。(二六五)隋信行。(二六六)隋慧寬(法永、岑阇梨、智曉)。(卷一七)(二六七)周慧命(寶遠、慧朗、慧曉)。(二六八)隋慧思。(二六九)隋智顗。(二七〇)隋曇崇。(二七一)隋慧越。(二七二)隋僧善(僧襲、僧集)。(二七三)隋玄景(玄覺)。(二七四)隋智舜(智賢)。(二七五)隋智錯。(二七六)隋智越(波若、法彥)。(卷一八)(二七七)隋曇遷。(二七八)隋僧詢。(二七九)隋眞慧。(二八〇)隋慧瓚。(二八一)隋法純(慧昂)。(二八二)隋法迥。(二八三)隋靜端。(二八四)隨道舜。(二八五)隋慧歡。(二八六)隋智通。(二八七)隋僧照。(二八八)唐道玄寺慧顗。(二八九)唐法恭。(二九〇)唐智正(智現)。(二九一)唐慧稜。(二九二)唐智拔(法長)。(二九三)唐慧瑜。(二九四)唐慧持。(二九五)唐智凱。(卷一五)。(二九六)唐法敏。(二九七)唐慧靖。(二九八)唐慧詵。(二九九)唐靈睿。(三〇〇)唐僧歸。(三〇一)唐法常。(三〇二)唐智徹。(三〇三)唐玄暢。(三〇四)唐玄會。(三〇五)唐行等。(三〇六)唐志寬。(三〇七)唐慧休(曇元、靈筠)。(三〇八)唐靈潤(淨元、智行)(三〇九)唐道洪。(三一〇)唐義褒。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

續集古今佛道論衡 ❶(日)Zoku-shū-ko-kom-butsu-dō-ron-kō. (支)Hsū-chi-ku-chin-fo-tao-lun-hêng. 續集古今佛道論衡圖 ❷1卷 ❸存 大正五二•三九七No. 2105 編纂セザ 卍三七•四 北1070號 南1085號 定1080號 鳴1465號 法1526由 麗1074號 天1068號 結1029號 法1056號 至1546號 鳴南1465給 Nj. 1472 ❹唐新羅 (一説元一八A. D. 730—)頃 ❺元錄四刊 ❻(正大 一〇三一•三四)

續集宗門統要 ❶(日)Zoku-shū-mon-tō-yō. (支)Hsū-chi-tsung-mên-t'ung-yao. 續宗門統要 宗門統要續集 ❷存 編纂九一一〇 卍三一•一一二 ❹元代古林清茂撰 ❺宗門統要續集の下を見よ。 ❻(參考) 圓覺法會上

續集古今佛道論衡 ❶(日)Zoku-shū-ko-kom-butsu-dō-ron-kō-zu. (支)Hsū-chi-ku-chin-fo-tao-lun-hêng-t'u. 續集古今佛道論衡 ❷1卷 ❸存 大正五二•三九七No. 2105 編纂セザ 卍三七•四 北1070號 南1085號 定1080號 鳴1465號 法1526由 麗1074號 天1068號 結1029號 法1056號 至1546號 鳴南1465給 Nj. 1472 ❹唐新羅 (一説元一八A. D. 730—)頃 ❺元錄四刊 ❻(正大 一〇三一•三四)

續集宗門統要 ❶(日)Zoku-shū-mon-tō-yō. (支)Hsū-chi-tsung-mên-t'ung-yao. 宗門統要續集 續宗門統要 ❷11十11卷 ❸存 編纂九一一〇 卍三一•一一二 ❹元代古林清茂撰 ❺宗門統要續集の下を見よ。 ❻宗門統要(內圖)

續集佛祖歷代通載 ❶(日) Zoku-shū-butsu-dō-ron-kō-zu-jo. (支)Hsū-chi-fo-tao-lun-hêng-t'u-hsü. ❷1卷 ❸存 ❹唐新羅沙門(一説元一八A. D. 730—) ❺元錄四刊 ❻(正大 一〇三一•三三)

續十不二門集 ❶(日)Zoku-jip-pu-ni-mon-shū. ❷1卷 ❹同上(隋唐一三一頃 A. D. 794—864)頃 ❻(參考) 本朝古目錄類聚抄等目

續十不二門新注 ❶(日) Zoku-jip-pu-ni-mon-shin-chū. ❷1卷 ❹同上(隋唐一三一頃 A. D. 794—864)頃 ❻(參考) 山家目錄類聚抄等目 續卷上

續正法山誌 ❶(日) Zoku-shō-bō-san-shi. ❷十卷 ❸存 ❻(參考) 大日本佛教全書續刊第定等目

續正法論 ❶(日) Zoku-shō-bō-ron. ❷1卷 ❸存 ❹同前著手書版 ❻(參考) 日本高僧傳要文抄等目 續續目錄

續唱導法 ❶(日) Zoku-shō-rai-hō. 唱上續唱導法 ❷1卷 ❸存 ❹明方便山 (天和三—明和六A. D. 1683—1769) ❻(參考) 續續目錄

續宗安傳 ❶(日)Zoku-shō-ryō-den. (支)Hsū-ch'ing-liang-ch'uan. ❷11卷 ❸存 大正五一•一一二七 No. 2100 卍續三乙•11三•11 ❹宋代惠洪等撰 ❺元祐年間五臺山に住した宗宗法藏禪師の

傳記 ❻(參考) 宋高僧傳 ❼元錄四刊 ❽(正大 一〇三一•三三)

續宗鏡標指 ❶(日)Zoku-shū-kyō-hyō-shi. ❷1卷 ❸存 ❹明 ❻(參考) 大日本佛教全書續刊第定等目

二、聖教料簡口傳事、彌陀授記事、道光上人事狀、鎌藏本尊行法次第、黑衣相傳、淨土三經相傳鈔、一夏百修論議、淨土教出世本懷論議、月形函重書之日記、月形函事、淨土血脈論書、名越流義觀、善導寺名越流著述書目。(第十五) 金剛寶戒章、金剛寶戒通關記、淨土布薩式、淨土布薩廣略戒儀決、淨土布薩廣戒儀壺規、淨土布薩略戒儀壺規、淨土布薩戒授法目錄考、淨土布薩戒本傳考、布薩横竪譜脈冪書、布薩戒便蒙、布薩傳時處年號相違決、布薩翻名義、布薩帳中集、布薩式辨正、布薩式辨正返破論、布薩戒講義、圓布顯正記並餘說。(第十六) 往生西方淨土瑞應删傳、淨土往生傳、新編古今往生淨土實珠集第一、新修往生傳中卷佚文、人名對照表、新修往生傳、東林十八高賢傳、淨土立教志、往生集、諸上善人詠、天竺往生論記並論書、淨土八祖傳記纂、淨土列祖傳、索隱。(第十七) 阿彌陀如來四十八願釋、彌陀本願義疏、無量壽經大意、大經聞書、無量壽經諸解總目、觀經諸解總目、阿彌陀經諸解總目、淨土三部經香義集、淨土三經(附六時禮讚偈)香義。(第十八、十九) 蓮門精舍舊詞。

❺大正四 ❹(谷大、宗洋・三九三)(高大、一・一八)(正大、一五〇・二九)(立大、一三一三・七二)(京大、一・二六ソ・六)

續淨土生無生論 ❶(日) Zoku-jōdo-shō-mu-shō-ron. (支)Hsu-ching-tu-sheng-wu-sheng-lun. ❷一卷 ❸存、淨土十要第三 ❹道霈述 ❺清康熙二六(A. D. 1687)

❻明の萬曆年間、天台無盡燈法師が一家の教觀を本として作つた淨土無生論に續せしめて、關の鼓山沙門道霈が再び諸々の經論を宗として論釋を完成したもの、それが卽ち此の續淨土生無生論である。道霈が重ねて此の「續論」を造つた所以は序文に見える如く「蓋し以へらく、十門中旨の別にして門の同じき者あり、門別にして旨の別なる者あり、皆以つて互ひに相發明し、淨土の指歸を究竟するに足る。聊か自修に備へ、衆て同見同行の者に示し、同じく淨土に生ぜんと云ふ爾」と有るによつて識られる。

此の論は十門に分けられ、門は各々五字四句の異れる偈文を以つて書出されてゐる。(1)眞法界門(2)性心具造門(3)心佛互徧門(4)心佛同體門(5)唯心卽至門(6)性德莊嚴門(7)佛佛同體門(8)心佛感應門(9)性德無差別門(10)因果互具門。

論末には翠微堂に於て道霈の書いた此の論の緣起が載せられてゐる。其によれば、丁卯仲秋の朔に、道霈が靜に念佛する中、忽に此の十偈を得、竊に鼎溪の生無生論の後に續けようと欲して果さず、旬日の後、温陵龔明府の揖齋居士が來り、卽ち出して相示し一覽して妙を知り、その居士の請ひによつて寛ひに此の論釋を成し遂げたのであるが、道霈は此の「法會因緣千載一遇」の偶然でないことを感嘆してゐる。最後に可菴比丘化杰が、此の續生無生論を淨土十要中の淨土生無生論の後に續刪するに就いての跋文を附加してゐる。

❺光緒二〇刊 ❹(谷大、宗大・四五三)(關根靜應)

續神照行法經疏 ❶(日)Zoku-shin-shō-gyō-hō-kyō-sho. (支)Hsu-shen-chao-hsing-fa-ching-su. ❹宋法眞慮威(一元)鈔元A. D. 1086) ❼(參考) 諸宗章疏錄第二

續眞宗小部集 ❶(日) Zoku-shin-shū-shō-bu-shū-shō. ❷五卷 ❸存 ❼(參考) 眞宗全書刊行豫定書目

續眞宗淨典目錄 ❶(日)Zoku-shin-shū-jō-tem-moku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研究)

續翠一葉 ❶(日) Zoku-sui-chū-yō. 江西和尙語錄 ❷一卷 ❸存 ❹江西龍湫(永和元—文安三A. D. 1375—1446) ❼(參考) 禪籍目錄

續翠詩集 ❶(日) Zoku-sui-shi-shū. 寒庵集、木蛇詩 ❷一卷 ❸存、續群書類從第一二 ❹江西龍湫(永和元—文安三A. D. 1375—1446)

❻蓬萊雲氣、江稿春晴以下五百餘首の詩を收む、初頭の九首は寒庵集の卷初のそれと同じものを收め、卷末の六十一首亦た寒庵集中より再錄して居る。

❼(參考) 扶桑禪林書目

續翠集 ❶(日)Zoku-sui-shū. ❷一卷 ❸存 ❹江西龍湫(永和元—文安三 A. D. 1375—1446) ❼(參考) 禪籍目錄、扶桑禪林書目

續翠疏稿 ❶(日) Zoku-sui-sho-kō. ❷一卷 ❸存 ❹江西龍湫(永和元—文安三A. D. 1375—1446) ❼(參考) 禪籍目錄

續選擇 ❶(日)Zoku-sen-chaku. 續選擇文義要鈔 ❷一卷 ❸存、佛教古典叢書第四 ❹靜過(仁安元—貞應三A. D. 1166—1234)述 ❼(參考)

續選擇傳法抄 ❶(日) Zoku-sen-chaku-den-pō-shō. ❷(參考) 淨土眞宗聖教目錄

續選擇文義要鈔 ❶(日) Zoku-sen-chaku-mon-gi-yō-shō. ❷一卷 ❸存、佛教古典叢書第四 ❹靜過(仁安元—貞應三A. D. 1166—1224) ❺建保六(A. D. 1218)

❻本書は禪林寺靜過が法然の滅後念佛門に入り選擇集を助成せんが爲に作るところの「續選擇」(舜昌傳、義山の飛贊)と同本である。越前大味清法雲寺より發見せられたもので眞宗高田派第三世顯智の所傳である、或は親鸞の手澤本であつたものを顯智が付屬せられたのではないかとも云はれてゐる、もと三卷あつた筈であるが上中二卷は未だ發見せられず、たゞ下卷のみの零本であるが、大體に於て靜過の念佛義を知ることが出來る。本書の內容は大文第二選擇所依求續門の二大段に分れ、更に十門歸義とて、正雜母子互證門、三經諸教頓漸門、心蓮本願自證門、大國他方無二門、迷悟不增不滅門、闡提廻心皆往門、恒憶惡趣增心門、定散俱廻得益門、生死涅槃不隔門、本初一念往生門に分つて所說を述ぶ、尙上卷には頓教漸教分別門、菩提涅槃分別門、往生成佛分別門、願宣寄宣分別門、親鸞念佛分別門、現益當益分別門、定善散善分別門があり、中卷には

殘殘入塔皆懺門、睡時發願門等の項目があつたことにより缺卷の部分の內容もほゞ想察せられる。

❼(參考) 淨土眞宗教典志第二 ❹原本(福井縣越柄村法雲寺)

續善隣國寶記 ❶(日)Zoku-zen-rin-koku-hō-ki. ❸存、史籍集覽第二一、續群書類從第三〇

❺善隣國寶記に續いで支那、朝鮮、琉球、南蠻との國交文書を編次したもので、もと續善隣國寶記外記と共に二卷であつたものであるが、彼此重複してゐるものが尠くない。朝鮮成化九年卽ち我文明五年の文書を始めとして足利幕府と朝鮮、大內氏と朝鮮、足利幕府と明國、秀吉と琉球、朝鮮、德川幕府と朝鮮との交涉文書、最後に寬文十二年南蠻への文書を收錄してゐる。(中谷在輝)

續善隣國寶外記 ❶(日) Zoku-zen-rin-koku-hō-gai-ki. ❸存、史籍集覽第二一、續群書類從第三〇

❺續善隣國寶記に同じく、支那、朝鮮との外交文書を編次したもので、同書中のものと同じものが多い。半以後は朝鮮李石湖と中島自庵、林羅山、人見友元、坂井伯元、春齋、兩三、秋澤の諸氏の私的筆談、贈答の詩文を載せ、最後に琉球王への酒井忠勝の答書がある。(中谷在輝)

續禪門法語集 ❶(日) Zoku-zen-mon-hō-go-shū. ❷一卷 ❸存 ❹山田孝道、森慶造編

❺あるべきやうわ、永平假名法語、碧一國師法語、大應國師法語、枯木集、楚山國師法語、大登國師法語、夢窓國師法語、大智禪師發願文、義山禪師法語、明峯禪師假名法語、僧生禪師法語、水鏡目なし用心抄、大梅山夜話、反古集、鹽鮫橋、萬民德用、養草分、大道禪師法語、正眼國師法語、心經抄、霧海指南、ねころび草、澤水禪師法語、逢郷以知吾、さし藻草、安心法興利多々記、大道ちぼくれ、施行歌、おたふく女郎粉引歌、見性成佛丸方書、御代の腹鼓、猿法語、快馬鞭、ますほのすゝぎ、を輯めてゐる。

❹明治二九刊(帝國、七四・三九)明治三二刊(谷大、餘洋・一一三)

續禪林執弊集 ❶(日)Zoku-zen-rin-shū-hei-shū. ❷一卷 ❸存 ❹刊本(谷大、餘大・二七四〇)

續禪林僧寶傳 ❶(日)Zoku-zen-rin-sō-bō-den. ❷三卷 ❸存 ❹小島文鼎著

❺昭和三刊 ❹(京大、一・二一ッ・一〇)

續祖庭事苑 ❶(日)Zoku-so-tei-ji-on. ❷一卷 ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

續崇福寺志 ❶(日)Zoku-sō-fuku-ji-shi. (支) Hsu-chung-fu-ssu-chih. ❷一卷 ❸存、武林掌故叢編第三 ❹章庭祐纂輯

❺道光二三(A. D. 1843)四月

❻道光年中崇福寺住僧懋成の乞に應じて章庭祐が同寺の萬年簿を基礎として崇福寺志の續編として著したものである、住持、禮護、事實、詩の四篇より成り、住持の項には趙倫和尙以下九人の小記を載せ、禮護には朱朗齋以下二十二人の履歷の記事を、事實には寺觀の變遷現況を、詩の部には當寺に關する二十餘首の詩を收め、卷頭に編者の叙を揭ぐ。

❹寫本(京大、藏・二〇ッ・一) (林信雲)

續叢林公論 ❶(日) Zoku-sō-rin-kō-ron. ❷一卷 ❸存 ❹竺仙梵僊(正應五—貞和四A. D. 1292—1348) ❼(參考) 禪籍目錄、日本禪林撰述書目

續藏經直音一 ❶(日)Zoku-zō-kyō-choku-kwaku-itsu. ❷一卷 ❸存 ❹福田文次郎編 ❹明治三一刊(谷大、餘洋・五七六)寫本(谷大、餘大・一二〇六)

續藏經目錄 ❶(日) Zoku-zō-kyō-moku-roku. 大日本校藏經目錄 ❷四卷 ❸存、昭和法寶總目錄第二No. 35

續々釋論決擇集 ❶(日)Zoku-zoku-shaku-ron-ketsu-chaku-shū. 釋論續々決擇集 ❷三卷 ❸存

❺釋論決擇集、同續決擇集にもれたる釋論關係の論草を編輯せるものにして宥快の草紙がその大部分である、目次左の如し。

〔卷上〕 釋論兩部分別、在世造論、畢時分位決疑門、四無爲別體、一々心隨能作立名默、一心一念生縛不生、大慈持如來藏不二、能生如來能所(攝イ)、攝歸本等契經、一分意識、見前地(以上論一・二)の十一帖。

〔卷中〕 觀前所說、本覺六如來、二乘攝在、淨淨明三德翻妄立默、境界爲因、別立第九識、所起識者、從初正信、相識偈滅(以上論三・四)の九帖。〔卷下〕 時不轉門、畢劣顯生解門、略說有三種、慚愧無爲、三業滅戒、以神呪門圓具無缺、三像通別(以上論五—十)の七帖。異本には更に止觀主伴、魚細二種生滅應不應の二帖を加ふ。

續々宗義決擇集 ❶(日)Zoku-zoku-shū-gi-ketsu-chaku-shū. 續々決 ❷十四卷 ❸存 ❹禪道(文化三—安政三A. D. 1806—1856)編

❺高野山內寺院所藏の論議古草中宗義決擇集、續宗義決擇集に漏れたる名篇を輯む。その內容目次は次の如し。

〔卷一卽身義の部〕 開鏡名字通=五智、敎若經及瓔珞經、四曼法門限=金界、默、曼荼羅阿闍梨頓集一代阿僧祇、俱生我執、宿善有無、の七條。〔卷二摩字義の部〕 等正覺眞言、生佛二界增減、生佛二界不增不減、如義語顯密、於智者爲癡、五大色能造、雲煙塵霧限=顯色、默、爾時世尊、の八條。〔卷三吽字義の部〕 保恒縛界緣分別、相義顯密、大乘空觀、遍空諸佛、如性等遍、遍有立無、理々無數自宗不共、如非如常、四種法身相義、小而合大、次合釋等、八不觀門通=二乘、次明菩薩、の十三條。〔卷四二敎論の部〕 生身所說陀羅尼、三一報應、中觀論以=敎若經爲=所依、默、如彼法身、釋敎名字顯密通局、智度性身、隨情智說、三段俱應化摩聞默、第四勝義諦攝=不可言有爲=默、化者準眞佛、二諦俱俗、陀羅尼藏生身通局、敎若法華勝劣、涅槃二八月、の十四條。〔卷五祕藏寶鑰上の部〕 客難引業、五戒分受、五戒佛世已前、十善菩薩、種子得名、愚童得名、十八天住心攝在、身量大小、因緣中道、按護戒生天、龍聽引業、の十一條。〔卷六寶鑰中の部〕 向果八人、三

生六十劫利託(二帖)、誇法闡提、誇法等限=語業-歟、本性部行有無、無明支通=一切人執品-行支盡=一切行-歟、要待劫限、の九條。〔卷七實鑰下の部〕 後二無性、三種練磨(三帖)、大悲闡提成不、五十二位一心問、沈厚一子、第六住心與初重問答全同歟、悲=唯蘊之迷=無性-限=境智-、第八識心王、心無垢礙-歟、拾無我、四十持機久、久遠實成限=法華-歟、寂光如來、四土、法華涅槃勝劣、此心正覺亦非ノ眞、種無自性心得名、初發心時便成=正覺-、超=諸戲論-眞如生滅歸此岸、の二十三條。〔卷八祕鍵の部〕 祕鍵製作時代、心經顯密、曼荼較若、含藏諸戒、行雨不足、觀在通局、梵漢別故、梵漢邪正、ゆ字々體、於=佛果-滿度衆生願-歟、羅什譯經、玄奘譯經、佛說二字、人法惣通科名、三生隔生、離煩一心、無苦集滅道、問答五分、の十八條。〔卷九菩提心論之部〕 菩提心論證人、其行者修行相-歟、三種菩提心即身成佛正因、猶如己身、仙宮住壽、但淨=意識-、不ノ知=其他-、要待=劫限-、十地顯密、相貫各具、教法施二乘、萬德斯具、華嚴經意先惠爲主行願勝義惣證の十二條。〔卷十大日經住心品疏一本の部〕 自在神力加持三昧、住心品有=顯密-歟、若淺略釋、虛空無垢、然上來五句、次列菩薩、菩提薩埵顯密、大日經結集者、群機本末、如是上首、智中之智、の十一條。〔卷十一疏一末の部〕 方便爲究竟限=佛果-歟、正觀三法、非見非顯現、經中自說因緣、取著觀空、已上廣對五隱、直觀實相、法明道除蓋障、三十六俱胝、住無爲戒、自然智生、祕密能所、我名我有、若彼不觀我之自性、の十四條。〔卷十二疏二本の部〕 一切有情者約ノ用立=三世-、三十種外道、三十種外道行相、梵王我見、節食持齋、散善定地、聲別勝由、俱吠羅等、於教部類、種子入佛法、三乘一々地、の十一條。〔卷十三疏二末の部〕 三劫惣句、三妄執外立=微細妄執-歟、然就=第一重內-、無量寶王、一微涉=於動塵-、闡提定性得度義自宗不共、唯心第八、三界唯心事理、三界唯心通=五重唯識-歟、三性漏無漏、即曾諸蘊、魚相轉脫、未了如是自性、倍勝於前劫、復成戲論、巧拙對辨、生十大願、妙智正證、の十八條。〔卷十四疏三の部〕 第七覺心、浪心實際、我不可得、密嚴海會現前位の四條。

❺明治二九刊 ❻〈京專〉(高大、一・四八)〈谷大、餘大・二四五一〉〈帝國、一〇九・四八〉〈京大、日大未・四一四〉(正大、一四四・一七四)

續々宗義決擇並補欠續宗義決擇論題總覽

❶(日)Zoku-zoku-shō-gi-ketsu-chaku-narabini-hokketsu-zokushō-gi-ketsu-chaku-ron-dai-ken-ran. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(京專)

續大藏蟲拂目錄

❶(日)Zoku-dai-zō-mushi-barai-moku-roku. ❷二卷 ❸存 ❹四月、皆恩共校 ❺寫本(龍大、二〇一七・二〇)

續大唐內典錄

❶(日)Zoku-dai-tō-nai-ten-roku. (支)Hsu-ta-t'ang-nei-tien-lu. ❷一卷 ❸存、大正五五・三四二No. 2150、館結二、卍二九・一、北1060號、南1079號、元1072號、明北1476字、清1523阜、麗1068帙、天1060號、指1023帙、法1048號、至1537寧、明南1595鍬 ❹房道宣(開皇一六—乾封二A. D. 596—667)撰 ❺本錄は釋道宣撰と傳へられるものであつて、その第一卷の序の細註に「麟德元年於西明寺起首移總持寺釋氏撰畢」とあるに從へば、大唐內典錄と同樣に唐高宗麟德元年に西明寺に於て筆を起し、總持寺にその功を畢つたものである。本錄は一部十錄より成つて居つたものの如く、その十錄はその目に小異を存して居るけれども、大體大唐內典錄の錄目と相通じて居るものである。試みに兩者の錄目を比較するに、

大唐內典錄	續大唐內典錄
歷代衆經傳譯所從錄第一	續代衆經傳譯盡隨近錄第一部卷第一
歷代翻本單重人代存亡錄第二	續代譯經本單重人代見亡錄第二部卷七
歷代衆經總撮入藏錄第三	續代衆經總撮入藏錄第三部
歷代衆經舉要轉讀錄第四	續代衆經舉要通說錄第四
歷代衆經有目闕本錄第五	續代衆經有目或有闕本錄第五
歷代道俗述作注解錄第六	續代道俗述作注解錄第六
歷代諸經支流陳化錄第七	續代諸經支流陳化錄第七
歷代所出疑僞經論錄第八	續代歷出疑僞經論錄第八
歷代衆經錄目終始序第九	續代衆經錄目終始序第九
歷代衆經應感興敬錄第十	續代衆經應感興敬錄第十

の如くその內容は殆ど同一のものと考へられるものである。加之も現存の續大唐內典錄にはこの十錄が全部殘つて居るのみである。而して、この續代衆經傳譯盡近錄は所謂代錄であつて、後漢代より唐代に至る都合十八代に譯出された衆經二千一百八十一部六千七百二十三卷、續譯經三百六部を登錄せるものと云はれて居るが、實際今日殘つて居るものは僅かに後漢錄のみであつて、その餘のものは總て之を缺いて居るのである。この後漢錄を大唐內典錄の後漢錄と比較するに、大唐內典錄は「後漢朝傳譯道俗一十二人所出經律等三百三十四部四百一十六卷、失譯經一百二十五部一百四十八卷」と擧げて居るに對して、續大唐內典錄は「後漢朝傳譯道俗一十二人所出經律等四百五十六部四百一十五卷、續譯經一百二十五部、新譯一百五十二卷」とあつて、譯人の數は同一なるも、所出の聖典數は都數に於ては續大唐內典錄の方が百二十二部だけ增加されて居るが、卷數は却て一卷だけ減少して居る。故に、これだけを比較して云ふ時は、大唐內典錄と續大唐內典錄との間にはその內容上に可成り違つたものを持つて居るものの如く見えるけれども、この大唐內典錄の數字なるものも、その項に於て詳說する如く、極めて雜駁な數字である爲に、斯る數字の比較のみに依てその內容を比較することが出來ない。故に、この兩者を若し比較せんとするならば、大唐內典錄の後漢錄と續大唐內典錄の後漢錄とを直接に比較する必要があるのであるが、これを比較した上から云ふと、例へばこれを安世高譯の上で云ふならば、大唐內典錄に大道地經三卷とあるものが二卷となつて居つたり、譯祕要經の前に譯法經なるものが追加されて居り、又開成十二因緣經以後が支曜譯と混同して居る爲に、開成十二因緣經が二箇所に揭載されて居る如き不思議な記錄をなして居るけれども、其等の相違は大體に於て轉寫の際に於ける誤寫と見るべきもので、實際の內容は大體同一のものであつたやうである。從て、前揭の序に揭げられた數字の比較から見ると、この兩者は可成り異つた內容を持つたものと見えるに拘らず、實際にその內容を比較した點から云ふと、本錄は大唐內典錄卷第一の異本と見るか、或は大唐內典錄の撰集の過程中に於ける未定稿の原稿であつたと見るべきものであらう。從て、現存の續大唐內典錄を以て大唐內典錄を承けて特別に作られたものと解することは出來ないやうである。

この點に疑問を置き乍ら宋本大藏經所收本の本錄を見るに、本錄を道宣の撰集となさないで唐釋智昇撰となして居る。開元釋教錄に依るに、續大唐內典錄は、開元十八年、西崇福寺沙門釋智昇の撰述とし、續大唐內典錄一卷(開元庚午歲西崇福寺沙門智昇撰)歷代衆經傳譯所從錄(從麟德元年甲子至開元十八年庚午前錄未載今故續之)」と云つて居る。貞元新定釋教目錄の所傳も之に同じ。この智昇撰の續大唐內典錄は智昇自身の開元錄中に云つて居るものであるから、間違ひのないことである上に、智昇の開元錄中には道宣撰の續大唐內典錄なるものを記載して居らないのである。若し道宣に續大唐內典錄なるものがあつたとすれば、必ずそれを擧げて居らなければならない開元錄にそれを擧げて居らないとすれば、續大唐內典錄なるものは智昇の撰述にかゝるもので、道宣の撰述に依つたものでないと云はなければならないのである。然し、さればと云つて、現存の續大唐內典錄を以てこれを智昇撰となすことも出來ない。蓋し、智昇撰の續大唐內典錄なるものは前揭の開元錄の引文にある如く、唐高宗の麟德元年を以て終れる大唐內典錄の後を承けて、玄宗の開元十八年に至る凡そ六十七年間に譯出せられたる諸三藏の譯經を編年史的譯人別の形式に依りて編輯せられたるものの如くであつて、後漢錄の如きものには絕對に及んで居らなかつた筈である。これ等の諸點を綜合して考ふるに、現流の續大唐內典錄なるものは、大唐內典錄の未定稿本であつて、大唐內典錄の各錄の錄目の最初に歷代とあるものが、本錄には續代とありし爲に後人がそれを大唐內典錄の續なりと誤解し、その上に續大唐內典錄の名を附したものではないであらうか。如斯、續大唐內典錄ならざるものが續大唐內典錄なる如く大藏中に收藏せられたが爲に、却て眞實の智昇撰の續大唐內典錄が散佚したものではなからうか。

❼〈參考〉 開元錄第二〇、貞元錄第三〇 (林屋友次郎)

續澄禪和尚行狀記

❶(日)Zoku-chō-zen-o-shō-gyō-jō-ki. ❷一卷 ❸存 ❹信阿 ❺寫政一二刊 ❻〈谷大、宗大・五八二〉〈龍大、二九六五・一四〇〉(正大、一五一六・二二三)

續傳燈廣錄

❶(日)Zoku-den-tō-kō-roku. 金剛頂無上正宗續傳燈廣錄 ❷十三卷 ❸存 ❹祐寶、明曆二—享保一二以後A. D. 1655—1727—) ❺寫本(龍大、二九六五・八五)〈谷大、餘大・一八四三〉

續傳燈錄

❶(日)Zoku-den-tō-roku. (支)Hsu-ch'uan-teng-lu. ❷三十六卷 ❸存、大正五一・四六九 No. 2077、館雲七—八、卍續二乙・一五・二—四、明南1508合至扶 Nj. 1658 ❹圓悟居頂(—永樂二 A. D. 1404) ❺明洪武(A. D. 1368—1398)の頃 ❻景德傳燈錄の續篇を述作する意氣込みを以て爲されたる禪門高僧の列傳である。景德傳燈錄の後、幾多の禪門高僧列傳はあるが、何れも泯を分つて、曹洞宗何世、臨濟宗何世と記してあるのを著者は快とせず、この書には、悉く皆、大鑑下何世と爲して傳した所にも一の特長がある。

❼〈參考〉 禪籍志卷上 ❽崇績八—九刊 (山田靈林)

❾(內閣)

續傳燈錄

❶(日)Zoku-den-tō-roku. (支)Hsu-ch'uan-teng-lu. 增集續傳燈錄 ❷六卷 ❸存、卍續二乙・一五・四—五 ❹明文殊鋼 ❺增集續傳燈錄の下を見よ。 ❻元和二刊(內閣)寬永二八刊(帝國、八二一・三〇)〈谷大、餘大・一六〇五〉〈駒大〉

續傳燈錄目錄

❶(日)Zoku-den-tō-roku-moku-roku. (支)Hsu-ch'uan-teng-lu-mu-lu. ❷三卷 ❸存、卍續二乙・一五・二 ❹圓悟居頂(—永樂二 A. D. 1404) ❺明洪武(A. D. 1368—1398)の頃

❻續傳燈錄(その項參照)の目錄である。大鑑慧能禪師第十世の法孫より、同第二十世に至るまでの、法系譜とも見ることが出來る。本文に傳を列せざる師の名をも、斷り書きをつけて揭げてある。三千何百師の名を列ねてあるが、本文に傳を書いてあるのは千二百二十師である。 (山田靈林)

續燈正統

❶(日)Zoku-tō-shō-tō. (支)Hsu-teng-cheng-t'ung. ❷四十二卷 ❸存、卍續二乙・一七・三—五 ❹性統集 ❺清康熙三〇(A. D. 1691)

❻南宋の季より明に至る凡そ四百餘年間に亘る支那禪門の高僧列傳である。臨濟宗は大鑑六世大慧に起つて大鑑三十一世に至つて止まり、また大鑑十六世虎丘に起つて大鑑三十五世に至つて止まつてゐる。曹洞宗は大鑑十六世より起つて大鑑三十七世に及んでゐる。發ほ卷末に嗣法不詳なるもの六名を擧げてゐる。續燈正統と云ふは五燈會元の未だ傳はらざるを補集するの謂である。著者性統は別庵と號し、法を高峰に嗣ぎ大慧十七世の法孫に當る。蜀に生れ徑山を禮して天童に訪ひ普陀山に住してゐた。

❼康熙三〇刊 ❽(駒大) (後藤大用)

續燈正統目錄

❶(日)Zoku-tō-shō-tō-moku-roku. (支)Hsu-teng-cheng-t'ung-mu-lu. ❷一卷 ❸存、卍續二乙・一七・三 ❹性統編 ❺清康熙三〇(A. D. 1691)

❻續燈正統の目錄である。南宋末より明に至る曹洞臨濟二家の高僧約二千三百人の目

ある。

❻宝暦四年（西大）　❼（後藤大川）

續徒然草講　❶（日）Zoku-tō-son-kō. (支)Hsū-têng-ts'un-kao.　❷十二卷　❸存、卍續三乙・一八・一　❹浅田宗伯、浅井貞庵　❺明治四五（A. D. 1666）

❶安永天より明治元を閲して明に至る凡そ百餘年中幕に於ける藩門の文雅を列し、兼ねて大藩下十八家、天保より始まつて三十六家に終るものを、其間に出でし儒者、及び儒記、詩歌、書畫、技藝、醫、僧、俳、茶、花、香、琴、棋、相、撲、及び俳優、遊女、乞食、盲、聾、唖、癲、狂、白痴、及び犯人の名を列し、其人物の優劣、及び其人の出身、及び其人の事業、及び其人の著述、及び其人の交遊、及び其人の性格、及び其人の嗜好、及び其人の生死、及び其人の墓所、及び其人の墓碑、及び其人の墓碑の文、及び其人の墓碑の文の作者、及び其人の墓碑の文の書者、及び其人の墓碑の文の刻者、及び其人の墓碑の文の刻者の姓名、及び其人の墓碑の文の刻者の姓名の下に、其人の墓碑の文の刻者の姓名の下に、其人の墓碑の文の刻者の姓名の下に、

力に勝士家の行はれたるものなりしかはしてこの家るこの。新に上はそれより一層まで三家の名を立てり法式若安等を記せり。皇國、王國、口國、手國を始めて皇國には各家名。國和、ことごとくこの法式に入るんとすることを示してゐる。

❻〔参考〕 貞觀後集一五、國定後集一八、貞定後集二八 ❼藤原田土木大夫家物和歌集S・1215) (文永書寫一鈴田貞吉氏)

雜談聞書集 ❶(日) Zoku-moku-rai-zen-wa. ❷1卷 ❸存 ❹祈禱祭祭儀 ❺鎌倉時代 ❻(高大)(正大)1七八・三)

雜談聞書集 ❶(日) Zoku-rem-mon-jū-ji-kun. ❷存 ❸貞觀(慶安三一寶永 A. D. 1677—1756) ❹文政(文政三年刊 ❺(慶大)(法政)

雜和物 ❶(日)Zoku-wa-shō. ❷四十七帖 ❸存 ❹南北朝時代寫 ❺(東京帝室)

雜和分別帖 ❶(日) Zoku-wa-shō-betsu-jō. 國語方言和分別帖 ❷1冊 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(東京帝室)

續今昔文集 ❶(日) Zoku-shin-gō-ketsu-shū. ❷1卷 ❸存 ❹寶永1九寫 ❺(高大)(法・1・四八)

續古今國語抄集作法 ❶(日) Zoku-hoshi-ku-kai-gen-ku-yō-sa-hō. ❷1帖 ❸存 ❹德川時代寫 ❺(東京帝室)

續古今作法 ❶(日)Zoku-hoshi-ku-sa-hō. ❷1帖 ❸存 ❹足利時代寫 ❺(東京帝室)

卒塔婆起請文春呪經 ❶(日) Sotsu-hō-zoku-ketsu-i-tai-ju-kyō. (支)Tsu-fêng-tsei-chieh-i-tai-chou-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹後漢安世高(一說和)一說康三A.D. 148—170—)譯 ❺〔参考〕 出三藏記集1、上宋錄第三、歷代第錄第三、開元第錄第一四、貞元第錄第一四

卒塔婆起請春呪 ❶(日)Sotsu-hō-zoku-ket-tai-ju. (支) Tsu-fêng-tsei-chieh-tai-chou. ❷1卷 ❸缺 ❹〔参考〕 田川藏目錄四

卒塔婆和尚語錄 ❶(日) Sot-tan-o-shō-go-roku. (支) Shuai-an-ho-shang-yū-lu. 卒塔婆和尚語錄 ❷1卷 ❸存 ❹元禪1・1六・1 ❺天寶寺寫(貞大)了貞、文祐、天保寫 ❻卒塔婆和尚(貞大)(慶・1七八・三)

卒塔婆和尚語錄外集 ❶(日)Sot-tan-o-shō-go-roku-ge-shū. (支)Shuai-an-ho-shang-yū-lu-wai-chi. ❷1卷 ❸存 ❹了貞寫 ❺卒塔婆和尚(貞大)(慶・1七九・三)

卒塔婆禪語語錄 ❶(日)Sot-tan-bon-sō-zen-ji-go-roku.(支)Shuai-an-fan-tsung-ch'an-shih-yū-lu. 卒塔婆和尚語錄 ❷1卷 ❸存、卍續1・1六・1 ❹天寶寺寫(貞大)了貞、文祐、天保寫 ❺卒塔婆禪語

❻卒塔婆和尚語錄の出處は、唐代の禪僧である南嶽懷讓の法嗣である馬祖道一の語錄である。懷讓

存 ⑩刊行年 ⑪宣長（天明七—寛政元 A. D. 1787—1851）撰 ⑫文政八跋 ⑬（谷大・宗大・三八〇四）

尊経閣善本影印集成 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-jutsu-ki. 各務虎雄・文書書・各務虎雄・松文四記 ②二巻 ③四巻 ④存 ⑤法隆（明和五—天保五 A.D. 1768—1834）撰 ⑥文化一一（A. D. 1814）

尊経閣善本影印集成 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-gi. 各務虎雄・松文記・各務虎雄・松文四記 ②四巻 ③二巻 ④存 ⑤法隆（明和五—天保五 A. D. 1763—1834）撰 ⑥文化一一（A. D. 1814）

尊経閣善本影印集成 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-gi. 各務虎雄・松文記 ②二巻 ③四巻 ④存 ⑤法隆（明和五—天保五 A. D. 1763—1834）撰 ⑥文化一一（A. D. 1814）

尊経閣善本影印集成 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-gi. ②一巻 ③存 ⑤宣長（寛政元—文化元 A. D. 1789—1804）撰

尊経閣善本影印集成 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-gi. ②一巻 ③存 ⑤宣長（寛政元—昭和元 A. D. 1868—1926）撰 ⑥宣長（谷大・宗大・一一三四）

尊経閣善本影印集成解題 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-sam-mon-gi-gen-dan. ②一巻 ③存 ⑦昭和七刊 ⑧文部省文化財保護委員会

尊経閣善本影印集成 ①（日）Son-gō-shin-zō-mei-mon-kō-jutsu. 各務虎雄・松文記・各務虎雄・松文四記 ②四巻 ③二巻 ④存 ⑤法隆（安永四—寛永四 A. D. 1775—1851）撰 ⑥宣長（谷大・宗大・宗大・一一三八・一一四）

⑥宣長は尊経閣善本松文の註釈者にして、「一に天保二年、二に嘉永二年、三に嘉永四年、四に安政元年、五に文久元年、六に慶応元年、七に明治三年、八に明治十年、九に明治十一年、十に明治十二年、十一に明治十三年、十二に明治十四年、十三に明治十五年、十四に明治十六年、十五に明治十七年、十六に明治十八年、十七に明治十九年、十八に明治二十年、十九に明治二十一年、二十に明治二十二年、二十一に明治二十三年、二十二に明治二十四年、二十三に明治二十五年、二十四に明治二十六年、二十五に明治二十七年、二十六に明治二十八年、二十七に明治二十九年、二十八に明治三十年、二十九に明治三十一年、三十に明治三十二年、三十一に明治三十三年、三十二に明治三十四年、三十三に明治三十五年、三十四に明治三十六年、三十五に明治三十七年、三十六に明治三十八年、三十七に明治三十九年、三十八に明治四十年、三十九に明治四十一年、四十に明治四十二年、四十一に明治四十三年、四十二に明治四十四年、四十三に明治四十五年、四十四に明治四十六年、四十五に明治四十七年、四十六に明治四十八年、四十七に明治四十九年、四十八に明治五十年、四十九に明治五十一年、五十に明治五十二年、五十一に明治五十三年、五十二に明治五十四年、五十三に明治五十五年、五十四に明治五十六年、五十五に明治五十七年、五十六に明治五十八年、五十七に明治五十九年、五十八に明治六十年、五十九に明治六十一年、六十に明治六十二年、六十一に明治六十三年、六十二に明治六十四年、六十三に明治六十五年、六十四に明治六十六年、六十五に明治六十七年、六十六に明治六十八年、六十七に明治六十九年、六十八に明治七十年、六十九に明治七十一年、七十に明治七十二年、七十一に明治七十三年、七十二に明治七十四年、七十三に明治七十五年、七十四に明治七十六年、七十五に明治七十七年、七十六に明治七十八年、七十七に明治七十九年、七十八に明治八十年、七十九に明治八十一年、八十に明治八十二年、八十一に明治八十三年、八十二に明治八十四年、八十三に明治八十五年、八十四に明治八十六年、八十五に明治八十七年、八十六に明治八十八年、八十七に明治八十九年、八十八に明治九十年、八十九に明治九十一年、九十に明治九十二年、九十一に明治九十三年、九十二に明治九十四年、九十三に明治九十五年、九十四に明治九十六年、九十五に明治九十七年、九十六に明治九十八年、九十七に明治九十九年、九十八に明治一〇〇年、九十九に明治一〇一年、一〇〇に明治一〇二年、一〇一に明治一〇三年、一〇二に明治一〇四年、一〇三に明治一〇五年、一〇四に明治一〇六年、一〇五に明治一〇七年、一〇六に明治一〇八年、一〇七に明治一〇九年、一〇八に明治一一〇年、一〇九に明治一一一年、一一〇に明治一一二年、一一一に明治一一三年、一一二に明治一一四年、一一三に明治一一五年、一一四に明治一一六年、一一五に明治一一七年、一一六に明治一一八年、一一七に明治一一九年、一一八に明治一二〇年、一一九に明治一二一年、一二〇に明治一二二年、一二一に明治一二三年、一二二に明治一二四年、一二三に明治一二五年、一二四に明治一二六年、一二五に明治一二七年、一二六に明治一二八年、一二七に明治一二九年、一二八に明治一三〇年、一二九に明治一三一年、一三〇に明治一三二年、一三一に明治一三三年、一三二に明治一三四年、一三三に明治一三五年、一三四に明治一三六年、一三五に明治一三七年、一三六に明治一三八年、一三七に明治一三九年、一三八に明治一四〇年、一三九に明治一四一年、一四〇に明治一四二年、一四一に明治一四三年、一四二に明治一四四年、一四三に明治一四五年、一四四に明治一四六年、一四五に明治一四七年、一四六に明治一四八年、一四七に明治一四九年、一四八に明治一五〇年、一四九に明治一五一年、一五〇に明治一五二年、一五一に明治一五三年、一五二に明治一五四年、一五三に明治一五五年、一五四に明治一五六年、一五五に明治一五七年、一五六に明治一五八年、一五七に明治一五九年、一五八に明治一六〇年、一五九に明治一六一年、一六〇に明治一六二年、一六一に明治一六三年、一六二に明治一六四年、一六三に明治一六五年、一六四に明治一六六年、一六五に明治一六七年、一六六に明治一六八年、一六七に明治一六九年、一六八に明治一七〇年、一六九に明治一七一年、一七〇に明治一七二年、一七一に明治一七三年、一七二に明治一七四年、一七三に明治一七五年、一七四に明治一七六年、一七五に明治一七七年、一七六に明治一七八年、一七七に明治一七九年、一七八に明治一八〇年、一七九に明治一八一年、一八〇に明治一八二年、一八一に明治一八三年、一八二に明治一八四年、一八三に明治一八五年、一八四に明治一八六年、一八五に明治一八七年、一八六に明治一八八年、一八七に明治一八九年、一八八に明治一九〇年、一八九に明治一九一年、一九〇に明治一九二年、一九一に明治一九三年、一九二に明治一九四年、一九三に明治一九五年、一九四に明治一九六年、一九五に明治一九七年、一九六に明治一九八年、一九七に明治一九九年、一九八に明治二〇〇年、一九九に明治二〇一年、二〇〇に明治二〇二年、二〇一に明治二〇三年、二〇二に明治二〇四年、二〇三に明治二〇五年、二〇四に明治二〇六年、二〇五に明治二〇七年、二〇六に明治二〇八年、二〇七に明治二〇九年、二〇八に明治二一〇年、二〇九に明治二一一年、二一〇に明治二一二年、二一一に明治二一三年、二一二に明治二一四年、二一三に明治二一五年、二一四に明治二一六年、二一五に明治二一七年、二一六に明治二一八年、二一七に明治二一九年、二一八に明治二二〇年、二一九に明治二二一年、二二〇に明治二二二年、二二一に明治二二三年、二二二に明治二二四年、二二三に明治二二五年、二二四に明治二二六年、二二五に明治二二七年、二二六に明治二二八年、二二七に明治二二九年、二二八に明治二三〇年、二二九に明治二三一年、二三〇に明治二三二年、二三一に明治二三三年、二三二に明治二三四年、二三三に明治二三五年、二三四に明治二三六年、二三五に明治二三七年、二三六に明治二三八年、二三七に明治二三九年、二三八に明治二四〇年、二三九に明治二四一年、二四〇に明治二四二年、二四一に明治二四三年、二四二に明治二四四年、二四三に明治二四五年、二四四に明治二四六年、二四五に明治二四七年、二四六に明治二四八年、二四七に明治二四九年、二四八に明治二五〇年、二四九に明治二五一年、二五〇に明治二五二年、二五一に明治二五三年、二五二に明治二五四年、二五三に明治二五五年、二五四に明治二五六年、二五五に明治二五七年、二五六に明治二五八年、二五七に明治二五九年、二五八に明治二六〇年、二五九に明治二六一年、二六〇に明治二六二年、二六一に明治二六三年、二六二に明治二六四年、二六三に明治二六五年、二六四に明治二六六年、二六五に明治二六七年、二六六に明治二六八年、二六七に明治二六九年、二六八に明治二七〇年、二六九に明治二七一年、二七〇に明治二七二年、二七一に明治二七三年、二七二に明治二七四年、二七三に明治二七五年、二七四に明治二七六年、二七五に明治二七七年、二七六に明治二七八年、二七七に明治二七九年、二七八に明治二八〇年、二七九に明治二八一年、二八〇に明治二八二年、二八一に明治二八三年、二八二に明治二八四年、二八三に明治二八五年、二八四に明治二八六年、二八五に明治二八七年、二八六に明治二八八年、二八七に明治二八九年、二八八に明治二九〇年、二八九に明治二九一年、二九〇に明治二九二年、二九一に明治二九三年、二九二に明治二九四年、二九三に明治二九五年、二九四に明治二九六年、二九五に明治二九七年、二九六に明治二九八年、二九七に明治二九九年、二九八に明治三〇〇年、二九九に明治三〇一年、三〇〇に明治三〇二年、三〇一に明治三〇三年、三〇二に明治三〇四年、三〇三に明治三〇五年、三〇四に明治三〇六年、三〇五に明治三〇七年、三〇六に明治三〇八年、三〇七に明治三〇九年、三〇八に明治三一〇年、三〇九に明治三一一年、三一〇に明治三一二年、三一一に明治三一三年、三一二に明治三一四年、三一三に明治三一五年、三一四に明治三一六年、三一五に明治三一七年、三一六に明治三一八年、三一七に明治三一九年、三一八に明治三二〇年、三一九に明治三二一年、三二〇に明治三二二年、三二一に明治三二三年、三二二に明治三二四年、三二三に明治三二五年、三二四に明治三二六年、三二五に明治三二七年、三二六に明治三二八年、三二七に明治三二九年、三二八に明治三三〇年、三二九に明治三三一年、三三〇に明治三三二年、三三一に明治三三三年、三三二に明治三三四年、三三三に明治三三五年、三三四に明治三三六年、三三五に明治三三七年、三三六に明治三三八年、三三七に明治三三九年、三三八に明治三四〇年、三三九に明治三四一年、三四〇に明治三四二年、三四一に明治三四三年、三四二に明治三四四年、三四三に明治三四五年、三四四に明治三四六年、三四五に明治三四七年、三四六に明治三四八年、三四七に明治三四九年、三四八に明治三五〇年、三四九に明治三五一年、三五〇に明治三五二年、三五一に明治三五三年、三五二に明治三五四年、三五三に明治三五五年、三五四に明治三五六年、三五五に明治三五七年、三五六に明治三五八年、三五七に明治三五九年、三五八に明治三六〇年、三五九に明治三六一年、三六〇に明治三六二年、三六一に明治三六三年、三六二に明治三六四年、三六三に明治三六五年、三六四に明治三六六年、三六五に明治三六七年、三六六に明治三六八年、三六七に明治三六九年、三六八に明治三七〇年、三六九に明治三七一年、三七〇に明治三七二年、三七一に明治三七三年、三七二に明治三七四年、三七三に明治三七五年、三七四に明治三七六年、三七五に明治三七七年、三七六に明治三七八年、三七七に明治三七九年、三七八に明治三八〇年、三七九に明治三八一年、三八〇に明治三八二年、三八一に明治三八三年、三八二に明治三八四年、三八三に明治三八五年、三八四に明治三八六年、三八五に明治三八七年、三八六に明治三八八年、三八七に明治三八九年、三八八に明治三九〇年、三八九に明治三九一年、三九〇に明治三九二年、三九一に明治三九三年、三九二に明治三九四年、三九三に明治三九五年、三九四に明治三九六年、三九五に明治三九七年、三九六に明治三九八年、三九七に明治三九九年、三九八に明治四〇〇年、三九九に明治四〇一年、四〇〇に明治四〇二年、四〇一に明治四〇三年、四〇二に明治四〇四年、四〇三に明治四〇五年、四〇四に明治四〇六年、四〇五に明治四〇七年、四〇六に明治四〇八年、四〇七に明治四〇九年、四〇八に明治四一〇年、四〇九に明治四一一年、四一〇に明治四一二年、四一一に明治四一三年、四一二に明治四一四年、四一三に明治四一五年、四一四に明治四一六年、四一五に明治四一七年、四一六に明治四一八年、四一七に明治四一九年、四一八に明治四二〇年、四一九に明治四二一年、四二〇に明治四二二年、四二一に明治四二三年、四二二に明治四二四年、四二三に明治四二五年、四二四に明治四二六年、四二五に明治四二七年、四二六に明治四二八年、四二七に明治四二九年、四二八に明治四三〇年、四二九に明治四三一年、四三〇に明治四三二年、四三一に明治四三三年、四三二に明治四三四年、四三三に明治四三五年、四三四に明治四三六年、四三五に明治四三七年、四三六に明治四三八年、四三七に明治四三九年、四三八に明治四四〇年、四三九に明治四四一年、四四〇に明治四四二年、四四一に明治四四三年、四四二に明治四四四年、四四三に明治四四五年、四四四に明治四四六年、四四五に明治四四七年、四四六に明治四四八年、四四七に明治四四九年、四四八に明治四五〇年、四四九に明治四五一年、四五〇に明治四五二年、四五一に明治四五三年、四五二に明治四五四年、四五三に明治四五五年、四五四に明治四五六年、四五五に明治四五七年、四五六に明治四五八年、四五七に明治四五九年、四五八に明治四六〇年、四五九に明治四六一年、四六〇に明治四六二年、四六一に明治四六三年、四六二に明治四六四年、四六三に明治四六五年、四六四に明治四六六年、四六五に明治四六七年、四六六に明治四六八年、四六七に明治四六九年、四六八に明治四七〇年、四六九に明治四七一年、四七〇に明治四七二年、四七一に明治四七三年、四七二に明治四七四年、四七三に明治四七五年、四七四に明治四七六年、四七五に明治四七七年、四七六に明治四七八年、四七七に明治四七九年、四七八に明治四八〇年、四七九に明治四八一年、四八〇に明治四八二年、四八一に明治四八三年、四八二に明治四八四年、四八三に明治四八五年、四八四に明治四八六年、四八五に明治四八七年、四八六に明治四八八年、四八七に明治四八九年、四八八に明治四九〇年、四八九に明治四九一年、四九〇に明治四九二年、四九一に明治四九三年、四九二に明治四九四年、四九三に明治四九五年、四九四に明治四九六年、四九五に明治四九七年、四九六に明治四九八年、四九七に明治四九九年、四九八に明治五〇〇年、四九九に明治五〇一年、五〇〇に明治五〇二年、五〇一に明治五〇三年、五〇二に明治五〇四年、五〇三に明治五〇五年、五〇四に明治五〇六年、五〇五に明治五〇七年、五〇六に明治五〇八年、五〇七に明治五〇九年、五〇八に明治五一〇年、五〇九に明治五一一年、五一〇に明治五一二年、五一一に明治五一三年、五一二に明治五一四年、五一三に明治五一五年、五一四に明治五一六年、五一五に明治五一七年、五一六に明治五一八年、五一七に明治五一九年、五一八に明治五二〇年、五一九に明治五二一年、五二〇に明治五二二年、五二一に明治五二三年、五二二に明治五二四年、五二三に明治五二五年、五二四に明治五二六年、五二五に明治五二七年、五二六に明治五二八年、五二七に明治五二九年、五二八に明治五三〇年、五二九に明治五三一年、五三〇に明治五三二年、五三一に明治五三三年、五三二に明治五三四年、五三三に明治五三五年、五三四に明治五三六年、五三五に明治五三七年、五三六に明治五三八年、五三七に明治五三九年、五三八に明治五四〇年、五三九に明治五四一年、五四〇に明治五四二年、五四一に明治五四三年、五四二に明治五四四年、五四三に明治五四五年、五四四に明治五四六年、五四五に明治五四七年、五四六に明治五四八年、五四七に明治五四九年、五四八に明治五五〇年、五四九に明治五五一年、五五〇に明治五五二年、五五一に明治五五三年、五五二に明治五五四年、五五三に明治五五五年、五五四に明治五五六年、五五五に明治五五七年、五五六に明治五五八年、五五七に明治五五九年、五五八に明治五六〇年、五五九に明治五六一年、五六〇に明治五六二年、五六一に明治五六三年、五六二に明治五六四年、五六三に明治五六五年、五六四に明治五六六年、五六五に明治五六七年、五六六に明治五六八年、五六七に明治五六九年、五六八に明治五七〇年、五六九に明治五七一年、五七〇に明治五七二年、五七一に明治五七三年、五七二に明治五七四年、五七三に明治五七五年、五七四に明治五七六年、五七五に明治五七七年、五七六に明治五七八年、五七七に明治五七九年、五七八に明治五八〇年、五七九に明治五八一年、五八〇に明治五八二年、五八一に明治五八三年、五八二に明治五八四年、五八三に明治五八五年、五八四に明治五八六年、五八五に明治五八七年、五八六に明治五八八年、五八七に明治五八九年、五八八に明治五九〇年、五八九に明治五九一年、五九〇に明治五九二年、五九一に明治五九三年、五九二に明治五九四年、五九三に明治五九五年、五九四に明治五九六年、五九五に明治五九七年、五九六に明治五九八年、五九七に明治五九九年、五九八に明治六〇〇年、五九九に明治六〇一年、六〇〇に明治六〇二年、六〇一に明治六〇三年、六〇二に明治六〇四年、六〇三に明治六〇五年、六〇四に明治六〇六年、六〇五に明治六〇七年、六〇六に明治六〇八年、六〇七に明治六〇九年、六〇八に明治六一〇年、六〇九に明治六一一年、六一〇に明治六一二年、六一一に明治六一三年、六一二に明治六一四年、六一三に明治六一五年、六一四に明治六一六年、六一五に明治六一七年、六一六に明治六一八年、六一七に明治六一九年、六一八に明治六二〇年、六一九に明治六二一年、六二〇に明治六二二年、六二一に明治六二三年、六二二に明治六二四年、六二三に明治六二五年、六二四に明治六二六年、六二五に明治六二七年、六二六に明治六二八年、六二七に明治六二九年、六二八に明治六三〇年、六二九に明治六三一年、六三〇に明治六三二年、六三一に明治六三三年、六三二に明治六三四年、六三三に明治六三五年、六三四に明治六三六年、六三五に明治六三七年、六三六に明治六三八年、六三七に明治六三九年、六三八に明治六四〇年、六三九に明治六四一年、六四〇に明治六四二年、六四一に明治六四三年、六四二に明治六四四年、六四三に明治六四五年、六四四に明治六四六年、六四五に明治六四七年、六四六に明治六四八年、六四七に明治六四九年、六四八に明治六五〇年、六四九に明治六五一年、六五〇に明治六五二年、六五一に明治六五三年、六五二に明治六五四年、六五三に明治六五五年、六五四に明治六五六年、六五五に明治六五七年、六五六に明治六五八年、六五七に明治六五九年、六五八に明治六六〇年、六五九に明治六六一年、六六〇に明治六六二年、六六一に明治六六三年、六六二に明治六六四年、六六三に明治六六五年、六六四に明治六六六年、六六五に明治六六七年、六六六に明治六六八年、六六七に明治六六九年、六六八に明治六七〇年、六六九に明治六七一年、六七〇に明治六七二年、六七一に明治六七三年、六七二に明治六七四年、六七三に明治六七五年、六七四に明治六七六年、六七五に明治六七七年、六七六に明治六七八年、六七七に明治六七九年、六七八に明治六八〇年、六七九に明治六八一年、六八〇に明治六八二年、六八一に明治六八三年、六八二に明治六八四年、六八三に明治六八五年、六八四に明治六八六年、六八五に明治六八七年、六八六に明治六八八年、六八七に明治六八九年、六八八に明治六九〇年、六八九に明治六九一年、六九〇に明治六九二年、六九一に明治六九三年、六九二に明治六九四年、六九三に明治六九五年、六九四に明治六九六年、六九五に明治六九七年、六九六に明治六九八年、六九七に明治六九九年、六九八に明治七〇〇年、六九九に明治七〇一年、七〇〇に明治七〇二年、七〇一に明治七〇三年、七〇二に明治七〇四年、七〇三に明治七〇五年、七〇四に明治七〇六年、七〇五に明治七〇七年、七〇六に明治七〇八年、七〇七に明治七〇九年、七〇八に明治七一〇年、七〇九に明治七一一年、七一〇に明治七一二年、七一一に明治七一三年、七一二に明治七一四年、七一三に明治七一五年、七一四に明治七一六年、七一五に明治七一七年、七一六に明治七一八年、七一七に明治七一九年、七一八に明治七二〇年、七一九に明治七二一年、七二〇に明治七二二年、七二一に明治七二三年、七二二に明治七二四年、七二三に明治七二五年、七二四に明治七二六年、七二五に明治七二七年、七二六に明治七二八年、七二七に明治七二九年、七二八に明治七三〇年、七二九に明治七三一年、七三〇に明治七三二年、七三一に明治七三三年、七三二に明治七三四年、七三三に明治七三五年、七三四に明治七三六年、七三五に明治七三七年、七三六に明治七三八年、七三七に明治七三九年、七三八に明治七四〇年、七三九に明治七四一年、七四〇に明治七四二年、七四一に明治七四三年、七四二に明治七四四年、七四三に明治七四五年、七四四に明治七四六年、七四五に明治七四七年、七四六に明治七四八年、七四七に明治七四九年、七四八に明治七五〇年、七四九に明治七五一年、七五〇に明治七五二年、七五一に明治七五三年、七五二に明治七五四年、七五三に明治七五五年、七五四に明治七五六年、七五五に明治七五七年、七五六に明治七五八年、七五七に明治七五九年、七五八に明治七六〇年、七五九に明治七六一年、七六〇に明治七六二年、七六一に明治七六三年、七六二に明治七六四年、七六三に明治七六五年、七六四に明治七六六年、七六五に明治七六七年、七六六に明治七六八年、七六七に明治七六九年、七六八に明治七七〇年、七六九に明治七七一年、七七〇に明治七七二年、七七一に明治七七三年、七七二に明治七七四年、七七三に明治七七五年、七七四に明治七七六年、七七五に明治七七七年、七七六に明治七七八年、七七七に明治七七九年、七七八に明治七八〇年、七七九に明治七八一年、七八〇に明治七八二年、七八一に明治七八三年、七八二に明治七八四年、七八三に明治七八五年、七八四に明治七八六年、七八五に明治七八七年、七八六に明治七八八年、七八七に明治七八九年、七八八に明治七九〇年、七八九に明治七九一年、七九〇に明治七九二年、七九一に明治七九三年、七九二に明治七九四年、七九三に明治七九五年、七九四に明治七九六年、七九五に明治七九七年、七九六に明治七九八年、七九七に明治七九九年、七九八に明治八〇〇年、七九九に明治八〇一年、八〇〇に明治八〇二年、八〇一に明治八〇三年、八〇二に明治八〇四年、八〇三に明治八〇五年、八〇四に明治八〇六年、八〇五に明治八〇七年、八〇六に明治八〇八年、八〇七に明治八〇九年、八〇八に明治八一〇年、八〇九に明治八一一年、八一〇に明治八一二年、八一一に明治八一三年、八一二に明治八一四年、八一三に明治八一五年、八一四に明治八一六年、八一五に明治八一七年、八一六に明治八一八年、八一七に明治八一九年、八一八に明治八二〇年、八一九に明治八二一年、八二〇に明治八二二年、八二一に明治八二三年、八二二に明治八二四年、八二三に明治八二五年、八二四に明治八二六年、八二五に明治八二七年、八二六に明治八二八年、八二七に明治八二九年、八二八に明治八三〇年、八二九に明治八三一年、八三〇に明治八三二年、八三一に明治八三三年、八三二に明治八三四年、八三三に明治八三五年、八三四に明治八三六年、八三五に明治八三七年、八三六に明治八三八年、八三七に明治八三九年、八三八に明治八四〇年、八三九に明治八四一年、八四〇に明治八四二年、八四一に明治八四三年、八四二に明治八四四年、八四三に明治八四五年、八四四に明治八四六年、八四五に明治八四七年、八四六に明治八四八年、八四七に明治八四九年、八四八に明治八五〇年、八四九に明治八五一年、八五〇に明治八五二年、八五一に明治八五三年、八五二に明治八五四年、八五三に明治八五五年、八五四に明治八五六年、八五五に明治八五七年、八五六に明治八五八年、八五七に明治八五九年、八五八に明治八六〇年、八五九に明治八六一年、八六〇に明治八六二年、八六一に明治八六三年、八六二に明治八六四年、八六三に明治八六五年、八六四に明治八六六年、八六五に明治八六七年、八六六に明治八六八年、八六七に明治八六九年、八六八に明治八七〇年、八六九に明治八七一年、八七〇に明治八七二年、八七一に明治八七三年、八七二に明治八七四年、八七三に明治八七五年、八七四に明治八七六年、八七五に明治八七七年、八七六に明治八七八年、八七七に明治八七九年、八七八に明治八八〇年、八七九に明治八八一年、八八〇に明治八八二年、八八一に明治八八三年、八八二に明治八八四年、八八三に明治八八五年、八八四に明治八八六年、八八五に明治八八七年、八八六に明治八八八年、八八七に明治八八九年、八八八に明治八九〇年、八八九に明治八九一年、八九〇に明治八九二年、八九一に明治八九三年、八九二に明治八九四年、八九三に明治八九五年、八九四に明治八九六年、八九五に明治八九七年、八九六に明治八九八年、八九七に明治八九九年、八九八に明治九〇〇年、八九九に明治九〇一年、九〇〇に明治九〇二年、九〇一に明治九〇三年、九〇二に明治九〇四年、九〇三に明治九〇五年、九〇四に明治九〇六年、九〇五に明治九〇七年、九〇六に明治九〇八年、九〇七に明治九〇九年、九〇八に明治九一〇年、九〇九に明治九一一年、九一〇に明治九一二年、九一一に明治九一三年、九一二に明治九一四年、九一三に明治九一五年、九一四に明治九一六年、九一五に明治九一七年、九一六に明治九一八年、九一七に明治九一九年、九一八に明治九二〇年、九一九に明治九二一年、九二〇に明治九二二年、九二一に明治九二三年、九二二に明治九二四年、九二三に明治九二五年、九二四に明治九二六年、九二五に明治九二七年、九二六に明治九二八年、九二七に明治九二九年、九二八に明治九三〇年、九二九に明治九三一年、九三〇に明治九三二年、九三一に明治九三三年、九三二に明治九三四年、九三三に明治九三五年、九三四に明治九三六年、九三五に明治九三七年、九三六に明治九三八年、九三七に明治九三九年、九三八に明治九四〇年、九三九に明治九四一年、九四〇に明治九四二年、九四一に明治九四三年、九四二に明治九四四年、九四三に明治九四五年、九四四に明治九四六年、九四五に明治九四七年、九四六に明治九四八年、九四七に明治九四九年、九四八に明治九五〇年、九四九に明治九五一年、九五〇に明治九五二年、九五一に明治九五三年、九五二に明治九五四年、九五三に明治九五五年、九五四に明治九五六年、九五五に明治九五七年、九五六に明治九五八年、九五七に明治九五九年、九五八に明治九六〇年、九五九に明治九六一年、九六〇に明治九六二年、九六一に明治九六三年、九六二に明治九六四年、九六三に明治九六五年、九六四に明治九六六年、九六五に明治九六七年、九六六に明治九六八年、九六七に明治九六九年、九六八に明治九七〇年、九六九に明治九七一年、九七〇に明治九七二年、九七一に明治九七三年、九七二に明治九七四年、九七三に明治九七五年、九七四に明治九七六年、九七五に明治九七七年、九七六に明治九七八年、九七七に明治九七九年、九七八に明治九八〇年、九七九に明治九八一年、九八〇に明治九八二年、九八一に明治九八三年、九八二に明治九八四年、九八三に明治九八五年、九八四に明治九八六年、九八五に明治九八七年、九八六に明治九八八年、九八七に明治九八九年、九八八に明治九九〇年、九八九に明治九九一年、九九〇に明治九九二年、九九一に明治九九三年、九九二に明治九九四年、九九三に明治九九五年、九九四に明治九九六年、九九五に明治九九七年、九九六に明治九九八年、九九七に明治九九九年、九九八に明治一〇〇〇年、九九九に明治一〇〇一年、一〇〇〇に明治一〇〇二年、一〇〇一に明治一〇〇三年、一〇〇二に明治一〇〇四年、一〇〇三に明治一〇〇五年、一〇〇四に明治一〇〇六年、一〇〇五に明治一〇〇七年、一〇〇六に明治一〇〇八年、一〇〇七に明治一〇〇九年、一〇〇八に明治一〇一〇年、一〇〇九に明治一〇一一年、一〇一〇に明治一〇一二年、一〇一一に明治一〇一三年、一〇一二に明治一〇一四年、一〇一三に明治一〇一五年、一〇一四に明治一〇一六年、一〇一五に明治一〇一七年、一〇一六に明治一〇一八年、一〇一七に明治一〇一九年、一〇一八に明治一〇二〇年、一〇一九に明治一〇二一年、一〇二〇に明治一〇二二年、一〇二一に明治一〇二三年、一〇二二に明治一〇二四年、一〇二三に明治一〇二五年、一〇二四に明治一〇二六年、一〇二五に明治一〇二七年、一〇二六に明治一〇二八年、一〇二七に明治一〇二九年、一〇二八に明治一〇三〇年、一〇二九に明治一〇三一年、一〇三〇に明治一〇三二年、一〇三一に明治一〇三三年、一〇三二に明治一〇三四年、一〇三三に明治一〇三五年、一〇三四に明治一〇三六年、一〇三五に明治一〇三七年、一〇三六に明治一〇三八年、一〇三七に明治一〇三九年、一〇三八に明治一〇四〇年、一〇三九に明治一〇四一年、一〇四〇に明治一〇四二年、一〇四一に明治一〇四三年、一〇四二に明治一〇四四年、一〇四三に明治一〇四五年、一〇四四に明治一〇四六年、一〇四五に明治一〇四七年、一〇四六に明治一〇四八年、一〇四七に明治一〇四九年、一〇四八に明治一〇五〇年、一〇四九に明治一〇五一年、一〇五〇に明治一〇五二年、一〇五一に明治一〇五三年、一〇五二に明治一〇五四年、一〇五三に明治一〇五五年、一〇五四に明治一〇五六年、一〇五五に明治一〇五七年、一〇五六に明治一〇五八年、一〇五七に明治一〇五九年、一〇五八に明治一〇六〇年、一〇五九に明治一〇六一年、一〇六〇に明治一〇六二年、一〇六一に明治一〇六三年、一〇六二に明治一〇六四年、一〇六三に明治一〇六五年、一〇六四に明治一〇六六年、一〇六五に明治一〇六七年、一〇六六に明治一〇六八年、一〇六七に明治一〇六九年、一〇六八に明治一〇七〇年、一〇六九に明治一〇七一年、一〇七〇に明治一〇七二年、一〇七一に明治一〇七三年、一〇七二に明治一〇七四年、一〇七三に明治一〇七五年、一〇七四に明治一〇七六年、一〇七五に明治一〇七七年、一〇七六に明治一〇七八年、一〇七七に明治一〇七九年、一〇七八に明治一〇八〇年、一〇七九に明治一〇八一年、一〇八〇に明治一〇八二年、一〇八一に明治一〇八三年、一〇八二に明治一〇八四年、一〇八三に明治一〇八五年、一〇八四に明治一〇八六年、一〇八五に明治一〇八七年、一〇八六に明治一〇八八年、一〇八七に明治一〇八九年、一〇八八に明治一〇九〇年、一〇八九に明治一〇九一年、一〇九〇に明治一〇九二年、一〇九一に明治一〇九三年、一〇九二に明治一〇九四年、一〇九三に明治一〇九五年、一〇九四に明治一〇九六年、一〇九五に明治一〇九七年、一〇九六に明治一〇九八年、一〇九七に明治一〇九九年、一〇九八に明治一一〇〇年、一〇九九に明治一一〇一年、一一〇〇に明治一一〇二年、一一〇一に明治一一〇三年、一一〇二に明治一一〇四年、一一〇三に明治一一〇五年、一一〇四に明治一一〇六年、一一〇五に明治一一〇七年、一一〇六に明治一一〇八年、一一〇七に明治一一〇九年、一一〇八に明治一一一〇年、一一〇九に明治一一一一年、一一一〇に明治一一一二年、一一一一に明治一一一三年、一一一二に明治一一一四年、一一一三に明治一一一五年、一一一四に明治一一一六年、一一一五に明治一一一七年、一一一六に明治一一一八年、一一一七に明治一一一九年、一一一八に明治一一二〇年、一一一九に明治一一二一年、一一二〇に明治一一二二年、一一二一に明治一一二三年、一一二二に明治一一二四年、一一二三に明治一一二五年、一一二四に明治一一二六年、一一二五に明治一一二七年、一一二六に明治一一二八年、一一二七に明治一一二九年、一一二八に明治一一三〇年、一一二九に明治一一三一年、一一三〇に明治一一三二年、一一三一に明治一一三三年、一一三二に明治一一三四年、一一三三に明治一一三五年、一一三四に明治一一三六年、一一三五に明治一一三七年、一一三六に明治一一三八年、一一三七に明治一一三九年、一一三八に明治一一四〇年、一一三九に明治一一四一年、一一四〇に明治一一四二年、一一四一に明治一一四三年、一一四二に明治一一四四年、一一四三に明治一一四五年、一一四四に明治一一四六年、一一四五に明治一一四七年、一一四六に明治一一四八年、一一四七に明治一一四九年、一一四八に明治一一五〇年、一一四九に明治一一五一年、一一五〇に明治一一五二年、一一五一に明治一一五三年、一一五二に明治一一五四年、一一五三に明治一一五五年、一一五四に明治一一五六年、一一五五に明治一一五七年、一一五六に明治一一五八年、一一五七に明治一一五九年、一一五八に明治一一六〇年、一一五九に明治一一六一年、一一六〇に明治一一六二年、一一六一に明治一一六三年、一一六二に明治一一六四年、一一六三に明治一一六五年、一一六四に明治一一六六年、一一六五に明治一一六七年、一一六六に明治一一六八年、一一六七に明治一一六九年、一一六八に明治一一七〇年、一一六九に明治一一七一年、一一七〇に明治一一七二年、一一七一に明治一一七三年、一一七二に明治一一七四年、一一七三に明治一一七五年、一一七四に明治一一七六年、一一七五に明治一一七七年、一一七六に明治一一七八年、一一七七に明治一一七九年、一一七八に明治一一八〇年、一一七九に明治一一八一年、一一八〇に明治一一八二年、一一八一に明治一一八三年、一一八二に明治一一八四年、一一八三に明治一一八五年、一一八四に明治一一八六年、一一八五に明治一一八七年、一一八六に明治一一八八年、一一八七に明治一一八九年、一一八八に明治一一九〇年、一一八九に明治一一九一年、一一九〇に明治一一九二年、一一九一に明治一一九三年、一一九二に明治一一九四年、一一九三に明治一一九五年、一一九四に明治一一九六年、一一九五に明治一一九七年、一一九六に明治一一九八年、一一九七に明治一一九九年、一一九八に明治一二〇〇年、一一九九に明治一二〇一年、一二〇〇に明治一二〇二年、一二〇一に明治一二〇三年、一二〇二に明治一二〇四年、一二〇三に明治一二〇五年、一二〇四に明治一二〇六年、一二〇五に明治一二〇七年、一二〇六に明治一二〇八年、一二〇七に明治一二〇九年、一二〇八に明治一二一〇年、一二〇九に明治一二一一年、一二一〇に明治一二一二年、一二一一に明治一二一三年、一二一二に明治一二一四年、一二一三に明治一二一五年、一二一四に明治一二一六年、一二一五に明治一二一七年、一二一六に明治一二一八年、一二一七に明治一二一九年、一二一八に明治一二二〇年、一二一九に明治一二二一年、一二二〇に明治一二二二年、一二二一に明治一二二三年、一二二二に明治一二二四年、一二二三に明治一二二五年、一二二四に明治一二二六年、一二二五に明治一二二七年、一二二六に明治一二二八年、一二二七に明治一二二九年、一二二八に明治一二三〇年、一二二九に明治一二三一年、一二三〇に明治一二三二年、一二三一に明治一二三三年、一二三二に明治一二三四年、一二三三に明治一二三五年、一二三四に明治一二三六年、一二三五に明治一二三七年、一二三六に明治一二三八年、一二三七に明治一二三九年、一二三八に明治一二四〇年、一二三九に明治一二四一年、一二四〇に明治一二四二年、一二四一に明治一二四三年、一二四二に明治一二四四年、一二四三に明治一二四五年、一二四四に明治一二四六年、一二四五に明治一二四七年、一二四六に明治一二四八年、一二四七に明治一二四九年、一二四八に明治一二五〇年、一二四九に明治一二五一年、一二五〇に明治一二五二年、一二五一に明治一二五三年、一二五二に明治一二五四年、一二五三に明治一二五五年、一二五四に明治一二五六年、一二五五に明治一二五七年、一二五六に明治一二五八年、一二五七に明治一二五九年、一二五八に明治一二六〇年、一二五九に明治一二六一年、一二六〇に明治一二六二年、一二六一に明治一二六三年、一二六二に明治一二六四年、一二六三に明治一二六五年、一二六四に明治一二六六年、一二六五に明治一二六七年、一二六

天（令大・尊大・三11・11）

尊正規 ㊀(日) Son-shō-ki. (支) Tsun-chēng-kuei. ㊁名 ㊂明代新譯（東京）

尊勝王 ㊀(日) Son-shō-ō. ㊁1巻 ㊃名 大日本續藏經第參輯第五〇帝釋尊之代 ㊄帝釋（眞言）11一遍眞11以後 A. D. 1143—1212—）撰 ㊅眞言宗 ㊆（參考）

尊勝王陀羅尼記 ㊀(日) Son-shō-ō-gi-ki. ㊁1帖 ㊂名 ㊃眞言宗古代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝王法 ㊀(日) Son-shō-ō-hō. ㊁1帖 ㊂名 ㊃眞言宗 ㊄（天大・台・1・六六）

尊勝王法記 ㊀(日) Son-shō-ō-bō-ki. ㊁1巻 ㊂名 ㊃淨藏法王記 ㊄眞言宗 ㊅（仏法記）

尊勝 ㊀(日) Son-shō. ㊁1巻 ㊂名 大日本續藏經第參輯第五十四帝釋尊之代 ㊄天慶（天人11一五六天 A. D. 1205—1282）撰 ㊅眞言宗聖典 ㊆（眞言宗聖典）

尊勝 ㊀(日) Son-shō. ㊁1巻 ㊂名 ㊃鎌倉（天喜元—建保元 A. D. 1184—1232）記 ㊄眞言宗聖典（寺中法式）撰 ㊅（參考） 密宗教學學會

尊勝 ㊀(日) Son-shō. 尊勝川教記 ㊁1帖 ㊂名 ㊃南北朝時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝 ㊀(日) Son-shō. 尊勝合法 ㊁1帖 ㊂名 ㊃南北朝天文時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝軌 ㊀(日)Son-shō-ki. (支) Tsun-shēng-kuei. 尊勝陀羅尼念誦儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 尊勝陀羅尼念誦儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 ㊁1巻 ㊂名 大正1・九・三六四No. 972 編四天 卍11・1 北1385號 帝1389號 元1378號 明北1414號 地1414號 唐1340號 天1369號 北1195人 南830天 明帝1155號 Nj. 1421 ㊃北天密（唐開元—大曆元 A. D. 705—774）譯 ㊄尊勝陀羅尼念誦儀軌法の下を見よ。

尊勝儀軌 ㊀(日)Son-shō-gi-ki.(支) Tsun-shēng-i-kuei. 尊勝陀羅尼儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 尊勝陀羅尼儀軌 ㊁1巻 ㊂名 大正1・九・三六六No. 973 編四天 卍11・1 三十帖策子本天 ㊃北天密宗（貞觀1・1—一四天11三 A. D. 637—735）譯 ㊄尊勝陀羅尼儀軌の下を見よ。

尊勝軌 ㊀(日)Son-shō-ki. (支) Tsun-shēng-kuei. 尊勝陀羅尼念誦儀軌 尊勝陀羅尼念誦儀軌 尊勝陀羅尼念誦儀軌 尊勝陀羅尼念誦儀軌 ㊁1巻 ㊂名 大正1・九・三六四No. 972 編四天 卍11・1 北1385號 帝1389號 元1378號 明北1414號 地1414號 唐1340號 天1369號 北1195人 南830天 明帝1155號 Nj. 1421 ㊃北天密（唐開元—大曆元 A. D. 705—774）譯 ㊄尊勝陀羅尼念誦儀軌法の下を見よ。

尊勝 ㊀(日) Son-shō. ㊁1巻 ㊂名 大日本續藏經第參輯第五十四帝釋尊之代 ㊄天慶（天人11一五六天 A. D. 1205—1282）撰 ㊅眞言宗聖典 ㊆（眞言宗聖典）

尊勝 ㊀(日) Son-shō. ㊁1巻 ㊂名 ㊃鎌倉（天喜元—建保元 A. D. 1184—1232）記 ㊄眞言宗聖典（寺中法式）撰 ㊅（參考） 密宗教學學會

尊勝 ㊀(日) Son-shō. ㊁1巻 ㊂名 ㊃南北朝時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝 ㊀(日) Son-shō. 尊勝合法 ㊁1帖 ㊂名 ㊃南北朝天文時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝 ㊀(日)Son-shō-ki. (支) Tsun-shēng-ching. 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 ㊁1巻 ㊂名 大正1・九・三四六No. 967 編四天 卍11・1 北324號 帝346號 元334號 明北346號 地346號 唐322號 天331號 北296號 地314號 南582號 明帝329號 Nj. 348 ㊃北宋記（一遍眞元 A. D. 676—）譯 ㊄尊勝陀羅尼經の下を見よ。

尊勝經疏 ㊀(日) Son-shō-kyō-sho. (支) Tsun-shēng-ching-su. 尊勝陀羅尼經疏 尊勝陀羅尼經疏 尊勝經疏 ㊁11巻 ㊂名 卍續1・三十・三 ㊃北宋密（一遍眞11 A. D. 764—）撰 ㊄尊勝陀羅尼經疏の下を見よ。

尊勝行法次第 ㊀(日) Son-shō-gyō-hō-shi-dai. 行法次第 ㊁1帖 ㊂名 ㊃鎌倉時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝法儀軌 ㊀(日)Son-shō-ku-yō-hō. ㊁1帖 ㊂名 ㊃鎌倉時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝寺法儀記 ㊀(日) Son-shō-ji-ku-yō-no-ki. ㊁1巻 ㊂名 ㊃鎌倉時代譯 ㊄1巻

㊅大日本續藏經第參輯第五十四帝釋尊之代 尊勝寺に關する記事多し。之に依れば、今日の寺院組織の現に尊勝寺のごとくなるは、鎌倉の頃（下記）、京都の西山下に於て、故川原寺に其の始まりたりとの說あり（尊勝寺）。現存天文年の銘頃に、之を見るべしとの說あり。嘉祥元年（A. D. 1102）七月中旬、白河法皇の發願にて、尊勝寺の建立成就し、法皇を導師として、諸僧の參集して、法會を執行したる由の記錄なれども、詳細なる事は、明瞭ならざるも、初期なりしも、天文年間行幸ありたる由なり。之を置かずして、其の後、法皇の崩御の內外の家運とは、同じく衰えしたる事實、眞に、佛法の衰微とは、同じく衰えしたるに、ありたるを、如何。（宮田慶雄）

尊勝法次第 ㊀(日) Son-shō-shu-hō-shi-taku. ㊁1帖 ㊂名 ㊃足利時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝林 ㊀(日) Son-shō-ju-rin. (支)Tsun-shēng-chu-lin. 尊勝陀羅尼註釋 尊勝陀羅尼註釋 ㊁1巻 ㊂名 ㊃宋譯（眞言宗聖典）1切經目錄2208

尊勝林疏 ㊀(日) Son-shō-ju-rin-jo. (支)Tsun-shēng-chu-lin-hsū. ㊁1巻 ㊂名 ㊃宋譯（眞言宗聖典）1切經目錄2209. 2210

尊勝初行記 ㊀(日) Son-shō-sho-gyō-ki. ㊁1巻 ㊂名 ㊃鎌倉時代譯 ㊄（眞言宗聖典）

尊勝疏 ㊀(日)Son-shō-sho.(支)Tsun-shēng-su. 尊勝陀羅尼經疏 尊勝陀羅尼經疏 ㊁11巻 ㊂名 卍續1・三十・三 ㊃北宋密（一遍眞11 A. D. 764—）撰 ㊄尊勝陀羅尼經疏の下を見よ。 ㊅（參考） 密宗教學學會

尊勝論 ㊀(日)Son-shō-shō. ㊁11巻 ㊂名 ㊃鎌倉（建保元—仁治三 A. D. 1034—1153）撰 ㊅（參考） 密宗教學學會

尊勝陀羅法 ㊀(日) Son-shō-sem-bō. (支)Tsun-shēng-ch'an-fa. (一遍眞元 A. D. 1124—) ㊅（參考） 密宗教學學會

尊勝陀羅尼儀軌 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-gi-ki. (支)Tsun-shēng-t'o-lo-ni-i-kuei. 尊勝陀羅尼念誦儀軌 ㊁1巻 ㊂名 大正1・九・三六四No. 972 編四天 卍11・1 北1385號 帝1389號 元1378號 明北1414號 地1414號 唐1340號 天1369號 北1195人 南830天 明帝1155號 Nj. 1421 ㊃北天密（唐開元—大曆元 A. D. 705—774）譯 ㊄尊勝陀羅尼念誦儀軌法の下を見よ。

尊勝陀羅尼經 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō. (支) Tsun-shēng-t'o-lo-ni-ching. 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 ㊁1巻 ㊂名 大正1・九・三四六No. 967 編四天 卍11・1 北324號 帝346號 元334號 明北346號 地346號 唐322號 天331號 北296號 地314號 南582號 明帝329號 Nj. 348 ㊃北宋記（一遍眞元 A. D. 676—）譯 ㊄尊勝陀羅尼經の下を見よ。 ㊅（參考） 密宗教學學會

尊勝陀羅尼經林註 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō-kwa-chū. 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 尊勝陀羅尼經 ㊁1巻 ㊂名 ㊃北宋密（元和人一遍眞人 A. D. 1622—1680）撰 ㊄眞言宗（天大・台・1・1・1・三11）（天大・日大乘・八六）（帝國・八11・1・11三〇）（帝・お・十・元・1）（高大・1・三11）（宗寶）

尊勝陀羅尼經林註 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō-ju-rin. (支)Tsun-shēng-t'o-lo-ni-ching-chu-lin. 尊勝陀羅尼經林 尊勝陀羅尼經林 ㊁1巻 ㊂行法部 ㊄（參考） 密宗教學學會

尊勝陀羅尼經疏 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō-sho. (支)Tsun-shēng-t'o-lo-ni-ching-su. 尊勝陀羅尼經疏 尊勝陀羅尼經疏 尊勝陀羅尼經疏 ㊁1巻 ㊂名 卍續1・三十・三 ㊃北宋密（一遍眞11 A. D. 764—）撰 ㊄刊本（高大・台・1・三11）

尊勝陀羅尼經序 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō-jo. (支) Tsun-shēng-t'o-lo-ni-ching-hsū. ㊂名 ㊃（宗寶）

尊勝陀羅尼經序注 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō-jo-chū. ㊁1巻 ㊂名 ㊃北宋密（元和人一遍眞人 A. D. 1622—1680）撰 ㊄刊本（高大・1・1・六11・1・1〇五）

尊勝陀羅尼經鈔 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kyō-shō. 尊勝陀羅尼經抄註 尊勝陀羅尼經抄註 尊勝陀羅尼經抄註 ㊁1巻 ㊂名 ㊃北宋密（元和人一遍眞人 A. D. 1622—1680）撰 ㊄眞言宗（高大・台・1・三11）（高大・1・1・六11・1・1五11）

尊勝陀羅尼經林註 ㊀(日) Son-shō-da-ra-ni-kwa-chū. 尊勝陀羅尼經林註 尊勝陀羅尼經林註 尊勝陀羅尼經林註

法1414巻、唐1340家、天1369冊、法1195人、至830天、明南1155巻、Nj. 1421 ❹法天空（唐僧天一—大唐元A. D. 705—774）譯 ❺摩訶吉祥陀羅尼名曰佛說法の下を見よ。 ❻唐和天竺訳（唐善提訳）入安江詩（唐善提院）

尊勝陀羅尼経 ❶（日）Son-shō-buc-chō-shū-yu-ga-hō-gi-ki.（支）Tsun-shêng-fo-ting-hsiu-yū ch'ieh-fa-i-kuei. 尊勝陀羅尼経、尊勝陀羅尼経、尊勝陀羅尼法、尊勝陀羅尼経儀軌 ❷二巻 ❸存、大正一九・三六八No. 973、編巻一、卍続一・三・一、三十帖、字数六 ❹唐善無畏（貞元一一—開元二二A. D. 637—735）譯 ❺不空（唐代）（唐善提院）文殊二詩（唐善提院）

尊勝陀羅尼経儀軌 ❶（日）Son-shō-buc-chō-yu-ga-gi-ki.（支）Tsun-shêng-fo-ting-yū-ch'ieh-i-kuei. 尊勝陀羅尼経、尊勝陀羅尼経、尊勝陀羅尼法、尊勝陀羅尼経儀軌、尊勝儀軌、尊勝法 ❷二巻 ❸存、大正一九・三六八No. 973、編巻一、卍続一・三・一、三十帖、字数六 ❹唐善無畏（貞元一一—開元二二A. D. 637—735）譯 ❺不空（唐代）（唐善提院）

尊勝陀羅尼経 ❶（日）Son-shō-buc-chō-yō-mon. ❷一巻 ❸存 ❹和製 ❺大和四詩 ❻（鎌倉後）

尊勝陀羅尼経所問一切諸法入無量門陀羅尼経 ❶（日）Son-shō-bo-satsu-sho-mon-is-sai-sho-hō-nyū-mu-ryō-mon-da-ra-ni-kyō.（支）Tsun-shêng-p'u-sa-so wên-i-ch'ieh-chu-fa-ju-wu-liang-mên-t'o-lo-ni-ching. 尊勝菩薩所問一切諸法入無量門陀羅尼経、尊勝菩薩所問経、入無量門陀羅尼経、尊勝問一切諸法入無量門陀羅尼経、尊勝陀羅尼経、尊勝陀羅尼経、尊勝

もの。本書は巻末に「正聞五年壮次月十六日五日。天台沙門能化分門記」とあるから正聞五年（一二〇六）に成立したものであるが、諸目録には全く巻名を記してゐない。本書は故実本の体裁に従ひ原本。日蓮本。巻末本の構成。巻頭は本尊の奉勧請。次に法花経題目を引用してゐるのみなるが、法花経経題目と合記（奉勧請題目）の文を抄出記載。明確な文献学的記述。（田村芳朗）

僧土記 ❶(日)Son-jō-kyō. (支) Tsun-shang-ching. ❷1巻 ❸失書 ❹〔参考〕田三種記抄四、法華経抄四、仁治経抄三、諸経要抄三、抄四

僧土記 ❶(日)Son-jō-kyō. (支) Tsun-shang-ching. (梵) Lomasakaṅgiya bhaddekaratta S. (M. 134) ❷1巻 ❸存、大正1・八八六No. 77、編定八、卍1・四・二、北707字、帝721字、元713字、明北864鎌、南864鎌、麗714止、天707字、法695字、王943止、明帝596鎌、Nj. 609 ❹西域求法高僧伝 ❺梁祐二一(一説天元 (A. D. 266—313)) ❻中国の僧が今巻梁末の高僧伝巻四に記載した曾聞経者の伝記巻末に存在、僧伝諸本（Lomasakaṅgiya）の梵語中、経題梵文語（candana）天子が現はれた直後の偈（Bhaddekarattiyo gāthā）を問じ、その解釈（vibhaṅga分別）を問ふまたかれたことが出来なかつたことが出来なかつたこと。次いで彼の巻末は本書の所に問り、貞観——開元年の頃、僧伝巻四、明僧——開元年の頃、僧伝巻四、明僧——開元年の頃、僧伝巻四、明僧

法口傳鈔付小次第金流 ❷一帖 ❸存 ❹永正一八寫 ❹(金剛三昧院)

尊法次第 ❶(日) Son-hō-shi-dai. ❷一帖 ❸存 ❹元祿五寫 ❹(寶菩提院)

尊法抄私注 ❶(日)Son-hō-shō-chū. ❷一卷 ❸存

尊法抄傳受記 ❶(日)Son-hō-shō-den-ji-ki. ❷一冊 ❸存 ❹明和五寫 ❹(寶菩提院)

尊法鈔 ❶(日)Son-hō-shō. ❷三卷 ❸存 ❹陳海(保安元—治承元 A. D. 1120—1177)撰

❺諸尊法を輯む。澤方相傳の諸尊法にて、傳流等に之を用ふ平等房永嚴の尊法鈔三卷あり、此鈔との同異未詳。本鈔の目次は下の如し。〔上卷〕 阿彌陀、藥師、佛眼、金輪、尊勝。〔中卷〕 聖觀音、千手、馬頭、十一面、准胝、如意輪、不空羂索、白衣。〔下卷〕 延命、普賢延命、八字文殊、孟氏。❼〔參考〕諸宗章疏錄第三 ❹寶曆九寫(寶菩提院)寫本(金剛三昧院)

尊法聽抄 ❶(日) Son-hō-chō-shō. 孟尊院尊法私聞書 ❷一帖 ❸存 ❹寫曆三寫 ❹(金剛三昧院)

尊法祕要鈔 ❶(日) Son-hō-hi-yō-shō. 尊法祕要鈔西院流 ❷一冊 ❸存 ❹印融(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)記 ❹寫本(京大、日大未・三七四)

尊法目錄 ❶(日) Son-hō-moku-roku. ❷一紙 ❸存 ❹貞治六寫 ❹(寶菩提院)

尊法目錄 ❶(日) Son-hō-moku-roku. 尊法目錄野月新鈔 ❷一帖 ❸存 ❹足利時代寫カ ❹(寶菩提院)

尊門絕對論 ❶(日) Son-mon-zettai-ron. ❷一冊 ❸存 ❹鼠尾日守著 ❹明治三二刊 ❹(帝國、一八七・九一)

尊問愚答記 ❶(日)Son-mon-gu-tō-ki. ❷一卷 ❸存、續淨土宗全書第四卷先德要義集 ❹了慧(寬元元—元德二 A.D. 1244—1330)述 ❺永仁五(A. D. 1297)

❻本書は京都三條望西樓直光が、永仁五年花山天皇の勅問(尊問)に對して淨土宗義的事項を來答(愚答)せるものである。

本書一部は四十八箇の問答より成る、先づ出世本懷より聖淨二門、十劫正覺、五劫思惟、淨土勝劣、諸行本願、化前序、九品邊地、定散同違、大願小念佛、菩提心、不誡罪往生、法滅百歲、採取光明、三心、三種行儀、來迎等に關して、淨土宗義の立場より、經論の證を引きて簡單なる解說を試みつて尊問に答說せるものである。

❼〔參考〕總淨土依惡尊疏目錄 ❹永應四刊(谷大、宗大・一五一一)(正大、一五五四・五八)〈龍大、二六八四・一三二)元祿七刊(正大、二五五四・五六)

(森本貞順)

尊聞居士集 ❶(日)Son-mon-ko-jishū. (支)Tsun-wén-chū-shih-chi. ❷八卷 ❸存 ❹清彭紹升(一—嘉慶元 A. D. 1795)編 ❹(龍大、研史)

尊容鈔 ❶(日)Son-yō-shō. 尊要抄、十卷圖像鈔、圖像鈔、十卷鈔、惠什鈔 ❷十卷 ❸存 ❹惠什(一—保延元 A. D. 1135—)撰 ❺十卷鈔の下を見よ。 ❼〔參考〕諸宗章疏錄第三 ❹文政五寫(寶菩提院)寫本(帝國、二一三・二七五)

尊林坊秀存僧都略譜 ❶(日) Son-rin-bō-shū-son-bō-zu-ryaku-fu. ❷一卷 ❸存 ❹使範記 ❺正德四寫

損益清規 ❶(日) Son-eki-shin-gi. ❷竺仙梵仙(正應五—貞和四 A. D. 1292—1348) ❼〔參考〕日本禪林撰述書目

損翁益大禪師略錄 ❶(日)Son-ō-eki-dai-zen-ji-ryaku-roku. ❷一卷 ❸存 ❹損翁宗益(慶安二—寶永二 A. D. 1649—1705)語、益滋等編 ❼〔參考〕禪籍目錄

損翁和尚行狀 ❶(日) Son-ō-ō-shō-gyō-jō. ❷一卷 ❸存 ❹瑞方面山(天和三—明和六 A. D. 1683—1769) ❹寶永二刊(駒大)寶曆元序(京大、一・二一ソ・六)

損翁見聞實永記 ❶(日) Son-ō-kem-mon-hō-ei-ki. ❷一卷 ❸存 ❹面山瑞方(天和三—明和六 A. D. 1683—1769)編 ❹寫本(谷大、餘大・三一六二)

損翁宗益禪師略錄 ❶(日)Son-ō-shū-eki-zen-ji-ryaku-roku. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕禪籍目錄

存海上人口傳鈔 ❶(日) Zon-kai-shō-nin-ku-den-shō. ❷一卷 ❸存 ❹海遠 ❹寫本(正敎藏)

存海流十一箇條聞書 ❶(日) Zon-kai-ryū-jū-ik-ka-jō-kki-gaki. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正敎藏)

存海流十一ケ條目錄極祕 ❶(日)Zon-kai-ryū-jū-ik-ka-jō-mokuroku-gokuhi. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(正敎藏)

存覺一期記 ❶(日)Zon-kaku-ichi-go-ki. 常樂台主老衲一期記、存覺上人一期記 ❷一卷 ❸存、眞宗全書第六八、續々群書類從第三史傳部

❹淨土眞宗敎典志第一に曰く「評家云。撿缺語、眞本已罹ニ享祿兵燹、而失。今本乃所ニ背鈔之殘文缺册耳。故文言頗造多ニ錯レ魄者一等。今謂非ニ書錄レ魄者上云々。常樂台主老衲一期記の下を見よ。

❹寬文九寫(谷大、宗大・二五六六)享保三刊三卷本(谷大、宗大・三二五七、三二八三)

存覺上人一期記 ❶(日)Zon-kaku-shō-nin-ichi-go-ki. 常樂台主老衲一期記、存覺一期記 ❷一卷 ❸存、眞宗全書第六八、續々群書類從第三史傳部 ❹常樂台主老衲一期記の下を見よ。 ❹刊本(正大、七六一・二四)

存覺上人鑑古錄 ❶(日)Zon-kaku-shō-nin-kan-ko-roku. 鑑古錄 ❷二卷 ❸存、眞宗全書第六八 ❹寂慧(永應二—寶曆二 A. D. 1653—1733)撰 ❺享保六(A. D. 1721)

❻常樂台主存覺の傳記にして編年體に記錄せられたもの、存覺の傳記としては一期記あれども文體簡古にして通讀に便ならず、仍つて著者は平素より別に一冊を編してこの缺を補はんとして居つたが遂にこの著をなすに至つたのである。

❹享保六刊(谷大、宗大・一二八)〈龍大、一九六九・八) ❹寫本(谷大、宗大・二〇七三)

(大原性實)

存覺上人行狀 ❶(日) Zon-kaku-shō-nin-gyō-jō. ❷一卷 ❼〔參考〕淨土眞宗敎典志第二

存覺上人袖日記 ❶(日)Zon-kaku-shō-nin-sode-nik-ki. ❷一卷 ❸存 ❹存覺(正應三—應安六 A. D. 1290—1373) ❹寫本(龍大、一九七二・六)大正一二刊(谷大、宗大・三二八九)〈龍大、一九七二・五)〈京大、一・二一ソ・九)

存覺法語 ❶(日) Zon-kaku-hō-go. ❷一卷 ❸存、眞宗法要第二〇、眞宗聖典全書和文之部、眞宗假名聖敎第三、眞宗聖敎大全卷上、同文東方佛敎叢書第一輯第三 ❹存覺(正應三—應安六 A. D. 1290—1373)語 ❺文和五(A. D. 1356)

❻本書は淨土眞宗本願寺第三世覺如上人の嗣、存覺上人が六十七歲文和五丙申年三月四日契緣尼の爲めに記されし法語なることはその跋文に依りて知らる。眞筆本は垂井專稱寺に傳ふと云ふ。寂慧の鑑古錄二十七紙には、同年淨土宗名目、聖土淨土名目、淨土見聞集を共に作らるゝことを記せり。存覺上人の淨典目錄の終には

法語一帖、(是ハ出雲路契緣禪尼所望云々)

と記しあり、所望者契緣とは、鼓吹には出雲路乘專の母とすれども、不可、法要典據には上人の室とす。此書は、禪尼の懇請に提ひ、末世相應の要法は彌陀の本願に限る、彌陀の本願は弘く十方衆生と呼びかけ給へども、殊に女人を正機とし給ふ、これに依りて宋代の惡人女人は、餘の佛菩薩に心を寄せず、唯彌陀一佛をたのみ、餘善餘行をすてゝ念佛の一法に歸して生死を出離すべしと、此の義を勸むる爲に記し給へるものなり。故に本文につきて見るに、初には廣本總序の難思弘誓等の三行を詳釋し一宗の樞要を示して此を序分として、十一丁右以下には發願の正意に就て惡人正機の佛意を開示したものである。即ち初に無常輪、不淨輪、苦輪の三輪を次第の如く述べて穢土の苦相を明にし、二十三丁左以下には淨土に往生すれば三輪を離るゝことを述べて最後の三十二丁以下は殊に女人は此の苦に沈む者なるに獨り彌陀の本願に依りて得脫する事を明し、更に章提希夫人の本地乘迹を述べて以てその義を證明したものである。

❼〔注釋〕 開書一卷(眞宗大系第二八)威力院義導述。 鼓吹四卷了意述。私記一卷(作者不明)。略述一卷一乘院覺譽述。

〔參考〕 淨土眞宗敎典志第一 ❹寫本(龍大、一一三・六八、別置)眞筆本(美濃垂井專稱寺傳)寫文四刊(谷大)

(上杉慧岳)

存覺法語聞書 ❶(日)Zon-kaku-hō-go-kki-gaki. ❷一卷 ❸存、眞宗大系第二八 ❹義尊(一—明治一四 A. D. 1881)述 ❺慶應元(A. D. 1865)九月

❻本書は大谷派嗣講師、威力院福田義尊師が慶應元乙丑年九月尾州德仁寺に於いて講述せられたるものである。今眞宗大系に收むる所のものは、講師鬼頭覺道師の所藏本を底本として校訂されしもの。而してその內容は聞書とある如く、講釋の筆錄されしものである。初めに玄談として來意、大意、題號釋の三門を開き說いた後、本文に入りて隨文作釋をしてある。極めて懇切なる解說が施されてゐる。存覺法語の末疏は極めて少いのであるが、此の書が刊行されてゐることは誠に法語を繙くものには有難い極みであると言はねばならぬ。

❹〔鬼頭覺道講師文庫〕

(上杉慧岳)

存覺法語鼓吹 ❶(日)Zon-kaku-hō-go-ko-sui. ❷四卷 ❸存 ❹了意(一—元祿四 A. D. 1691)述 ❺元祿六刊 ❹(谷大、宗大・一四七九)

存覺法語私記 ❶(日)Zon-kaku-hō-go-shi-ki. ❷一卷 ❸存 ❼〔參考〕淨土眞宗敎典志第一 ❹元祿一二刊(谷大、宗大・二八三六)寫本(龍大、研史)

存覺法語釋 ❶(日) Zon-kaku-hō-go-shaku. ❷二卷 ❸存 ❹寫本(龍大、研史)

存覺法語略述 ❶(日)Zon-kaku-hō-go-ryaku-jutsu. ❷一卷 ❸存 ❹吉谷覺壽(天保一三—大正三 A. D. 1842—1914)述 ❺明治四〇刊 ❹(立大、A四〇・八七)(龍大、一二四二・一七)(谷大、宗小・一七六)

❹京都護法館

存覺法語錄 ❶(日) Zon-kaku-hō-go-roku. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、宗大・一九七五)

存如樣御墳墓之儀願出ニ付取調 ❶(日) Zon-nyo-sama-go-fun-bo-no-gi-negai-de-ni-tsuki-tori-shirabe. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大)

存略觀 ❶(日)Zon-ryak-kwan. ❷一卷 ❹源信(天慶五—寬仁元 A. D. 942—1017) ❼〔參考〕淨土眞宗敎典志第一

存略觀々心實相眞如觀 ❶(日) Zon-ryak-kwan-shin-jis-sō-shin-nyo-kwan. 眞如觀、空觀 ❹源信(天慶五—寬仁元 A. D. 942—1017) ❼〔參考〕山家祖德撰述篇目集卷下、本朝台祖撰述書部書目

タ

他阿上人法語 ❶(日)Ta-a-shō-nin-hō-go. ❷一巻 ❸作 大日本仏教全書所収 ❹鎌倉(安貞元—元亨元 A. D. 1227—1319)頃

❶本書は時宗三祖他阿真教上人の法語記文を載せるものである。時に弘化は三祖中最も上人の言説に係ると言ふ。本文は大観録と比較して十数箇所の異なりしものゝ大部を採る。巻頭第一に短句数文一則、他阿願阿弥陀仏往生和讃百十三句、別時念仏会式百十八句等、往生浄土和讃百十三句、別時念仏会式百十八句等、巻末三文は別本大系までに収百五十四等、巻末七に収録の法語四十八等。巻末八に和歌三百六十八首を載せて居る。中に属して編輯年次は著百年(A. D. 1306)九月の頃、他阿弥陀仏の臨終記に於ける例篇の文章、宗教を説き人情を察知する切なるものがあり、回行用心大綱は永仁六年(A. D. 1298)武蔵国村岡にて示現の臨終記を記したもの、時衆修心の綱要を説らこと最も詳上人の時衆修心の綱要を説らこと最も詳細1巻上人の時衆制定に出でゝ、浄土和讃は願阿弥陀仏等の和讃に比して、高僧の讃歌和讃に同巧異曲なるも本より別意、別意法語は三祖を初め諸師に宜を示教を説め、和歌は本之凡そ千五百首あり、中より厳選せるもの、安永五年一月京都浄土宗の宝蔵院が、遊行五十三祖他阿上人の、寄合に依つて果した所である。蓋し鎌倉上人を知るに足る書である。

他阿上人法語真校本識語 ❶(日)Ta-a-shō-nin-hō-go-jū-kō-ketsu-gi-roku. ❷1巻 ❸作 ❹(参考) 大日本仏教全書所収安永版

他阿願阿弥陀仏回行用心大綱註 ❶(日)Ta-a-mi-da-butsu-dō-gyō-yō-jin-tai-kō-chū. ❷1巻 ❸作 大日本仏教全書所収大六六 ❹正応元注 ❺貞和元 (A. D. 1345)

❶本書は時宗三祖他阿真教上人説の他阿願阿弥陀仏回行用心大綱1巻を註解せるものである。三大綱は巻頭に収じ。(寺沢善明)

他化天経 ❶(m)Ta-ke-ten-ki. (支) T'a-hua-t'ien-kuei. 仏説四菩薩他化自在天所問経 ❷1巻 ❸作 大正二〇・五二三 No. 1122 続四九 卍二六・一〇 明北1333社 地1383社 南814川 明南1189弥 Nj. 1320 ❹不詳(曇無讖元—大唐元 A. D. 705—774)訳 ❺唐天寶元—大唐元(A. D. 746—774)

❶仏説四菩薩他化自在天所問経の異訳である。

他化自在天所問経 ❶(日)Ta-ke-fu-gen-nen-ju-gi. (支) T'a-hua-p'u-hsien-nien-sung-i. 仏説四菩薩他化自在天所問経 ❷1巻 ❸作 大正二〇・五二三 No. 1122 続四九 卍二六・一〇 明北1333社 地1383社 南814川 明南1189弥 Nj. 1320 ❹不詳(曇無讖元—大唐元 A. D. 705—774)訳 ❺唐天寶元—大唐元(A. D. 746—774)

❶仏説四菩薩他化自在天所問経の異訳である。

他化自在天所問経念誦儀 ❶(日)Ta-ke-fu-gen-nen-ju-gi. (支) T'a-hua-p'u-hsien-nien-sung-i. 仏説四菩薩他化自在天所問経念誦儀 ❷1巻 ❸作 大正二〇・五二三 No. 1122 続四九 卍二六・一〇 明北1383社 地1383社 南814川 明南1189弥 Nj. 1320 ❹不詳(曇無讖元—大唐元 A. D. 705—774)訳 ❺唐天寶元—大唐元(A. D. 746—774)

❶仏説四菩薩他化自在天所問経の念誦儀である。

他化自在天所問経念誦儀 ❶(日)Ta-ke-fu-gen-nen-ju-gi. ❷1巻 ❸作 大日本仏教全書所収五六一 ❹平安(延暦元—天長元 A. D. 782—824)頃

❶本書は他化自在天所問経の念誦儀である。

他化自在天所問経念誦儀行法 ❶(日)Ta-ke-fu-gen-nen-ju-gi-gyō-hō. ❷1巻 ❸作 大日本仏教全書所収五六一 ❹平安(延暦元—天長元 A. D. 782—824)頃

❶他化自在天所問経念誦儀の下を見よ。

他家訓決 ❶(日)Ta-ke-kun-ketsu. ❷1巻 ❸作 ❹(参考) 仏教語大辞典

他師禅決 ❶(日)Ta-shi-ha-ketsu. ❷1巻 ❸作 ❹貞享元(貞享記)(続大仏全・1・四八)

他師禅決集 ❶(日)Ta-shi-ha-ketsu-shū. ❷11巻元刊 ❸作 ❹了誉聖冏 ❺貞和元刊(文大仏全・四三11)来迎三刊(仏教大仏全六六四・三五)(続大仏全・1・四八)(京都)

他受用感事 ❶(日) Ta-ju-yū-go-sho. ❷1巻 ❸作 ❹日蓮(貞和頃元—弘安元 A. D. 1222—1282) ❺嘉安(貞和刊(文大仏全○1・11三)貞文元刊(文大仏全○1・1111)

他心利律 ❶(日)Ta-bi-ri-ritsu. (支) T'a-p'i-li-lü. ❷1巻 ❸島 ❹鎌倉代書 ❺1五 貞元録巻11五

他筆分 ❶(日)Ta-hitsu-shō. 聞筆分 語語四分他筆分 聞語他筆分 聞語他筆分 ❷十巻 ❸作 大日本仏教全書所収五六一五 完七 十四巻 ❹作 大日本仏教全書所収五六一五 完七 四巻 ❺平安(延暦元—天長元 A. D. 1177—1247)頃 ❻聞語他筆分 ❼(参考) 浄土教宗教典籍目

他筆分の下を見よ。

他不見業 ❶(日)Ta-fu-ken-shū. ❷1巻 ❸作 ❹鎌倉(一遍永三1 A. D. 1424)記 ❺善川時代頃(寛永版) 安永八年(寛文・1・六四)巻末111巻(寛永版)明和元頃(寛永版)

他利々他業 ❶(日) Ta-ri-ri-ta-shin-gi. ❷1巻 ❸作 続仏全書所収五六六 ❹鎌倉(正嘉元—寛政元 A. D. 1715—1789)頃 ❺明和元六(A. D. 1769)六月11十四日

❶(1)内容日次。本書は種五百の小本にして、特に日次を附したる題の書なり。(11)解説。巻頭の本作は浄土真宗に「他利」利他」とふ語あり。この語に就いて、親鸞聖人は其教行信証に於て願阿弥陀の本願を説明せられしとして、浄土教宗に於ては、この語を採用して、説明するこゝ多くなれり。此書は、他利、利他に就いて、宗教に三義あるを示し、次に之を説明して、歴代を説明したるものなり。

❷明和七頃 ❸(谷大)宗全・1・三四九)

(栗栖敬)

他利々他業 ❶(日)Ta-ri-ri-ta-no-ben. ❷1巻 ❸作 続仏全書所収五六六 ❹大寛(一文寛元 A. D. 1826)頃

❶他往生論註の略説に従へ、別行浄土教と出づる他利と利他との語は、古来解釈区分の別あり、他利の利他業の意味を、別説浄土教の教義の特色たるものである。親鸞聖人の教義の特色たる他力説の教義的根拠となり、他利の他業は、他力説の特色たる願行的要素となり、他利の他業は、他力説の教義的要素となり、他利の他業は、他力説の教義的要素となり、他利の他業は、他力説の教義

【タ】

ならは寺左門寺等。門寺繁らされば其後立に於いて華信自性の法門を繁らされば其後立し語ものを少く、高言法数を多くは寺左門寺の所説を主とし語ものは寺左門寺の所説を主とし語ものは寺左門寺の所説を主とし語もの

タイプライター ❶(B)Ta-no-mu-ta-su-ke-ta-ma-e-ryamu-ku-ben. タイプライター 名 ❷ 名 ❸ 名 ❹ 名 ❺ 名 ❻ 名 ❼ 名 ❽ 名 ❾ 名 ❿ 名 ⓫ 名 ⓬ 名 ⓭ 名 ⓮ 名 ⓯ 名 ⓰ 名 ⓱ 名 ⓲ 名 ⓳ 名 ⓴ 名 ㉑ 名 ㉒ 名 ㉓ 名 ㉔ 名 ㉕ 名 ㉖ 名 ㉗ 名 ㉘ 名 ㉙ 名 ㉚ 名 ㉛ 名 ㉜ 名 ㉝ 名 ㉞ 名 ㉟ 名 ㊱ 名 ㊲ 名 ㊳ 名 ㊴ 名 ㊵ 名 ㊶ 名 ㊷ 名 ㊸ 名 ㊹ 名 ㊺ 名 ㊻ 名 ㊼ 名 ㊽ 名 ㊾ 名 ㊿ 名 (1) 名 (2) 名 (3) 名 (4) 名 (5) 名 (6) 名 (7) 名 (8) 名 (9) 名 (10) 名 (11) 名 (12) 名 (13) 名 (14) 名 (15) 名 (16) 名 (17) 名 (18) 名 (19) 名 (20) 名

(支)Ta-chien-chih-fo. ❷1巻 ❸欠 ❹失書 ❺〔参考〕 田三藏記巻三〕、貞元録巻四〕、巻1五

打集 ❶(日)Da-shū. ❷1冊 ❸存 ❹慈川末期写 ❺〔参考〕

打聞集 ❶(日)Da-mon-shū. ❷1冊 ❸存 ❹写本 ❺刊本(谷大)

吒枳尼 ❶(日)Da-ki-ni. ❷1帖 ❸存 ❹水鏡1二巻 ❺〔参考〕

吒枳尼王列行儀軌 ❶(日)Da-ki-ni-ō-betsu-gyō-gi-ki. (支) To-chih-ni-wang-pieh-hsing-i-kuei. 吒枳尼王別行儀軌 ❷1軸 ❸存 ❹唐天宝(玄宗)元—大唐九 A. D. 705—774)譯 ❺叢書舎伝写 ❻〔参考〕

吒枳尼天第 ❶(日) Da-ki-ni-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹叢書舎伝写 ❺〔参考〕

吒枳尼天第十八通 ❶(日)Da-ki-ni-tsuketari-jū-hachi-dō. ❷1軸 ❸存 ❹心華(永久五—治承四 A. D. 1117—1180)記 ❺写本(谷大)巻・1・大六)

吒枳尼天善水供 ❶(日)Da-ki-ni-ten-ke-sui-gu. ❷1巻 ❸存 ❹写本(谷大)巻小・六〇)

吒枳尼天式 ❶(日) Da-ki-ni-ten-shiki. ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 大日本仏教全書第刊本定本日

吒枳尼天說法秘密狐王等護法 ❶(日) Da-ki-ni-ten-hi-hō-tsuketari-shin-ko-ō-bo-satsu-hō. ❷存 ❸叢書舎巻五 詳細仏教法之門

吒枳尼天の作法 ❶吒枳尼天の作法及び其の修法である。狐狸は先づ外五法印明・軍荼利・金剛・愛染・金剛・宝生・金剛・不空・金剛・金剛・金剛

-dha-yō. ❷一卷 ❸存 ❹空鈍述 ❺元文三刊 ❻(龍大、二六六二・三〇)(京專)

陀羅尼集經 ❶(日) Da-ra-ni-jup-kyō. (支) To-lo-ni-chi-ching. ❷十二卷或十三卷 ❸存、大正一八・七八五No. 901、鎌閣四—五、卍一二・一—二、北310才良、南321才良、元317才良、明北359恕同、清359恕同、麗309効才、天317才良、指336効才、法303男、至555精編、明南338得能、Nj. 363 ❹阿地瞿多譯 ❺唐永徽四—五(A. D. 653—654)

❻諸種の經軌を集錄したものであつて、其の翻譯序に依れば、永徽四年(A. D. 653)三月十四日より、慧日寺に於て、金剛大道場經中の要を撮り抄譯して、十二卷に集成し、翌五年(A. D. 654)四月十五日に、其の業を畢つたことに成つて居る。卷第一(佛部卷上)には、先づ佛頂法として、淨室中に佛頂像を安置し、其の右には觀音、左には金剛藏を作り、佛光上には首陀會(Śuddhāvāsa 淨居)天散華の形を作り、道場中の水壇には、密珠羅施(Tejorāji 光聚)を安置し、又火爐を置き、沈水香等を燒いて供奉すべきことを說き、次に佛頂三昧曼荼羅法として、幢子の蓋を壇に塗り、四方四門の中、唯西門のみを開いて、餘の東・南・北の三開は總て之れを閉ぢ、壇上には五寶瓶を置き、呪師は西門に於て禮拜して呪を誦じ、釋迦佛を東門に、金剛藏を南門の侍者に、十一面觀音を北門の侍者に請ひ、然る後に至心に、釋迦文佛・觀世音菩薩・金剛藏菩薩・並に各々其の眷屬に供奉すべきことを明し、次に金輪佛頂像法として、白晝若しくは紺布を取り、身は眞金色にして、赤裝裝を著ける世尊の像を畫き、座の下に寶池、其の池の四邊に鬱金華を作り、四天王は各々方位に隨つて立ち、左邊に身白色にして、師子に乘れる文殊、右邊に同じく身白色にして、師子に乘れる普賢を作り、其の師子と白象との中間に、身白色にして經匣を把れる般若菩薩を畫き、上空中には五色の雲叢を畫作し、其の叢の左右に淨居天あつて、七寶華を雨すことを示し、最後に佛頂八肘壇として、治地・埋寶・拼繩・點位・五色界道・四方四門を詳細に說き、壇は三重院にして、唯西門のみを開き、諸尊の座位を列ね、燈明・飲食・香華・香水等を供奉し、西門に爐を安じ、火を燒いて供奉すべきことを明す。總じて此の卷の中に、三十二印・二十五呪が說いてある。卷第二(佛部卷下)には、先づ畫一切佛頂像法として、佛頂の左右に各々一菩薩、其の上に各々須陀會天、二菩薩の後に各々四菩薩、其の上に又各々二菩薩、下に各々一菩薩あつて、像後に寶樹、其の樹上に凌雲華を畫き、又四肘の水壇を造り、其の中心に火爐を安じ、火を燒いて供奉すべきことを說き、通じて二十六印・二十四呪を明し、次に阿彌陀佛大黑惟經說序分第一に於ては、其の畫像法として、阿彌陀佛の右に十一面觀音、左に勢至菩薩を作り、寶殿を彌陀佛像を安じ、其の面を西に向け、佛前に火爐を置き、呪師は東に向つて、呪を誦じて供奉すべきことを述べ、此の中に總じて七呪・十四印を明し、次に作數珠法相品・大輪金剛陀羅尼・跋折囉(vajra)功能法相品、及び作跋折囉并功德法が說いてある。卷第三には般若波羅蜜多大心經が出してあるが、先づ其の序分に次いで、畫大般若像法として、菩薩の右に梵天、左に帝釋天を畫き、菩薩の光上の兩肩に、皆一須陀會天散華の像を作り、其の像の座下に香爐・供奉具を畫作し、供奉具の左右の兩肩に、各々八神王の像を布置し、其の下の右肩に呪師の像を畫くべきことを說き、次に其の壇法として、四肘の方壇の中心に釋迦佛を安置して面を西に向け、其の東に般若菩薩、北に大梵天、南に帝釋天を安じ、中心の佛前と壇の四角とには、各々香爐・水罐を置くべきことを明し、更に一壇法として、三重の壇の各々の四門を開き、第三重の內院に一圓月を作り、中心に般若菩薩の像を安置して、面を西門に向け、其の像の左に帝釋天、右に梵天、東面に使者、西面に持明者を安じ、第一重外の四方に、各々四神王の像を列すべきことを示し、或は又水壇を造り、像若しくは香爐を安じて護身結界し、東に向つて呪を誦じて供奉すべきことを述べ、總じて二十一印・十七呪が說き示してあるが、其の中に結地界・結四方界・結虛空界等、印呪の名相・次序、共に後代の通法に近似してゐるものが見えてゐることは、注意を要すべき所であると思ふ。卷第四(觀世音卷上)には、十一面觀世音神呪經を出し、先づ序分に次いで七日供奉壇法として、第一日には軍荼利法を以つて、辟除結界して地を治し、第二日と第三日とには地を泥り、第四日には牛糞・香泥を地に塗つて、五寶・五穀を埋め、次に大結界を作し、第五には更に牛糞を地に塗り、第六日には繩を拼して位を點じ、次に壇の四角の各々に一竿を竪て、繩を以つて四角の竿の上を繞繫し、其の繩の上に雜色の幡を懸け、西門外には火爐を穿作して、諸の聖衆を召請し、次に弟子を喚んで護身せしめ、其の頭上に香水を灌ぎ、然る後に東に向つて列坐せしめ、次に柳枝(齒木)を嚼ましめて之れを投じ、以つて吉凶をトし、かくて聖衆に供奉し寬らば、弟子を外に出し、阿闍梨自ら五色の粉を以つて、諸尊を內院に敷置し、第七日には外院に(外金剛部を)布置すべきことを明し、かく作壇し了つて後に、阿闍梨自ら護身結界して、水罐十三口を各院の四角及び中心に安じ、四方の八門には各々香爐を置き、諸尊の前には各々飲食・燈明を著け、次に弟子を喚んで護身を與へ、香水を以つて手を洗はしめ、帛を以つて其の弟子の眼を裹み、次に阿闍梨弟子を引いて壇に入り、弟子をして投華せしめて、所得の尊名を告げ、更に西門外の灌頂壇に於いて灌頂を與へ、所得の尊の印を授け、次に火を燒いて聖衆に供奉し、又西門に到り體問して後に聖衆を發遣し、最後に阿闍梨は手に炬火を執り、弟子に示すに諸尊の位を以つてし、然る後に泥を以つて壇上に泥却し、日出を見ること莫れと說くなど、事

相の發達大に見る可きものがあり、此の卷には根本陀羅尼の外、二十八呪・五十印が示してある。卷第五(觀世音卷中)には、先づ千轉觀音法として、二呪・二印並に受持壇法を明し、次に觀音母法・隨心觀音法・十二臂觀音印呪・觀音不空羂索印呪等を示し、次に畫一切觀音像法として、觀音は百寶莊嚴の蓮華座上に坐し、其の像の左右の肩に各々三菩薩、光上の左右の肩に、各々二須陀會天あり、又華光の兩邊に頻伽・鸚鵡・孔雀・白鵝各々二羽宛畫き、座下の左右の肩に又各々二菩薩、像の兩邊には菩提樹、其の樹上には凌雲華を畫作すべきことを說き、次に毗俱知 (Bhṛkuṭi) 觀音法として其の中に二十一印・四十四呪を出し、次に使者印呪・七日作法救病法壇を明し、最後に畫毗俱知像法として、先づ釋迦佛の像を畫き、左に金剛手、右に觀音、觀音の左手の下に天女の形、次に呪師を畫作し、然る後に火を燒いて、種々に供奉すべきことが說いてある。卷第六(觀世音等諸菩薩卷下)には、先づ馬頭觀音法を出し、其の畫像法として、瓦瓶を取つて青色に染め、其の瓶上に馬頭觀音を畫いて、寶蓮華上に立たしむべきことを示し、又更に一法として、頂上の面を碧馬頭に作り、左轉と跨との上に虎皮を著くべきことを明し、續いて其の受法壇として、四肘壇の中心に馬頭觀音を安じ東門には十一面、北門には八臂觀音を安じ、南門には八大龍王を作るべきことを述ぶ(以上觀音部)、次に(以下諸菩薩法)勢至法(二印・一呪)・彌勒法(二印・一呪)・文殊法(一印・一呪)・地藏法(二印・一呪)・普賢法(一印・四呪)・虛空藏法(一印・二呪)等が說いてある。卷第七(金剛部卷上)には、最初に金剛藏法が出してあるが、先づ序分に次いで其の畫像法として、菩薩は百寶蓮華座上に坐し、像の左右の肩に各々一大侍者菩薩、金剛藏の左に僕の側の近くに一菩薩あり、又左右の肩に各々四菩薩あつて、皆坐して威儀を作し、金剛藏を助けて一切を降伏し、上方の兩邊には、須陀會天が華蓋を供奉するを畫き、像の兩側には、具多樹及び山形等座下には寶池を作り、右の肩には華蓋を持ち來つて、供奉を助くる一小童子の像を畫作すべき事を示し、此の法の中に十呪・十八印を說き、次に金剛藏眷屬法中に金剛母法(一呪・三印)・金剛兄法(一印・一呪、水壇・火爐)・金剛商迦羅(Śrīkhala 鎖)法(十印・四呪、受法壇)・金剛藏小女法(二呪・七印)・金剛藏隨心法(四呪・十一印)等を明し、最後に金剛藏受法壇として、道場中に四肘の方壇を作り、其の四角・四門並に中心、及び火爐の邊に各々一口の水罐を著け、然る後に金剛藏を迎へて中心に安じ次に四十九燈を安置し、五十の盤の中には種々の食を盛り、其の壇の西門の南に火爐を置き、かくて火を燒いて供奉すべきことが說いてある。卷第八(金剛部中卷)には、阿蜜唎多軍荼利 (Amṛta-kuṇḍali) 諸成就法が明してあるが、先づ初に十五呪・二十一印を出し、次に軍荼利金剛受法壇として、軍荼利の像を畫き、其の像の左邊の下に一鬼王を畫作すべきこと、其の他、陰壇・向東語呪・燒火・灌頂等、前述の諸法の如く詳細に說き示し、次に軍荼利金剛救病法壇(三呪)、最後に大笑金剛諸成就法(二呪・四印)が說いてある。卷第九(金剛部卷下)には、初に金剛烏樞沙摩 (Ucchuṣma) 法を說き、其の中に畫像法として、青色四臂兩傳に各々二龕王を羅絡せる像を畫き、頭上の左には阿閦佛、右には阿彌陀佛、其の佛像の上には、諸天散華の像を畫作し、像下の海中には蓮華あり、其の華上に金剛杵を著け、海中には八阿修羅(Asura)王を畫き、其の金剛杵底の右邊には、手に香爐を執つて、胡跪供奉せる呪師の形像を畫くべき事を明し、其の壇法として、中心には烏樞沙摩像、東門には施可囉、南門には彌時室駄伽、北門には漢陀羅吉智、西門には杜地を夫々安じ、西門外に呪師の座を置き、四方に各々四天王を安ずべきことを示し、又火頭金剛降魔器仗(杵・輪・斧・刀・羂)を說き、此の法の中に總じて十七印・四十二呪を出し、次に大青面金剛法を說き、其の中に先づ六呪・十四印を明し、終に畫五藝叉像法として、一藥叉 (Yakṣa) を畫き、其の像の兩脚の下に各々一鬼を安じ、兩邊には各々一青衣童子を畫き、左右に又各々二藥叉を畫作すべきことが說いてある。卷第十(諸天卷上)には、初に摩利支天 (Marīci) 法が說いてあるが、其の中に作像法として、天女の形に似たる像を作り、左手には天扇を把り、扇面には卍字、扇上には發光を作り、右手は垂下し、像の左右には、又天女形の二侍者を作るべきことを明し、受法壇として、四肘の壇の中心に蓮華座を作り、其の座上に摩利支天の像を安じ、東面には婆多羅唎夜、南面には摩利傷、北面には計室傷の三使者を安じ、西門には呪師の座を置き、種々に莊嚴し、灌頂し、燒火する等、略々前述の諸法の如きを示し、更に毗那夜迦 (Vināyaka) 壇法として、泥土を以つて一百鬼の形像を作り、其の中の鬼王を毗那夜迦と名づけ、此の鬼王の頭を、白象の頭の形に作り、其の餘の諸鬼の頭は、各別に諸の禽獸の形に作り、手脚は總て人の形に作つて、之れを壇の中心及び四面に置くと云ふ一種の奇法を明し、其の他水壇・燒火法・成就法等を說き、此の法の中に總じて五呪・七印を出し、次に功德天法を說き、其の畫像法として、身體正にして赤白色の功德天の像を畫き、其の左邊には梵天、右邊には帝釋天、背後には各々一七寶山を畫作し、天像の上には五色の雲を作り、雲上には六牙の白象を安じ、象鼻には馬腦瓶を付し、瓶中より種々の寶物を流出して、功德天の頂上に灌ぎ、天神の背後には百寶華林、頭上には千葉寶蓋を畫き、蓋上に諸天伎樂し、散華供奉し、像底下の右邊には、手に香爐を把り、胡跪して供奉せる呪師の形を畫作すべきことを明し、其の他、水壇法・燒火法・成就法等を說くこと餘法と同じく、此の法の中には、總じて三呪・十二印が出してある。卷第十一(諸天卷下)には、梵天 (四印・一呪)・帝釋天 (一印・一呪)・摩醯首羅 (Maheśvara) 天(二印・二呪、

陀羅尼集経中念誦三昧 ❶(日) Da-ra-ni-juk-kyō-chū-nem-butsu-ni-ben. ❷1巻 ❸存 ❹翻訳 五刊 ❺(正大・一一五四・五)

陀羅尼集抄 ❶(日) Da-ra-ni-shū-shō. ❷1巻 ❸(参考) 本朝台密諸尊法儀書目・山家三密諸尊法儀目録巻上・密家諸尊法目録

陀羅尼雑句経 ❶(日)Da-ra-ni-shō-ku-kyo.(支)T'o-lo-ni-chang-chü-ching. ❷1巻 ❸欠 ❹東晋代失訳 ❺第一書。❻(参考) 三論経疏セ・内典録巻三・歴一四・貞元録巻五・開元録巻三・歴一四・貞元録巻五

陀羅尼法門大勧経 ❶(日)Da-ra-ni-hō-mon-roku-dō-kyō. (支)T'o-lo-ni-fa-mên-liu-tung-ching. 陀羅尼法門大勧動経 ❷1巻 ❸失訳 ❹恵琳撰録巻一巻の抄出。❺(参考) 出三蔵記巻四・法経録巻三・仁寿録巻三・開元録巻一六・貞元録巻三・開元録巻一六・貞元録巻三六

陀羅尼教言講呪 ❶(日)Da-ra-ni-bon-on-jin-shu. ❷1巻 ❸存 ❹用不(支大言語)

陀羅尼目佉経 ❶(日) Da-ra-ni-mok-kya-kyō. (支) T'o-lo-ni-mu-ch'ü-ching. ❷1巻 ❸欠 ❹(参考) 貞元録巻一一・開元録巻一四・貞元録巻一四

陀羅尼門諸部要目 ❶(日)Da-ra-ni-mon-sho-bu-yō-moku. (支) T'o-lo-ni-mên-chu-pu-yao-mu. 諸部陀羅尼目・諸部要目 ❷1巻 ❸存・大正一八・八九No. 903・諸回三・卍一一七・一一・北1398鼓・南1402南・宗1390南・明北1445鼓・京1445鼓・鹿1362宅・天1379南・京1164京・明南1172英・三十帖策子巻一一〇・Nj. 1452 ❹唐不空(開元一一大暦九 A. D. 705—774)訳 ❺諸部陀羅尼目の下を見よ。

陀羅尼雑集経 ❶(日)Da-rin-ni-hatsu-kyō. (支)T'o-lin-ni-po-ching. 陀羅尼雑呪経・陀羅雑呪経 ❷1巻 ❸存・大正一一・八六五No. 1352・編成セ・卍一一・一一・348南・南364南・宗355南・明北361宗・京361宗・鹿349京・天356南・鹿319京・法341京・鹿608鹿・明南352宗・Nj. 365 ❹東晋如意寺釈僧護(一大元六一一一〇 A. D. 381—395—)訳 ❺仏説仏説阿那邠邸経(Anāthapiṇḍada)国に生れた会・無量光明と大光明と名づくる二菩薩が、菩提樹に来り、為めに陀羅尼経 (Dhāraṇī-pada) 即ち陀羅尼句を説く。仏ついで弟子は直に阿難(Ānanda)に、それを説明されたことを記す。それを王子ラーフラ(羅睺羅)に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する比丘僧に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する比丘尼に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する優婆塞に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する優婆夷に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦楼羅・緊那羅・摩睺羅伽に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する人・非人に伝えたことを記す。次に、それを王舎城の耆闍崛山に住する一切の大衆

貞元錄卷三、錄一一五

大修海水中經 ❶(日) Da-shu-kai-sui-chū-kyō. (支) To-chu-hai-shui-chung-ching. ❷1卷 ❸宋譯 ❹法護錄1卷の別出。 ❺〔參考〕 田三藏記錄四、法護錄錄四、七錄錄錄三、寶唱錄錄三、錄四、開元錄錄1六、貞元錄錄11六

大修海水中經 ❶(日) Da-shu-jaku-kai-chū-gyō. (支) To-chu-cho-hai-chung-ching. ❷1卷 ❸存、法護錄1(大正三・七五No. 154. 8)

大乳論 ❶(日) Da-fu-ron. (支) To-fu-lun. ❷1卷 ❸缺 ❹僧旭譯(未完元一大建元 A. D. 499—569)譯 ❺〔參考〕 上錄錄錄五、寶唱錄錄五、開元錄錄1四、貞元錄錄11四

大乳涅槃經論經 ❶(日) Da-raku-u-ba-soku-kyō. (支) To-lo-yu-p'o-sai-ching. ❷1卷 ❸宋譯 ❹〔參考〕 田三藏記錄三、法護錄錄三

大乳涅槃經論經 ❶(日) Da-raku-u-ba-soku-kyō. (支) To-lo-yu-p'o-sai-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹菩提流支譯(一作本11A.D. 185—)譯 ❺〔參考〕 武周錄錄11、開元錄錄1五、貞元錄錄11五

大乳涅槃經論經 ❶(日) Da-raku-u-ba-soku-kyō (支) To-lo-yu-p'o-sai-ching. ❷1卷 ❸缺譯。 ❹〔參考〕 開元錄錄1八、貞元錄錄11八

大乳經 ❶(日) Da-ran-kyō. (支) To-lan-ching. ❷1卷 ❸缺 ❹宋譯 ❺〔參考〕 田三藏記錄三、開元錄錄11、錄1五、貞元錄錄三錄11四

大乳本經 ❶(日) Da-ran-hon-gyō. (支) To-lan-pēn-ching. ❷1卷 ❸宋譯 ❹〔參考〕 田三藏記錄四

大とく口決 ❶(日) Da-to-ku-ketsu. ❷1卷 ❸存 ❹解脫(貞和元一應永11三 A. D. 1345—1416)記 ❺續本(正大・一四八・一六九)

大とく寺記記 ❶(日)Da-to-sai-hi-ki. ❷1帖 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大とく私記 ❶(日)Da-to-shi-ki. ❷11帖 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大とく秘記 ❶(日) Da-to-hi-ki. ❷1帖 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大とく秘決 ❶(日)Da-to-hi-ketsu. ❷1帖 ❸存 ❹頭陀(未詳11一鎌倉四A. D. 1178—1252)撰 ❺天正寫寫 ❻〔寫番記〕

大とく秘決 ❶(日)Da-to-hi-ketsu. ❷11帖 ❸存 ❹平安末期寫 ❺〔寫番記〕

大とく秘法 ❶(日)Da-to-hi-hō. ❷存 ❸大阿闍梨、光遍記 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大とく法口傳集 ❶(日) Da-to-ku-den-shū. ❷11帖 ❸存 ❹足利中期寫 ❺〔金剛三昧記〕

大系館教集 ❶(日) Tai-ka-sek-kyō-shū. ❷11十四卷 ❸存 ❹幸谷川多聞編 ❺續本(正大・一〇五五・一一一)

大元法物法則 ❶(日)Tai-gem-ku-motsu-hō-soku. ❷1卷 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大元帥儀軌 ❶(日)Tai-gen-sui-gi-ki. 大唐東京內道場儀軌 ❷1帖 ❸存 ❹寫本(寫番記)

大元帥上師陀羅尼經修行儀軌 ❶(日)Tai-gen-sui-jō-butsu-da-ra-ni-kyō-shu-gyō-gi-ki. (支)Ta-yüan-shuai—sha-ng-fo-t'o-lo-ni-ching-hsiu-hsing-i-kuei. 西京興福寺大慈恩寺大法上師陀羅尼經修行儀軌、全身舍利塔碑、無畏三藏記、大元帥法儀軌、大元帥金剛三昧法、 ❷三卷 ❸存、大正11・一八七No. 1239、錄錄1四、卍錄1・11・五 ❹菩提流支(貞觀11一開元11三 A. D. 637—735)譯 ❺開元五一11三(A. D. 717—735) ❻〔參考〕 開元錄錄1四、貞元錄錄11三 ❼大阿闍梨、光遍記 ❽藤川時代寫 ❾〔寫番記〕

大元帥金剛三昧法 ❶(日) Tai-gen-sui-zen-shin-kon-gō-sam-mai-hō. (支)Ta-yüan-shuai-ch'üan-shēn-chin-kang-san-mei-fa. 西京興福寺大慈恩寺大法上師陀羅尼經修行儀軌、大元帥上師陀羅尼經修行儀軌、全身舍利塔碑、無畏三藏記、大元帥金剛三昧法、 ❷三卷 ❸存、大正11・一八七No. 1239、錄錄1四、卍錄1・11・五 ❹菩提流支(貞觀11一開元11三 A. D. 637—735)譯 ❺開元五一11三(A. D. 717—735) ❻〔參考〕 金剛智譯大日經疏

大元帥寶金剛口訣 ❶(日)Tai-gen-sui-zō-yaku-go-ma-ku-ketsu. ❷1帖 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大元帥息災增益護摩用心 ❶(日) Tai-gen-sui-soku-sai-zō-yaku-go-ma-yō-jin. ❷1帖 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大元帥法 ❶(日) Tai-gen-sui-hō. ❷1卷 ❸存 ❹慶雲和尚寫 ❺〔寫番記〕

大元祕事 ❶(日)Tai-gen-hi-ji. 大元寫 ❷1卷 ❸存 ❹藤川時代寫 ❺〔寫番記〕

大元法 ❶(日) Tai-gen-hō. ❷11卷 ❸存、大日本學說全書第四九卷所收 ❹東寺(正11一建暦11以後 A. D. 1143—1212—)撰

大元面安立 ❶(日) Tai-gem-men-an-ryū. ❷1卷 ❸存 ❹足利時代寫 ❺〔寫番記〕

新大乙至尊護摩法 ❶(日) Tai-ko-go-ge-ja-ri-ni-taisuru-hō. ❷1卷 ❸存、未手拓現之本(大正人11・三1九No. 2534)、未詳大藏經新全集第三、 新定續藏經全集、密教宗全書宗教部 ❹新定(大正未11一建永五 A. D. 1200—1253)撰 ❺護摩九刊 ❻〔正大・1・七六・1〕

大藏定藏學校說記抄錄 ❶(日) Tai-shok-kwan-shin-zō-ha-retsu-ki-fu-ro-ku. ❷1卷 ❸存、大日本學說全書第11八卷諸學學說11 ❹立教記 ❺天保11(A. D. 1840)十11月

❻本書は大系館教集の別書諸說の大綱を記述するものである。先づ冒頭に於て藏經說の出來を論じ、次いで開國天皇の紀事、後元年から後醍醐天皇の建武十11年に至る間、後三十餘年に亘る佛教說と宗文學の發達の名山を記し、其下に1々、諸宗及び宗說說の名

註記されてゐる。本書はその敎學に依れば、天平年間の古註を別れてゐる。本書はその敎學に依れば、天平年間の古註もので、これに『宗光寺說記』が參酌されて本文の個所に編集記述されてゐる。仰又、開寶寺說書は本書を以て本文の個所に編集記述の故樣とすゝるの故であるとも說いてゐる。

(不空鈴譯)

大正新刊新修譯經明大典 ❶(日)Tai-shō-shin-koku-shin-gi-shō-myō-tai-ten. ❷1卷 ❸存 ❹內山圓正和編 ❺大正六刊 ❻〔續大〕1・四九) ❼高谷川師平開令日版會

大正新修大藏經 ❶(日)Tai-shō-shin-shū-dai-zō-kyō. 大正大藏經、大正藏經 ❷八十五卷(正藏五十卷、續藏三十卷)圖卷十11卷(昭刊九卷) ❸存 ❹高楠順次郎、渡邊海旭等編

❺各卷目次左の如し。

第一卷 阿含部上

1	長阿含經(11十11卷)	後秦、佛陀耶舍共竺佛念譯
二	七佛經經(1卷)	宋、法天譯
三	起世經(11卷)	宋、法天譯
四	七佛父母姓字經(1卷)	失譯
五	佛般泥洹經(11卷)	西晉、白法祖譯
六	般泥洹經(11卷)	失譯
七	大般泥洹經(三卷)	東晉、法顯譯
八	大乘方便方廣佛報恩經(11卷)	宋、求那跋陀羅譯
九	人本欲生經(1卷)	宋、法賢譯
10	白人本欲生經11卷異譯(1卷)	宋、求那跋陀羅譯
11	尼拘陀居士經(1卷)	宋、求那跋陀羅譯
三	大樓炭經11卷異譯(11卷)	宋、曇無譯
三	長阿含經十卷異譯(11卷)	後秦、佛陀耶舍譯
三	人本欲生經(1卷)	後秦、安世高譯
三	戶迦羅經(1卷)	宋、法賢譯
三	力士移山經(1卷)	後秦、安世高譯
一七	佛說子經(1卷)	宋、法天譯
一八	佛學功德經(1卷)	宋、法賢譯
一九	大方等頂王經(1卷)	宋、法天譯
10	佛說四未曾有法經(1卷)	宋、法天譯
二	佛說四未曾有法經(1卷)	宋、支婁迦讖譯
二	阿闍世王經(1卷)	東晉、竺法護譯
三	大德天經(1卷)	西晉、法炬共法立譯
三	起世因本經(十卷)	隋、闍那崛多等譯
三	起世因本經(十卷)	隋、達摩笈多譯
三	中阿含經(六十卷)	東晉、瞿曇僧伽提婆譯
三	七知識經(1卷)	宋、求那跋陀羅譯
三	四泥洹經(1卷)	宋、法賢譯
三	無垢施女經(1卷)	失譯
三	無垢施女經(1卷)	失譯
三0	佛說水沫所漚經(1卷)	宋、法賢譯
三1	1切流攝守因經(1卷)	後魏、安世高譯
三	四泥洹經(1卷)	後魏、安世高譯
三	四泥洹經(1卷)	西晉、法炬共法立譯
三	法滅盡經(1卷)	西晉、法炬共法立譯
三	法滅盡經(1卷)	後秦、鳩摩羅什譯
三	本相猗致經(1卷)	後魏、安世高譯
三	普本經(1卷)	失譯
三	轉法輪經(1卷)	宋、求那跋陀羅譯
三	四諦經(1卷)	西晉、竺法護譯
四0	文陀竭王經(1卷)	北涼、曇無讖譯
四1	阿闍世王經(1卷)	宋、法賢譯
四	鹿母經(1卷)	東晉、竺曇無蘭譯
四	國王不飲酒經(1卷)	宋、求那跋陀羅譯
四	國王不飲酒經(1卷)	宋、曇無譯
四	古來世時經(1卷)	失譯
四	大正句王經(11卷)	宋、法賢譯
四	阿那邠邸化人經(1卷)	後魏、安世高譯
四	處處經(1卷)	西晉、竺法護譯
四	處處經(1卷)	後魏、安世高譯
五0	佛說分別布施經(1卷)	西晉、竺法護譯
五1	施決不定經(1卷)	吳、竺律炎譯
五	四諦論頌記等論(1卷)	新宋、僧伽跋摩譯
五	受新歲經(1卷)	西晉、竺法護譯
五	解夏經(1卷)	宋、法賢譯
五	僧伽羅刹所集經(1卷)	西晉、竺法護譯
五	水牛經(1卷)	西晉、竺法護譯
五	醫喻經(1卷)	失譯
五	參拘羅尼日經(1卷)	吳、支謙譯
六	師子吼菩薩經(1卷)	宋、支婁迦讖譯
六	師子吼菩薩經(1卷)	宋、支婁迦讖譯
六	師子吼菩薩經(1卷)	西晉、竺法護譯
六	師子吼菩薩經(1卷)	宋、支婁迦讖譯
六	師子吼菩薩經(1卷)	宋、支婁迦讖譯
六	師子吼菩薩經(1卷)	西晉、竺法護

1三一 王玠文集(一卷)　宋　失　書
　　王玠文集(一卷・別本)　宋　失　書
1三二 王玠文集(一卷)　宋　失　書
1三三 大愛道尼戒經(一卷)　西晉・竺法護譯
1三四 摩訶波提比丘尼經(一卷)　劉宋・釋曇無無
1三五 摩訶波提比丘尼戒經(一卷)　劉宋・釋曇無無
1三六 令狐國王王桑耳十善經(一卷)　宋　失　書
1三七 令狐國王王十善經(一卷)　宋　失　書
1三八 國王王不殺失況十善經(一卷)　宋　竺法護譯
1三九 阿闍世經(一卷)　後秦・鳩摩羅什譯
1四〇 A 七佛三昧經(一卷・四十七品)　後秦・安世高譯
　　B 九佛經(一卷)　後秦・安世高譯
1四一 阿含正行經(一卷)　後秦・安世高譯

第三卷　本業部上

1三二 六度集經(八卷)　吳　康僧會譯
1三三 菩薩本業經(三卷)　吳　支謙譯
1三四 生經(五卷)　西晉・竺法護譯
1三五 菩薩本業經(三卷)　失　失　法護譯
1三六 大方便佛報恩經(七卷)　失　失　書
1三七 菩薩藏(十卷)　北涼・失　失　書
1三八 大乘寶雲經(八卷)　北涼・曇無讖譯
1三九 大乘寶雲經(八卷)　北涼・曇無讖譯
1四〇 菩薩本生鬘論(十六卷)　宋・求那跋陀羅譯
1四一 菩薩本生鬘論(一卷)　失　失　書
1四二 佛本生經(一卷)　東晉・曇無蘭譯
1四三 佛本生經(一卷)　失　失　書
1四四 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四五 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四六 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四七 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四八 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四九 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四〇 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四一 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四二 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯
1四三 菩薩內習經(一卷)　吳・康僧會譯

三三一 般若波羅蜜多心經（一卷） 唐、玄奘譯
三三二 般若波羅蜜多心經（一卷） 唐、法月重譯
三三三 般若波羅蜜多心經（一卷） 唐、般若共利言等譯
三三四 般若波羅蜜多心經（一卷） 唐、智慧輪譯
三三五 般若波羅蜜多心經（一卷） 唐、法成譯
三三六 聖佛母般若波羅蜜多心經（一卷并序） 宋、施護譯
三三七 聖佛母般若波羅蜜多心經（一卷） 宋、施護譯
三三八 聖佛母般若波羅蜜多心經（一卷） 宋、天息災譯
三三九 聖佛母般若波羅蜜多心經（一卷） 宋、天息災譯
三四〇 大乘百佛名般若波羅蜜多經（四卷） 宋、佚名譯
三四一 大乘理趣六波羅蜜多經（十卷） 唐、般若譯

第九卷　法華部全　華嚴部上

三四二 妙法蓮華經（七卷） 姚秦、鳩摩羅什譯
三四三 正法華經（十卷） 西晉、竺法護譯
三四四 添品妙法蓮華經（七卷） 隋、闍那崛多共笈多譯
三四五 佛國品分陀利經（一卷） 失譯
妙法蓮華經觀音普門品（一卷）
姚秦、鳩摩羅什譯或單行。 隋、闍那崛多等重譯
三四六 阿彌陀經（三卷） 西晉、竺法護譯
三四七 不退轉法輪經（四卷） 失譯
三四八 無量壽經優婆提舍願生偈（六卷） 北魏、菩提流支譯
三四九 法華經義疏（一卷） 隋、吉藏撰
三四〇 大法鼓經（二卷） 劉宋、求那跋陀羅譯
三四一 華嚴經探玄記（二十卷） 唐、賢首撰
三四二 大方廣佛華嚴經疏（六十卷） 唐、澄觀撰
三四三 大方廣佛華嚴經隨疏演義鈔（九十卷） 宋、宗密撰
三四四 大方廣佛華嚴經（八十卷） 唐、實叉難陀譯
三四五 梵網經（二卷） 後秦、鳩摩羅什譯
三四六 大方廣佛華嚴經（六十卷） 東晉、佛陀跋陀羅譯
三四七 大方廣佛華嚴經（四十卷） 唐、般若譯
三四八 大方廣佛華嚴經（三卷） 唐、不空譯
三四九 大方廣佛華嚴經（一卷） 唐、實叉難陀譯
三五〇 大方廣佛華嚴經（一卷） 唐、不空譯
三五一 大方廣佛華嚴經（一卷） 宋、法天譯
三五二 大方廣佛華嚴經（一卷） 唐、地婆訶譯
三五三 大方廣佛華嚴經入法界品（一卷） 唐、地婆訶譯
三五四 文殊師利發願經（一卷） 東晉、佛陀跋陀羅譯
三五五 普賢菩薩行願讚（一卷） 唐、不空譯
三五六 大方廣普賢所說經（一卷） 唐、實叉難陀譯
三五七 大方廣普賢陀羅尼經（一卷） 宋、法天譯
三五八 大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普光明智證分（一卷） 唐、地婆訶譯
三五九 大方廣佛華嚴經不思議解脫境界普光明智證分（一卷） 唐、實叉難陀譯
三六〇 度脫衆生經（一卷） 失譯
三六一 佛說華嚴經入如來智德不思議境界經（二卷） 唐、佛陀波利譯
三六二 大方廣佛華嚴經入如來智德不思議境界（一卷） 唐、實叉難陀譯
三六三 大乘百法明門論（一卷） 唐、玄奘譯
三六四 佛說華嚴經花嚴藏莊嚴世界品（一卷） 唐、菩提流支譯
三六五 菩薩瓔珞本業經（一卷） 姚秦、鳩摩羅什譯
三六六 大乘莊嚴寶王經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六七 大方廣佛華嚴經十地經（一卷） 元魏、吉迦夜譯

第十一卷　寶積部上

三六八 寶積經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六九 文殊師利問菩提經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七〇 文殊師利問經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三九九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三〇九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三一九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三二九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三三九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三四九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三五九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三六九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三七九 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八〇 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八一 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八二 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八三 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八四 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八五 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八六 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八七 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八八 文殊師利淨土經（一卷） 唐、菩提流支譯
三八

附　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經　宋、施護　佛書
三六五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三六六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三六七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三六八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三六九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三七九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三八九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
三九九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四〇九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四一九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四二九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四三九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四四九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四五九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四六九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四七九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四八九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
四九九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五〇九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五一九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五二九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五三九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五四九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五五九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五六九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五七九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五八九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
五九九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六〇九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六一九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六二九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六三九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六四九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六五九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六六九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六七九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六八九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
六九九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇五　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇六　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇七　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇八　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七〇九　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七一〇　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七一一　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七一二　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七一三　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七一四　西夏文佛說聖母大白傘蓋陀羅尼經（一卷）　宋、施護　佛書
七一五　西夏文佛說

N2811 老子聖母經(一卷) 失 書
N2812 無無明實女經(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2813 龍女成佛經(一卷) 北涼、曇無讖 譯
N2814 轉女身菩薩經(一卷) 劉宋、畺良耶舎 譯
N2815 龍樹菩薩勸誡王頌(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2816 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 姚秦、鳩摩羅什 譯
N2817 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 姚秦、鳩摩羅什 譯
N2818 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2819 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2820 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 北涼、曇無讖 譯
N2821 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2822 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2823 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2824 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2825 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2826 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2827 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2828 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2829 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯
N2830 樂瓔珞莊嚴方便品(一卷) 西晉、竺法護 譯

宋天分因果經(一卷)　宋、法天譯
宋天十二緣生祥瑞經(一卷)　宋、施護譯
宋天0 佛所讚阿彌陀經(三卷)　失譯

第十七卷　聖教部四

宋天1 正法念處經(七十卷)　元魏、瞿曇般若流支譯
宋天2 妙法念處經(八卷)　宋、法天譯
宋天3 分別善惡報應經(一卷)　大乘善戒、劉宋、求那跋陀羅譯
宋天4 佛說孛經抄(一卷)　後漢、安世高譯
宋天5 大乘聖曰法門經(一卷)　宋、法天譯
宋天6 大乘聖曰經(一卷)　馬鳴菩薩造、宋、日稱等譯
宋天7 十不善業道經(一卷)　馬鳴菩薩造、宋、日稱等譯
宋天8 諸法無原經(十卷)　龍樹菩薩造、宋、日稱等譯
宋天9 分別業報略經所起經(一卷)　後魏、安世高譯
宋天0 業成就論(一卷)　後魏、安世高譯
宋天1 十八泥犁經(一卷)　後魏、安世高譯
宋天2 罪業應報教化地獄經(一卷)　後魏、安世高譯
宋天3 醫喻經(一卷)　後魏、安世高譯
宋天4 四諦目前證經(一卷)　後魏、安世高譯
宋天5 四諦(一卷)　後魏、安世高譯
宋天6 四諦(一卷)　後魏、安世高譯
宋天7 法受塹道經(一卷)　後魏、安世高譯
宋天8 四諦(一卷)　宋、支婁迦讖譯
宋天9 四諦(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天0 所欲致患經(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天1 分別聖諦經(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天2 聖法印經(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天3 四諦(一卷)　失譯
宋天4 五苦章句經(一卷)　東晉、竺曇無蘭譯
宋天5 自愛經(一卷)　東晉、竺曇無蘭譯
宋天6 苦陰經(一卷)　東晉、竺曇無蘭譯
宋天7 無常經(一卷)　乞伏秦、鳩摩羅什譯
宋天8 無常經(一卷)　東晉、法顯譯
宋天9 無常三啓經(一卷)　失譯
宋天0 無常三啓經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天1 四品法門經(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天2 四品法門經(一卷)　失譯
宋天3 四品法門經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天4 四品法門經(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天5 四品法門經(一卷)　宋、法海譯
宋天6 四品法門經(一卷)　宋、法天譯
宋天7 四品法門經(一卷)　西晉、竺法護譯
宋天8 四品法門經(一卷)　後魏、般若流支譯
宋天9 佛說內藏百寶經(一卷)　失譯
宋天0 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天1 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天2 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天3 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天4 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天5 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天6 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天7 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天8 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅譯
宋天9 佛說內藏百寶經(一卷)　劉宋、求那跋陀羅

九九 一切如来大誥菩提王秘密全身舎利大教王経(二巻)　宋、施護訳
九八 一切如来大誥菩提王秘密全身舎利大悲多羅尼経
(五巻)　宋、天息災訳
九七 金剛大教王経(五巻)　宋、法賢訳
九六 幻化網大教王経十万頌明王大明灌頂印儀軌経
(一巻)　宋、法賢訳
九五 大毘盧遮那成仏神変加持経大教王経(五巻)　宋、法護訳
九四 摩訶迦葉問経(三巻)　唐、菩提流志訳
摩訶迦葉問経(三巻・欠巻上)　唐、菩提流志訳
摩訶迦葉問経(三巻・欠巻中)　唐、菩提流志訳
九三 摩訶迦葉問経論(三巻)　唐、菩提流志訳
摩訶迦葉問経論(三巻・欠巻上)　唐、菩提流志訳
九二 摩訶迦葉仏法付嘱因縁経(三巻)　唐、菩提流志訳
摩訶迦葉仏法付嘱因縁経(四巻)　宋、法天訳
九一 金剛仙論(十三巻)　宋、法天訳
九〇 金剛般若経論(三巻)　唐、不空訳
八九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
八〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
七〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
六〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
五〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
四〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
三〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
二〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
一〇 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九九 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九八 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九七 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九六 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九五 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九四 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九三 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九二 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九一 金剛般若経(一巻)　唐、不空訳
九〇 金剛般若経(一

10931 聖観自在菩薩心経行願記（1巻）唐、不空訳
10932 金剛頂瑜伽理趣般若経（1巻）唐、不空訳
10933 金剛頂瑜伽方便会普賢三昧耶品
明妃大王経（1巻）唐、不空訳
10934 呪五字陀羅尼（1巻）唐、不空訳
10935 千手千眼観自在菩薩広大円満無碍大悲心陀羅尼経（1巻）唐、智通訳
10936 千手千眼大明陀羅尼経（1巻）宋、施護訳
10937 聖観自在菩薩陀羅尼経（1巻）唐、不空訳
10938 聖観自在菩薩如意心陀羅尼経（1巻）唐、智通訳
10939 阿吒薩多陀羅尼百八名経（1巻）唐、不空訳
10940 金剛頂瑜伽三昧大教王経第六中聖観自在菩薩品
第十一切如来金剛三昧大乗教王経（1巻）唐、不空訳
10941 聖観自在菩薩心印真言一印会陀羅尼法（1巻）唐、不空訳
10942 聖観自在菩薩大悲胎蔵中台八葉院内外金剛部諸尊法
（1巻）唐、不空訳
10943 観自在菩薩随心陀羅尼呪経（1巻）
東晋、祇多蜜訳
10944 大悲呪（1巻）失訳
10945 大悲心陀羅尼呪（1巻）失訳
大悲心陀羅尼呪（1巻・別本）失訳
10946 大悲大陀羅尼呪（1巻）失訳
10947 聖大悲明大陀羅尼経（1巻）宋、施護訳
10948 大悲明大陀羅尼経（1巻）宋、法天訳
10949 聖大悲明大陀羅尼経（1巻）宋、施護訳
10950 大乗莊厳宝王経（四巻）宋、天息災訳
10951 一切乗瑜伽恒沙儀軌大教王経聖観自在菩薩念誦儀軌
（1巻）宋、法賢訳
10952 観自在菩薩母陀羅尼（1巻）唐、慧初訳
10953 聖観自在菩薩力無畏（1巻）宋、施護訳
10954 聖観自在菩薩一百八名経（1巻）宋、天息災訳
10955 聖観自在菩薩儀軌（1巻）宋、法賢訳
附巻首大明天尊文殊菩薩普賢
10956 聖観自在菩薩心陀羅尼経（1巻）唐、不空訳
10957 聖観自在菩薩行法儀軌（1巻）唐、不空訳
10958 金剛頂瑜伽千手千眼観自在菩薩修行儀軌
（1巻）唐、不空訳
10959 千手千眼観自在菩薩広大圓満無碍大悲心陀羅尼経（1巻）唐、智通訳
千手千眼観自在菩薩広大圓満無碍大悲心陀羅尼経（1巻・別本）
唐、智通訳
10960 千手千眼観自在菩薩随心陀羅尼経（1巻）
唐、菩提流志訳
10961 千手千眼観自在菩薩法中法令修行儀軌（1巻）
唐、慧琳撰
10962 千手千眼観自在菩薩広大圓満無碍大悲心陀羅尼
（1巻）唐、慧琳撰
10963 千手千眼観自在菩薩広大圓満無碍大悲心陀羅尼
呪本（1巻）唐、金剛智訳
10964 A千手千眼観自在菩薩大身呪本（1巻）唐、金剛智訳
B千手千眼観自在菩薩大身呪本（1巻）
聖観自在菩薩大圓満無碍大悲心陀羅尼（1巻）
10965 菩提場所説呪（1巻）
10966 千手千眼観自在菩薩大悲心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
10967 千手千眼観自在菩薩姥陀羅尼法（1巻）唐、三藏法師詳定
10968 大悲心陀羅尼修行法念誦儀軌（1巻）唐、不空訳
10969 聖観自在菩薩大悲心大陀羅尼経（1巻）
聖観自在菩薩大悲心大陀羅尼経（1巻・別本）
唐、不空訳
10970 千手千眼観自在菩薩大悲心陀羅尼法（1巻）唐、不空訳
10971 十一面観自在菩薩心密言念誦儀軌（1巻）
唐、不空訳
10972 十一面観音神呪経（1巻）北周、耶舎崛多訳
10973 十一面観音心経（1巻）唐、玄奘訳
10974 A聖観自在菩薩大悲胎蔵王法大悲心陀羅尼
軌法品（1巻）唐、不空訳
B聖観自在菩薩心陀羅尼（1巻）
10975 阿吒薩婆陀羅尼法（1巻）唐、不空訳

10976 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼経（1巻）
宋、施護訳
1100 聖衣観自在菩薩経（1巻）唐、不空訳
1101 大方広宝髻経聖利菩薩（1巻）唐、不空訳
1102 聖観自在菩薩如意心陀羅尼経（1巻）唐、不空訳
1103 聖観自在菩薩如意心陀羅尼呪（1巻）
1104 聖観自在菩薩如意心陀羅尼儀軌（1巻）唐、不空訳
1105 聖観自在菩薩如意心陀羅尼法（1巻）唐、不空訳
1106 聖観自在菩薩如意心陀羅尼念誦法（1巻）
唐、不空訳
1107 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行法（1巻）唐、不空訳
1108 聖観自在菩薩如意心陀羅尼念誦儀軌（1巻）唐、不空訳
1109 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1110 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行法（1巻）唐、不空訳
1111 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1112 聖観自在菩薩如意心陀羅尼念誦儀軌（1巻）唐、不空訳
1113 聖観自在菩薩如意心陀羅尼念誦法（1巻）唐、不空訳
1114 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行法（1巻）唐、不空訳
1115 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1116 聖観自在菩薩如意心陀羅尼念誦儀軌（1巻）唐、不空訳
1117 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1118 聖観自在菩薩如意心陀羅尼念誦儀軌（1巻）唐、不空訳
1119 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1120 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1121 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1122 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1123 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1124 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1125 聖観自在菩薩如意心陀羅尼修行儀軌（1巻）唐、不空訳
1126 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼経（1巻）
宋、施護訳
1127 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼儀軌（1巻）唐、不空訳
1128 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1129 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1130 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1131 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1132 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1133 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1134 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1135 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1136 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1137 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1138 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1139 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1140 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1141 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1142 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1143 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1144 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1145 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1146 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳
1147 聖観自在菩薩不空王陀羅尼心陀羅尼（1巻）唐、不空訳

一一四七 妙吉祥平等瑜伽護摩儀軌（一卷） 宋、法賢譯
一一四八 文殊師利菩薩根本大教王經（三卷）
一一四九 曼殊室利菩薩最勝陀羅尼法（一卷）唐、一行譯
一一五〇 金剛頂文殊師利菩薩瑜伽法（一卷）
一一五一 佛說大金剛壽文殊菩薩法（一卷） 唐、智通等譯
一一五二 聖佛母大金剛壽文殊菩薩儀軌（三卷） 唐、不空譯
一一五三 聖佛母般若波羅蜜多菩薩大明王陀羅尼儀軌經（三卷）
唐、不空譯
聖佛母般若波羅蜜多菩薩大明王陀羅尼儀軌經（三卷・闕本文）
唐、不空譯
一一五四 聖佛母般若波羅蜜多菩薩大明王陀羅尼儀軌法
（一卷） 唐、金剛智譯
一一五五 金剛壽命陀羅尼經（一卷）
一一五六 大安樂不空三昧真實金剛壽命陀羅尼儀軌（一卷） 唐、不空譯
一一五七 奇特佛頂經（一卷）
一一五八 大安樂力尊陀羅尼王經（三卷） 唐、阿質羅譯
一一五九 佛說金剛壽命陀羅尼法普賢菩薩所問大乘經（一卷）
唐、阿質羅譯
一一六〇 佛說金剛壽命陀羅尼經（一卷） 唐、阿質羅譯
一一六一 大佛頂金剛壽命陀羅尼經（一卷）
一一六二 大佛頂金剛壽命陀羅尼經（一卷）
一一六三 大佛頂金剛壽命陀羅尼法（一卷）
一一六四 佛說金剛壽命陀羅尼儀軌（一卷）
一一六五 佛說金剛壽命大明王陀羅尼經（一卷） 宋、法天譯
一一六六 佛說金剛壽命大明陀羅尼經（一卷） 宋、法天譯
一一六七 佛說金剛壽命大明心陀羅尼經（一卷） 宋、法天譯
一一六八 佛說金剛壽命陀羅尼經（一卷） 宋、法天譯
一一六九 阿吒薩哩瑜伽護命大乘王陀羅尼儀軌（一卷）
宋、施護譯
一一六九 阿吒薩哩瑜伽護命大乘王陀羅尼儀軌（一卷）
失譯
一一六九 阿吒薩哩瑜伽護命大乘王陀羅尼儀軌（一卷）
失譯
一一六九 阿吒薩哩瑜伽護命大乘王陀羅尼儀軌（三卷）
唐、菩提流志譯
一一七〇 阿吒薩哩瑜伽護命陀羅尼經（一卷）

一一七一 金剛頂瑜伽護命陀羅尼儀軌法（一卷） 唐、不空譯
一一七二 金剛頂瑜伽護命三昧耶金剛文殊師利菩薩法（一卷）
唐、不空譯
一一七三 金剛頂瑜伽文殊師利菩薩五字心陀羅尼品（一卷）
唐、金剛智譯
一一七四 五字陀羅尼頌（一卷） 唐、不空譯
一一七五 金剛頂瑜伽文殊師利菩薩法儀軌（一卷）
唐、不空譯
一一七六 聖佛母般若波羅蜜多菩薩大明王陀羅尼儀軌（一卷）
唐、不空譯
一一七七 A 大乘金剛性海曼殊室利千臂千鉢文殊菩薩
唐、大教王譯
（十卷） 唐、不空譯
B 千鉢文殊一百八名讚（一卷）
一一七八 文殊菩薩最勝陀羅尼名句義釋（一卷）
一一七九 文殊師利菩薩根本大教王經略出念誦法（一卷）
一一七〇 大乘文殊師利菩薩大乘理趣釋（一卷） 唐、菩提流支譯
一一七一 大方廣菩薩藏經中文殊師利菩薩一字陀羅尼
（一卷） 唐、寶思惟譯
一一七二 聖文殊師利菩薩咒藏中一字咒王經（一卷）唐、寶思惟譯
一一七三 一字文殊師利菩薩陀羅尼念誦儀軌（一卷）
一一七四 大乘妙吉祥菩薩說諸人一字陀羅尼卷行身法華天
修儀軌法（一卷） 唐、菩提流志譯
一一七五 A 文殊師利法寶藏陀羅尼經（一卷） 唐、菩提流志譯
B 文殊師利法寶藏陀羅尼經（一卷） 唐、菩提流志譯
一一七六 妙吉祥菩薩陀羅尼（一卷） 宋、法賢譯
一一七七 聖妙吉祥菩薩根本大教王經第十一切名義三摩地分
（一卷） 宋、施護譯
一一七八 文殊師利菩薩根本儀軌經（一卷） 宋、金剛智譯
一一七九 文殊師利菩薩名義集（一卷） 宋、沙門智山譯
一一七〇 聖妙吉祥真實名經（一卷） 宋、釋智慧譯
一一七一 大方廣菩薩文殊師利根本儀軌經（十卷）
宋、天息災譯
一一七二 妙吉祥平等瑜伽觀門大教王經（五卷）宋、惟淨譯

一一七三 佛說文殊師利宿曜儀軌（一卷）
一一七四 佛說文殊師利宿曜經（一卷）
一一七五 文殊師利宿曜經（一卷）
一一七六 文殊師利宿曜經（一卷）
一一七七 文殊師利宿曜經（一卷）
一一七八 文殊師利宿曜經（一卷）
一一七九 文殊師利一百八名讚（一卷）
一一七〇 聖者文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七一 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七二 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七三 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七四 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七五 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七六 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七七 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七八 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七九 文殊師利菩薩一百八名讚（一卷）
一一七〇

1[illegible] 佛名[illegible]陀羅尼經(1卷) 宋、法護 法賢 施護
1[illegible] 佛說[illegible]大陀羅尼經(1卷) 宋、法賢 施護
1[illegible] 佛說[illegible]

1[illegible] 参考宝文館、[illegible]、[illegible]、[illegible]

1201 金剛頂瑜伽護摩儀(一卷) 唐、不空譯
1202 金剛頂瑜伽護摩儀(一卷) 唐、不空譯
1203 金剛頂瑜伽中略出念誦經(一卷) 唐、不空譯
1204 金剛頂瑜伽三昧耶戒會(一卷) 唐、不空譯
1205 金剛頂瑜伽大教王經(三卷) 唐、不空譯
1206 金剛頂瑜伽大教王經(三卷) 唐、不空譯
1207 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1208 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1209 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1210 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1211 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1212 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1213 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1214 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1215 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1216 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1217 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1218 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1219 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1220 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1221 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1222 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1223 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1224 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1225 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1226 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1227 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1228 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1229 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1230 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1231 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1232 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1233 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1234 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1235 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1236 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1237 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1238 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1239 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1240 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1241 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1242 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1243 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1244 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1245 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1246 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1247 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1248 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1249 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1250 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1251 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1252 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1253 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1254 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1255 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1256 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1257 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1258 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1259 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1260 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1261 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1262 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1263 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1264 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1265 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1266 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1267 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1268 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1269 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1270 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1271 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1272 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1273 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1274 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1275 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1276 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1277 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1278 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1279 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1280 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1281 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1282 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1283 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1284 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1285 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1286 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1287 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1288 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1289 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1290 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1291 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1292 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1293 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1294 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1295 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1296 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1297 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1298 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1299 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1300 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯
1301 金剛頂瑜伽大教王經(十卷) 唐、不空譯

名所行段●(名所索引)●(名所索引)●月年の行段●(参考書目)●(参考書目)●(参考書目)●代年作者●著者●編者●(名所索引)●(名所索引)●(名所索引)

1452 佛說大乘造像功德經(一卷)　唐、法藏譯・宋、法護譯
1453 大方廣佛華嚴經普賢行願品(一卷)
唐、法藏譯・宋、法護譯
1454 三部曲(一卷)　唐、窺基撰
1455 華嚴經法界觀門(一卷)　唐、宗密撰
1456 註華嚴法界觀門(一卷)　唐、宗密撰・宋、子璇註
1457 註華嚴法界觀門頌(一卷)　宋、子璇撰・宗密註
1458 原人論(一卷)　唐、宗密撰
1459 A 華嚴經一乘法界圖(一卷)　新羅、義湘撰
B 法界圖記叢髓會(四卷)
1460 解深密經疏卷十明說(一卷)　唐、圓測撰
1461 成唯識論掌中枢要(一卷)　新羅、道倫撰
1462 華嚴一乘教義分齊章(一卷)　新羅、見登之撰
1463 文殊師利問菩提經論(一卷)　宋、惟白之撰
1464 國中莊嚴集(一卷)　唐、法藏撰
1465 修心要論(一卷)　唐、法藏撰
1466 華嚴五教章(一卷)　唐、法藏撰
1467 金師子章(一卷)　唐、法藏撰
1468 義海百門(一卷)　唐、法藏撰
1469 華嚴發菩提心章(一卷)　唐、法藏撰
1470 華嚴策林(一卷)　唐、法藏撰
1471 華嚴旨歸(一卷)　唐、法藏撰
1472 華嚴遊心法界記(一卷)　唐、法藏撰
1473 華嚴經問答(一卷)　唐、法藏撰
1474 華嚴經探玄記(二十卷)　唐、法藏撰
1475 華嚴經旨歸(一卷)　唐、法藏撰
1476 華嚴經傳記(五卷)　唐、慧苑撰
1477 華嚴經關脈義記(一卷)　唐、慧苑撰
1478 華嚴經略疏(一卷)　唐、慧苑撰
1479 華嚴經問答(一卷)　唐、慧苑撰
1480 華嚴經旨歸(一卷)　唐、慧苑撰
1481 華嚴經妙旨(一卷)　唐、慧苑撰
1482 華嚴經文義要決(一卷)　唐、智儼撰
1483 華嚴一乘十玄門(一卷)　唐、智儼撰
1484 華嚴一乘教義章(四卷)　唐、智儼撰
1485 華嚴五十要問答(二卷)　唐、智儼撰
1486 華嚴經搜玄分齊通智方軌(一卷)　唐、智儼撰
1487 華嚴經內章門等雜孔目章(四卷)　唐、智儼撰
1488 華嚴經旨歸(一卷)　唐、法藏撰
1489 華嚴經纂靈記(一卷)　唐、法藏撰
1490 華嚴經問答(一卷)　唐、法藏撰
1491 華嚴經明法品內立三寶章(二卷)　唐、法藏撰
1492 華嚴經關脈義記(一卷)　唐、法藏撰
1493 華嚴經旨歸(一卷)　唐、法藏撰
1494 華嚴經遊心法界記(一卷)　唐、法藏撰
1495 華嚴經發菩提心章(一卷)　唐、法藏撰
1496 華嚴經問答(一卷)　唐、法藏撰
1497 華嚴經關脈義記(一卷・闕)

1498 大乘起信論義記(六卷)　隋、智顗述
1499 大乘起信論裂網疏(六卷)　隋、智顗述
1500 大乘起信論義疏(二十卷)　唐、慧遠撰
1501 大乘起信論別記(一卷)　唐、慧遠撰
1502 大乘起信論義記(五卷)　唐、法藏撰
1503 大乘起信論別記(一卷)　唐、法藏撰
1504 大乘起信論裕略(一卷)　唐、法藏撰
1505 大乘起信論內容略攝(一卷)　新羅、太子崇神撰

1506 佛說無量壽經(二卷)　魏、康僧鎧譯
1507 佛說無量壽經(二卷)　吳、支謙譯
1508 佛說無量壽經(二卷)　宋、法賢譯
1509 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1510 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1511 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1512 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1513 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1514 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1515 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1516 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1517 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1518 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1519 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1520 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰
1521 佛說無量壽經(二卷)　宋、王日休撰

1100[illegible] 唐代法典[illegible]（1巻）　唐、[illegible]

11二三 [illegible] 古今[illegible]記（四卷）　[illegible]

11二四 [illegible] 古今[illegible]記（一卷）　[illegible]

11二五 大周刊定衆經目錄（十五卷）　[illegible]

11二六 開元釋教錄（二十卷）　[illegible]

開元釋教目錄（二卷）

11二七 開元釋教錄略出（五卷）　[illegible]

11二八 大唐貞元新定釋教目錄（三卷）　[illegible]

11二九 貞元新定釋教目錄（三十卷）　[illegible]

11三〇 續貞元釋教目錄（一卷）　[illegible]

11三一 [illegible]教大目錄（一卷）　[illegible]

11三二 [illegible]教大目錄[illegible]（一卷）　[illegible]

11三三 [illegible]教大目錄[illegible]（一卷）　[illegible]

11三四 [illegible]錄（一卷）　[illegible]

11三五 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三六 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三七 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三八 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三九 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三〇 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三一 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三二 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三三 [illegible]目錄（一卷）　[illegible]

11三四 [illegible]目

一四六七	一乘要義問答抄(一卷)	日本・宗法論類
一四六八	大乘正觀音義記(一卷)	日本・教学・法華類
一四六九	三論玄義文義要(十卷)	日本・教学・法華類
一四七〇	三論玄義義疏義抄(七卷)	日本・教学・法華類
一四七一	三論玄義義疏抄(三卷)	日本・教学・法華類
一四七二	三論玄義義疏聞書(三卷)	日本・教学・法華類
一四七三	大乘玄論抄(十二卷)	日本・教学・法華類
一四七四	一乘義私記(一卷)	日本・教学・法華類
一四七五	八宗綱要義抄(三卷)	日本・教学・法華類
一四七六	三論名教抄(十五卷)	日本・教学・法華類
一四七七	A 三論義纂(一卷)	日本・教学・法華類
	B 三論宗義纂(一卷)	
一四七八	三論宗初心初學抄(一卷)	日本・教学・法華類

第七十一卷　諸宗部五

一四七九	法華大乘法相法論義(五卷)	日本・教学・唯識
一四八〇	法華經疏問記(一卷)	日本・教学・唯識
一四八一	心要抄(一卷)	日本・教学・唯識
一四八二	觀心要參抄(三卷)	日本・教学・唯識
一四八三	觀心要抄(三卷)	日本・教学・唯識
一四八四	口參抄(一卷)	日本・教学・唯識
一四八五	會緣法相鈔(三卷)	日本・教学・唯識
一四八六	大乘二切法相玄論(二卷)	日本・教学・法相
一四八七	法華經疏(六卷)	日本・教学・唯識
一四八八	五心觀會記(二卷)	日本・教学・唯識
一四八九	普賢觀弘記(十二卷)	日本・教学・唯識
一四八〇	法華宗眞要鈔(四卷)	日本・教学・唯識
一四八一	四分律疏聞書(二卷)	日本・教学・唯識
一四八二	四分律疏抄(二卷)	日本・教学・唯識
一四八三	大乘法苑義林章師子吼抄(二十二卷)	日本・法相・唯識
一四八四	七十五法名目(一卷)	
一四八五	有宗七十五法記(二卷)	日本・宗論・唯識

第七十二卷　諸宗部六

一四八六	一乘要義抄日抄(一卷)	日本・宗法論類
一四八七	大乘正觀音義記(一卷)	日本・教学・法華
一四八八	三論玄義文義要(十卷)	日本・教学・法華
一四八九	三論玄義義疏抄(七卷)	日本・教学・法華類
一四八〇	三論玄義義疏抄(三卷)	日本・教学・法華類
一四八一	三論玄義義疏聞書(三卷)	日本・教学・法華類
一四八二	大乘玄論抄(十二卷)	日本・教学・法華類
一四八三	一乘義私記(一卷)	日本・教学・法華類
一四八四	八宗綱要義抄(三卷)	日本・教学・法華類
一四八五	三論名教抄(十五卷)	日本・教学・法華類
一四八六	A 三論義纂(一卷)	日本・教学・唯識
	B 三論宗義纂(一卷)	
一四八七	三論宗初心初學抄(一卷)	日本・實義・唯識

第七十三卷　諸宗部七

一四八八	法華大乘法相法論義(五卷)	日本・教学・唯識
一四八九	法華經疏問記(一卷)	日本・教学・唯識
一四八〇	心要抄(一卷)	日本・教学・唯識
一四八一	觀心要參抄(三卷)	日本・教学・唯識
一四八二	觀心要抄(三卷)	日本・教学・唯識
一四八三	口參抄(一卷)	日本・教学・唯識
一四八四	會緣法相鈔(三卷)	日本・教学・唯識
一四八五	大乘二切法相玄論(二卷)	日本・教学・法相
一四八六	法華經疏(六卷)	日本・教学・唯識
一四八七	五心觀會記(二卷)	日本・教学・唯識
一四八八	普賢觀弘記(十二卷)	日本・教学・唯識
一四八九	法華宗眞要鈔(四卷)	日本・教学・唯識
一四八〇	法華宗初心初學抄(一卷)	日本・教学・唯識
一四八一	四分律疏聞書(二卷)	日本・教学・唯識
一四八二	四分律疏抄(二卷)	日本・教学・唯識
一四八三	大乘法苑義林章師子吼抄(二十二卷)	日本・教学・法相
一四八四	七十五法名目(一卷)	
一四八五	有宗七十五法記(二卷)	日本・宗論・唯識

第七十四卷　諸宗部八

一四八六	法華玄義釋籤記(三卷)	日本・教学・天台
一四八七	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八八	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八九	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八〇	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八一	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八二	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八三	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八四	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八五	止觀輔行傳弘決(一卷)	日本・教学・天台
一四八六	止觀輔行傳弘決(一

[illegible] 雷電口水(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 金沢文庫古文書(三巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 仙覚人間抄(三巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 歌学手口水(二十一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 論語古訓抄(二十二巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 雷電口伝鎮撫十種写本(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 大唐西域記抄(十巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 白氏文集抄(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 大唐西域記(十巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 論語古集解和点(二巻) 日本大 [illegible]

第八十巻　書籍部治十一

[illegible] 新撰字鏡(三巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 第一国語辞典(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 新撰字鏡(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 字類抄(二巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 大東急記念文庫善本叢書(二巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 国語学大系(二巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 国語学大系(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 字鏡集(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 字類抄(十巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 字鏡集(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 一山一国語辞典(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 新撰字鏡(四巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 多賀国語辞典(三巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 郷学問答抄(四巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 国学院大学日本文化研究所紀要(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 出雲国造神賀詞(六巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 東文選抄(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 朝鮮学報(八巻) 日本大 [illegible]

第八十一巻　書籍部治十二

[illegible] 書道全集(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 書道全集(一巻) 日本大 [illegible]
[illegible] 書道全集(一巻) 日本大 [illegible]

H5E0 [illegible]（1巻）
H5E1 [illegible]（1巻）
H5E2 [illegible]（1巻）
H5E3 [illegible]（1巻）
H5E4 [illegible]（1巻）
H5E5 [illegible]（1巻）
H5E6 [illegible]（1巻）
H5E7 [illegible]（1巻）
H5E8 [illegible]（1巻）
H5E9 [illegible]（1巻）
H5EA [illegible]（1巻）
H5EB [illegible]（1巻）
H5EC [illegible]（1巻）
H5ED [illegible]（1巻）
H5EE [illegible]（1巻）
H5EF [illegible]（1巻）
H5F0 [illegible]（1巻）
H5F1 [illegible]（1巻）
H5F2 [illegible]（1巻）
H5F3 [illegible]（1巻）
H5F4 [illegible]（1巻）
H5F5 [illegible]（1巻）
H5F6 [illegible]（1巻）
H5F7 [illegible]（1巻）
H5F8 [illegible]（1巻）
H5F9 [illegible]（1巻）
H5FA [illegible]（1巻）
H5FB [illegible]（1巻）
H5FC [illegible]（1巻）
H5FD [illegible]（1巻）
H5FE [illegible]（1巻）
H5FF [illegible]（1巻）
H600 [illegible]（1巻）
H601 [illegible]（1巻）
H602 [illegible]（1巻）
H603 [illegible]（1巻）
H604 [illegible]（1巻）
H605 [illegible]（1巻）
H606 [illegible]（1巻）
H607 [illegible]（1巻）
H608 [illegible]（1巻）
H609 [illegible]（1巻）
H60A [illegible]（1巻）
H60B [illegible]（1巻）
H60C [illegible]（1巻）
H60D [illegible]（1巻）
H60E [illegible]（1巻）
H60F [illegible]（1巻）
H610 [illegible]（1巻）
H611 [illegible]（1巻）
H612 [illegible]（1巻）
H613 [illegible]（1巻）
H614 [illegible]（1巻）
H615 [illegible]（1巻）
H616 [illegible]（1巻）
H617 [illegible]（1巻）
H618 [illegible]（1巻）
H619 [illegible]（1巻）
H61A [illegible]（1巻）
H61B [illegible]（1巻）
H61C [illegible]（1巻）
H61D [illegible]（1巻）
H61E [illegible]（1巻）
H61F [illegible]（1巻）
H620 [illegible]（1巻）
H621 [illegible]（1巻）
H622 [illegible]（1巻）
H623 [illegible]（1巻）
H624 [illegible]（1巻）
H625 [illegible]（1巻）
H626 [illegible]（1巻）
H627 [illegible]（1巻）
H628 [illegible]（1巻）
H629 [illegible]（1巻）
H62A [illegible]（1巻）
H62B [illegible]（1巻）
H62C [illegible]（1巻）
H62D [illegible]（1巻）
H62E [illegible]（1巻）
H62F [illegible]（1巻）
H630 [illegible]（1巻）
H631 [illegible]（1巻）
H632 [illegible]（1巻）
H633 [illegible]（1巻）
H634 [illegible]（1巻）
H635 [illegible]（1巻）
H636 [illegible]（1巻）
H637 [illegible]（1巻）
H638 [illegible]（1巻）
H639 [illegible]（1巻）
H63A [illegible]（1巻）
H63B [illegible]（1巻）
H63C [illegible]（1巻）
H63D [illegible]（1巻）
H63E [illegible]（1巻）
H63F [illegible]（1巻）
H640 [illegible]（1巻）
H641 [illegible]（1巻）
H642 [illegible]（1巻）
H643 [illegible]（1巻）
H644 [illegible]（1巻）
H645 [illegible]（1巻）
H646 [illegible]（1巻）
H647 [illegible]（1巻）
H648 [illegible]（1巻）
H649 [illegible]（1巻）
H64A [illegible]（1巻）
H64B [illegible]（1巻）
H64C [illegible]（1巻）
H64D [illegible]（1巻）
H64E [illegible]（1巻）
H64F [illegible]（1巻）
H650 [illegible]（1巻）
H651 [illegible]（1巻）
H652 [illegible]（1巻）
H653 [illegible]（1巻）
H654 [illegible]（1巻）
H655 [illegible]（1巻）
H656 [illegible]（1巻）
H657 [illegible]（1巻）
H658 [illegible]（1巻）
H659 [illegible]（1巻）
H65A [illegible]（1巻）
H65B [illegible]（1巻）
H65C [illegible]（1巻）
H65D [illegible]（1巻）
H65E [illegible]（1巻）
H65F [illegible]（1巻）
H660 [illegible]（1巻）
H661 [illegible]（1巻）
H662 [illegible]（1巻）
H663 [illegible]（1巻）
H664 [illegible]（1巻）
H665 [illegible]（1巻）
H666 [illegible]（1巻）
H667 [illegible]（1巻）
H668 [illegible]（1巻）
H669 [illegible]（1巻）
H66A [illegible]（1巻）
H66B [illegible]（1巻）
H66C [illegible]（1巻）
H66D [illegible]（1巻）
H66E [illegible]（1巻）
H66F [illegible]（1巻）
H670 [illegible]（1巻）
H671 [illegible]（1巻）
H672 [illegible]（1巻）
H673 [illegible]（1巻）
H674 [illegible]（1巻）
H675 [illegible]（1巻）
H676 [illegible]（1巻）
H677 [illegible]（1巻）
H678 [illegible]（1巻）
H679 [illegible]（1巻）
H67A [illegible]（1巻）
H67B [illegible]（1巻）
H67C [illegible]（1巻）
H67D [illegible]（1巻）
H67E [illegible]（1巻）
H67F [illegible]（1巻）
H680 [illegible]（1巻）
H681 [illegible]（1巻）
H682 [illegible]（1巻）
H683 [illegible]（1巻）
H684 [illegible]（1巻）
H685 [illegible]（1巻）
H686 [illegible]（1巻）
H687 [illegible]（1巻）
H688 [illegible]（1巻）
H689 [illegible]（1巻）
H68A [illegible]（1巻）
H68B [illegible]（1巻）
H68C [illegible]（1巻）
H68D [illegible]（1巻）
H68E [illegible]（1巻）
H68F [illegible]（1巻）
H690 [illegible]（1巻）
H691 [illegible]（1巻）
H692 [illegible]（1巻）
H693 [illegible]（1巻）
H694 [illegible]（1巻）
H695 [illegible]（1巻）
H696 [illegible]（1巻）
H697 [illegible]（1巻）
H698 [illegible]（1巻）
H699 [illegible]（1巻）
H69A [illegible]（1巻）
H69B [illegible]（1巻）
H69C [illegible]（1巻）
H69D [illegible]（1巻）
H69E [illegible]（1巻）
H69F [illegible]（1巻）
H6A0 [illegible]（1巻）
H6A1 [illegible]（1巻）
H6A2 [illegible]（1巻）
H6A3 [illegible]（1巻）
H6A4 [illegible]（1巻）
H6A5 [illegible]（1巻）
H6A6 [illegible]（1巻）
H6A7 [illegible]（1巻）
H6A8 [illegible]（1巻）
H6A9 [illegible]（1巻）
H6AA [illegible]（1巻）
H6AB [illegible]（1巻）
H6AC [illegible]（1巻）
H6AD [illegible]（1巻）
H6AE [illegible]（1巻）
H6AF [illegible]（1巻）
H6B0 [illegible]（1巻）
H6B1 [illegible]（1巻）
H6B2 [illegible]（1巻）
H6B3 [illegible]（1巻）
H6B4 [illegible]（1巻）
H6B5 [illegible]（1巻）
H6B6 [illegible]（1巻）
H6B7 [illegible]（1巻）
H6B8 [illegible]（1巻）
H6B9 [illegible]（1巻）
H6BA [illegible]（1巻）
H6BB [illegible]（1巻）
H6BC [illegible]（1巻）
H6BD [illegible]（1巻）
H6BE [illegible]（1巻）
H6BF [illegible]（1巻）
H6C0 [illegible]（1巻）
H6C1 [illegible]（1巻）
H6C2 [illegible]（1巻）
H6C3 [illegible]（1巻）
H6C4 [illegible]（1巻）
H6C5 [illegible]（1巻）
H6C6 [illegible]（1巻）
H6C7 [illegible]（1巻）
H6C8 [illegible]（1巻）
H6C9 [illegible]（1巻）
H6CA [illegible]（1巻）
H6CB [illegible]（1巻）
H6CC [illegible]（1巻）
H6CD [illegible]（1巻）
H6CE [illegible]（1巻）
H6CF [illegible]（1巻）
H6D0 [illegible]（1巻）
H6D1 [illegible]（1巻）
H6D2 [illegible]（1巻）
H6D3 [illegible]（1巻）
H6D4 [illegible]（1巻）
H6D5 [illegible]（1巻）
H6D6 [illegible]（1巻）
H6D7 [illegible]（1巻）
H6D8 [illegible]（1巻）
H6D9 [illegible]（1巻）
H6DA [illegible]（1巻）
H6DB [illegible]（1巻）
H6DC [illegible]（1巻）
H6DD [illegible]（1巻）
H6DE [illegible]（1巻）
H6DF [illegible]（1巻）
H6E0 [illegible]（1巻）
H6E1 [illegible]（1巻）
H6E2 [illegible]（1巻）
H6E3 [illegible]（1巻）
H6E4 [illegible]（1巻）
H6E5 [illegible]（1巻）
H6E6 [illegible]（1巻）
H6E7 [illegible]（1巻）
H6E8 [illegible]（1巻）
H6E9 [illegible]（1巻）
H6EA [illegible]（1巻）
H6EB [illegible]（1巻）
H6EC [illegible]（1巻）
H6ED [illegible]（1巻）
H6EE [illegible]（1巻）
H6EF [illegible]（1巻）
H6F0 [illegible]（1巻）
H6F1 [illegible]（1巻）
H6F2 [illegible]（1巻）
H6F3 [illegible]（1巻）
H6F4 [illegible]（1巻）
H6F5 [illegible]（1巻）
H6F6 [illegible]（1巻）
H6F7 [illegible]（1巻）
H6F8 [illegible]（1巻）
H6F9 [illegible]（1巻）
H6FA [illegible]（1巻）
H6FB [illegible]（1巻）
H6FC [illegible]（1巻）
H6FD [illegible]（1巻）
H6FE [illegible]（1巻）
H6FF [illegible]（1巻）
H700 [illegible]（1巻）
H701 [illegible]（1巻）
H702 [illegible]（1巻）
H703 [illegible]（1巻）
H704 [illegible]（1巻）
H705 [illegible]（1巻）
H706 [illegible]（1巻）
H707 [illegible]（1巻）
H708 [illegible]（1巻）
H709 [illegible]（1巻）
H70A [illegible]（1巻）
H70B [illegible]（1巻）
H70C [illegible]（1巻）
H70D [illegible]（1巻）
H70E [illegible]（1巻）
H70F [illegible]（1巻）
H710 [illegible]（1巻）
H711 [illegible]（1巻）
H712 [illegible]（1巻）
H713 [illegible]（1巻）
H714 [illegible]（1巻）
H715 [illegible]（1巻）
H716 [illegible]（1巻）
H717 [illegible]（1巻）
H718 [illegible]（1巻）
H719 [illegible]（1巻）
H71A [illegible]（1巻）
H71B [illegible]（1巻）
H71C [illegible]（1巻）
H71D [illegible]（1巻）
H71E [illegible]（1巻）
H71F [illegible]（1巻）
H720 [illegible]（1巻）
H721 [illegible]（1巻）
H722 [illegible]（1巻）
H723 [illegible]（1巻）
H724 [illegible]（1巻）
H725 [illegible]（1巻）
H726 [illegible]（1巻）
H727 [illegible]（1巻）
H728 [illegible]（1巻）
H729 [illegible]（1巻）
H72A [illegible]（1巻）
H72B [illegible]（1巻）
H72C [illegible]（1巻）
H72D [illegible]（1巻）
H72E [illegible]（1巻）
H72F [illegible]（1巻）
H730 [illegible]（1巻）
H731 [illegible]（1巻）
H732 [illegible]（1巻）
H733 [illegible]（1巻）
H734 [illegible]（1巻）
H735 [illegible]（1巻）
H736 [illegible]（1巻）
H737 [illegible]（1巻）
H738 [illegible]（1巻）
H739 [illegible]（1巻）
H73A [illegible]（1巻）
H73B [illegible]（1巻）
H73C [illegible]（1巻）
H73D [illegible]（1巻）
H73E [illegible]（1巻）
H73F [illegible]（1巻）
H740 [illegible]（1巻）
H741 [illegible]（1巻）
H742 [illegible]（1巻）
H743 [illegible]（1巻）
H744 [illegible]（1巻）
H745 [illegible]（1巻）
H746 [illegible]（1巻）
H747 [illegible]（1巻）
H748 [illegible]（1巻）
H749 [illegible]（1巻）
H74A [illegible]（1巻）
H74B [illegible]（1巻）
H74C [illegible]（1巻）
H74D [illegible]（1巻）
H74E [illegible]（1巻）
H74F [illegible]（1巻）
H750 [illegible]（1巻）
H751 [illegible]（1巻）
H752 [illegible]（1巻）
H753 [illegible]（1巻）
H754 [illegible]（1巻）
H755 [illegible]（1巻）
H756 [illegible]（1巻）
H757 [illegible]（1巻）
H758 [illegible]（1巻）
H759 [illegible]（1巻）
H75A [illegible]（1巻）
H75B [illegible]（1巻）
H75C [illegible]（1巻）
H75D [illegible]（1巻）
H75E [illegible]（1巻）
H75F [illegible]（1巻）
H760 [illegible]（1巻）
H761 [illegible]（1巻）
H762 [illegible]（1巻）
H763 [illegible]（1巻）
H764 [illegible]（1巻）
H765 [illegible]（1巻）
H766 [illegible]（1巻）
H767 [illegible]（1巻）
H768 [illegible]（1巻）
H769 [illegible]（1巻）
H76A [illegible]（1巻）
H76B [illegible]（1巻）
H76C [illegible]（1巻）
H76D [illegible]（1巻）
H76E [illegible]（1巻）
H76F [illegible]（1巻）
H770 [illegible]（1巻）
H771 [illegible]（1巻）
H772 [illegible]（1巻）
H773 [illegible]（1巻）
H774 [illegible]（1巻）
H775 [illegible]（1巻）
H776 [illegible]（1巻）
H777 [illegible]（1巻）
H778 [illegible]（1巻）
H779 [illegible]（1巻）
H77A [illegible]（1巻）
H77B [illegible]（1巻）
H77C [illegible]（1巻）
H77D [illegible]（1巻）
H77E [illegible]（1巻）
H77F [illegible]（1巻）
H780 [illegible]（1巻）
H781 [illegible]（1巻）
H782 [illegible]（1巻）
H783 [illegible]（1巻）
H784 [illegible]（1巻）
H785 [illegible]（1巻）
H786 [illegible]（1巻）
H787 [illegible]（1巻）
H788 [illegible]（1巻）
H789 [illegible]（1巻）
H78A [illegible]（1巻）
H78B [illegible]（1巻）
H78C [illegible]（1巻）
H78D [illegible]（1巻）
H78E [illegible]（1巻）
H78F [illegible]（1巻）
H790 [illegible]（1巻）
H791 [illegible]（1巻）
H792 [illegible]（1巻）
H793 [illegible]（1巻）
H794 [illegible]（1巻）
H795 [illegible]（1巻）
H796 [illegible]（1巻）
H797 [illegible]（1巻）
H798 [illegible]（1巻）
H799 [illegible]（1巻）
H79A [illegible]（1巻）
H79B [illegible]（1巻）
H79C [illegible]（1巻）
H79D [illegible]（1巻）
H79E [illegible]（1巻）
H79F [illegible]（1巻）
H7A0 [illegible]（1巻）
H7A1 [illegible]（1巻）
H7A2 [illegible]（1巻）
H7A3 [illegible]（1巻）
H7A4 [illegible]（1巻）
H7A5 [illegible]（1巻）
H7A6 [illegible]（1巻）
H7A7 [illegible]（1巻）
H7A8 [illegible]（1巻）
H7A9 [illegible]（1巻）
H7AA [illegible]（1巻）
H7AB [illegible]（1巻）
H7AC [illegible]（1巻）
H7AD [illegible]（1巻）
H7AE [illegible]（1巻）
H7AF [illegible]（1巻）
H7B0 [illegible]（1巻）
H7B1 [illegible]（1巻）
H7B2 [illegible]（1巻）
H7B3 [illegible]（1巻）
H7B4 [illegible]（1巻）
H7B5 [illegible]（1巻）
H7B6 [illegible]（1巻）
H7B7 [illegible]（1巻）
H7B8 [illegible]（1巻）
H7B9 [illegible]（1巻）
H7BA [illegible]（1巻）
H7BB [illegible]（1巻）
H7BC [illegible]（1巻）
H7BD [illegible]（1巻）
H7BE [illegible]（1巻）
H7BF [illegible]（1巻）
H7C0 [illegible]（1巻）
H7C1 [illegible]（1巻）
H7C2 [illegible]（1巻）
H7C3 [illegible]（1巻）
H7C4 [illegible]（1巻）
H7C5 [illegible]（1巻）
H7C6 [illegible]（1巻）
H7C7 [illegible]（1巻）
H7C8 [illegible]（1巻）
H7C9 [illegible]（1巻）
H7CA [illegible]（1巻）
H7CB [illegible]（1巻）
H7CC [illegible]（1巻）
H7CD [illegible]（1巻）
H7CE [illegible]（1巻）
H7CF [illegible]（1巻）
H7D0 [illegible]（1巻）
H7D1 [illegible]（1巻）
H7D2 [illegible]（1巻）
H7D3 [illegible]（1巻）
H7D4 [illegible]（1巻）
H7D5 [illegible]（1巻）
H7D6 [illegible]（1巻）
H7D7 [illegible]（1巻）
H7D8 [illegible]（1巻）
H7D9 [illegible]（1巻）
H7DA [illegible]（1巻）
H7DB [illegible]（1巻）
H7DC [illegible]（1巻）
H7DD [illegible]（1巻）
H7DE [illegible]（1巻）
H7DF [illegible]（1巻）
H7E0 [illegible]（1巻）
H7E1 [illegible]（1巻）
H7E2 [illegible]（1巻）
H7E3 [illegible]（1巻）
H7E4 [illegible]（1巻）
H7E5 [illegible]（1巻）
H7E6 [illegible]（1巻）
H7E7 [illegible]（1巻）
H7E8 [illegible]（1巻）
H7E9 [illegible]（1巻）
H7EA [illegible]（1巻）
H7EB [illegible]（1巻）
H7EC [illegible]（1巻）
H7ED [illegible]（1巻）
H7EE [illegible]（1巻）
H7EF [illegible]（1巻）
H7F0 [illegible]（1巻）
H7F1 [illegible]（1巻）
H7F2 [illegible]（1巻）
H7F3 [illegible]（1巻）
H7F4 [illegible]（1巻）
H7F5 [illegible]（1巻）
H7F6 [illegible]（1巻）
H7F7 [illegible]（1巻）
H7F8 [illegible]（1巻）
H7F9 [illegible]（1巻）
H7FA [illegible]（1巻）
H7FB [illegible]（1巻）
H7FC [illegible]（1巻）
H7FD [illegible]（1巻）
H7FE [illegible]（1巻）
H7FF [illegible]（1巻）
H800 [illegible]（1巻）
H801 [illegible]（1巻）
H802 [illegible]（1巻）
H803 [illegible]（1巻）
H804 [illegible]（1巻）
H805 [illegible]（1巻）
H806 [illegible]（1巻）
H807 [illegible]（1巻）
H808 [illegible]（1巻）
H809 [illegible]（1巻）
H80A [illegible]（1巻）
H80B [illegible]（1巻）
H80C [illegible]（1巻）
H80D [illegible]（1巻）
H80E [illegible]（1巻）
H80F [illegible]（1巻）
H810 [illegible]（1巻）
H811 [illegible]（1巻）
H812 [illegible]（1巻）
H813 [illegible]（1巻）
H814 [illegible]（1巻）
H815 [illegible]（1巻）
H816 [illegible]（1巻）
H817 [illegible]（1巻）
H818 [illegible]（1巻）
H819 [illegible]（1巻）
H81A [illegible]（1巻）
H81B [illegible]（1巻）
H81C [illegible]（1巻）
H81D [illegible]（1巻）
H81E [illegible]（1巻）
H81F [illegible]（1巻）
H820 [illegible]（1巻）
H821 [illegible]（1巻）
H822 [illegible]（1巻）
H823 [illegible]（1巻）
H824 [illegible]（1巻）
H825 [illegible]（1巻）
H826 [illegible]（1巻）
H827 [illegible]（1巻）
H828 [illegible]（1巻）
H829 [illegible]（1巻）
H82A [illegible]（1巻）
H82B [illegible]（1巻）
H82C [illegible]（1巻）
H82D [illegible]（1巻）
H82E [illegible]（1巻）
H82F [illegible]（1巻）
H830 [illegible]（1巻）
H831 [illegible]（1巻）
H832 [illegible]（1巻）
H833 [illegible]（1巻）
H834 [illegible]（1巻）
H835 [illegible]（1巻）
H836 [illegible]（1巻）
H837 [illegible]（1巻）
H838 [illegible]（1巻）
H839 [illegible]（1巻）
H83A [illegible]（1巻）
H83B [illegible]（1巻）
H83C [illegible]（1巻）
H83D [illegible]（1巻）
H83E [illegible]（1巻）
H83F [illegible]（1巻）
H840 [illegible]（1巻）
H841 [illegible]（1巻）
H842 [illegible]（1巻）
H843 [illegible]（1巻）
H844 [illegible]（1巻）
H845 [illegible]（1巻）
H846 [illegible]（1巻）
H847 [illegible]（1巻）
H848 [illegible]（1巻）
H849 [illegible]（1巻）
H84A [illegible]（1巻）
H84B [illegible]（1巻）
H84C [illegible]（1巻）
H84D [illegible]（1巻）
H84E [illegible]（1巻）
H84F [illegible]（1巻）
H850 [illegible]（1巻）
H851 [illegible]（1巻）
H852 [illegible]（1巻）
H853 [illegible]（1巻）
H854 [illegible]（1巻）
H855 [illegible]（1巻）
H856 [illegible]（1巻）
H857 [illegible]（1巻）
H858 [illegible]（1巻）
H859 [illegible]（1巻）
H85A [illegible]（1巻）
H85B [illegible]（1巻）
H85C [illegible]（1巻）
H85D [illegible]（1巻）
H85E [illegible]（1巻）
H85F [illegible]（1巻）
H860 [illegible]（1巻）
H861 [illegible]（1巻）
H862 [illegible]（1巻）
H863 [illegible]（1巻）
H864 [illegible]（1巻）
H865 [illegible]（1巻）
H866 [illegible]（1巻）
H867 [illegible]（1巻）
H868 [illegible]（1巻）
H869 [illegible]（1巻）
H86A [illegible]（1巻）
H86B [illegible]（1巻）
H86C [illegible]（1巻）
H86D [illegible]（1巻）
H86E [illegible]（1巻）
H86F [illegible]（1巻）
H870 [illegible]（1巻）
H871 [illegible]（1巻）
H872 [illegible]（1巻）
H873 [illegible]（1巻）
H874 [illegible]（1巻）
H875 [illegible]（1巻）
H876 [illegible]（1巻）
H877 [illegible]（1巻）
H878 [illegible]（1巻）
H879 [illegible]（1巻）
H87A [illegible]（1巻）
H87B [illegible]（1巻）
H87C [illegible]（1巻）
H87D [illegible]（1巻）
H87E [illegible]（1巻）
H87F [illegible]（1巻）
H880 [illegible]（1巻）
H881 [illegible]（1巻）
H882 [illegible]（1巻）
H883 [illegible]（1巻）
H884 [illegible]（1巻）
H885 [illegible]（1巻）
H886 [illegible]（1巻）
H887 [illegible]（1巻）
H888 [illegible]（1巻）
H889 [illegible]（1巻）
H88A [illegible]（1巻）
H88B [illegible]（1巻）
H88C [illegible]（1巻）
H88D [illegible]（1巻）
H88E [illegible]（1巻）
H88F [illegible]（1巻）
H890 [illegible]（1巻）
H891 [illegible]（1巻）
H892 [illegible]（1巻）
H893 [illegible]（1巻）
H894 [illegible]（1巻）
H895 [illegible]（1巻）
H896 [illegible]（1巻）
H897 [illegible]（1巻）
H898 [illegible]（1巻）
H899 [illegible]（1巻）
H89A [illegible]（1巻）
H89B [illegible]（1巻）
H89C [illegible]（1巻）
H89D [illegible]（1巻）
H89E [illegible]（1巻）
H89F [illegible]（1巻）
H8A0 [illegible]（1巻）
H8A1 [illegible]（1巻）
H8A2 [illegible]（1巻）
H8A3 [illegible]（1巻）
H8A4 [illegible]（1巻）
H8A5 [illegible]（1巻）
H8A6 [illegible]（1巻）
H8A7 [illegible]（1巻）
H8A8 [illegible]（1巻）
H8A9 [illegible]（1巻）
H8AA [illegible]（1巻）
H8AB [illegible]（1巻）
H8AC [illegible]（1巻）
H8AD [illegible]（1巻）
H8AE [illegible]（1巻）
H8AF [illegible]（1巻）
H8B0 [illegible]（1巻）
H8B1 [illegible]（1巻）
H8B2 [illegible]（1巻）
H8B3 [illegible]（1巻）
H8B4 [illegible]（1巻）
H8B5 [illegible]（1巻）
H8B6 [illegible]（1巻）
H8B7 [illegible]（1巻）
H8B8 [illegible]（1巻）
H8B9 [illegible]（1巻）
H8BA [illegible]（1巻）
H8BB [illegible]（1巻）
H8BC [illegible]（1巻）
H8BD [illegible]（1巻）
H8BE [illegible]（1巻）
H8BF [illegible]（1巻）
H8C0 [illegible]（1巻）
H8C1 [illegible]（1巻）
H8C2 [illegible]（1巻）
H8C3 [illegible]（1巻）
H8C4 [illegible]（1巻）
H8C5 [illegible]（1巻）
H8C6 [illegible]（1巻）
H8C7 [illegible]（1巻）
H8C8 [illegible]（1巻）
H8C9 [illegible]（1巻）
H8CA [illegible]（1巻）
H8CB [illegible]（1巻）
H8CC [illegible]（1巻）
H8CD [illegible]（1巻）
H8CE [illegible]（1巻）
H8CF [illegible]（1巻）
H8D0 [illegible]（1巻）
H8D1 [illegible]（1巻）
H8D2 [illegible]（1巻）
H8D3 [illegible]（1巻）
H8D4 [illegible]（1巻）
H8D5 [illegible]（1巻）
H8D6 [illegible]（1巻）
H8D7 [illegible]（1巻）
H8D8 [illegible]（1巻）
H8D9 [illegible]（1巻）
H8DA [illegible]（1巻）
H8DB [illegible]（1巻）
H8DC [illegible]（1巻）
H8DD [illegible]（1巻）
H8DE [illegible]（1巻）
H8DF [illegible]（1巻）
H8E0 [illegible]（1巻）
H8E1 [illegible]（1巻）
H8E2 [illegible]（1巻）
H8E3 [illegible]（1巻）
H8E4 [illegible]（1巻）
H8E5 [illegible]（1巻）
H8E6 [illegible]（1巻）
H8E7 [illegible]（1巻）
H8E8 [illegible]（1巻）
H8E9 [illegible]（1巻）
H8EA [illegible]（1巻）
H8EB [illegible]（1巻）
H8EC [illegible]（1巻）
H8ED [illegible]（1巻）
H8EE [illegible]（1巻）
H8EF [illegible]（1巻）
H8F0 [illegible]（1巻）
H8F1 [illegible]（1巻）
H8F2 [illegible]（1巻）
H8F3 [illegible]（1巻）
H8F4 [illegible]（1巻）
H8F5 [illegible]（1巻）
H8F6 [illegible]（1巻）
H8F7 [illegible]（1巻）
H8F8 [illegible]（1巻）
H8F9 [illegible]（1巻）
H8FA [illegible]（1巻）
H8FB [illegible]（1巻）
H8FC [illegible]（1巻）
H8FD [illegible]（1巻）
H8FE [illegible]（1巻）
H8FF [illegible]（1巻）
H900 [illegible]（1巻）
H901 [illegible]（1巻）
H902 [illegible]（1巻）
H903 [illegible]（1巻）
H904 [illegible]（1巻）
H905 [illegible]（1巻）
H906 [illegible]（1巻）
H907 [illegible]（1巻）
H908 [illegible]（1巻）
H909 [illegible]（1巻）
H90A [illegible]（1巻）
H90B [illegible]（1巻）
H90C [illegible]（1巻）
H90D [illegible]（1巻）
H90E [illegible]（1巻）
H90F [illegible]（1巻）
H910 [illegible]（1巻）
H911 [illegible]（1巻）
H912 [illegible]（1巻）
H913 [illegible]（1巻）
H914 [illegible]（1巻）
H915 [illegible]（1巻）
H916 [illegible]（1巻）
H917 [illegible]（1巻）
H918 [illegible]（1巻）
H919 [illegible]（1巻）
H91A [illegible]（1巻）
H91B [illegible]（1巻）
H91C [illegible]（1巻）
H91D [illegible]（1巻）
H91E [illegible]（1巻）
H91F [illegible]（1巻）
H920 [illegible]（1巻）
H921 [illegible]（1巻）
H922 [illegible]（1巻）
H923 [illegible]（1巻）
H924 [illegible]（1巻）
H925 [illegible]（1巻）
H926 [illegible]（1巻）
H927 [illegible]（1巻）
H928 [illegible]（1巻）
H929 [illegible]（1巻）
H92A [illegible]（1巻）
H92B [illegible]（1巻）
H92C [illegible]（1巻）
H92D [illegible]（1巻）
H92E [illegible]（1巻）
H92F [illegible]（1巻）
H930 [illegible]（1巻）
H931 [illegible]（1巻）
H932 [illegible]（1巻）
H933 [illegible]（1巻）
H934 [illegible]（1巻）
H935 [illegible]（1巻）
H936 [illegible]（1巻）
H937 [illegible]（1巻）
H938 [illegible]（1巻）
H939 [illegible]（1巻）
H93A [illegible]（1巻）
H93B [illegible]（1巻）
H93C [illegible]（1巻）
H93D [illegible]（1巻）
H93E [illegible]（1巻）
H93F [illegible]（1巻）
H940 [illegible]（1巻）
H941 [illegible]（1巻）
H942 [illegible]（1巻）
H943 [illegible]（1巻）
H944 [illegible]（1巻）
H945 [illegible]（1巻）
H946 [illegible]（1巻）
H947 [illegible]（1巻）
H948 [illegible]（1巻）
H949 [illegible]（1巻）
H94A [illegible]（1巻）
H94B [illegible]（1巻）
H94C [illegible]（1巻）
H94D [illegible]（1巻）
H94E [illegible]（1巻）
H94F [illegible]（1巻）
H950 [illegible]（1巻）
H951 [illegible]（1巻）
H952 [illegible]（1巻）
H953 [illegible]（1巻）
H954 [illegible]（1巻）
H955 [illegible]（1巻）
H956 [illegible]（1巻）
H957 [illegible]（1巻）
H958 [illegible]（1巻）
H959 [illegible]（1巻）
H95A [illegible]（1巻）
H95B [illegible]（1巻）
H95C [illegible]（1巻）
H95D [illegible]（1巻）
H95E [illegible]（1巻）
H95F [illegible]（1巻）
H960 [illegible]（1巻）
H961 [illegible]（1巻）
H962 [illegible]（1巻）
H963 [illegible]（1巻）
H964 [illegible]（1巻）
H965 [illegible]（1巻）
H966 [illegible]（1巻）
H967 [illegible]（1巻）
H968 [illegible]（1巻）
H969 [illegible]（1巻）
H96A [illegible]（1巻）
H96B [illegible]（1巻）
H96C [illegible]（1巻）
H96D [illegible]（1巻）
H96E [illegible]（1巻）
H96F [illegible]（1巻）
H970 [illegible]（1巻）
H971 [illegible]（1巻）
H972 [illegible]（1巻）
H973 [illegible]（1巻）
H974 [illegible]（1巻）
H975 [illegible]（1巻）
H976 [illegible]（1巻）
H977 [illegible]（1巻）
H978 [illegible]（1巻）
H979 [illegible]（1巻）
H97A [illegible]（1巻）
H97B [illegible]（1巻）
H97C [illegible]（1巻）
H97D [illegible]（1巻）
H97E [illegible]（1巻）
H97F [illegible]（1巻）
H980 [illegible]（1巻）
H981 [illegible]（1巻）
H982 [illegible]（1巻）
H983 [illegible]（1巻）
H984 [illegible]（1巻）
H985 [illegible]（1巻）
H986 [illegible]（1巻）
H987 [illegible]（1巻）
H988 [illegible]（1巻）
H989 [illegible]（1巻）
H98A [illegible]（1巻）
H98B [illegible]（1巻）
H98C [illegible]（1巻）
H98D [illegible]（1巻）
H98E [illegible]（1巻）
H98F [illegible]（1巻）
H990 [illegible]（1巻）
H991 [illegible]（1巻）
H992 [illegible]（1巻）
H993 [illegible]（1巻）
H994 [illegible]（1巻）
H995 [illegible]（1巻）
H996 [illegible]（1巻）
H997 [illegible]（1巻）
H998 [illegible]（1巻）
H999 [illegible]（1巻）
H99A [illegible]（1巻）
H99B [illegible]（1巻）
H99C [illegible]（1巻）
H99D [illegible]（1巻）
H99E [illegible]（1巻）
H99F [illegible]（1巻）
H9A0 [illegible]（1巻）
H9A1 [illegible]（1巻）
H9A2 [illegible]（1巻）
H9A3 [illegible]（1巻）
H9A4 [illegible]（1巻）
H9A5 [illegible]（1巻）
H9A6 [illegible]（1巻）
H9A7 [illegible]（1巻）
H9A8 [illegible]（1巻）
H9A9 [illegible]（1巻）
H9AA [illegible]（1巻）
H9AB [illegible]（1巻）
H9AC [illegible]（1巻）
H9AD [illegible]（1巻）
H9AE [illegible]（1巻）
H9AF [illegible]（1巻）
H9B0 [illegible]（1巻）
H9B1 [illegible]（1巻）
H9B2 [illegible]（1巻）
H9B3 [illegible]（1巻）
H9B4 [illegible]（1巻）
H9B5 [illegible]（1巻）
H9B6 [illegible]（1巻）
H9B7 [illegible]（1巻）
H9B8 [illegible]（1巻）
H9B9 [illegible]（1巻）
H9BA [illegible]（1巻）
H9BB [illegible]（1巻）
H9BC [illegible]（1巻）
H9BD [illegible]（1巻）
H9BE [illegible]（1巻）
H9BF [illegible]（1巻）
H9C0 [illegible]（1巻）
H9C1 [illegible]（1巻）
H9C2 [illegible]（1巻）
H9C3 [illegible]（1巻）
H9C4 [illegible]（1巻）
H9C5 [illegible]（1巻）
H9C6 [illegible]（1巻）
H9C7 [illegible]（1巻）
H9C8 [illegible]（1巻）
H9C9 [illegible]（1巻）
H9CA [illegible]（1巻）
H9CB [illegible]（1巻）
H9CC [illegible]（1巻）
H9CD [illegible]（1巻）
H9CE [illegible]（1巻）
H9CF [illegible]（1巻）
H9D0 [illegible]（1巻）
H9D1 [illegible]（1巻）
H9D2 [illegible]（1巻）
H9D3 [illegible]（1巻）
H9D4 [illegible]（1巻）
H9D5 [illegible]（1巻）
H9D6 [illegible]（1巻）
H9D7 [illegible]（1巻）
H9D8 [illegible]（1巻）
H9D9 [illegible]（1巻）
H9DA [illegible]（1巻）
H9DB [illegible]（1巻）
H9DC [illegible]（1巻）
H9DD [illegible]（1巻）
H9DE [illegible]（1巻）
H9DF [illegible]（1巻）
H9E0 [illegible]（1巻）
H9E1 [illegible]（1巻）
H9E2 [illegible]（1巻）
H9E3 [illegible]（1巻）
H9E4 [illegible]（1巻）
H9E5 [illegible]（1巻）
H9E6 [illegible]（1巻）
H9E7 [illegible]（1巻）
H9E8 [illegible]（1巻）
H9E9 [illegible]（1巻）
H9EA [illegible]（1巻）
H9EB [illegible]（1巻）
H9EC [illegible]（1巻）
H9ED [illegible]（1巻）
H9EE [illegible]（1巻）
H9EF [illegible]（1巻）
H9F0 [illegible]（1巻）
H9F1 [illegible]（1巻）
H9F2 [illegible]（1巻）
H9F3 [illegible]（1巻）
H9F4 [illegible]（1巻）
H9F5 [illegible]（1巻）
H9F6 [illegible]（1巻）
H9F7 [illegible]（1巻）
H9F8 [illegible]（1巻）
H9F9 [illegible]（1巻）
H9FA [illegible]（1巻）
H9FB [illegible]（1巻）
H9FC [illegible]（1巻）
H9FD [illegible]（1巻）
H9FE [illegible]（1巻）
H9FF [illegible]（1巻）
HA00 [illegible]（1巻）
HA01 [illegible]（1巻）
HA02 [illegible]（1巻）
HA03 [illegible]（1巻）
HA04 [illegible]（1巻）
HA05 [illegible]（1巻）
HA06 [illegible]（1巻）
HA07 [illegible]（1巻）
HA08 [illegible]（1巻）
HA09 [illegible]（1巻）
HA0A [illegible]（1巻）
HA0B [illegible]（1巻）
HA0C [illegible]（1巻）
HA0D [illegible]（1巻）
HA0E [illegible]（1巻）
HA0F [illegible]（1巻）
HA10 [illegible]（1巻）
HA11 [illegible]（1巻）
HA12 [illegible]（1巻）
HA13 [illegible]（1巻）
HA14 [illegible]（1巻）
HA15 [illegible]（1巻）
HA16 [illegible]（1巻）
HA17 [illegible]（1巻）
HA18 [illegible]（1巻）
HA19 [illegible]（1巻）
HA1A [illegible]（1巻）
HA1B [illegible]（1巻）
HA1C [illegible]（1巻）
HA1D [illegible]（1巻）
HA1E [illegible]（1巻）
HA1F [illegible]（1巻）
HA20 [illegible]（1巻）
HA21 [illegible]（1

一六六　大乗法相十論（一巻）
一六七　釈摩訶衍論（一巻）
一六八　A 般若心経幽賛（一巻）
　　B 般若心経幽賛異文（一巻）
一六九　華厳経（一巻）
一六九　南天竺菩提流志等訳宝積経（一巻）
一六九　華厳経（一巻）
一六九　大乗無生方便門（一巻）
一六九　大乗四法経（一巻）
一六九　大乗法苑義林章（一巻）　唐　沙門　窺基撰
一六九　新唐訳仏説無量寿経（一巻）　唐　沙門　法賢訳
一六九　華厳経（一巻）
一六九　仏説無量寿経（一巻）
一六九　仏説観無量寿経（一巻）
一六九　仏説阿弥陀経（一巻）
一六九　大乗起信論（一巻）
一六九　大乗同性経（一巻）
一六九　大乗密厳経（一巻）
一六九　大乗荘厳宝王経（一巻）
一六九　大乗荘厳経論（一巻）
一六九　中論（一巻）
一六九　百論（一巻）
一六九　十二門論（一巻）
一六九　回諍論（一巻）
一六九　大乗四百論（一巻）
一六九　菩提資糧論（一巻）
一六九　中観論（一巻）
一六九　入中論（一巻）
一六九　方便心論（一巻）
一六九　菩提心観釈（一巻）
一六九　菩提心論（一巻）
一六九　菩提心義（一巻）
一六九　菩提心離相論（一巻）
一六九　大日経開題（一巻）

一六九　菩提心戒（一巻）
一六九　秘蔵記（一巻）
一六九　秘蔵宝鑰（一巻）
一六九　十住心論（一巻）
一六九　弁顕密二教論（一巻）
一六九　大日経疏（一巻）
一六九　大日経疏（一巻）
一六九　大日経疏

谷蟆谷寺四天王寺縁起(1巻)　大師谷寺縁起(1巻)
法華寺法不寺(11巻)　七王堂縁起(1巻)
仁王寺縁起(1巻)　五方諸寺縁起(五巻)
五方諸寺縁起ノ内(1巻)　五大力(1巻)
興福寺縁起十八寺縁起(1巻)　興福寺縁起(1巻)
興福寺縁起(1巻)
興福寺今昔記縁起絵(1巻)
清水寺縁起(1巻)　清水寺縁起(1巻)
清水寺縁起三十六(1巻)　清水寺縁起(1巻)
東大寺縁起(1巻)　孔雀明王(1巻)
六字明王(1巻)　六字縁起絵(1巻)
春日寺絵(1巻)

国書編六

八大竜王(1巻)　吉野三十三所巡礼
国書出雲神話出(1巻)　千手観音(1巻)
如意輪観音(1巻)　如意輪観音(1巻)
観音(1巻)　観音霊験絵巻(1巻)
観音霊験絵巻(1巻)　安倍仲麻呂観音霊験(1巻)
観音霊験(1巻)　五大菩提寺(1巻)
五大菩提寺(1巻)　五大菩提寺(1巻)
五大菩提寺所蔵目録(1巻)
五大菩提寺(1巻)　善光寺(1巻)
善光寺(1巻)　五重塔(1巻)
清水寺縁起(1巻)　文殊菩薩(1巻)
文殊菩薩縁起(1巻)　金毛地蔵菩薩縁起(1巻)
六地蔵　地蔵菩薩縁起(1巻)
清水寺(1巻)　五大菩提寺(1巻)
五大菩提寺(甲乙二巻)　五大菩提寺(1巻)
八大竜王(1巻)　八大明王(1巻)
不動明王(1巻)　地蔵三巻(1巻)
仏力(1巻)　不動明王(1巻)
不動明王(1巻)　不動明王(1巻)

不動明王(1巻)　不動明王(1巻)
不動明王(1巻)　四国巡礼(1巻)
不動明王縁起(1巻)
明王(1巻)　不動明王(1巻)
不動明王(1巻)　不動明王(1巻)
不動明王(1巻)
金剛夜叉明王(1巻)
小野宮殿一条摂政(1巻)
十六大菩(1巻)　十六大菩(1巻)
十六大菩(1巻)　大元明王(1巻)
大元明王(1巻)　大元明王(1巻)
大元明王縁起(1巻)　大元明王縁起(1巻)
大元明王大元明王縁起(1巻)　四国巡礼大元明王縁起(1巻)
大元明王(1巻)
白衣口伝(口巻巻一一巻九十五)

国書編七

白衣口伝(巻巻百九十六一巻百六十七)
四国巡礼縁起十二番絵巻(11巻)　巡礼十二番絵巻(1巻)
二十八部衆巻(1巻)
二十八部衆巻巻十二番絵巻(1巻)
巻天四天王巻(1巻)　四天王巻(四巻)
金剛夜叉明王巻(11巻)
金剛夜叉明王巻(11巻)
四天王寺(1巻)　巻天四天王寺(1巻)
四天王寺(1巻)　四天王寺縁起(1巻)
四天王寺縁起(1巻)
大日如来(1巻)　巻天四天王寺(1巻)
大師像(1巻)　巻女観音(1巻)
観音(1巻)　十天巻(1巻)
二十天巻(1巻)　天巻(1巻)
大日如来(1巻)　大天巻(1巻)
四国巡礼大巻(1巻)　四巻十三巻七巻(1巻)

位牌(1巻)　天巻(1巻)
加持巻(1巻)　観音巻(1巻)
巻天巻(1巻)
金剛夜叉明王大(1巻)
巻巻(1巻)　巻巻(1巻)
巻巻(1巻)　北十巻巻(1巻)
巻巻北十巻巻(1巻)　大巻(1巻)
巻天大巻九巻(1巻)　九巻巻(1巻)
九巻巻(1巻)　九巻巻(1巻)
九巻巻(1巻)　二十八部(1巻)
聖徳太子(1巻)　観音霊験記大巻(1巻)

国書編八

巻巻巻(1巻)　巻巻巻(1巻)
巻巻大巻巻巻

太宗等と所記の諸法令の用語法等を比較考究したものである。（土宜法龍了）

太元大事 ❶(日)Tai-gen-dai-ji. ❷1帖 ❸存 ❹南北朝時代写 ❺〔参考〕現定記

太元秘事結鍵等 ❶(日) Tai-gen-hi-ji-ketsu-go-tō. ❷1帖 ❸存 ❹鎌倉時代写 ❺〔参考〕現定記

太元法事 ❶(日) Tai-gen-hō-no-koto. ❷1帖 ❸存 ❹写本 ❺鎌倉時代写 ❻〔参考〕現定記

太元法要抄 ❶(日) Tai-gen-hō-sō-jō. 太元法要抄要記等とも ❷1巻 ❸存〔大日本史料第一之二十五〕 ❹延喜(一九〇一)頃 A. D. 886) ❺不空訳仏説灌頂経 ❻〔参考〕現定記

太元法要用事 ❶(日) Tai-gen-hō-yō-sho. ❷1帖 ❸存 ❹天永二(一一一一)写 ❺〔参考〕現定記

太元天王田天等目事 ❶(日) Tai-gen-hon-shutsu-hon-zon-gu-sho. ❷1帖 ❸存 ❹寛政(一七八九)—文政(一八二八) A. D. 1162—1231)記 ❺不空訳天等 ❻〔参考〕現定記

太古語録 ❶(日) Tai-ko-go-roku. (支)T'ai ku-yü-lu. ❸存〔明治年間教育史中巻之四〕 ❹明治年間天台僧〔栄雄〕 ❺大正十四 ❻(高大)

太古法法語 ❶(日)Tai-ko-hō-go. (支) T'ai-ku-fa-yü. ❷1巻 ❸存 ❹明治年間天台僧 ❺〔参考〕 臨済日録

太素和尚頌賛 ❶(日)Tai-ko-o-shō-i-kō. 正嘉四年天台僧和尚撰 ❷1巻 ❸存 ❹〔参考〕 臨済日録

太蒙連山志三編集 ❶(日)Tai-ko-ran-zan-chō-zen-ji-wa-san-rai-shū. ❷11巻 ❸存 ❹近藤 ❺寛永 ❻(正大〔十九・1〕)

太子多善識子 ❶(日)Tai-shi-o-hō-san-su. ❷1巻 ❸存 ❹常盤大定・関野貞共著 ❺明末(万大〔十・11六〕) ❻奈良時代写法隆寺献納宝物

太子伝補闕記三経義疏 ❶(日)Tai-shi-gyo-sei-san-gyō-sho-den. ❷1巻 ❸存 ❹聖徳太子 ❺奈良 ❻〔参考〕 現定記

太子経 ❶(日)Tai-shi-kyō.(支)T'ai-tzŭ-ching. ❷1巻(実11巻) ❸現散逸。 ❹〔参考〕 田三蔵記巻五11〔法華義疏巻三〕〔七巻義疏巻四〕〔勝鬘義疏巻一五〕〔四天王寺巻一八〕〔真定義巻11八〕〔奈良朝現在一切経目録 1791

太子講式 ❶(日) Tai-shi-kō-shiki. ❷1巻 ❸存 ❹寛政(一七八九)—文政(一八二八) A. D. 1712) ❺聖徳太子 ❻〔参考〕

太子経疏 ❶(日) Tai-shi-san-gyō. (支)T'ai-tzŭ-tsan-ching. ❷1巻 ❸現散逸。 ❹〔参考〕 法華義疏巻四〔七巻義疏巻四〕〔勝鬘義疏巻四〕〔内典義疏巻一〕〔〇〕〔真定義巻一五〕〔四天王寺巻一八〕〔真定義巻11八〕

太子法華義疏 ❶(日) Tai-shi-shi-gei-hon-gi-kyō. (支) T'ai-tzŭ-shih-i-pên-ch'i-ching. ❷11巻 ❸存 ❹聖徳 ❺〔参考〕 田三蔵記巻四〔法華義疏巻三〕〔11経義記巻五〕〔七巻義疏巻五〕〔勝鬘義疏巻五〕〔内典義疏巻11〕〔真定義巻四〕〔真定義巻一一〕〔四天王寺巻一八〕〔真定義巻11〕〔巻一五〕〔真定義巻11〕〔巻11五〕

太子経疏本義 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên. ❷五巻 ❸印刷 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本経釋文 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-gyō-gom-mon.(支)T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-ching-ch'üan-wên. ❷1巻 ❸印1 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本弘傳抄 ❶(日) Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-gu-den-jo. (支)T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-hung-ch'uan-hsū. ❷1巻 ❸印刷 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本経記 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-ken-ki. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-yen-chi. ❷11巻 ❸印刷 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本字釋記 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-ji-shaku-ki. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-tzŭ-shih-chi. ❷1巻 ❸現散逸。 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本釋文 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-shaku-mon. ❷11巻 ❸印刷 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本大意 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-tai-i. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-ta-i. ❷1巻 ❸印刷 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本三十八品序 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-ni-jū-hachi-bon-jo. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-êrh-shih-pa-p'in-hsū. ❷1巻 ❸〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本略音訓 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-ryaku-on-kun. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-liao-yin-hsū. ❷1巻 ❸写本 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子経疏本霊鷲峰 ❶(日)Tai-shi-ji-kō-zan-hom-bō-ru-hon-rei-ken-den. (支) T'ai-tzŭ-tzŭ-hêng-shan-pên-fang-liu-pên-ling-yen-ch'uan. ❷11巻 ❸印刷 ❹〔参考〕 浜宮巻疏日録巻上

太子十七条憲法現代語訳 ❶(日) Tai-shi-shichi-so-narabini-go-dai-on-ki-jitsu. ❷1巻 ❸存〔聖徳太子法華義疏巻上 ❹聖徳太子、十七条憲法及び聖徳太子人とりわけその大陸文化摂取の時日を記すものの。解説は上人まで、を収む。（国訳書）

太子聖大学経 ❶(日)Tai-shi-shu-dai-na-kyō.(支)T'ai-tzŭ-hsū-ta-na-ching. ❷1巻 ❸写本 ❹〔参考〕 田三蔵記巻四

太子聖大学経 ❶(日)Tai-shi-shu-dai-na-kyō. (支)T'ai-tzŭ-hsū-ta-na-ching. (梵)Jātaka(550) (梵)Jinapatra-arthasid-

dhi-s.(漢訳)(蔵)ḥphags-pa rgyal-bu don-grub kyi mdo 太子聖大学経 ❷1巻 ❸存〔大正三・四1八No. 171〕 編注五〔卍1〇・七〕 北209教〔南220教〕 定216教〔明北250子〕 宗250子〕 鹿208教〔天222教〕 神193教〕 来205教〕 南285教〕 明南210教〕 Nj. 254 ❹聖徳太子和天一編註四(A. D. 388—408)

❺太子経は実の講師名書「大聖経経」巻三巻の第四経に説かる所と大同小異である。内容は須弥大海太子の実説物語であるが、共命鳥に対して仏教的実説に富んでいるのが特色である。須大海は Sudāna の音訳で善施と訳されている。本経は方便行を中心とし其実践に於いて初期大乗経に対して「大乗方便経」と称せられ、「大乗方便経」は「大乗方便経」に対して「小乗」と称せられる。即ち太子の説話がそれを示しているのである。仏教思想が民衆の中に浸透する過程で、民衆が求める王道政治の動機を、太子の説話に見出したのである。太子は「十善」を説き、「人間の生命は尊い」と説いた。三宝の説教を含む人生観を説いた。「真理に対して、平等観を説いた。「身自らの善生活に於ける方法の大行を説き、「此等説話の太子の本生譚」が説かれているのである。この作説が多くの大乗経典に類似している。

太子は聖徳の古「聖徳国の主」「聞者王の子」と呼ばれ、「聖明の教」をもつて、「国人の崇拝」の中心となつたが、性上語に於ける、「方便」を好み、「法」を説国の「王子」となつて、「国防の第一義」とする「大白象」を殺し、「者の説教」を「大門に開く」とされ、「国法に開れ」、「紀」と一男一女を作りて、「摩訶山」に十二年間滞在の生活を送ることとなつたが、仏国にも説くしい試練に遭ひ、「金」に三度と記まで食糧を乞はなければならなくなつたことがあり、「聖徳の説明」の「説」は「法」に対して「聖徳」の説明なる実践を貫いて、「無上道の説」を「人間愛」を基として説くことは、「聖徳の説」が、「聖者の説」を貫かずは生まれぬ説話力があるが、「聖者の説」を貫かずは生まれぬ説話力がある。山中生活に於いて死生の修行者に遭ひ、太子が自分は「修行者」を求めることを宣言したことで、更にこの説話が、何故に記されなければ、「紀」が「仏教」に対して「説」を作らず、「人」と同じ「太子」の名を「人に住む」と同じ「四五百歳」に及ぶ、といふ「苦」と「衆人」(我もの人間)を「計せば」とされ、「山中にあつても仏木と成ることはなかつて、「切経」を「仏教」と「説」を「説」を「説」を

太子法華義疏 ❶(日) Tai-shi-hō-e-kyō. (支) T'ai-tzŭ-fa-hui-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹失書 ❺〔参考〕 田三寶記卷四" 法華義疏卷一" 三寶記卷五" 勝鬘義疏卷五" 内典錄卷一" 貞元錄卷一1

太子法華經 ❶(日) Tai-shi-hō-e-kyō. (支)T'ai-tzŭ-fa-shih-ching. 太子法華經 ❷1卷 ❸失書 ❹天竺沒羅護譯 ❺〔参考〕 田三寶記卷四" 七錄卷三" 勝鬘義疏卷一" 貞元錄卷一六" 貞元錄卷一1六

太子法華義疏光記 ❶(日)Tai-shi-hok-ke-sho-e-kō-ki. 法華義疏光記" 勝鬘光記 ❷六十卷 ❸存" 大日本學敎全書卷一四 ❹唐超(仁治元一宗安元A. D. 1240—1321)撰 ❺法華義疏光記の下を見よ。 ❻〔参考〕 佛祖歷代通載卷一1

太子本起經 ❶(日)Tai-shi-hon-gi-kyō. (支)T'ai-tzŭ-pên-ch'i-ching. 中本起經" 太子中本起經 ❷1卷 ❸存" 大正四•1四七No. 196" 編造1〇" 卍1四•1" 北668字" 市682字" 宗674字" 明北552乘" 洛552乘" 鹿670乘" 天668字" 招630乘" 法656乘" 至704乘" 明市551乘" Nj. 556 ❹後漢竺法護譯 ❺天竺沙門竺曇無蘭 ❻中本起經の下を見よ。

太子本起瑞應經 ❶(日) Tai-shi-hon-gi-zui-ō-kyō. (支) T'ai-tzŭ-pên-ch'i-jui-ying-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹後漢竺曇無蘭(一說竺支謙)譯 ❺〔参考〕 開元錄卷一五" 貞元錄卷一1四

太子本起瑞應經 ❶(日) Tai-shi-hon-gi-zui-ō-kyō. (支) T'ai-tzŭ-pên-ch'i-jui-ying-ching. 太子瑞應本起經" 瑞應本起經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四七1 No. 185" 編造1〇" 卍1四•三" 北78字" 市791字" 宗784字" 明北661尺" 洛661尺" 鹿782字" 天777字" 招740字" 法767字" 至1014字" 明市660字" Nj. 665 ❹吳支謙譯 ❺吳支1一撰述1 (A. D. 223—253) ❻太子瑞應本起經の下を見よ。

太子夢經 ❶(日) Tai-shi-mu-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mêng-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹後魏安平侯(一說和1一撰述三 A. D. 148—170—)撰 ❺卷1四。 ❻〔参考〕 開元錄卷一五" 貞元錄卷一1四

太子沐髮經 ❶(日) Tai-shi-moku-hak-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mu-p'o-ching. 太子沐髮經" 太子沐髮經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四一〇No. 168" 編造五" 卍1〇•五" 北213字" 市223字" 宗221字" 明北216字" 洛216字" 鹿211字" 天217字" 招195字" 法206字" 至289字" 明市212字" Nj. 219 ❹西晉竺法護譯 ❺西晉竺法護譯1一撰述元(A. D. 266—313) ❻太子沐髮經の下を見よ。

太子沐髮經 ❶(日) Tai-shi-bo-hak-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mu-p'o-ching. 太子沐髮經" 沐髮經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四〇八 No. 167" 編造五" 卍1〇•五" 北212字" 市222字" 宗218字" 明北215字" 洛215字" 鹿213字" 天221字" 招195字" 法207字" 至288字" 明市215字" Nj. 220 ❹安世高譯 ❺後漢安世高1一撰述三 (A. D. 148—170) ❻太子沐髮經の下を見よ。

太子入胎藏 ❶(日) Tai-shi-no-on-uta. ❷存" 秘密文藏之內 ❸弘仁四刊 ❹〔谷大〕"宗大•一四〇〇)

太子薬師瑠璃 ❶(日) Tai-shi-byaku-ra-kyō. (支)T'ai-tzŭ-p'i-lo-ching. 太子薬師瑠璃 ❷1卷 ❸存" 大正一五•一三〇 No. 596" 編造八" 卍11•五" 北516行" 市530行" 宗524行" 明北468字" 洛468字" 鹿520字" 天525行" 招475字" 法514字" 至467字" 明市529字" Nj. 472 ❹三秦代(A. D. 350—431)譯 ❺天王太子薬師瑠璃の下を見よ。 ❻〔参考〕 田三寶記卷三

太子薬師經 ❶(日) Tai-shi-bo-hak-kyō. (支) T'ai-tzŭ-mu-p'o-ching. 太子沐髮經" 太子沐髮經" 太子薬師經" 薬師經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四一〇No. 168" 編造五" 卍1〇•五" 北213字" 市223字" 宗221字" 明北216字" 洛216字" 鹿211字" 天217字" 招195字" 法206字" 至289字" 明市212字" Nj. 219 ❹西晉竺法護譯 ❺西晉竺法護譯1一撰述元(A. D. 266—313)

太子薬師瑠璃 ❶(日) Tai-shi-bo-hak-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mu-p'o-ching. 太子沐髮經" 薬師經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四〇八 No. 167" 編造五" 卍1〇•五" 北212字" 市222字" 宗218字" 明北215字" 洛215字" 鹿213字" 天221字" 招195字" 法207字" 至288字" 明市215字" Nj.220 ❹安世高譯 ❺後漢安世高1一撰述三 (A. D. 148—170)

❻本經は六度經卷四・三人の太子薬師經皆に該當するもので、1に太子沐髮經皆しくは薬師經といひ、如法經譯の太子薬師經本經はその異譯である。本經の名は學者らの本經譯者の主人公の名をとつたものである。

學者、歷國諸侯の中に於て、諸比丘に中道修法國王の太子薬師經として出れ、自ら沐髮を請ふまで出家に至るまでの事實を讃げ、ために父王は大臣等と諮りて太子を生出せしめ、太子會上に現れて王の頂を受王の本生を釋尊ありて、又王を教化せ

本經を他のこれに該當するに對し、如法經譯は本經の改定ならん。太子1度父王に頂受王としての前生を釋尊の

1度を敎へ、太子人山修道して成佛する後、梵天に生れ、人界に下生して成佛すること

を說くことと本經と異ることろである。六度

の經のそれは、本經を改定するものであ

の內容これに今するものである。

❼〔参考〕 三寶記卷四" 薬師瑠璃記卷一" 開元錄卷一" 貞元錄卷一" 卷一1 (林五郎)

太子薬師瑠璃 ❶(日) Tai-shi-bo-hak-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mu-p'o-ching. 太子沐髮經" 薬師經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四〇八 No. 167" 編造五" 卍1〇•五" 北212字" 市222字" 宗218字" 明北215字" 洛215字" 鹿213字" 天221字" 招195字" 法207字" 至288字" 明市215字" Nj.220 ❹安世高譯 ❺後漢安世高1一撰述三 (A. D. 148—170)

❻本經は六度經卷四・三人の太子薬師經皆に該當するもので、1に太子沐髮經皆しくは薬師經といひ、如法經譯の太子薬師經本經はその異譯である。本經の名は學者らの本經譯者の主人公の名をとつたものである。

學者、歷國諸侯の中に於て、諸比丘に中道修法國王の太子薬師經として出れ、自ら沐髮を請ふまで出家に至るまでの事實を讃げ、ために父王は大臣等と諮りて太子を生出せしめ、太子會上に現れて王の頂を受王の本生を釋尊ありて、又王を教化せ

本經を他のこれに該當するに對し、如法經譯は本經の改定ならん。太子1度父王に頂受王としての前生を釋尊の

1度を敎へ、太子人山修道して成佛する後、梵天に生れ、人界に下生して成佛すること

を說くことと本經と異ることろである。六度

の經のそれは、本經を改定するものであ

の內容これに今するものである。

❼〔参考〕 三寶記卷四" 薬師瑠璃記卷一" 開元錄卷一" 貞元錄卷一" 卷一1 (林五郎)

太子法華經 ❶(日) Tai-shi-hō-e-kyō. (支) T'ai-tzŭ-fa-hui-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹失書 ❺〔参考〕 田三寶記卷四" 法華義疏卷一" 三寶記卷五" 勝鬘義疏卷五" 内典錄卷一" 貞元錄卷一1

太子法華經 ❶(日) Tai-shi-hō-e-kyō. (支)T'ai-tzŭ-fa-shih-ching. 太子法華經 ❷1卷 ❸失書 ❹天竺沒羅護譯 ❺〔参考〕 田三寶記卷四" 七錄卷三" 勝鬘義疏卷一" 貞元錄卷一六" 貞元錄卷一1六

太子法華義疏光記 ❶(日)Tai-shi-hok-ke-sho-e-kō-ki. 法華義疏光記" 勝鬘光記 ❷六十卷 ❸存" 大日本學敎全書卷一四 ❹唐超(仁治元一宗安元A. D. 1240—1321)撰 ❺法華義疏光記の下を見よ。 ❻〔参考〕 佛祖歷代通載卷一1

太子本起經 ❶(日)Tai-shi-hon-gi-kyō. (支)T'ai-tzŭ-pên-ch'i-ching. 中本起經" 太子中本起經 ❷1卷 ❸存" 大正四•1四七No. 196" 編造1〇" 卍1四•1" 北668字" 市682字" 宗674字" 明北552乘" 洛552乘" 鹿670乘" 天668字" 招630乘" 法656乘" 至704乘" 明市551乘" Nj. 556 ❹後漢竺法護譯 ❺天竺沙門竺曇無蘭 ❻中本起經の下を見よ。

太子本起瑞應經 ❶(日) Tai-shi-hon-gi-zui-ō-kyō. (支) T'ai-tzŭ-pên-ch'i-jui-ying-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹後魏吉茂(一說李元一說安因A. D. 19—199—)譯 ❺〔参考〕 開元錄卷一五" 貞元錄卷一1四

太子本起瑞應經 ❶(日) Tai-shi-hon-gi-zui-ō-kyō. (支) T'ai-tzŭ-pên-ch'i-jui-ying-ching. 太子瑞應本起經" 瑞應本起經" 瑞應經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四七1 No. 185" 編造1〇" 卍1四•三" 北78字" 市791字" 宗784字" 明北661尺" 洛661尺" 鹿782字" 天777字" 招740字" 法767字" 至1014字" 明市660字" Nj. 665 ❹吳支謙譯 ❺吳支1一撰述1 (A. D. 223—253) ❻太子瑞應本起經の下を見よ。

太子夢經 ❶(日) Tai-shi-mu-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mêng-ching. ❷1卷 ❸佚 ❹後魏安平侯(一說和1一撰述三 A. D. 148—170—)撰 ❺卷1四。 ❻〔参考〕 開元錄卷一五" 貞元錄卷一1四

太子沐髮經 ❶(日) Tai-shi-moku-hak-kyō. (支)T'ai-tzŭ-mu-p'o-ching. 太子沐髮經" 太子沐髮經" 太子薬師經" 薬師經 ❷1卷 ❸存" 大正三•四一〇No. 168" 編造五" 卍1〇•五" 北213字" 市223字" 宗221字" 明北216字" 洛216字" 鹿211字" 天217字" 招195字" 法206字" 至289字" 明市212字" Nj. 219 ❹西晉竺法護譯 ❺西晉竺法護譯1一撰述元(A. D. 266—313) ❻太子沐髮經の下を見よ。

太子薬師琉璃光經記 ❶(日)Tai-shi-yui-ma-sho-on-ra-ki. 薬師琉璃光經記" 薬師琉璃光經記 ❷四十卷 ❸存" 大日本學敎全書卷四 ❹唐超(仁治元一宗安元A. D. 1240—1321)撰 ❺薬師琉璃光經記の下を見よ。 ❻〔参考〕 佛祖歷代通載卷一1

太子和休經 ❶(日)Tai-shi-wa-ku-kyō. (支) T'ai-tzŭ-ho-hsiu-ching. (梵)Subāhu-kumāra-paripṛcchā. (梵)大乘莊嚴經論卷三十七四種半王子會第四" 和休經 ❷1卷 ❸存" 大正一1" •1五五 No. 314" 編造1" 卍1〇•五" 北47字" 市46字" 宗45字" 明北46字" 洛46字" 鹿48字" 天45字" 招39字" 法47字" 至115字" 明市45字" Nj. 50 ❹西晉竺法護譯 ❺西晉竺法護譯1一撰述元(A. D. 265—316) ❻失書

❼本經に太子問書" 四種半王子會(大乘莊嚴經論卷三十七)の1異譯あり、全部三位より成る。 (1)「法分」。四種半王太子和休 Subāhu (西藏譯は Subāhu? 四種半王會は同王子 Siṁha と子)" 及者子五百人と共に佛に參詣に出たる學問に詣で種種質を上つて佛に質す。 (11)「王宗分」。太子11十七問を別して佛答を得。 婆羅門" 國師化生" 知識合會" 三十11相" 八十隨形" 見佛" 聽聞" 三昧" 衆所問答事" 三寶功" 菩薩" 無明" 衆中問問" 說法" 不七說" 各貪" 天眼" 天耳" 知他心" 宿命" 神通" 如來" 如來" 如來

wa-san-ryaku-ge-shō. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大)

太初古佛直指見性語錄 ❶(日) Tai-sho-ko-butsu-jiki-shi-ken-shō-go-roku (支)Tai-chu-ku-fo-chih-chih-chien-hsing-yü-lu. ❷三卷 ❸存 ❹同治一三刊 ❺(京大、祿・一七タ・五)

太清和尚語錄 ❶(日) Tai-sei-o-shō-go-roku. 太清錄 ❷三卷 ❸存 ❹太清宗渭(元亨元—明德二 A. D. 1321—1391)語 ❼(參考) 扶桑禪林書目、大日本佛教全書綴刊豫定書目

太清和尚履歷略記 ❶(日)Tai-sei-o-shō-ri-reki-ryak-ki. 太清宗渭和尚履歷略記 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九傳部二

太清宗渭和尚履歷略記 ❶(日) Tai-sei-shu-i-o-shō-ri-reki-ryak-ki. 太清和尚履歷略記 ❷一卷 ❸存、續群書類從第九傳部二

⑮五山の詩僧として有名な雪村友梅禪師の法嗣、南禪寺四十三世相國四世太清宗渭和尚の傳記を、南禪寺五十五世絕海中津和尚の太清大禪忌の陞座說話並に南禪寺百二世嚴中周噩和尚の說話とを採つて其の行業の梗概を記したもので、撰者は嚴中和尚に敬稱を用ひずに「某甲探盡絕海師陞座語。并噩嚴中之說話。以記行業之梗槩云。」とあるのを觀れば正長元年六月(A. D. 1428)壽七十にて示寂した嚴中和尚の法系の人に依つて編錄されたものであらう。

大濟、諱は宗渭、太清と號し、相模鎌倉の藤原氏で元亨元年六月二十九日(A. D. 1321)に生れ、雪村友梅に嗣ぎ、夢窓國師、古先印元等の尊宿に參じ、美濃の龍門寺、相模の東勝寺、淨智寺、播磨の實林寺等に歷任し、足利義滿に歸依せられ、南禪相國に陞住して明德二年六月十二日將軍の問疾を受け同十九日(A. D. 1391)壽七十一、臘五十七にて南禪寺中の雲門庵に示寂したのである。 (大久保堅瑞)

太清錄 ❶(日)Tai-sei-roku. 太清和尚語錄 ❷二卷 ❸存 ❹太清宗渭(元亨元—明德二 (A. D. 1321—1391)語 ❼(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

太素和尚語錄 ❶(日)Tai-so-o-shō-go-roku. ❷二卷(上卷缺) ❸存 ❼(參考) 禪籍目錄

太組弘德圓明國師行實圖繪 ❶(日)Tai-so-kō-toku-en-myō-koku-shi-gyō-jitsu-zu-e. 圓明國師行實圖繪 ❷一卷 ❸存 ❹賀山梵成編 ❼(參考) 禪籍目錄

太組佛慈講式 ❶(日)Tai-so-butsu-ji-kō-shiki. 太組禪山佛慈講式 ❷一卷 ❸存 ❹孤峰白巖編 ❼(參考) 禪籍目錄

太祖略傳 ❶(日)Tai-so-ryaku-den. 總持開山太祖略傳 ❷一卷 ❸存 ❹瀧谷琢宗著 ❺明治一二刊 ❹(帝國、六・二一九)

太藤順海遺稿全集 ❶(日) Tai-tō-jun-kai-i-kō-zen-shū. ❷一卷 ❸存 ❹太藤順正編 ❺大正九刊 ❹(谷大、宗洋・四四二)

太白行脚袋 ❶(日) Tai-haku-an-gya-bukuro. ❷一卷 ❸存 ❹太白眞玄(—應永二二A. D. 1415) ❼(參考) 禪籍目錄

太白和尚語錄 ❶(日) Tai-haku-o-shō-go-roku. 太白錄 ❷一卷 ❸存 ❹太白眞玄(—應永二二 A. D. 1415)語 ❼(參考) 扶桑禪林書目、禪籍目錄

太白玄禪師疏 ❶(日)Tai-haku-gen-zen-ji-sho. ❷一卷 ❸存 ❹太白眞玄(—應永二二 A. D. 1415) ❼(參考) 禪籍目錄

太白四六 ❶(日) Tai-haku-shi-roku. 嶮屑鴉臭集、鴉臭集 ❷二卷 ❸存、五山文學全集第三 ❹太白眞玄(—應永二二A. D. 1415)述 ⑮鴉臭集の下を見よ。 ❼(參考) 日本禪林撰述書目 ❺明治三九刊 ⑮京都貝葉書院

太白魔王堅信經 ❶(日) Tai-haku-ma-ō-ken-shin-gyō. (支) Tai-pai-mo-wang-chien-hsin-ching. ❷一卷 ❹矢譯 ⑮大集經寶幢分の抄出。 ❼(參考) 出三藏記第四、法經錄第二、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

太白錄 ❶(日)Tai-haku-roku. 太白和尚語錄 ❷一卷 ❸存 ❹太白眞玄(—應永二二A. D. 1415)語 ❼(參考) 日本禪林撰述書目

太容禪師語錄 ❶(日) Tai-yō-zen-ji-go-roku. 玉雲開眼太容禪師語錄 ❷一卷 ❸存 ❹太容梵清(—應永二九 A. D. 1422—)語 ⑮著名な梵清本の正法眼藏の編纂者である丹波國一森村(京都船井郡須知町)玉雲寺開山太容梵清禪師の總持寺語錄であつて、貞享五年三月(A. D. 1688)獨菴玄光禪師の序を附して京都勸進軒村上勘兵衛より上梓したものを、文政六年二月(A. D. 1823)玉雲寺五十二世淚崖靈釋和尚が禪師の四百回遠忌に際して額山陽と交誼のあつた美濃國善應寺慧門禪智禪師の序文を得て再刻したもので、玉雲寺藏版である。

太容梵清禪師は薩摩の人で鶴昌寺石屋眞梁禪師に薙髮し、太源宗眞禪師の法嗣了堂眞覺禪師に嗣いだ洞上の耆宿で、應永二十九年十月二十五日加賀の佛陀寺より能登の諸嶽山總持寺に請せられ同十一月十四日入寺して演法され四衆の接化に努められたものである。本書には此の總持寺語錄が收められて居る。梵清禪師は、是の總持寺輪住に際し、其の所藏に係る曹洞宗太組の編纂山紹瑾禪師所持の寫本に就て、從來所寫した永平二祖孤雲懷奘禪師の編纂に係る七十五帖の永平道元禪師の正法眼藏を校合し、七十五帖本に散逸して居た九卷五册を補ひ、細目一册を加へ、二十六册八十四卷本の正法眼藏を編纂されたものである。洞上に梵清本の正法眼藏として其の功績を傳唱して居るものが是れである。

⑨貞享四刊(京大、日大未・五一七)文政六刊(谷大、餘大・三〇二〇) (大久保堅瑞)

太和行艸並次韻 ❶(日) Tai-wa-gyō-sō-narabini-ji-in. ❷一卷 ❸存 ❹仙瑞 ❼(參考) 禪籍目錄

太和集 ❶(日)Tai-wa-shū. 黃檗和尚太和集 ❷一卷二册、四卷二册 ❸存 ❹

隱元隆琦(文祿元—延寶元 A. D. 1592—1673)語

⑮黃檗宗の開眼隱元隆琦禪師の開宗最初二ケ年間の最得意時代の語錄である。卽ち南岳下三十四世費隱通容禪師の法燈を嗣ぎ福州黃檗山萬福寺に住した隱元禪師が六十三歲の承應三年に來朝し、七十歲の寛文元年八月二十九日(A. D. 1661)瑞ふ所の京都宇治郡宇治村大字五箇庄字大和田の地に創建した黃檗山萬福寺に逃山して開宗の第一犂を擧げた晉山法語より同二年に至る語要を編錄したもので、書名は其の地名太和田に採つたものである。版本には、南源性派、高泉性潡の共編に係る寛文二年霞月鐵眼道光の識語ある一卷一册五十四紙のもの、木庵性瑫、卽非如一の共編に係る寛文四年正月長門の道可の刊行した四卷一册七十三紙本、八十六紙本、百十紙本、百二十一紙本等ありと傳へられて居る。國譯禪宗叢書第十一卷に收められたものは、一卷一册五十四紙本に依つたものである。

內容は、黃檗山萬福寺の晉山法語より始り、詩偈、書問、題讚、贈語、法語、序、祭文、銘、偈、贈答語等を雜然と編錄し、十二時歌禪竹歌等の歌を以て終つて居る。 (大久保堅瑞)

太和集 ❶(日)Tai-wa-shū. 國譯黃檗和尚太和集 ❸存、國譯禪宗叢書第一一

太和續集 ❶(日)Tai-wa-zoku-shū. 黃檗和尚太和續集 ❷二卷 ❸存 ❹隱元隆琦(元祿元—延寶元 A. D. 1592—1673)語 ❼(參考) 禪籍目錄

台界私記 ❶(日) Tai-kai-shi-ki. ❷一括 ❸存 ❺足利時代寫 ❹(寶善提院)

台學階梯戒密綱要 ❶(日) Tai-gaku-kai-tai-kai-mitsu-kō-yō. 戒密綱要 ❷一卷 ❸存 ❹天台宗務廳編 ❺大正三刊 ❹(京大、日大未・三二三)

台學階梯教觀綱要 ❶(日) Tai-gaku-kai-tai-kyō-kwan-kō-yō. 教觀綱要 ❷一卷 ❸存 ❹天台宗務廳學務課編 ❺明治四三刊 ❹(立大、B一三・一九一)(京大、日大未・二八四)

台學階梯教史綱要 ❶(日) Tai-gaku-kai-tai-kyō-shi-kō-yō. 台宗階梯教史綱要 ❷一卷 ❸存 ❹天台宗務廳學務課編 ❺明治四三刊 ❹(正大、一三一・三一)(龍大、二六五三・一)

台嶽直指 ❶(日) Tai-gaku-jiki-shi. ❷一卷 ❸存 ❹實輪敎產(—安政頃 A. D. 1854—1859—) ❼(參考) 大日本佛教全書綴刊豫定書目

台翰五大文字 ❶(日) Tai-kan-go-dai-mon-ji. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・二〇七〇)

台家雜誌 ❶(日) Tai-ke-zas-shi. ❷一卷 ❸存 ❺文明一三寫 ❹(谷大、餘丙・二六)

台家雜譜 ❶(日) Tai-ke-zap-pu. ❷四卷 ❸存 ❹寫本(谷大、餘大・一一〇九)

台家雜錄 ❶(日) Tai-ke-zat-u-roku. ❷一册 ❸存 ❺永正一〇寫 ❹(金剛三昧院)

台山舍利會考 ❶(日) Tai-zan-shari-e-kō. ❷一卷 ❸存 ❹智川述 ❹寫本(蓮花院)

台山神藏寺圓戒中興傳信和尚傳 ❶(日) Tai-zan-shin-zō-ji-en-kai-chū-kō-den-shin-o-shō-den. ❷一卷 ❸存 ❹寫本(龍大、二九六五・四三)

台州刺史陸淳之印記文 ❶(日) Tai-shū-shi-shi-riku-jun-no-in-ki-bun. ❷一卷 ❸存、大日本佛教全書第二四天台小部集釋第二 ❹陸淳(—永貞元 A. D. 805—) ⑮傳敎大師最澄は延曆二十三年(A. D. 804)入唐した。時に唐の德宗の貞元二十年。本文は翌二十一年(順宗の永貞元年)二月十九日を以つて豫れて(二十年十月以來)書寫してゐた台州龍興寺所藏の天台典籍一百二部二百四十卷を寫了した。依つてこの書寫本目錄(台州錄といふ)の奧書に關係者の氏名を全部列記し、次に今の印記文を記し、最後に入唐使四名が連署して、延曆二十四年七月、歸朝後直ちに朝廷へ進めたものである。よつて本目錄を進官錄といふ。進官錄卽ち傳敎大師將來目錄は台州錄と越州錄との二部からなつてゐる。本文を顯戒論緣起上には「台州求法略目錄並陸淳詞一首」として收めてゐる。陸淳は字を伯伸といひ、儒學に達し、特に「春秋」の研究に秀で數種の遺著がある。永貞元年、東宮(憲宗)の侍讀となるや。東宮の名を避けて淳を質と改めた。永貞元年九月卒。傳敎大師は七月に乘船歸朝したのであるから、四箇月を經て陸質は逝去したのである。陸淳が傳敎大師の天台敎迹書寫に就いて多大の援助を與へたことの史料は顯戒論緣起上「送最澄上人還日本國叙」に台州の司馬吳頵が詳記してゐる。又空海の傳は舊唐書巡禮記にも記してある。陸淳の傳は舊唐書列傳一八九下。新唐書一六八。柳宗元集(墓表)。伊藤東涯の紹述文集十六。天台覆標四之一(佛全一二五ノ三九九)等に出づ。又其著は新唐書五十七藝文志に「春秋」の註釋四部、舊唐書一八九の陸質傳には類禮二十卷、君臣圖翼二十五卷を揭げてある。本文の內をみるに、傳敎大師は天台の妙旨を求め(天台敎迹の書寫か)、一心三觀を傳へ(止觀傳承)、親しく祕密を承け(眞言敎傳法)、理、名言を記し(禪の傳受?)悉く相承を了したといふから傳敎大師は止觀道邪禪を習つたと考へられる、これ等を道邪・行滿の下で特に道邪の下で習つたと考ふべきであらう。然らば道邪は單一なる天台學を奉じた人ではないと云はねばならぬ。更に可考。本文は顯戒論緣起から拔抄したものである。最後に「天台第七祖云云」は剩文。この剩文によつて「天台法花宗生知妙悟決」を編輯した者は緣起から引文したことを明示してゐるのである。 (田島德晉)

❼(參考) 顯戒論緣起上、傳敎大師將來台州錄

台州龍興寺碑 ❶(日) Tai-shū-ryū-kō-ji-hi. (支) Tai-chou-lung-hsing-ssū-pei.

⑪大唐石摺。❼(參考) 比叡山最澄和尚法門道具等目錄

台宗教学 ❶(日)Tai-shū-kyō-gaku. 台宗教学。

台宗教学 ❶(日)Tai-shū-kyō-shi-kō-go. 台宗教学。

台宗教学 ❶(日)Tai-shū-kyō-shi-kō-go. ❷ 参 ❸ 仏 ❹ 仏教 ❺ 大 ❻ 一 ❼ 一 ❽ 一 ❾ 一 ❿ 一 ⓫ 一 ⓬ 一 ⓭ 一 ⓮ 一 ⓯ 一 ⓰ 一 ⓱ 一 ⓲ 一 ⓳ 一 ⓴ 一 ㉑ 一 ㉒ 一 ㉓ 一 ㉔ 一 ㉕ 一 ㉖ 一 ㉗ 一 ㉘ 一 ㉙ 一 ㉚ 一 ㉛ 一 ㉜ 一 ㉝ 一 ㉞ 一 ㉟ 一 ㊱ 一 ㊲ 一 ㊳ 一 ㊴ 一 ㊵ 一 ㊶ 一 ㊷ 一 ㊸ 一 ㊹ 一 ㊺ 一 ㊻ 一 ㊼ 一 ㊽ 一 ㊾ 一 ㊿ 一 (1) 一 (2) 一 (3) 一 (4) 一 (5) 一 (6) 一 (7) 一 (8) 一 (9) 一 (10) 一 (11) 一 (12) 一 (13) 一 (14) 一 (15) 一 (16) 一 (17) 一 (18) 一 (19) 一 (20) 一

-gi-ji-sho. ❷三巻 ❸存 ❹寛永五刊 ❺〔谷大〕・〔東大〕・八三二一〕（〔東〕・〔き〕・四・中・一二）〔正大〕・一三七・四一〕〔龍大〕・二六五五・三二）〔正大〕・一三七・二八）

合宗論義示蒙標準 ❶（日）Tai-shū-ron-gi-ji-sho-zoku-shū. ❷二巻 ❸存 ❹正徳元刊 ❺〔立大〕・A一二・四五二）〔谷大〕・八三四〕〔正大〕・一三七・二九・四〇）〔龍大〕・二六五五・三四一三五）〔東〕・〔き〕・四・中・一五）

合宗論要 ❶（日）Tai-shū-ron-yō. ❷一巻 ❸存 ❹慶安六刊〔天保一一一明治三二 A. D. 1840—1899〕 ❺明治二九刊 ❻〔谷大〕・〔東小〕・一五五）〔龍大〕・二六五五・三七）

合宗令制禁止法 ❶（日）Tai-jō-nem-butsu-fuku-shū-ketsu. ❷一巻 ❸存 ❹性均（延享七—寛政七A. D. 1679—1757）述 ❺享保一五（A. D. 1730）四月

❻宗教禁止に日く「略説日蓮宗史」。

❼享保十五年庚戌四月。 安楽寺性均作。 所引、義証天台宗教義書・自心令修覚魔本・倫。令修義と云々。

❽〔享保一五刊〔立大〕 A 〇五・一五一〕〔東〕・き・八・左・二〇〕〔龍大〕・二六一一・一七）

合宗論四条問答抄 ❶（日）Tai-tō-i-moku-jim-mitsu-shō. ❷一巻 ❸存〔日蓮宗令修令修抄一〇本門法華部抄一〕 ❹日蓮〔明徳四—文正元 A. D. 1393—1466〕

❺本来日朗〔八品派の所宗に基づいて天台宗と日蓮宗との四日を列挙して配明したものである。要約し日蓮宗の四日を列挙し配明したものである。要約し日蓮宗の四日を列挙し配明したものである。要約し日蓮宗の四日を列挙し

台界録 ❶(日)Tai-kai-roku. ❷1巻 ❸国会(弘仁五—貞元三 A. D. 814—891) ❹〔参考〕山家正統学問大意目録巻上

台記 ❶(日)Tai-ki. 台記天文大測 ❷11巻 ❸存 ❹天文11算 ❺(羅大・別集)

台記 ❶(日) Tai-ki. ❷1帖 ❸存 ❹人事11算 ❺〔家事雑記〕

台記 ❶(日) Tai-ki. ❷1帖 ❸存 ❹手安寺所算 ❺〔宿大・巻・1・1五〕

台記 ❶(日)Tai-ki. 台記法華測 ❷1巻 ❸存 ❹所天〔巻大・巻小・三1〕算天本〔巻大・巻大・1・七五四〕

台記 ❶(日)Tai-ki. 台記暦今 ❷1巻 ❸存、大正蔵巻第八、大日本史学会全書巻第三五所収巻第之内 ❹天慶(元久二—弘安元A. D. 1205—1282)頃 ❺天文11算 ❻〔宿大・巻中・七八〕

台記 ❶(日) Tai-ki. ❷年号(天和一〇—貞享元 A. D. 843—927) ❸〔参考〕天明今上御即位紀事巻四

台記出家會 ❶(日) Tai-ki-ku-yō-e. ❷1巻 ❸存、大正蔵巻第八、大日本史学会全書巻第三五所収巻第之内 ❹天慶(元久二—弘安元A. D. 1205—1232)頃

台記法華會 ❶(日)Tai-ki-sho-e. 台記 ❷1巻 ❸存、大正蔵巻第八、大日本史学会全書巻第三五所収巻第之内 ❹天慶(元久二—弘安元A. D. 1205—1232)頃

台記法華會講問會 ❶(日)Tai-ki-sho-e-narabini-kom-ma-e. 台記法華会講問会 ❷1巻 ❸存 ❹明治四四

台記諸院不同記 ❶(日)Tai-ki-sho-setsu-fu-dō-ki. 大師仏法蔵中興大慈恵僧正諸宗要目中諸宗要子部諸宗相承位諸院不同記、台蔵諸宗院不同記、諸院不同記 ❷十1巻 ❸存、大正蔵巻第八、大日本史学会全書巻第四四 ❹貞観(貞元二—仁和11—貞享五 A. D. 886—927)頃

❺大師仏法蔵中興大慈恵僧正諸宗要目中諸宗要子部諸宗相承位諸院不同記の下を見よ。

❻算天(年号算)

台記諸事抄 ❶(日) Tai-ki-fuku-shin-shō. 台記諸事抄法華測 ❷1巻 ❸存 ❹文化1四算 ❺〔宿大・巻保・1九七〕

台記立印會 ❶(日) Tai-ki-ryū-in-shō. 台記立印会法華測 ❷1巻 ❸存 ❹貞観九算 ❺〔宿大・巻保・1九八〕

台記 ❶(日)Tai-kyō. (支)T'ai-ching. ❷三巻 ❸唐時撰。 ❹〔参考〕法華経経典四、七巻巻経図

台記 ❶(日)Tai-kyō. (支)T'ai-ching. 華厳経探玄記、華厳経探玄記、華厳経旨帰、華厳経旨帰 ❷七巻 ❸存、大正111・1○1五No. 384、観音1○、卍111・1、北406号、南419号、宇413号、周北429号、429号、医407号、天413号、新379号、法400号、西411号、周宇412号、Nj. 433 ❹法華経経疏巻第天慶(唐天慶)中台記諸宗要目の下を見よ。

台行水 ❶(日)Tai-gyō-ketsu. ❷1巻 ❸存 ❹天慶(天和五—永保元 A. D. 1016—1081) ❺算天(巻算記)

台漢記 ❶(日)Tai-kwan-ki. ❷11巻 ❸存、大正蔵巻第八、大日本史学会全書巻第三五所収巻第之内 ❹天慶(元久二—弘安元A. D. 1205—1282)頃

台漢記目録 ❶(日) Tai-kwan-ki-men-ju. 台漢記目録天文大測 ❷1巻 ❸存 ❹算天(算術問答)

台漢諸宗用書 ❶(日) Tai-kwan-san-shū-yō-i. ❷1巻 ❸存、大日本史学会全書巻第三五所収巻第之内 ❹天慶(元久二—弘安元A. D. 1205—1282)頃

台漢私記補助 ❶(日) Tai-kwan-shi-ki-ho-jo. ❷1巻 ❸存 ❹算天(算術問答)

台漢問答集 ❶(日) Tai-kwam-mon-ju-shū. 台漢問答集四問答集 ❷五巻写1巻 ❸存 ❹天慶(天和五—永保元 A. D. 1016—1081) ❺〔参考〕諸宗要目録巻三、宗教要目録巻目録 ❻算天(仏法記)

台金令別私記 ❶(日)Tai-kon-ka-ku-betsu-shi-ki. ❷別宗録

❸天平勝宝三年諸宗要目に曰く「令以来以、右台金令行私記、故和尚入私記者故ト雖スルナリ」云々。

❹〔参考〕山家正統学問大意目録巻下

台金儀公 ❶(日) Tai-kon-gi-shō. ❷安絵(天和八—貞享元年四 A. D. 841—901—) ❸〔参考〕山家正統学問大意目録巻上

台金儀軌式文 ❶(日) Tai-kon-gi-ki-kwa-mon. ❷11巻 ❸存 ❹貞観(貞元二—永承四A. D. 977—1049)頃 ❺算天

(貞元二)

台金漢質記 ❶(日) Tai-kon-kwan-jō-ki. ❷11巻 ❸存 ❹慶雲11算 ❺(金剛三昧記)

台金漢質問答記 ❶(日) Tai-kon-kwan-jō-zui-yō-ki. 問答記、台金三昧耶問答記、台金大乗四問答記、台金大乗四問答記、台金漢質問答記 ❷11巻 ❸存、大正七五・人1 11No. 2407 ❹貞観(貞元二—永承四 A. D. 977—1049)頃 ❺問答記の下を見よ。

台金目録図 ❶(日)Tai-kon-kechi-myaku-zu. ❷1巻 ❸存、大日本史学会全書巻第三八所収巻第之内 ❹国会(弘仁五—貞享三A. D. 814—891)頃

❺天平勝宝三年は国会であるべきは誤りである。恐らく後人が台国会に擬作した台金目録であるべき。天平勝宝は大乗、内容目録書と法華・般若経目録に比較すると後世の人名を記してこれを目録に比較すると後世の人名を記してこれを目録に比較すると後世の人名を記してこれを

の大皆を降ぶるに依つて中胎九尊。第一百五十尊（これを摩訶十三尊。面部第三十一尊。金剛部三十一尊）。四部第三十九尊。四部第十八尊。四部金剛部十五尊。この四部は三尊は蓮華部に多く出でたる。第三百は上方文殊菩薩二十一尊。北方蓮華菩薩九尊。南方虛空藏菩薩九尊。西方金剛菩薩一尊。第三百は東方釋迦牟尼佛天四十四天。南方三十人天。西方三十三天。北方十人天。かかるものである。

金剛界諸尊等の種子は皆各の三十七尊の種子、次に眞如十六大菩薩。不動尊の四大明王。次に外金剛部三十天の種子（四天金剛部）を記してある。故に本尊は皆各各八千遍と唱へ）を記してある。故に金剛界は眞如十六尊と四大明王とを合せ合せば十六人なれば十六尊と四大明王とを合せ合せば二十一尊となる。眞子ゴに皆各の）ある内に二種（千六十一尊と八十一尊）の中に八十一尊と示したもの。但し現行種子とは相違してゐる。故に新種子を必要とするなり。

（田倉勝光）

胎金譜仏記 ❶(日) Tai-kon-yu-ga-ki. 金剛界記、胎金譜瑜伽記 ❷1卷 ❸存、日本大藏經天台宗章疏第拾壱1、大日本續藏全書第壱三七和漢大藏全書第壱三 ❹圓仁(弘仁五一貞平三A. D. 814—891)撰 ❺金剛界記の下を見よ。

胎金両界悲華法文経 ❶(日)Tai-kon-ryō-kai-ku-yō-hō-shi-dai. 胎金両界悲華法文経題 ❷1帖 ❸存 ❹唐不空 ❺(金剛三昧院)

胎金両界血脈 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-kechi-myaku. ❷1卷 ❸存、卍續藏1・九五・五 ❹陳延文(一説周六A. D. 865—)著和

❺天慶元年(A. D. 865) 八月十七日天安寺左衛門尉藤原守道文面開祭付藤原貞重と書きつて、歴代法の血脈系、金剛界の血脈を示すものの。11頁千の血脈である系譜である。

（新橋貞秀）

胎金両界次第 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-shi-dai. 胎金両界次第西院 ❷1帖 ❸存 ❹鎌倉(元亨元一建武七 A. D. 1184—1255) ❺亨和元年 ❻(金剛三昧院)

胎金両界種子曼荼羅 ❶(日)Tai-kon-ryō-kai-shū-ji-man-da-ra. ❷1幅 ❸存 ❹鎌倉四年 ❺(金剛三昧院)

胎金両界初後夜 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-sho-go-ya. ❷1幅 ❸存 ❹東寺 ❺明徳11(A. D. 1391) ❻永正11年 ❼(金剛三昧院)

胎金両界鳳言句義 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-shin-gon-ku-gi. 胎金両界鳳言句義山門流 ❷1帖 ❸存 ❹明覚(一説覚鑁 A. D. 1034—) ❺明覚五年 ❻(金剛三昧院)

胎金両界大教王相承博法次第記 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-dai-kyō-ō-sō-jō-dem-bō-shi-dai-ki. ❷1卷 ❸存 ❹法然(一説弘仁 A. D. 834—) ❺貞享元年(京都東寺蔵)

胎金両界念誦次第 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-nen-ju-shi-dai. ❷1帖 ❸存 ❹徳川(貞享元一元禄一五 A. D. 1639—1702) ❺徳川中期頃 ❻(金剛三昧院)

胎金両界瑜伽記 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-yu-ga-ki. 金剛界瑜伽記 ❷4卷 ❸存、日本大藏經天台宗章疏第拾壱1、大日本續藏全書第壱三 ❹圓仁(弘仁五一貞平三 A. D. 814—891)撰 ❺金剛界記の下を見よ。 ❻〔参考〕 山家正義記第拾壱上

胎金両界略次第 ❶(日) Tai-kon-ryō-kai-ryaku-shi-dai. 胎金両界略次第鎌倉 ❷1帖 ❸存 ❹徳川末期頃 ❺(金剛三昧院)

胎金両界頂礼願文記 ❶(日) Tai-kon-ryō-kwan-jō-zui-yō-ki. 願文記、胎金両界頂礼願文記、胎金三昧耶頂礼願文記、胎金大悲胎蔵頂礼願文記 ❷1卷 ❸存、大正七五・八1 No. 2407 ❹弘覚(貞元11—永承四A. D. 977—1049)撰 ❺金剛界記の下を見よ。 ❻享保11頃 ❼(王龍山修士院蔵)

胎三巻略記 ❶(日) Tai-san-gwan-ryak-ki. ❷圓仁(弘仁五一貞平三A. D. 814—891)

❸大日大學敬全書第壱11十八和漢大藏全書第壱四に胎蔵界略記の殘闕あり。、この中に胎三巻略記の引文ある。

❹〔参考〕 山家正義記第拾壱上、新宗教資料第拾壱11、密教学研究第拾壱

胎三密抄 ❶(日)Tai-sam-mitsu-shō. 胎蔵三密抄 ❷5卷 ❸存、大正七五・五1 No. 2393 ❹覚超(天慶九一寛徳元 A. D. 955—1037)撰 ❺胎蔵三密抄の下を見よ。 ❻〔参考〕 本朝台密教学研究日

胎三密抄科簡 ❶(日)Tai-sam-mitsu-shō-ryō-ken. 三密抄科簡 ❷11卷 ❸存、大正七五・六三三 No. 2399 ❹覚超(天慶九一寛徳元 A. D. 955—1037)撰 ❺三密抄科簡の下を見よ。 ❻〔参考〕 本朝台密教学研究日

胎諸 ❶(日)Tai-sho. ❷1卷 ❸存、大正図像第壱八、大日本續藏全書第壱三五 図像抄之内 ❹承慶(貞元人11—弘安五A.D. 1205—1282)撰

胎諸尊讃 ❶(日) Tai-sho-son-sha-ku. ❷〔参考〕 本朝台密教学研究日

胎蔵胎生義 ❶(日) Tai-shoku-tai-shō-gi. ❷11卷 ❸圓仁(弘仁五一貞平三 A. D. 814—891) ❹〔参考〕 密宗資料第壱、山家正義記第拾壱上、本朝台密教学研究日

胎蔵印略定記 ❶(日) Tai-zō-in-ryaku-jō-ki. ❷1卷 ❸存 ❹字保九年 ❺(谷大、谷・九四五)

胎蔵縁起 ❶(日) Tai-zō-en-gi. 胎山縁 ❷1卷 ❸存、續群大藏全書第壱11、大日本續藏全書第壱11 ❹覚鑁(寛徳元一弘仁1三 A.D. 767—822)撰

❺本縁起は固定巻十（大正五五・五七1）所載の巻頭巻巻末に圓仁と覚鑁氏要巻所載

（内閣文庫蔵法華経題目行用文と同1）の1行巻と氏要巻とを記したものである。本書には固定巻と異なり、内閣文庫蔵法華経題目の文に上を記してゐるが、いずれ、内閣文庫蔵法華経題目の巻は明治と異なる。本書は著者名を「慶山之義」となしてゐるので圓仁を相承してゐるが、それは正確五年（A. D. 1715）に沙門慶令（慶来書）が慶山修士院で書写（寛元年（A. D. 1084）写本を写したもの）に奥書に題下に慶人の名を著してゐない。只、慶山義と称する日ふ。慶人の日ふ。凡そ慶山義と称する余論のは固山大師（慶政大師）の説であること。

この者は固山義といふた。慶政は山王院慶盛日蓮なる者と同じ。日蓮中に固山義説を慶政大師の所説であること。日蓮中に固山義説を慶政大師の所説であること。固山義といふて不審なる点。固山義といふて不審なる点。固山義といふて不審なる点。固山義といふて不審なる点。固山義といふて不審なる点。

ふに本書は内閣文庫蔵の本書の一部でなければならぬ。所以は若し法華経本の一部でなければ、若し法華経本の一部であるならば、印度文殊の題目相承分が記されるべきである。

なぜ、慶政は相承分を記さずに行の巻のみで終るのは慶起の意を示唆してゐるなかつた。又上記の如く内閣文庫蔵の文と一致してゐるが相承は各々その結ることが知られる。胎蔵界縁起と書題すなわち慶政分がある。次に慶氏要縁起と書題は慶来者も著者も著者も不明。

❻〔参考〕 山家正義記第拾壱上、密教学研究第拾壱、本朝台密教学研究第拾壱、密教学研究第拾壱

胎蔵界 ❶(日) Tai-zō-kai. ❷1帖 ❸存 ❹鎌倉(一説和三A. D. 1377—)註 ❺播川時代頃 ❻(貴重図書)

胎蔵界 ❶(日) Tai-zō-kai. ❷1卷 ❸存 ❹印融(一説天文十一永正一六A. D. 1435—1519) ❺刊本(谷大、谷・九〇七九)

胎蔵界印 ❶(日) Tai-zō-kai-in. ❷1帖 ❸存 ❹平安朝時代頃 ❺(谷大、谷・九・六11)

胎蔵界印次第私記 ❶(日) Tai-zō-kai-in-shi-dai-shi-ki. ❷1帖 ❸存 ❹写本(金剛三昧院)

胎蔵界印事説要 ❶(日) Tai-zō-kai-in-ji-hi-yō. ❷1卷 ❸存 ❹写本(鎌倉)

胎蔵界印意言記 ❶(日) Tai-zō-kai-in-shin-gon-ki. ❷1卷 ❸存 ❹宥治(貞暦五一永和11 A. D. 774—835) ❺〔参考〕 密宗資料第壱三

胎蔵界印圖 ❶(日) Tai-zō-kai-in-zu. ❷1帖 ❸存 ❹播川時代頃 ❺(貴重図書)

胎蔵界梵字次第 ❶(日) Tai-zō-kai-un-ji-shi-dai. 胎蔵次第、胎蔵界梵字次第、胎蔵界金剛次第 ❷1卷 ❸存、日本大藏經密教部第壱第壱1、弘法大師全集第壱1三巻和漢 ❹宥治(貞暦五一永和11 A. D. 774—835)〔1・記貞明、1・記本教〕

❺胎蔵界法の金剛次第の1種。著源川ひらく、印明は名を題するのみで印相・真言を略した所に参入、眼耳文には全略載せてゐない。故に初心の行者には行に難き次第で

ketsu. 胎蔵界口決抄 ❶(日) Tai-zō-kai-ku-ketsu-shō. 胎蔵界口決抄三巻記録 ❷1巻 ❸存 ❹印融(永享七—永正1六A. D. 1435—1519) ❺正保11写 ❻(写大〈1・六11〉)

胎蔵界口博 ❶(日) Tai-zō-kai-ku-den. ❷1巻 ❸存 ❹神舎(永和1〇—延徳五 A. D. 843—927)撰 ❺写本(写大〈日大系・11九八〉〈大井記〉)

胎蔵界口博 ❶(日) Tai-zō-kai-ku-den. 胎蔵界口博小鈔 ❷存 ❸明覚六写 ❹(金剛三昧院)

胎蔵界口博抄 ❶(日) Tai-zō-kai-ku-den-shō. 胎蔵口博抄 ❷三巻 ❸存〈教王抄之内 ❹証賢(一文永弘安頃 A. D. 1264—1287—) ❺写本(谷大〈鎌大・1〇1四〉)文永九写(金剛三昧院)

胎蔵界句義私抄 ❶(日) Tai-zō-kai-ku-gi-shi-shō. ❷11巻 ❸存 ❹印融(永享七—永正1六 A. D. 1435—1519)撰 ❺足利時代写(東寺観)[奥書定用(谷大〈鎌大・九11一〉〈龍大〈11六六五・1八〉)

胎蔵界句義抄 ❶(日) Tai-zō-kai-ku-gi-shō. ❷1巻 ❸存 ❹〈前〈け・三・中・11九〉

胎蔵界漢頂行事抄 ❶(日)Tai-zō-kai-kwan-jō-gyō-ji-shō. 漢頂七日行事抄〈胎蔵漢頂行事抄〉〈胎蔵漢頂七日行事抄〉 ❷三巻 ❸存〈日本大蔵経第天台宗聖教全書1〉〈東寺大阿闍梨三

❹宝殿(金剛峯寺宝殿)一弘仁1三A. D. 767—822)撰 ❺漢頂七日行事抄の下を見よ〈。

胎蔵界漢頂作法 ❶(日) Tai-zō-kai-kwan-jō-sa-hō. ❷1帖 ❸存 ❹文利一師宗周時代写 ❺(東寺観)

胎蔵界漢頂私記 ❶(日) Tai-zō-kai-kwan-jō-shi-ki. 胎蔵界漢頂私記金剛 ❷1帖 ❸存 ❹写本(東寺観)

胎蔵界漢頂七日行事抄 ❶(日) Tai-zō-kai-kwan-jō-shichi-nichi-gyō-ji-shō. 漢頂七日行事抄〈胎蔵漢頂七日行事抄〉〈胎蔵漢頂行事抄〉〈漢頂行事抄〉 ❷三巻 ❸存〈日本大蔵経第天台宗聖教全書1〉〈東寺大阿闍梨三

❹宝殿(金剛峯寺宝殿)一弘仁1三A. D. 767—822)撰 ❺漢頂七日行事抄の下を見よ〈。

胎蔵界漢頂壇印明 ❶(日) Tai-zō-kai-kwan-jō-dan-im-myō. 胎蔵漢頂壇印明 ❷1巻 ❸写本(一鎌倉末期A. D. 901—) ❹〈参考〉 諸宗教義集第三

胎蔵界漢頂問受業 ❶(日) Tai-zō-kai-kwan-jō-mon-ju-shū. 胎蔵漢頂問受業 ❷五巻 ❸存 ❹宝殿(寛和五—永保元A. D. 1016—1081) ❺〈参考〉 山家諸師撰述目録巻上

胎蔵界漢頂略記 ❶(日) Tai-zō-kai-kwan-jō-ryak-ki. ❷1帖 ❸存 ❹文政七写 ❺(東寺観)

胎蔵界加行 ❶(日) Tai-zō-kai-ke-gyō. ❷存 ❸文明1七写 ❹(金剛三昧院)

胎蔵界加行作法聞書 ❶(日)Tai-zō-kai-ke-gyō-sa-hō-kiki-gaki. 胎蔵界加行聞書 ❷存 ❸写本(金剛三昧院)

胎蔵界加行表白 ❶(日) Tai-zō-kai-ke-gyō-hyō-byaku. ❷1帖 ❸存 ❹足利時代写 ❺(東寺観)

胎蔵界血脈 ❶(日) Tai-zō-kai-ke-chi-myaku. (支) T'ai-ts'ang-chieh-hsieh-mo. ❷1巻 ❸存〈卍蔵1・九五・五〉胎金両界血脈之内 ❹法然(一鎌倉末A. D. 865—) ❺〈参考〉 諸宗教義集第三

胎蔵界血脈圏 ❶(日) Tai-zō-kai-kechi-myaku-zu. 胎蔵血脈〈胎蔵血脈圏〉 ❷存〈大日本仏教全書第三八巻所収〉 ❸胎金血脈圏之内 ❹圓倉(弘仁1一貞観元年三A. D. 814—891) ❺〈参考〉 天明合論

胎蔵界結願作法 ❶(日) Tai-zō-kai-kechi-gwan-sa-hō. ❷1帖 ❸存 ❹弘安元写 ❺(東寺観)

胎蔵界許可灌頂式 ❶(日)Tai-zō-kai-ko-ka-den-ju-gi-shiki. 胎蔵許可灌頂式 ❷1巻 ❹宝殿(一鎌倉末A. D. 901—) ❺〈参考〉 諸宗教義集第三

胎蔵界菩心記 ❶(日) Tai-zō-kai-ko-shin-ki. 胎記〈胎蔵菩心記〉 ❷11巻 ❸存〈大正七五・1 No. 2385〉 日本大蔵経第天台宗聖教全書1 ❹圓仁(延暦1三一貞観六 A. D. 794—864)記

❺天暦は胎蔵法の第四論題で「菩提心論」の第五の日〈第月三種に相ひ同受した所のものである。〉この記は五大記の記に出づ。〈貞

本宗諸本系譜註の記〉とあるから第月三種

口訣〈胎記〉記に記したのと胎蔵論記である。菩心とは菩提心法は共に「菩心」と略称し、中心を土

とは菩提心法は共に「菩心」と略称し、中心を土

と心土との三種に分類し、中心を五古井、

井とし心土を「井」と略称し、五古井から金色の光明を放つ

て諸仏を照し、今日の衆生の妄想を除き、

菩提心を開顕し、今日の衆生の妄想を除き、

菩提心を開顕し、今日の衆生の妄想を除き、

菩提心を開顕

元 A. D. 867—931)作 ⑥青龍寺儀軌を本として撰述せられしもの。

胎蔵界次第 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai. 胎蔵界念誦次第、胎蔵次第 ②一卷 ③存 ④元昊(延喜一一—長徳元 A. D. 911—995)作 ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵界次第 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai. ②一卷 ③存 ④宏教(元暦元—建長七 A. D. 1184—1255)作 ⑥西院流の傳授本にして、空海の吽字次第を本として和會せし次第である。

胎蔵界次第 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai. 胎蔵界次第 ②一卷 ③存 ⑥奥書に建久七年八月四日以御本書寫了、是法印(釋迦院隆海)和尚位私御本也、門跡肝心只有此書、尤可秘蔵之、不可出窓外、而已、佛子琴海とあり。

胎蔵界次第 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai. 胎蔵界次第檜尾 ②一冊 ③存 ⑤安永六寫 ⑨(金剛三昧院)

胎蔵界次第記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai-ki. ②二冊 ③存 ⑨(京大、印哲・ロ・二二)

胎蔵界次第口訣 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai-ku-ketsu. ②一冊 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

胎蔵界次第私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai-shi-ki. ②六卷 ③存 ④盛寂(延寶二—寛保二 A. D. 1674—1742) ⑤元文四寫 ⑨(谷大、餘甲・一九)

胎蔵界次第升冬 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai-ji-ku. 胎蔵界次第升冬安流 ③存 ⑨寫本(金剛三昧院)

胎蔵界次第傳受記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-dai-den-ju-ki. ②二帖 ③存 ⑨寫本(金剛三昧院)

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. 胎蔵私記 ②三卷 ④空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835) ⑥胎蔵私記の下を見よ。 ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. ④遍昭(弘仁八—寛平二 A. D. 817—890) ⑦(参考) 山家眼惠撰述篇目集卷下

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. ④玄昭(承和二—延喜一五 A. D. 844—915)述 ⑦(参考) 山家眼惠撰述篇目集卷下

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. ④益宣(貞觀八—天慶三 A. D. 866—940)述 ⑦(参考) 山家眼惠撰述篇目集卷下

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. ②一卷 ③存 ④了尊、慧航校 ⑦刊本(京大、印哲・Q・一四)

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. ②一卷 ⑥胎蔵界儀軌並野澤次第目錄に云く、內題云胎蔵私記、文始云九方便、本批云此根本阿闍梨御傳也、依據大毘盧遮那儀軌、所傳也、敏若寺僧正御傳云々と。

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. 胎蔵界私記西大寺流 ②一卷 ③存 ⑨寫本(谷大、餘大・二九八八)

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. ②一軸 ③存 ⑤應安元寫 ⑨(寶菩提院)

胎蔵界私記 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ki. 改正胎蔵界私記 ③存 ⑤文政四刊 ⑨(龍大、別置)

胎蔵界私聞書 ①(日) Tai-zō-kai-shi-kiki-gaki. ③存 ⑨寫本(金剛三昧院)

胎蔵界私口決並護摩 ①(日) Tai-zō-kai-shi-ku-ketsu-narabini-go-ma. ②一帖 ③存 ⑤文中二寫 ⑨(高大、寄・一・六二)

胎蔵界私次第 ①(日) Tai-zō-kai-shi-shi-dai. ②二卷 ③存 ④興然(保安元—建仁三 A. D. 1129—1203)作 ⑥此次第は興然が延命院次第を本として、私に之を記せし次第にして、勸修寺流の先德は、多くこの次第を傳授し、口決も多くこの次第に就く。

胎蔵界私次第 ①(日) Tai-zō-kai-shi-shi-dai. 胎蔵界私次第勸流 ②一帖 ③存 ⑤建暦元寫 ⑨(金剛三昧院)

胎蔵界私注 ①(日) Tai-zō-kai-shi-chō. ②一軸 ③存 ⑤寛文四寫 ⑨(寶菩提院)

胎蔵界私註 ①(日) Tai-zō-kai-shi-chō. ②二卷 ④開田准后法助(安貞元—弘安七 A. D. 1227—1284) ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵界師資相承 ①(日) Tai-zō-kai-shi-shi-shō-jō. (支) Tai-tsang-chieh-shih-tsō-hsiang-ch'êng. ②一卷 ③存、卍續二・九五・五 ④海雲集 ⑥唐太和八(A. D. 834) ⑥金胎兩界師資相承合の下を見よ。 ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵界師傳抄 ①(日) Tai-zō-kai-shi-den-shō. ②一帖 ③存 ④證道(寶治元—暦應二 A. D. 1247—1339)記 ⑤足利末期寫 ⑨(金剛三昧院)

胎蔵界自行道場觀 ①(日) Tai-zō-kai-ji-gyō-dō-jō-kwan. ②一帖 ③存 ⑤德川時代寫 ⑨(寶龜院)

胎蔵界事鈔 ①(日) Tai-zō-kai-ji-shō. ②三卷或二卷 ③存 ④道快(一—明德元 A. D. 139—) ⑨慶安五寫(谷大、餘大・二九二〇)刊本(京大、藏・一六タ・二)(高大、一・六二)

胎蔵界式 ①(日) Tai-zō-kai-shiki. 胎蔵界式三寶院 ②二帖 ③存 ⑨德川時代寫(寶龜院)(寶菩提院)寫本(谷大、餘卷・四三)

胎蔵界七集 ①(日) Tai-zō-kai-shi-chi-shū. 胎蔵界七集石山、石山七集 ②三卷或四卷 ③存、大正圖像第一、大日本佛教全書第四四 ④淳祐(寛平二—天暦七 A. D. 899—953)撰 ⑥石山七集の下を見よ。 ⑨寛文四、正德二寫(金剛三昧院)嘉永六寫(高大、一・五四)

胎蔵界七日行事鈔 ①(日) Tai-zō-kai-shichi-nichi-gyō-ji-shō. 胎蔵界灌頂行事鈔、灌頂行事鈔、胎蔵界灌頂七日行事鈔 ②三卷 ③存、日本大藏經天台宗密教章疏第一、傳教大師全集第三 ④最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 769—823)集 ⑥灌頂行事鈔の下を見よ。

胎蔵界釋迦會不同 ①(日) Tai-zō-kai-shō-shaka-fu-dō. 大悲胎蔵悲生曼荼羅第三重釋迦眷屬及諸天印明種子梵號名位不同、釋迦會不同 ②二卷或一卷 ③存、大正圖像第一、日本大藏經天台宗密教章疏第二 ④安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)撰 ⑥本書は胎蔵界曼荼羅第三重釋迦院の釋迦牟尼、其眷屬及び諸天の印明、種子、梵號、位の不同を大日經、同疏、同義釋、攝大儀軌、廣大儀軌、法全兩卷・三卷の請儀軌(廣大儀軌(大正藏一八))、現圖曼荼羅、阿闍梨所傳曼荼羅等に記してある諸說を揭げて後世の學者に提示したもの。卷初の文を見るに左記の十三種の項目を以て集記したもの。(一)經第一具緣品圖章文。(二)疏第五同品圖章文。(三)經第五祕密曼荼羅文。(四)疏第十六同品文。(五)經第四密印品文。(六)疏第十二・十四同品文。(七)攝大儀軌中卷。(八)廣大儀軌中卷。(九)法全和尚兩卷・三卷諸軌說。(一〇)經第二普通眞言藏品文。(一一)疏第十同品文。(一二)現圖曼荼羅。(一三)疏第六阿闍梨所傳曼荼羅文。以上。本書は釋迦院曼荼羅諸尊の下に於て上記の十三項目の中から同異の文がある場合は一々其同異を抄記してゐる。今諸尊の名を記せば、釋迦牟尼。能寂母。如來悉相。一切佛頂。五佛頂。三佛頂。摩聞衆。緣覺衆。無能勝。無能勝妃。五淨居天。火天。火天后。五大仙。焰摩羅王。黑暗夜天女。焰摩后。太山府君。冢敎官。阿修羅衆。迦樓羅。日輪過照德佛。日光菩薩(以上上卷終)。涅槃底王。諸羅刹。廣目天。毘陀鼓毘陀。水天妃。地神。地神后。那羅延天。那羅延后。商羯羅天。商羯羅后。寒健那天。排財天。烏摩羅妃。月天妃。月天妃。摩醯首羅天王。風神。風沙妃。風神妃眷屬。風天眷屬。四龍王。昆天門。諸夜叉。造文荼。昆命造。毗命支。毗沙門八兄弟。戰鬼(太白)。毗那夜迦。摩訶迦羅。伊舍那天。伊舍那妃。步路。帝釋天。提頭賴吒。梵天王。梵天妃。日天。日天后。摩利支天。九執。七曜。乾闥婆王。阿修羅。摩睺羅伽。諸緊那羅。諸人。諸天。普世天。(以上下卷終)。次に著蜜著蘇兜陀羅尼(晉言=救諸病苦)。この呪は有名な蘇民將來の呪ではなからうか。阿耆宮盧陀羅尼(晉言=救諸病苦)。阿梨樣陀羅尼(晉言=救衆生苦濟衆苦難)の三呪を記してあるが後人の附記であらう。本書は五大院安然撰なりと諸撰述目錄に記されてゐるが上卷に三度「五大院云」と引文し、「五大仙」の下では「五大院云。安然也。」と明記し。又「意阿闍梨云。悲覺大師云。五大仙眞言儀文云云」とある。意阿闍梨とは不明であるが、恐らく悲覺大師の弟子たる長意か、或は長意—玄昭—意意と續く所の意意かであらう。五大院云と引文するが如きは安然以後の著たることを示したもの。然らば本書の作者は誰人か。本朝台密撰述密部書目には「釋迦會不同二卷……」玄靜書中學=釋迦不同一卷……」と註記してゐる。或は安然門下の玄靜が本書の作者ではなからうか。若しく玄靜よりも更に降つた作か。更に可考。本書の調卷に二卷說、一卷說あることも疑ふべきである。安然撰述の眞撰書に比較して考へても疑問の點が幾なからずある。故に本書は安然撰では無いと思ふ。(胎蔵界對受記卷四第百六十釋迦牟尼佛以下參照)

(田島德音)

胎蔵界受明灌頂作法次第 ①(日) Tai-zō-kai-ju-myō-kwan-jō-sa-hō-shi-dai. ②一卷 ④玄靜(一—延喜元 A. D. 901—) ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵界受明灌頂次第儀式 ①(日) Tai-zō-kai-ju-myō-kwan-jō-shi-dai-gi-shiki. ②二卷 ③存 ⑤享保一七寫 ⑨(南溪藏)

胎蔵界授大灌頂作法次第 ①(日) Tai-zō-kai-ju-dai-kwan-jō-sa-hō-shi-dai. ②一卷 ④玄靜(一—延喜元 A. D. 901—) ⑥諸宗章疏錄第三に金剛界入曼荼羅受三昧耶戒行儀。金剛界受明灌頂作法次第。金剛界授灌頂作法次第。胎蔵界入曼荼羅受菩薩戒行義。胎蔵界受明灌頂作法次第。及び本書を並記し、本書の下に細註して曰く「舊註云。已上六卷。水尾玄靜記。小島流以之爲本云。云。按。古宗錄云。已上六卷。水尾玄靜記=安然開梨口訣」云々。

胎蔵界小次第 ①(日) Tai-zō-kai-shō-shi-dai. 胎蔵界次第安流 ②一帖 ③存 ⑨寫本(金剛三昧院)

胎蔵界生記 ①(日) Tai-zō-kai-shō-ki. 胎蔵生起 ②一卷 ③存、大正七五・七九No. 2404 ④覺超(天暦九—長暦元 A. D. 935—1037)述 ⑥本書は兜率先德覺超僧都が胎蔵大法の次第生記を說示せられたもので、即ち行法の組織順序を述べられたものである。即ち胎蔵大法は大體、奉請供養分と、總別念誦分と、供養奉送分との三段に組織せられたものであるが、主要は總別念誦に在つて、就中、總念誦は三部四重の諸會諸尊の念誦であり、別念誦は中台本尊の念誦であるからは是れが即ち行法の最要主眼である。然しながら、是れに到るには順序として先づ奉請供養分の要がある。即ち九方便等の遠方便護身法等の近方便を修し、次に供養儀式に入つて先づ作壇し、次に五輪成身等に行者の依報正報を建立し、次に道場觀等に於いて諸尊の依正を建立し、治路以下に諸尊を召請して更らに成身結界し、次に供養讃歎して以つて總別念誦に到らなければならぬ所以を說明し、更らにまた所修念誦の功德を部母に奉獻して滅後せぬことを念じ、次に供養奉送する等を以つて行法一座の組織とすることを示されたものである。

⑦(参考) 諸宗章疏錄第二、山家眼惠撰述篇目集卷上、害乘撰述目錄、山家眼惠撰述篇目集卷上

胎蔵界受明灌頂作法次第 ①(日) Tai-zō-kai-ju-myō-kwan-jō-sa-hō-shi-dai. ②一卷 ④玄靜(一—延喜元 A. D. 901—) ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵界授明灌頂次第儀式 ①(日) Tai-zō-kai-ju-myō-kwan-jō-shi-dai-gi-shiki. ②二卷 ③存 ⑤享保一七寫 ⑨(南溪藏)

胎蔵界授大灌頂作法次第 ①(日) Tai-zō-kai-ju-dai-kwan-jō-sa-hō-shi-dai. ②一卷 ④玄靜(一—延喜元 A. D. 901—) ⑥諸宗章疏錄第三に金剛界入曼荼羅受三昧耶戒行儀。金剛界受明灌頂作法次第。金剛界授灌頂作法次第。胎蔵界入曼荼羅受菩薩戒行義。胎蔵界受明灌頂作法次第。及び本書を並記し、本書の下に細註して曰く「舊註云。已上六卷。水尾玄靜記。小島流以之爲本云。云。按。古宗錄云。已上六卷。水尾玄靜記=安然開梨口訣」云々。

胎蔵界小次第 ①(日) Tai-zō-kai-shō-shi-dai. 胎蔵界次第安流 ②一帖 ③存 ⑨寫本(金剛三昧院)

胎蔵界鈔 ①(日) Tai-zō-kai-shō. ②二十帖 ④飯室僧正 ⑦(参考) 本朝台密撰述密部書目

詒藏界鈔 ❶(日)Tai-zō-kai-shō. ❷1帖 ❸存 ❹文治二(一一八六)写(東寺百合文書)

詒藏界成就院次第 ❶(日) Tai-zō-kai-jō-ju-in-shi-dai. 詒藏界次第 ❷1巻 ❸存 ❹貞治(天授五—天治二) A. D. 1057—1125)頃 ❺〔参考〕 真言宗全書刊行資定目録

詒藏界浄藏私記 ❶(日) Tai-zō-kai-jō-zō-shi-ki. ❷浄藏貴所(寛平三—延喜保定A. D. 891—964)説 ❸〔参考〕 山家諸師撰述目録巻下

詒藏界随行法私記 ❶(日) Tai-zō-kai-zui-gyō-hō-shi-ki. ❷1冊 ❸存 ❹天禄年訂 ❺菅崎今道(宝永八—日大永和・三—一五)

詒藏界尊位密鈔 ❶(日) Tai-zō-kai-sonn-i-mitsu-gō. ❷1巻 ❸存 ❹大正三 ❺覆刻本二

❻❼詒藏界尊位密鈔に四位十三尊ありとして、中台、寶力尊如印、北方羅自在、南方金剛手、東方西南方)至手眞力(西北方)観音三尊、因方因大菩、和門釋尊尊、第三鈔百尊、南方金剛薩埵、勝力地藏尊、勝方虛空蔵尊、鬼方金剛拳菩薩、護手眞観音天の六尊にて、此位の十三尊の主尊尊薩三百三十尊の尊位名を説密尊位を記してゐる。但し天尊には名号説のみで密尊位は記してゐるたい。❽〔参考〕 真言宗全書刊行資定目録

詒藏界大法私記 ❶(日) Tai-zō-kai-dai-hō-shi-ki. ❷1巻 ❸存 ❹天禄(天延一—天治二) A. D. 801—879)頃 ❺〔参考〕 真言宗全書刊行資定目録

詒藏界大法私記 ❶(日) Tai-zō-kai-dai-hō-shi-ki. ❷1巻 ❸存 ❹天禄 ❺安永九(一七八〇)(真如蔵)

詒藏界大法前受記 ❶(日)Tai-zō-kai-dai-hō-tai-ju-ki. 詒藏界前受記、詒前受記、詒前受記、前受記 ❷七巻 ❸存、大正七—五、五四No. 2390、日本大藏經天台宗聖教全書第二 ❹安給(永和八—延文一)記

❺本書は詒藏界大法の内、胎藏方便會と金剛界方便會の二會の中に明す印契二百五十三及び六月修法と相承法に詒藏界次第と構成し一種とを記し、巻初に詒藏に詒藏法を前受した由来を述べてゐる。阿安鈔抄には「詒前受記は只詒藏界の印明の相のみを記してあるが、本づかは其也」と評してゐる。加

に詒藏法を其修する者にとつては最も益す所である。

詒藏界大法前受記は安給和尚が修法を受けた年月並に師の名を記してゐるために五大院詒鈔抄編者は本書の所引の人に就いて「詒前受記は位と名とを以てし」、全前受記は自身用を用ひて記した」といふ。是の如人人名年代明たれ不明。本は本書聞紙年代考でゐるが、第二には本書に記されてゐる年號によると、元慶六年(七年の誤記?)が最も新しいから、元慶七年以後でなければならぬ。第三は、元慶九年に編纂した八家秘錄に詒金藏三昧の前受記が中記されてゐたい。八家秘錄には安給の自筆が載録されてゐるのに、本書の如き重要な書目が記されてゐるのに、本は、元慶九年正月には未だ本書の前受記が成立してゐたいことを示すものである。又八家秘錄は寛平九年十八年の後、延喜三年に安給示寂してゐる。これに就ひがある。山家學生年一覽「安給和尚年譜考」參照。延喜三年の寂定の時に若し安給が著作したとすれば本書を記入してゐること思ふのに記入しないの如何なる所以か。又本書の内容から本書聞紙年時を推考すると大法修受に際し胎藏界次の灌頂なることを證明して胎明を説明した手記であると思ふ。

安給ならば大法修受は何時頃行れたか。一は元慶八年に元慶寺修法大阿闍梨に勅補せられた後でなければならぬ。三は元慶八年十月には師説から安給と相資とは詒金藏の修法に前受記を受けた。三は仁和四年四月に詒藏界大法を受けた。この三修法は師説から考へると本書は元慶八年の修法の時に記録されたものである。

師説に前受して記し、更に仁和四年法の時

と引き、弘法大師作と定めている。五部仮説本体の項を見よ。

❹〔参考〕 諸宗教理要体三 ❺❶宗教 ❷〔文徳実録〕文徳実録三 ❸〔貞観元年和四年〕〔貞元二年〕〔貞元二年〕〔貞元二

これを用ひてゐる。著者は大津圓城寺中院の學僧である。卷第一に胎界曼荼羅名義、胎界現圖鑑篇、尊數之略頌、十三火院之圖、十三大院次第、種子之本說、圖繪之本說の七箇條を說き、次に中臺八葉院、第二遍知院につきて述べ各院一々の尊につきて、名義、種子、三形、尊形、印相等を詳細に述べてゐる。又卷末に引用書目を擧げ、更に曼荼羅由來其他數項について記してゐる。次に卷第二に觀音院、金剛手院、卷第三に持明院、釋迦院、卷第四に文殊院、除蓋障院、地藏院、卷第五に虛空藏院、蘇悉地院、卷第六第七に外金剛部院の諸尊を明してゐる。

❺元祿五年五月元慶寺刊 ❹(叡山文庫)

胎藏界曼荼羅尊位現圖鈔 (小田慈舟)

❶(日)Tai-zō-kai-man-da-ra-son-i-zen-zu-shō. 胎藏界曼荼羅現圖鈔、胎藏界曼荼羅尊位現圖抄私 ❷三冊 ❸存、大正圖像第二 ❺元祿五刊 ❹(高大、寄・一・五四)

胎藏界要法口訣 ❶(日)Tai-zō-kai-yō-bō-ku-ketsu. ❷四卷 ❸存 ❹通玄(—享保一六A. D. 1731)撰 ❺享保六(A. D. 1721)六月 ❻自撰の胎藏界儀軌につきて秘訣を加ふ。

胎藏界禮懺 ❶(日)Tai-zō-kai-rai-san. ❷一卷 ❸存 ❺德川初期寫 ❹(寶菩提院)

胎藏界禮懺文鈔 ❶(日)Tai-zō-kai-rai-sam-mon-shō. ❷一卷 ❸存 ❹俊芳亮法(元和八—延寶八A. D. 1622—1680)撰 ❺寛文九刊 ❹(谷大、餘大・三二〇二)(哲・け・三・中・三二)

胎藏界略記 ❶(日)Tai-zō-kai-ryak-ki. 胎三卷略記、胎藏界行事略記 ❷一卷(殘缺) ❸存、大日本佛敎全書第二八 ❹圓珍(弘仁五—寛平三A. D. 814—891)撰

❻本書は行次鈔引用文に揭ぐる「胎三卷略記」と「胎略記」との二文を收めて、智證大師全集編者が題號を定めたもの。智證大師撰述目錄には「略記」と稱するものが二部ある。行次鈔の引文の一は「胎三卷略記云」と題名を具さに記してゐるが次の「胎略記」とは兩部の略記のいづれであるかが明かには知れない。恐らく「胎三卷略記」の三卷の二字を削つたものであらう。本書は殘闕であるために闕卷不明。內容は二段に分れ第一段には蘇悉地羯羅のことを記してゐるが文章簡であるから宜不明。第二段は會昌年代以前は玄法寺法全。大中年代は青龍寺淨土院法全であると法全には住居した寺が二つあることを述ぶ。故に慈覺大師が從學したは玄法寺法全であり。智證大師が從學した時の法全は青龍寺法全であることを述べてゐるのである。

❼(參考) 山家諸師撰述目錄(佛全二八ノ一四〇〇)、眞釋目錄(同上ノ一四〇七)、延曆寺密乘撰述目錄、山家師德撰述當目集卷上 (田島德音)

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹春禪記 ❺長元六寫 ❹(南溪藏)

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹行遍(榮和元—文永元A. D. 1181—1264)

❻菩提院流傳授本、題下に付ム成蓮房傳受本、書ム加口決等ト記し、奥に貞應元年八月十四日爲ム少將之初行、寫ム之、佛子行遍記といふ。

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. ❷一卷 ❸存 ❹榮海(弘安元—貞和三A. D. 1278—1348)撰

❻榮海が初心行者の爲めに師傳によりてその肝要を記せし次第。

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. 胎藏界念誦略次第 ❷一帖 ❸存 ❹實慶作 ❺文明一二寫 ❹(金剛三昧院)

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. 胎藏略次第 ❷一帖 ❸存 ❹曇俊作 ❹寫本(金剛三昧院)

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. 胎藏界略次第廣通 ❷一帖 ❸存 ❹宥快(貞和元—應永二三A. D. 1345—1416) ❺應永一七寫 ❹(金剛三昧院)

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. ❷一卷

❻胎藏界儀軌並野澤次第目錄に云、略功能次第也、顯通交合之本と。

胎藏界略次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-shi-dai. 胎藏界略次第安流、胎藏界略念誦私記 ❸存 ❹寫本(金剛三昧院)

胎藏界略圖次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-zu-shi-dai. ❷二卷 ❸存、大正圖像第二

❻胎藏曼荼羅諸尊の坐位を圖示せるもの。初に總圖を出し、次に中臺八葉院以下各院を六圖に敎めて示してゐる。彼の覺超の胎藏尊位并梵漢密號種子三昧耶形色手印等略記二卷(略名胎藏曼荼羅略記)と關聯せるものゝ如く、東寺の賢寶僧都は本書の奥に、本書と略記と同人の撰で覺超の作かと云ふ臆說を出し、或本胎藏略記上卷端繼ム加之、彼略記與ム此圖、一師記歟可ノ尋ノ之、或云、彼略記者山門覺超僧都所集云々と記してゐる。略記には佛母院の名を用ひ、略次第には遍智院の名を用ひ、各院の順序も兩者前後せる部分あり、一具の書と速斷しかねる點もあるが、多分兩書共に覺超の作であらう。

❺久安元寫 ❹(東寺觀智院) (小田慈舟)

胎藏界略圖次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-zu-shi-dai. ❷一卷 ❸存、大正圖像第二

❻觀智院藏胎藏界略圖次第と組織を同くするも、彼書は尊名を漢字にて書き、本書は更に種子を附記し、卷末に十三會の名稱、四百十四尊の佛菩薩等の分類などを記せる一紙を附してゐる。案ずるに觀智院本が原型で、唐招提寺本は後人の添加本か。

❺保延四寫 ❹(奈良唐招提寺) (小田慈舟)

胎藏界略念誦次第 ❶(日)Tai-zō-kai-ryaku-nen-ju-shi-dai. 打系冬什

❻打系、胎藏梵字次第、胎藏略次第、別本御作次第 ❷一卷 ❸存、日本大藏經眞言宗事相章疏第一、弘法大師全集第六 ❹空海

(寶龜五—永和二A. D. 774—835)

❻胎藏大法の念誦次第である。弘法大師の胎藏界念誦次第よりは稍簡略である。華藏院流所用の次第である。眞言及び印相の五指名を梵字で記してゐるから、前記胎藏界念誦次第と同樣に胎藏梵字次第とも名づける。尤も後代に此の梵字を漢字に書き改めた別本を生じた。全集本には眞言は梵漢並記、指名は漢字を用ひてゐる。(小田慈舟)

胎藏記 ❶(日)Tai-zō-ki. ❷圓仁(延曆一三—貞觀六A. D. 794—864) ❼(參考) 密乘撰述目錄

胎藏記印像畫圖 ❶(日)Tai-zō-ki-in-zō-gwa-zu. ❷二卷 ❸存 ❹清覺記 ❺至德三寫 ❹(叡山文庫)

胎藏記立印鈔 ❶(日)Tai-zō-ki-ryō-in-shō. ❷一卷 ❸存 ❹明導 ❺文和三寫 ❹(南溪藏)

胎藏儀軌 ❶(日)Tai-zō-gi-ki. (支)Tai-tsang-i-kuei. 大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎藏悲生曼荼羅廣大成就儀軌供養方便會、大毘盧遮那成佛神變加持經、蓮華胎藏悲生曼荼羅廣大成就儀軌、玄法軌 ❷二卷 ❸存、大正一八・一〇八No. 852、館餘六、卍續二・九・四 ❹唐法全(—大中九A. D. 855—)撰

❻大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎藏悲生曼荼羅廣大成就儀軌供養方便會の下を見よ。

❹(鎌倉時代寫(高大、寄・一・三一)永久三寫(寶菩提院)寫本(京大、藏・一六タ・三)

胎藏舊圖樣 ❶(日)Tai-zō-kyū-zu-yō. (支)Tai-tsang-chiu-tu-yang. ❷一卷 ❸存、大正圖像第二、佛敎圖像集古之內 ❹圓珍(弘仁五—寛平三A. D. 814—891)請來

❻本書は胎藏界大曼荼羅の一異圖であつて、その圖出者の名を詳かにせざるも、胎藏圖像よりは後のものであり、しかも現圖曼荼羅よりは前のものであることは事實である。中台九尊、第二院釋迦會一百十九尊、第三院文殊會七十四尊、外院二百八十二尊都計四百八十四尊を以て建立してある。之を胎藏圖像に比するに、佛部中の衆德莊嚴の諸尊を略略せる如き、又釋迦會を第二院、文殊會を第三院とし、更に外院に釋迦眷屬世天を安ずる如き、寧ろ之を現圖の胎藏曼荼羅に較べて却て著しき類似點を有してゐる。所謂過渡期の制作として第二院の釋迦會と外院の世天との間に往々重出を見るのであるが若しその釋迦會中の世天を以て之を外院に移すに於ては、現圖曼荼羅との關係は、一層その類似を深めることになるのである。此の書は唐大中八年十月下旬より同十一月中旬に至る間、智證大師圓珍が、越州に於て比丘慧智と共に繪寫せられたもの、奥に檀樣を添へてあるのであるが、併し此の曼荼羅は當時の密敎家の間に於て既に依用せぬことになつてゐたので、題名の下に「令不依之」と注記してある。

❹(鎌倉武藤山治氏藏)刊本(京大、印哲・M・六)

胎藏敎法金剛名號 ❶(日)Tai-zō-kyō-bō-kon-gō-myō-gō. (支)Tai-tsang-chiao-fa-chin-kang-ming-hao. 胎藏敎法並金剛界金剛名號 ❷二卷 ❸存、大正一八・二〇三No. 864B、卍續二・九・四 ❹唐義操(—長慶元A. D. 821—)集 ❺兩部金剛名號の下を見よ。

胎藏敎法並金剛界金剛名號 ❶(日)Tai-zō-kyō-bō-narahini-kon-gō-kai-kon-gō-myō-gō. (支)Tai-tsang-chiao-fa & chin-kang-chieh-chin-kang-ming-hao. 胎藏敎法金剛名號 ❷一卷 ❸存、大正一八・二〇三No. 864B、卍續二・九・四 ❹唐義操(—長慶元A. D. 821—)集 ❺兩部金剛名號の下を見よ。❼(參考) 諸宗章疏錄第三

胎藏經 ❶(日)Tai-zō-kyō. (支)Tai-tsang-ching. 無垢賢女經 ❷一卷 ❸存、大正一四・九一三No. 552、縮字九、卍一〇・五、北232號、南236號、元235號、明北231號、清231號、麗232號、天232號、指216號、法227號、至309ム、明南225號、N. 235、 ❹竺法護譯 ❺西晉泰始二—建興元(A. D. 265—313) ❻無垢賢女經の下を見よ。

胎藏頸次第 ❶(日)Tai-zō-kyō-shi-dai. ❷一冊 ❸存 ❺保延七寫 ❹(寶菩提院)

胎藏口傳鈔 ❶(日)Tai-zō-ku-den-shō. 胎藏界口傳鈔 ❷三卷 ❸存、敎舜鈔之內 ❹敎舜(—文永弘安頃 A. D. 1264—1287—) ❺寶曆八寫 ❹(高大、一・六二)寶曆九寫(谷大、餘大・一六六八)

胎藏具支灌頂記 ❶(日)Tai-zō-gu-shi-kwan-jō-ki. 胎藏中院撰定事業灌頂具足支分、具支灌頂 ❷十卷 ❸存、大正七五・二一三No. 2393、日本大藏經天台宗密敎章疏第二 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)述 ❻胎藏中院撰定事業灌頂具足支分の下を見よ。

胎藏灌頂護摩略頌 ❶(日)Tai-zō-kwan-jō-go-ma-ryaku-ju. ❷一卷 ❹玄靜(—延喜元A. D. 901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

胎藏灌頂七日行事鈔 ❶(日)Tai-zō-kwan-jō-shichi-nichi-gyō-ji-shō. 灌頂七日行事鈔、胎藏界灌頂七日行事鈔、胎藏界灌頂行事鈔、灌頂行事鈔 ❷三卷 ❸存、日本大藏經天台宗密敎章疏第一、傳敎大師全集第三 ❹最澄(神護景雲元—弘仁一三A. D. 767—822) ❻灌頂七日行事鈔の下を見よ。 ❼(參考) 本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目錄

胎藏灌頂壇印明 ❶(日)Tai-zō-kwan-jō-dan-in-myō. 胎藏界灌頂壇印明 ❷一卷 ❹玄靜(—延喜元A. D. 901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三、本朝台祖撰述密部書目

胎藏灌頂略記 ❶(日)Tai-zō-kwan-jō-ryak-ki. ❷一卷 ❸存、日本大藏經眞言宗事相章疏第一、弘法大師全集第五事相部

❻胎藏法の灌頂に於ける大壇の供奬法、弟子の引入、投花等から正覺壇の作法等を略記したもの。敎授師を別置せずして阿闍梨自ら弟子を引入する組織になつてゐる。 (小田慈舟)

略字略號 ❶題名(書名) ❷卷數 ❸存缺 ❹著者 ❺著作年代 ❻內容說解 ❼書目(註釋)書考參書 ❽月年の刊寫 ❾寫本 ❿所藏者(名庫書)

胎蔵覲行鈔 ❶(B) Tai-zō-kwan-gyō-shō. ❷一卷 ❸玄靜(一延喜元 A. D. 901—) ❹(參考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵血脈 ❶(B)Tai-zō-kechi-myaku. 胎蔵界血脈、胎蔵血脈圖 ❸存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四胎金血脈圖之內 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891) ❼(參考) 密乘撰述目錄

胎蔵血脈圖 ❶(B) Tai-zō-kechi-myaku-zu. 胎蔵血脈、胎蔵界血脈 ❸存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四胎金血脈圖之內 ❹圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891) ❼(參考) 山家眼惣撰述篇目集卷上、諸宗章疏錄第二

胎蔵結緣灌頂行事 ❶(B) Tai-zō-kechi-en-kwan-jō-gyō-ji. ❷一卷 ❹玄靜(一延喜元 A. D. 901—) ❼(參考) 諸宗章疏錄第三

胎蔵許可傳授儀式 ❶(B) Tai-zō-ko-ka-den-ju-gi-shiki. 胎蔵界許可傳授儀式 ❷一卷 ❹玄靜(一延喜元 A. D. 901—) ❼(參考) 本朝台眼撰述密部書目

胎蔵護 ❶(B) Tai-zō-go. ❷一帖 ❹存 ❹寫本(金剛三昧院)

胎蔵廣記 ❶(B)Tai-zō-kō-ki. 胎蔵界廣記 ❷二卷 ❹空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835) ❺胎蔵界儀軌並次第目錄に御作と註して之れを擧ぐ。

胎蔵廣大成就儀軌 ❶(B) Tai-zō-kō-dai-jō-ju-gi-ki.(支)Tai-tsang-kuang-ta-ch'eng-chia-i-kuei. 大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎蔵菩提標幟普通眞言藏廣大成就瑜伽、青龍寺傳軌、青龍軌、青軌 ❷三卷 ❸存、大正一八・一四三No. 853、續餘六、卍續二・九・四 ❹唐法全(—開成五 A. D. 840—)集 ❺大毘盧遮那成佛神變加持經蓮華胎蔵菩提標幟普通眞言藏廣大成就瑜伽の下を見よ。 ❹寫本(京大、藏・一六タ・四)

胎蔵金剛大道場經大明藏分修眞言者淨除觸穢讀驗要記 ❶(B) Tai-zō-kon-gō-dai-dō-jō-kyō-dai-min-zō-bun-shō-shin-gon-sha-jō-jō-shō-ku-ō-doku-gon-yō-ki. ❼(參考) 本朝台眼撰述密部書目

胎蔵金剛菩提心義略問答抄 ❶(B)Tai-zō-kon-gō-bo-dai-shin-gi-ryaku-mon-dō-shō. 菩提心義、菩提心義鈔 ❷五卷(十卷) ❸存、大正七五・四五一No. 2397 ❹安然(承和八—延喜年間 A. D. 841—901—)抄 ❺仁和元(A. D. 885)十一月二十日

❶本書は敎時問答・敎時諍論と相並びて天台眞言宗の敎判を論じた主要なる論文である。恐らく本書製作の主目的は法相宗の四智三身の義を對破するのにあつたと思ふ。特に北韓(令津德一)「眞言宗未決」(大正七七・八六二)に對して答釋を與へてゐるが如きは、愈々本書撰述の目的が那邊にあつたかを推察するに難くない。本書は作者未詳(貞元錄によれば潛眞造)の「菩提心義一卷」と、龍樹菩薩造・不空三藏譯と稱される「菩提心論一卷」とに依つて菩提心の義を解釋したものである。菩提心義は眞言敎の義によつて菩提心を釋したものではないが、貞元錄によると潛眞が菩提心義を不空に示して灌頂を受けたようである。此の故であらう、菩提心義は入唐求法眞言目錄(空海・惠運・貞觀七年書寫將來目錄)に收められ、又安然も八家祕錄上の金剛界部の義疏集錄に收載してゐる。次に菩提心論は金剛頂部の眞言義を釋したことは明らかに題號に記してある。菩提心義は五門分別を以つて菩提心を述べ、菩提心論は三門分別を用ひてゐる。五門とは一釋・名義・二識・體性・三摩・四明・相狀・五述・行願である、三門とは一者行願・二者勝義・三三摩地である。この五門三門の菩提心義を用ひて本書を製作した理由を說明して、安然は「當に五門を以つて三門を通釋すべし。三門は各々菩提心の行相を出し、五門は通じて菩提心の義相を釋し」たものであるといつてゐる。菩提心を釋するには胎藏・金剛の兩部を以てすべきことは勿論である。故に胎の所依としては大日義釋・法界無差別論等を主として用ひ、金は金剛頂經・理趣釋・出生義等を用ひて本書の記述の所依としてゐる。又有名な本覺讚のある大乘莊嚴寶王經は弘法大師が正に歸朝する途中に於て傳へて將來せるものであるといふ如き、幾多珍しい史料も所々に記してある。本書は見方によれば菩提心論と菩提心義との二書の梗概を五百十五番の問答を重ねて講述したもの。即ち註釋章疏とも觀られる。本書は藏通別圓密の五敎々判を設けて顯密敎理の淺深を對辨し、淺略釋・深祕釋・祕中深祕釋・祕祕中深祕釋の四釋を用ひて顯密行果の疎密を簡擇して、胎金兩部の大法祕密の行相を會通せしめんと試みたもの。安然は五敎々判の根據は大日經義釋にありといひ。又天台大師の四敎と、慈覺大師が顯密二敎說の中、圓密を理祕密と俱祕密とに分判した。この天台・慈覺の兩說を合糅して五敎を唱出したのだといふ。次に四釋は大日經供養法の不思議疏の旨を受けたと記してゐる。上述の如く本書は五敎・四釋を根本として、菩提心を胎金兩部の行相に係けて解釋したものである。但し最後に「追論」法相宗四智三身義」なる一章を附記してゐる。本書によつて天台密敎の特色を明知し得ると共に、菩提と心と智と身との義を說く場合に於いて、天台眞言宗が東寺眞言宗と如何に相違してゐるかを領解し得らるるであらう。本書は曼荼羅・印契・圖像・行法等に關しては記述を略してゐる。又初學者にして本書を讀む時は先づ敎時問答を通讀し、次に本書を閱すべきが順序ならんか。又安然の五敎々判に對する評論は近くは覺千の自在金剛集九の遮那業學則と敬光の台宗學則とを見よ。覺千は五敎判を對破し、敬光は之れを承認してゐる。今且らく本書每卷の初めに記してゐる分科を列記して內容略述に充てる。

二、大段爲二—┬釋五門三門不同中。辨五門菩提心義有多義。
└五門中。第一釋名門—┬通釋菩提心名義中。辨道覺梵漢不同。
└別釋行願・勝義・三摩地三門名義。

釋行願名義。
釋勝義名義。
釋三摩地名義。┬通釋三摩名義。
└別釋┬約大日經。┬大日三摩地中。辨胎藏名義。
└約金剛頂。┬總釋。阿娑頗那伽三摩地名義中。辨金剛嚴定・金剛界・金剛頂名義。
└總釋五部三摩地。顯五相成身中。辨四人修觀義。即身成佛義。

◎第二卷(問答第二三二番—三〇六番)

第二釋體性門—┬總釋行願・勝義・三摩地三門體性。
└別釋行願・勝義・三摩地三門體性。

第三辨一異門—┬總辨菩提與心一異。
└別辨行願・勝義・三摩地三門行相與菩提心一異。

第四相狀門—┬明行位相。
└辨功用相。

第五行願門—┬因緣。
└發人中。辨十界五性草木發心義。
└發心中。辨三密釋名・六祕密義。
└立行—┬大日宗立行中。辨五供・六供・二十一種供養名義。
└第三卷。

◎第三卷(問答第三〇七番—三八〇番)

第五行願門—┬立行—┬○○○○—以上第二卷
└○○○○
└○○—金剛頂三門行相—┬三摩地門行相—┬行願門行相。
└勝義門行相。
└大日經三摩地行相—┬別釋—┬略說三部。
└廣說二十八部。
└總釋。
└第四卷。

◎第四卷(問答第三八一番—四七七番)

第五行願門—┬立行—┬○○○○
└○○○○
└○○—金剛頂三門行相—┬三摩地—┬○○—第三卷
└○○
└金剛頂三摩地行相—┬總釋大日三摩地行相。
└別釋(不記)—┬略說五部。
└廣說三十七尊。
└處中三十七尊。
└五種三昧義。
└七人修觀義。
└建立世界義。
└建立自身界義。
└阿娑頗那伽三摩地義。
└三性三無性義。
└證十地義。
└一道清淨義。
└三方驚覺義。
└諸佛涉入義。
└五相成身義。
└五部五相菩提心行證滅大方便義。
└染淨九識能通所達義。
└五種灌頂義。
└一切佛身義。
└五種成佛義。
└五種殊勝義。
└五種三摩耶義。
└五種犯三摩耶義。
└三世八心遍世八心義。
└六十心義。
└百劫三十地義。
└六無投義。
└十生義。
└五種緣三昧道義。

◎第五卷(問答第四七八番—五一五番)

第五行願門—┬立行—┬○○○○
└○○○○
└○○
└金行相—┬○○
└三摩地
└○○
└金三摩地行相—┬○○
└別釋
└總釋
└(第四卷)
└カ識攝義。
└九識成就義。
└九識體性義。
└九識具惑障義。
└九識梵釋名義。
└三十七尊四身義。
└五智三密身義。
└四土義。
└五方佛座義。
└五降魔義。
└五忍五佛五位義。
└二智梵唐異名釋名義。
└三智四智五智十智二十智七十智會通五智義。